

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2019 理 工 学 部 授業
計画
住環境デザイン学科

理 工 学 部

(学部略号：T)

Faculty of Science and Engineering

住環境デザイン学科

(学科略号：R)

Department of Living and Environmental Design

理工学部（共通）

◎教育研究上の目的

人間性豊かな専門職業人をめざし、科学技術者として必要な基礎知識と実践力を有し、社会の問題を解決できる人材を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)[学習・教育到達目標]

本学部各学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士の学位を授与します。

■科学技術教養

[D P-I] 科学技術の幅広い分野に関する基礎知識を身につけ、新しい情報に対して知的好奇心を有する。

■人文社会教養

[D P-II] わが国と世界の文化、社会、歴史、思想などに関する基礎知識を身につけ、社会問題に対して関心を有する。

■科学技術者倫理

[D P-III] 科学技術者としての誇りと謙虚さを有し、科学技術が社会に与える影響の大きさを理解し、判断することができる。また、社会生活においては、他者の模範として規範やマナーを遵守することができる。

■数理能力

[D P-IV] 数学、科学、情報処理の基礎知識を身につけ、与えられた課題に対しては、定量的に分析し解を求めることができる。

■専門実践力(学科独自)

[D P-V] 専門分野の基礎知識を有し、実践的な解決ができる。

■コミュニケーション力

[D P-VI] 科学技術者として必要な日本語による記述力、対話力、傾聴力、発表力を身につけている。また、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。

■学習習慣

[D P-VII] 自主的に情報収集を行い、自ら学習する習慣を身につけている。科学技術的課題の解決、キャリア形成のために計画的に自主学習ができる。

■課題解決能力

[D P-VIII] 科学技術的課題に対して、情報の収集と分析を行い、計画的に解決策を見つけることができるデザイン能力を有する。

■チームワーク

[D P-IX] 科学技術的課題の解決のため、自らの役割を理解して他者に配慮しながら共同活動ができる。

◎教育研究上の目的

住宅や身の回りの生活を取り巻く多様なデザイン領域に関する知識と技術を修得し、地球環境を含めた広範な人間の住環境に存在する様々な問題点を的確に捉える能力を養う。さらに、これらの問題点の解決方法を提案するためのデザイン感性と実践的技術を修得し、持続可能な生活環境と倫理観を持って創造することができる技術者やデザイナーとなる人材を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)[学習・教育到達目標]

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(工学)の学位を授与します。

■人文社会教養

[DP-A] 人文・社会科学系教養：語学、社会学、経済学、哲学、文学、歴史学などの多様な人文・社会科学系授業科目の学習により、地球的視点による人間や自然、社会に対する幅広い視野の教養と倫理観を身につけている。

■数理能力

[DP-B] 数学・自然科学系教養：数学・自然科学授業科目および情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につけている。

■科学技術者倫理 ■科学技術教養

[DP-C] 住環境デザインに関わる基礎的知識・技術者倫理（専門コア群共通系の学習）：住環境デザインの基礎となる考え方や建築法規を学習し、住環境に関わる技術者としての倫理観や責任感を身につけている。

■専門実践力

[DP-D] 住空間を対象とする環境技術と構造技術（専門コア群環境デザイン系の知識）：室内・建築・都市といった住空間の環境系および構造系の専門的技術の基礎的能力および実践的な応用力を身につけている。

■専門実践力

[DP-E] 住空間を対象とする計画技術（専門コア群空間デザイン系の知識）：住生活および住環境に関する歴史や意匠の知識を修得し、室内・建築・都市といった住空間を対象とする計画技術を身につけている。

■課題解決能力 ■学習習慣

[DP-F] 調査・分析能力・デザイン力・コミュニケーション力（少人数教育群演習系授業による実践力の育成）：演習系授業科目を通じて、住環境デザインに関する調査、分析の方法を学習し、課題解決力、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を身につけている。

■コミュニケーション力 ■チームワーク力 ■学習習慣

[DP-G] 人間力・統合力（少人数教育群ゼミ系授業による人間力・統合力の育成）：専門ゼミ・卒業研究を通じて、住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を養い、人間力と統合力を身につけている。

◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

- A 地球的視点による人間や自然、社会に対する幅広い視野の教養と倫理観を身につけるため、「基礎英語Ⅰ」から始まる語学系9科目、「古典文学から学ぶ」など人文系10科目、これにスポーツ系3科目からなる「自分を知る教養群」及び「日本の政治」など法律・政治・経済分野の社会科学系10科目、「地域と私」など地域問題や文化など地域志向系6科目などからなる「社会を知る教養科目群」による多様な人文・社会科学系の科目を配置する。
- B 専門知識の理解をより深めるための教養を身につけるため、「基礎数学演習」、「微積分Ⅰ・Ⅱ」、「線形代数Ⅰ・Ⅱ」などかなる数学系12科目、「物理学基礎演習」、「物理学」、「力学」などからなる科学系6科目、「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」からなる情報系2科目などの数学・自然科学及び情報技術基礎の科目を配置する。[専門基礎群]
- C 住環境に関わる基礎的な知識やデザイン技能について幅広く学び、住環境デザインの基礎となる考え方や建築法規の学習から住環境に関わる技術者としての倫理観や責任感を身につけるため、「住環境デザイン概論」、「図形科学」、「居住安全計画」、「プロダクトデザイン論」、「建築法規」、「住環境倫理」の6科目を配置する。[専門コア群(共通系)]
- D 室内・建築・都市といった住空間の環境系の専門的技術の基礎的能力および実践的な応用力を身につけるため、環境系については、「住環境工学A・B」、「住環境設備A・B」、「都市環境計画」を配置する。
- 室内・建築・都市といった住空間の構造系の専門的技術の基礎的能力および実践的な応用力を身につけるため、構造系については、「構造力学Ⅰ・Ⅱ」、「建築一般構造学」、「構造デザイン論」、「住環境材料学」、「住宅生産学」を配置する。[専門コア群(環境デザイン系)]
- E 住生活および住環境に関する歴史や意匠の知識を修得し、室内・建築・都市といった住空間を対象とする計画技術を身につけるため、住生活・計画系については、「住生活学」、「住居計画学」や「建築計画学」など6科目、歴史・意匠系については「近代デザイン史」、「日本建築史」、「建築空間論」など5科目を配置する。[専門コア群(空間デザイン系)]
- F 住環境デザインに関する調査、分析の方法を学習し、課題解決力、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を身につけるため、「基礎設計演習」から始まる設計演習5科目、「インテリアデザイン演習」や「プロダクトデザイン演習」などの空間デザイン系演習7科目及び「空間表現演習A・B」、「環境工学演習」や「構造デザイン演習」などの環境デザイン系演習8科目を配置する。[少人数教育群(演習系)]
- G 住環境デザインに関する様々な知識の統合化を図り、デザイン力、コミュニケーション力、自主学習力、計画推進力、チームワーク力を鍛え、自分の考え方をしっかりと持ちつつ、他者の言葉にも耳を傾け、様々な課題に対してポジティブな提案ができるような人間力、統合力を涵養するため、「ゼミA・B・C・D」、「卒業研究」を配置する。[少人数教育群(ゼミ系)]

◎アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①高校までの数学または理科（物理、化学）の基礎知識を身につけている。

②高校までの国語または英語の基礎知識を身につけている。

■思考・判断

③問いに対して筋道を立てて思考し、解答を得ることができる。

■関心・意欲・態度

④住環境デザイン分野に関する興味を有している。

⑤勉学や課外活動で主体的に活動した経験を有する。

■技能・表現

⑥口頭または文章によって意見を表現し相手に伝えることができる。

⑦デッサンなどの描画または立体造形などの制作によって意見を表現し相手に伝えることができる。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

科目履修にあたっての注意事項

科目の内容を理解するためには、授業に出席することがとても重要です。特に、専門科目では、下記のように期末試験だけの成績が良くても単位取得できないことがあるので注意してください。

1. 講義・演習・ゼミ・製図・1年次の実験科目では、原則として出席率80%以上を成績評価の対象とします。
2. 専門の実験・実習科目では、原則として出席率100%を成績評価の対象とします。
3. 講義・演習・ゼミ・製図科目では、原則として30分以上の遅刻は欠席扱いとします。
4. 実験・実習科目では、原則として15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
5. 遅刻は、原則として2回で欠席1回とみなします。
6. 病欠、クラブなどの欠席では、ただちに教員の居室を訪ねて指示を受け、それに従って課題等をすみやかに提出してください。
7. 各教室に掲示されている「授業中におけるマナーについて」にマナー違反としてあげられている項目について、このような行為を行い注意に従わない場合は、退室を求め、欠席とします。
8. 1～7に示した出席管理のルールや成績評価の方法は科目により若干異なるので、シラバスをよく読み、教員のアナウンスや掲示板の掲示に注意してください。

授 業 計 画

| 科目名 | 担当者 | ページ |
|-------------|--------|-----|
| イ | | |
| インターンシップ I | 水野 武 | 113 |
| インターンシップ II | 石井 三恵 | 115 |
| インテリアデザイン演習 | 川上 比奈子 | 9 |
| インテリアデザイン論 | 川上 比奈子 | 10 |

| | | |
|----------|------------|-----|
| エ | | |
| 英語基礎会話 a | アイビス ウイリアム | 117 |
| 英語基礎会話 b | フーパー トッド | 118 |

| | | |
|----------------|--------|-----|
| カ | | |
| 海外語学研修 | 鳥居 祐介 | 122 |
| 海外ビジネスインターンシップ | 西之坊 穂 | 124 |
| 解析学 | 友枝 恭子 | 11 |
| 化学 | 佐藤 和之 | 12 |
| 科学英語 | 鈴木 三千代 | 125 |
| 科学技術教養 A 1 | 宮本 征一 | 127 |
| 科学技術教養 A 2 | 宮本 征一 | 128 |
| 科学技術教養 C 1 | 伊藤 譲 | 129 |
| 科学技術教養 C 2 | 伊藤 譲 | 130 |
| 科学技術教養 E 1 | 片田 喜章 | 131 |
| 科学技術教養 E 2 | 片田 喜章 | 133 |
| 科学技術教養 M 1 | 堀江 昌朗 | 135 |
| 科学技術教養 M 2 | 諏訪 晴彦 | 137 |
| 科学技術教養 T 1 | 東 武大 | 139 |
| 科学技術教養 T 2 | 島田 伸一 | 141 |
| 科学技術教養 V 1 | 居場 嘉教 | 143 |
| 科学技術教養 V 2 | 長田 武 | 145 |
| 株式投資と企業家育成 | 林 正浩 | 147 |
| 環境計画演習 | 竹村 明久 | 14 |
| 環境工学演習 | 竹村 明久 | 16 |

| | | |
|-----------|--------|-----|
| キ | | |
| 幾何学 I | 小林 俊公 | 18 |
| 幾何学 II | 島田 伸一 | 19 |
| 企業経営 | 大田 住吉 | 149 |
| 技術英語 | 井原 駿 | 151 |
| 基礎英語 I a | 加藤 恭子 | 152 |
| 基礎英語 I a | 大江 麻里子 | 154 |
| 基礎英語 I a | 内山 知美 | 155 |
| 基礎英語 I a | 木村 ゆみ | 156 |
| 基礎英語 I a | 鈴木 三千代 | 157 |
| 基礎英語 I a | 松浦 茂寿 | 159 |
| 基礎英語 I b | 木村 ゆみ | 160 |
| 基礎英語 I b | 湊 由妃子 | 161 |
| 基礎英語 I b | 東野 厚子 | 163 |
| 基礎英語 I b | 平尾 秀実 | 165 |
| 基礎英語 I b | 井寺 利奈 | 167 |
| 基礎英語 I b | 小磯 かをる | 169 |
| 基礎英語 II a | 加藤 恭子 | 171 |
| 基礎英語 II a | 大江 麻里子 | 173 |
| 基礎英語 II a | 内山 知美 | 174 |

| 科目名 | 担当者 | ページ |
|-----------------------|--------|-----|
| 基礎英語 II a | 木村 ゆみ | 175 |
| 基礎英語 II a | 鈴木 三千代 | 176 |
| 基礎英語 II a | 松浦 茂寿 | 178 |
| 基礎英語 II b | 木村 ゆみ | 179 |
| 基礎英語 II b | 湊 由妃子 | 180 |
| 基礎英語 II b | 東野 厚子 | 182 |
| 基礎英語 II b | 平尾 秀実 | 184 |
| 基礎英語 II b | 井寺 利奈 | 186 |
| 基礎英語 II b | 小磯 かをる | 188 |
| 基礎数学演習 | 小林 俊公 | 20 |
| 基礎設計演習 | 平田 陽子 | 22 |
| 基礎力学演習 | 東谷 篤志 | 23 |
| 北河内を知る | 荻田 喜代一 | 189 |
| キャリアデザイン I (BASIC) | 石井 三恵 | 191 |
| キャリアデザイン I (BASIC) | 山岡 亮太 | 193 |
| キャリアデザイン I (BASIC) | 中川 浩一 | 195 |
| キャリアデザイン I (BASIC) | 上野山 裕士 | 197 |
| キャリアデザイン II (ADVANCE) | 上野山 裕士 | 199 |
| キャリアデザイン II (ADVANCE) | 橋本 朗子 | 200 |
| 教育課程論 | 大野 順子 | 381 |
| 教育経営論 | 朝日 素明 | 383 |
| 教育原理 | 谷口 雄一 | 385 |
| 教育実習 I | 朝日 素明 | 386 |
| 教育実習 II | 朝日 素明 | 387 |
| 教育実習 III | 朝日 素明 | 388 |
| 教育社会学 | 大野 順子 | 389 |
| 教育心理学 | 吉田 佐治子 | 391 |
| 教育相談 | 吉田 佐治子 | 392 |
| 教育方法論 | 林 茂樹 | 393 |
| 教職実践演習 (中・高) | 吉田 佐治子 | 395 |
| 教師論 | 朝日 素明 | 397 |
| 居住安全計画 | 宮野 道雄 | 24 |
| 近代デザイン史 | 西影 めぐみ | 25 |
| 近代文学から学ぶ | 細川 知佐子 | 201 |

| | | |
|----------|-----|----|
| ク | | |
| 空間情報演習 | 榊 愛 | 26 |
| 空間表現演習 A | 榊 愛 | 27 |
| 空間表現演習 B | 榊 愛 | 28 |

| | | |
|----------|-------|-----|
| ケ | | |
| 健康論 | 堀 美幸 | 202 |
| 健康論 | 中尾 千晶 | 203 |
| 現代韓国事情 | 田中 悟 | 204 |
| 現代と地理学 | 笠原 俊則 | 206 |
| 現代ビジネス論 | 牧 美喜男 | 207 |
| 建築一般構造学 | 北本 裕之 | 30 |
| 建築空間論 | 久富 敏明 | 32 |
| 建築計画学 | 久富 敏明 | 33 |
| 建築法規 | 澤田 範夫 | 34 |

| | | |
|----------|------|-----|
| コ | | |
| 工業科教育法 I | 福岡 優 | 398 |

| 科目名 | 担当者 | ページ |
|------------|--------|-----|
| 工業科教育法Ⅱ | 福岡 優 | 400 |
| 工業数学Ⅰ | 小泉 耕 蔵 | 36 |
| 工業数学Ⅱ | 小泉 耕 蔵 | 37 |
| 構造デザイン演習 | 白鳥 武 | 38 |
| 構造デザイン入門 | 白鳥 武 | 39 |
| 構造デザイン論 | 白鳥 武 | 40 |
| 構造力学Ⅰ | 西野 孝 仁 | 41 |
| 構造力学Ⅱ | 西野 孝 仁 | 42 |
| 国際理解概論 | 中西 功 | 209 |
| 古典文学から学ぶ | 細川 知佐子 | 211 |
| コミュニケーションⅠ | 櫻井 清 華 | 212 |
| コミュニケーションⅡ | 櫻井 清 華 | 213 |

サ

| | | |
|-----------|--------|-----|
| 産業技術史 | 照元 弘 行 | 214 |
| 産業社会と知的財産 | 林 正 浩 | 216 |

シ

| | | |
|---------|---------|-----|
| 色彩デザイン論 | 岩田 三千子 | 43 |
| 色彩論 | 岩田 三千子 | 44 |
| 実践英語上級 | 竹部 春 樹 | 218 |
| 実践英語初級 | 西谷 継 治 | 219 |
| 実践英語初級 | 山本 尚 子 | 220 |
| 実践英語初級 | 内山 知 美 | 221 |
| 実践英語初級 | 平尾 秀 実 | 222 |
| 実践英語初級 | 中本 明 子 | 223 |
| 実践英語初級 | 中道 英美子 | 224 |
| 実践英語中級 | 湊 由 妃 子 | 225 |
| 実践英語中級 | 箕田 正 開 | 227 |
| 実践英語中級 | 井寺 利 奈 | 228 |
| 実践英語中級 | 梅田 尋 道 | 230 |
| 実践英語中級 | 平尾 秀 実 | 231 |
| 実践英語中級 | 木村 ゆ み | 232 |
| 実践英語中級 | 西谷 継 治 | 234 |
| 実践英語中級 | 久田 歩 | 235 |
| 実践英語入門 | 湊 由 妃 子 | 237 |
| 実践英語入門 | 箕田 正 開 | 239 |
| 実践英語入門 | 井寺 利 奈 | 240 |
| 実践英語入門 | 梅田 尋 道 | 242 |
| 実践英語入門 | 平尾 秀 実 | 243 |
| 実践英語入門 | 木村 ゆ み | 244 |
| 実践の思想 | 柿本 佳 美 | 246 |
| 実践の思想 | 山口 尚 | 248 |
| 社会の仕組み | 野々村 元 希 | 249 |
| 社会の仕組み | 谷口 裕 久 | 250 |
| 住環境管理学 | 平田 陽 子 | 45 |
| 住環境工学Ⅰ | 岩田 三千子 | 46 |
| 住環境工学Ⅱ | 竹村 明 久 | 47 |
| 住環境工学A | 竹村 明 久 | 48 |
| 住環境工学B | 岩田 三千子 | 49 |
| 住環境材料学 | 難波 尚 | 50 |
| 住環境材料学Ⅰ | 難波 尚 | 51 |
| 住環境設備A | 竹村 明 久 | 52 |

| 科目名 | 担当者 | ページ |
|-----------|--------|-----|
| 住環境設備B | 大橋 巧 | 53 |
| 住環境デザイン概論 | 岩田 三千子 | 54 |
| 住環境倫理 | 浅見 雅 之 | 55 |
| 住居計画学 | 稲地 秀 介 | 57 |
| 集合住宅管理学 | 平田 陽 子 | 59 |
| 就職実践基礎 | 山岡 亮 太 | 252 |
| 就職実践基礎 | 亀田 峻 宣 | 253 |
| 就職実践基礎 | 亀田 峻 宣 | 254 |
| 住生活演習 | 平田 陽 子 | 60 |
| 住生活学 | 平田 陽 子 | 61 |
| 住生活学Ⅰ | 平田 陽 子 | 62 |
| 住宅生産学 | 吉田 文 久 | 63 |
| 生涯スポーツ実習 | 河瀬 泰 治 | 255 |
| 生涯スポーツ実習 | 河瀬 泰 治 | 256 |
| 生涯スポーツ実習 | 近藤 潤 | 257 |
| 情報リテラシーⅠ | 妹尾 史 郎 | 64 |
| 情報リテラシーⅡ | 妹尾 史 郎 | 65 |
| 職業指導 | 水野 武 | 402 |
| 心理と社会 | 柏尾 眞津子 | 258 |

ス

| | | |
|-----------|--------|-----|
| 数学科教育法Ⅰ | 小林 俊 公 | 404 |
| 数学科教育法Ⅱ | 小林 俊 公 | 406 |
| 数学科教育法Ⅲ | 富永 雅 | 408 |
| 数学科教育法Ⅳ | 富永 雅 | 410 |
| 図形科学 | 榊 愛 | 66 |
| スポーツ科学実習Ⅰ | 近藤 潤 | 259 |
| スポーツ科学実習Ⅱ | 近藤 潤 | 260 |

セ

| | | |
|-------------------|---------|-----|
| 青少年育成ファシリテーター養成講座 | 浅野 英 一 | 261 |
| 生徒指導論 | 朝日 素 明 | 412 |
| 生物学 | 尾崎 清 和 | 67 |
| 西洋建築史 | 小林 正 子 | 68 |
| 世界遺産論 | 北條 ゆかり | 262 |
| 設計演習Ⅰ | 川上 比奈子 | 69 |
| 設計演習Ⅱ | 稲地 秀 介 | 70 |
| 設計演習Ⅲ | 久富 敏 明 | 71 |
| 設計演習Ⅳ | 久富 敏 明 | 72 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 居場 嘉 教 | 264 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 橋本 正 治 | 265 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 石田 秀 士 | 266 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 石田 裕 子 | 267 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 浅野 英 一 | 268 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 久保 貞 也 | 269 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 牧野 幸 志 | 270 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 大塚 正 人 | 271 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 石井 信 輝 | 272 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 田井 義 人 | 273 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 吉田 佐治子 | 275 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 上野山 裕 士 | 276 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅠ | 藤原 京 佳 | 277 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 居場 嘉 教 | 278 |

| 科目名 | 担当者 | ページ |
|----------------|-------|-----|
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 橋本正治 | 279 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 石田秀士 | 280 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 石田裕子 | 281 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 浅野英一 | 282 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 久保貞也 | 283 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 牧野幸志 | 284 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 大塚正人 | 285 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 石井信輝 | 286 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 田井義人 | 287 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 吉田佐治子 | 289 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 上野山裕士 | 290 |
| 摂南大学PBLプロジェクトⅡ | 藤原京佳 | 291 |
| ゼミA | 岩田三千子 | 73 |
| ゼミB | 岩田三千子 | 74 |
| ゼミC | 岩田三千子 | 75 |
| ゼミD | 岩田三千子 | 76 |
| 線形代数Ⅰ | 佐々木洋平 | 77 |
| 線形代数Ⅰ | 西脇純一 | 78 |
| 線形代数Ⅱ | 西脇純一 | 79 |
| 線形代数Ⅱ | 小林俊公 | 80 |
| 専門日本語Ⅰ | 塩谷尚子 | 292 |
| 専門日本語Ⅱ | 塩谷尚子 | 293 |
| 専門日本語R | 塩谷尚子 | 294 |

ソ

| | | |
|-------------------|-------|-----|
| 造形演習 | 稲地秀介 | 81 |
| ソーシャル・イノベーション実務総論 | 石井三恵 | 295 |
| 卒業研究 | 岩田三千子 | 83 |

タ

| | | |
|-------------------|-------|-----|
| 大学教養応用 | 大塚正人 | 297 |
| 大学教養実践 | 伊藤譲 | 299 |
| 大学教養入門 | 荻田喜代一 | 301 |
| 代数学 | 中津了勇 | 84 |
| ダイバーシティとコミュニケーション | 石井三恵 | 303 |

チ

| | | |
|-----------|-------|-----|
| 地域・都市計画学 | 坂本淳二 | 85 |
| 地域計画学 | 坂本淳二 | 86 |
| 地域貢献実践演習 | 鶴坂貴恵 | 305 |
| 地域と私 | 鶴坂貴恵 | 306 |
| 地域連携教育活動Ⅰ | 吉田佐治子 | 308 |
| 地域連携教育活動Ⅱ | 吉田佐治子 | 309 |
| チームビルディング | 水野武 | 310 |

テ

| | | |
|--------|------|-----|
| 哲学から学ぶ | 柿本佳美 | 312 |
| 哲学から学ぶ | 森本誠一 | 313 |

ト

| | | |
|-----------------------|------|-----|
| 統計学 | 中津了勇 | 87 |
| 道徳教育の研究 | 谷口雄一 | 413 |
| 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法 | 林茂樹 | 415 |

| 科目名 | 担当者 | ページ |
|------------|-----|-----|
| 特別活動の理論と方法 | 林茂樹 | 417 |
| 特別支援教育論 | 林茂樹 | 419 |
| 都市環境計画 | 大橋巧 | 316 |

ニ

| | | |
|----------|-------|-----|
| 日本建築史 | 砂本文彦 | 89 |
| 日本語会話Ⅰ | 古川由理子 | 318 |
| 日本語会話Ⅱ | 古川由理子 | 319 |
| 日本語会話R | 古川由理子 | 320 |
| 日本国憲法 | 大仲淳介 | 321 |
| 日本語総合Ⅰ | 藤原京佳 | 323 |
| 日本語総合Ⅱ | 藤原京佳 | 324 |
| 日本語総合R | 藤原京佳 | 325 |
| 日本語読解 | 櫻井清華 | 326 |
| 日本語読解 | 松尾佳津子 | 328 |
| 日本語読解Ⅰ | 佐々木成美 | 329 |
| 日本語読解Ⅱ | 佐々木成美 | 330 |
| 日本語読解R | 佐々木成美 | 331 |
| 日本語表現 | 櫻井清華 | 332 |
| 日本語表現 | 田林千尋 | 334 |
| 日本語表現 | 松尾佳津子 | 335 |
| 日本語表現作文Ⅰ | 佐々木成美 | 336 |
| 日本語表現作文Ⅱ | 佐々木成美 | 337 |
| 日本語表現作文R | 佐々木成美 | 338 |
| 日本語文法Ⅰ | 佐々木成美 | 339 |
| 日本語文法Ⅱ | 佐々木成美 | 340 |
| 日本語文法R | 佐々木成美 | 341 |
| 日本事情Ⅰ | 門脇薫 | 342 |
| 日本事情Ⅱ | 門脇薫 | 344 |
| 日本事情Ⅰ | 門脇薫 | 346 |
| 日本事情Ⅱ | 門脇薫 | 348 |
| 日本の政治 | 森康一 | 350 |
| 人間力と心理 | 樋口隆弘 | 351 |

ハ

| | | |
|---------------|------|-----|
| 犯罪被害者の支援と法的救済 | 小野晃正 | 353 |
|---------------|------|-----|

ヒ

| | | |
|---------|------|-----|
| ビジネスマナー | 奥田和子 | 355 |
| 微積分Ⅰ | 安井幸則 | 90 |
| 微積分Ⅰ | 友枝恭子 | 91 |
| 微積分Ⅰ | 東山和巳 | 93 |
| 微積分Ⅱ | 高尾尚武 | 95 |
| 微積分Ⅱ | 島田伸一 | 97 |

フ

| | | |
|-------------|-------|-----|
| 物理学 | 前田純一郎 | 98 |
| 物理学基礎演習 | 東谷篤志 | 99 |
| 物理学実験 | 神嶋修 | 100 |
| プロダクトデザイン演習 | 稲地秀介 | 102 |
| プロダクトデザイン論 | 吉川豪 | 104 |
| プロポーザル・デザイン | 北村浩 | 357 |

| 科目名 | 担当者 | ページ |
|--------------------|---------|-----|
| ホ | | |
| 法学入門 | 大 仲 淳 介 | 359 |
| マ | | |
| マーケティング | 武 居 奈緒子 | 360 |
| マーケティングと歴史 | 武 居 奈緒子 | 361 |
| マクロ経済学入門 | 奥 西 達 也 | 363 |
| マクロ経済学入門 | 内 田 勝 巳 | 364 |
| ミ | | |
| 身近な犯罪から自分、家族、まちを守る | 中 沼 丈 晃 | 365 |
| モ | | |
| ものづくりインターンシップ基礎 | 坂 本 淳 二 | 367 |
| ものづくりインターンシップ基礎 | 檜 橋 祥 一 | 369 |
| ものづくりインターンシップ実践 | 坂 本 淳 二 | 370 |
| ものづくり海外インターンシップ | 檜 橋 祥 一 | 372 |
| ヤ | | |
| 役立つ金融知力 | 陸 川 富 盛 | 373 |
| ラ | | |
| ライフサイエンスの基礎 | 西 矢 芳 昭 | 375 |
| ランドスケープデザイン論 | 武 田 重 昭 | 106 |
| リ | | |
| 力学 | 長 島 健 | 108 |
| 理工学基礎実験 | 竹 村 明 久 | 109 |
| レ | | |
| 歴史に学ぶ | 織 田 康 孝 | 376 |
| 歴史に学ぶ | 村 上 司 樹 | 378 |

專 門 科 目

| | | | |
|---------------|-------------|---------|--|
| 科目名 | インテリアデザイン演習 | 科目名(英文) | Exercises in Planning and Drawing of Interior Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 川上 比奈子, 西山 広志, 松本 直也, 吉本 光絵 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2062a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアを捉え、多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのようなデザインがありうるか、その可能性を模索し、具体的に提案できるようになることを目標とする。内部だけを考えるのではなく、外部空間が内部に与える影響、また、逆に内部空間が外部に与える影響を念頭に設計課題に取り組む。企画のための調査、計画の組み立て、模型・CGのプレゼンテーション作業を課題に取り入れて、構想力、計画力、表現力を養う。 |
| 到達目標 | インテリアデザインの基礎として比較的小規模で簡単なプログラムの建築空間構成およびその図面表現ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 少人数ごとに教員の指導を受け、グループの共同作業も行いながら、案をつくりまとめていく。毎週のエスキースチェック、および演習時間中の自発的作業を重視する。とくに講評会では、設計の趣旨、内容を図面、模型、言葉によって、わかりやすく説明できるように留意してほしい。学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士 インテリアプランナー インテリアコーディネーター 福祉住環境コーディネーター 商業施設士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス及び設計課題:商店街の再生と商業空間デザインの説明 | インテリアデザイン演習の目標、授業の進め方の説明。 設計課題:住空間のインテリアデザインの課題説明。 | 課題に関連する資料の収集 特に商業空間と商店街の資料収集 |
| 2 | 住空間のインテリアデザイン | 住空間のインテリアデザイン計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション エスキース作業 | 根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと 作業をスムーズに進める準備をしておくこと |
| 3 | 同上 | エスキースチェック | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 4 | 同上 | 住空間のインテリアデザイン計画案 エスキース作業 | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 5 | 同上 | エスキースチェック | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 6 | 同上 | エスキース作業 | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 7 | 同上 | エスキースチェック | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 8 | 公開講評会 | 提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける | 作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。 |
| 9 | 商業空間のインテリアデザイン | 課題について説明 | 商業空間のインテリアデザインに関する資料収集 |
| 10 | 同上 | エスキース作業 | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 11 | 同上 | エスキースチェック | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 12 | 同上 | 中間提出とグループ講評 | 要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと |
| 13 | 同上 | エスキースチェック | 中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと |
| 14 | 同上 | 模型、図面の完成に向けてプレゼンテーション作業 | 中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと |
| 15 | 公開講評会 | 作品提出及び講評、展示 提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける | 作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。 |

関連科目 図形科学、空間表現演習Ⅰ、Ⅱ、基礎設計演習 設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン論など

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準) 提出物 60%、日常の実習進行度 40%

学生へのメッセージ 毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業ははじめと終わりに押印する。
[スケッチブック名: CROQUIS white maruman ss1 表紙色ページ] を必ず購入しておくこと。
講評会は外来講師を交えたフォーマルなものです。その意識で臨んでください。

担当者の研究室等 12号館7階 川上教授室
12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室

備考 展覧会やインテリアデザインの実物を学外で見学することがある。
講評会において外来講師を迎える。
演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

| | | | |
|---------------|------------|---------|---------------------------|
| 科目名 | インテリアデザイン論 | 科目名(英文) | Theory of Interior Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 川上 比奈子 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1052a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | インテリアと建築を切り離して考えるのではなく、住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアを捉える。多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのような空間デザインがよりあるかを提案するための基礎知識を獲得することを目標とする。 |
| 到達目標 | 生活文化・住環境デザインに関連する基礎的技術の修得・活用できる |
| 授業方法と留意点 | 毎回、スライドおよび動画を用いて、講義する。また①本学における ISO14001 規格に適合した環境マネージメントシステム、②不正行為防止対策としての技術者倫理についてインテリアデザイン論に関連する内容の解説を行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | インテリアコーディネーター 2級建築士 1級建築士 福祉住環境コーディネーター 商業施設士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | インテリアデザイン論の概要 | さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 2 | インテリアエレメントについて | インテリアエレメントの概要 | さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 3 | インテリアエレメント 床・壁・天井 | インテリアエレメント 床・壁・天井について、プリント、映像によって講義 | さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 4 | インテリアエレメント 開口部・巾木・回り縁・階段 | インテリアエレメント 開口部・巾木・回り縁・階段について、プリント、映像によって講義 | さまざまな空間体験と記録(スケッチ、メモ、実測) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 5 | インテリアエレメント 家具 | インテリアエレメント 家具について、プリント、映像によって講義 | さまざまな家具に座ることと記録(スケッチ、メモ、実測) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 6 | インテリアエレメント 照明 | インテリアエレメント 照明について、プリント、映像によって講義 | さまざまな照明空間を体験することと記録(スケッチ、メモ、実測) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 7 | 現代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー | 海外のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 エッソーレ・ソットサス・Jr、コンスタンチン・グルチッチなど | さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 8 | 現代のインテリア・建築デザイン 日本のデザイナー | 日本のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 倉俣史郎、吉岡徳仁など | さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ、実測) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 9 | 近代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー 西欧 | 近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 シャルロット・ベリアン、トーマス・ヘリット・リートフェルト、アイリーン・グレイなど | さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 10 | 現代までのインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー 北欧 | 近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 アルヴァ・アアルト、アルネ・ヤコブセン、ハンス・J・ヴェグナーなど | さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 11 | 現代までのインテリア・建築デザイン 日本のデザイナー | 近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 柳宗理、剣持勇、イサム・ノグチなど | さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 12 | インテリア計画とデザインのプロセス | インテリア計画とデザインのプロセスについて、プリント、映像によって講義 | さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 13 | インテリア計画と工法のプロセス | インテリア計画と工法のプロセスについて、プリント、映像によって講義 | さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 14 | インテリア・建築デザインと表現方法 | インテリア・建築デザインと表現方法について、プリント、映像によって講義 | さまざまな文献調査と記録(スケッチ、メモ) 授業内で分からなかった言葉を調べる |
| 15 | まとめと試験 | これまでの講義のまとめと試験 | 授業内容をよく復習しておくこと 授業内で分からなかった言葉を調べる |

| | |
|------|-------------------------------------|
| 関連科目 | インテリアデザイン演習 設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 近代デザイン史 建築空間論 |
|------|-------------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | |
|----------|--------------------------|
| 評価方法(基準) | 授業内の講義メモなど提出物 30% 試験 70% |
|----------|--------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | インテリアデザインに関する基礎知識を獲得する最良の方法は、実際の空間デザインを体験しておくことです。日頃から、商業施設、公共施設、住宅など、自発的にさまざまな空間の体験を心がけてください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 川上教授室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 展覧会やインテリアデザインの実物を見学することがある インテリアデザイン、空間デザイン業界から専門家を招くことがある 講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名 | 解析学 | 科目名(英文) | Analysis |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 友枝 恭子 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2011a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 微積分学の厳密な展開を目標にする。理工学部初年度の微積分では計算技法の習得に主眼がおかれ、その基礎となる実数についての理解は直感にたよっている。この授業では、実数を厳密に構成しそれに基づいて連続、収束の概念の明確な理解をめざす。そして連続関数、微分可能関数の持つ重要な性質の理解、また関数の集合が与えられたときの関数族としてもつ性質についての理解を目標にする。 |
| 到達目標 | 関数の収束概念、各点収束と一様収束の違いを理解する。微分方程式や積分方程式などの解の存在定理および解の定性的性質を示すために一様収束の概念がどのように有効に働いているのかを理解し、数理工学に現れる諸問題の数値計算や近似計算ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 数学教職免許取得に不可欠。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|-----------|
| | | | |
| 1 | 実数の構成と性質(1) | 論証の用語、和集合、共通部分 有理数と実数 | 課題レポート |
| 2 | 実数の構成と性質(2) | 無限集合、濃度の比較、 有理数の可算性と実数の非可算性 | 課題レポート |
| 3 | 実数の構成と性質(3) | 実数の連続性、実数の作る集合の性質 限・下限、上極限・下極限、 数列の極限、 ϵ -N 論法 | 課題レポート |
| 4 | 実数の構成と性質(4) | コーシー列、実数の完備性、 ボルツァーノ・ワイエルシュトラスの定理 | 課題レポート |
| 5 | 関数の性質(1) | 関数の定義、関数の極限、 関数の連続性と ϵ - δ 論法 | 課題レポート |
| 6 | 関数の性質(2) | 中間値の定理、最大値・最小値の存在 | 課題レポート |
| 7 | 連続関数 | 逆関数の定義、合成関数の連続性、 一様連続性、 リプシッツ・ヘルダー連続性 | 課題レポート |
| 8 | 微分と積分(1) | 微分係数の定義、導関数の定義 微分可能な関数の作る空間 | 課題レポート |
| 9 | 微分と積分(2) | リーマン積分可能性と定積分、 微積分の基本定理 | 課題レポート |
| 10 | 平均値の定理とテーラー展開(1) | ロルの定理、コーシーの平均値の定理、 有限増分の公式 | 課題レポート |
| 11 | 平均値の定理とテーラー展開(2) | べき級数の収束と収束半径 多項式近似定理 | 課題レポート |
| 12 | 関数列 | 数列の収束と関数列の収束 一様収束と各点収束 | 課題レポート |
| 13 | 関数空間 | 関数の作る空間、ノルム区間と完備性、 アスコリ・アルツェラの定理 | 課題レポート |
| 14 | 関数方程式と関数空間(1) | 関数方程式と関数空間 縮小写像の原理と不動点定理 | 課題レポート |
| 15 | 関数方程式と関数空間(2) | 色々な関数方程式と解の存在 | 課題レポート |

関連科目 微積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、力学、物理学など。特に微積分Ⅰ・Ⅱの修得は不可欠。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------------|-----|------|
| | 1 | 適宜プリント教材を配布する。 | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法(基準) レポート30%、定期テスト(期末)70%で判定し評価する。レポートは毎回採点して返却する。

学生へのメッセージ 講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 化学 | 科目名(英文) | General Chemistry |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐藤 和之 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1017a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 「化学」は、物質とその変化を捉える学問である。本科目は、化学を通じて、科学的な基礎知識やその基礎概念を修得することを目的とする。授業では、高校化学の学習内容を復習し、さらにその内容が実社会でどのように応用されているかを理解することで、化学的思考力や応用力を養うことを目指す。 |
| 到達目標 | 1) 化学で用いられる用語を定義することができる。 2) 各項目の基本的な考え方を説明することができる。 3) 基礎的な計算ができる。 4) 他者とのコミュニケーションを通じ、合意形成を行うことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書に沿って講義をすすめる。また、講義内容に沿ったグループワークや発表、ピア評価などを適宜交える。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|--|---|
| | | | |
| 1 | 元素と周期表 | 元素と周期表について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の2章「元素がつくるカレンダーって何のこと?」と、3章「物質は何からできているの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 2 | 原子と分子(1) | 原子と分子について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の1章「太陽はなぜ輝くの?」と、2章「元素がつくるカレンダーって何のこと?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 3 | 原子と分子(2) | 原子と分子について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の1章「太陽はなぜ輝くの?」と、2章「元素がつくるカレンダーって何のこと?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 4 | 化学結合 | 化学結合について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の4章「ダイヤモンドと食塩の違いって?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 5 | 溶解 | 化合物が溶けることを化学的な見地から説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の5章「メタンハイドレートって何だろう?」と、8章「塩は溶けるが小麦粉は溶けない?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 6 | 物質の状態 | 物質の三態や状態図について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の6章「スケートが滑るのはなぜ?」と、7章「エアガンの弾はなぜ飛ぶの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 7 | 反応速度と化学平衡 | 化学反応に影響を及ぼす要因について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の12章「炭が燃えるのと熱くなるのはなぜ?」と、13章「炭を燃やすのになぜマッチが必要なの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 8 | 酸と塩基 | 酸と塩基について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の9章「酸性食品・塩基性食品って何だろう?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 9 | 酸化と還元 | 酸化と還元について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の10章「化学カカロが熱くなるのはなぜ?」と、11章「乾電池と太陽電池の違いは?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 10 | 有機化合物 | 有機化合物について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の14章「有機化合物って何だろう?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 11 | 異性体 | 有機化合物の異性体について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の15章「味の素は「L」体って何のこと?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 12 | 有機化学反応 | 有機化学反応について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の16章「マーガリンはどうやってつくるの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 13 | 高分子 | 高分子化合物について説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の17章「プラスチックって何だろう?」と、18章「コラーゲンってタンパク質なの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 14 | 医薬品 | 医薬品を化学的な見地から説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の19章「洗濯で汚れが落ちるのはなぜ?」と、20章「抗生物質って何だろう?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |
| 15 | エネルギーと地球温暖化 | 地球温暖化を化学的な見地から説明する。また、適宜グループワークや発表を行う。 | 事前に教科書の12章「炭が燃えるのと熱くなるのはなぜ?」と、21章「地球温暖化はなぜ起こる?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。 |

| | | | | |
|------|-----------|--------|----------------|------|
| 関連科目 | 有機化学、無機化学 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ふしぎの化学 | 齋藤勝裕・安藤文雄・今枝健一 | 培風館 |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 (70%) と授業態度 (30%、グループワークの成果物やピア評価など)。100 点満点中、60 点以上で合格とする。ただし、就学状況不良のものは、ピア評価の対象外 (授業態度の減点) とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | この講義を通じ、身の回りにある物や身近で起こっている現象が「化学」の作用によるということを理解できるようになればと願っている。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 枚方学舎 1 号館 6 階 佐藤講師室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。 遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 グループワークの成果物やピア評価結果は返却し、解説する。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 環境計画演習 | 科目名(英文) | Exercises in Environmental Planning |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 竹村 明久, 岩田 三千子, 大橋 巧 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3065a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 原則として、以下の(A)、(B)、(C)の3グループに分かれて実施するが、第7回と14回の講習会は合同で行う。 (A) 環境配慮技術(エコ技術)を理解し、建築設計に応用できる基礎的能力と、シミュレーション等によるエネルギー評価手法を学ぶ。 (B) 測光量を用いた計算演習、および光学測定器や色票を用いて、視環境についての評価方法とデザインの手法を学ぶ。 (C) 環境に対する人の心理生理反応を把握することを目指し、空気環境を中心とした心理評価や生理量測定手法を修得する。 |
| 到達目標 | 住環境への理解を深め、問題点解決の手法と建築計画時における予測手法を身につけ、卒業研究を行うための基礎知識と測定技術・計算技術などを修得・活用できることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 手法の説明や問題演習、実験の実施と、データ処理、そして発表に至るまで、総合的に取り組む。 環境工学A及び環境工学Bの講義内容について復習して臨むこと。 第7回と14回の講習会には外部の専門家に参加してもらう。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--|-------------------------------------|
| 1 | (A) ガイダンス (B) ガイダンスおよび準備 (C) 心理評価による室内環境評価 | (A) 演習の目的、概要説明、シミュレーションツールの解説 (B) 3年次前期までの講義内容の復習 (C) 心理評価の活用事例の説明、概要の説明 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 2 | (A) 環境配慮型外皮設計とその評価1 (B) 照明設計の基礎 (C) においの心理評価① | (A) 最大負荷計算 (B) 測光量、照度計 (C) 心理評価における実験者、被験者の注意点の整理 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 3 | (A) 環境配慮型外皮設計とその評価2 (B) 照明設計1 (C) においの心理評価② | (A) 窓ガラスの性能評価1 (B) 分光放射計、視感度 (C) 心理評価データの分析 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 4 | (A) 環境配慮型外皮設計とその評価3 (B) 照明設計2 (C) 心理評価手法の比較① | (A) 窓ガラスの性能評価2 (B) 輝度計、輝度対比、明るさ感 (C) 評定尺度法とME法の比較 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 5 | (A) 環境配慮型外皮設計とその評価4 (B) 照明設計3 (C) 心理評価手法の比較② | (A) ルーバーの最適設計1 (B) 光束法による照度計算 (C) 実験データを基にした評価手法の比較 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 6 | (A) 環境配慮型外皮設計とその評価5 (B) 照明設計4 (C) これまでの演習に関する復習① | (A) ルーバーの最適設計2 (B) 逐点法による照度計算 (C) これまでの演習課題に関する演習問題と解説 | 講義内容の予習・復習 これまでの配布資料やノートをよく読むこと。 |
| 7 | 前半のテーマの発表(講習会) | 演習内容について研究発表スタイルにまとめて発表する。また、講評を受けて今後の課題を見出す。 | プレゼンテーションの準備 |
| 8 | (A) 環境配慮型外皮設計とその評価6 (B) 色彩環境デザインの基礎 (C) 生理反応測定による室内環境評価 | (A) エアフローウィンドウの性能評価 (B) 色彩イメージ、色彩調和 (C) 生理量測定による室内環境評価について | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 9 | (A) 環境配慮型設備デザインとその評価1 (B) 色彩環境デザイン1 (C) 生理量測定と心理評価の比較① | (A) 昼光利用による照明制御のエネルギー評価1 (B) 物体色、視感測色、機器による測色 (C) 生理量測定手法の概要と、測定時の注意点 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 10 | (A) 環境配慮型設備デザインとその評価2 (B) 色彩環境デザイン2 (C) 生理量測定と心理評価の比較② | (A) 昼光利用による照明制御のエネルギー評価2 (B) 光源色、色温度、演色性 (C) 生理量測定結果と心理評価の比較 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 11 | (A) 環境配慮型設備デザインとその評価3 (B) 視環境設計の基礎 (C) 生理量測定によるストレスの把握① | (A) 窓面積の違いによる空調への影響評価 (B) 明視4条件 (C) ストレス測定手法の概要と、測定時の注意点 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 12 | (A) 環境配慮型設備デザインとその評価4 (B) 視環境設計1 (C) 生理量測定によるストレスの把握② | (A) 自然換気併用ハイブリッド空調の効果検証1 (B) 表示物(サイン) (C) ストレスに関する生理量と心理評価の比較 | 講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。 |
| 13 | (A) 環境配慮型設備デザインとその評価5 (B) 視環境設計2 (C) これまでの演習に関する復習② | (A) 自然換気併用ハイブリッド空調の効果検証2 (B) 高齢者、ロービジョン (C) これまでの演習課題に関する演習問題と解説 | 講義内容の予習・復習 これまでの配布資料やノートをよく読むこと。 |

| | 14 | 後半のテーマの発表（講評会） | 学習した内容について各自が発表する。講評を受けて今後の課題を見出す。 | プレゼンテーションの準備 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|----------------|------------------------------------|-----------------------|----|-----|-----|------|---|------------|------------|-----|---|-------|-------|------|---|---------------|--------|------|
| | 15 | 総まとめ | 演習課題で得られた成果を整理し、苦手箇所などのフォローアップを行う。 | これまでの配布資料やノートをよく読むこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 住環境工学 A、住環境工学 B、色彩デザイン論、住環境設備 A、住環境設備 B、都市環境計画、環境工学演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>環境工学教科書第二版</td> <td>環境工学教科書研究会</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生活環境学</td> <td>岩田利枝他</td> <td>井上書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>最新建築設備工学(改訂版)</td> <td>田中俊六監修</td> <td>井上書院</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 環境工学教科書第二版 | 環境工学教科書研究会 | 彰国社 | 2 | 生活環境学 | 岩田利枝他 | 井上書院 | 3 | 最新建築設備工学(改訂版) | 田中俊六監修 | 井上書院 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 環境工学教科書第二版 | 環境工学教科書研究会 | 彰国社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 生活環境学 | 岩田利枝他 | 井上書院 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 最新建築設備工学(改訂版) | 田中俊六監修 | 井上書院 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の演習課題の提出物で 100% 評価する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 積極的な質問など、前向きな取組みを期待します。継続的に進行するので欠席しないこと 環境工学 A、環境工学 B、色彩デザイン論等の講義で使用した教科書も適宜使用する 教科書、A4 レポート用紙、関数電卓、必要に応じて製図用三角定規などを持参すること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 12 号館 7 階の岩田教授室、大橋准教授室、竹村准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 環境工学演習 | 科目名(英文) | Exercises in Environmental Engineering |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 竹村 明久, 岩田 三千子, 大橋 巧 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3064a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 住環境工学A、住環境工学Bで学んだ知識を基に、機器を使った測定や具体的な計算などの演習を通して、光環境、音環境、熱環境、空気環境に関する予測や評価の手法を修得する。住環境への理解を深め、問題点解決の手法と建築計画時における予測手法を身につける。 |
| 到達目標 | 建築士資格試験を受ける際の計算問題などの解法や、実務の測定技術・計算技術などの基礎を修得・活用できることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 各々の環境分野について計算や測定を行うので、住環境工学A、住環境工学Bで学習した内容を教科書で毎回復習してから講義に出席すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、建築設備士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 日影図の作成と日影時間の検討 | 日影図について理解を深め、日影図を作成する。その日影図を用いて、ある建物の日影図を作成する。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること |
| 2 | 光束法による照明設計 | 天井に蛍光灯を均等に並べて照明する場合について、蛍光灯の必要個数を計算により求めその配置図を描く。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること |
| 3 | 逐点法による照度の計算 | 明るさ評価の基本となる水平面照度と鉛直面照度について、照明器具の配光特性に基づいて算定する。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること |
| 4 | 照度の計測 | 教室の照度分布について、日光と人工照明を用いた場合について測定し、照度計の取り扱いを習得する。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること |
| 5 | 光環境の総合問題 | 一級建築士、二級建築士などの問題から選抜した複合問題を解答する。 | 以前の講義で学習した内容を復習して出席すること |
| 6 | 音の基本単位と騒音の実測 | 音の基本単位を復習し、騒音測定機器の取扱いを修得した後に、実際の環境の騒音測定をする。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること |
| 7 | 残響時間および透過損失の計算 | 残響時間と透過損失を理解し、その計算式を、ある空間に適用する。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること |
| 8 | 音・熱環境の総合問題 | 一級建築士、二級建築士などの問題から選抜した複合問題を解答する。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること |
| 9 | CO2の計測と換気量の計算 | 換気と空気質の関係について復習し、教室内外のCO2を測定して、換気量の推定を行う。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること |
| 10 | 空気環境・設備の総合問題 | 一級建築士、二級建築士などの問題から選抜した複合問題を解答する。 | 以前の講義で学習した内容を復習して出席すること |
| 11 | 熱環境分野の測定器の概要 | 熱環境分野で使用する測定器の原理及び使用方法を説明する。 | 教科書の該当箇所を自宅学習すること 演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと |
| 12 | 温熱環境指標の測定(1) | 授業の前半で温熱環境指標(SET*など)を説明する。後半では、気温、湿度、MRT(グローブ温度)、気流の測定場所を決め、測定計画を立案する。第3回に測定を実施する。 | 演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと |
| 13 | 温熱環境指標の測定(2) | 気温、湿度、MRT(グローブ温度)、気流を測定し、温熱環境指標(SET*など)を算出する。状況に応じて建物内外数か所にて温熱環境を測定し、指標の比較を行い考察をする。 | 演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと |
| 14 | 冷暖房熱負荷計算(1) | 授業の前半では、手計算による冷暖房熱負荷計算法を説明する。授業後半では、キャンパス内の適当な建物の部屋を対象として冷暖房熱負荷計算の演習を行う。 | 演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと |
| 15 | 冷暖房熱負荷計算(2) | 授業前半では冷暖房熱負荷計算の続きを行い、熱負荷の構成比などを分析し、建物冷暖房の省エネルギーについて考察する。授業後半では計算結果の発表や質疑応答を行う。 | 演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと |

関連科目 住環境工学A、住環境工学B、住環境設備A、住環境設備B、都市環境計画、環境計画演習

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------|------------|------|
| | 1 | 環境工学教科書 | 環境工学教科書研究会 | 彰国社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|-------|--------|-------|-------|
| | 1 | 図説建築環境 | 松原斎樹他 | 学芸出版社 |
| 2 | 生活環境学 | 岩田利枝他 | 井上書院 | |
| 3 | | | | |

評価方法 毎回の課題の評価点の合計点で評価する(100%)。期末試験は行わない。

| | |
|---------------|--|
| (基準) | |
| 学生への メッセージ | 教科書、電卓、三角定規一式、A4レポート用紙を毎回持参すること。 |
| 担当者の 研究室等 | 12号館7階 大橋准教授室 12号館7階 岩田教授室 12号館7階 竹村准教授室 |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 幾何学 I | 科目名 (英文) | Geometry I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 小林 俊公 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2009a0 | | |

| 授業概要・目的 | 幾何学は、公理と公準から正しい推論により導かれる命題の体系として確立された最初の学問である。三角形、四辺形、円などの図形の性質を学ぶとともに、古典幾何の形成をたどりながら、論理的に述べられた文章を理解し、論理的に考え、論理的に記述することができるようになることを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|----------------------|-----------|----|-------|---------|-----------|---|----------|-------------|--------|---|----------|----------------|--------|---|-------------|---------------|--------|---|-------------|----------|--------|---|-------------|-------------|--------|---|-------------|--------------------|--------|---|-------------|-----------------|--------|---|-------------|-----------|--------|---|-----------|----------|--------|----|-----------|-----------------|--------|----|--------------|----------------|--------|----|--------------|------------------|--------|----|--------------|-----------|--------|----|--------|-------------|--------|----|-------|----------------------|--------|
| 到達目標 | (1) 命題に関する基本的な事柄について理解している。 (2) 命題の基本的な証明方法を使用することができる。 (3) 線分、角、三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な事柄について理解している。 (4) 平行線の公理について理解している。 (5) 三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な命題を、定義や公理を用いて証明することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 講義を中心に行います。授業中は集中して、論理的な文章の理解の仕方、記述の仕方等を掴んでいってください。また毎回の課題レポートは、時間をかけて取り組むようにしましょう。論理的な文章が書けるように、練習を積んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 数学における論理を平面幾何を通じて学ぶことは、内容の異なる代数学や解析学の理解にもつながる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>推論と証明(1)</td><td>命題、三段論法、背理法</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>推論と証明(2)</td><td>命題の逆、対偶、必要十分条件</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>平面幾何の諸定理(1)</td><td>合同の概念、線分と角の合同</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>平面幾何の諸定理(2)</td><td>三角形の合同定理</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>平面幾何の諸定理(3)</td><td>直角の存在、垂線の存在</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>平面幾何の諸定理(4)</td><td>三角不等式、線分の中点、角の二等分線</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>平面幾何の諸定理(5)</td><td>三角形の外心、内心、重心、垂心</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>平面幾何の諸定理(6)</td><td>円に内接する四角形</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>平行線の公理(1)</td><td>三角形の内角の和</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>平行線の公理(2)</td><td>平行四辺形の性質、長方形の存在</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>平面幾何学の公理系(1)</td><td>点と直線、無定義の用語、公理</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>平面幾何学の公理系(2)</td><td>あらためて平行線の公理、直角仮説</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>平面幾何学の公理系(3)</td><td>非ユークリッド幾何</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>平面上の曲線</td><td>2次曲線、媒介変数表示</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>複素数平面</td><td>複素数による図形表示、ド・モアブルの定理</td><td>課題レポート</td></tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 推論と証明(1) | 命題、三段論法、背理法 | 課題レポート | 2 | 推論と証明(2) | 命題の逆、対偶、必要十分条件 | 課題レポート | 3 | 平面幾何の諸定理(1) | 合同の概念、線分と角の合同 | 課題レポート | 4 | 平面幾何の諸定理(2) | 三角形の合同定理 | 課題レポート | 5 | 平面幾何の諸定理(3) | 直角の存在、垂線の存在 | 課題レポート | 6 | 平面幾何の諸定理(4) | 三角不等式、線分の中点、角の二等分線 | 課題レポート | 7 | 平面幾何の諸定理(5) | 三角形の外心、内心、重心、垂心 | 課題レポート | 8 | 平面幾何の諸定理(6) | 円に内接する四角形 | 課題レポート | 9 | 平行線の公理(1) | 三角形の内角の和 | 課題レポート | 10 | 平行線の公理(2) | 平行四辺形の性質、長方形の存在 | 課題レポート | 11 | 平面幾何学の公理系(1) | 点と直線、無定義の用語、公理 | 課題レポート | 12 | 平面幾何学の公理系(2) | あらためて平行線の公理、直角仮説 | 課題レポート | 13 | 平面幾何学の公理系(3) | 非ユークリッド幾何 | 課題レポート | 14 | 平面上の曲線 | 2次曲線、媒介変数表示 | 課題レポート | 15 | 複素数平面 | 複素数による図形表示、ド・モアブルの定理 | 課題レポート |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 推論と証明(1) | 命題、三段論法、背理法 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 推論と証明(2) | 命題の逆、対偶、必要十分条件 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 平面幾何の諸定理(1) | 合同の概念、線分と角の合同 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 平面幾何の諸定理(2) | 三角形の合同定理 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 平面幾何の諸定理(3) | 直角の存在、垂線の存在 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 平面幾何の諸定理(4) | 三角不等式、線分の中点、角の二等分線 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 平面幾何の諸定理(5) | 三角形の外心、内心、重心、垂心 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 平面幾何の諸定理(6) | 円に内接する四角形 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 平行線の公理(1) | 三角形の内角の和 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 平行線の公理(2) | 平行四辺形の性質、長方形の存在 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 平面幾何学の公理系(1) | 点と直線、無定義の用語、公理 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 平面幾何学の公理系(2) | あらためて平行線の公理、直角仮説 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 平面幾何学の公理系(3) | 非ユークリッド幾何 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 平面上の曲線 | 2次曲線、媒介変数表示 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 複素数平面 | 複素数による図形表示、ド・モアブルの定理 | 課題レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 微積分 I・II、線形代数 I・II など。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>幾何入門</td><td>砂田利一</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>2</td><td>幾何への誘い</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>3</td><td>幾何のおもしろさ</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 幾何入門 | 砂田利一 | 岩波書店 | 2 | 幾何への誘い | 小平邦彦 | 岩波書店 | 3 | 幾何のおもしろさ | 小平邦彦 | 岩波書店 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 幾何入門 | 砂田利一 | 岩波書店 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 幾何への誘い | 小平邦彦 | 岩波書店 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 幾何のおもしろさ | 小平邦彦 | 岩波書店 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題レポート30%、定期テスト70%の割合で判定し評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 授業の中でわからないことがあれば遠慮なく質問してください。また、毎回の課題レポートでは難しいものもあるかもしれませんが、まずは「考えることに意義がある」と思って、じっくり取り組んでください。そしてできるだけ欠かさず提出することを心がけましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 3号館3階 数学研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。 レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------|
| 科目名 | 幾何学Ⅱ | 科目名(英文) | Geometry II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 島田 伸一 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2010a0 | | |

授業概要・目的
微分幾何学の見地から、日常によくみる曲面、曲線がいかに分類されているのか、その理解を目標とする。

到達目標
基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する：
1) 2次曲線の焦点・準線・極形式を理解する
2) 焦点の性質と微分方程式を用いた解析を理解する
3) 2次曲線を座標軸の回転により標準形に直す
4) 平面曲線の弧長・曲率を理解する
5) 曲面の接平面を理解する
6) 曲面積分と曲面の重心が計算できる。

授業方法と留意点
授業は以下の科目を履修していることを前提として進める：
線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ
講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。

科目学習の効果(資格)
教職科目なので教員の資格を得るためには取る事が望ましい。空間の理解に役に立ち、線形代数・微積分のみごとな応用を見る事ができる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|--|-----------|
| | | | |
| 1 | 2次曲線(1) | 放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式 | 課題レポート |
| 2 | 2次曲線(2) | 放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。 | 課題レポート |
| 3 | 2次曲線(3) | 楕円、標準形、準線、焦点、極形式 | 課題レポート |
| 4 | 2次曲線(4) | 楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積 | 課題レポート |
| 5 | 2次曲線(5) | 双曲線、標準形、準線、焦点、極形式 | 課題レポート |
| 6 | 2次曲線(6) | 双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。 | 課題レポート |
| 7 | 2次曲線(7) | 座標軸の回転と固有値 | 課題レポート |
| 8 | 2次曲線(8) | 固有値による2次曲線の分類 | 課題レポート |
| 9 | 平面の曲線(1) | 弧長、曲率 | 課題レポート |
| 10 | 平面の曲線(2) | 曲率円 | 課題レポート |
| 11 | 平面曲線(3) | 曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式 | 課題レポート |
| 12 | 空間内の曲面(1) | 陰関数表示、パラメータ表示、接平面 | 課題レポート |
| 13 | 空間内の曲面(2) | 曲面積分、曲面積、重心 | 課題レポート |
| 14 | 空間内の曲面(3) | 平均曲率、ガウス曲率(1) | 課題レポート |
| 15 | 空間内の曲面(4) | 平均曲率、ガウス曲率(2) | 課題レポート |

関連科目
微積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、幾何学Ⅰ、解析学、代数学

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法(基準)
課題で45%、期末試験55%で評価する。

学生へのメッセージ
講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、スケジュールアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。

担当者の研究室等
3号館3階 数学研究室

備考
毎回プリントを配布し講義する。
事前事後学習は毎回1.5時間以上かけること。
課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------------------|
| 科目名 | 基礎数学演習 | 科目名 (英文) | Exercises in Basic Mathematics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | ハ |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 小林 俊公 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1001a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この講義は微積分学への準備となるように意図されている。微積分の講義では説明が省略されるか簡単に済まされるものに対して詳しい説明と演習を行う。微積分学は瞬間の変化を記述し、微小なものを足し合わせる方法を教えている。その動機付けとなるような問題も扱いたいと思っている。そのため物理からの簡単な応用問題も取り上げたいと思っている。 |
| 到達目標 | 主な目標は (1) 種々の量を文字式で表現できる。 (2) 初等関数の性質を利用した計算ができる。 (3) 平行移動、対称移動を利用して関数のグラフが描ける。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書に基づく講義と演習を中心に進める。 これと並行して、各単元の内容の演習を演習教材(ワークブック)を用いて次のサイクルで実施する： (1) 授業で指定された演習問題に解答し、 (2) 教員の評価を受けること。正解するまでやり直し、 (3) その単元の全問題に正答した時点で、教員から検印を貰う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 微積分、線形代数のための基礎を身につけて、専門科目で用いられる数式理解に役立てる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|------------|-------------------------------|------------------|--------|
| | | | 演習テキスト | レポート課題 |
| 1 | 整数・有理数・無理数 | ・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質 | 演習テキスト 第1.1~1.4章 | レポート課題 |
| 2 | 複素数・無理数 | ・複素数の四則演算 | 演習テキスト 第1.5~1.6章 | レポート課題 |
| 3 | 複素平面と極形式 | ・複素数の極形式表示 | 演習テキスト 第1.7章 | レポート課題 |
| 4 | 文字式 | ・文字式の展開・因数分解 | 演習テキスト 第2.1~2.3章 | レポート課題 |
| 5 | 2次方程式 | ・解の公式等による2次方程式の解法 | 演習テキスト 第2.4章 | レポート課題 |
| 6 | 高次方程式 | ・因数定理を用いた高次方程式の解法 | 演習テキスト 第2.4章 | レポート課題 |
| 7 | 1次関数(1) | ・直線の式、直交条件 | 演習テキスト 第3.1章 | レポート課題 |
| 8 | 1次関数(2) | ・1次関数の応用 | 演習テキスト 第3.1章 | レポート課題 |
| 9 | 2次関数 | ・グラフ | 演習テキスト 第3.2章 | レポート課題 |
| 10 | 無理関数 | ・グラフ | 演習テキスト 第3.2章 | レポート課題 |
| 11 | 分数式 | ・計算・部分分数分解 | 演習テキスト 第4.1-4.2章 | レポート課題 |
| 12 | 分数式 | ・グラフ | 演習テキスト 第4.2章 | レポート課題 |
| 13 | 三角比(1) | ・一般角、三平方の定理とその応用 | 演習テキスト 第5.1章 | レポート課題 |
| 14 | 三角比(2) | ・三角関数の定義、グラフ | 演習テキスト 第5.2章 | レポート課題 |
| 15 | 三角比(3) | ・三角比の計算、余弦定理 | 演習テキスト 第5.2~5.3章 | レポート課題 |
| 16 | 絶対値(1) | ・絶対値の基本的性質 | 演習テキスト 第6.1章 | レポート課題 |
| 17 | 絶対値(2) | ・絶対値付きの方程式の解法、グラフ | 演習テキスト 第6.2~6.3章 | レポート課題 |
| 18 | 指数関数(1) | ・指数法則 | 演習テキスト 第7.1章 | レポート課題 |
| 19 | 指数関数(2) | ・指数関数のグラフ、方程式の解法 | 演習テキスト 第7.1章 | レポート課題 |
| 20 | 対数関数(1) | ・対数の定義、底の変換公式 | 演習テキスト 第7.2章 | レポート課題 |
| 21 | 対数関数(2) | ・対数関数を含む方程式 | 演習テキスト 第7.2章 | レポート課題 |
| 22 | 対数関数(3) | ・対数関数のグラフ | 演習テキスト 第7.2章 | レポート課題 |
| 23 | 三角関数(1) | ・加法定理 | 演習テキスト 第8.1章 | レポート課題 |
| 24 | 三角関数(2) | ・加法定理を用いた計算問題 | 演習テキスト 第8.1章 | レポート課題 |
| 25 | 三角関数(3) | ・加法定理から導かれる種々の公式 | 演習テキスト 第8.2章 | レポート課題 |
| 26 | 三角関数(4) | ・加法定理を用いた三角関数のグラフの描き方 | 演習テキスト 第8.3章 | レポート課題 |
| 27 | 数列 | ・等差数列、等比数列 | 演習テキスト 第9.1~9.3章 | レポート課題 |
| 28 | 和の公式 | ・等差数列、等比数列の和、シグマ記号 | 演習テキスト 第9.2~9.4章 | レポート課題 |

| | | | | |
|---------------|---|--------|------------------|-------------------------|
| | | | に慣れる | ポート課題 |
| | 29 | 数学的帰納法 | ・数学的帰納法を用いた証明 | 演習テキスト 第9.5章 課題 レポート |
| | 30 | 総合演習 | ・応用問題 | レポート課題 |
| 関連科目 | 数式を用いるすべての科目、特に微積分。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 数学の基礎 | 摂南大学基礎理工学機構数学教室編 | |
| | 2 | 日々の演習 | 摂南大学基礎理工学機構数学教室編 | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 全単元の検印を受けて演習教材(ワークブック)を完遂した者のみを成績評価の対象とし、演習、小テスト、演習教材(ワークブック)で30%、中間35%、期末35%の割合で判定し評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 教科書の問題を自分で何度も解いて数式を扱う経験を十分に積むよう努力してください。演習は必ず自分で解こうと努力し、わからないところは質問する積極的な姿勢を望みます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 3号館3階 数学研究室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習には、各々毎回1.5時間以上かけること。 レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|---|
| 科目名 | 基礎設計演習 | 科目名 (英文) | Exercises in Basic Architectural Planning and Drawing |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 平田 陽子・円満宇 洋介・坂本 淳二・田所 克庸・田中 郁恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1057a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 様々な課題を通して住環境デザインの基礎的な考え方、図面表現、立体表現の基礎技術を習得する。 |
| 到達目標 | 建築分野の専門家として仕事をこなしていく上での基本となる設計の基礎技術を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 製図室における演習、全体の講義、グループごとの説明、個人に対するアドバイスが適宜、行われます。授業時には必要な製図用具、画材を必ず準備して臨んでください。提出日時は時間厳守です。作業の進行状況によって授業終了後も引き続き各自で課題に取り組んでもらうことがあります。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 設計製図の基礎を身につける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|--|--|
| | | | |
| 2 | スケッチ・パース II | 建築図面をもとに透視図を描く | 授業終了後も作業を続けることがある。 |
| 3 | スケッチ・パース III | スケッチパースの製作、提出及び講評 | 提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。 |
| 4 | 線の練習・文字のレタリング | 建築図面における線の描き方とレタリングの描き方の練習 | 配布された図面をよく見ておくこと。 |
| 5 | スケッチ | 建築図面におけるスケッチの描き方の練習及び講評 | 講評をよく聞いて、各自でスケッチの練習をすること。 |
| 6 | 木造住宅図面の模写 I | 木造住宅模写の描き方の説明、練習 (題材を3つとし、それぞれグループに分かれて作業) | 提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。配布された図面をよく見ておくこと。 |
| 7 | 木造住宅図面の模写 II | 平面図の模写 | 授業終了後も作業を続けることがある。 |
| 8 | 木造住宅図面の模写 III | 断面・立面図の模写 | 授業終了後も作業を続けることがある。 |
| 9 | 木造住宅図面の模写 IV | 配置図の模写、 | 授業終了後も作業を続けることがある。 |
| 10 | 木造住宅図面の模写 V | 全体のブラッシュアップ。製作物の提出、講評。 | 提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。配布された図面をよく見ておくこと。 |
| 11 | 木造住宅の模型製作 I | 図面模写した住宅の模型を製作。対象作品の写真紹介。模型の作り方についての説明。 | 授業終了後も作業を続けることがある。 |
| 12 | 木造住宅の模型製作 II | 模型製作 | 授業終了後も作業を続けることがある。 |
| 13 | 木造住宅の模型製作 III | 同上 | 授業終了後も作業を続けることがある。 |
| 14 | 木造住宅の模型製作 IV | 同上 | 授業終了後も作業を続けることがある。 |
| 15 | 木造住宅の模型製作 V | 木造住宅模型の製作、提出、講評 | 提出日時の厳守。提出時間を守るように前もって作業スケジュールをよく考えておく。 |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | 造形演習、建築計画学、図形科学、設計演習 I、設計演習 III、空間表現演習 I、空間表現演習 II、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など |
|------|--|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 提出物を中心に (90%)、毎回の受講態度、質問への呼応など (10%) を加味して評価する。ただし、無断欠席が4回以上ある場合には、成績評価しない。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 住環境の設計を学ぶスタートです。基本ルール等をしっかりと学び、以後の設計演習の表現に応用できるように心がけてください。授業が始まる前に、製図用具や資料などを準備して、すぐに作業にかかれるようにして、授業に臨んでください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 12号館 7階 平田教授室、12号館 6階 坂本教授室 12号館 5階 住環境デザイン学科準備室2 |
|----------|--|

| | |
|----|--|
| 備考 | 製図用具が必要ですので、指定された用具を購入すること。 演習に係る授業時間外練習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。 製図室での飲食は、禁止である。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------------------|
| 科目名 | 基礎力学演習 | 科目名(英文) | Exercises in Basic Mechanics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 東谷 篤志, 入澤 明典 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1015a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は理工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。また、力学は日常的な現象を定量的に知ることができる学問であり、ものづくりには欠かせない。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方を学ぶ。 |
| 到達目標 | 数学・自然科学系授業科目及び情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につける。 具体的には、物体の運動方程式を組み立て、運動方程式を解き、物体の運動を理解することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | この基礎力学演習は週に2回授業が行われています。講義と演習を交互に行い、集中的に力学に対する理解を深めていく事を目的としています。 |
| 科目学習の効果(資格) | 力学の基礎を身につけ、簡単な構造計算ができるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 力学と自然現象 | 自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。また、物理で使用する単位についても説明する。 | 予習・復習課題1 単位について |
| 2 | 数学的準備(1) | ベクトルの基礎と三角関数について学ぶ。 | 予習・復習課題2 スカラー量とベクトル量 |
| 3 | 数学的準備(2) | ベクトルの取り扱いと三角関数の計算について学ぶ。 | 予習・復習課題3 三角関数の計算 |
| 4 | 数学的準備(3) | ベクトルの合成・分解と簡単な微分積分について学ぶ。 | 予習・復習課題4 ベクトル量の和と差 |
| 5 | 重力と重心 | 重力・重心について学ぶ。 | 予習・復習課題5 質量と重量の違い |
| 6 | さまざまな力と力のモーメント(1) | 垂直抗力・回転の力について学ぶ。 | 予習・復習課題6 ベクトル量としての力 |
| 7 | さまざまな力と力のモーメント(2) | 摩擦力・力のモーメントについて学ぶ。 | 予習・復習課題7 ベクトル量としての力のモーメント |
| 8 | 力・力のモーメントのつり合い(1) | 力・力のモーメントのつり合い式について学ぶ。 | 予習・復習課題8 つり合いの条件を求める (物体が移動しないための条件) |
| 9 | 力・力のモーメントのつり合い(2) | 力・力のモーメントのつり合い式の解法を学ぶ。 | 予習・復習課題9 つり合いの条件を求める。 (物体が回転しないための条件) |
| 10 | 位置・速度・加速度と角度・角速度 | 位置・速度・加速度と角度・角速度について学ぶ。 | 予習・復習課題10 位置の時間変化と角度の時間変化 |
| 11 | 運動の3法則と円運動 | 慣性の法則・ニュートンの運動方程式および円運動について学ぶ。 | 予習・復習課題11 運動方程式を導く1 |
| 12 | 運動の3法則と単振動 | ニュートンの運動方程式と単振動について学ぶ。 | 予習・復習課題12 運動方程式を導く2 |
| 13 | エネルギー | 仕事とエネルギーについて学ぶ。 | 予習・復習課題13 エネルギーがスカラー量であることを理解する |
| 14 | 運動量・力積・衝突 | 力積・運動量と衝突について学ぶ。 | 予習・復習課題14 運動量がベクトル量であることを理解する。 |
| 15 | まとめ | 1?14回目までの力学の内容について理解を深めるために、復讐を行う。 | 課題(まとめ) |

| | |
|------|-----------------------------|
| 関連科目 | 微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ, 物理学基礎演習, 物理学実験 |
|------|-----------------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------|-----------|------|
| | 1 | やさしい基礎物理 | 潮秀樹, 上村洗著 | 森北出版 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 本講義の期末テスト(60%)と演習問題の解答・取り組みに関する授業態度(40%)の割合で評価する。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、1つ1つみなさんが体験している現象の原因を突き止めてみましょう。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 1号館2階 物性物理研究室 (東谷) 8号館2階 物理準備室 (入澤) |
|----------|--|

| | |
|----|--|
| 備考 | 教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み、復習を行うこと。加えて、理解出来なかった点を確認し、次の授業にて質問すること。さらに、0.5時間以上、次回の講義の予習を行うこと。 演習問題は、適宜講義中に解説する。? |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------|
| 科目名 | 居住安全計画 | 科目名(英文) | Planning for Safe Living |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 宮野 道雄 |
| ディプロマポリシー(DP) | C◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2029a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 建築設計や生活の質を考える場合、快適性・利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では、地震などの自然災害のみならず火災などの日常災害も対象として、そのメカニズムと防災・安全対策について講じ、建築や地域の設計・計画に応用させることを目的とする。 |
| 到達目標 | 災害や事故のメカニズムを理解し、被害の実態を学んだ上でそれへの対策を考える力をつける。 |
| 授業方法と留意点 | 各種の災害について、その発生メカニズムと被害の実態および対策について解説する。資料を配付したり、写真や映像を用いてわかりやすく説明する。疑問点については積極的に質問すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 地域・都市計画や設計の演習において、防災・安全の視点を取り入れて取り組むことが可能となる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------|----------------------|---------------------------------------|
| | | | |
| 1 | 概論 | 講義の進め方、学習の意義について述べる。 | 災害のメカニズムについて事前に調べ、受講後に各自でまとめる。 |
| 2 | 地震災害1) | 地震のメカニズム、地盤と震害 | 地震のメカニズムについて事前に調べ、受講後に各自でまとめる。 |
| 3 | 地震災害2) | 耐震・免震・制震、地震応答計算 | 振動被害について事前に調べ、受講後に防災対策をまとめる。 |
| 4 | 地震災害3) | 地震火災、津波、避難行動 | 地震時の避難について事前に調べ、受講後にまとめる。 |
| 5 | 地震災害4) | 人的被害、生活安全計画 | 地震による人間被害について事前に調べ、受講後にまとめる。 レポート1 |
| 6 | 台風災害 | 高潮、風害、耐風構造 | 台風のメカニズムについて事前に調べ、受講後にまとめる。 |
| 7 | 洪水災害 | 地域開発と水害、都市の水害、集中豪雨 | 洪水災害について事前に調べ、受講後にその変遷についてまとめる。 |
| 8 | 崩壊災害 | 斜面崩壊と住宅被害、宅地造成 | 崩壊災害の種類について事前に調べ、受講後にまとめる。 |
| 9 | 雪氷災害 | 屋根雪処理、除排雪システム | 降雪のメカニズムについて事前に調べ、受講後にまとめる。 レポート2 |
| 10 | 平常時火災1) | 出火・延焼、住宅火災、防火 | 火災の実態について事前に調べ、受講後に地震火災との差違についてまとめる。 |
| 11 | 平常時火災2) | 延焼遮断、避難計画、福祉施設の防火対策 | 防災対策について事前に調べ、受講後にまとめる。 |
| 12 | 日常生活事故1) | 日常災害、建築災害、人口動態統計 | 日常災害について事前に調べ、受講後に分類を行う。 |
| 13 | 日常生活事故2) | 住宅内事故、安全対策 | 住宅の安全について事前・事後に整理を行う。 レポート3 |
| 14 | 日常生活事故3) | 高齢者・障害者対応住宅のあり方 | バリアフリーについて事前に調べ、受講後に考えをまとめる。 |
| 15 | 犯罪 | 住まい及び居住地の防犯計画 | 防犯の意味について事前に調べ、受講後に考えをまとめる。 |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 設計演習 |
|------|------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 期末試験において、各種災害のメカニズムや被害および防災・安全対策について正しい理解がなされているかを評価する。なお、評価のウエイトは期末試験70%、授業期間中に課すレポート課題30%とする。 |
| 学生へのメッセージ | 積極的に質問すること |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師控室 |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------|
| 科目名 | 近代デザイン史 | 科目名(英文) | History of Modern Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西影 めぐみ |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2049a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 近代デザインの展開を様々な観点から捉え、実体的に理解する。 |
| 到達目標 | 近代デザインの歴史について、教師や友人と十分語り合えるようになる。現代デザインについての主体的な興味を育む。 |
| 授業方法と留意点 | 関連作品の静止画や動画の資料を活用しつつ、講義形式による授業を行う。近代デザインに関する本を読み、基礎知識を備えて授業に臨むこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 近代デザインの歴史を実際の作品や運動を通じて理解し、実践にも役立つ知識と思考力を養う。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|---|---------------------------------------|
| | | | |
| 1 | ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動 | 近代デザインの源流であるウィリアム・モリスの作品とその活動について概説する。 | 参考書『ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ』に目を通しておく。 |
| 2 | アール・ヌーヴォー | 19世紀末から20世紀初頭にかけて流行した曲線美を特徴とする装飾スタイル、アール・ヌーヴォーについて概説する。 | アール・ヌーヴォーについて参考書・関連図書などで予習しておく。 |
| 3 | バウハウス | 新たな造形学校として創設されたバウハウスについて、その教育や活動が20世紀美術にいかに関与したかを考察する。 | バウハウスについて参考書・関連図書などで予習しておく。 |
| 4 | アール・デコ | 機能主義・合理主義が台頭した時代に装飾的で感覚的な特徴を持ったアール・デコ様式について、ファッション分野での発展もまじえて論じる。 | アール・デコについて参考書・関連図書などで予習しておく。 |
| 5 | デ・ステイル | ピエト・モンドリアンの新造形主義を中心に、その影響を受けた建築家やデザイナーに関しても言及する。 | デ・ステイルについて関連図書などで予習しておく。 |
| 6 | イタリア未来派 | 都市と機械の時代に反応し、幅広い芸術分野で革新的な運動を展開したイタリア未来派の新たなデザイン感覚やその影響について論じる。 | イタリア未来派について関連図書などで予習しておく。 |
| 7 | イタリアのモダンデザイン | ジオ・ポンティを中心に、イタリアのモダンデザインについて他国のモダンデザインと比較しながら概説する。 | 世界各地のモダンデザインについて調べておく。 |
| 8 | カルロ・スカルパ | カルロ・スカルパの建築やデザインについて映像を用いながら説明する。 | カルロ・スカルパの作品について調べておく。 |
| 9 | アルド・ロッシ I | 建築家とドローイングの関係性について、アルド・ロッシの作品を例に考察する。 | 建築家のドローイングについて調べておく。 |
| 10 | アルド・ロッシ II | 建築家とデザインの関係性について、アルド・ロッシの作品を例に考察する。 | 関心のある建築家を一人選び、そのデザイナーとしての仕事について調べておく。 |
| 11 | ポスト・モダニズム | メンフィス、エッソーレ・ソットサス、ミケーレ・デ・ルッキを中心にポスト・モダニズムの時代のデザインについて概説する。 | ポスト・モダニズムについて参考書や関連図書などで予習しておく。 |
| 12 | ミラノ・トリエンナーレデザインの展覧会 | ミラノ・トリエンナーレから現代にいたるまでのデザインの展覧会について概説する。 | 現在どのようなデザインの展覧会が開催されているか調べておく。 |
| 13 | 現代建築 | イタリアの都市に建設されたレンツォ・ピアノやザハ・ハジドの建築を例に、都市における現代建築の意義について考察する。 | 現代建築について関連図書などで予習しておく。 |
| 14 | 現代デザイン | 「デザイン」という言葉が現在いかに多くの分野で用いられているかを紹介し、21世紀のデザインについて考える。 | 環境デザイン、フード・デザインなど、様々な「デザイン」について調べておく。 |
| 15 | まとめ | 1～14の講義の復習を行う。 | 本授業全体をどの程度理解できたか、テスト等によって確認する。 |

関連科目 各建築史、インテリアデザイン論、インテリアデザイン演習

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------------------|-----------|----------|
| | 1 | ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ | 藤田治彦 | 東京美術 |
| | 2 | 世界デザイン史 | 阿部公正 (監修) | 美術出版社 |
| | 3 | デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ | 高島直之 (監修) | フィルムアート社 |

評価方法(基準) 授業毎の小テスト(60%)、最終レポート(40%)で総合評価する。

学生へのメッセージ 生活・環境・産業といった様々な側面で、デザインは私たちの生活の重要な部分を形づくっている。そのようなデザイン思想と実践の歴史に興味のある学生を歓迎します。

担当者の研究室等 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室

備考 講義の予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 空間情報演習 | 科目名(英文) | Exercises in Spatial Information |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期後半 | 授業担当者 | 榑 愛, 坂本 淳二 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3067a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 地理情報システム(GIS)を用いて、建物やまちに関わる空間情報表現・分析に関する演習を行う。私達のまわりにあふれている空間情報を適切に収集し、分析・表現することで、より安全・安心して、快適に暮らせる住環境デザインのでがかりを発見することを目的とする。 |
| 到達目標 | GISの基礎を理解し、住環境デザイン分野における分析手法を修得・活用できる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|---------------------|---|--------------------|---------------------------|
| | | | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | GISの基礎 | GISの歴史、しくみ、事例の紹介、基本操作 | 事前学習: GISの利用事例を探す | 事後学習: GISを使った研究事例を調べる |
| 2 | 空間情報の収集とベスマップの作成(1) | 寝屋川市の住宅地図を用いた表示操作・建物情報の閲覧・建物の検索・建物の分布特性に関する考察 | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 3 | 空間情報の収集とベスマップの作成(2) | 寝屋川市の統計データの読み込み、考察 | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 4 | 空間情報の収集とベスマップの作成(3) | 寝屋川市における生活利便施設の分布の把握、考察 | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 5 | 空間情報の収集とベスマップの作成(4) | 寝屋川市における生活利便施設の分布の立地分析 | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 6 | フィールドワーク(1) | フィールドワーク事前学習 | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 7 | フィールドワーク(2) | フィールドワーク前半 | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 8 | フィールドワーク(3) | フィールドワーク後半 | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 9 | GISプロジェクト(1) | GISを用いて取り組みたい研究テーマを探し、研究計画をたてる | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 10 | GISプロジェクト(2) | 対象地域のベスマップを収集する | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 11 | GISプロジェクト(3) | 対象地域の空間情報を収集する | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 12 | GISプロジェクト(4) | 収集した空間情報をGISに入力する | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 13 | GISプロジェクト(5) | GISに入力したデータをもとに主題図を作成し、考察する | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 14 | GISプロジェクト(6) | プレゼンテーション資料を作成する | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |
| 15 | まとめ・発表 | レポート発表・講評会 | 事前学習: 前回の授業内容を復習する | 事後学習: 授業内容に関連する身の回りの事例を探す |

| | |
|------|----------------------------|
| 関連科目 | 住生活演習、地域・都市計画学、空間表現演習、卒業研究 |
|------|----------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | |
|----------|-----------------------------|
| 評価方法(基準) | 演習への取り組み(20%)、課題(80%)で評価する。 |
|----------|-----------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | |
|-----------|--|

| | |
|----------|------------------------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 榑准教授室 |
|----------|------------------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 住生活演習で取り組む課題と関連したテーマを扱うため、住生活演習とともに履修することが望ましい。事前事後学習は毎回概ね1時間程度することが望まれる。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 空間表現演習 A | 科目名 (英文) | Exercises in Spatial Presentation A |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 榑 愛, 風戸 拓大, 牧尾 晴喜, 松本 崇 |
| ディプロマポリシー (DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1054a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 2 次元 CAD・3 次元 CAD の基本操作を学習し、建物の図面・パースを作成する演習を行う。コンピュータを用いた空間表現に関する基礎的な技術を修得することを目的とする。 |
| 到達目標 | 自分が思い描く建築空間を、コンピュータを用いて的確に表現できるようになることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | CAD 利用技術者試験、CG エンジニアリング検定など。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション、3 DCAD の基礎 | 授業内容、進め方、評価基準に関する説明、CAD の概要、3D モデリング基本操作 | 事前学習：CAD について調べる 事後学習：CAD が使われている身近な事例について調べる |
| 2 | 3 DCAD を用いた家具の作成 | 三面図をもとに身近な家具の 3D モデルを作成する? | 事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：身近な家具を作成する |
| 3 | 3 DCAD を用いた住宅パース作成 | 平面図、断面図をもとに、小さな住宅の 3D モデルを作成し、パースを描く | 事前学習：各パーツの統合方法を考えておく 事後学習：これまでの内容を復習し、確実に修得する |
| 4 | 2DCAD の基礎 1 | 2DCAD の概要、基本操作、基本設定、基本コマンド (作成) | 事前学習：2DCAD について調べる 事後学習：2DCAD と 3DCAD との違いを理解する |
| 5 | 2DCAD の基礎 2 | 基本コマンド (修正、文字記入、寸法記入) | 事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：作成、修正コマンドを中心に復習し、確実に修得する |
| 6 | 2DCAD の基礎 3 | 基本コマンド (スタイル設定、ハッチング、ラスター、ブロック、印刷、保存など) | 事前学習：前回の内容を復習する 事後学習：これまでの内容を復習し、確実に修得する |
| 7 | CAD による製図基礎 1 | 簡単な立体図形の図面作成 | 事前学習：図面の表記ルールを復習する 事後学習：身の回りの立体物の平面図、断面図をスケッチする |
| 8 | CAD による製図基礎 2 | 家具の図面作成 | 事前学習：図面の表記ルールを復習する 事後学習：愛着のある家具の平面図、断面図をスケッチする |
| 9 | CAD による製図基礎 3 | 建物の図面作成 | 事前学習：図面の表記ルールを復習する 事後学習：自宅の平面図、断面図をスケッチする |
| 10 | CAD による図面模写 1 | 住宅建築 模写する住宅建築の説明、平面図の模写 | 事前学習：平面図の書き方を復習する 事後学習：図面をよく見て空間構成を把握する |
| 11 | CAD による図面模写 2 | 住宅建築 断面図や立面図の模写 | 事前学習：断面図の書き方を復習する 事後学習：図面をよく見て空間構成を把握する |
| 12 | CAD による図面模写 3 | 住宅建築 プレゼンテーション基礎 (レイアウトや画像の配置) | 事前学習：これまでの内容を復習する 事後学習：図面の表記ルール、CAD の基本操作を復習し、修得する |
| 13 | CAD による設計課題 1 | カフェ 躯体部分の平面図、断面図模写 | 事前学習：カフェのタイトル、コンセプトを決めて、下書き図面を完成させる 事後学習：身の回りにおける家具の大きさを測り、寸法を確認する |
| 14 | CAD による設計課題 2 | カフェ 設計部分の平面図、断面図作成 | 事前学習：平面図、断面図の表記ルールを復習する 事後学習：平面図、断面図を完成させる |
| 15 | CAD による設計課題 3 | カフェ プレゼンテーション | 事前学習：コンセプトを表現するプレゼンテーション方法を考える 事後学習：プレゼンテーション図面を完成させる |

| | |
|------|-----------------------|
| 関連科目 | 図形科学、空間表現演習 B、設計演習など。 |
|------|-----------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 課題で 100% 評価する。 |
| 学生へのメッセージ | より良い作品ができるよう、向上心を持って集中して取り組んでください。 |
| 担当者の研究室等 | 12 号館 7 階 榑准教授室 12 号館 6 階 住環境デザイン学科共通準備室 |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 空間表現演習 B | 科目名 (英文) | Exercises in Spatial Presentation B |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 榎 愛, 鈴木 広隆, 松本 崇, 安福 健祐 |
| ディプロマポリシー (DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2055a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | コンピュータグラフィクス (CG)、画像処理ソフト、ドローイングソフト、GIS (地理情報システム) など、さまざまなソフトを用いて空間表現に関する演習を行う。 コンピュータを用いた空間表現の高度な技術を修得することを目的とする。 |
| 到達目標 | 都市、建築、インテリアなどの空間を、コンピュータを用いて的確に、効果的に表現できるようになることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 空間表現に関わる高度な技術を身につけられる |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--|--|
| | | | |
| 2 | 【課題 A】 建築プレゼンテーションの 基礎 2? | 画像処理、画像合成 | 事前学習: 前回授業内容の操作を身に付けておく 事後学習: 授業で習った操作の意味を理解してお く。各自手持ちの画像を授業と同様に処理してみ る。? |
| 3 | 【課題 A】 建築プレゼンテーションの 基礎 3? | Illustrator の基礎、ダイア グラムの作成、レイアウト | 事前学習: 合成された画像やダイアグラムの事例を 調べておく。 事後学習: 各自設計課題の画像や内容について、合 成やダイアグラムを作成してみる。 |
| 4 | 【課題 B】 GIS による敷地選定 1 | テーマに関するレクチャー、GIS の基本 操作、地図データの読み込み、属性情報 の入力、主題図を用いた属性情報の可視 化? | 事前学習: GIS について調べる 事後学習: GIS の技術が使われている身近な事例を 調べる |
| 5 | 【課題 B】 GIS による敷地選定 2 | 空間解析による敷地選定、敷地図の印 刷? | 事前学習: 前回の内容を復習し、操作を身につけて おく 事後学習: 住環境デザインの分野において GIS を使 った研究事例について調べる |
| 6 | 【課題 B】 GIS・CAD・Photoshop を用いた日影図の作成 | GIS と CAD で作成した 3D モデルを用い た日影図の作成 | 事前学習: Photoshop の操作復習 事後学習: 日時を変更して様々な日影を描く |
| 7 | 【課題 C】 写真合成による建築シミュ レーション 1? | テーマに関連するレクチャー、透視図に 関する復習と CG のカメラ設定比較、実 在の建築物を用いた CG 合成練習 | 事前学習: 前回学習したソフトウェアの操作方法を 習得しておく 事後学習: 透視図のしくみと CG カメラ設定を復習 しておく |
| 8 | 【課題 C】 写真合成による建築シミュ レーション 2 | 写真照合 (3DCG と写真の合成) に関す る演習 | 事前学習: 前回学習したソフトウェアの操作方法を 習得しておく 事後学習: 写真合成に必要な理論と設定について復 習する |
| 9 | 【課題 C】 写真合成による建築シミュ レーション 3 | フォトリアリスティックな 3DCG レンダ リングに関する解説と演習? | 事前学習: 前回学習したソフトウェアの操作方法を 習得しておく 事後学習: フォトリリスティックな 3D-CG のレン ダリング設定について復習する? |
| 10 | 【課題 D】 CG による照明器具デザイン 1 | CG を用いた基本オブジェクトのモデリ ング・レンダリング演習 | 事前学習: 曲面で構成された照明器具を調べる 事後学習: モデリング方法を復習する |
| 11 | 【課題 D】 CG による照明器具デザイン 2 | ライトの色、拡散透過の表現、曲面の幾 何学的分類、逆二乗法則と余弦法則、折 り紙による行灯作り? | 事前学習: 作成する照明器具のデザインを考える 事後学習: ライトの色、拡散透過の表現を復習する? |
| 12 | 【課題 D】 CG による照明器具デザイン 3 | 幾何学的形状のランプシェード(デザイ ンと製作)? | 事前学習: 作成する照明器具のデザインを考える 事後学習: 課題を完成させる? |
| 13 | 【課題 E】 設計課題プレゼンテーショ ン実践 1? | AutoCAD による CAD 図面作成と Illustrator によるレイアウト | 事前学習: AutoCAD の基本機能を復習する 事後学習: CAD 図面を完成させレイアウトする |
| 14 | 【課題 E】 設計課題プレゼンテーショ ン実践 1.2 | Photoshop を用いた画像処理 (フォトレ タッチ) とパース作成 Illustrator を用いたダイアグラム作成 | 事前学習: Photoshop の基本機能を復習する 事後学習: パースを完成させる |
| 15 | 【課題 E】 設計課題プレゼンテーショ ン実践 3 | Illustrator を用いたプレゼンテーショ ン | 事前学習: Illustrator の基本機能を復習する 事後学習: プレゼンテーションを完成させる |

関連科目 図形科学、空間表現演習 A、設計演習など。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|---|-----------------|---------|
| | 1 | 図解 建築プレゼンのグラフィックデザイン | 坂牛卓, 平瀬有人, 中野豪雄 | 鹿島出版会 |
| | 2 | 建築とインテリアのための Photoshop+Illustrator テクニック | 長嶋 竜一 | エクスマレッジ |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題を100%で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | より良い作品ができるよう、向上心を持って取り組んでください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 12号館 7階 榊准教授室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室 | | | |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---|
| 科目名 | 建築一般構造学 | 科目名(英文) | Introduction to Architectural Structure Methods |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 北本 裕之 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2041a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>建築構造・施工の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力を身に付ける。</p> <p>1. 建築構造の分類別特性の理解：どのような条件で特定の構造種別を採用すべきかの基本理解。</p> <p>2. 建築物の躯体構造から仕上げまでの全体構成に関する仕組みの理解</p> <p>3. 構造の合理性と形態美の各事例を知る</p> <p>4. 構造の発達史を住環境材料学Ⅰ、Ⅱと共に総合的に考える 以上が授業の概要・目的である。</p> |
| 到達目標 | <p>建築構造・施工の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力を身に付ける</p> <p>① 木造・鉄骨造手・RC造等各構法の特性が理解できる</p> <p>② 課題を通じて、各構法の基本図面が理解できる</p> |
| 授業方法と留意点 | PPTスライドやビジュアル資料、実際に手を動かして構造体を考える課題等による授業方法。 |
| 科目学習の効果(資格) | 1級建築士、2級建築士、インテリアデザイナー、施工監理士等の一般的な構造学知識 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|---|
| | | | |
| 1 | 第一章前半：建築構造と構法：成り立ち、歴史的発達、様々な分類方法の違い、役割等 | 建築構造とはそもそも何でしょう。建築構法とは？材料＋工法の関係は？時を経て「材料の特徴・特性」と「材料を組立するための考え方と具体的手法」の相互関係が洗練され、定着してきました。これら一連の関係を理解することで今住んでいる建物から街中の建設中の建物などがより身近に感じられることを第一回目では目標とします。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。(必ず予備知識を必要とされる機会に受講中遭遇します。)事後：課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。 【課題1】 |
| 2 | 第一章後半：建築構造の基本的な考え方 | 本講師開発の構造教材を利用して構造の基本的な捉え方を手を使って感覚的に学んでいきます。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題2】 |
| 3 | 第二章 木構造(1)：木構造の特徴、形式と木材の性質 | 日本古来の建造物の多くは木構造の発達とともに進化してきました。木の特性、ポテンシャルを活かすための知恵と工夫が盛り込まれた木構造を紐解いていきます。まずは、木材を代表する樹種の違いを見極められるでしょうか。そしてそれらの構造特性を引き出すためにどのように木を木材に加工してきたのでしょうか。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題3】 |
| 4 | 第二章 木構造(2)：木構造の特徴、形式その1 | 規格(JAS等)のほか、軸組木構造(在来木造軸組み構法、木造伝統構法)について解説します。基礎についても考えていきます。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出。 【課題4】 |
| 5 | 第二章 木構造(3)：木構造の特徴、形式その2 | 前回に引き続き木構造の特徴を見ていきます。枠組み壁構造(2x4)、丸太組構造(ログハウス)について説明します。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出。 【課題5】 |
| 6 | 第二章 木構造(4)：木構造の特徴、形式その2 | 前回に引き続きヘビーティンバー(集成材、GLT)構造、木造大スパン構造等について説明します。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題6】 |
| 7 | 第二章 木構造(5)：階段・開口部・外部および内部仕上げ | 主要構造以外の部位、仕上げについて学んでいきます。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題7】 |
| 8 | 第三章 鉄筋コンクリート構造(1)：構造の特徴と構造形式 | まずコンクリートと鉄筋の特性について説明します。コンクリート構造の必要性はなぜ生まれたのか学びながらその活用法を学んでいきます。歴史的な背景、建造物とともに説明します。鉄筋の種類と役割についても説明します。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題8】 |
| 9 | 第三章 鉄筋コンクリート構造(2)：基礎、主体構造 | 地盤と基礎の形式について考えていきます。主体構造や配筋について更に詳しく解説します。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題9】 |
| 10 | 第三章 鉄筋コンクリート構造(3)：主体構造以外の部位・仕上げ | 陸屋根の防水工法と外壁仕上げ等について説明します。美しいコンクリートの外壁はどのように施工できるのでしょうか。またコンクリートに防水効果はあるのでしょうか。具体的に見ていきます。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題10】 |
| 11 | 第四章 鉄・鋼構造(1)：構造の特徴と構造形式 | 鑄鉄・鍛鉄・鋼とは？炭素量による性質の違い、物理的性質、構造の特徴、構造 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題 |

| | | | 形式を歴史的な背景、建造物とともに説明します。そして構造材としてどのように鉄や鋼を捉えて現代の建造物に取り入れるべきかを理解していきます。 | に 30 分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題 1 1】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|------------------------------------|---|--|----|-----|-----|------|---|--------|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 12 | 第四章 鉄・鋼構造 (2): 鋼材の接合、骨組み (その 1)・仕上 | 鋼材の特性と鉄骨の接合方法について説明します。また、外部・内部仕上げ、開口部の取り付け方等についても説明します。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後: 出題課題に 30 分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題 1 2】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 第四章 鉄・鋼構造 (3): 基礎と骨組み (その 2) | 基礎はどのように考えるべきでしょうか。今まで学んできた構造種別との比較でも考えていきます。また骨組の特徴、構成や部位について更に深く学んでいきます。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後: 出題課題に 30 分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題 1 3】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 第四章 鉄・鋼構造 (4): その他の構造・構法 | 軽量鉄骨系プレハブ、鉄骨鉄筋構造、鋼管構造、鉄骨平面および鉄骨立体トラス構造 (スペースフレーム)、吊り構造 (ケーブル) など。鋼構造の可能性を考えていきます。 | 指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後: 出題課題に 30 分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに最終課題提出のこと。【最終課題】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 最終課題提出と最終講義: これからの建築構造 | これまでの授業のまとめを行いながら、これからの建築構造について考えていきます。 | 最終課題提出のこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 構造力学 1、構造力学 2. 構造デザイン概論等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築構造概論</td> <td>桑村 仁</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 建築構造概論 | 桑村 仁 | 実教出版 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 建築構造概論 | 桑村 仁 | 実教出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業中に出題するミニ課題 (図面模写・レポート等) 40%及び期末テスト 60%で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 構造が苦手という学生諸君は多いと思います。教科書の丸覚えでなく、構造的センスが自然と身に付く講義にしたいと考えています。こちらからのお願いはとにかく集中して講義に耳と頭を向けてください。ノートに講義内容を漏れなく書き留める癖をつけてください。そうしている内に見えてくるものがあります。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。ただ、まずは解らない部分は本を変えて (図書館を積極利用) 該当部分を読み比べてみてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 12 号館 7 階 岩田教授室 (北本の在室は不定期) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 質問、疑問があればどどん講師室を訪ねて投げかけてください。一緒に考えましょう。講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------|
| 科目名 | 建築空間論 | 科目名(英文) | Theory of Architectural Space |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 久富 敏明 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1053a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 住環境の形成が深く生活文化に根ざしたものであり、建築設計が身体スケールに対する理解を元に、家具デザイン、インテリアデザインからまちづくり、都市計画、ランドスケープデザインにいたる総合的な創作活動であることを理解する。 |
| 到達目標 | 建築入門講座として、専門用語を習得する。住環境デザインに関連する知識を元に、応用する能力と設計能力を習得する。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせ適宜理解度のチェックを行う。授業方法はプロジェクター、板書を利用する。教科書、配布プリントは必ず持参すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 1級建築士、2級建築士、木造建築士の資格試験に関連する内容 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|---------------------------------|
| 1 | イントロダクション 自然発生的建築から学ぶもの生活環境形成としての建築的思考 | 講義の進め方、環境と設計から見るデザインの考え方、他 | 教科書 P.1 から P.8 を読み、要点を理解する。 |
| 2 | 自然発生的建築の多様性 生活文化が生み出す住環境デザイン I | 精神世界の投影、風土と住形式の不確定性、シンボルの多義性、防御と結束の表明、風と対話する家型、他 | 教科書 P.1 から P.28 を読み、要点を理解する。 |
| 3 | 自然発生的建築の多義性 生活文化が生み出す住環境デザイン II | 集落の歴史的持続性、集住の特異性、形式の持続性、地中の家の原初的形態倉に貯蔵される記憶 | 教科書 P.1 から P.28 を読み、要点を理解する。 |
| 4 | 空間の構成要素 素材の解説 I | 近代建築のつくり方 鉄・ガラス・コンクリート | 教科書 P.29 から P.48 を読み、要点を理解する。 |
| 5 | 空間の構成要素 素材の解説 II | 空間の構成要素 皮膜・インテリア・家具 | 教科書 P.29 から P.48 を読み、要点を理解する。 |
| 6 | 日本の歴史的木造建築空間概説 I | 時間軸から見た素材、構法 | 教科書 P.49 から P.68 を読み、要点を理解する。 |
| 7 | 日本の歴史的木造建築空間概説 II | 日本の伝統的建築物に見られる空間性 | 教科書 P.49 から P.68 を読み、要点を理解する。 |
| 8 | 空間と架構デザイン I | 重力・水平力について | 教科書 P.69 から P.88 を読み、要点を理解する。 |
| 9 | 空間と架構デザイン II | 空間の閉じ方と開き方 | 教科書 P.69 から P.88 を読み、要点を理解する。 |
| 10 | ランドスケープデザイン I | 庭園・広場・都市景観デザインの変遷 | 教科書 P.89 から P.108 を読み、要点を理解する。 |
| 11 | ランドスケープデザイン II | 住まいをまちに開く作法・ランドスケープと空間の関係性 | 教科書 P.89 から P.108 を読み、要点を理解する。 |
| 12 | 発想への技法 I | フロッタージュ・引用・幾何学立体 | 教科書 P.109 から P.125 を読み、要点を理解する。 |
| 13 | 発想への技法 II | 構法のジオメトリー・プログラム・コンセプト | 教科書 P.109 から P.125 を読み、要点を理解する。 |
| 14 | 発想への技法 III | 言葉と建築・観察・トランスフォーメーション | 教科書 P.109 から P.125 を読み、要点を理解する。 |
| 15 | まとめ | 科目内容全体の総括 | 教科書全ページを読み、要点を理解する。 |

| | |
|------|-------------------|
| 関連科目 | 設計演習(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)、建築計画学 |
|------|-------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|------|---------------------------|-------|
| 1 | 建築概論 | 本多友常、安原盛彦、大氏正嗣、佐々木葉二、柏木浩一 | 学芸出版社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 講義時間内に行なう修得理解度テスト(計5回)100%。日時は事前告知せず、授業テーマの区切りに合わせ授業の一環として実施し解説する。なお期末試験は実施しない。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 本講義で習得した知識を設計演習科目に関連させること。授業開始後10分以降の入室は欠席とみなす。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 久富教授室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。予習復習は配布資料、教科書の通読、関連図書の検索も含め約1時間30分間程度とする。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------------|
| 科目名 | 建築計画学 | 科目名(英文) | Architectural Planning |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 久富 敏明 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2047a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 建築計画の基礎的な知識と応用力の修得を目的とする。建築設計製図演習と本科目の講義内容を関連付けることが出来るように授業を進行する。建築計画および設計についての知識と技能と合わせて住環境デザインの考え方を修得する。 |
| 到達目標 | 建築計画の基本的知識として単位空間を理解し、専門用語を習得する。その上で、教育施設、図書館、美術館、劇場など主要なビルディングタイプに関する建築計画と設計について理解し、問題解決への応用力を習得する。併せて現代社会の要求とそれを解決する手法をも習得する。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせ適宜理解度のチェックを行う。授業方法はプロジェクター、板書を利用する。教科書、配布プリントは必ず持参すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 1級建築士、2級建築士、木造建築士の資格試験に関連する内容 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|----------------------------------|-----------------------------|
| | | | |
| 1 | 建築計画の基本Ⅰ | 講義全体の概説、建築計画の基礎知識 | 教科書P.7からP.14を読み、要点を理解する。 |
| 2 | 建築計画の基本Ⅱ | 建築の各部および単位空間の計画 | 教科書P.15からP.22を読み、要点を理解する。 |
| 3 | 各種建築物の計画Ⅰ | 小学校の計画 | 教科書P.47からP.58を読み、要点を理解する。 |
| 4 | 各種建築物の計画Ⅱ | 幼稚園・保育所の計画 | 教科書P.59からP.66を読み、要点を理解する。 |
| 5 | 各種建築物の計画Ⅲ | 図書館の計画 | 教科書P.67からP.76を読み、要点を理解する。 |
| 6 | 各種建築物の計画Ⅳ | 美術館の計画 | 教科書P.77からP.84を読み、要点を理解する。 |
| 7 | 各種建築物の計画Ⅴ | 劇場の計画 | 教科書P.85からP.94を読み、要点を理解する。 |
| 8 | 各種建築物の計画Ⅵ | 事務所の計画 | 教科書P.95からP.102を読み、要点を理解する。 |
| 9 | 各種建築物の計画Ⅶ | ホテルの計画 | 教科書P.103からP.110を読み、要点を理解する。 |
| 10 | 各種建築物の計画Ⅷ | 病院・診療所の計画 | 教科書P.111からP.118を読み、要点を理解する。 |
| 11 | 各種建築物の計画Ⅸ | 商業建築の計画 | 教科書P.119からP.126を読み、要点を理解する。 |
| 12 | 各種建築物の計画Ⅹ | その他、各種建築物(コミュニティ施設、駐車駐輪施設、など)の計画 | 教科書P.127からP.138を読み、要点を理解する。 |
| 13 | 人と地球にやさしい建築計画Ⅰ | 高齢者・障害者に配慮した建築計画 | 教科書P.139からP.150を読み、要点を理解する。 |
| 14 | 人と地球にやさしい建築計画Ⅱ | 地球環境に配慮した建築計画 | 教科書P.151からP.160を読み、要点を理解する。 |
| 15 | 人と地球にやさしい建築計画Ⅲ | 建築計画の今後(複合建築、災害復興、など) | 教科書P.161からP.168を読み、要点を理解する。 |

関連科目 設計演習(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)、住居計画学、建築空間論

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------|-----|-------|
| 1 | 図説 やさしい建築計画 | 深水浩 | 学芸出版社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------------|--------|------|
| 1 | 第3版 コンパクト建築設計資料集成 | 日本建築学会 | 丸善 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 講義時間内に行なう修得理解度テスト(計5回)100%。日時は事前告知せず、授業テーマの区切りに合わせ授業の一環として実施し解説する。なお期末試験は実施しない。 |
| 学生へのメッセージ | 本講義で習得した知識を設計演習科目に関連させること。授業開始後10分以降の入室は欠席とみなす。 |
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 久富教授室 |
| 備考 | 授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。予習復習は配布資料、教科書の通読、関連図書の検索も含め約1時間30分間程度とする。 |

| | | | |
|---------------|------|---------|---------------|
| 科目名 | 建築法規 | 科目名(英文) | Building Code |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 澤田 範夫 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>人が安全に住める住宅、人々が集まって安心して暮らせるまち、そのためにはルールが必要です。そのルールとして、法律はどのような役割をもっているのでしょうか。</p> <p>世の中の出来事、身の回りの街の風景の中に、それを学習していきましょう。</p> <p>私は、長年の行政経験とその後の民間確認検査機関において、住宅やまちづくりの現場に接してきています。学生の皆さんに、常に今、現場で何が起きているかを伝えながら、一緒に法律の必要性を考えます。</p> <p>建築法規は何のために存在し、現状はどうなっているのか。</p> <p>住環境デザインに必要な不可欠な建築法規の基本を学び、将来の建築士資格取得の基礎をつくります。</p> |
| 到達目標 | <p>学生の皆さんが、建築基準法を中心に建築士法、都市計画法及びその他関連法規の要点を理解するとともに、法律の目的、読み方を習得し、住環境デザインと法令の関わりを意識できるようになることを目標にします。</p> <p>特に建築士受検科目であることに留意して、法律と施行令との関係など実践的な理解を深め、今後の建築士受検に際して、建築法規の勉強にスムーズな取組める能力を養います。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>まず、現場の実態について解説し、法令集により建築基準法のポイントを講義します。</p> <p>そして、参考を使い、よりわかりやすく解説し、例題で確認します。</p> <p>授業の最後には、必要に応じ知識の定着のため小テストを行い、その回答を解説します。</p> <p>予習は必要ありません。授業の内容をしっかりと理解し、定着させていきましょう。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | 建築法規は「建築士」の受験には欠かすことが出来ない科目です。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 授業の進め方 建築基準法の概要 | 自己紹介し、授業の進め方について説明する。 建築法規の導入の歴史を概観し、建築基準法の概要を解説する。 | 住環境デザインにおいて建築法規は必須の教養です。 身の回りの事象について、法律でどのように規制されているのか、できているのか考えてみましょう。 |
| 2 | 法文の構成 用語の定義 建築士法 | 法文の構成や法令用語について解説する。 併せて、建築の資格法である建築士法について確認する。 | 法律と施行令の関係、基礎的な用語の定義、法律の構成を復習しましょう。 早く条文を探せるように、法律の目次構成を確認してください。 |
| 3 | 建築基準法 集団規定 1 (建築物と道路) | 集団規定のうち、建築物と道路の関係について解説する。 併せて、建築物の定義について確認する。 | 建築基準法で出来た道路について、自分の住む地域の道路で確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。 |
| 4 | 建築基準法 集団規定 2 (用途地域と都市計画制限) | 集団規定のうち、用途地域と都市計画制限について解説する。 併せて、都市計画法の手続等について確認する。 | 身の回りであなただけが好きな住宅地を探し、行政のホームページで都市計画情報を確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。 |
| 5 | 建築基準法 集団規定 3 (建蔽率と容積率) | 集団規定のうち、建蔽率と容積率について解説する。 併せて、都市計画法の手続等について確認する。 | 自分が住む家の建蔽率と容積率を計算してみましょう。 授業で紹介された事例をヒントに、身の回りで気が付いたことがあれば写真とコメントでレポートしてください。 |
| 6 | 建築基準法 集団規定 4 (高さ制限、日影規制等) | 集団規定のうち、絶対高や斜線制限について解説する。 併せて、建築物の高さの定義について確認する。 | 自分が住むまちのマンションの高さ制限について計算してみましょう。 身の回りで気が付いた事例があれば、写真とコメントでレポートしてください。 |
| 7 | 建築基準法 集団規定 5 (敷地面積、壁面の位置) | 集団規定のうち、敷地面積や壁面の位置等について解説する。 併せて、地区計画や建築協定について確認する。 | 自分の家の敷地面積や壁面の位置について調べてみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。 |
| 8 | 建築基準法 集団規定のおさらい 中間テスト | 集団規定について補足し、前半7回の授業を再確認する。 併せて、中間テストを行う。 | 建築士試験と同様、法令集は持ち込み可能です。 テストで間違ったところは、解答で必ず復習してください。 |
| 9 | 建築基準法 単体規定 1 (採光、換気、天井高等) | 単体規定のうち、採光、換気等について解説する。 併せて、長屋・マンションの遮音について確認する。 | 自分の家の居室の採光、換気について確認してみましょう。 身の回りで気が付いた事例があれば、写真・コメントでレポートしてください。 |
| 10 | 建築基準法 単体規定 2 (防火区画、内装制限等) | 単体規定のうち、防火規定、内装制限等について解説する。 併せて、防火地域、準防火地域の制限について確認する。 | マンションや大学等の特殊建築物について、防火区画等を確認してみましょう。 授業で紹介された事案等で、類似事例をみつけたら、写真とコメントでレポートしてください。 |
| 11 | 建築基準法 単体規定 3 (廊下、階段、出入口等) | 単体規定のうち、廊下、階段等の避難規定について解説する。 併せて、排煙や非常用照明について確認する。 | マンションや大学等の廊下、階段、出口などを確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。 |
| 12 | 建築基準法 単体規定 4 (敷地、構造等) | 単体規定のうち、敷地や構造の安全に関する規定を解説する。 併せて、構造の種別に応じた建築士の資格と責任について確認する。 | 参考書第5章(構造強度の規定)にある、問(Q)にチャレンジし、解答の条文を確認しましょう。 気が付いたことがあれば、レポートしてください。 |
| 13 | 建築基準法 その他の規定 (仮設建築物、工作物等) | 仮設建築物や工作物等、建築基準法におけるその他の規定について解説する。 併せて、最近の法改正について確認する。 | 身の回りの建築物について、耐震改修を行っているものを確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。 |
| 14 | 建築基準法 手続き等の規定 | 確認申請や定期報告等、建築基準法の手続規定について解説する。 | 自分の家に確認申請書や検査済証があるか確認してみましょう。 |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|---------|
| | (確認・検査申請、定期報告等) | 併せて、手続に関与する建築士等の資格について確認する。 | 気が付いたことがあれば、レポートしてください。 | |
| 15 | その他関連法 (バリアフリー法、区分所有法、宅建業法等) | 住環境に関するその他の法律について解説する。 併せて、15回の授業のポイントについておさらいする。 | 住宅やマンションのチラシの中に書いてある内容を確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。 | |
| 関連科目 | 建築計画、建築設計など | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 基本建築基準法関係法令集 2019年版 | 建築資料研究社/日建学院 | 建築資料研究社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 図説建築法規 | 小嶋和平 | 学芸出版社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 小テスト10%、中間テスト30%、定期試験50%、レポート10%の割合で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 建築法規は、人々が安全・安心で、快適に暮らしていくための知恵の集大成です。 建築物にまつわる事件に感心を持ち、自分の住む家や近所の建物や街をあらためて観察してみましょう。 授業で学んだ事例を身の回りでみかけたら、写真にコメントをつけて積極的にレポートを送ってください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階 非常勤講師控室 | | | |
| 備考 | 講義に係る予習は不要。授業後は、学習した条文、参考書の部分、小テストを復習する(1.5時間程度) 併せて、授業で紹介された事案について、身の回りで同様の事例がないか観察する。 気が付いたことがあれば、写真にコメントをつけてまとめておくといい。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 工業数学 I | 科目名 (英文) | Applied Mathematics for Engineers I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 小泉 耕蔵 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2006a0 | | |

| 授業概要・目的 | 工学の分野では、法則は微分方程式で定式化され、解は積分で表現される場合が多い。また積分は種々の物理量の計算に用いられる。この講義では、まずはじめにベクトルの内積・外積等について復習及び工学への応用について学習するとともに、幾何学的な感覚を養う。そして、微分に関する話題を復習しながら、速度、加速度、典型的な物理現象に触れる。また、積分については重心・慣性モーメントを中心にその定義の物理的意味と計算技法を学ぶ。このように、物理の言葉が数学にどのように翻訳されるかを学び、数学の計算から物理現象を理解できるのだという、ささやかな経験を積むことを目標とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|------------------------------|---------------|----|-------|---------|-----------|---|-------------------|--------------------------|---------------|---|------------|-------------------------|------|---|-------|---------------|------|---|---------|----------------|------|---|---------|----------------|------|---|--------|-------------|------|---|--------|----------------|------|---|-----------|---------------------|------|---|-----------|------------------------------|------|----|-----------|---------------------------|------|----|----------------|-----------------------|------|----|----------------|-------------------------|------|----|-----------|------------|------|----|-----------|----------------|------|----|------------|--------------------|------|
| 到達目標 | 微積分及び線形代数の主要な計算を実行できる。 専門基礎で用いられる数学的表現が理解できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるもので、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 本講義の内容は、工業数学 II 及び諸々の専門科目の習得に引き継がれる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関数のグラフ</td> <td>・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最大値、最小値の計算</td> <td>・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>関数の積分</td> <td>・種々の関数の積分の計算法</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ベクトル(1)</td> <td>・ベクトルの内積の図形的意味</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ベクトル(2)</td> <td>・ベクトルの外積の図形的意味</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式の計算</td> <td>・種々の行列式の計算法</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式の応用</td> <td>・平行 6 面体の体積の計算</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>一次独立、一次従属</td> <td>・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>速度・加速度(1)</td> <td>・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>速度・加速度(2)</td> <td>・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ベクトルを用いた物理量(1)</td> <td>・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ベクトルを用いた物理量(2)</td> <td>・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>重積分の計算(1)</td> <td>・重積分の逐次積分法</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>重積分の計算(2)</td> <td>・ヤコビ行列を用いた変数変換</td> <td>演習問題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>重心と慣性モーメント</td> <td>・重積分を用いた定義とその物理的意味</td> <td>演習問題</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 関数のグラフ | ・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算 | 演習問題 | 2 | 最大値、最小値の計算 | ・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用 | 演習問題 | 3 | 関数の積分 | ・種々の関数の積分の計算法 | 演習問題 | 4 | ベクトル(1) | ・ベクトルの内積の図形的意味 | 演習問題 | 5 | ベクトル(2) | ・ベクトルの外積の図形的意味 | 演習問題 | 6 | 行列式の計算 | ・種々の行列式の計算法 | 演習問題 | 7 | 行列式の応用 | ・平行 6 面体の体積の計算 | 演習問題 | 8 | 一次独立、一次従属 | ・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定 | 演習問題 | 9 | 速度・加速度(1) | ・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述 | 演習問題 | 10 | 速度・加速度(2) | ・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数 | 演習問題 | 11 | ベクトルを用いた物理量(1) | ・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用 | 演習問題 | 12 | ベクトルを用いた物理量(2) | ・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述 | 演習問題 | 13 | 重積分の計算(1) | ・重積分の逐次積分法 | 演習問題 | 14 | 重積分の計算(2) | ・ヤコビ行列を用いた変数変換 | 演習問題 | 15 | 重心と慣性モーメント | ・重積分を用いた定義とその物理的意味 | 演習問題 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 関数のグラフ | ・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 最大値、最小値の計算 | ・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 関数の積分 | ・種々の関数の積分の計算法 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ベクトル(1) | ・ベクトルの内積の図形的意味 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | ベクトル(2) | ・ベクトルの外積の図形的意味 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 行列式の計算 | ・種々の行列式の計算法 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 行列式の応用 | ・平行 6 面体の体積の計算 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 一次独立、一次従属 | ・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 速度・加速度(1) | ・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 速度・加速度(2) | ・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | ベクトルを用いた物理量(1) | ・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | ベクトルを用いた物理量(2) | ・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 重積分の計算(1) | ・重積分の逐次積分法 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 重積分の計算(2) | ・ヤコビ行列を用いた変数変換 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 重心と慣性モーメント | ・重積分を用いた定義とその物理的意味 | 演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>工業数学の基礎(2017 年度版)</td> <td></td> <td>摂南大学 基礎理工学機構編</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 工業数学の基礎(2017 年度版) | | 摂南大学 基礎理工学機構編 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 工業数学の基礎(2017 年度版) | | 摂南大学 基礎理工学機構編 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 小テストで 30%、習熟度確認テストで 35%、期末テストで 35%判定し評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 3 号館 3 階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 3 号館 3 階 数学研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前事後学習は、毎回 1.5 時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は採点して返却し、適宜講義中に解説する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|--------------------------------------|
| 科目名 | 工業数学 II | 科目名 (英文) | Applied Mathematics for Engineers II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 小泉 耕蔵 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2007a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 工学の分野では微分方程式はもっとも頻繁に使われている数学の1つである。講義の前半は、1階の常微分方程式の解法及び工学・自然現象への応用について学習する。そして講義の後半では2階の定数係数常微分方程式の解法・応用、及び微分方程式の数値的な解法について学習する。 |
| 到達目標 | 変数分離系などの微分方程式を解くことができる。 線形微分方程式を理解して解くことができる。 専門分野で出てくる微分方程式で解くことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるので、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 本講義の内容は、諸々の専門科目の習得に引き継がれる。 |

| | | | | |
|------|----|-------------------|-----------------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 微分方程式の解 | ・微分方程式とは何か、原始関数(不定積分)と微分方程式 | 教科書の演習問題 |
| | 2 | 1階常微分方程式(1) | ・変数分離形1階微分方程式の解法 | 教科書の演習問題 |
| | 3 | 1階常微分方程式(2) | ・定数変化法による1階線形微分方程式の解法 | 教科書の演習問題 |
| | 4 | 1階常微分方程式(3) | ・微分方程式を用いた運動方程式の記述 | 教科書の演習問題 |
| | 5 | 1階常微分方程式(4) | ・空気抵抗中の運動など物理への応用 | 教科書の演習問題 |
| | 6 | 2階定数線形微分方程式(1) | ・基本解の導出 | 教科書の演習問題 |
| | 7 | 2階定数線形微分方程式(2) | ・基本解・解の表示 | 教科書の演習問題 |
| | 8 | 2階定数線形微分方程式(3) | ・未定係数法(1) $y''+ay'+by=(多項式)$ の解法 | 教科書の演習問題 |
| | 9 | 習熟度確認試験及び解説講義 | 第1-7回目までの内容に関する習熟度確認試験、及びその解説講義 | |
| | 10 | 2階定数線形微分方程式(4) | ・未定係数法(2) $y''+ay'+by=(指数関数)$ の解法 | 教科書の演習問題 |
| | 11 | 2階定数線形微分方程式(5) | ・未定係数法(3) $y''+ay'+by=(三角関数)$ の解法 | 教科書の演習問題 |
| | 12 | 2階定数線形微分方程式の応用(2) | ・強制振動など物理への応用 | 教科書の演習問題 |
| | 13 | 数値計算(1) | ・差分を用いた微分の記述、オイラー法による微分方程式の解法 | 教科書の演習問題 |
| | 14 | 数値計算(2) | ・ルンゲ・クッタ法による微分方程式の解法 | 教科書の演習問題 |
| | 15 | 総合演習 | ・応用問題 | 教科書の演習問題 |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II, 工業数学 I |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-------------------|-----|---------------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 微分方程式の基礎(2016年度版) | | 摂南大学 基礎理工学機構編 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 小テストで30%、習熟度確認テストで35%、期末テストで35%判定し評価する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 3号館3階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 3号館3階 数学研究室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は採点して返却し、適宜講義中に解説する。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------------|
| 科目名 | 構造デザイン演習 | 科目名(英文) | Exercises in Structural Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 白鳥 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3066a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 建築構造の役割を理解し、材料学と密接に関わる建築構造デザインについての基礎知識、実践的な応用力を身に付けることを目的とする。構造設計、建築設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料分野などの基礎的な知識を習得する。敢えて木造に特化した演習課題を行う。 |
| 到達目標 | 建築構造デザインのエッセンスを木構造を通して理解する。デザイン学、材料学、構造力学との相互に密接な関係を理解し、構造システムの「抑えどころ」を理解し活用できることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書を良く読み、理解に努めて授業に臨むこと。教科書、スライド(PPT)を駆使した授業は教員からの一方通行ではなく、個人およびグループで教科書を分担し発表する。その発表に対して実務での例や補足を加えて理解を促す形式を取る。 考案・デザイン・作成した木造耐力壁の模型を実際に加力実験する演習を行う。 その後、その耐力壁の性能を評価し、実験レポートを提出する。 進捗度により、耐力壁の作成タイミングは変動する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、木造建築士、構造設計士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 構造デザインとは? 入門編 木構造の基礎知識 | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 2 | 基本編 地盤① | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 3 | 基本編 軸組① | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 4 | 基本編 耐力壁① | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 5 | 基本編 水平構面① | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 6 | 基本編 接合部① | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 7 | 木造耐力壁実験 I | この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインを用意しておくこと。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 8 | 木造耐力壁実験 II | この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインの修正案を用意しておくこと。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 9 | 実践編 地盤・基礎② | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習(耐力壁模型用の材料採り)を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 10 | 実践編 軸組② | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習(耐力壁模型用の材料採りII)を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 11 | 実践編 耐力壁② | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習(耐力壁模型用の加工)を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 12 | 実践編 水平構面② | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習(耐力壁模型用の加工II)を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 13 | 実験 III | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習(耐力壁加力実験)を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 14 | 実験 IV | ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習(耐力壁加力実験 II)を後半に行う。 | 授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分のPPT発表資料を作成すること。 |
| 15 | まとめ | 実験の結果がどのように実際の構造実験現場で活用されるのかを見て行きます。 | 最終課題(実験レポート)提出 |

| | |
|------|------------------------------|
| 関連科目 | 構造力学、住環境材料学 I、建築一般構造学、設計演習 I |
|------|------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|---------------|------|---------------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ヤマベの木構造 増補改訂版 | 山辺豊彦 | X-Knowledge 社 |

| | | | | |
|-----|----|---|------------------|--------------------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 木による空間構造へのアプローチ—木で可能な15の基本架構の構造デザイン | 今川 憲英(著)、岡田 章(著) | 建築技術:新訂版(1997/4/1) |
| | 2 | 世界で一番やさしい木構造 増補改訂カラー版(エクスナレッジムック 世界で一番やさしい建築シリーズ 3) ムック | 山辺豊彦 | X-Knowledge 社 |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 授業内課題・ミニ演習 40% (教科書をまとめグループ発表表) 授業外課題・ミニ演習 40% (実験用試験体のデザイン画と試験体加工) 最終課題 20% (実験 I I 木造耐力壁加力実験とそのまとめレポート) 計 100% |
|----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 教科書をじっくり読んで、木構造の世界を楽しんでください。①ヤマベの木構造②参考書のいずれかの1冊を読破してください。特に木造住宅の構造や設計に興味がある人はヤマベを一通り読むことは非常に有益です。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 白鳥准教授室 |
|----------|---------------|

| | |
|----|---------------------------------------|
| 備考 | 教科書を読んで、課題に1時間以上費やすこと。コツコツと積み重ねが重要です。 |
|----|---------------------------------------|

| | | | |
|---------------|----------|---------|---|
| 科目名 | 構造デザイン入門 | 科目名(英文) | Introduction to Architectural Construction Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 白鳥 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 目的は建築構造の役割を理解し、建築構造デザインについての基礎知識・能力と実践的な応用力を取得することである。将来、建築設計、構造設計、設備設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料の分野など、活躍の場は幅広いが、どの分野に進むにしても、基本となる知識が含まれているので、それらを習得する。 |
| 到達目標 | 建築構造デザインの源流と本質を理解する。広さ、長さ、高さを克服するための構造デザインの基礎、構造システムを理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は教科書、スライド(PPT)、板書を使い講義形式、及び学生3名~4名でグループを作り、教科書の内容を分担して、まとめ、解りやすく発表を行う参加形式とする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、木造建築士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| | | | |
| 2 | 鉄の歴史 | 古典的材料の鉄~近代的構造材料の鉄鋼 | 事前：該当部分を読むこと。 1-3 |
| 3 | コンクリートの歴史 | 古典的~近代的構造材料のコンクリートの変遷 | 事前：該当部分を読むこと。 1-4 |
| 4 | 構造システム前史 | 広さ、長さ、高さへの挑戦 | 事前：該当部分を読むこと。 1-5 |
| 5 | 第2章 構造システムのタイプ(その1) | 抵抗系別の構造システムその1 | 事前：該当部分を読むこと。 2-1~2-3 |
| 6 | 構造システムのタイプ(その2) | 抵抗系別の構造システムその2 | 事前：該当部分を読むこと。 2-4~2-6 |
| 7 | 第3章 「広さ」を可能にする 構造デザイン | 大スパン建築の変遷 | 事前：該当部分を読むこと。 3-1 |
| 8 | 大スパン建築の種類と構造システム(その1) | トラス、スペースフレーム、アーチ、ドーム | 事前：該当部分を読むこと。 3-2-1~3-2-3 |
| 9 | 大スパン建築の種類と構造システム(その2) | シェル、テンション構造と膜構造、ハイブリッド、その他 | 事前：該当部分を読むこと。 3-2-4~3-2-6 |
| 10 | 大スパン建築の設計 | 大スパン建築の実例紹介 | 事前：該当部分を読むこと。 3-3 |
| 11 | 第4章 「長さ」を可能にする 構造デザイン | 橋の変遷 | 事前：該当部分を読むこと。 4-1 |
| 12 | 橋の種類と構造システム | 橋の形式と適用スパン、橋の構成と主要な部位、石橋~斜張橋等 | 事前：該当部分を読むこと。 4-2 |
| 13 | 橋の設計 | 橋の設計事例紹介 | 事前：該当部分を読むこと。 4-3 |
| 14 | 第5章 「高さ」を可能にする 構造デザイン | 塔の変遷、塔の種類と構造システム、塔の設計 | 事前：該当部分を読むこと。 5-1~5-3 |
| 15 | 高層ビルと超高層ビル | 高層ビルの変遷、高層ビルの種類と構造システム、実例 | 事前：該当部分を読むこと。 5-4~5-6 |

関連科目 構造力学入門、構造力学I、II、建築一般構造学

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------|----------|----------|
| | 1 | [広さ][長さ][高さ]の構造デザイン | 坪井善昭、等編著 | 株式会社建築技術 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|-------------------------------|-------------------------------------|-------------------------|------|
| | 1 | 建築構造のしくみ 第二版 力の流れとかたち | 川口 衛 他 | 彰国社 |
| 2 | 図説テキスト 建築構造 -構造システムを理解する- 第二版 | 建築構造システム研究会編 | 彰国社 | |
| 3 | Structures. Seventh Edition | Daniel L. Schodek, Martin Bechthold | Pearson Education, Inc. | |

評価方法 (基準) 授業内課題(グループまたは個人) 20%
ミニ課題又はミニレポート 50% (PPTを利用してグループ毎に教科書の指定範囲を発表してもらいます)
最終課題 30% 計100%※(レポート)
※各課題の評価配分は進捗状況、内容変更などに伴う複雑度等により変動します。

学生へのメッセージ 構造デザインは本来楽しいものです。建築の可能性を広げてくれる重要な学びです。計算ではなく、様々な構造システムの原理と特性を創造豊かに考えてみましょう。我々人類の歴史と共に、一歩ずつ歩んできた材料の発見と使い方としての構法、そしてその失敗を重ねて導いた新しい構造システムを理解しましょう。

担当者の研究室等 12号館7階 白鳥教員室

備考 必ず教科書を読み、課題に1時間以上費やすこと。積み重ねが重要です。講義に係る予復習は、毎回30分間程度を目安とする。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 構造デザイン論 | 科目名(英文) | Structural Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 白鳥 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2036a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 目的は建築構造の役割を理解し、建築構造デザインについての基礎知識・能力と実践的な応用力を取得することである。将来、建築設計、構造設計、設備設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料の分野など、活躍の場は幅広いが、どの分野に進むにしても、基本となる知識が含まれているので、それらを習得する。 |
| 到達目標 | 建築構造デザインの源流と本質を理解する。広さ、長さ、高さを克服するための構造デザインの基礎、構造システムを理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は教科書、スライド(PPT)、板書を使い講義形式、及び学生3名~4名でグループを作り、教科書の内容を分担して、まとめ、解りやすく発表を行う参加形式とする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、木造建築士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| | | | |
| 2 | 鉄の歴史 | 古典的材料の鉄~近代的構造材料の鉄鋼 | 事前：該当部分を読むこと。 1-3 |
| 3 | コンクリートの歴史 | 古典的~近代的構造材料のコンクリートの変遷 | 事前：該当部分を読むこと。 1-4 |
| 4 | 構造システム前史 | 広さ、長さ、高さへの挑戦 | 事前：該当部分を読むこと。 1-5 |
| 5 | 第2章 構造システムのタイプ(その1) | 抵抗系別の構造システムその1 | 事前：該当部分を読むこと。 2-1~2-3 |
| 6 | 構造システムのタイプ(その2) | 抵抗系別の構造システムその2 | 事前：該当部分を読むこと。 2-4~2-6 |
| 7 | 第3章 「広さ」を可能にする 構造デザイン | 大スパン建築の変遷 | 事前：該当部分を読むこと。 3-1 |
| 8 | 大スパン建築の種類と構造システム(その1) | トラス、スペースフレーム、アーチ、ドーム | 事前：該当部分を読むこと。 3-2-1~3-2-3 |
| 9 | 大スパン建築の種類と構造システム(その2) | シェル、テンション構造と膜構造、ハイブリッド、その他 | 事前：該当部分を読むこと。 3-2-4~3-2-6 |
| 10 | 大スパン建築の設計 | 大スパン建築の実例紹介 | 事前：該当部分を読むこと。 3-3 |
| 11 | 第4章 「長さ」を可能にする 構造デザイン | 橋の変遷 | 事前：該当部分を読むこと。 4-1 |
| 12 | 橋の種類と構造システム | 橋の形式と適用スパン、橋の構成と主要な部位、石橋~斜張橋等 | 事前：該当部分を読むこと。 4-2 |
| 13 | 橋の設計 | 橋の設計事例紹介 | 事前：該当部分を読むこと。 4-3 |
| 14 | 第5章 「高さ」を可能にする 構造デザイン | 塔の変遷、塔の種類と構造システム、塔の設計 | 事前：該当部分を読むこと。 5-1~5-3 |
| 15 | 高層ビルと超高層ビル | 高層ビルの変遷、高層ビルの種類と構造システム、実例 | 事前：該当部分を読むこと。 5-4~5-6 |

関連科目 構造力学入門、構造力学Ⅰ、Ⅱ、建築一般構造学

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------|----------|----------|
| | 1 | [広さ][長さ][高さ]の構造デザイン | 坪井善昭、等編著 | 株式会社建築技術 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|-------------------------------|-------------------------------------|-------------------------|------|
| | 1 | 建築構造のしくみ 第二版 力の流れとかたち | 川口 衛 他 | 彰国社 |
| 2 | 図説テキスト 建築構造 -構造システムを理解する- 第二版 | 建築構造システム研究会編 | 彰国社 | |
| 3 | Structures. Seventh Edition | Daniel L. Schodek, Martin Bechthold | Pearson Education, Inc. | |

評価方法 (基準)
 授業内課題(グループまたは個人) 20%
 ミニ課題又はミニレポート 50% (PPTを利用してグループ毎に教科書の指定範囲を発表してもらいます)
 最終課題 30% 計100%※(レポート)
 ※各課題の評価配分は進捗状況、内容変更などに伴う複雑度等により変動します。

学生へのメッセージ
 構造デザインは本来楽しいものです。建築の可能性を広げてくれる重要な学びです。計算ではなく、様々な構造システムの原理と特性を創造豊かに考えてみましょう。我々人類の歴史と共に、一歩ずつ歩んできた材料の発見と使い方としての構法、そしてその失敗を重ねて導いた新しい構造システムを理解しましょう。

担当者の研究室等
 12号館7階 白鳥教員室

備考
 必ず教科書を読み、課題に1時間以上費やすこと。積み重ねが重要です。
 講義に係る予復習は、毎回30分間程度を目安とする。

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------------|
| 科目名 | 構造力学 I | 科目名 (英文) | Structural Mechanics I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 西野 孝仁 |
| ディプロマポリシー (DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2039a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では、建築の構造設計の基礎となる構造力学を初めて学ぶ学生を対象に、建築物にかかる力の基本的な考え方（釣り合い、モーメント、反力）と表現を学び、さらに静定構造部材（梁、ラーメン、トラス）に生じる反力と応力について、基礎的な知識の講義を行う。 |
| 到達目標 | 構造的に安全な建物を設計するためには、建物に加わる応力計算の手法を学ぶ必要がある。構造力学 I では構造体に外力が作用した時の各部材に生じる力の大きさと性質を把握することが第 1 義である。様々な演習問題を解くことによって、これをイメージで理解できるようになる事が目標である。 構造力学は、建築士の資格を取得するために必須の科目であり、よって、この授業では構造力学の基礎がためとなるものである。 |
| 授業方法と留意点 | 板書および配付プリント等を用いて講義する。講義は復習、解説、練習、小テストで構成される。原則として電卓、三角定規を持参すること。配布プリント、返却する小テストはファイルしておくこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 一級建築士、二級建築士、木造建築士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|--|---------------------------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 講義の進め方・学習の意義について説明する。続いて、構造力学を学ぶ上での基礎知識を説明する。 | 高校の理数系教科書に一通り目を通しておくこと。本講義の見直し。 |
| 2 | 力の性質 | 力の表現、力のつり合い・合成と分解 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 3 | 支点反力 (1) | 片持ち梁と単純梁の支点反力の求め方を解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 4 | 支点反力 (2) | 門型ラーメンと 3 ヒンジラーメンの支点反力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 5 | 応力 (1) | 片持ち梁と単純梁の応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 6 | 応力 (2) | 門型ラーメンの応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 7 | 中間試験 | 第 1 回～第 6 回の講義内容から出題 | 第 1 回～第 6 回の内容を良く復習しておくこと。 |
| 8 | 中間試験の解説および応力分布 (1) | 片持ち梁と単純梁に集中荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 中間試験内容と本講義内容の見直し。 |
| 9 | 応力分布 (2) | 片持ち梁と単純梁に集中曲げモーメントが作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 10 | 応力分布 (3) | 片持ち梁と単純梁に等分布荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 11 | 応力分布 (4) | 門型ラーメンに集中荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 12 | 応力分布 (5) | 門型ラーメンに集中曲げモーメントが作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 13 | トラスの解法 (1) | 節点法による応力の求め方を解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 14 | トラスの解法 (2) | 切断法による応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。 | 前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。 |
| 15 | 総まとめ | 講義内容全体の復習を行う | 講義全体の内容を良く復習しておくこと。 |

| | |
|------|-------------------|
| 関連科目 | 構造力学、構造力学、建築一般構造学 |
|------|-------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----------------|-----------------|-------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 改訂版『初めての建築構造力学』 | <建築のテキスト>編集委員会編 | 学芸出版社 |
| | 2 | 力のつり合いを理解する構造力学 | 小野里憲一、西村彰敏 | 彰国社 |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 平常点 (小テストと授業態度を重視する) ----- 25% 中間試験 ----- 25% 期末試験 ----- 50% |
|-----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 毎回の授業と演習の積み重ねが大切です。分かりやすい説明を心がけますが、理解しにくい点については必ず質問をして不明な点を後に残さないよう心がけてください。レポート課題は必ず提出すること。 特に、構造力学は実際に手を動かし計算して身につく点が多いです。限られた時間の中で、できるだけ多くの時間を演習課題解答に充てたいと考えていますが、どうしても足りない分がありますので、各自復習することが求められます。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7 号館 2 階 非常勤講師室 |
|----------|-----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 質問用のメールアドレスは講義時にお知らせします。 講義に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------|
| 科目名 | 構造力学Ⅱ | 科目名(英文) | Structural Mechanics II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西野 孝仁 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3040a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義は構造力学Ⅰで学んだ、構造体に外力が作用した時の各部材に生じる力の大きさと性質を踏まえ、部材の断面強度の検定の手法や、静定・不静定の骨組みの変形について考え方と計算法を学び、応力解析のための基礎的知識を付与する。 構造力学は、建築士の資格を取得するために必須の科目であり、本講義はその基礎がためとなるものである。 |
| 到達目標 | 不静定問題は力のつり合いだけでは解けず、変形を理解する必要がある。若干の数学計算が必要であるが、イメージで考え、解くプロセスを身につけることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 板書を用いて講義する。 講義は前回小テストの復習・解説・練習・小テストで構成される。原則として電卓・三角定規を持参すること。 返却された小テストはファイリングしておくこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、木造建築士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|---------------------------------------|------------------------|
| | | | |
| 1 | 概論 | 講義の進め方・学習の意義について説明する。構造力学Ⅰの総復習を行う。 | 構造力学Ⅰの復習しておくこと。 |
| 2 | 断面の性質 | 図心、重心、断面1次2次モーメント、断面係数等について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 3 | 応力度(1) | 軸方向応力度・せん断応力度の求め方について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 4 | 応力度(2) | 曲げ応力度の求め方について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 5 | 応力度(3) | 組み合わせ応力度の求め方について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 6 | 部材の変形 | 単純梁・片持ち梁・はね出しはりといった様々な構造物の変形について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 7 | 中間試験 | 第1回～第6回から出題 | 第1回～第7回の内容を良く復習しておくこと。 |
| 8 | 不静定構造物の応力(1) | 不静定構造物の応力を、変形を利用して求める方法について学習する | 中間試験の見直しと今回講義内容の復習 |
| 9 | 不静定構造物の応力(2) | 不静定構造物の応力を、固定モーメント法を利用して求める方法について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 10 | 不静定構造物の応力(3) | 不静定構造物の応力を、たわみ角法を利用して求める方法について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 11 | 不静定構造物の応力(4) | 多層ラーメンの地震時応力の求め方について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 12 | 座屈問題 | 座屈荷重の求め方について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 13 | 崩壊荷重(1) | 全塑性曲げモーメントの求め方について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 14 | 崩壊荷重(2) | 仮想仕事の原理を用いた崩壊荷重の求め方について学習する | 前回小テストの見直しと今回講義内容の復習 |
| 15 | 総まとめ | 期末テストにむけて総復習を行う | 講義全体の内容を良く復習しておくこと。 |

関連科目 建築一般構造、構造力学Ⅰ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|-------------------------|-----------------|-----------------|-------|
| | 1 | 改訂版『初めての建築構造力学』 | <建築のテキスト>編集委員会編 | 学芸出版社 |
| 2 | 考えるプロセスがわかる 変形を理解する構造力学 | 小野里憲一・西村彰敏 | 彰国社 | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 平常点(小テストと授業態度を重視する) ----- 25% 中間試験 ----- 25% 期末試験 ----- 50% |
|----------|---|

学生へのメッセージ
毎回の授業と演習の積み重ねが大切です。分かりやすい説明を心がけますが、理解しにくい点については必ず質問をして不明な点を後に残さないよう心がけてください。レポート課題は必ず提出すること。
特に、構造力学は実際に手を動かし計算して身につく点が多いです。限られた時間の中で、できるだけ多くの時間を演習課題解答に充てたいと考えていますが、どうしても足りない分がありますので、各自復習することが求められます。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 質問用のメールアドレスは講義時にお知らせします。
講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------------------|
| 科目名 | 色彩デザイン論 | 科目名(英文) | Introduction to Color Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 岩田 三千子 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2037a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 色は人々に様々な影響を与え、生活を豊かにすることから、良いデザインのための重要な要件である。講義では色の物理的な性質、色が見える仕組み、色と心理、色と文化など、色についての基礎的な知識を学ぶとともに、生活の場面で色を生かしたデザインの実例や研究成果を学ぶ。 |
| 到達目標 | 建築計画や環境計画における色彩デザインに関する基礎的な知識を修得し、身の回りの色彩環境についての関心を深めてデザインへの応用につながることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回、授業中ノートの提出を求め、理解度を確かめながら進めていく。 |
| 科目学習の効果(資格) | カラーコーディネーター、色彩検定、商業施設士、インテリアコーディネーター、一級建築士、二級建築士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|--------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 色を見る眼のしくみ | 人の眼と色が見えるしくみを学ぶ | 住環境工学Bで学んだ照明と色彩に関する部分を復習して、授業に臨むこと |
| 2 | 色を伝える方法 | 慣用色名と系統色名について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 3 | 色と心理 1 | 色の連想と象徴について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 4 | 色と心理 2 | 色の視認性と誘目性について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 5 | 色と心理 3 | 色がもたらす心理的効果について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 6 | 色の表示 1 | 色の三属性とマンセル表色系などのカラーオーダーシステムを学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 7 | 色の表示 2 | 色の三属性とトーンの関係について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 8 | 色の表示 3 | 光源色と物体色の表示と混色について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 9 | 光と色 1 | 光による虹などの自然現象を学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 10 | 光と色 2 | 様々な光源と光の色について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 11 | 配色と色彩調和 1 | 色彩調和の考え方について学ぶ | 予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること |
| 12 | 配色と色彩調和 2 | 色彩調和理論の | 予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること |
| 13 | 色彩環境デザイン 1 | 視認性と誘目性 | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う 宿題を出すので提出すること |
| 14 | 色彩環境デザイン 2 | 色彩イメージと空間デザイン | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 15 | 色彩環境デザイン 2 絵画や商品から知る色彩デザインの歴史 | 絵画や商品から知る色彩デザインの歴史 | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う 期末試験までにノート、教科書を見てしっかり復習をしておくこと |

関連科目 インテリアデザイン論、住環境工学B、環境工学演習、環境計画演習

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------------------|---------|------|
| 1 | カラーコーディネーター検定試験3級公式テキスト | 東京商工会議所 | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 平常点(課題を含む)20%、期末試験80%の割合で、総合的に評価する |
| 学生へのメッセージ | 日常から、いろいろなものの「色」について関心を持って接してください |
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 岩田教授室 |
| 備考 | 効果的に色を用いることで人の環境の質が向上し、生活が豊かになることを学んでほしい 講義に係る予習、復習は、毎回1.5時間程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|------|---------|------------|
| 科目名 | 色彩論 | 科目名(英文) | Chromatics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 岩田 三千子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 色は人々に様々な影響を与え、生活を豊かにすることから、良いデザインのための重要な要件である。講義では色の物理的な性質、色が見える仕組み、色と心理、色と文化など、色についての基礎的な知識を学ぶとともに、生活の場面で色を生かしたデザインの実例や研究成果を学ぶ。 |
| 到達目標 | 建築計画や環境計画における色彩デザインに関する基礎的な知識を修得し、身の回りの色彩環境についての関心を深めてデザインへの応用につながることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回、授業中ノートの提出を求め、理解度を確かめながら進めていく。 |
| 科目学習の効果(資格) | カラーコーディネーター、色彩検定、商業施設士、インテリアコーディネーター、一級建築士、二級建築士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------------|--------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 色を見る眼のしくみ | 人の眼と色が見えるしくみを学ぶ | 住環境工学Bで学んだ照明と色彩に関する部分を復習して、授業に臨むこと |
| 2 | 色を伝える方法 | 慣用色名と系統色名について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 3 | 色と心理 1 | 色の連想と象徴について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 4 | 色と心理 2 | 色の視認性と誘目性について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 5 | 色と心理 3 | 色がもたらす心理的効果について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 6 | 色の表示 1 | 色の三属性とマンセル表色系などのカラーオーダーシステムを学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 7 | 色の表示 2 | 色の三属性とトーンの関係について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 8 | 色の表示 3 | 光源色と物体色の表示と混色について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 9 | 光と色 1 | 光による虹などの自然現象を学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 10 | 光と色 2 | 様々な光源と光の色について学ぶ | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 11 | 配色と色彩調和 1 | 色彩調和の考え方について学ぶ | 予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること |
| 12 | 配色と色彩調和 2 | 色彩調和理論の | 予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること |
| 13 | 色彩環境デザイン 1 | 視認性と誘目性 | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う 宿題を出すので提出すること |
| 14 | 色彩環境デザイン 2 | 色彩イメージと空間デザイン | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う |
| 15 | 色彩環境デザイン 2 絵画 や商品から知る色彩デザイン の歴史 | 絵画や商品から知る色彩デザインの歴史 | 教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う 期末試験までにノート、教科書を見てしっかり復習をしておくこと |

| | |
|------|---------------------------------|
| 関連科目 | インテリアデザイン論、住環境工学B、環境工学演習、環境計画演習 |
|------|---------------------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------|---------|------|
| | 1 | カラーコーディネーター検定試験3級公式テキスト | 東京商工会議所 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 平常点(課題を含む)20%、期末試験80%の割合で、総合的に評価する |
| 学生へのメッセージ | 日常から、いろいろなものの「色」について関心を持って接してください |
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 岩田教授室 |
| 備考 | 効果的に色を用いることで人の環境の質が向上し、生活が豊かになることを学んでほしい 講義に係る予習、復習は、毎回1.5時間程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------------|
| 科目名 | 住環境管理学 | 科目名(英文) | Management of Residential Environment |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2044a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 住環境の空間スケールに対応させつつ、安全性・快適性・利便性などの観点から、住環境を維持管理するための計画技術、制度や維持管理の実態、またそこから導かれる課題について学ぶ。 住戸とその周りの空間の所有・利用をめぐる権利関係の調整方法や住環境の維持管理を担保するための計画課題、特にマンションや団地の再生を取り上げ、問題解決のための手法や計画技術などについての基礎的知識を習得することを目的とする。 また、技術者としてどのような視点で設計・施工を行えばよいかの技術者倫理についても触れる。 |
| 到達目標 | 住戸とその周りの空間の所有・利用をめぐる法制度や維持管理の手法について、またマンションや団地の再生について問題解決のための計画技術などについての基礎的知識を習得する。 |
| 授業方法と留意点 | プリント資料とパワー・ポイントを用いた講義とする。 さらに、現存する建物を見学し、空間体験を通じて理解を深める。 授業の8回目に、中間テストを行う予定である。12回目に、専門家をゲストスピーカーとしてお招きして、講義を聞く機会を設けたいと考えている。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、木造建築士など |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|---------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 住環境管理の意味と課題 | 住宅の商品化と管理の変化、住環境の定義 | 授業プリントを復習しておくこと。関連する文献を紹介するので、読んでおくこと。 |
| 2 | 共有空間を持つ住宅(1) | 集合住宅の管理問題とコミュニティ | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 3 | 共有空間を持つ住宅(2) | タウンハウスの管理問題とコミュニティ | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 4 | 住まいの耐用性とメンテナンス(1) | 建物の寿命、メンテナンスの意義、老朽化対策 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 5 | 住まいの耐用性とメンテナンス(2) | 住宅の長寿化に伴う住宅改善、住まいの管理能力 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 6 | 居住地の管理(1) | 居住地の構成と種類 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 7 | 居住地の管理(2) | 地域環境の改善・まちづくりへの参加 | 授業終了時にチェックテストを行う。中間試験に向けて準備を行うこと。 |
| 8 | これまでの講義のまとめと中間テスト | これまでの講義内容の復習と中間テストを実施する | 中間試験の復習を行うこと。 |
| 9 | 環境共生住宅 | 環境共生住宅の定義と要件、環境に資する意味 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 10 | コレクティブハウス | コレクティブハウスの定義と環境に配慮した暮らし方 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 11 | コーポラティブハウス | コーポラティブハウスの定義と建築計画、環境への配慮 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 12 | 公共住宅の維持管理と団地再生事業 | 大規模団地における事例から再生事業を考える～ゲストスピーカーをお招きして～ | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 13 | 管理を支える法制度とマンパワー(1) | 住環境を守る諸制度と管理を支える専門家 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 14 | 管理を支える法制度とマンパワー(2) | マンション管理をめぐる行政の取り組み | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 15 | 講義のまとめとテスト | 授業のまとめとテストを行う | まとめの試験に向けて、よく準備をしておくこと。 |

| | |
|------|--------------|
| 関連科目 | 住生活学、集合住宅管理学 |
|------|--------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 評価方法(基準) | チェックテスト20%、中間テスト40%、まとめの試験40%で評価する。 |
|----------|-------------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 共用空間を豊かに計画することで、住宅地や建築物の表情が変わります。さまざまな事例紹介をしたいと思いますので、休日などの現地見学に積極的に取り組んでください。 授業開始後30分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 平田教授室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする。 中間テストは、採点后に返却する。まとめのテストは返却しない。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|---------|----------|--|
| 科目名 | 住環境工学 I | 科目名 (英文) | Environmental Engineering for Living I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岩田 三千子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 建築空間の光環境と音環境について、人間の生理的・心理的反応と物理条件に着目しながら、建築計画や環境計画の際に知っておくべき基礎的要件と計画に応用するための解析法や評価法についての知識を学ぶ。光環境については、太陽の動きと日照の問題、人工照明による照明設計手法など、音環境については、騒音の評価と防止、音響計画の手法についてなどを学ぶ。 |
| 到達目標 | 都市・建築のサステナブル環境デザインや省エネルギー設計への応用につながるための基礎的な知識を修得することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 各章の授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。授業中に演習や小テストなどを行って理解度を確かめながら進めていく。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 一級建築士、二級建築士、インテリアプランナー、建築設備士、商業施設士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|-------------------------------------|------------------------------|
| | | | |
| 2 | 太陽の動きと建物の関係 | 地球と太陽の関係、太陽と建物の関係、直射日光と天空光 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 3 | 日照と日影 | 日照と日当たり、日影と日照の検討方法 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 4 | 光と視覚 | 目の構造と可視光、光に対する感度と視細胞の働き | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 5 | 明視照明と雰囲気照明 | 蛍光灯、白熱電球、水銀ランプなど身近な各種光源の特徴と空間への光の供給 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 6 | 照明計算の基礎 | 測光量と単位、照明計算の基礎、JIS 照度基準値、昼光率 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 7 | 照明設計とその要件 | さまざまな照明方式、照明設計の手順 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 8 | 昼光照明と電灯照明 | 窓からの採光による照明計画、電灯による照明計画 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 9 | 建築の色彩設計 | 建築計画における色彩の心理的な効果と調和の基礎要件 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 10 | 音の基本的性質 | 反射、屈折、回折など音の伝播に関する基本的項目の説明 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 11 | 音の感じ方と計算の基礎 | デシベル単位、音の透過損失、音の合成と分解 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 12 | 残響 | 各種建築材料の吸音率、残響時間 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 13 | 吸音機構 | 共鳴器型、多孔質型、板および膜振動型吸音機構 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 14 | 音質評価 | 明瞭度と文章理解度、室内音響設計 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 15 | 騒音防止計画 | さまざまな騒音と騒音対策 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をし、試験の準備をする |

| | |
|------|-------------------------------------|
| 関連科目 | 住環境工学Ⅱ、環境工学演習、住環境材料学Ⅰ、住環境材料学Ⅱ、住環境設備 |
|------|-------------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|---------------|--------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 建築環境工学用教材 環境編 | 日本建築学会 | 彰国社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 期末テストの成績 (70%) および演習や小テストなどの平常成績 (30%) で評価する |
| 学生へのメッセージ | 講義には必ず教科書を持参し、自宅でも教科書の内容に沿って、予習復習を心がけてください。 |
| 担当者の研究室等 | 12号館 7階 岩田教授室 |
| 備考 | 講義に関係する予習・復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|--------|---------|---|
| 科目名 | 住環境工学Ⅱ | 科目名(英文) | Environmental Engineering for Living II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 竹村 明久 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 屋内空間の熱・空気環境を安全で健康、しかも快適な状態に保つため、環境の状態を把握する能力や、人と環境との関係を理解できる能力を修得することを旨とし、熱・空気環境に関する基礎的知識について学ぶ。人が感じる暑さ寒さの指標や、壁や窓を通して屋外と屋内を行き来する熱に対する考え方、屋内空気の清浄度に関する基準や適切な換気の方法、湿気と結露とその対策方法、環境デザインと省エネの両立などについて取り上げる。 |
| 到達目標 | 建築環境工学における熱環境・空気環境に関する基礎的知識を修得すること。 |
| 授業方法と留意点 | 身近な現象と教科書の知識とを繋げて理解するように心掛けること。授業進行は、その点に留意して進行するほか、確認のための小テストや演習問題を実施する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士など |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 住環境と熱・空気 | 環境構造の中の住環境、外界の気象、環境と人の関係、住環境工学と省エネ | 教科書をよく読んで復習すること。講義中は要点をノートにとること。 |
| 2 | 空気環境と室内空気質 | 空気汚染物質、シックビル症候群 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 3 | 必要換気量と換気方式 | 換気回数、必要換気量、機械換気の換気方式 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 4 | 重力換気と風力換気、臭気対策 | 自然換気の利用と計算、臭気対策の基本的考え方 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 5 | 人体の熱平衡 | 人体の熱収支、顕熱と潜熱 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 6 | 伝熱の基礎と温熱四要素 | 伝熱3態(伝導、対流、放射)、温熱四要素(温度、湿度、気流、放射) | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 7 | 人体に関わる温熱環境指標 | 作用温度、有効温度、PMVなどの指標の特徴 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 8 | 日照と日射 | 日射と熱環境、太陽位置 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 9 | 建物と日射 | 日影の考え方、建物と日射量の関係 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 10 | 建物の熱性能① | 建物における熱伝導、熱伝達、熱放射の計算 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 11 | 建物の熱性能② | 熱貫流の計算と、壁体内の温度分布 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 12 | 建物の熱性能③ | 換気による熱負荷、熱容量の考え方 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 13 | 湿り空気線図 | 湿気概念、湿り空気線図の使い方 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 14 | 湿気と結露 | 壁体内の結露、結露対策 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 15 | 講義のまとめ | 講義のまとめと補足 | 試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。 |

関連科目 住環境工学B 環境工学演習 住環境設備A 住環境設備B 環境計画演習

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------|-------|-------|
| | | | |
| 1 | 図説建築環境 | 松原斎樹他 | 学芸出版社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---------------|------------|------|
| | | | |
| 1 | 環境工学教科書 | 環境工学教科書研究会 | 彰国社 |
| 2 | 図説テキスト 建築環境工学 | 加藤信介他 | 彰国社 |
| 3 | 生活環境学 | 岩田利枝他 | 井上書院 |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 定期試験(60%)と演習問題類(40%)の総合評価 |
| 学生へのメッセージ | 教科書を初回から必ず持参すること 積極的な質問など、前向きな取組みを期待する |
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 竹村講師室 |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1時間30分程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 住環境工学A | 科目名(英文) | Environmental Engineering for Living A |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 竹村 明久 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2031a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 屋内空間の熱・空気環境を安全で健康、しかも快適な状態に保つため、環境の状態を把握する能力や、人と環境との関係を理解できる能力を修得することを旨とし、熱・空気環境に関する基礎的知識について学ぶ。人が感じる暑さ寒さの指標や、壁や窓を通して屋外と屋内を行き来する熱に対する考え方、屋内空気の清浄度に関する基準や適切な換気の方法、湿気と結露とその対策方法、環境デザインと省エネの両立などについて取り上げる。 |
| 到達目標 | 建築環境工学における熱環境・空気環境に関する基礎的知識を修得すること。 |
| 授業方法と留意点 | 身近な現象と教科書の知識とを繋げて理解するように心掛けること。授業進行は、その点に留意して進行するほか、確認のための小テストや演習問題を実施する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士など |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | 住環境と熱・空気 | 環境構造の中の住環境、外界の気象、環境と人の関係、住環境工学と省エネ | 教科書をよく読んで復習すること。講義中は要点をノートにとること。 |
| 2 | 空気環境と室内空気質 | 空気汚染物質、シックビル症候群 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 3 | 必要換気量と換気方式 | 換気回数、必要換気量、機械換気の換気方式 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 4 | 重力換気と風力換気、臭気対策 | 自然換気の利用と計算、臭気対策の基本的考え方 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 5 | 人体の熱平衡 | 人体の熱収支、顕熱と潜熱 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 6 | 伝熱の基礎と温熱四要素 | 伝熱3態(伝導、対流、放射)、温熱四要素(温度、湿度、気流、放射) | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 7 | 人体に関わる温熱環境指標 | 作用温度、有効温度、PMVなどの指標の特徴 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 8 | 日照と日射 | 日射と熱環境、太陽位置 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 9 | 建物と日射 | 日影の考え方、建物と日射量の関係 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 10 | 建物の熱性能① | 建物における熱伝導、熱伝達、熱放射の計算 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 11 | 建物の熱性能② | 熱貫流の計算と、壁体内の温度分布 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 12 | 建物の熱性能③ | 換気による熱負荷、熱容量の考え方 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 13 | 湿り空気線図 | 湿気概念、湿り空気線図の使い方 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 14 | 湿気と結露 | 壁体内の結露、結露対策 | 教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。 |
| 15 | 講義のまとめ | 講義のまとめと補足 | 試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。 |

| | |
|------|------------------------------------|
| 関連科目 | 住環境工学B 環境工学演習 住環境設備A 住環境設備B 環境計画演習 |
|------|------------------------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------|-------|-------|
| | 1 | 図説建築環境 | 松原斎樹他 | 学芸出版社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---------------|---------|------------|------|
| | 1 | 環境工学教科書 | 環境工学教科書研究会 | 彰国社 |
| 2 | 図説テキスト 建築環境工学 | 加藤信介他 | 彰国社 | |
| 3 | 生活環境学 | 岩田利枝他 | 井上書院 | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 定期試験(60%)と演習問題類(40%)の総合評価 |
| 学生へのメッセージ | 教科書を初回から必ず持参すること 積極的な質問など、前向きな取組みを期待する |
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 竹村講師室 |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1時間30分程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 住環境工学B | 科目名(英文) | Environmental Engineering for Living B |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岩田 三千子 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2032a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 建築空間の光環境と音環境について、人間の生理的・心理的反応と物理条件に着目しながら、建築計画や環境計画の際に知っておくべき基礎的要件と計画に応用するための解析法や評価法についての知識を学ぶ。光環境については、太陽の動きと日照の問題、人工照明による照明設計手法など、音環境については、騒音の評価と防止、音響計画の手法についてなどを学ぶ。 |
| 到達目標 | 都市・建築のサステナブル環境デザインや省エネルギー設計への応用につながるための基礎的な知識を修得することを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 各章の授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。授業中に演習や小テストなどを行って理解度を確かめながら進めていく。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、インテリアプランナー、建築設備士、商業施設士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|-------------------------------------|------------------------------|
| | | | |
| 2 | 太陽の動きと建物の関係 | 地球と太陽の関係、太陽と建物の関係、直射日光と天空光 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 3 | 日照と日影 | 日照と日当たり、日影と日照の検討方法 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 4 | 光と視覚 | 目の構造と可視光、光に対する感度と視細胞の働き | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 5 | 明視照明と雰囲気照明 | 蛍光灯、白熱電球、水銀ランプなど身近な各種光源の特徴と空間への光の供給 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 6 | 照明計算の基礎 | 測光量と単位、照明計算の基礎、JIS照度基準値、昼光率 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 7 | 照明設計とその要件 | さまざまな照明方式、照明設計の手順 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 8 | 昼光照明と電灯照明 | 窓からの採光による照明計画、電灯による照明計画 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 9 | 建築の色彩設計 | 建築計画における色彩の心理的な効果と調和の基礎要件 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 10 | 音の基本的性質 | 反射、屈折、回折など音の伝播に関する基本的項目の説明 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 11 | 音の感じ方と計算の基礎 | デシベル単位、音の透過損失、音の合成と分解 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 12 | 残響 | 各種建築材料の吸音率、残響時間 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 13 | 吸音機構 | 共鳴器型、多孔質型、板および膜振動型吸音機構 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 14 | 音質評価 | 明瞭度と文章理解度、室内音響設計 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をする |
| 15 | 騒音防止計画 | さまざまな騒音と騒音対策 | 教科書の講義部分を読んで予習・復習をし、試験の準備をする |

関連科目 住環境工学II、環境工学演習、住環境材料学I、住環境材料学II、住環境設備

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 期末テストの成績(70%)および演習や小テストなどの平常成績(30%)で評価する |
| 学生へのメッセージ | 講義には必ず教科書を持参し、自宅でも教科書の内容に沿って、予習復習を心がけてください。 |
| 担当者の研究室等 | 12号館 7階 岩田教授室 |
| 備考 | 講義に関係する予習・復習は、毎回1.5時間程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 住環境材料学 | 科目名(英文) | Housing Materials |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 難波 尚 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2035a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 建築には、天然材料から人工材料まで、多岐にわたるな種類の材料が用いられます。本講義では、建築材料の種類や性質について理解するとともに、各材料の性能と建築の機能との関係性を理解することを目的とします。 |
| 到達目標 | 建築を設計・施工・運用する際に必要となる、適切な材料選択のための基礎を修得する他、必要性能を発揮するための要件を理解・活用できることを目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書に沿った内容のスライドを用いた講義形式を行います。 |
| 科目学習の効果(資格) | 1級建築士, 2級建築士の指定科目(建築材料2単位) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|---|------------|
| | | | |
| 1 | 建築材料概論 | 建築材料の種類, 建築材料の性能と性質 | 教科書による予習復習 |
| 2 | 構造材料 鉄鋼材料① | 鋼の製法と基本的性質 | 教科書による予習復習 |
| 3 | 構造材料 鉄鋼材料② | 鋼材の機械的性質 | 教科書による予習復習 |
| 4 | 構造材料 鉄鋼材料③ | 鋼材の種類・規格 | 教科書による予習復習 |
| 5 | 構造材料 鉄鋼材料④ | 鋼材の接合 | 教科書による予習復習 |
| 6 | 構造材料 コンクリート① | コンクリートの基礎知識 | 教科書による予習復習 |
| 7 | 構造材料 コンクリート② | フレッシュコンクリートの性質 | 教科書による予習復習 |
| 8 | 構造材料 コンクリート③ | 硬化コンクリートの性質 | 教科書による予習復習 |
| 9 | 構造材料 コンクリート④ | 耐久性, 試験方法 | 教科書による予習復習 |
| 10 | 木材および木質材料① | 木材の特性 | 教科書による予習復習 |
| 11 | 木材および木質材料② | 木材および木質材料の機械的性質 | 教科書による予習復習 |
| 12 | 木材および木質材料③ | 木材の劣化とその防止 | 教科書による予習復習 |
| 13 | 非構造材料 屋根・防水材 | プラスチック, アスファルト, 塗装, 接着剤, シーリング材 | 教科書による予習復習 |
| 14 | 非構造材料 屋根・防水材 | 一般的な断熱材料, 断熱工法, 防火材料, 耐火性能 | 教科書による予習復習 |
| 15 | 非構造材料 内・外装材料 | タイル類, ALCパネル, PCパネル, 工法要求性能, 左官材料, ボード類, 床材 | 教科書による予習復習 |

| | |
|------|------------------|
| 関連科目 | 建築構造学・構法に関する科目一般 |
|------|------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|----------------------|-------|-------------------------------|
| 1 | 建築材料を学ぶ ーその選択から施工までー | 谷川恭雄他 | 理工図書 ISBN978-4-8846-0740-3 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 定期試験(筆記)100%で評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 日常生活において、建築の存在は極めて当然のものですが、これらは長い間の経験から得た知識・知恵の集大成と言えます。ぜひ日常においても建築を学ぶものとして意識と関心を持つよう心がけて下さい。 |
| 担当者の研究室等 | 神戸大学工学研究科建築学専攻 難波研究室 メールアドレス: naba@kobe-u.ac.jp |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする |

| | | | |
|----------------|----------|----------|---------------------|
| 科目名 | 住環境材料学 I | 科目名 (英文) | Housing Materials I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 難波 尚 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 建築には、天然材料から人工材料まで、多岐にわたるな種類の材料が用いられます。本講義では、建築材料の種類や性質について理解するとともに、各材料の性能と建築の機能との関係性を理解することを目的とします。 |
| 到達目標 | 建築を設計・施工・運用する際に必要となる、適切な材料選択のための基礎を修得する他、必要性能を発揮するための要件を理解・活用できることを目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書に沿った内容のスライドを用いた講義形式を行います。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 1級建築士, 2級建築士の指定科目 (建築材料 2単位) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|---|------------|
| | | | |
| 1 | 建築材料概論 | 建築材料の種類, 建築材料の性能と性質 | 教科書による予習復習 |
| 2 | 構造材料 鉄鋼材料① | 鋼の製法と基本的性質 | 教科書による予習復習 |
| 3 | 構造材料 鉄鋼材料② | 鋼材の機械的性質 | 教科書による予習復習 |
| 4 | 構造材料 鉄鋼材料③ | 鋼材の種類・規格 | 教科書による予習復習 |
| 5 | 構造材料 鉄鋼材料④ | 鋼材の接合 | 教科書による予習復習 |
| 6 | 構造材料 コンクリート① | コンクリートの基礎知識 | 教科書による予習復習 |
| 7 | 構造材料 コンクリート② | フレッシュコンクリートの性質 | 教科書による予習復習 |
| 8 | 構造材料 コンクリート③ | 硬化コンクリートの性質 | 教科書による予習復習 |
| 9 | 構造材料 コンクリート④ | 耐久性, 試験方法 | 教科書による予習復習 |
| 10 | 木材および木質材料① | 木材の特性 | 教科書による予習復習 |
| 11 | 木材および木質材料② | 木材および木質材料の機械的性質 | 教科書による予習復習 |
| 12 | 木材および木質材料③ | 木材の劣化とその防止 | 教科書による予習復習 |
| 13 | 非構造材料 屋根・防水材 | プラスチック, アスファルト, 塗装, 接着剤, シーリング材 | 教科書による予習復習 |
| 14 | 非構造材料 屋根・防水材 | 一般的な断熱材料, 断熱工法, 防火材料, 耐火性能 | 教科書による予習復習 |
| 15 | 非構造材料 内・外装材料 | タイル類, ALC パネル, PC パネル, 工法要求性能, 左官材料, ボード類, 床材 | 教科書による予習復習 |

| | |
|------|------------------|
| 関連科目 | 建築構造学・構法に関する科目一般 |
|------|------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|----------------------|-------|-------------------------------|
| | | | |
| 1 | 建築材料を学ぶ ーその選択から施工までー | 谷川恭雄他 | 理工図書 ISBN978-4-8846-0740-3 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 定期試験 (筆記) 100%で評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 日常生活において、建築の存在は極めて当然のものですが、これらは長い間の経験から得た知識・知恵の集大成と言えます。ぜひ日常においても建築を学ぶものとして意識と関心を持つよう心がけて下さい。 |
| 担当者の研究室等 | 神戸大学工学研究科建築学専攻 難波研究室 メールアドレス : naba@kobe-u.ac.jp |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------|
| 科目名 | 住環境設備A | 科目名(英文) | Building Services A |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 竹村 明久, 大橋 巧 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2033a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 建築環境設備には空調設備、給排水衛生設備、電気設備などがある。近年の建築や都市に関わる環境問題を背景として、講義では建築設備を広く住環境全般からとらえ直し、建築設備の基礎的な知識や考え方の修得を目的とする。 |
| 到達目標 | 建築環境工学における建築設備工学に関する基礎的知識の修得およびその知識を説明できる |
| 授業方法と留意点 | 原則として毎回、小演習を課す 授業中、講義の要点をノートに取る。ノートの提出を求めることがある。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など |

| | | | | |
|------|----|----------------|---|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 講義概要 | 建築設備工学の概要 建築設備と地球環境問題 エコ技術・環境配慮建築 | 教科書を読んで予習しておく。 |
| | 2 | 空調設備(1) | 空調設備の概要 空調設備方式の種類と特徴 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 3 | 空調設備(2) | 空調設備の計画 冷暖房負荷計算法1 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 4 | 空調設備(3) | 冷暖房負荷計算法2 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 5 | 空調設備(4) | 湿り空気線図と空調プロセス 空調機 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 6 | 空調設備(5) | 冷温熱源機器 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 7 | 前半講義のまとめテストと解説 | 前半講義のまとめテスト及びその解説を行う。 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 8 | 設備機械室の見学 | 学内の設備機械室を見学 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 9 | 給水設備 | 給水・給湯・ガス設備の概要と注意事項 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 10 | 排水・通気設備 | 排水の考え方と通気設備の必要性 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 11 | 衛生器具・排水処理設備 | 衛生器具の選定のための必要基礎知識と排水処理設備の概要 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 12 | 消火・防災設備(1) | 消火栓・スプリンクラーなどの水に関する消火設備の概要と法規 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 13 | 消火・防災設備(2) | 特殊消火設備と防災設備に関する概要と法規 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 14 | 電気・搬送設備 | 電気・搬送設備の概要と基礎知識 | 前回授業のノートを見返(整理)して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。 |
| | 15 | 後半講義のまとめテストと解説 | 後半講義のまとめテスト及びその解説を行う。 | テストに備えて教科書を参考に配布資料及びノートを整理しておくこと。 |

| | |
|------|------------------------------------|
| 関連科目 | 住環境設備B、住環境工学A、住環境工学B、環境工学演習、環境計画演習 |
|------|------------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|----------------|--------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 最新 建築設備工学(改訂版) | 田中俊六監修 | 井上書院 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 毎回の小演習及びEmatの受験状況等40% まとめテスト60%を総合的に評価する |
|----------|--|

| | |
|-----------|--------------------------|
| 学生へのメッセージ | 教科書を持参すること 遠慮なく質問すること |
|-----------|--------------------------|

| | |
|----------|--------------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 大橋研究室、竹村研究室 |
|----------|--------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 予習復習は配布資料、教科書について約1時間30分間程度の通読をこれに当てること |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------|
| 科目名 | 住環境設備 B | 科目名 (英文) | Building Services B |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大橋 巧, 曾我部 峰幸, 谷口 浩一郎 |
| ディプロマポリシー (DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3034a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | これからの環境配慮、環境共生建築を考える上で、建築設備に関する知識や専門技術の習得は欠かせない。本講義は、株式会社テクノ菱和、株式会社三晃空調に所属する非常勤講師、および株式会社日建設計で 16 年の実務経験をもつ教員が担当し、住環境設備 A までで学んだ基礎的な知識や考え方をベースに、先進的な情報も教授しつつ、実務に応用できる知識や技術の基礎を身につける。 |
| 到達目標 | 建築設備工学に関する最新情報を知り、実務に応用できる知識や技術の基礎を修得する。 |
| 授業方法と留意点 | 原則として毎回、小演習を課す。 授業中、講義の要点をノートに取ることを。ノートの提出を求めることがある。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|---|-------------------------------------|
| | | | |
| 1 | 講義概要全体の説明 現代空調設備の傾向 | 現代の空調設備に関する概説、基礎的な住環境設備の知識・理解度の確認 | 参考書「第 3 章 空気調和設備」について予習・復習のこと。 |
| 2 | 熱源機器 | 高効率、モジュール型等、最新熱源機器について (事例を交えて) | 参考書「第 3 章 空気調和設備」の熱源機器を予習・復習のこと。 |
| 3 | 空調機 | 空気調和機二次側設備について (事例を交えて)、最近の多種多様な直膨パッケージエアコンの紹介 | 参考書「第 3 章 空気調和設備」の空調機器を予習・復習のこと。 |
| 4 | 配管の全体システム | 主要空調機器に付帯するポンプと配管、全体システムについて (事例を交えて) | 参考書「第 3 章 空気調和設備」の配管設備を予習・復習のこと。 |
| 5 | ダクトの全体システム、換気設備 | ダクトと送風機について (事例を交えて)、換気設備の重要性について (事例や失敗談を交えて) | 参考書「第 3 章 空気調和設備」のダクト設備を予習・復習のこと。 |
| 6 | 産業用空調 | 産業用空調の概説、加湿と除湿についての応用、クリーンルームの概説・事例 | 参考書「第 3 章 空気調和設備」の産業用空調を予習・復習のこと。 |
| 7 | 衛生設備概要・給水設備 | 衛生設備概要、給水設備全般、給水汚染の原因と対策、各種給水方式について | 参考書「第 4 章給排水衛生設備」の給水設備を予習・復習のこと。 |
| 8 | 給水・給湯設備 | 給水容量算定方法とサイズ決定方法 給湯方式と給湯量、各種給湯方式について | 参考書「第 4 章給排水衛生設備」の給湯設備を予習・復習のこと。 |
| 9 | 排水・通気設備 | 排水通気方式について トラップ種別と機能、破封原因について | 参考書「第 4 章給排水衛生設備」の排水設備を予習・復習のこと。 |
| 10 | 消火設備 | 消防法と消火設備の関係 各種消火設備について | 参考書「第 4 章給排水衛生設備」の消火設備を予習・復習のこと。 |
| 11 | ガス設備・特殊設備 | ガス設備と安全対策、ガス燃焼方式と換気設備 特殊設備 (ろ過設備、医療ガス設備等) | 参考書「第 4 章給排水衛生設備」のガス・特殊設備を予習・復習のこと。 |
| 12 | エネルギーと建築・都市設備 1 (エネルギーとは) | エネルギー資源と安全保障、エネルギー消費の副産物、エネルギーの捉え方について | 参考書「第 1 章 概論」について予習・復習のこと |
| 13 | エネルギーと建築・都市設備 2 (都市のインフラ) | 都市のインフラ整備、非常時のインフラ機能、都市のエネルギー供給システム、地域冷暖房システムについて | 参考書「第 1 章 概論」について予習・復習のこと |
| 14 | エネルギーと建築・都市設備 3 (建築・都市の環境整備) | 建築・都市の営みに起因する環境負荷、環境評価について | 参考書「第 1 章 概論」について予習・復習のこと |
| 15 | 住環境設備 B まとめテスト | 空気調和設備・給排水衛生設備・エネルギーと都市・建築設備に関するまとめテストおよび解説 | 配布資料及び小演習問題を整理してよく復習しておくこと。 |

| | |
|------|---------------------------------------|
| 関連科目 | 住環境設備 A、住環境工学 A、住環境工学 B、環境工学演習、環境計画演習 |
|------|---------------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|------------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 授業中に適宜紹介する | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|----------------|--------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 最新建築設備工学 (改訂版) | 田中俊六監修 | 井上書院 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 小演習 30% (毎回) まとめてテスト 70% (最終回) 以上を総合的に評価する |
| 学生へのメッセージ | 積極的な質問など、前向きな取組みを期待する |
| 担当者の研究室等 | 12 号館 7 階 大橋研究室 |
| 備考 | 講義に係る予習・復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 住環境デザイン概論 | 科目名(英文) | Introduction to Residential Environment Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | C◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1026a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 住環境デザインを学ぶ導入として、住環境デザインの潮流を大づかみに把握し、住環境の諸要素とその性状を理解することによって、住環境デザインの基本的考え方、技術の基礎を習得することを目的とする。 |
| 到達目標 | 住環境デザインの基本的考え方、技術の基礎を習得すること。 |
| 授業方法と留意点 | パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 住環境デザインにかかわる基礎的知識を身につける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|---|------------------------|
| | | | |
| 2 | エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例 | 自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 3 | 環境配慮型デザインプロセス | 建物の省エネルギー化を目的としたデザインプロセスと、最新の省エネルギー技術について学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 4 | 地球共生建築のすすめ | 地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 5 | バイオミミクリ(バイオメティックス) | 自然界の生物の形態やプロセスを模倣し、私たちに役立てる技術について学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 6 | 映画の中の住環境 | 様々な映画に見る日本・世界・未来の住環境デザイン、そこから現代生活環境との違いについて考えてみる。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 7 | 次世代の住環境を考える | 私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生について学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 8 | 住まいの地域性とデザイン | 気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅の特徴とデザインについて学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 9 | 居住福祉と住宅のデザイン | 高齢者の心身機能の特性を踏まえて、福祉空間という視点から住宅の機能とデザインについて学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 10 | 学びと遊びの環境デザイン | 発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 11 | 地域と景観 | 地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 12 | 居住地域を把握する - 社会指標にみる地域の実態 | 我々が居住する地域について、社会指標を用いて表現する方法を学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 13 | 安全・快適な照明環境 | 照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と最近の調査、デザイン事例を、学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 14 | 人の感覚と住生活環境 | 住空間におけるにおい対策、かおりの活用をはじめと感覚に基づく環境デザインについて学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |
| 15 | CGと空間デザイン | インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。 | 配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。 |

関連科目 学科教育に関わる全ての専門科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準) 講義中における受講態度20%、講義メモ・課題・小テストなど80%で評価する。

学生へのメッセージ 住環境デザインというものを大づかみに把握し、そのなかから興味ある領域を見出すように努力してほしい。

担当者の研究室等 住環境デザイン学科共通準備室
12号館7階 岩田教授室、平田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、大橋准教授室
12号館6階 坂本教授室

備考 講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回1.5時間程度を目安とする。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 住環境倫理 | 科目名(英文) | Ethics of Residential Environment |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 浅見 雅之 |
| ディプロマポリシー(DP) | C◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3024a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 多発する大災害から派生する諸問題や、地球環境保全の問題、人口減少社会の問題、市民参画社会における地域づくり、ネットワーク社会がもたらす問題、専門分化の進んだ技術社会における諸問題など、様々な社会問題について知ることを通じ、住環境デザインの周辺に存在する倫理課題に取り組みます。 講義を通じて、現在に適合した倫理観を養い、自ら行動するための判断基準・マインドセットを手に入れることを目的とします。 |
| 到達目標 | 私達を取り巻くさまざまな社会問題に対し、多様な価値基準を参考に、単なる主観ではない自分の考えを手に入れ、それを文章化できる能力が身に付く。 価値判断の難しい悩みに直面した時、その問題を解決へと導くためのマインドセットが身に付く。 社会人として自立・自律的に行動するための、自分なりの価値判断基準が身に付く。 |
| 授業方法と留意点 | 倫理観は、自らが考え、養うものであることから、身近なところから課題を抽出し、何が倫理として問題であるのか、自分ならどうするかを考察する時間を重視し、各回の講義の時間内でショートレポートの提出を求めます。また、最終の授業後に、まとめの課題レポートの提出を求めます。 授業の目的に即し、学生の理解度に応じて、講義の内容を変更しながら進めることがあります。 必要に応じて、学生が仲間と共に学ぶためのワークショップを行うなど、議論の深まる参加型の授業を進めます。 必要に応じて、社会経験の豊かなゲスト講師を招いて、その職務経験をお聞きしながら、住環境倫理の課題を考える回を設けることがあります。 |
| 科目学習の効果(資格) | 進路決定に役立つような、住環境デザイン分野の様々な実務内容を学ぶことができます。 建築士試験の職業倫理に関する問題回答、就職試験、面接に役立つとともに、文章力も身につきます。 実務の上で、迷ったり悩んだりした際に、問題を解決に導けるマインドセットを身につけることができます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 住環境倫理が目指すもの | 講義内容・授業の進め方・評価基準等の説明を行います。 「課題解決のマインドセット」について講義し、この授業の目的についての理解を深めます。 | 倫理とは何かについて考えてくること。 |
| 2 | 都市景観と住環境倫理 | 景観保全の考え方について事例を通じて学び、景観は誰のために守られるべきかについて倫理的な観点から考えます。 | 景観保全の実例を探し、その景観が保全されることのメリット・デメリットについて考えて来ること。 |
| 3 | 歴史的建造物保存と住環境倫理 | 歴史的建造物保存の考え方について事例を通じて学び、価値ある歴史的建造物が残されない理由、残される理由について、倫理的な観点から考えます。 | 歴史的建造物の保存が問題になった事例を探し、その建造物が残らなかった理由、残された理由について考えてくること。 |
| 4 | 市民参画社会と住環境倫理 | まちづくりや建築設計における市民参加の手法について学び、現代社会において市民参加が重要である理由について、倫理的な観点から考えます。 | まちづくりや建築設計における市民参加の実例を探し、市民参加がどのようにそのプロジェクトに役立ったかを考えてくること。 |
| 5 | 災害復興と住環境倫理 | 東日本大震災を題材に、大災害がどのように社会の矛盾を顕在化させるかについて学び、復興まちづくりがどのように行われるべきかを、倫理的な観点から考えます。 | 大災害からの復興まちづくりの事例を探し、それがうまくいった理由・うまくいかなかった理由について考えてくること。 |
| 6 | 環境共生と住環境倫理 | サステナブルデザイン・サステナブルデベロップメントの考え方について学び、「環境にやさしい」ことがなぜ重要なのかについて、倫理的な観点から考えます。 | 地球にやさしいデザインの実例を探し、それが社会にどう役に立っているかを考えてくること。 |
| 7 | 人口減少社会と住環境倫理 | わが国における人口減少のメカニズム・現状について学び、人口が減る社会にあって、私達がどんな態度をとればよいかについて、倫理的な観点から考えます。 | 日本の人口減少の様子がよく分かる資料を探し、人口減少を止めることができるかどうかについて考えてくること。 |
| 8 | よりよいものを作るための作法 | 学生相互、技術者相互の正しい批評のあり方が、お互いがよりよい成果を出すために重要であることを学び、実践してみます。 | 批評と批判とはどう違うか、正しい批評とはどんなことかについて考えてくること。 |
| 9 | 限界集落と住環境倫理 | 限界集落の実情について学び、集落は維持・存続されるべきか、集落をなくして町に集まって住むべきかについて、倫理的な観点から考えます。 | 限界集落の再生の実例を探し、集落を存続させようという熱意がどこからうまれるかについて考えてくること。 |
| 10 | ニュータウンと住環境倫理 | ニュータウンの成り立ちと、オールドニュータウンの実情について学び、ニュータウンという住環境開発の手法は有効な手法だったのかについて、倫理的な観点から考えます。 | オールドニュータウンの再生事例を探し、ニュータウンの再生がうまくいくには何が必要なのかについて考えてくること。 |
| 11 | リノベーションと住環境倫理 | 自力施工による建築リノベーションが注目されている現状について学び、自力施工によってもたらされるものについて、倫理的な観点から考えます。 | 自力施工により建築リノベーションの実例を探し、自力施工にはどんなメリット・デメリットがあるかについて考えてくること。 |
| 12 | 建築デザインと住環境倫理 | 建築の発注者・利用者・設計者の関係について学び、建築デザインは誰のものか、建築のデザインはどんなプロセスで行われるべきかについて倫理的な観点から学びます。 | 自分の好きな建築物について、そのデザインが誰の意図によって成り立っているかについて取材するか、考えてくること。 |
| 13 | 高齢化社会と住環境倫理 | 高齢化社会の現状や、福祉住環境の整備の実例について学び、高齢期の住まいを | 身近なお年寄りや対話するなど、高齢者の住生活上の困難や、生活上の工夫について取材して来るこ |

| | | | どのように選ぶべきか、どのようにつくるべきかを、倫理的な観点から考えます。 | と。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------------|---|--|----|-----|-----|------|---|--------------------------------|----------------|------|---|--------|-----|---------|---|--------------|-----|------|
| | 14 | 建築法規と住環境倫理 | 複雑で難解なことで有名な建築法規は、いったいどのように社会に役に立っているのかを学び、建築法規を守るべき理由について、倫理的な思考から考えます。 | 学んだ建築の法規のうち、どうしてそんなルールになっているのか気になるものを選び、その理由について考えてくること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 住環境倫理演習 | “これまで学んだ住環境倫理の題材を使ったグループ演習により、実社会における様々な課題に直面した場合、私達はどのような態度でいるべきか、倫理的な態度とはどんな態度なのかについて考えます。 また、最終レポート課題を出題し、解説を行います。” | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 設計演習、建築環境工学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>BE KOBE 震災から20年、できたこと、できなかったこと</td> <td>BE KOBE プロジェクト</td> <td>ポプラ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地方創生大全</td> <td>木下齊</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ふるさとを元気にする仕事</td> <td>山崎亮</td> <td>筑摩書房</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | BE KOBE 震災から20年、できたこと、できなかったこと | BE KOBE プロジェクト | ポプラ社 | 2 | 地方創生大全 | 木下齊 | 東洋経済新報社 | 3 | ふるさとを元気にする仕事 | 山崎亮 | 筑摩書房 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | BE KOBE 震災から20年、できたこと、できなかったこと | BE KOBE プロジェクト | ポプラ社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 地方創生大全 | 木下齊 | 東洋経済新報社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ふるさとを元気にする仕事 | 山崎亮 | 筑摩書房 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 各回課題評価(第8回・最終回以外の各回(計13回)) 60%、最終レポート課題 40%として評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 住環境デザインを学び、建築の専門家になる皆さんは、専門家の倫理とはどういうものであり、専門家の責任がどういうものであるかの全体像を、感覚的に把握しておく必要があります。特に覚えなければならないことがあるわけではなく、自分なりの判断基準を手に入れるために、自分の考えを深めることに重点を置いて授業を進めます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 または 12号館7階稲地准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>考えることの楽しさを体感しましょう。</p> <p>授業の内容についての質問などは、以下のメールアドレスに送ってください。 asami.masayuki@me.com</p> <p>事前事後学習は概ね1.5時間程度おこない、各回授業内容を確実に定着させることを心がけて下さい。</p> <p>興味を持たれた内容について、本を読んだり、ネットで調べて深掘りすることをすすめます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 住居計画学 | 科目名(英文) | Planning Theory of Dwelling Settlement |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 稲地 秀介 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2046a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 住居には様々なタイプがあることを認識し、それぞれの住居タイプの成り立ちを理解して、幅広い視野から住居を見る眼と、社会の変化に対応する今後の住居計画のあり方について考える力を養う。 |
| 到達目標 | 次にあげる項目を理解し、基礎的な住居の設計計画課題について論述ができるレベルを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> 日本の住居計画の変遷と具体事例 人間工学的視点からの住居計画(バリアフリーなど) 集合住宅および住宅地開発の計画手法 地域特性と住居計画 家族生活と住居タイプ |
| 授業方法と留意点 | 現代日本住居の変遷を概観したうえで、住宅近代化の過程、異なる地域の住居の比較、建築家による住宅、集合住宅などについて具体的事例を題材にして講述し、新しい都市居住に対応する住居のあり方について考究する。特に教科書は指定しないため、参考図書や配布プリントで紹介する書籍は出来るだけ目を通すなど、授業だけではなく周辺からも住居計画に関する基礎的知識を吸収することが必要である。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士試験、二級建築士、木造建築士の計画出題範囲に含まれる部分がある。 |

| | | | | |
|------|----|------------------|-----------------------|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 現代日本住居の系譜 | 住居のタイプとその変遷 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 2 | 都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅰ | 続き間型住宅、中廊下型住宅、居間中心型住宅 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 3 | 都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅱ | LDK型住宅、商品化住宅 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 4 | 現代住居の地域性 | 気候、文化の違いと住宅 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 5 | 建築家による住宅Ⅰ | 住様式と平面構成の提案 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 6 | 建築家による住宅Ⅱ | 都市化のなかでの提案 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 7 | 建築家による住宅Ⅲ | 構法・空間構成の提案 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 8 | 集合住宅の変遷Ⅰ | 近代的集合住宅の起源 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 9 | 集合住宅の変遷Ⅱ | 郊外大規模団地 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 10 | 集合住宅の変遷Ⅲ | 高層化・高密度化 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 11 | 集合住宅の変遷Ⅳ | 多様性への対応 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 12 | これからの家族と住居 | 家族生活と住居タイプ | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 13 | これからの都市居住 | 住宅供給方式と住宅形式 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。 |
| | 14 | 住宅実例の見学 | 住宅の図面と実施事例 | 授業配布のプリントにある課題を行い、復習すること。 |
| | 15 | まとめ | 講義のまとめとテスト | これまでの講義内容を復習しておくこと |

関連科目 住生活学、建築計画学、設計演習Ⅲなど

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|---------------------|-------------|---------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 眼を養い手を練れ(2) 集まって住もう | 居住空間デザイン講師室 | 彰国社 |
| | 2 | 眼を養い手を練れ—宮脇檀住宅設計塾 | 宮脇塾講師室 | 彰国社 |
| | 3 | 住まいを読む—現代日本住居論 | 鈴木成文 | 建築資料研究社 |

評価方法 授業期間内のレポート等20%、テスト80%

| | |
|-----------|---|
| (基準) | |
| 学生へのメッセージ | 住居は誰でも体験している施設であるがゆえに体験による狭い固定観念に縛られやすい。より幅広い視野で住居計画を考えられるように、学習に取り組んでほしい。 |
| 担当者の研究室等 | 12号館 7階 稲地准教授室 |
| 備考 | 講義に関連したレポート課題を課す。具体的指示は講義中に示す。住宅の実践事例の見学を行う。また、本授業科目に関係の深い学外講師によるレクチャーを行う場合がある。 講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 集合住宅管理学 | 科目名(英文) | Management of Collective Housing |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3045a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 住宅の中に占める集合住宅の割合は増加している。それらを適切に維持管理し、建物の資産価値とともに居住性を向上させることは、重要な課題である。集合住宅は、1棟丸ごと大家が所有している賃貸タイプと、各住戸を区分所有者が所有する分譲タイプがあるが、後者はその所有形態の複雑さから特別な管理方法が必要である。集合住宅の所有方法と管理方法、それを取り巻く法制度について学び、賃貸住宅と分譲住宅について比較しながら学ぶ。 |
| 到達目標 | 集合住宅の建築物としての特徴を理解したうえで、管理についての建築的側面、法制度の面、生活上の工夫などの基礎的知識を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | プリント資料とパワーポイントを用いた講義とする。9回目のころに専門家をゲストスピーカーとしてお招きして、講義を聞く機会を持つ予定である。授業の中ほどで、中間テストを行う予定である。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、マンション管理士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| | | | |
| 1 | 授業のガイダンス、なぜ集合住宅管理を学ぶのか | 日本における集合住宅の現状、集合住宅の管理を学ぶ意義 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 2 | 集合住宅とは何か | 集合住宅の定義と歴史 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 3 | 分譲集合住宅の所有の仕組み | 区分所有、区分所有法 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 4 | 分譲集合住宅管理と管理組合 | 管理組合、分譲会社の役割、管理組合の役割と管理システム | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 5 | 管理組合の運営(1) | 分譲集合住宅における規約と集会 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 6 | 管理組合の運営(2) | 理事会と理事、管理者 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 7 | 管理組合の運営(3) | 管理会社、管理組合法人、管理費・修繕積立金 | 授業終了時にチェックテストを行う。中間テストの準備をしておくこと。 |
| 8 | これまでの講義のまとめと中間テスト | これまでの講義のまとめと中間テスト | 中間テストの復習をすること。 |
| 9 | 分譲集合住宅の修繕、維持管理 | 計画修繕、大規模修繕の進め方～ゲストスピーカーをお招きして～ | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 10 | 分譲集合住宅の建て替え | 合意形成、マンション建て替え円滑化法 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 11 | 分譲集合住宅の生活管理 | 借家人の管理責任、分譲集合住宅におけるコミュニティ | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 12 | 分譲集合住宅をめぐる問題と行政の対応 | マンション管理適正化法、管理標準指針、みらいネット | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 13 | 賃貸住宅の管理(1) | 賃貸住宅の管理とは? | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 14 | 賃貸住宅の管理(2) | 原状回復などのトラブルと解決方法 | 授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。 |
| 15 | まとめの講義とテスト | まとめの講義とテスト | これまでの講義内容を復習しておくこと。 |

| | |
|------|-------------------|
| 関連科目 | 住生活学、住環境管理学、地域計画学 |
|------|-------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | チェックテスト20%、中間テスト40%、まとめのテスト40%で、総合的に評価する。 授業開始後30分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 授業のほかにも、身近にある集合住宅を見学したり、管理の実際の話聞くことで、集合住宅管理への関心が高まり、理解が深まると思います。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 平田教授室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする。 中間テストは採点后、返却する。まとめのテストは返却しない。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------------|
| 科目名 | 住生活演習 | 科目名(英文) | Exercises in Housing Lifestyle |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期前半 | 授業担当者 | 平田 陽子, 坂本 淳二 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3068a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 住宅や建築物を設計したり、あるいは地域計画を行う際に、予め、その住宅の居住者や地域の利用者の声を聞くことが重要である。本科目は、地域づくりや建物づくりを行う際に、その地域がどのような地域であり、居住者がどのような要求をもっているかを知るための方法について演習を通じて学ぶことを目的とする。 |
| 到達目標 | 住民要求や地域の状況を把握するための各種調査手法を学ぶ。そのうえで、実際にテーマを定めて調査し、集計・分析を行い、報告をするという一連の調査研究の流れを身につけ活用できることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | プリントやパワーポイントを用いた講義と、実際に現場に出るフィールドワーク、受講生が取り組む報告会を交えて行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会調査の基礎、ワークショップの進め方等を学ぶことで、企画調査や住民参加型の設計・計画づくりに役立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| | | | |
| 2 | 社会調査・アンケート調査を知る(1) | 社会調査・アンケート調査の種類について | 配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。各種調査の事例を探す。 |
| 3 | 社会調査・アンケート調査を知る(2) | 調査情報の発掘(1) 寝屋川市の統計データを調べる | 配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。 |
| 4 | 社会調査・アンケート調査を知る(3) | 調査情報の発掘(2) 既存研究を調べる | 配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。 |
| 5 | 社会調査・アンケート調査を知る(4) | 企画・設計、サンプリング | 配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。 |
| 6 | 調査票の作成(1) | 質問調査用紙の作成(1) 質問仮説の設定、対象地の選定 | 配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。 |
| 7 | 調査票の作成(2) | 質問調査用紙の作成(2) 項目案の作成 | 配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。 |
| 8 | 調査票の作成(3) | 質問調査用紙の作成(3) 質問文、選択肢の作成 | 配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。 |
| 9 | フィールドワーク(1) | 調査に取り組む(1) | 現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと。 |
| 10 | フィールドワーク(2) | 調査に取り組む(2) | 現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと。 |
| 11 | 報告会の準備(1) | 調査の集計・分析 | 調査結果の集計・分析・考察 |
| 12 | 報告会の準備(2) | 調査の集計・分析・検定 | 調査結果の集計・分析・考察 |
| 13 | 報告会の準備(3) | 調査の集計・分析・考察 | 調査結果の集計・分析・考察 |
| 14 | 調査研究の報告会(1) | これまでの調査研究の報告と講評会 | 報告会のための資料の準備を行う |
| 15 | 調査研究の報告会(2) | これまでの調査研究の報告と講評会 | 報告会のための資料の準備を行う |

| | |
|------|-----------------------------|
| 関連科目 | 地域・都市計画学、住環境管理学、空間情報演習、卒業研究 |
|------|-----------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----------|-------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | まちの見方・調べ方 | 西村幸夫他 | 朝倉書店 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 演習への取り組み(20%)、報告課題(80%)で評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 空間情報演習で取り組む課題と関連したテーマを扱うため、空間情報演習とともに履修することが望ましい。 |
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 平田教授室 |
| 備考 | 事前事後学習は毎回概ね1時間行うことが望まれる。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------|
| 科目名 | 住生活学 | 科目名(英文) | Housing Lifestyle Theory |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1043a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 住居の計画・設計の基盤になる考え方とその主要なポイントについて、文化、社会、歴史の文脈の中で理解する。さらに、住生活と住空間、また住環境との相互の対応関係について、その基本的構造を理解する。 |
| 到達目標 | 日本における住宅の成り立ちやその基本的な特徴、住様式について理解をし、今後の住居デザインのあり方を考える力を養う。また、地球環境や住環境保全についての問題意識が高まる中、住宅計画や住宅管理の上でもどのような工夫がなされているかについても理解を深める。 |
| 授業方法と留意点 | パワーポイントを用いた講義。原則として、毎時間終了後、簡単なチェックテストを行う。授業7回目に、中間試験を行う予定である。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士を受験するには、必要な科目である。 |

| | | | | |
|------|----|-----------------------|-------------------------|--------------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 授業のガイダンス、日本の住まいの変遷(1) | 住生活を学ぶ意義、原始時代から中世までの住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 2 | 日本の住まいの変遷(2) | 近世の住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 3 | 日本の住まいの変遷(3) | 近代の住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 4 | 日本の住まいの変遷(4) | 現代の住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 5 | 快適な室内環境(1) | 熱・湿度・光 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 6 | 快適な室内環境(2) | 音・空気・水 | 授業中に小テストを行う。中間テストに向けて、復習をしておくこと。 |
| | 7 | 前半講義のまとめと中間テスト | 前半講義のまとめと中間テストを実施する | テストの復習を行なっておくこと。 |
| | 8 | 住まいと家族生活(1) | 「家族」の変化と住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 9 | 住まいと家族生活(2) | 子どもの生活空間 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 10 | 住まいと家族生活(3) | 高齢者の生活空間 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 11 | 住まいと社会(1) | 日本の住宅事情と住環境 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 12 | 住まいと社会(2) | 住まいの居住水準 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 13 | 住空間の形態と構成(1) | 住まいと選択と管理 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 14 | 住空間の形態と構成(2) | 空間の認識と構成 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 15 | 講義のまとめとテスト | 講義のまとめとテストを実施する | これまでの講義内容を復習しておくこと。 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 住環境管理学 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|------------------|--------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 住生活論 | 松井静子編著 | 建帛社 |
| | 2 | 住まい方から住空間をデザインする | 林知子他 | 彰国社 |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 講義中に行う確認テスト20%、中間試験30%、まとめのテスト50%で評価する予定である。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 自分の身の回りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めてください。きっと新しい発見があることでしょう。 授業開始後30分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 平田教授室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする。 中間テストは採点后、返却する。まとめのテストは返却しない。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|--------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 住生活学 I | 科目名 (英文) | Housing Lifestyle Theory I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 住居の計画・設計の基盤になる考え方とその主要なポイントについて、文化、社会、歴史の文脈の中で理解する。さらに、住生活と住空間、また住環境との相互の対応関係について、その基本的構造を理解する。 |
| 到達目標 | 日本における住宅の成り立ちやその基本的な特徴、住様式について理解をし、今後の住居デザインのあり方を考える力を養う。また、地球環境や住環境保全についての問題意識が高まる中、住宅計画や住宅管理の上でもどのような工夫がなされているかについても理解を深める。 |
| 授業方法と留意点 | パワーポイントを用いた講義。原則として、毎時間終了後、簡単なチェックテストを行う。授業 7 回目に、中間試験を行う予定である。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 一級建築士、二級建築士を受験するには、必要な科目である。 |

| | | | | |
|------|----|------------------------|-------------------------|--------------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 授業のガイダンス、日本の住まいの変遷 (1) | 住生活を学ぶ意義、原始時代から中世までの住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 2 | 日本の住まいの変遷 (2) | 近世の住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 3 | 日本の住まいの変遷 (3) | 近代の住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 4 | 日本の住まいの変遷 (4) | 現代の住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 5 | 快適な室内環境 (1) | 熱・湿度・光 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 6 | 快適な室内環境 (2) | 音・空気・水 | 授業中に小テストを行う。中間テストに向けて、復習をしておくこと。 |
| | 7 | 前半講義のまとめと中間テスト | 前半講義のまとめと中間テストを実施する | テストの復習を行なっておくこと。 |
| | 8 | 住まいと家族生活 (1) | 「家族」の変化と住まい | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 9 | 住まいと家族生活 (2) | 子どもの生活空間 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 10 | 住まいと家族生活 (3) | 高齢者の生活空間 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 11 | 住まいと社会 (1) | 日本の住宅事情と住環境 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 12 | 住まいと社会 (2) | 住まいの居住水準 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 13 | 住空間の形態と構成 (1) | 住まいと選択と管理 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 14 | 住空間の形態と構成 (2) | 空間の認識と構成 | 授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。 |
| | 15 | 講義のまとめとテスト | 講義のまとめとテストを実施する | これまでの講義内容を復習しておくこと。 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 住環境管理学 |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|------------------|--------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 住生活論 | 松井静子編著 | 建帛社 |
| | 2 | 住まい方から住空間をデザインする | 林知子他 | 彰国社 |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 講義中に行う確認テスト 20%、中間試験 30%、まとめのテスト 50% で評価する予定である。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 自分の身の回りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めてください。きっと新しい発見があることでしょう。 授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 12 号館 7 階 平田教授室 |
|----------|-----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。 中間テストは採点后、返却する。まとめのテストは返却しない。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------------------|
| 科目名 | 住宅生産学 | 科目名(英文) | Housing Construction Methods |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 吉田 文久 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2042a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 建築物がどのようにつくられているのかを学習する。授業では、地盤調査などの施工前の準備から、建築工事、そして維持管理に至るまでの一連の建築工事の過程を、工場や工事現場の実例を示しながら分かりやすく説明する。建築施工に関しては、構造規定や法令などの専門的な規定や取り決めが数多く存在するが、その背景や理由についてもできる限り詳細に解説する。 |
| 到達目標 | 住宅をはじめとする建築物が、工場や工事現場でどのように作られているのかが理解できる。また、建築で使用する材料がどのように作られて、どのように供給されているのかが理解できる。構造規定や法令など、建築施工に関わる専門的な規定について理解できる。二級建築士の学科試験レベルの知識を習得できる。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書を用いた講義中心の授業形式とし、授業時間内に質疑応答時間を設ける。毎回、レジュメプリントを配布し、授業の終わりに小テストを実施する。第6回の授業は、住宅メーカーの技術研究所において、学外授業を行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士 一級建築施工管理技士 技術士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| | | | |
| 2 | 工事契約 積算 施工計画と管理 | 建築工事全体の流れ、施工準備と施工計画について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 3 | 地盤調査 測量 | 建設地の地盤調査および測量について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 4 | 仮設工事 土工事 | 仮設工事と土工事について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 5 | 基礎工事 | 直接基礎や杭基礎工事について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 6 | 学外授業(技術研究所見学) | 大和ハウス工業(株)総合技術研究所の施設を見学する。 | なし |
| 7 | 鉄筋コンクリート工事(1) | 鉄筋工事、型枠工事について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 8 | 鉄筋コンクリート工事(2) | コンクリート工事について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 9 | 鉄骨工事(1) | 溶接接合について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 10 | 鉄骨工事(2) | 高力ボルト接合について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 11 | コンクリートブロック工事 木工事 | コンクリートブロック工事および木造住宅の木工事について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 12 | 外装工事(1) | 屋根工事、防水工事について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 13 | 外装工事(2) | タイル工事、塗装工事、ガラス工事について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 14 | 内装工事 設備工事 | 天井や壁などの内装工事、設備工事について講義する。 | 小テストで出た内容を復習すること。次回講義で答え合わせをします。 |
| 15 | 維持管理 習得状況確認テスト | 維持管理に関する講義と習得状況確認テストを行う。 | 習得状況確認テストを行うので、事前に全講義の内容を復習しておくこと。 |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 毎回授業の終わりに実施する「小テスト」20%、第15回授業で実施する「習得状況確認テスト」80%の割合で総合的に評価を行う。 |
| 学生へのメッセージ | 教科書を用いた講義中心の授業ですが、学外授業も行います。(大和ハウス工業総合技術研究所) |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
| 備考 | 講義に係る予習・復習は、毎回90分程度を目安とします。授業時間外での質問等については非常勤講師室で行います。(講義前の30分) |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------------|
| 科目名 | 情報リテラシー I | 科目名 (英文) | Information Literacy I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 妹尾 史郎, 星山 幸子 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1022a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | コンピュータと情報通信ネットワークを利用するために必要な基礎的知識と技術を習得する。Windows システムをベースとして、オフィスアプリケーションの基本操作の習得と、電子メールやインターネットの利用技術、さらには数値データの収集・分析に必要な基礎技法を習得する。 |
| 到達目標 | 理工学に関連する情報処理の重要性を認識する。コンピュータの基本操作を習得し、理工学の学習・研究においてコンピュータを有効活用できるようにする。 |
| 授業方法と留意点 | Word, Excel および PowerPoint を取り上げ、とくに数学的に考察する能力の向上を図ったデータ収集と分析に関する演習課題を提示し、演習を行う。また、コンピュータと情報通信ネットワークの基礎知識を習得するための資料を配付する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | IT パスポート (国家資格) や Microsoft オフィスペシャリスト (民間資格) の試験に役に立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|----------------------------------|---|
| | | | |
| 2 | Windows システム | ・Windows の基本操作 | ファイル操作と文字入力に慣れる。 (1 章全般) |
| 3 | 電子文書の作成 | ・Word の基本操作, レイアウト ・ファイル入出力 | Word の起動・終了, 文書ファイルの読込・保存方法を理解する。 (2.1~2.4 の演習課題) |
| 4 | 電子文書の作成 | ・罫線と表作成 ・オブジェクト (図) の挿入 | 罫線の引き方, 表と図の作成方法を整理しておく。 (2.5~2.7 の演習課題) |
| 5 | 表計算入門 | ・Excel の基本操作 ・セルの概念 | Excel 起動・終了, 表計算ファイルの読込・保存方法を理解する。 (3.1~3.3 の演習課題) |
| 6 | 表計算とグラフ | ・グラフの作成 ・簡単なデータベース | セルの相対参照と絶対参照の違いを整理する。 (3.4~3.5 の演習課題) |
| 7 | 表計算と関数 | ・数学関数 ・統計関数 | 利用する数学関数の使い方を理解する。 (3.6 の演習課題) |
| 8 | 演習 | ・表計算のまとめ ・理工学系レポート作成の基本 | レポート作成要領を理解する |
| 9 | 電子メール | ・電子メールの配信の仕組み ・課題のメール送信 | 添付ファイルの送信方法を理解する。 (4.1, 4.2 の練習) |
| 10 | ネット技術と情報検索 | ・情報検索の方法 ・HTML 入門 | インターネットの仕組みを理解する。 (4.3 と 5.1 の練習) |
| 11 | 演習 | ・情報検索と HTML レポートのまとめ方 | レポートのまとめ方を整理する。 (演習課題配布) |
| 12 | プレゼンテーションソフト入門 | ・PowerPoint の基本操作 | PowerPoint の起動・終了, ファイルの読込・保存を理解する。 (6 章全般) |
| 13 | プレゼンテーション資料の作成 | ・効果的なデータ提示 (ヒストグラム等) ・資料の作成方法 | Word 文書の作成との違いを理解する。 (6 章全般) |
| 14 | テクニカル・プレゼンテーション 総合演習 (1) | ・プレゼンテーション資料の作成演習 ・発表の仕方 | 総合演習課題 |
| 15 | 総合演習 (2) | ・演習課題とレポート作成 | 総合演習課題 |

関連科目 -

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------------|-------|------|
| | 1 | Office2016 で学ぶコンピュータリテラシー | 小野目如快 | 実教出版 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 毎回の演習や小テスト (30%) と、演習レポート (70%) で評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 学業を遂行していく上で必須となる情報処理の基本技術を身につけることができます。毎回実施する演習課題を着実にこなしていくことが重要です。 |
| 担当者の研究室等 | 7 号館 2 階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 事前事後学習には概ね 1.5 時間程度おこない、各回授業内容を確実に定着させることを心がけて下さい。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------|
| 科目名 | 情報リテラシーII | 科目名(英文) | Information Literacy II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 妹尾 史郎, 星山 幸子 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1023a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 情報技術の有効利用の中でも、科学技術分野においてとりわけ重要であるデータの処理と分析のための種々の数学的処理技法を理解する。表計算ソフトを用いて、その特有のデータ処理・分析の操作・手順を学ぶ。 |
| 到達目標 | 理工学分野で必要となる情報（数値データ）の処理方法と基本的分析方法を習得する。 |
| 授業方法と留意点 | 代表的かつ標準的な表計算ソフトである Excel を対象とする。Excel の多種多様な機能のうち理工系の学生にとって必要なデータの集計・分析に有効利用できる機能に焦点を絞り、表計算を利用した数学的な考察能力の向上を促進するための演習を行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | ITパスポートや基本情報処理技術者(ともに国家資格)やMicrosoft オフィスペシャリスト(民間資格)の試験に役に立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 利用システムの説明 表計算の基本操作(1) | ・演習室の概要とシステム ・授業計画と受講留意事項の説明 ・ソフトの起動・終了, データ入力 | 情報処理室の利用手引きを読む。 (第1~3回の課題) |
| 2 | 表計算の基本操作(2) 効果的なグラフ表現 | ・表の整形, 数式入力 ・式のコピーと貼り付け ・グラフの作成 | 表のレイアウト設定に関する演習課題の配布 (第4~6回の課題) |
| 3 | 関数の利用 | ・数式の書き方 ・関数ウィザード | 統計基本関数を用いた演習課題の配布 (第7回の課題) |
| 4 | データ集計とセルの参照 | ・セルの相対参照と絶対参照 ・データの並び替え | オートフィルタの演習 (第8回の課題) |
| 5 | ヒストグラム | ・分析ツールの利用 ・論理関数によるヒストグラムの作成 | ヒストグラム作成の演習 (第9回の課題) |
| 6 | 散布図と回帰分析 | ・回帰直線とデータの推測 | 散布図の作成と回帰直線によるデータ分析の演習 課題 (第10回の課題) |
| 7 | 相関係数 | ・相関係数とは ・相関係数の求め方 | 相関係数を用いたデータ分析の演習課題 (第11回の課題) |
| 8 | 統計基礎量(分布の代表値・ 広がり) | ・分布の代表値(平均値/中央値/最頻 値) ・分布の広がり(最大最小/分散/標準 偏差) | データ集計とデータ分布の割合に関する演習課題 (第12回の課題) |
| 9 | 正規分布 | ・正規分布とは/標準正規分布 ・分布データの存在確率 | 正規分布関数を用いたデータ分析の演習課題 (第13回の課題) |
| 10 | データの標準化(平均と標準 偏差) | ・平均が異なるデータの比較/標準偏差 の異なるデータの比較 ・分布の異なるデータの比較/データの 標準化 | データの標準化と比較の演習課題 (第14回の課題) |
| 11 | 分析ツールによる単回帰分 析 | ・散布図による回帰分析 ・相関係数と決定係数 ・分析ツールを用いた単回帰分析 | 分析ツールを用いた単回帰分析の演習課題 (第15回の課題) |
| 12 | 重回帰分析 | ・相関行列/重回帰分析の基本 | 分析ツールを用いた重回帰分析の演習課題 (第16回の課題) |
| 13 | 重回帰分析の応用1(判別分 析) | ・判別分析 | 簡単な判別分析の演習課題 (第17回の課題) |
| 14 | 重回帰分析の応用2(数量化 理論) | ・数量化理論の基本 ・数量化理論による分析方法 | 簡単な数量化理論の演習課題 (第18回の課題) |
| 15 | 総合演習 | ・まとめ | データ集計・分析の総合的演習課題 |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | 情報リテラシー I |
|------|-----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------------------|-----|------|
| | 1 | 演習テキストおよび資料を毎回配布する | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--|-----|------|
| | 1 | 必要に応じて関連書籍(アスキー出版, インプレス出版等)を各自用意するとよい | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 毎回の演習や小テスト(30%)と、演習レポート(70%)で評価する。 |
|----------|------------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 上位学年次の学習や研究で必要となるデータの処理と分析の方法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する演習課題にじっくり取り組む姿勢が大事です。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前事後学習には概ね1.5時間程度おこない、各回授業内容を確実に定着させることを心がけて下さい。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------|
| 科目名 | 図形科学 | 科目名(英文) | Graphics Science |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 榊 愛 |
| ディプロマポリシー(DP) | C◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1028a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 図形の数学的な理解を基礎として、図形を読み解く力を養い、投影法に関する理解を深める。さらに、定規などを用いた演習を通して図形表現の基本的な技術を修得し、図形の幾何学的な特徴を理解するとともに空間把握力を培う。また3次元CADを用いて、コンピュータ上で3次元図形を表現する方法を学習する。 |
| 到達目標 | 学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関わる基礎的知識・技術者倫理（専門コア群共通系の学習） 3次元空間にあるもの（建物や家具など）を2次元平面（紙やパソコンの画面など）に表現するための知識と技術を習得することを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 講義と演習を組み合わせる授業を進める。不明点は質問してその都度解決すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 関連する資格：CAD利用技術者検定、CGエンジニア検定など。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|----------------------|--|--------------------------------------|----------------------------------|
| | | | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | イントロダクション 図形科学の概要 | 授業内容、持ち物、評価基準などについて説明する。 | 事前学習：建物が描かれた図を探し、その図が伝えたいことについて考える | 事後学習：事前学習で探した図はどの投影法で描かれているかを考える |
| 2 | 投影法の分類 平行投影法(1) | 投影法の種類と、正投影法について説明する。 | 事前学習：正投影法で描かれた図を探す | 事後学習：正投影法の特徴について説明できるように復習する |
| 3 | 平行投影法(2) | 直軸測投影法（特に等測投影法）、斜軸測投影法について説明し、等測投影図、斜軸測投影図を描く。 | 事前学習：等測投影法で描かれた図を探す | 事後学習：等測投影法の特徴について説明できるように復習する |
| 4 | 平行投影法(3) | 平行投影法のまとめ | 事前学習：正投影図、直軸測投影図、斜軸測投影図の特徴、作図手順を復習する | 事後学習：平行投影法の種類、特徴について復習する |
| 5 | 透視投影法(1) | 直接法の原理と作図方法について説明する。 | 事前学習：透視投影法で描かれた図を探す | 事後学習：透視投影図を描くしくみを復習する |
| 6 | 透視投影法(2) | 簡単な立体の透視投影図を直接法で描く。 | 事前学習：身の回りにある、2点透視図を探す | 事後学習：直接法のしくみを復習する |
| 7 | 透視投影法(3) | 複雑な立体の透視投影図を直接法で描く。 | 事前学習：身の回りにある、3点透視図を探す | 事後学習：大学内の建物の透視投影図を描く |
| 8 | 透視投影法(4) | 消点法の原理と作図方法について説明する。 | 事前学習：身の回りにある、3点透視図を探す | 事後学習：自分の好きな建物の透視投影図を描く |
| 9 | 透視投影法(5) | 簡単な立体の透視投影図を消点法で描く。 | 事前学習：消点法の作図方法を復習する | 事後学習：消点法の課題を完成させる |
| 10 | 透視投影法(6) | 透視投影図を直接法と消点法を併用して描く。 | 事前学習：直接法・消点法の作図方法を復習する | 事後学習：室内パースの課題を完成させる |
| 11 | 3DCADを用いた図形表現(1) | CADの基本について説明する。 3DCADの基本操作について説明する。 | 事前学習：3DCADについて調べる | 事後学習：3DCADの基本操作を復習する |
| 12 | 3DCADを用いた図形表現(2) | 3DCADを用いた立体図形の作成・編集操作について説明する。 | 事前学習：3DCADで作成された身の回りの事例を調査する | 事後学習：立体図形の作成・編集操作を復習する |
| 13 | 3DCADを用いた図形表現(3) | 3DCADを用いて、簡単な建物を作る方法について説明する。 | 事前学習：前回の内容を復習する | 事後学習：自分の好きな建物のモデルを作成する |
| 14 | 3DCADを用いた図形表現(4) | 3DCADを用いて作成した図を効果的にプレゼンテーションする方法について説明する。 | 事前学習：これまでの内容を復習する | 事後学習：プレゼンテーション手法の復習をする |
| 15 | まとめ・試験・解説 | これまでの内容について試験を実施し、解説する。 | 事前学習：これまでの内容を復習する | 事後学習：解説をふまえて復習する |

| | |
|------|-----------------------|
| 関連科目 | 基礎設計演習、空間表現演習、設計演習など。 |
|------|-----------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|-----------------------|
| 評価方法(基準) | 課題(20%)、試験(80%)で評価する。 |
|----------|-----------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 自分の思い描く空間を表現するための基礎が身につきます。積極的に取り組んでください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館 7階 榊准教授室 |
|----------|---------------|

| | |
|----|---------------------------|
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする |
|----|---------------------------|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名 | 生物学 | 科目名(英文) | Biology |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 尾崎 清和 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1018a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | 人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。 |
| 授業方法と留意点 | ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|--|-----------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問うビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」 | ————— |
| 2 | 生殖系系 神経系の構造と機能 | 生殖系系、中枢神経と末梢神経、神経の運動の妙 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 3 | 生殖系系 神経系の構造と機能 | ビデオ「人体ミクロの大冒険 第1章細胞のスーパーパワー」 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 4 | 内分泌系、神経系の構造 | ホルモンと神経との関係はどのようになっているのか | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 5 | 内分泌系、神経系の構造 | ビデオ「人体ミクロの大冒険 第2章細胞が出す魔法の薬」 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 6 | 免疫系の構造と機能 | 外敵への抵抗 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 7 | 免疫系の構造と機能 | ビデオ「人体ミクロの大冒険 老いと戦う細胞」 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 8 | 泌尿器系、循環器系の構造と機能 | 腎臓、心臓の働きの基礎知識 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 9 | 泌尿器系、循環器系の構造と機能 | ビデオ「人体 腎臓が寿命を決める」 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 10 | 骨、筋肉系の理解 | 骨、筋肉系に関する基礎知識 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 11 | 骨、筋肉系の理解 | ビデオ「人体 脂肪と筋肉が命を守る」 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 12 | 生物の多様性の理解 | 生物の系統、分類の基礎知識 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 13 | 生態系の理解 | 生態系、物質の循環の基礎知識 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 14 | 総括質問 | すべての授業内容に関する質問に答えるとともに、難解だった部分の解説を行う。 | 該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと |
| 15 | 習熟度試験 | 習熟度を確認する。 | ————— |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------|---------|------|
| | 1 | ニューステージ生物図表 | 浜島書店編集部 | 浜島書店 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 毎回の小テストを50%、習熟度試験を40%および授業態度：授業への応答状況10%により総合的に判断する |
| 学生へのメッセージ | 社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。 |
| 担当者の研究室等 | 枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1 |
| 備考 | 事後学習30分、授業日の授業前に小試験対策の事後学習30分が必要です。授業中の小テストについてはテスト終了後に解説する |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 西洋建築史 | 科目名(英文) | History of European Architecture |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 小林 正子 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2051a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 歴史的な作品にはさまざまな解釈の余地があるため、建築家は過去の作品を研究するのである。本科目では、近代の巨匠と呼ばれるル・コルビュジエをはじめ多くの建築家が、歴史から学び、知識と創意によって歴史を解釈し自分自身のデザインに生かしていく手法を、古代から近代に到るまでのさまざまな西洋建築の様式に見ていくとともに、時代・社会の産物である建築物に表れる様式への理解と過去の時代を読み解いていくことで建築の本質に触れる。 |
| 到達目標 | 建築において歴史は過去のものではなく生きた存在であることを認識するとともに建築設計においても歴史を学ぶことがいかに重要であるかを知る。現代建築も過去の作品の多角的な解釈の上に展開していることを学び、建築史が建築家にとってより身近な存在であることを再確認すること。 |
| 授業方法と留意点 | 近現代建築に生きている歴史建築をテーマに、各回、近・現代建築と歴史様式との関係を見ていく。西洋建築史という歴史の流れを通して建築を理解するため、欠席によって歴史の流れを中断することのないよう可能な限り出席することが望まれる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 建築史を学んだからといって、目に見える効果が即現れることはないが、歴史的解釈がデザインのヒントやアイデアに繋がる。 |

| | | | | |
|------|----|-----------|---------------|-----------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 建築の歴史を学ぶということ | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 2 | 古代-1 | 古代エジプト建築 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 3 | 古代-2 | 古代ギリシア建築 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 4 | 古代-3 | 古代ローマ建築 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 5 | 中世-1 | プレ・ロマネスク建築 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 6 | 中世-2 | ロマネスク建築 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 7 | 中世-3 | ゴシック建築 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 8 | 近世-1 | ルネサンス建築-1 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 9 | 近世-2 | ルネサンス建築-2 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 10 | 近世-3 | バロック建築 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 11 | 近世-4 | 新古典主義建築 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 12 | 近世-5 | 歴史主義・折衷主義 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 13 | 近代-1 | 近代のはじまり | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 14 | 近代-2 | 日本における西洋建築の受容 | 講義内容の復習をするとともに次回の講義との関係性に関心をもつこと。 |
| | 15 | まとめ | 様式とは? | 講義内容の復習をすること。 |

| | |
|------|---------------|
| 関連科目 | 近代デザイン論、各設計演習 |
|------|---------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | レポート課題(80%)及び受講姿勢(質問に対する発言・呼応・積極性・発表20%)を考慮して評価する。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 現代建築も過去の作品の多角的な解釈の上に展開しているからこそ歴史を学ぶ意義がある。建築設計においても歴史を学ぶことがいかに重要であるかを知ること。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 西洋建築史という歴史の流れを通して建築を理解するため、先の時代様式を理解した上で次回の講義を受講することが望ましいので、毎回1.5時間程度の講義の復習をすること。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|----------|---|
| 科目名 | 設計演習 I | 科目名 (英文) | Exercises in Architectural Planning and Drawing I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 川上 比奈子, 市川 裕子, 今井 俊夫, 岩田 三千子, 柳 愛, 白鳥 武, 竹村 明久, 中山 大介 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2058a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 基礎設計演習に続いて図面による建築表現を学ぶ。次いで、個人の空間、展示空間といった小規模でシンプルな空間の設計課題に取り組む。家具、展示物などから設計の手がかりをつかみ、空間をつくっていく方法を習得する。 |
| 到達目標 | 住宅デザインの基礎として比較的小規模なプログラムの建築空間構成およびその図面・模型表現ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 少人数ごとに教員の指導を受け、図面、模型などをとおして提案する。課題に関連する講義および図面、模型などを制作する実習。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。とくに講評会では設計の主旨、内容を分かりやすく説明できるように留意してほしい。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 一級建築士試験を受験するには必要不可欠な科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------|------------------|--|
| | | | 1 |
| 2 | 詳細図および軸組模型の理解と製図法、模型作成法の修得 | 詳細図の模写および軸組模型の制作 | 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと |
| 3 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 4 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 5 | 同上 | 同上 | 提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと |
| 6 | 住宅の設計 | 課題説明 | 課題に関連する資料の収集 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと |
| 7 | 同上 | エスキース | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと |
| 8 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 9 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 10 | 同上 | 中間提出とグループごとの講評 | 要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと |
| 11 | 同上 | エスキース | 中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと |
| 12 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 13 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 14 | 同上 | 作品提出 | 課題を各自ですすめておくこと 作品提出日時の厳守 |
| 15 | 同上 | 講評会 | 作品について説明できるように準備しておくこと |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など |
|------|---|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---------------|----------|-----------------|-------|
| | 1 | 初めての建築製図 | “建築のデキスト” 編集委員会 | 学芸出版社 |
| 2 | コンパクト建築設計資料集成 | 日本建築学会 | 丸善株式会社 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|----------------------|
| 評価方法 (基準) | 提出物 60%、日常の実習進行度 40% |
|-----------|----------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業はじめと終わりに押印する。 [スケッチブック名: CROQUIS white maruman ss1 表紙色ページ] を必ず購入しておくこと。 講評会は外来講師を交えたフォーマルなものです。その意識で臨んでください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 12号館 7階 川上教授室、白鳥准教授室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室 |
|----------|--|

| | |
|----|---|
| 備考 | 学外で調査、見学を行うことがある。 学外から講師を招聘して講評会を開催することがある。 演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 設計演習Ⅱ | 科目名(英文) | Exercises in Architectural Planning and Drawing II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 稲地 秀介・赤木 隆・大橋 巧・榎 愛・久富 敏明・平田 陽子・星田 逸郎・松本 尚子 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2059a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 比較的公共性の高い性格の小規模建築の計画・設計の課題を通して、敷地分析力(地域特性の調査理解)、施設計画力(想定される使われ方、機能と空間構成)や空間設計力(空間創造、表現)を養うことを目的とする。 |
| 到達目標 | 比較的公共性の高い性格の小規模建築の計画・設計に必要な基礎的事項①敷地分析、②施設計画、③空間設計手法を理解し、これに基づいた設計計画案を作成し、簡単なプレゼンテーションによって伝えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 課題に基づき、皆さんが事前に作業したエスキース案に対して、授業中に教員がコメントする方法で演習が進みます。エスキース案の制作改善作業や製図作業や模型制作作業を行わないと評価することが出来ませんので、必ず事前作業してから演習に出席して下さい。事前作業が余りにも不完全な場合には履修停止にする場合があります。また、優秀作品は、他大学(京都府立大学、奈良女子大学、大阪市立大学、帝塚山大学など)との合同講評会への出品を予定している。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士試験、二級建築士試験、木造建築士試験を受験するには必要不可欠な科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|----------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス、第一課題説明 | 設計演習Ⅱの目標、授業の進め方、および課題などについて説明する。 | 課題施設に関連する事例や資料の収集 |
| 2 | 第一課題(公共施設の設計) | 敷地調査および情報整理、施設機能の理解や事例収集 | クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。 |
| 3 | 同上 | エスキースチェック | 事例収集を行い、複数の計画案を検討する。 |
| 4 | 同上 | エスキースチェック | 事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。 |
| 5 | 同上 | 中間提出とグループごとの講評 | 講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。 |
| 6 | 同上 | エスキースチェック | 図面、模型の作成を行うこと。 |
| 7 | 同上 | エスキースチェック | 図面、模型の作成を行うこと。 |
| 8 | 講評会および第二課題(共同住宅の設計)の説明 | 作品提出、及び講評 | 作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。次の課題に関連する資料の収集、敷地見学をすること。 |
| 9 | 第二課題(共同住宅の設計) | 敷地調査結果の整理、施設機能の理解や事例収集 | クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。 |
| 10 | 同上 | エスキースチェック | 事例収集を行い、複数の計画案を検討する。 |
| 11 | 同上 | エスキースチェック | 事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。 |
| 12 | 同上 | 中間提出とグループごとの講評 | 講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。 |
| 13 | 同上 | エスキースチェック | 図面、模型の作成を行うこと。 |
| 14 | 同上 | エスキースチェック | 図面、模型の作成を行うこと。 |
| 15 | 講評会 | 作品提出、及び講評 | 作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など |
|------|---|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---------------|----------------|-------|
| | | | |
| 1 | コンパクト建築設計資料集成 | 日本建築学会編 | 丸善 |
| 2 | 初めての建築製図 | “建築のテキスト”編集委員会 | 学芸出版社 |
| 3 | ステップ・バイ・ステップ | 川北健雄 花田佳明他 | 彰国社 |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|----------------------|--------------|------|
| | | | |
| 1 | 眼を養い手を練れ(2) 集まって住もう | 居住空間デザイン講師室 | 彰国社 |
| 2 | 眼を養い手を練れ一宮脇檀住宅設計塾 | 宮脇塾講師室 | 彰国社 |
| 3 | 集住体を設計する(住環境の計画シリーズ) | 住環境の計画編集委員会編 | 彰国社 |

| | |
|----------|-------------------------------|
| 評価方法(基準) | 各回授業での作業内容についての評価20%、成果物評価80% |
|----------|-------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 日々の積み重ね以外に建築設計能力が向上するすべはありません。天からアイデアが降ってきたり、朝起きたら図面が出来ていたりすることはないので。突拍子もないことや、奇抜な形の空間をつくるのが設計ではありません。「使いやすい」、「多くの人に愛され」、「何十年も使い続けられる」ような建築をつくるのが真の建築設計だと思います。そのような建築を設計するためには、あなたは日々なにをすべきか?を考えてみてください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|----------------------------------|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 久富教授室、稲地准教授室、榎准教授室、大橋准教授室 |
|----------|----------------------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 各課題の講評会には外部講師を招き、講評して頂く予定です。演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---|
| 科目名 | 設計演習Ⅲ | 科目名(英文) | Exercises in Architectural Planning and Drawing III |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 久富 敏明, 稲地 秀介, 川上 比奈子, 河崎 敦子, 榑 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 中村 文紀, 鍋谷 めぐみ, 前川 治彦 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3060a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 学校などの地域施設的设计課題に取り組む。地域環境やコミュニティに視野をひろげ、企画のための調査、計画の組み立て作業を課題に取り入れて、構想力、計画力を養う。 |
| 到達目標 | 住環境デザインの基礎として比較的大規模で複雑なプログラムの建築空間構成およびその図面表現ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 少人数ごとに教員の指導を受け、案をつくりまとめていく。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。とくに講評会では設計の主旨、内容を分かりやすく説明できるように留意してほしい。 |
| 科目学習の効果(資格) | 1級建築士、2級建築士、木造建築士の資格試験に関連する内容 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|-------------------------------------|---|
| | | | |
| 2 | 密集市街地における地域活性化施設的设计 | 所要室と面積などの計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション | 根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと |
| 3 | 同上 | エスキース | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 4 | 同上 | 同上 | 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと |
| 5 | 同上 | 中間提出とグループ講評 | 要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと |
| 6 | 同上 | エスキース | 中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと |
| 7 | 同上 | 作品提出 | 作品提出日時の厳守 |
| 8 | 同上 後半課題、大都市におけるコミュニティスクールの設計 | 講評会 後半設計課題の説明 | 作品について説明できるように準備しておくこと 後半課題に関連する資料の収集、現地調査指示 |
| 9 | 同上 | 調査結果の報告とグループディスカッション | 敷地見学などの結果を発表できるように準備しておくこと |
| 10 | 同上 | エスキース | 要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと |
| 11 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 12 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 13 | 同上 | 中間提出とグループ講評 | 要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと |
| 14 | 同上 | エスキース | 中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと |
| 15 | 同上 | 作品提出及び講評 | 作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など |
|------|---|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|--------------|-------------------|----------|------|
| | 1 | 第3版 コンパクト建築設計資料集成 | 日本建築学会 編 | 丸善 |
| 2 | ステップ・バイ・ステップ | 川北、花田、三上、倉知、水島 | 彰国社 | |
| 3 | 初めての建築製図 | “建築のテキスト”編集委員会 | 学芸出版社 | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--------------------------|
| 評価方法(基準) | 提出物 60%、日常の実習に対する取組み 40% |
|----------|--------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業ははじめと終わりに押印する。 スケッチブックは、「CROQUIS white maruman ss1 表紙色ページ」を必ず購入する。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--|
| 担当者の研究室等 | 12号館7階 久富教授室、岩田教授室、平田教授室、川上教授室、榑准教授室、白鳥准教授室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 |
|----------|--|

| | |
|----|---|
| 備考 | 2つの課題ごとに広い視野からの批評を受けるべく、学外講師の招聘による講評会を予定している。 演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 設計演習Ⅳ | 科目名(英文) | Exercises in Architectural Planning and Drawing IV |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 久富 敏明, 稲地 秀介, 川上 比奈子 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3061a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 規模の比較的大きい公共施設の計画設計を通して基礎設計演習から設計演習Ⅲまでに学習した敷地分析手法、施設計画・提案手法、空間設計力手法などの基礎的技術や知識の定着と「計画全体をまとめる力」および「プレゼンテーション力」を養うことを目的とする。 |
| 到達目標 | 規模の比較的大きい公共施設の計画設計に必要な「敷地分析力」、「施設計画・提案力」、「空間設計力」などの基礎的技術や知識を理解・修得した上で、それらにもとづいた設計計画案の作成とプレゼンテーションによって他者に伝えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 課題にもとづく事前学習(エスキース・図面制作、模型製作など)結果に対して教員が指導する。事前学習が余りにも不完全な場合には履修停止にする場合がある。成果物の講評時(2回程度)に設計実務に携る学外講師を招く。また、必要に応じて学外施設見学(2回程度・授業日外)実施を予定している。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、木造建築士、インテリアコーディネーター、インテリアプランナーの資格試験に関連する内容 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|-------------------------------------|---|
| | | | |
| 2 | 〃 | エスキースチェック | 参考事例収集を行い, 複数の計画案を検討すること |
| 3 | 〃 | エスキースチェック | 複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること |
| 4 | 〃 | エスキースチェック | 複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること |
| 5 | 〃 | 中間提出と個人講評 | 講評の結果を受けて, 計画案の改善を検討. 図面・模型を制作すること |
| 6 | 〃 | エスキースチェック | 図面・模型を制作すること |
| 7 | 〃 | エスキースチェック | 図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること |
| 8 | 講評会および第2課題(公共施設2)の説明 | 外部講師を招いた講評会 | プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと. 講評者コメントなど改善すべき点を整理すること |
| 9 | 第2課題(公共施設2) | 敷地調査および施設機能の学習や事例収集の仕方を学習および計画課題の抽出 | クロッキー帖などに敷地情報などを整理する. 複数の計画案を参考事例として施設機能の理解や表現方法などを学習すること |
| 10 | 〃 | エスキースチェック | 参考事例収集を行い, 複数の計画案を検討すること |
| 11 | 〃 | エスキースチェック | 複数の計画案の検討, およびプレゼンテーション資料を制作すること |
| 12 | 〃 | 中間提出と個人講評 | 講評の結果を受けて, 計画案の改善を検討. 図面・模型を制作すること |
| 13 | 〃 | エスキースチェック | 図面・模型を制作すること |
| 14 | 〃 | エスキースチェック | 図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること |
| 15 | 講評会 | 外部講師を招いた講評会 | プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと. 講評者コメントなど改善すべき点を整理すること |

関連科目 建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、空間表現演習A、空間表現演習B

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-------------------|----------------|-------|
| 1 | 第3版 コンパクト建築設計資料集成 | 日本建築学会 編 | 丸善 |
| 2 | ステップ・バイ・ステップ | 川北、花田、三上、倉知、水島 | 彰国社 |
| 3 | 初めての建築製図 | “建築のテキスト”編集委員会 | 学芸出版社 |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法(基準) 各回授業での作業内容についての評価20%、成果物評価80%

学生へのメッセージ より高い建築設計能力を身につけるためには、自己流にこだわるのではなく、これまでの授業科目で習得してきた知見を元に、更に多くの知識をインプットする必要があります。そのために、専門誌を読み込むことと建築見学をとおして建築設計の知見を増やし技能を身につけましょう。建築に求められる「用・強・美」を設計することを基本として、少し先の未来をつくりだすことを目標とします。そのような建築設計を実現するために、インプットを重ねることを日課にしましょう。

担当者の研究室等 12号館7階 久富教授室、川上教授室、稲地准教授室

備考 本演習の目的に沿った学生参加可能な建築設計競技がある場合には、上記課題を変更し競技への参加になる場合がある。演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする。課題内容により、敷地周辺調査のための学外視察や学外講評会を実施する場合がある。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | ゼミA | 科目名(英文) | Seminar A |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | G◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1069a0 | | |

| 授業概要・目的 | [授業の概要・目的]住環境デザイン学科は、学際的な学問領域を含む学科であるため、幅広い分野の科目の中から自分に適した科目を選択し、自分自身で体系化して理解を深める必要がある。ゼミAでは、少人数形式の講義、討論、演習、さらに研修旅行や演習の発表会などを通して、多面的価値観を育成すること、及びコミュニケーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、学科の教育目標を周知し、教養教育の補完を図り、自分自身の適性を見つけさせるようにする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 発表会などにおいて、自己の考えもとに、他者の多面的価値観を踏まえコミュニケーションできる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ゼミは、教員数に合せ、学生を少人数に分けて行う。教員及び学生全体を大きく3つのグループに分けて行うこともある。研修旅行、見学会等は定時ゼミの時間割を休日等に振替えて実施することがある。実施日時は学期始めに連絡する。学期初めには、①学科の学習教育目標、②本学におけるISO14001規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>◆全体ゼミを、初日、中間、最終の計3回行い、教員個別の少人数ゼミを12回行う。</p> <p>○第1回全体ゼミ : 1回 学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う</p> <p>○研修旅行でのゼミ : 2回 関連する施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う。</p> <p>○少人数ゼミ : 8回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。</p> <p>○第2回全体ゼミ・第3回全体ゼミ : 2回 少人数ゼミの演習で作成・まとめた課題について互いにプレゼンテーションを行い、意見交換する。 知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある。</p> <p>○英語テスト : 2回</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ゼミB、C、D | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況20%、レポート等の提出物80%により判定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 岩田教授室、平田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、大橋准教授室、竹村准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など、約1.5時間程度をこれに当てること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|--|
| 科目名 | ゼミ B | 科目名 (英文) | Seminar B |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | G◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1070a0 | | |

| 授業概要・目的 | <p>[授業概要・目的] 少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学びのスタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学習し、自分の個性を生かしながら協調してものづくりをおこなうことの大切さを理解させる。</p> <p>[到達目標] 1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 各専門分野の理解 4) 自分自身の適性の把握</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力を養い、人間力・統合力を身につけ行動できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>ゼミは、教員数に合わせて、学生を少人数に分けて行う。</p> <p>見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。</p> <p>初日では、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題 | <p>◆全体ゼミを、初日、中間、最終の計3回行い、教員個別の少人数ゼミを12回行う。</p> <p>○第1回全体ゼミ : 1回 学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う</p> <p>○少人数ゼミ : 12回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。</p> <p>○第2回全体ゼミ・第3回全体ゼミ : 2回 全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある。 演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することもある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ゼミ A、C、D | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 20%、レポート等の提出物 80%により判定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室</p> <p>12号館6階 坂本教授室</p> <p>12号館7階 岩田教授室、平田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、大橋准教授室、竹村准教授室</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | ゼミに係る予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など1.5時間程度をこれに当てること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | ゼミC | 科目名(英文) | Seminar C |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | G◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2071a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門ゼミVは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、この授業の最後には自分の専門分野を決めます。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 社会における専門分野の理解 4) 自分自身の専門分野の決定、ができる | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学におけるISO14001規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 全員が集合する全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題 | ◆全体ゼミを、初日、中間、最終の計3回行い、教員個別の少人数ゼミを12回行う。 ○第1回全体ゼミ : 1回 学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う ○少人数ゼミ : 12回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。 ○第2回全体ゼミ・第3回全体ゼミ : 2回 全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある。 演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することもある。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ゼミA、B、D | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況20%、レポート等の提出物80%により判定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 岩田教授室、平田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、大橋准教授室、竹村准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 予習・復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動などをし、1.5時間程度をこれに当てること | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | ゼミD | 科目名(英文) | Seminar D |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | G◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3072a0 | | |

| 授業概要・目的 | 専門ゼミDは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、卒業研究に向けた基礎的な力を身につける助走期間とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 配属された研究室における専門分野のより深い理解 をもとに行動できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ゼミは、全員が集合する全体ゼミと、教員ごとに学生を少人数に分けて行う少人数ゼミとがある。 ゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>◆全体ゼミを、初日、中間、最終の計3回行い、教員個別の少人数ゼミを12回行う。</p> <p>○全体ゼミ : 3回 初日には、学科の教育目標、卒業研究への取り組みなどのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う 全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することがある。 演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することがある。</p> <p>○少人数ゼミ : 12回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加して、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ゼミA～C | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 20%、レポート等の提出物 80%により判定する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 岩田教授室、平田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、大橋准教授室、竹村准教授室、 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など1.5時間程度をこれに当てる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 線形代数 I | 科目名 (英文) | Linear Algebra I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | イ |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 洋平 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1004a0 | | |

| 授業概要・目的 | 線形代数は、幾何ベクトルや連立1次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論である。現代理工学の多くは線形代数を基本単語として記述されているため、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|------------------------------|-----------------|----|-------|---------|-----------|---|----------|-----------|-----------------|---|----------|------------|-----------------|---|---------|---------------|-----------------|---|---------|----------|-----------------|---|--------|---------|-----------------|---|---------|------------------|-----------------|---|------------|------|-----------------|---|------------|-----------------------|-----------------|---|------------|------------------------------|-----------------|----|------------|----------|-----------------|----|------------|----------------------|-----------------|----|------------|---------------------|-----------------|----|------------|--------|-----------------|----|------------|-------------|-----------------|----|------------|----------------|-----------------|
| 到達目標 | 基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることのできる基礎的能力、すなわち 1) 行列の計算ができること 2) ベクトルの内積・外積が求められること 3) 基本変形で連立1次方程式を解けること 4) 基本変形で逆行列が求められること を目標とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 前半60分を講義、後半30分を演習、を基本とするが、進行状況により変更することもある。毎回課題を課し、次回に解答を述べ回収する。自ら手を動かして計算してみることが大切である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | これから学ぶ理工学関連の科目の基礎となる。これらの科目を履修予定のものは、この科目を学んでおく事が望まれる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>行列の定義(1)</td><td>・和、スカラー倍</td><td>第1章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>行列の定義(2)</td><td>・積の定義・転置行列</td><td>第1章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>正方行列(1)</td><td>・単位行列・正則行列の定義</td><td>第1章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>正方行列(2)</td><td>・正則行列の性質</td><td>第1章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>2次正方行列</td><td>・逆行列の計算</td><td>第1章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>いろいろな行列</td><td>・対称行列・交代行列・ベキ零行列</td><td>第1章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>連立1次方程式(1)</td><td>・消去法</td><td>第2章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>連立1次方程式(2)</td><td>・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数</td><td>第2章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>連立1次方程式(3)</td><td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td><td>第2章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>連立1次方程式(4)</td><td>・基本解・特殊解</td><td>第2章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>連立1次方程式(5)</td><td>・同次連立1次方程式・正則行列となる条件</td><td>第2章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>空間のベクトル(1)</td><td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td><td>第3章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>空間のベクトル(2)</td><td>・内積・距離</td><td>第3章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>空間のベクトル(3)</td><td>・外積・スカラー3重積</td><td>第3章の間、演習問題、レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>空間のベクトル(4)</td><td>・直線の方程式・平面の方程式</td><td>第3章の間、演習問題、レポート</td></tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 行列の定義(1) | ・和、スカラー倍 | 第1章の間、演習問題、レポート | 2 | 行列の定義(2) | ・積の定義・転置行列 | 第1章の間、演習問題、レポート | 3 | 正方行列(1) | ・単位行列・正則行列の定義 | 第1章の間、演習問題、レポート | 4 | 正方行列(2) | ・正則行列の性質 | 第1章の間、演習問題、レポート | 5 | 2次正方行列 | ・逆行列の計算 | 第1章の間、演習問題、レポート | 6 | いろいろな行列 | ・対称行列・交代行列・ベキ零行列 | 第1章の間、演習問題、レポート | 7 | 連立1次方程式(1) | ・消去法 | 第2章の間、演習問題、レポート | 8 | 連立1次方程式(2) | ・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数 | 第2章の間、演習問題、レポート | 9 | 連立1次方程式(3) | ・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方 | 第2章の間、演習問題、レポート | 10 | 連立1次方程式(4) | ・基本解・特殊解 | 第2章の間、演習問題、レポート | 11 | 連立1次方程式(5) | ・同次連立1次方程式・正則行列となる条件 | 第2章の間、演習問題、レポート | 12 | 空間のベクトル(1) | ・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍 | 第3章の間、演習問題、レポート | 13 | 空間のベクトル(2) | ・内積・距離 | 第3章の間、演習問題、レポート | 14 | 空間のベクトル(3) | ・外積・スカラー3重積 | 第3章の間、演習問題、レポート | 15 | 空間のベクトル(4) | ・直線の方程式・平面の方程式 | 第3章の間、演習問題、レポート |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 行列の定義(1) | ・和、スカラー倍 | 第1章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 行列の定義(2) | ・積の定義・転置行列 | 第1章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 正方行列(1) | ・単位行列・正則行列の定義 | 第1章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 正方行列(2) | ・正則行列の性質 | 第1章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 2次正方行列 | ・逆行列の計算 | 第1章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | いろいろな行列 | ・対称行列・交代行列・ベキ零行列 | 第1章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 連立1次方程式(1) | ・消去法 | 第2章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 連立1次方程式(2) | ・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数 | 第2章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 連立1次方程式(3) | ・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方 | 第2章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 連立1次方程式(4) | ・基本解・特殊解 | 第2章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 連立1次方程式(5) | ・同次連立1次方程式・正則行列となる条件 | 第2章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 空間のベクトル(1) | ・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍 | 第3章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 空間のベクトル(2) | ・内積・距離 | 第3章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 空間のベクトル(3) | ・外積・スカラー3重積 | 第3章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 空間のベクトル(4) | ・直線の方程式・平面の方程式 | 第3章の間、演習問題、レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学、統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数</td> <td>摂南大学数学教室編</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 線形代数 | 摂南大学数学教室編 | 共立出版 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 線形代数 | 摂南大学数学教室編 | 共立出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 小テスト・演習で40%、期末試験60%で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 3号館3階 数学研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前事後学習は各々毎回1.5時間以上かけること。 小テスト・演習は、授業中にフィードバックする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 線形代数 I | 科目名 (英文) | Linear Algebra I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | ロ |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西脇 純一 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1004a0 | | |

| 授業概要・目的 | 線形代数は、幾何ベクトルや連立 1 次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|------------------------------|-------------------|----|-------|---------|-----------|---|-----------|-----------|-------------------|---|----------|------------|-------------------|---|---------|---------------|-------------------|---|---------|----------|-------------------|---|---------|---------|-------------------|---|---------|------------------|-------------------|---|--------------|------|-------------------|---|--------------|-------------------------|-------------------|---|--------------|------------------------------|-------------------|----|--------------|----------|-------------------|----|--------------|------------------------|-------------------|----|------------|---------------------|-------------------|----|------------|--------|-------------------|----|------------|---------------|-------------------|----|------------|----------------|-------------------|
| 到達目標 | 1) 行列の計算ができる。 2) ベクトルの内積・外積を理解する。 3) 基本変形で連立 1 次方程式を解く。 4) 基本変形で逆行列を求めることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 前半 60 分を講義、後半 30 分を演習、を基本とするが、進行状況により変更することもある。(1) 演習は前半の講義内容から出題、終了時に回収し次回に返却する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | 以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 線形代数 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列の定義(1)</td> <td>・和、スカラー倍</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列の定義(2)</td> <td>・積の定義・転置行列</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>正方行列(1)</td> <td>・単位行列・正則行列の定義</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>正方行列(2)</td> <td>・正則行列の性質</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2 次正方行列</td> <td>・逆行列の計算</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>いろいろな行列</td> <td>・対称行列・交代行列・ベキ零行列</td> <td>第 1 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連立 1 次方程式(1)</td> <td>・消去法</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連立 1 次方程式(2)</td> <td>・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式(3)</td> <td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式(4)</td> <td>・基本解・特殊解</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式(5)</td> <td>・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件</td> <td>第 2 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>空間のベクトル(1)</td> <td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td> <td>第 3 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>空間のベクトル(2)</td> <td>・内積・距離</td> <td>第 3 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>空間のベクトル(3)</td> <td>・外積・スカラー 3 重積</td> <td>第 3 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>空間のベクトル(4)</td> <td>・直線の方程式・平面の方程式</td> <td>第 3 章の間、演習問題 レポート</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 行列の定義(1) | ・和、スカラー倍 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | 2 | 行列の定義(2) | ・積の定義・転置行列 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | 3 | 正方行列(1) | ・単位行列・正則行列の定義 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | 4 | 正方行列(2) | ・正則行列の性質 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | 5 | 2 次正方行列 | ・逆行列の計算 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | 6 | いろいろな行列 | ・対称行列・交代行列・ベキ零行列 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | 7 | 連立 1 次方程式(1) | ・消去法 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | 8 | 連立 1 次方程式(2) | ・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | 9 | 連立 1 次方程式(3) | ・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | 10 | 連立 1 次方程式(4) | ・基本解・特殊解 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | 11 | 連立 1 次方程式(5) | ・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | 12 | 空間のベクトル(1) | ・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍 | 第 3 章の間、演習問題 レポート | 13 | 空間のベクトル(2) | ・内積・距離 | 第 3 章の間、演習問題 レポート | 14 | 空間のベクトル(3) | ・外積・スカラー 3 重積 | 第 3 章の間、演習問題 レポート | 15 | 空間のベクトル(4) | ・直線の方程式・平面の方程式 | 第 3 章の間、演習問題 レポート |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 行列の定義(1) | ・和、スカラー倍 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 行列の定義(2) | ・積の定義・転置行列 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 正方行列(1) | ・単位行列・正則行列の定義 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 正方行列(2) | ・正則行列の性質 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 2 次正方行列 | ・逆行列の計算 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | いろいろな行列 | ・対称行列・交代行列・ベキ零行列 | 第 1 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 連立 1 次方程式(1) | ・消去法 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 連立 1 次方程式(2) | ・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 連立 1 次方程式(3) | ・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 連立 1 次方程式(4) | ・基本解・特殊解 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 連立 1 次方程式(5) | ・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件 | 第 2 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 空間のベクトル(1) | ・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍 | 第 3 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 空間のベクトル(2) | ・内積・距離 | 第 3 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 空間のベクトル(3) | ・外積・スカラー 3 重積 | 第 3 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 空間のベクトル(4) | ・直線の方程式・平面の方程式 | 第 3 章の間、演習問題 レポート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 線形代数 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 線形代数の基礎講義 | 島田伸一・廣島文生 | 共立出版 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 線形代数の基礎講義 | 島田伸一・廣島文生 | 共立出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 演習, 小テストで 30%, 期末 70% で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 3 号館 3 階 数学研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前事後学習は、各々毎回 1.5 時間以上かけること。 小テスト, 演習は採点して返却する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 線形代数 II | 科目名 (英文) | Linear Algebra II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | イ |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 西脇 純一 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2005a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 行列式の計算ができ、行列の固有値と固有ベクトルが求められ、それらを行列の対角化へ応用できるようになることが本講義の目的である。 |
| 到達目標 | (1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の三角化と対角化ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。基本的には授業の前半の60分を講義に充て、後半の30分を演習の時間に充てる。 (1) 演習問題は授業の前半に講義した内容から出題する。(2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学の講義は線形代数 II の知識とスキルを前提にして授業が進められるため、それらの科目を受講する予定の場合は線形代数 II を履修すること。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|-------------------------------------|--------------------|
| | | | |
| 1 | 行列式(1) | ・置換の定義・置換の積・置換の符号 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 2 | 行列式(2) | ・行列式の定義・多重線形性・交代性 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 3 | 行列式(3) | ・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 4 | 行列式(4) | ・行列式の余因子展開 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 5 | 行列式(5) | ・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 6 | 行列式(6) | ・余因子行列・逆行列 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 7 | 行列式(7) | ・クラメールの公式 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 8 | 固有値と固有ベクトル(1) | ・固有多項式 ・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1) | 第5章の間、演習問題 レポート |
| 9 | 固有値と固有ベクトル(2) | ・固有値, 固有ベクトルの計算(2) | 第5章の間、演習問題 レポート |
| 10 | 固有値と固有ベクトル(3) | ・正方行列の三角化 | 第5章の間、演習問題 レポート |
| 11 | 固有値と固有ベクトル(4) | ・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理 | 第5章の間、演習問題 レポート |
| 12 | 固有値と固有ベクトル(5) | ・正方行列の対角化 | 第6章の間、演習問題 レポート |
| 13 | 固有値と固有ベクトル(6) | ・実対称行列の対角化 ・直交行列 | 第6章の間、演習問題 レポート |
| 14 | 固有値と固有ベクトル(7) | ・2次形式への応用・2次形式の符号 | 第6章の間、演習問題 レポート |
| 15 | 固有値と固有ベクトル(8) | ・2次曲線、曲面の例 | 第6章の間、演習問題 レポート |

関連科目 線形代数 I、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----------|-----------|------|
| | | | |
| 1 | 線形代数の基礎講義 | 島田伸一 廣島文生 | 共立出版 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | レポート、演習、小テストで30%、定期テストで70%の割合で判定し評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。どのような質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが、最終目標をいつも頭において勉強してください。 |
| 担当者の研究室等 | 3号館3階 数学研究室 |
| 備考 | 事前時御学習は各々毎回1.5時間以上かけること。 小テスト、演習は採点は返却する。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 線形代数Ⅱ | 科目名(英文) | Linear Algebra II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | ロ |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 小林 俊公 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2005a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 行列式の計算法と行列の固有値と固有ベクトルの求め方が本講義の目的である。 |
| 到達目標 | (1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の3角化と対角化について理解し、対角化可能であるか判定できる。 (4) 実対称行列を直交行列により対角化できる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。 線形代数Ⅱで紹介しなくてはならない内容は多く、線形代数Ⅰに比べて、授業時間中に演習時間を多くは割けないため、授業理解のためのレポートを事後学習課題として課す。 期末試験の出題内容は、教科書の演習問題やレポート問題のレベルの内容とする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 構造力学Ⅰ、Ⅱなどの基礎となる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|-----------------------------------|--------------------|
| | | | |
| 1 | 行列式(1) | ・置換の定義・置換の積・置換の符号 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 2 | 行列式(2) | ・行列式の定義・多重線形性・交代性 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 3 | 行列式(3) | ・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 4 | 行列式(4) | ・行列式の余因子展開 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 5 | 行列式(5) | ・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 6 | 行列式(6) | ・余因子行列・逆行列 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 7 | 行列式(7) | ・クラメールの公式 | 第4章の間、演習問題 レポート |
| 8 | 固有値と固有ベクトル(1) | ・固有多項式・固有方程式 ・固有値,固有ベクトルの計算(1) | 第5章の間、演習問題 レポート |
| 9 | 固有値と固有ベクトル(2) | ・固有値,固有ベクトルの計算(2) | 第5章の間、演習問題 レポート |
| 10 | 固有値と固有ベクトル(3) | ・正方行列の3角化 | 第5章の間、演習問題 レポート |
| 11 | 固有値と固有ベクトル(4) | ・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理 | 第5章の間、演習問題 レポート |
| 12 | 固有値と固有ベクトル(5) | ・正方行列の対角化 | 第6章の間、演習問題 レポート |
| 13 | 固有値と固有ベクトル(6) | ・実対称行列の対角化・直交行列 | 第6章の間、演習問題 レポート |
| 14 | 固有値と固有ベクトル(7) | ・2次形式への応用・2次形式の符号 | 第6章の間、演習問題 レポート |
| 15 | 固有値と固有ベクトル(8) | ・2次曲線、曲面の例 | 第6章の間、演習問題 レポート |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 以下の科目の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学、統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅱを履修すること。 |
|------|---|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----------|------------|------|
| 1 | 線形代数の基礎講義 | 島田伸一, 廣島文生 | 共立出版 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|----------|-----------------------------|
| 評価方法(基準) | 課題レポート30%、期末テスト70%で判定し評価する。 |
|----------|-----------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 3号館3階 数学研究室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前事後学習は各々毎回1.5時間以上かけること。 レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------------|
| 科目名 | 造形演習 | 科目名(英文) | Exercises in Formative Art and Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 稲地 秀介, 国谷 隆志, 三宅 砂織, 吉川 紀子 |
| ディプロマポリシー(DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1056a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 平面と立体の3つの基礎課題を通して、ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力を養うことを目的とする。平面基礎：鉛筆デッサンによる表現課題を通して基礎的な観察力、立体把握力、表現力を養う。立体基礎：加工の容易な素材を使った立体構成物の製作課題を通して基礎的な工作力、発想力、立体構成力、表現力を養う。最後に作品を展示し、講評会を行う。 |
| 到達目標 | ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力として次の事項を獲得することを到達目標とする。 ・平面基礎：対象の観察する方法や概念を知る。立体把握の方法や概念を知る。これらの情報的確に表現する方法を体験とおして知る。 ・立体基礎：立体構成とそれが与える意味や役割の関係性について知る。 ・グループワークデザインの体験を通して、デザイン作業におけるコミュニケーションの重要性を体験とおして知る。 |
| 授業方法と留意点 | 屋内外において個人製作課題とグループ製作課題に取り組む。課題の製作必要時間には個人差があり、必ずしも授業時間内に収まらない場合がある。不足分は授業外での自主的作業によって各自が補うこととする。クロッキー帳や鉛筆などの画材、カッターなどの工具は各自が授業内容および課題の進み具合から判断して、持参することとする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 空間設計・プロダクト設計をする上で必要となる基礎的なデザイン能力を養える。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|---|---------------------------|
| | | | |
| 2 | デッサン1：観察と描写 | 生花などをモチーフとして、デッサンの最も重要な要素である「観察」と「描写」について学ぶ | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 3 | デッサン2：基礎形体 | レンガ(直方体)とコップ(円柱)など比較的簡単な形の物をモチーフとして、物の形を捉え方・描き方について学ぶ | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 4 | デッサン3：空間表現 | 複数の物で構成したモチーフを描くことを通して、手前と奥など空間的な関係の描き方について学ぶ。このテーマは2週連続で1つの課題を行う。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 5 | デッサン4：空間表現 | 複数の物で構成したモチーフを描くことを通して、手前と奥など空間的な関係の描き方について学ぶ。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 6 | 風から生まれる形1 | 環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。このテーマは4週連続で1つの課題制作を行う。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 7 | 風から生まれる形2 | 環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 8 | 風から生まれる形3 | 環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 9 | 風から生まれる形4 | 環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 10 | 光から生まれる形1 | 環境と応答する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。このテーマは4週連続で1つの課題制作を行う。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 11 | 光から生まれる形2 | 環境と応答する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 12 | 光から生まれる形3 | 環境と応答する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 13 | 光から生まれる形4 | 環境と応答する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 14 | 講評会展示準備 | 講評会の為の展示準備を行う。 | 課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。 |
| 15 | 講評会 | 作品の講評を行う。 | 事前にプレゼンテーション資料などを準備すること。 |

関連科目 インテリアデザイン演習、各種の設計演習、プロダクトデザイン演習

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 制作過程における評価 50%、完成作品評価 50% | | | |
| 学生への メッセージ | ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力を養うという意味で大変重要な演習と考えます。積極的な姿勢で演習に臨んで下さい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 演習に関する相談や問い合わせについて、演習日は 12 号館 5 階のデザイン準備室へ、その他の日は 12 号館 7 階稲地准教授室まで | | | |
| 備考 | 演習を受講するためには、ガイダンス時に配布する資料にある画材を事前に用意する必要があります。 演習に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|--|
| 科目名 | 卒業研究 | 科目名 (英文) | Graduation Thesis |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 6 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榎 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 平田 陽子 |
| ディプロマポリシー(DP) | G◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR4073a0 | | |

| 授業概要・目的 | 卒業研究のテーマについて、適切な調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。 目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 習得した専門知識・技能をもとに、社会人として必要最低限な行動力、思考力、協調性を習得し行動できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | ①学期初めのゼミ初日は研究・制作の基礎的背景となっている住生活と環境デザインの考え方、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 研究テーマに必要な知識を得るためのゼミとフィールドワークを基本とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【主な研究のテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○成熟社会の建築・環境デザインに関する研究 ○ユニバーサル社会の光・色彩環境計画に関する研究 ○建築・都市環境におけるエネルギー使用合理化に関する研究 ○自然の力をかりるインテリア・建築史を踏まえた新たな空間デザインの提案 ○空間情報技術を用いた住環境の安全性・快適性の評価と改善策の提案 ○景観から読み取れる地域の諸問題の要因把握と対応策の提案 ○共生を阻害する問題群を多角的に分析し、解決に導く有形・無形のデザインを提案する ○人と空気環境の関係に関する研究 ○地球環境と社会の変化に対応する建築意匠と設計に関する研究 ○共用空間を所有する住宅地の管理とコミュニティに関する研究 <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各研究室のテーマに対応して、ゼミ、実験、調査、制作、フィールドワークを実施する <p>【事前事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各自の研究テーマに対応して、指導教員より提示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | ○可否は中間審査 20%、および卒業研究最終審査の総合評価 80%により決定する。 ○卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | ○観察ノートの記録保持、実験試料・調査資料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき倫理について、常に注意すること。 ○論文のテーマは、上にあげたもの以外でも興味のあるテーマであれば、取り組んでもらえるよう調整します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | ○週 15 時間以上を目安として、自主的に組み立てること | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名 | 代数学 | 科目名(英文) | Algebra |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 中津 了勇 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2008a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 抽象代数である「群」、「環」、「体」の知識は最近の電子社会の発展に伴い、その必要性が増している。抽象代数学においては、単純な公理から驚くほどの豊富な理論が展開される。そのなかにおいて、「群」は最も基本的な代数的構造であり、自然現象のなかに現れる「対称性」を記述するのに重要な概念である。この講義では、代数的構造がどのようにして捉えられ、記述されるか、その方法を学ぶことを目的とする。 |
| 到達目標 | 「群」の定義を理解し、部分群、剰余類、正規部分群、商群、準同型定理について説明できる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める：線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ。 毎時間の講義の内容を復習し、自分で納得するまで手と頭を動かすことを習慣づけること。 授業時間の倍以上の自主学習が必要である。 やむを得ず欠席した場合のフォローアップは、各自が責任をもって行うこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 代数的構造がどのようにして捉えられ、記述される方法がわかる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|-----------------------|
| | | | |
| 1 | 集合 | ・集合 ・集合の間の関係 ・論理記号など | ・演習問題 1 |
| 2 | 同値関係と商集合 | ・同値関係 ・同値類、類別 ・商集合 | ・講義の復習 ・演習問題 2 |
| 3 | 写像 | ・全射、単射、全単射 ・逆写像 | ・講義の復習 ・演習問題 3 |
| 4 | 群の定義と例(1) | ・2項演算 ・群の定義、加法群、乗法群 ・群の乗積表 | ・講義の復習 ・演習問題 4(前半) |
| 5 | 群の定義と例(2) | ・群の例 | ・講義の復習 ・演習問題 4(後半) |
| 6 | 群と対称性への入門 (2面体群で遊ぶ) | ・2面体群 ・生成元と基本関係式 | ・講義の復習 ・演習問題 5 |
| 7 | 部分群 | ・部分群の定義 ・部分群の例 | ・講義の復習 ・演習問題 6(前半) |
| 8 | 部分群と剰余類 | ・左剰余類、右剰余類 ・ラグランジュの定理 ・剰余の同値性 | ・講義の復習 ・演習問題 6(後半) |
| 9 | 要素の位数 | ・群の要素の位数 ・巡回群 | ・講義の復習 ・演習問題 7 |
| 10 | 正規部分群と剰余群(商群)(1) | ・正規部分群の定義と例 | ・講義の復習 ・演習問題 8(前半) |
| 11 | 正規部分群と剰余群(商群)(2) | ・正規部分群による剰余類 ・剰余群(商群)とその例 | ・講義の復習 ・演習問題 8(後半) |
| 12 | 群の準同型(1) | ・群準同型写像、群準同型 ・群準同型の例 ・群同型写像、群同型 ・群同型の例 | ・講義の復習 ・演習問題 |
| 13 | 群の準同型(2) | ・群準同型写像の核 ・群準同型写像の核と正規部分群 | ・講義の復習 ・演習問題 |
| 14 | 群の準同型定理(1) | ・準同型定理 | ・講義の復習 ・演習問題 |
| 15 | 群の準同型定理(2) | ・準同型定理とその応用 | ・講義の復習 ・演習問題 |

関連科目 線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|------|---------|
| | 1 | 代数的構造 | 遠山 啓 | ちくま学芸文庫 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|--------|-------|--------|
| | 1 | 代数学の基礎 | 岩永 恭雄 | 日評数学選書 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法(基準) 期末試験 60%、小テスト・演習レポート 40% で評価する。

学生へのメッセージ こまめに考え、調べ、質問して、疑問点を溜めないように心がけること。中途半端な学習では何も身に付きません。「数学」教員を目指す学生は覚悟をして受講してほしい。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 毎回2時間程度の事後学習が必要だろう。
小テスト、レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------------------------|
| 科目名 | 地域・都市計画学 | 科目名(英文) | Urban and Regional Planning |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 坂本 淳二 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR3048a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本の都市計画で策定される諸要素(土地利用, 交通施設, 公園緑地, 生活施設), 市街地整備事業について, それぞれ策定する意義と制度の内容について講義する。また, 近隣住区理論, 地区計画といった住環境を計画する上での計画論, 制度を取り上げ解説する。 |
| 到達目標 | ○都市計画の様々な分野の計画の基本的理論・事項を理解することができる。 ○地域計画を検討する上での姿勢, 必要な要素を身につけることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 特定の教科書は指定せず, 毎回の内容に該当する資料を配付。 各回における重要事項については, 小レポートを課すことがある。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士・二級建築士・木造建築士など。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------------|--|--------------------------------------|
| | | | |
| 2 | 近代都市計画の系譜 | 近代都市(住宅地)計画の成立過程について, 英国と日本の事例を通して解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 3 | 土地利用計画1 都市計画区域・区域区分 | 都市計画における土地利用の意味と都市計画区域, 区域区分について解説する。 | 前回配付資料を読んでおくこと 配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 4 | 土地利用計画2 地域地区制・用途地域 | 土地利用計画の根幹をなす「地域地区制」と「用途地域」について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 5 | 土地利用計画3 建築の形態規制 | 建築物の形態規制(主に斜線規制)とその緩和措置(公開空地他)について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 6 | 近隣住区理論 | 住宅地計画において世界中で活用されている「近隣住区理論」について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 7 | 都市交通計画1 都市における交通とその特性 | 都市における交通の特性, 都市交通を把握する調査, 公共輸送について解説する。 | 前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 8 | 都市交通計画2 都市内街路計画 | 都市内街路の機能と道路ネットワークの基本的な考え方について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 9 | 都市交通計画3 歩車共存の空間システム | 歩行者・自動車の交通空間システム及び歩車共存道路について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 10 | 生活施設の機能と配置 | 都市・住宅地の生活施設の種類の種類・内容と配置の考え方を, 視聴覚資料を用いて解説する。 | 前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 11 | 公園緑地計画1 都市における公園・緑地の機能 | 都市における公園・緑地の機能と住区基幹公園(街区・近隣公園)について解説する。 | 前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 12 | 公園緑地計画2 都市公園の配置システム | 地区公園, 都市基幹公園の内容及び都市における公園配置の基本的な考え方について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 13 | 市街地整備事業1 土地区画整理事業の仕組み | 日本の市街地整備事業の概要と種類, 土地区画整理事業の目的と特性, 事業上の考慮事項を解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 14 | 市街地整備事業2 土地区画整理事業の課題 市街地再開発事業 | 土地区画整理事業の有する課題, 及び市街地再開発の目的, 事業上の特性について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 15 | 地区計画制度とその活用 | 地区住民主体で策定される都市計画である「地区計画」の基本内容とその利用方法を解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |

関連科目 一級建築士などの資格試験に出題される範囲が一部含まれている。授業としては建築計画学や住居計画学や建築法規が関連している。

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|-----|----|---------------------|------------|-------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 都市計画 シリーズ(建築工学) 7 | 荻島哲編著 | 朝倉書店 |
| | 2 | 新・都市計画概論 改訂2版 | 加藤晃・竹内 伝史 | 共立出版社 |
| | 3 | 都市計画とまちづくりがわかる本 第二版 | 伊藤雅春・小林郁雄他 | 彰国社 |

評価方法(基準) 試験(70%), レポート(15%), 講義内的小テスト(15%)で評価する。

学生へのメッセージ 都市計画・地域計画の専門的講義になりますので, 理解のできない点等は授業中及び時間外に積極的に質問するようにして下さい。

担当者の研究室等 12号館6階 坂本教授室

備考 事前事後学習時間は, 平均1時間以上とすること。
○授業中に使用した PowerPoint 資料は, Moodle で閲覧できます。

| | | | |
|---------------|-------|---------|-------------------|
| 科目名 | 地域計画学 | 科目名(英文) | Regional Planning |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 坂本 淳二 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本の都市計画で策定される諸要素(土地利用, 交通施設, 公園緑地, 生活施設), 市街地整備事業について, それぞれ策定する意義と制度の内容について講義する。また, 近隣住区理論, 地区計画といった住環境を計画する上での計画論, 制度を取り上げ解説する。 |
| 到達目標 | ○都市計画の様々な分野の計画の基本的理論・事項を理解することができる。 ○地域計画を検討する上での姿勢, 必要な要素を身につけることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 特定の教科書は指定せず, 毎回の内容に該当する資料を配付。 各回における重要事項については, 小レポートを課すことがある。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士・二級建築士・木造建築士など。 |

| | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------|-------------------------------------|--|---|
| | 授業計画 | 1 | ガイダンス 地域・都市計画とは何か | 講義の方針, 概要, スケジュール及び地域・都市計画で検討される諸要素を概説する。 |
| 2 | | 近代都市計画の系譜 | 近代都市(住宅地)計画の成立過程について, 英国と日本の事例を通して解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 3 | | 土地利用計画1 都市計画区域・区域区分 | 都市計画における土地利用の意味と都市計画区域, 区域区分について解説する。 | 前回配付資料を読んでおくこと 配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 4 | | 土地利用計画2 地域地区制・用途地域 | 土地利用計画の根幹をなす「地域地区制」と「用途地域」について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 5 | | 土地利用計画3 建築の形態規制 | 建築物の形態規制(主に斜線規制)とその緩和措置(公開空地他)について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 6 | | 近隣住区理論 | 住宅地計画において世界中で活用されている「近隣住区理論」について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 7 | | 都市交通計画1 都市における交通とその特性 | 都市における交通の特性, 都市交通を把握する調査, 公共輸送について解説する。 | 前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 8 | | 都市交通計画2 都市内街路計画 | 都市内街路の機能と道路ネットワークの基本的な考え方について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 9 | | 都市交通計画3 歩車共存の空間システム | 歩行者・自動車の交通空間システム及び歩車共存道路について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 10 | | 生活施設の機能と配置 | 都市・住宅地の生活施設の種類の種類・内容と配置の考え方を, 視聴覚資料を用いて解説する。 | 前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 11 | | 公園緑地計画1 都市における公園・緑地の機能 | 都市における公園・緑地の機能と住区基幹公園(街区・近隣公園)について解説する。 | 前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 12 | | 公園緑地計画2 都市公園の配置システム | 地区公園, 都市基幹公園の内容及び都市における公園配置の基本的な考え方について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 13 | | 市街地整備事業1 土地区画整理事業の仕組み | 日本の市街地整備事業の概要と種類, 土地区画整理事業の目的と特性, 事業上の考慮事項を解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 14 | | 市街地整備事業2 土地区画整理事業の課題 市街地再開発事業 | 土地区画整理事業の有する課題, 及び市街地再開発の目的, 事業上の特性について解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |
| 15 | | 地区計画制度とその活用 | 地区住民主体で策定される都市計画である「地区計画」の基本内容とその利用方法を解説する。 | 前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点を復習しておくこと。 |

関連科目 一級建築士などの資格試験に出題される範囲が一部含まれている。授業としては建築計画学や住居計画学や建築法規が関連している。

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|-----|----|---------------------|------------|-------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 都市計画 シリーズ(建築工学) 7 | 荻島哲編著 | 朝倉書店 |
| | 2 | 新・都市計画概論 改訂2版 | 加藤晃・竹内 伝史 | 共立出版社 |
| | 3 | 都市計画とまちづくりがわかる本 第二版 | 伊藤雅春・小林郁雄他 | 彰国社 |

評価方法(基準) 試験(70%), レポート(15%), 講義内的小テスト(15%)で評価する。

学生へのメッセージ 都市計画・地域計画の専門的講義になりますので, 理解のできない点等は授業中及び時間外に積極的に質問するようにして下さい。

担当者の研究室等 12号館6階 坂本教授室

備考 事前事後学習時間は, 平均1時間以上とすること。
○授業中に使用した PowerPoint 資料は, Moodle で閲覧できます。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------|
| 科目名 | 統計学 | 科目名(英文) | Statistics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 中津 了勇 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2012a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 統計学は現在の理工学において非常に重要かつ強力な道具になっている。 この講義では、統計の基本的な考え方を紹介し、皆さんの将来に役立てることを目的とする。 |
| 到達目標 | 到達目標： 1. データ整理に関する基礎的な統計計算ができる。 2. 確率の基本的性質の理解。 3. 確率分布の平均、分散、標準偏差を求めることができる。 4. 2項分布などの離散型の確率分布に関する計算ができる。 5. 正規分布などの連続型の確率分布に関する計算ができる。 6. 統計的推定についての理解と計算。 7. 統計的仮説検定についての理解と計算。 |
| 授業方法と留意点 | 確率の基本的な諸概念から出発して、ランダムな現象を捉える確率分布モデルを学ぶ。 その上でデータから母集団分布の特性について推論を行う統計的推測の基本的な考え方と、統計的推定、検定を学ぶ。 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める：微積分 I、微積分 II、線形代数 I、線形代数 II。 |
| 科目学習の効果(資格) | 統計的推定、検定の考え方を理解して、その方法を実践できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|---|-----------------------|
| | | | |
| 1 | データの整理 1 | ・講義内容の説明 ・母集団と標本 ・標本平均、標本分散 ・ヒストグラム | ・講義の復習 ・課題 |
| 2 | データの整理 2 | ・2変量データ ・相関係数 ・散布図 | ・講義の復習 ・課題 |
| 3 | 確率とその基本的な性質 1 | ・全事象と事象 ・事象の確率 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 1 |
| 4 | 確率とその基本的な性質 2 | ・条件付確率 ・事象の独立性 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 1 |
| 5 | 離散的確率変数 1 | ・離散型確率変数とその確率分布 ・離散型確率変数の期待値、分散値 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 2(前半) |
| 6 | 離散的確率変数 2 | ・2項分布とその応用 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 2(後半) |
| 7 | 離散的確率変数 3 | ・2項分布とその応用 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 3 |
| 8 | 連続型確率変数 1 | ・連続型確率変数、 ・確率分布と確率密度関数 ・確率分布関数 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 4 |
| 9 | 連続型確率変数 2 | ・正規分布とその関連分布 ・標準正規分布 ・正規分布に従う確率変数の基準化 | ・講義の復習 ・演習問題 5 |
| 10 | 連続型確率変数 3 | ・正規分布に従う確率変数の定数倍 ・正規分布に従う独立な2つの確率変数の和 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 5 |
| 11 | 現象のモデル化 | ・母集団分布 ・母平均、母分散、母標準偏差 | ・講義の復習 |
| 12 | 統計的推定 1 | ・推定の考え方 ・点推定と区間推定 ・問題演習 | ・講義の復習 |
| 13 | 統計的推定 2 | ・母平均の区間推定 ・危険度 ・信頼区間 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 6(前半) |
| 14 | 統計的仮説検定 1 | ・仮説検定の考え方 ・帰無仮説と対立仮説 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 6(後半) |
| 15 | 統計的仮説検定 2 | ・母平均の仮説検定 ・両側検定 ・片側検定 ・問題演習 | ・講義の復習 ・演習問題 7 |

| | |
|------|------------------------------|
| 関連科目 | 微積分 I、微積分 II、線形代数 I、線形代数 II。 |
|------|------------------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|------------|------|
| | 1 | 基礎統計学 | 坂田, 高田, 百武 | 朝倉書店 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----|--|
| 参考書 | |
|-----|--|

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|---|--|-----|------|
| | 1 | 関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 小テスト・演習レポートで40%、期末試験で60%を判定し評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問すること。いかなる質問も歓迎する。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 3号館3階数学研究室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習は毎回1.5時間以上かけること。 小テスト、レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------------|
| 科目名 | 日本建築史 | 科目名(英文) | Japanese Architectural History |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 砂本 文彦 |
| ディプロマポリシー(DP) | E◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2050a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 現在及び将来の住文化を考えるためには、その背景にある建築と都市の歴史に対する理解が不可欠です。この講義では、わが国における建築の歴史的展開、都市の形成と住環境の変遷について解説し、それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指します。建築や都市に対する歴史的理解は、住宅を含む建築一般、都市の設計・施工のあらゆる段階で必要となります。それは、ゆるぎない規範を提示する場合もあれば、新たな可能性を示唆する場合があります。講義の内容は、設計関連授業はもちろん、広範な領域の授業の基礎的知識としても重要です。 |
| 到達目標 | グローバル化が進行する現代社会にあつては、外国の建物に精通しているだけでなく、むしろ日本建築の特徴や歴史を踏まえて、世界の人々とコミュニケーションができる建築専門家が求められます。社会に出るといへん多忙になるので、学生時代の今、しかも京都、奈良、大阪、兵庫、滋賀など、日本の国宝、世界遺産が集中している摂南大学の地の利を生かして、教科書に載っている有名な建築をその目で確かめて下さい。 |
| 授業方法と留意点 | 講義は、指定教科書と補足資料を配布し、視覚的な把握を目指します。さらに、現存する建物や町並みを見学し、実物の空間体験を通じて理解を深めます。現地見学の交通費や入館料は受講者の負担になります。教科書の『図説日本住宅の歴史』は各自で購入し、授業に持参してください。 |
| 科目学習の効果(資格) | 1級建築士・2級建築士の資格取得試験の基礎問題に出題される。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 古代の建築 1 | 先史時代の住居である、竪穴住居と高床住居、平地住居を比較しながら、その暮らしと形態の推定について学ぶ。 | 縄文集落や弥生集落の遺跡に見学に行ってください。住まい方と形態に想像をめぐらしましょう。 |
| 2 | 古代の建築 2 | 神社建築について、神社の様式と、伊勢神宮と出雲大社について学ぶ。 | 神社に行って、本殿の建物を見学してください。流造(ながれづくり)や春日造(かすがづくり)などの神社建築の様式を確認しましょう。 |
| 3 | 古代の建築 3 | 仏教建築の伝来について学ぶ。法隆寺などの多くの寺院の建築と伽藍配置を知る。また、古代の都城である平城京や平安京などについて学ぶ。 | 奈良の寺院や大阪の四天王寺などを見学してください。金堂や塔などをよく見学し、建物の配置の違いも理解してください。また、復元についても留意してください。 |
| 4 | 支配階層の住宅 1 | 寝殿造とその建築的特徴、しつらいによる空間の利用方法について学ぶ。 | 平安時代の貴族の住まいについて関心を持ってください。時代劇ドラマなどを観ることも有効です。 |
| 5 | 支配階層の住宅 2 | 主殿造から書院造の成立について学ぶ。 | 京都などにある書院造の部屋のある建築物を見学に行ってください。座敷飾りについて理解しましょう。 |
| 6 | 中世の建築 | 大仏様、禅宗様、和様、折衷様のちがいとその寺院建築について学ぶ。 | 奈良や京都にある寺院を見学に行ってください。柱や梁、組み物などに注目してみましょう。 |
| 7 | 近世の都市と城郭 | 城と郭、書院、城郭都市について、安土城、大坂城、二条城などを通して学ぶ。 | 城のある街にて城郭建築を見学してください。建物だけではなく、郭にも着目してみましょう。 |
| 8 | 近世の建築 1 | 武士の住宅の変遷と特徴について学ぶ。 | 各地に残る武家屋敷を見学してください。 |
| 9 | 近世の建築 2 | 民家の地方性が風土と生業の関係からよくあらわれる農家の特徴について学ぶ。 | 各地に残る農家を見学してください。 |
| 10 | 近世の建築 3 | 江戸・大坂の街のすまいと町家の住まい方について学ぶ。 | 関西の町並み保存地区を見学してください(奈良今井町、大阪富田林など)。 |
| 11 | 日本建築史にかかる現地見学 | 近世や近代の建築物に関する現地見学を行ない、実物に即した理解を深める。 | 見学する建築物について調べるとともに、その時代の様式や建築物の立つ地域の地域性について学習してください。 |
| 12 | 近代の建築 1 | 明治維新後の武家屋敷と俵給者の住宅について学ぶ。また、和洋併立住宅、和洋折衷住宅など、洋風化の展開も学ぶ。 | 神戸北野地区の西洋館を見学しましょう。 |
| 13 | 近代の建築 2 | サラリーマンの住宅と集合住宅について、生活の洋風化と和式生活の残存を考慮しつつ学ぶ。また、郊外住宅地開発と住宅の専用住宅化についても学ぶ。 | 大正から昭和初期の生活を記した小説などを読んでみましょう。 |
| 14 | 近代の建築 3 | 西洋建築の導入と展開について学ぶ。擬洋風建築の派生と様式建築の展開について学ぶ。 | 様式建築(神戸居留地、大阪中央図書館、公会堂、日本銀行大阪支店、泉布観など)を見学しましょう。 |
| 15 | 日本のモダニズム建築 | 大正期から昭和にかけての我が国におけるモダンデザインの展開について学ぶ。 | 旅行先でモダニズム建築の見学をしましょう。 |

関連科目 近代デザイン史

| | | | | |
|-----|----|-----------|--------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 図説日本住宅の歴史 | 平井聖 | 学芸出版社 |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 日本建築史図集 | 日本建築学会 | 彰国社 |

評価方法(基準) 定期試験(筆記)の成績(100%)で評価します。

学生へのメッセージ 講義で取り上げられた建物は、休日や旅行の時に、現地で実物を見学するようにしてください。

担当者の研究室等 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室

備考 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
またはメール f-sunamoto@yg.kobe-wu.ac.jp まで。

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 微積分 I | 科目名 (英文) | Calculus I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | ニ |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 安井 幸則 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1002a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 整式、有理式、無理関数、3 角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。 |
| 到達目標 | 1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 進捗の具合により講義と演習を適宜配分。左に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。試験は中間、期末の計 2 回 |
| 科目学習の効果 (資格) | 次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|------------------|------------------------------------|-------------|--------|
| | | | 問 | 課題レポート |
| 1 | 関数とそのグラフ (1) | ・座標平面・点の表示・点の移動の表示 | 第 1 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 2 | 関数とそのグラフ (2) | ・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ | 第 1 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 3 | 関数の極限 | ・実数の性質・極限の定義・極限の計算法 | 第 1 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 4 | 関数の連続性 | ・連続性の定義・連続関数の性質 | 第 1 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 5 | 微分係数 | ・微分係数の定義・接線の方程式 | 第 2 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 6 | 導関数 | ・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数 | 第 2 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 7 | 導関数の計算法 | ・積, 商の導関数 | 第 2 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 8 | 合成関数の微分高次導関数 | ・合成の方法・合成関数の微分の計算 | 第 2 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 9 | 逆関数の微分 | ・逆関数の定義・逆関数の微分の計算 | 第 2 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 10 | 指数関数 | ・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義 | 第 3 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 11 | 指数関数の微分 | ・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分 | 第 3 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 12 | 対数関数 | ・自然対数の定義・対数の性質 | 第 3 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 13 | 対数関数の微分 | ・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法 | 第 3 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 14 | 3 角関数 | ・弧度法・3 角関数の定義・諸性質と公式 | 第 4 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 15 | 3 角関数・逆 3 角関数の微分 | ・ $\sin x$ の微分・3 角関数の微分・逆 3 角関数の微分 | 第 4 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 16 | 高次導関数 (1) | ・高次導関数の定義・多項式の高次導関数 | 第 5 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 17 | 高次導関数 (2) | ・指数, 対数, 3 角関数の高次導関数・ライプニッツの公式 | 第 5 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 18 | 平均値の定理 | ・ロルの定理・平均値の定理 | 第 6 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 19 | 関数の挙動 (1) | ・関数の増減・極大, 極小 | 第 6 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 20 | 関数の挙動 (2) | ・グラフの凹凸・変曲点 | 第 6 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 21 | 関数の展開 (1) | ・テイラー展開・マクローリン展開 | 第 6 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 22 | 関数の展開 (2) | ・指数関数, 3 角関数, 対数関数の展開・2 項定理の一般化 | 第 6 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 23 | 原始関数 (1) | 微分の逆演算としての不定積分 | 第 7 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 24 | 原始関数 (2) | ・整式, 有理式的不定積分 | 第 7 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 25 | 原始関数 (3) | ・3 角関数の不定積分 | 第 7 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 26 | 原始関数 (4) | ・指数関数, 対数関数の不定積分 | 第 7 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 27 | 不定積分の計算法 (1) | ・置換積分 | 第 7 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 28 | 不定積分の計算法 (2) | ・部分積分 | 第 7 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 29 | 不定積分の計算法 (3) | ・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分 | 第 7 章の間, 問題 | 課題レポート |
| 30 | 不定積分の計算法 (4) | ・初等関数の不定積分のまとめ | 第 7 章の間, 問題 | 課題レポート |

| | | | | |
|-----------|---|---|------|------|
| 関連科目 | 微積分 II; 線形代数 I; II; 工業数学 I; 工業数学 II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 微積分基礎 | 寺本恵昭 | 共立出版 |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可。 | | |
| 評価方法 (基準) | 課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、スチューデントアワー(月-金の 5 限目)には 3 号館 3 階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 3 号館 3 階 数学研究室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習には、各々毎回 1.5 時間以上かけること。小テストは採点して返却し、適宜講義中に解説する。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 微積分 I | 科目名 (英文) | Calculus I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 友枝 恭子 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1002a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 整式、有理式、無理関数、三角関数、指数・対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。 |
| 到達目標 | (1) 基本的な関数の微分を行うことができる。 (2) 関数の挙動を調べ、グラフを描くことができる。 (3) 基本的な関数の不定積分を行うことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 進捗の具合により講義と演習を適宜配分する。授業計画に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 本講義の内容は微積分 II を習得するのに引き継がれる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|---------------------------------|-----------|
| | | | |
| 1 | 関数とそのグラフ (1) | ・座標平面・点の表示・点の移動の表示 | 第 1 章の問題 |
| 2 | 関数とそのグラフ (2) | ・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ | 第 1 章の問題 |
| 3 | 関数の極限 | ・実数の性質・極限の定義・極限の計算法 | 第 1 章の問題 |
| 4 | 関数の連続性 | ・連続性の定義・連続関数の性質 | 第 1 章の問題 |
| 5 | 微分係数 | ・微分係数の定義・接線の方程式 | 第 2 章の問題 |
| 6 | 導関数 | ・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数 | 第 2 章の問題 |
| 7 | 導関数の計算法 | ・積、商の導関数 | 第 2 章の問題 |
| 8 | 合成関数の微分高次導関数 | ・合成の方法・合成関数の微分の計算 | 第 2 章の問題 |
| 9 | 逆関数の微分 | ・逆関数の定義・逆関数の微分の計算 | 第 2 章の問題 |
| 10 | 指数関数 | ・指数法則・ネイピア数 e ・指数関数の定義 | 第 3 章の問題 |
| 11 | 指数関数の微分 | ・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分 | 第 3 章の問題 |
| 12 | 対数関数 | ・自然対数の定義・対数の性質 | 第 3 章の問題 |
| 13 | 対数関数の微分 | ・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法 | 第 3 章の問題 |
| 14 | 三角関数 | ・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式 | 第 4 章の問題 |
| 15 | 三角関数・逆三角関数の微分 | ・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分 | 第 4 章の問題 |
| 16 | 高次導関数 (1) | ・高次導関数の定義・多項式の高次導関数 | 第 5 章の問題 |
| 17 | 高次導関数 (2) | ・指数、対数、三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式 | 第 5 章の問題 |
| 18 | 平均値の定理 | ・ロルの定理・平均値の定理 | 第 6 章の問題 |
| 19 | 関数の挙動 (1) | ・関数の増減・極大、極小 | 第 6 章の問題 |
| 20 | 関数の挙動 (2) | ・グラフの凹凸・変曲点 | 第 6 章の問題 |
| 21 | 関数の展開 (1) | ・テイラー展開・マクローリン展開 | 第 6 章の問題 |
| 22 | 関数の展開 (2) | ・指数関数、三角関数、対数関数の展開・二項定理の一般化 | 第 6 章の問題 |
| 23 | 原始関数 (1) | ・微分の逆演算としての不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 24 | 原始関数 (2) | ・整式、有理式的不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 25 | 原始関数 (3) | ・三角関数の不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 26 | 原始関数 (4) | ・指数関数、対数関数の不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 27 | 不定積分の計算法 (1) | ・置換積分 | 第 7 章の問題 |
| 28 | 不定積分の計算法 (2) | ・部分積分 | 第 7 章の問題 |
| 29 | 不定積分の計算法 (3) | ・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 30 | 不定積分の計算法 (4) | ・初等関数の不定積分のまとめ | 第 7 章の問題 |

関連科目 以下の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められる。微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、代数学、幾何学 II、解析学、統計学 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------------------------|------|------|
| | 1 | 微積分基礎 理工系学生に向けて一 (ISBN:9784320110274) | 寺本恵昭 | 共立出版 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。 |
| 学生への メッセージ | 3号館 3階に数学教員はいますので、数学、自然科学に関するどんな質問でも気軽に聞きに来て下さい。 |
| 担当者の 研究室等 | 3号館 3階 数学研究室 |
| 備考 | 事前事後学習は各々毎回 1.5 時間以上かけること。 課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------|
| 科目名 | 微積分 I | 科目名 (英文) | Calculus I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 東山 和巳 |
| ディプロマポリシー (DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1002a0 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 整式、有理式、無理関数、三角関数、指数・対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。 |
| 到達目標 | (1) 基本的な関数の微分を行うことができる。 (2) 関数の挙動を調べ、グラフを描くことができる。 (3) 基本的な関数の不定積分を行うことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 進捗の具合により講義と演習を適宜配分する。授業計画に挙げた内容を解説し、演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために授業には必ず出席し、予習復習も励行すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 本講義の内容は微積分 II を習得するのに引き継がれる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|---------------------------------|-----------|
| | | | |
| 1 | 関数とそのグラフ (1) | ・座標平面・点の表示・点の移動の表示 | 第 1 章の問題 |
| 2 | 関数とそのグラフ (2) | ・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ | 第 1 章の問題 |
| 3 | 関数の極限 | ・実数の性質・極限の定義・極限の計算法 | 第 1 章の問題 |
| 4 | 関数の連続性 | ・連続性の定義・連続関数の性質 | 第 1 章の問題 |
| 5 | 微分係数 | ・微分係数の定義・接線の方程式 | 第 2 章の問題 |
| 6 | 導関数 | ・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数 | 第 2 章の問題 |
| 7 | 導関数の計算法 | ・積、商の導関数 | 第 2 章の問題 |
| 8 | 合成関数の微分高次導関数 | ・合成の方法・合成関数の微分の計算 | 第 2 章の問題 |
| 9 | 逆関数の微分 | ・逆関数の定義・逆関数の微分の計算 | 第 2 章の問題 |
| 10 | 指数関数 | ・指数法則・ネイピア数 e ・指数関数の定義 | 第 3 章の問題 |
| 11 | 指数関数の微分 | ・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分 | 第 3 章の問題 |
| 12 | 対数関数 | ・自然対数の定義・対数の性質 | 第 3 章の問題 |
| 13 | 対数関数の微分 | ・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法 | 第 3 章の問題 |
| 14 | 三角関数 | ・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式 | 第 4 章の問題 |
| 15 | 三角関数・逆三角関数の微分 | ・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分 | 第 4 章の問題 |
| 16 | 高次導関数 (1) | ・高次導関数の定義・多項式の高次導関数 | 第 5 章の問題 |
| 17 | 高次導関数 (2) | ・指数、対数、三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式 | 第 5 章の問題 |
| 18 | 平均値の定理 | ・ロルの定理・平均値の定理 | 第 6 章の問題 |
| 19 | 関数の挙動 (1) | ・関数の増減・極大、極小 | 第 6 章の問題 |
| 20 | 関数の挙動 (2) | ・グラフの凹凸・変曲点 | 第 6 章の問題 |
| 21 | 関数の展開 (1) | ・テイラー展開・マクローリン展開 | 第 6 章の問題 |
| 22 | 関数の展開 (2) | ・指数関数、三角関数、対数関数の展開・二項定理の一般化 | 第 6 章の問題 |
| 23 | 原始関数 (1) | ・微分の逆演算としての不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 24 | 原始関数 (2) | ・整式、有理式的不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 25 | 原始関数 (3) | ・三角関数の不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 26 | 原始関数 (4) | ・指数関数、対数関数の不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 27 | 不定積分の計算法 (1) | ・置換積分 | 第 7 章の問題 |
| 28 | 不定積分の計算法 (2) | ・部分積分 | 第 7 章の問題 |
| 29 | 不定積分の計算法 (3) | ・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分 | 第 7 章の問題 |
| 30 | 不定積分の計算法 (4) | ・初等関数の不定積分のまとめ | 第 7 章の問題 |

関連科目 以下の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められる。
微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学、応用数学 I、応用数学 II
上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|--------------------------------------|------|
| | 1 | | 微積分基礎 理工系学生に向けて (ISBN:9784320110274) | 寺本恵昭 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。 |
| 学生への メッセージ | 3号館 3階に数学教員はいますので、数学、自然科学に関するどんな質問でも気軽に聞きに来て下さい。 |
| 担当者の 研究室等 | 3号館 3階 数学研究室 |
| 備考 | 事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------|
| 科目名 | 微積分Ⅱ | 科目名(英文) | Calculus II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 高尾 尚武 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2003a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 1変数関数の定積分, 及び多変数関数の微積分法の初歩について理解することを目的とします。 |
| 到達目標 | (1) 定積分/広義積分の初歩を理解し, 簡単な計算ができる。 (2) 偏微分の初歩を理解し, 非常に簡単な計算ができる。 (3) 重積分の初歩を若干理解し, 非常に簡単な計算ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義では, 厳密性は多少犠牲にして平易な内容のみを丁寧に解説します。 演習では計算練習を中心にしてもらいます。 受講者は授業内容を確実に自分のものとするよう心掛けてください。 そのために, まずは授業に出席してください。 |
| 科目学習の効果(資格) | 微積分は理系の九九の様なものです。 (本講義の内容は, 工業数学及び諸々の専門科目の習得に引き継がれます。) |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|---|-----------|
| | | | |
| 2 | 簡単な定積分 | ・定数関数, 1次, 2次関数の定積分 ・不定積分と定積分 ・基本的な関数の定積分 | 第8章の問題 |
| 3 | 定積分の計算法(1) | ・微積分の基本定理 ・不定積分と定積分 | 第8章の問題 |
| 4 | 定積分の計算法(2) | ・置換積分 ・部分積分 | 第8章の問題 |
| 5 | 定積分の計算法(3) | ・指数関数, 三角関数の定積分 | 第8章の問題 |
| 6 | 定積分の計算法(4) | ・有理関数, 無理関数の定積分 | 第8章の問題 |
| 7 | 定積分の応用(1) | ・曲線が囲む面積の計算 | 第8章の問題 |
| 8 | 定積分の応用(2) | ・体積の計算 ・回転体の体積 | 第8章の問題 |
| 9 | 広義積分(1) | ・広義積分 | 第8章の問題 |
| 10 | 広義積分(2) | ・広義積分の収束 | 第8章の問題 |
| 11 | 点列の極限 | ・内点, 境界 ・内部, 閉包 ・開集合, 閉集合 | 第9章の問題 |
| 12 | 2変数の関数(1) | ・2変数関数の例 ・xy平面内の領域と関数の定義域 | 第9章の問題 |
| 13 | 2変数関数のグラフ(1) | ・グラフとしての曲面 ・グラフ上の曲線 | 第9章の問題 |
| 14 | 2変数の関数(2) | ・2変数関数の極限 ・2変数関数の連続性 | 第9章の問題 |
| 15 | 2変数関数のグラフ(2) | ・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入 | 第9章の問題 |
| 16 | 偏微分 | ・偏微分の定義 | 第9章の問題 |
| 17 | 偏微分の計算(1) | ・偏導関数の定義 ・偏導関数の計算法 | 第9章の問題 |
| 18 | 偏微分の計算(2) | ・偏微分可能性 ・全微分可能性 | 第9章の問題 |
| 19 | 合成関数の偏微分 | ・2変数関数の合成と偏微分の計算 | 第9章の問題 |
| 20 | 高次偏導関数(1) | ・2次偏導関数の定義 ・偏微分の順序交換 | 第9章の問題 |
| 21 | 高次偏導関数(2) | ・合成の高次偏微分 ・偏微分作用素の表示 | 第9章の問題 |
| 22 | 高次偏導関数(3) | ・2変数のテイラー展開 | 第9章の問題 |
| 23 | 偏微分の応用(1) | ・2変数関数の極値問題 | 第9章の問題 |
| 24 | 偏微分の応用(2) | ・陰関数定理 ・条件付き極値問題 | 第9章の問題 |
| 25 | 重積分の定義(1) | ・体積と重積分 ・長方形領域上での重積分 | 第10章の問題 |
| 26 | 重積分の定義(2) | ・長方形上での逐次積分 | 第10章の問題 |
| 27 | 重積分の計算法(1) | ・曲線が囲まれた領域上での重積分 | 第10章の問題 |
| 28 | 重積分の計算法(2) | ・逐次積分への帰着 | 第10章の問題 |
| 29 | 重積分の計算法(3) | ・重積分と立体の体積 | 第10章の問題 |
| 30 | 重積分の計算法(4) | ・広義重積分 ・ガンマ関数とベータ関数 | 第10章の問題 |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 以下の科目の講義は微積分Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます: 工業数学Ⅰ, 工業数学Ⅱ, 統計学, 代数学, 幾何学Ⅱ, 解析学, 応用数学Ⅰ, 応用数学Ⅱ (ですから, 上記科目を受講する予定の学生は本講義を履修しておく方がよいでしょう。) |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-------|------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 微積分基礎 | 寺本恵昭 | 共立出版 |
| | 2 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 平常点 30%, 期末試験 70%で判定し評価します。 | | | |
| 学生への メッセージ | 3号館3階に数学教員がいますので、遠慮なく質問においで下さい。 但し、担当教員は授業の前後しか滞在していません。代わりにメールでの質問を受け付けます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | 授業に出るだけでは十分な学習効果を得ることはできません。週3時間以上の授業時間外学習を心掛けましょう。 初回の授業でより具体的な授業の内容や進め方、成績評価の方法、授業時間外学習、及び参考書についてお伝えします。 また、授業の進行状況に応じてシラバスの内容は若干変更されます。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------|
| 科目名 | 微積分Ⅱ | 科目名(英文) | Calculus II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 島田 伸一 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2003a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 定積分の概念と計算法、広義積分の概念と計算法及び収束の判定法、2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握極値問題の扱い方、重積分の概念と計算法、以上を説明する。 |
| 到達目標 | 基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する： 1) 基本的な関数の積分ができる 2) 偏微分の計算ができる 3) 2変数関数の挙動がわかる 4) 重積分の計算ができる 5) 極値、体積、重心、慣性モーメントへの応用ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し、理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を実際に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには、欠席をせず授業の前に30分でも良いから復習を重ねること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 2年生以降に学ぶ数学、物理学関連科目の基礎となる。これらの科目を履修予定の者はこの科目を履修しておくことが望まれる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|--------------|---------------------------------------|-----------|--------|
| | | | 問 | 課題レポート |
| 1 | 定積分の定義 | ・面積と定積分・定積分の定義・定積分の性質 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 2 | 簡単な定積分 | ・定数関数、1次、2次関数の定積分・不定積分と定積分・基本的な関数の定積分 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 3 | 定積分の計算法(1) | ・微積分の基本定理・不定積分と定積分 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 4 | 定積分の応用(2) | ・置換積分 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 5 | 定積分の応用(3) | ・部分積分 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 6 | 定積分の応用(4) | ・指数関数、3角関数の定積分 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 7 | 定積分の計算法(5) | ・有理関数、無理関数の定積分 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 8 | 定積分の応用(1) | ・曲線が囲む面積の計算 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 9 | 定積分の応用(2) | ・体積の計算 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 10 | 定積分の応用(3) | ・回転体の体積 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 11 | 定積分の応用(4) | ・広義積分 | 第8章の間、問題 | 課題レポート |
| 12 | 2変数の関数(1) | ・2変数関数の例・xy平面内の領域と関数の定義域 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 13 | 2変数関数のグラフ(1) | ・グラフとしての曲面・グラフ上の曲線 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 14 | 2変数の関数(2) | ・2変数関数の極限・2変数関数の連続性 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 15 | 2変数関数のグラフ(2) | ・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 16 | 偏微分 | ・偏微分の定義 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 17 | 偏微分の計算(1) | ・偏導関数の定義・偏導関数の計算法 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 18 | 偏微分の計算(2) | ・偏微分可能性・全微分可能性 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 19 | 合成関数の偏微分 | ・2変数関数の合成と偏微分の計算 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 20 | 高次偏導関数(1) | ・2次偏導関数の定義・偏微分の順序交換 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 21 | 高次偏導関数(2) | ・合成の高次偏微分・偏微分作用素の表示 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 22 | 高次偏導関数(3) | ・2変数のテイラー展開・マクローリン展開 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 23 | 偏微分の応用(1) | ・2変数関数の極値問題 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 24 | 偏微分の応用(2) | ・陰関数定理・条件付き極値問題 | 第9章の間、問題 | 課題レポート |
| 25 | 重積分の定義(1) | ・体積と重積分・長方形領域上での重積分 | 第10章の間、問題 | 課題レポート |
| 26 | 重積分の定義(2) | ・長方形上での逐次積分 | 第10章の間、問題 | 課題レポート |
| 27 | 重積分の計算法(1) | ・曲線で囲まれた領域上での重積分 | 第10章の間、問題 | 課題レポート |
| 28 | 重積分の計算法(2) | ・逐次積分への帰着 | 第10章の間、問題 | 課題レポート |
| 29 | 重積分の計算法(3) | ・重積分と立体の体積 | 第10章の間、問題 | 課題レポート |
| 30 | 重積分の計算法(4) | ・広義重積分・ Γ 関数とベータ関数 | 第10章の間、問題 | 課題レポート |

関連科目 微積分Ⅰ、線形代数Ⅰ・Ⅱ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|------|------|
| | 1 | 微積分基礎 | 寺本恵昭 | 共立出版 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準) 演習,小テスト,課題で20%, 中間試験25%, 期末試験55%で評価する。

学生へのメッセージ どんなに些細な事でも遠慮なく質問すること、授業中でもいつでも親切に答えます。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。

担当者の研究室等 3号館3階 数学研究室

備考 事前事後学習は毎回1.5時間以上かけること。課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名 | 物理学 | 科目名(英文) | Physics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 前田 純一郎 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1014a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 物理学は自然現象や理工系学部の専門科目を理解する上で、極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な物理現象の紹介とその成り立ちについて基本的な法則から説明する。特に、力学、熱学、光学および電磁気学に関する物理学の基本的原理や法則の相互関係を概説し、物理現象を総合的にかつ定量的に取り扱う方法を学ぶ。 |
| 到達目標 | 建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書と小テストを用いて授業をすすめる。ほぼ毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 身の周りの現象と物理学 | 身近なところで活躍する物理学 | ————— |
| 2 | 時間変化と速度、加速度 | 位置の時間変化から、速度や加速度が定義される | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 時間に関する微分法 |
| 3 | 運動の法則 | 運動の三法則 | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 運動方程式を導く |
| 4 | つり合いの状態 | 運動方程式の解法を学んだのち、物体がつり合っている状態での運動方程式を理解する | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 運動方程式を解く |
| 5 | 力学的エネルギー | 空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) エネルギー保存則 |
| 6 | 電荷と力 | 力学と電気の関係：クーロンの法則 | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 万有引力以外の力 |
| 7 | 電荷の運動(質点の力学) | ミリカンの実験・ブラウン管における電荷の運動 | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 電場中での荷電粒子の運動 |
| 8 | 電流と電圧(簡単な回路) | 電圧、電流、抵抗及び消費電力について説明する | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) オームの法則 |
| 9 | 電磁誘導(磁石と力) | 磁石と力、モーターと発電機 | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 電場と磁場の違い |
| 10 | 直流と交流 | 家庭用電源と電池の原理と役割、簡単な回路 | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 直流電流と交流電流の用途 |
| 11 | 電気エネルギーと熱エネルギー | 電気エネルギーと熱エネルギーの関係 | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 電気を熱に変換したときのエネルギー保存則 |
| 12 | 光の性質：電磁波 | 折れ曲がる電磁波と光 | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 重ね合わせの原理 |
| 13 | 光の性質：粒子 | 光の粒子性とエネルギー | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 光電効果 |
| 14 | 物理学とエネルギー | エネルギーの変換と効率化(力学、電磁気、熱、光の融合) | 予習・小テスト復習(1.5時間以上) 様々なエネルギー |
| 15 | おわりに | 講義のまとめ | ————— |

| | |
|------|--------------------|
| 関連科目 | 力学Ⅰ・Ⅱ, 物理学Ⅰ, 物理学実験 |
|------|--------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|----------|------------|------|
| | | | |
| 1 | やさしい基礎物理 | 潮 秀樹, 上村 洸 | 森北出版 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|----------|------------------------------|
| 評価方法(基準) | 期末試験(70%)と小テスト(30%)の割合で評価する。 |
|----------|------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をたずずに授業にのぞんでください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 8号館2階 物理準備室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 教科書や授業当日の配布されるプリントを1.5時間以上かけて丁寧に読み直すこと。理解出来なかった点を洗い出し、可能な限り次の授業にて質問したうえで、さらなる知識を積み上げること。 小テストは、適宜講義中に解説する。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 物理学基礎演習 | 科目名(英文) | Exercises in Fundamental Physics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 東谷 篤志, 前田 純一郎 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1013a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 物理学は自然現象を理解する上で極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な自然現象を物理学の法則から導き出す力を身につけることを目的として、さまざまな物理現象・科学技術との関連性について講述する。とくに環境科学に密接に関係する熱力学、電磁気学および波の基本的原理や法則を講述し、現象を定量的に取り扱う方法について概説する。 |
| 到達目標 | 熱・電磁気・波に関する基本的な物理を理解し、以下のことを目標とする。 熱：熱力学第一法則を用いて熱効率を計算できる。 電磁気：クーロン力・静電ポテンシャルを計算できる。 波：数学的に波を記述できる。 |
| 授業方法と留意点 | この物理学基礎演習は一週に2回授業が行われています。講義と演習を交互に行い、集中的に物理学に対する理解を深めていく事を目的としています。 |
| 科目学習の効果(資格) | 理工学の基礎として必要不可欠な物理学の理解に役立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|---|-----------|
| | | | |
| 1 | 気体の状態方程式 | 「熱力学」の紹介。ボイルの法則、シャルルの法則から、気体の状態方程式を学ぶ。 | 予習・復習課題1 |
| 2 | 温度と熱 | 温度と熱の概念を気体の分子運動論から理解する。 | 予習・復習課題2 |
| 3 | 仕事と熱と内部エネルギー | 物理学でいう仕事の概念、熱の概念、内部エネルギーの概念を修得する。 | 予習・復習課題3 |
| 4 | 熱力学第一法則 | 熱現象に関わるエネルギー保存則を理解する。 | 予習・復習課題4 |
| 5 | 様々な状態変化 | 等温変化、定圧変化、定積変化、断熱変化を知る。カルノーサイクルを学び、第2種永久機関の是非を問う。 | 予習・復習課題5 |
| 6 | クーロン力 | 「電磁気学」の紹介。質量に対する万有引力と比して、荷電粒子にかかるクーロン力を理解する。 | 予習・復習課題6 |
| 7 | 電場 | 電場中に置かれた荷電粒子にかかる力を求め、電場と電気力線の概念を学ぶ。 | 予習・復習課題7 |
| 8 | 電気的位置エネルギー | 力学的位置エネルギーと電気的位置エネルギーとの比較をもとに、等電位線の概念を理解する。 | 予習・復習課題8 |
| 9 | 電子の流れと抵抗とジュール熱 | 電流、抵抗、オームの法則を学ぶ。また、電気回路での合成抵抗やジュール熱を習得。 | 予習・復習課題9 |
| 10 | コンデンサー | コンデンサー容量、コンデンサーを含む回路における合成容量や静電エネルギーを習得。 | 予習・復習課題10 |
| 11 | 電流と磁場 | 電流のつくる磁場、磁場中の電子に働くローレンツ力を学ぶ | 予習・復習課題11 |
| 12 | 波 | 波の性質と数学的表現の仕方を理解する。 | 予習・復習課題12 |
| 13 | 波の伝播と位相速度 | 位相とは何か、また位相速度とは何か、波が空間を伝播していく様子を音波を例に挙げて説明する。 | 予習・復習課題13 |
| 14 | 波の様々な現象 | 重ね合わせの原理をもとに、波が干渉したり、折れ曲がったりする現象を学ぶ。 | 予習・復習課題14 |
| 15 | 音波 | 音波のうなりと気柱振動を学ぶ。 | 予習・復習課題15 |

関連科目 微積分 I, 線形代数 I, 基礎力学演習, 物理学実験

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------|------------|------|
| | 1 | やさしい基礎物理 | 潮 秀樹, 上村 洸 | 森北出版 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|------|--------|
| | 1 | 物理学基礎 | 原 康夫 | 学術図書出版 |

評価方法(基準) 期末試験と演習問題の解答・取り組み方で評価する。
期末試験 60%、演習問題の解答・取り組み 40%

学生へのメッセージ 物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、1つ1つみなさんが体験している現象の原因を突き止めてみましょう。困ったときやわからないときには、担当教員や学習支援センターを遠慮なくたずねてください。

担当者の研究室等 1号館2階 物性物理研究室(2) (東谷)
8号館2階 物理準備室(前田)

備考 この科目は、講義と演習の二つからなる。講義終了後には演習課題のプリントを配布するので、講義終了後には1時間以上かけて講義の復習と課題問題を解いておくこと。しておくこと。また、演習授業終了後には授業中に行った演習問題を再度復習しておくこと(0.5h以上)。演習問題は、適宜講義中に解説する。?

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------------|
| 科目名 | 物理学実験 | 科目名(英文) | Experiments in Physics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 神嶋 修, 大上 雅史, 三木 久巳 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1020a0 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この実験科目は、自然科学の基本である「物理学」を、実際の測定やデータ解析を通して理解し、さらに物理現象をより深く観察・認識する科目である。よって、いろいろな装置を活用して、一連の基本的実験および計測手段を学ぶ。 |
| 到達目標 | 以下の項目の理解を目標とする。 1) 国際単位系(SI) 2) 各テーマの物理的内容 3) 計測機器の取り扱い法 4) 物理量の測定方法 5) 誤差の考え方と取り扱い方 |
| 授業方法と留意点 | 2~3人で1つの班が編成されるが、各班は順番表に従って週に1回(2時限)の実験を行い、レポートを提出する。 |
| 科目学習の効果(資格) | この科目では、事実・現象・測定等の実体験をとおり、すじ道を立てて考える科学的な思考法を養う。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|---|----------------|
| | | | |
| 1 | 物理学実験に向けて | 「実験」に関するガイダンス、および有効数字、誤差についての講義を行う。技術者・研究者の行動規範、倫理を身につける。 | ————— |
| 2 | サールの装置によるヤング率の測定 | サールの装置を用いて、2本の針金(真ちゅう線・ピアノ線)のヤング率を求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 3 | 熱の仕事当量Jの測定 | 電流の発熱作用により、熱量計の中の水の温度上昇から熱の仕事当量Jを求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 4 | 電子の比電荷の測定 | 電子が磁場内で円運動する状態を観察し、電子の比電荷 e/m の値を求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 5 | 分光実験 | 分光計を用いて、葉緑素の光吸収スペクトルを求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 6 | プランク定数の測定 | 光電効果の現象を通して、光量子の概念を理解し、プランク(Planck)定数 h の値を測定する。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 7 | ボルダの振り子による重力加速度の測定 | ボルダの振り子を用いて、当実験室での重力加速度の値を求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 8 | 直流回路と交流回路 | 簡単な直流回路と交流回路を通じて、その動作原理を理解し、未知の抵抗の抵抗値を求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 9 | 低温の世界 | 低温では物質の性質が劇的に変化する。本実験では低温におけるさまざまな現象について体験を通して理解する。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 10 | 光の回折の実験 | レーザーと回折格子を用いて、回折格子の間隔と回折角との関係を調べ、回折格子の間隔の値を求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 11 | ねじれ振り子による剛性率の測定 | ねじれ振り子の周期、金属製円環のサイズ、ピアノ線の直径等を測定し、これらの測定結果からピアノ線の剛性率を求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 12 | コールラウシュブリッジによる電解質溶液の抵抗測定 | コールラウシュブリッジを用い、電気伝導率が既知の電解質溶液から容器定数を求め、未知の電解質溶液の電気伝導率を測定する。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 13 | 電磁波の実験 | 電磁波に関する種々の基本的測定から、電磁波の周波数や偏向特性を調べる。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 14 | レンズの焦点距離の測定 | 凸レンズおよび凹レンズの焦点距離の測定法を学び、レンズの特性を理解する。 | 事前報告書およびレポート課題 |
| 15 | 速度と加速度 | ストロボ撮影により、自由落下現象を観察し、速度と加速度を理解し、重力加速度を求める。 | 事前報告書およびレポート課題 |

関連科目 基礎力学演習、力学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|---------|------|
| | 1 | 物理学実験 | 基礎理工学機構 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|-----------|----------|---------|------|
| | 1 | やさしい基礎物理 | 潮秀樹、上村洗 | 森北出版 |
| 2 | 第3版 物理学基礎 | 原 康夫 | 学術図書出版 | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | <p>1) 実験は講義と異なり、全て出席を前提とする。</p> <p>2) レポートの提出がない場合、実験をしていないものとみなすので必ず提出すること。</p> <p>3) レポート(60%)、実験態度(40%)の割合で評価する。</p> |
| 学生への メッセージ | <p>1) 実験は自然科学の基本です。この物理学実験でおおいに物理学を実体験して下さい。</p> <p>2) 質問がある場合、担当の先生に遠慮なく質問してください。</p> <p>3) 授業時間外の場合は、担当の先生の研究室へ訪ねてみて下さい。</p> |
| 担当者の 研究室等 | <p>8号館2階 光物性研究室</p> |
| 備考 | <p>毎回レポート提出が課せられている。</p> <p>自らが行う実験の事前学習として、</p> <p>1.5時間以上をかけて教科書を読み、1) 実験の目的、2) 理論的背景、3) 実験手順を提出レポートにまとめたうえで授業に参加すること。</p> <p>レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。</p> |

| | | | |
|----------------|-------------|----------|----------------------------------|
| 科目名 | プロダクトデザイン演習 | 科目名 (英文) | Exercises in Product Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 稲地 秀介, 大野 亜紀, 澤田 正治, 鹿間 栄吉, 西山 徹 |
| ディプロマポリシー (DP) | F◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2063a0 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>この演習はヒューマンスケールのプロダクトを製作するなど、デザイン志向の学生を対象とするプログラムである。これまで個別に学習した様々な基礎的なデザインに関する知識を具体的な実践課題を通して総合化することを目的としている。プロダクト製作を通して、材料の特性を活かした機能や造形、加工法などプロダクトデザインにおける基礎的なデザイン能力を獲得する。</p> <p>プログラムは2つからなる。A) 木工プログラムと B) 商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。ただし、A) 木工プログラムは作業安全確保の観点から受講者数を最大 16 人に限定している。</p> <p>また、履修登録前に受講希望者数を確認することを目的に事前登録を行う。定員より受講希望者が大幅に多い場合には、抽選により受講者を決定する。</p> |
| 到達目標 | <p>プロダクトデザインに関する基礎的能力の習得・活用できることを目標とする。具体的には、①問題発見能力、②問題解決能力（創造力）、③コミュニケーション能力（伝える力）である。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>プログラムは2つからなる。A) 木工プログラムと B) 商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。</p> <p>A) 木工プログラム 木を材料とした小物制作（設計・加工）から木材料の特性を体験を通して理解するとともに基礎的な設計・製図を学ぶ。次に、簡単な椅子などの自分達の身体寸法にあった木工家具の製作を行う。定員は 16 人とする。製作材料などの費用がかかる。安全指示に従い、正しい服装や態度などを保つことが求められる。指示に従わない場合は、安全確保のため受講中止することがある。</p> <p>B) 商品開発プログラム 演習はレクチャーと実習からなっている。商品開発からデザインまでを担当する模擬開発者として、そのプロセスを学ぶ。具体的には、①情報収集・分析手法から、課題を見つける。②ブレインストーミングなどでアイデア出しをしてアイデアシートにまとめる。③商品化決定したアイデアを、デザインする。④デザインしたものを、利用者にわかりやすく伝える。これらは連続した実習として行うため、欠席することは演習を進める上で大きな障害となるので注意すること。演習の内容は受講者の作業進行状況に合わせて適宜変更する。また、演習作業に必要な材料は各自授業進行に合わせて購入準備すること。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | インテリアプランナー、インテリアコーディネーター資格および本学科の空間デザインに関係する科目。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | A) ガイダンス B) ガイダンス・レクチャー (商品開発の現場) | A) 目的、演習概要説明 B) 目的、演習概要説明および商品開発の現場についてその概要をレクチャーする | A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 2 | A) レクチャー B) レクチャー (商品開発の現場) | A) 目的、演習概要説明 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする | A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 3 | A) 小作品製図 1 B) レクチャー (商品開発の現場) | A) 製図法の修得 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする | A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 4 | A) 小作品製図 2 B) レクチャー (企画・デザイン) | A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする | A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。図面の未完成の部分を次回演習授業までに補って おく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 5 | A) 小作品製図 3 B) レクチャー (企画・デザイン) | A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする | A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認し、事前に図面不整合部分を修正しておく。図面の未完成の部分を次回演習授業までに完成させておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 6 | A) 小作品制作 1 (部品切り出し) B) 実習 1 | A) 図面から加工工程へ (図面提出) B) 想定企業を検討するための資料を収集する | A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 7 | A) 小作品制作 2 (接合部加工) B) 実習 2 | A) 図面から加工工程へ B) 想定企業を検討するための資料を収集する | A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 8 | A) 小作品制作 3 (接合部加工、組立て) B) 実習 3 | A) 加工工程 B) 想定企業を決定する | A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 9 | A) 小作品制作 4 (組立て、仕上げ加工) B) 実習 4 | A) 加工工程から仕上げ工程へ B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う | A) 仕上げ工程の注意点を事前にデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 10 | A) 小作品制作 5 (仕上げ加工) B) 実習 5 | A) 仕上げ工程 (提出) B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う | 仕上げ工程の注意点を事前に A) にデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。演習時間内に完成できなかった場合には、必ず次回までに完成させておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 11 | A) 木工家具レクチャー 1 B) 実習 6 | A) 小作品の講評、木の特性とデザインについての基礎的レクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う | A) 課題書を良く読んで、演習前にデザイン案を検討し、10 点描いて演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| 12 | A) 木工家具レクチャー 2 B) 実習 7 | A) デザインと加工方法について基礎的レクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析をまとめる (課題提出) | A) レクチャーを受けて、事前に作成した自分のデザイン案の実現可能性について検討し、改善案を作成したうえで次回演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと |

| | | | | |
|-----------|---|----------------------------|--|---|
| | 13 | A) 木工家具デザイン 1 B) 実習 8 | A) 木工家具デザイン作業 (エスキースチェック) B) プレーンストーミング | A) 改善案に対するコメントを元に、さらなる改善案を作成すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 14 | A) 木工家具デザイン 2 B) 実習 9 | A) 木工家具デザイン作業 (デザイン決定) B) プレーンストーミング | A) 最終デザイン決定案の加工工程を事前検討し、部品加工イメージを組み立てたうえで演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 15 | A) 木工家具製図 1 B) 実習 10 | A) 木工家具製図作業 B) プレーンストーミング | A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 16 | A) 木工家具製図 2 B) 実習 11 | A) 木工家具製図作業 B) プレーンストーミングをまとめる (課題提出) | A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 17 | A) 木工家具製図 3 B) 実習 12 | A) 木工家具製図作業 B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など) | A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 18 | A) 木工家具製図 4 B) 実習 13 | A) 木工家具製図作業 (図面提出) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など) | A) 次回演習までに部品加工のイメージを組み立ておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 19 | A) 木工家具加工 1 B) 実習 14 | A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など) | A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 20 | A) 木工家具加工 2 B) 実習 15 | A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) アイデアシート作成 (ニーズ・ネーミング・売り言葉など) (課題提出) | A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 21 | A) 木工家具加工 3 B) 実習 16 | A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成) | A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 22 | A) 木工家具加工 4 B) 実習 17 | A) 木工家具加工工程 (部品切り出し) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成) | A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 23 | A) 木工家具加工 5 B) 実習 18 | A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成) | A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 24 | A) 木工家具加工 6 B) 実習 19 | A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成) | A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 25 | A) 木工家具加工 7 B) 実習 20 | A) 木工家具加工工程 (接合部加工) B) 商品化案を決定 (デザイン、ラフモデル作成) (課題提出) | A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 26 | A) 木工家具組立と仕上 1 B) 実習 21 | A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど) | A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 27 | A) 木工家具組立と仕上 2 B) 実習 22 | A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど) | 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 28 | A) 木工家具組立と仕上 3 B) 実習 23 | A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作 (ポスター・全紙広告・カタログなど) (課題提出) | 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。作品を完成させておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと |
| | 29 | 講評会 1 | 講評会を行う | 作品のプレゼンテーション準備をしてから演習に参加すること。 |
| | 30 | 講評会 2 | 講評会を行う | 作品講評内容を理解し、今後のデザインに活かせるように、まとめておくこと。 |
| 関連科目 | プロダクトデザイン論、インテリアデザイン論 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ウラからのぞけばオモテが見える | 佐藤オオキ, 川上典李子 | 日経 BP 社 |
| | 2 | 名作椅子の由来図典: 歴史の流れがひと目でわかる | 西川栄明 | 誠文堂新光社 |
| | 3 | 椅子一人間工学・製図・意匠登録まで | 井上 昇 | 建築資料研究社 |
| 評価方法 (基準) | A) 制作過程における評価 50%、完成作品評価 50% B) 演習課題評価 (60%)、プレゼン (20%)、授業態度 (20%) | | | |
| 学生へのメッセージ | 我々は日常的に様々なプロダクトデザインに接している。特にこの演習は短時間で集中的に学ぶプログラムとなっているため、日頃からプロダクトデザインに対して高い意識をもって過ごすことでより有意義な演習となる。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 12号館 7階 稲地准教授室 | | | |
| 備考 | A) 製作に使用する材料などの購入費用がかかる。木加工は大変危険であるため、服装や行動には注意が必要である。安全指示に背き、受講を続けることが危険と判断される場合には、演習途中でも受講中断することがある。 B) 模型やプレゼンテーションに使用する材料・用具などを購入費用がかかる (モデルボード、カッティングシート、イラストレーションマーカーなど)。 演習に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする | | | |

| | | | |
|---------------|------------|---------|----------------|
| 科目名 | プロダクトデザイン論 | 科目名(英文) | Product Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 吉川 豪 |
| ディプロマポリシー(DP) | C◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2027a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>【概要】</p> <p>「デザイン思考」ということばが広く使われるようになってきた。デザインが持つ創造的な問題解決能力を広く社会全般に活用し、イノベーションを生み出そうという考え方である。プロダクトデザイン論を通してデザイン思考を身につけ日々の課題はもちろん、毎日の生活や将来の仕事に新たな価値をつくりだせるスキルを会得する。</p> <p>【目的と手段】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロダクトデザイン論を通じて①問題発見能力 ②問題解決能力 ③コミュニケーション能力を習得をする。 ・現役インハウスデザイナーが多くの実務事例を用いながら、プロになっても実践できる「デザイン思考」を学ぶ。 |
| 到達目標 | <p>【到達目標】</p> <p>①プロダクトデザインの過程を手と頭で経験し全体像を理解する。 ②プロセスを通じて最適なデザイン手法を選び、実践し、結果を出せるようになる。 ③デザイン以外の課題、サービス企画、企画、市場創造、研究開発、論文など多様な分野に応用できる「デザイン思考」を習得する。</p> |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義を中心に実技・演習・プレゼンも盛り込みながら展開する。 ・講義は授業計画に沿って行いが、学生の理解度および興味に合わせてフレキシブルに計画内容を修正しながら推進する。 |
| 科目学習の効果(資格) | ここで得たスキルは他教科のベースになると考える |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ■プロの仕事 | <input type="checkbox"/> 自己紹介を兼ねて仕事紹介 <input type="checkbox"/> 講師を知ってもらう | ・事後アンケート ・次回課題 「好きなデザイン・デザイナー」 |
| 2 | ■よいデザインとは? | <input type="checkbox"/> 自分が思うよいデザインとは? <input type="checkbox"/> よいデザインの見える化 <input type="checkbox"/> みんなが思う、よいデザイン | ・発表会 「好きなデザイン・デザイナー」 ・次回課題 「気になるアイテム」 |
| 3 | ■何がよいデザインか? | <input type="checkbox"/> 気になるデザインの分析 | ・発表会 「気になるアイテム」 |
| 4 | ■プロダクトデザイン(以下PD) 概論 | <input type="checkbox"/> PDとは? <input type="checkbox"/> プロダクトデザイナーとは <input type="checkbox"/> 社会とPD <input type="checkbox"/> ビジネスとPD | 事前：なし 事後：気づき、不明点記入 |
| 5 | ■デザインプロセス | <input type="checkbox"/> PD戦略 <input type="checkbox"/> PD企画 <input type="checkbox"/> PD開発 <input type="checkbox"/> PDフォロー | 事前：なし 事後：気づき、不明点記入 |
| 6 | ■デザインマーケティング | <input type="checkbox"/> マーケティングとデザイン <input type="checkbox"/> マーケティングプロセス <input type="checkbox"/> プロモーション | 事前：なし 事後：気づき、不明点記入 |
| 7 | ■ユーザー調査と情報のまとめ方 | <input type="checkbox"/> アンケート/インタビュー <input type="checkbox"/> 観察/フィールド調査 <input type="checkbox"/> ペルソナ手法 <input type="checkbox"/> シナリオ手法 <input type="checkbox"/> ダイアグラム | 事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり(予定) |
| 8 | ■アイデア展開1 | <input type="checkbox"/> アイデアって何? <input type="checkbox"/> 発想法 | 事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり(予定) |
| 9 | ■アイデア展開2 | <input type="checkbox"/> アイデア展開 <input type="checkbox"/> アイデアの定着 | 事前なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり(予定) |
| 10 | ■プレゼンテーション1 | <input type="checkbox"/> プレゼンの本質と全体を理解する <input type="checkbox"/> 資料を作る技術 <input type="checkbox"/> 話す、見せる技術 | 事前なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり(予定) |
| 11 | ■プレゼンテーション2 | <input type="checkbox"/> プレゼン準備の流れ <input type="checkbox"/> 基本的チェック項目 | 事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり(予定) |
| 12 | ■ワーキング(個人) | <input type="checkbox"/> 「気になるアイテム」をリデザインしてみる。 <input type="checkbox"/> フォーマットに沿って今までの授業内容を追体験する | (個人ワーキング) 事前：気になるアイテム持参 事後：フォーマット保管 *配布資料あり(予定) |
| 13 | ■ワーキング(グループ) | <input type="checkbox"/> 各自持ち寄った「気になるアイテム」を共有する <input type="checkbox"/> グループで更に展開する。 <input type="checkbox"/> プレゼン資料作成 | (チームワーキング) 事前：気になるアイテム持参 事後：フォーマット保管 *配布資料あり(予定) |

| | | | | |
|---------------|--|------------|-------------------------|---|
| | 14 | ■発表会（グループ） | □プレゼンテーションの実践 | （チームワーキング） 事前：気になるアイテム持参 事後：フォーマット提出 *配布資料あり（予定） |
| | 15 | ■講義のまとめ・補足 | □講義のまとめと補足 □参考図書紹介など | レポート・試験に備えて今までの内容をレビューし整理してみる。 |
| 関連科目 | インテリアデザイン演習、設計演習、プロダクトデザイン演習 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 （基準） | レポート&課題（40%）と試験（60%）から総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | プロダクトデザインについて学びながら、「デザイン思考」を一緒に学びましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする | | | |

| | | | |
|---------------|--------------|---------|------------------|
| 科目名 | ランドスケープデザイン論 | 科目名(英文) | Landscape Design |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 武田 重昭, 下村 泰彦 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2038a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義は、都市圏や自然地域における各種の緑地空間を対象としたランドスケープデザインを理解するための基本となる知識と理論、デザイン手法と技術を学修することによって、一連のランドスケープデザイン・プロセスの習得と豊かな発想力を養うことを目標とする。 |
| 到達目標 | (1)ランドスケープデザインの基本的な計画プロセスとデザイン手法を説明できる。 (2)植栽デザインの考え方や緑化材料の基本的事項を説明できる。 (3)景観デザインや空間デザインの基本的考え方を説明できる。 (4)緑地空間における問題点や課題を抽出でき、その解決方法を総合的に表現できる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義内容に応じたプリントを配布する。授業方法はプロジェクターを主とし、板書で補足する。 プリントは資料であるので、授業内容をしっかりとメモすること。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ランドスケープデザインの基本的アプローチ | ランドスケープデザインの概念的枠組みおよび基礎的事項について概説する。人間行動、自然的要素、時間軸の関係性について考える。 | ランドスケープデザインについて予習するとともに西洋庭園や日本庭園について学習しておく。講義後は、庭園デザインについて復習するとともにそこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。 |
| 2 | 西洋庭園様式の変遷と庭園デザイン | 西洋庭園の変遷について説明するとともに、各時代の庭園デザインを読み解く。 ・屋上緑化の起源 ・幾何学式庭園と自然風景式庭園のデザイン ・水を使ったデザイン | ランドスケープデザインについて予習するとともに西洋庭園や日本庭園について学習しておく。講義後は、庭園デザインについて復習するとともにそこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。 |
| 3 | 日本庭園様式の変遷と庭園デザイン | 日本庭園の変遷について説明するとともに、各時代の庭園デザインを読み解く。 ・遠近法、借景等のデザイン ・自然修景手法と植栽樹木 | ランドスケープデザインについて予習するとともに西洋庭園や日本庭園について学習しておく。講義後は、庭園デザインについて復習するとともにそこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。 |
| 4 | 大阪の緑と広域緑地計画 | 大阪の緑の現状と課題について概説するとともに、広域緑地計画の考え方について学修する。 ・大阪の歴史と緑地軸 ・ボストンのエメラルドネックレス ・緑の基本計画 | 配布資料を通読してくること。 講義前には、都市の緑地に関して学習しておく。講義後は、都市空間や居住空間、都市公園等における樹木に着目して、その植栽形式や効果について考察する。 |
| 5 | 都市に自然空間を演出する(自然観と里地里山) | 都市内の住宅計画に多用されている「里山をイメージした植栽デザイン」。 ・里山概念を紹介するとともに、都市空間における「自然的雰囲気演出手法」を学修する。 | 配布資料を通読してくること。 講義前には、都市の緑地に関して学習しておく。講義後は、都市空間や居住空間、都市公園等における樹木に着目して、その植栽形式や効果について考察する。 |
| 6 | 都市景観形成と植栽デザイン | 都市景観形成を「緑」から考える。 ・植栽樹木の特性や樹種選定の方法、配植方法といった植栽デザイン(planting design)の基本的考え方について学修する。 | 配布資料を通読してくること。 講義前には、都市の緑地に関して学習しておく。講義後は、都市空間や居住空間、都市公園等における樹木に着目して、その植栽形式や効果について考察する。 |
| 7 | 都市空間の現地視察・1(学外見学) | 都市空間に実際に出向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。 | 調査対象地区の概要を事前に調査しておく。視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。 |
| 8 | 都市空間の現地視察・2(学外見学) | 都市空間に実際に出向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。 | 調査対象地区の概要を事前に調査しておく。視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。 |
| 9 | 都市空間の現地視察・3(学外見学) | 都市空間に実際に出向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。 | 調査対象地区の概要を事前に調査しておく。視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。 |
| 10 | ランドスケープデザイン・1(計画・設計プロセス) | 都市緑地・オープンスペースの計画・設計プロセスについて説明する。 | ランドスケープデザインに関するプロセスについて予習しておく。講義修了後には、敷地分析手法と計画手法を復習する。 |
| 11 | ランドスケープデザイン・2(敷地分析) | ランドスケープ・デザインにおける敷地分析(site analysis)の手法について説明する。 ・分析に用いる項目と考え方 | ランドスケープデザインに関するプロセスについて予習しておく。講義修了後には、敷地分析手法と計画手法を復習する。 |
| 12 | ランドスケープデザイン・3(敷地計画) | ランドスケープ・デザインにおける敷地計画(site planning)の手法について説明する。 ・「ゾーニング」と「サーキュレーション」 | ランドスケープデザインに関するプロセスについて予習しておく。講義修了後には、敷地分析手法と計画手法を復習する。 |

| | | | | |
|---------------|--|--------------------------|--|--|
| | | | ン」 ・「ゾーニング」から「エスキス」へ | |
| | 13 | ランドスケープデザイン・4 (事例紹介) | 業務系ビルや住宅（集合住宅と独立住宅）の植栽計画・デザインの事例紹介を通じて空間デザイン・植栽デザイン手法について説明する。 | ランドスケープデザインの事例について事前に学習する。講義後には、ユニバーサルデザイン等に関して復習する。 |
| | 14 | ランドスケープデザイン・5 (事例紹介) | 人にやさしいデザイン（ユニバーサルデザイン）や安全・安心のまちづくり、コミュニティ形成などに係わる都市オープンスペースデザインについて説明する。 | ランドスケープデザインの事例について事前に学習する。講義後には、ユニバーサルデザイン等に関して復習する。 |
| | 15 | ランドスケープデザインの 意義と今日的課題 | 講義の総まとめとして、ランドスケープデザインに関する主として建築分野での意義や必要性を述べるとともに、今日的な課題について説明する。 | ランドスケープデザインの事例について事前に学習する。講義後には、ユニバーサルデザイン等に関して復習する。 |
| 関連科目 | 設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、設計演習Ⅳ、地域・都市計画学、建築空間論 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 景観の構造—ランドスケープとしての日本の空間 | 樋口忠彦 | 技報堂出版 |
| | 2 | 街並みの美学 | 芦原義信 | 岩波現代文庫 |
| | 3 | 都市・まちづくり学入門 | 日本都市計画学会関西支部 新 しい都市計画教程研究会編 久 隆浩、下村泰彦 他 | 学芸出版社 |
| 評価方法 (基準) | 学期末のレポート課題（80%）、各回授業における小レポート（20%）で到達度を評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 都市空間を構成する「ランドスケープデザイン」についての理念や考え方の理解を深める講義である。建築計画・設計の範疇を超えて敷地全体や周辺地域に配慮したトータルなデザインプロセスや手法について学修できるとともに、植栽デザイン・修景手法の基本的な考え方も修得できる。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習は配布資料について約1時間30分間程度をこれに当てること。 また、講義内容を踏まえ、都市内における各種オープンスペースに出向き、人間行動を観察し、人間のアクティビティと施設・樹木の空間配置やデザインとの関わりについて考察してもらいたい。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名 | 力学 | 科目名(英文) | Mechanics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 長島 健 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1016a0 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 近代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。「力学II」では、剛体の力学について学ぶ。 |
| 到達目標 | 剛体の運動を記述するための物理量および方程式について説明できる。さらに剛体の運動を回転の運動方程式をもとに調べることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 毎回配布するプリントを用いて授業をする。毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 工学の基礎として、専門に出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|----------------------------|
| | | | |
| 1 | 力学Iの復習 | 質点の力学を復習する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 2 | 力のモーメントの基礎 | 剛体の運動の特徴である回転運動を扱うために必要な力のモーメントの考え方を学ぶ。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 3 | 様々な力のモーメントの表し方 | モーメントの腕を用いた力のモーメントの表し方を学習する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 4 | ベクトルの外積と力のモーメント | ベクトルの外積の数学的基礎を習得する。ベクトル積を用いた力のモーメントの表し方を学ぶ。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 5 | 力のモーメントのつりあい | シーソー、天秤のつりあいを力のモーメントを用いて表す方法を学習する。つりあいの条件を求める方法を習得する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 6 | 重心とモーメント | 重心の意味を理解し、様々な図形の重心の位置を求める。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 7 | 様々な形状の剛体の重心 | 様々な形状の剛体の重心の求め方を習得する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 8 | 慣性モーメントの基礎 | 慣性モーメントについて定性的に理解する。さらに角加速度を導入し、回転運動の運動方程式を学ぶ。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 9 | 慣性モーメント(1) | 棒状の慣性モーメントの求め方を習得する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 10 | 慣性モーメント(2) | 板状の慣性モーメントの求め方を習得する。慣性モーメントの計算に便利な平板の定理を理解する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 11 | 慣性モーメント(3) | 円盤状の慣性モーメントの求め方を習得する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 12 | 平行軸の定理 | 慣性モーメントの計算に便利な平行軸の定理を学ぶ。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 13 | 剛体の平面運動 | 剛体の一般的な運動を並進及び回転運動の運動方程式を用いて調べる方法を習得する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 14 | 角運動量、回転運動の運動エネルギー | 剛体の回転運動の状態を表す角運動量と回転運動の運動エネルギーを学ぶ。これらを利用して剛体の運動を調べる方法を習得する。 | 自主学習(配布プリント及び小テスト復習)を1時間以上 |
| 15 | 剛体の力学のまとめ | 剛体の運動についてのまとめ | ----- |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | 微積分I、線形代数I、力学I、物理学実験 |
|------|----------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------|---------|------|
| | 1 | やさしい基礎物理 | 潮秀樹、上村洗 | 森北出版 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|----------------------------------|
| 評価方法(基準) | 評価は期末試験と小テストにて行う。定期試験70%、小テスト30% |
|----------|----------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|----------------------------------|
| 担当者の研究室等 | 8号館2階 長島研究室 スチューデントアワー 火曜日5限目 |
|----------|----------------------------------|

| | |
|----|------------------------------|
| 備考 | 小テストや課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。? |
|----|------------------------------|

| | | | |
|---------------|-----------|----------|--|
| 科目名 | 理工学基礎実験 | 科目名 (英文) | Basic Experiments in Science and Engineering |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 竹村 明久, 稲地 秀介, 北本 裕之, 塩谷 茂明, 志賀 和広, 白鳥 武, 長島 健, 道下 敏則 |
| ディプロマポリシー(DP) | B◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR1019a0 | | |

| 授業概要・目的 | 理工学に必要な基礎的計測技術を身につけ、理工学の基礎的な考え方を体験する。さらに、専門分野だけでなく理工学全体の基礎知識に触れることを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|----------|------|-----|------|---|----------|----------|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | (1)長さ、重さ、電圧・電流、圧力・温度、pHなどの計測技術を身につける。(2)工学、物理学の基礎的な考え方を知る。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 実験は4グループに別れて行う。グループ内では4~6名のチームで協力して実験を行う。時間内に実験からレポート作成まで行う。なお、17種類の実験テーマ中、15テーマをグループごとに実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>1回目：ガイダンス、歩測 2~15回目：下記テーマの実験、レポート作成（毎回予習レポートを課す）</p> <p>実験テーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> 歩測 自分の歩幅を知り、道の距離を測定する。誰が正確に測れるか？ 体積と重量 身の回りのさまざまなものの単位体積重量を求める。いろいろな物体の形をはかりスケッチする。 浮力 浮力のメカニズムを理解する。 平面図形の重心（図心） 重心を実測と計算により求める。モーメントとはなにか？ 力の合成 力の合成に関する法則を実証するための実験方法を考え、実験を計画する。実験装置を作り、実験を実施し、測定データをもとに法則を検証する。 フックの法則 ばねに力が作用するときの変形量をはかる。フックの法則を理解する。 重力加速度 重力加速度を計測する。計測精度を評価する。 水平投射運動 斜面から球が水平投射されたときの球の位置などを測定する。力学的エネルギー保存則と水平投射による運動を説明する。 圧力と温度 圧力と温度をはかる。圧力の作用と空気の状態変化を理解する。 仕事と熱エネルギー 人の馬力をはかる。仕事と熱エネルギーを体感する。 電流と電圧 簡単な電気回路を作り、テスターの使い方を知る。オームの法則、直流と交流について調べる。 電池の仕組み 金属のイオン化傾向を調べ、化学電池（乾電池）の基礎を学ぶ。次世代電池の仕組みを理解する。 電流と磁場 磁石を使って電気をつくり、つくった電気で磁場中の導線を動かす。逆の現象として、磁場の力で動きを止める磁気ブレーキを体験する。 光の強さと成分 いろいろな光の強さと色の成分を測定する。 空気の対流 空気の対流を作り、対流内の温度差を計測することで仕組みを理解する。 pHとEC 身近な環境をはかってみる。環境をはかる方法の原理を理解する。 ピオトープの観察 ピオトープの環境を調べ、生物を観察する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>理工学部基礎実験</td> <td>摂南大学理工学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 理工学部基礎実験 | 摂南大学理工学部 | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 理工学部基礎実験 | 摂南大学理工学部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 平常点（50%）、レポート（50%）の総合点で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | この授業で学び体験するさまざまな物理・化学現象の測定技術は、住環境のデザインや建物の設計に欠かせないものです。実験を通して物理・化学現象を身近に体験しながら計測技術と理工学の基礎となる考え方を修得しましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前学習として、教科書を読み、用紙に要約する課題が課せられている。 毎回1.5時間以上をかけて教科書をよく読み、丁寧な字できちんとした文章を書いて課題を提出すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

教 養 科 目

| | | | |
|----------------|------------|----------|--------------|
| 科目名 | インターンシップ I | 科目名 (英文) | Internship I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水野 武, 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TCA2441a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることに期待される。 インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 |
| 到達目標 | 就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 |
| 授業方法と留意点 | グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|---|---|
| | | | |
| 1 | インターンシップとは | ・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える | ・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること (1 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (2 時間) |
| 2 | 企業組織・ビジネスの理解 | ・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める | ・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (1 時間) |
| 3 | 実習参加企業について | ・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る | ・興味のある会社や自治体などの組織について調べる (1 時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3 時間) |
| 4 | 効果的なプレゼンテーションとは | ・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る | ・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること (1 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (3 時間) |
| 5 | 課題のプレゼンテーション① | ・第 4 回目の課題をプレゼンテーションする | ・事前学修：第 4 回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3 時間) ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる (1 時間) |
| 6 | 社会人のマナー① | ・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ | ・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (2 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (2 時間) |
| 7 | 社会人のマナー② | ・文書でのコミュニケーション | ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みる (2 時間) |
| 8 | 社会人のマナー③ | ・口頭でのコミュニケーション | ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (2 時間) |
| 9 | 履歴書を記入する | ・インターンシップ用の履歴書を記入する | ・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (2 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること (2 時間) |
| 10 | グループワーク① | ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う | ・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (2 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間) |
| 11 | グループワーク② | ・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う | ・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2 時間) |
| 12 | 事前訪問について | ・事前訪問のマナーと準備について | ・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (2 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (2 時間) |
| 13 | 課題のプレゼンテーション② | ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション | ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間) |
| 14 | 課題のプレゼンテーション③ | ・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション | ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間) |
| 15 | 振り返りとまとめ | ・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する | ・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること (2 時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたい |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------------------|
| | | | | かをもう一度考えること(3時間) |
| 関連科目 | この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 個別の発表(40%)、グループでの発表(20%)、授業でのレポート等の提出物(30%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼应状態、積極性、グループワークへの参加姿勢など)(10%)を総合的に評価する | | | |
| 学生への メッセージ | <p>インターンシップの流れは以下のとおりである。</p> <p>※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野) | | | |
| 備考 | <p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。</p> | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------|
| 科目名 | インターンシップⅡ | 科目名(英文) | Internship II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石井 三恵, 水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TCA3442a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。 |
| 到達目標 | インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 |
| 科目学習の効果(資格) | 就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|--|--|
| | | | |
| 2 | 直前学修② 6月22日(土) 4限目(予定) | ・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション | ・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間) |
| 3 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 4 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 5 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 6 | インターンシップ実習 | ・夏季休暇中に10日間以上(原則) | ・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間) |
| 7 | 体験報告書の作成・提出・指導 | ・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出) | ・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間) |
| 8 | 事後学修① 9月21日(土) 3限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表 | ・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間) |
| 9 | 事後学修② 9月21日(土) 4限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表 | ・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間) |
| 10 | 事後学修③ 9月28日(土) 3限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表 | ・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間) |
| 11 | 事後学修④ 9月28日(土) 4限目(予定) | ・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表 | ・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間) |
| 12 | 事後学修⑤ 10月5日(土) 3限目(予定) | ・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出) | ・事前学習: 実習記録簿を見直してこること(1時間) |
| 13 | 事後学修⑥ 10月5日(土) 4限目(予定) | ・インターンシップを振り返る | ・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間) |
| 14 | 事後学修⑦ 10月26日(土) (予定) | ・全体報告会 ・学生代表者の発表 | ・事前学習: 全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること |
| 15 | 事後学修⑧ 10月26日(土) (予定) | ・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定) | |

| | | | | |
|------|-----------|-----|-----|------|
| 関連科目 | インターンシップⅠ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 1. 「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野) | | | |
| 備考 | 教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------------------|
| 科目名 | 英語基礎会話 a | 科目名 (英文) | Basic English Conversation a |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | アイビス ウイリアム |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN3422c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。 |
| 到達目標 | 状況に合わせた基礎的な日常的英会話ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 英語を使つてのコミュニケーション能力が付き、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。 |

| | | | | |
|------|----|----------------------|---|--------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Class Introduction | | Class Introduction |
| | 2 | Personal Information | 現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 1 |
| | 3 | 挨拶、自己紹介等の会話 | 現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 1 |
| | 4 | 日常生活、学生生活の会話 | リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 2 |
| | 5 | 日常生活、学生生活の会話 | リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 2 |
| | 6 | 娯楽、趣味の会話 | リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 1 and 2 Test |
| | 7 | 娯楽、趣味の会話 | リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 3 |
| | 8 | 復習 | リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 3 |
| | 9 | 場所の会話 | リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 4 |
| | 10 | 場所の会話 | リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 4 |
| | 11 | 旅行の会話 | ～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 3 and 4 Test |
| | 12 | 旅行の会話 | ～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 5 |
| | 13 | 買い物の会話 | ～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 5 |
| | 14 | 買い物の会話 | ～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 6 |
| | 15 | 復習 | リスニング、ディクテーション、ペアワークなど | Unit 6 |

| | |
|------|-------------|
| 関連科目 | 他の英語のクラスすべて |
|------|-------------|

| | | | | |
|-----|----|---------------------|-----|---------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | English In Common 1 | | Pearson |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 平常点 (毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%) にて評価する。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | Be prepared to speak in class. Looking forward to seeing you. |
|-----------|---|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前・事後学習課題については1日90分程度行うこと。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------------------|
| 科目名 | 英語基礎会話 b | 科目名 (英文) | Basic English Conversation b |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | フーバー トッド |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN3423c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | このクラスでは、自分の経験した事を表現したり説明したりするための、また、馴染みのある話題やそうでない話題について意見を述べるための英語を身につけます。話すスキルに力を入れ、英語の議論において共通する会話表現を学びます。このコースでは授業で学んだ事を実践するために相互的な会話をすることもあります。 |
| 到達目標 | このコースでは、 会話を長く持たせる方法の習得（5分以上）、 会話をリードする方法の習得、 会話で使うフレーズの習得、 会話力とリスニング力の向上、 を目指します。 |
| 授業方法と留意点 | 授業の前には必ず読む宿題をしなければいけません。授業ではペア、グループ、クラス単位で学習します。 |
| 科目学習の効果 (資格) | このコースは資格を取得するのを目的とし、あなたのスキルを向上させるのに役立ちます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|--|-------------------|
| | | | リーディング課題、授業内容の復習 |
| 1 | イントロダクション | 授業内容、課題、評価法の説明 | リーディング課題、授業内容の復習 |
| 2 | テクノロジー：社会においてスマートフォンが担う役割を理解する。 | Conversation Strategy: Expressing Opinions 宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。 | リーディング課題、 授業内容の復習 |
| 3 | 映画：文化において映画が担う役割を理解する。 | Conversation Strategy: Asking for Opinions 宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。 | リーディング課題、授業内容の復習 |
| 4 | 歴史：私たちがなぜ歴史を学ぶのかを理解する。 | Conversation Strategy: Agreeing and Disagreeing 宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問 | リーディング課題、 授業内容の復習 |

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|--------------------|
| | | で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。 | |
| 5 | ニュース:現在の出来事を議論する方法を学ぶ。 | Conversation Strategy: Reaching a Consensus 宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。 | リーディング課題、授業内容の復習 |
| 6 | 芸術: 絵画を解釈し、なぜ芸術が生活を豊かにするのかを理解する。 | Conversation Strategy: Polite Disagreement 宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。 | リーディング課題、授業内容の復習 |
| 7 | 会話の準備 | 相互的プレゼンテーションに向けてのメモの準備 | 話題の選択、プレゼンテーションの練習 |
| 8 | 会話のプレゼンテーション | 相互的プレゼンテーションの実施 | プレゼンテーションの練習、評価の復習 |
| 9 | 旅行: 旅行がいかに自分の世界観を変えることができるかを理解する。 | Conversation Strategy: Clarifying and Confirming 宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディス | リーディング課題、授業内容の復習 |

| | | | | |
|----|-------------------------------------|--|---|------------------|
| | | | <p>カッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。</p> | |
| 10 | ファッション: ファッションがアイデンティティを作る上での役割を学ぶ。 | | <p>Conversation Strategy: Interrupting Politely</p> <p>宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。</p> | リーディング課題、授業内容の復習 |
| 11 | 教育: 教育の哲学を学ぶ。 | | <p>Conversation Strategy: Changing the Topic</p> <p>宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。</p> | リーディング課題、授業内容の復習 |
| 12 | 音楽: 音楽がアイデンティティを作る上での役割を学ぶ。 | | <p>Conversation Strategy: Challenging Follow-up Questions</p> <p>宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。</p> | リーディング課題、授業内容の復習 |
| 13 | 休日と祭り: 異文化の習慣を学ぶ。 | | <p>Conversation Strategy: Offering Examples</p> | リーディング課題、授業内容の復習 |

| | | | 宿題でのリーディングを元にしての小グループディスカッション。チャレンジングで新しい語彙、ディスカッションをつなげるための戦略を学びます。テーマに基づく質問。それぞれの質問で、生徒は自分の考えを書き、文法や語彙のフィードバックを受け取ります。ペアで自分たちの考えを話し合います。生徒のスピーキング持続力を増加させるという目標に沿って、会話を繋げるための質問やフレーズを学びます。それぞれの質問でクラス全体のディスカッションに参加します。大勢の前でのスピーキング力を向上させ、自分たちの意見を表現することに自信をつけます。パートナーと一緒にクラスの前で短い会話を再現するための準備をします。記事または質問の中の一つに関係するトピックを選びます。プレゼンテーションの計画を練り、練習します。プレゼンテーションスキルを向上させます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--------------|--|--------------------|-----|-----|----------|------|-------------|-----|-------------|-----|------|-----|--|--|---|--|--|--|
| | 14 | 会話のプレゼンテーション | 相互的プレゼンテーションに向けてのメモの準備 | 話題の選択、プレゼンテーションの練習 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 会話のプレゼンテーション | 相互的プレゼンテーションの実施 | プレゼンテーションの練習、評価の復習 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 英語基礎会話 a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <table> <tr> <td>発話量</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>リーディング課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション 1</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション 2</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>会話表現</td> <td>10%</td> </tr> </table> | | | | 発話量 | 30% | リーディング課題 | 20% | プレゼンテーション 1 | 20% | プレゼンテーション 2 | 20% | 会話表現 | 10% | | | | | | |
| 発話量 | 30% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リーディング課題 | 20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プレゼンテーション 1 | 20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プレゼンテーション 2 | 20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 会話表現 | 10% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | このクラスではたくさん発話する必要があります。授業に来る前に必ず話したい事を十分準備するようにしてください。そうすれば会話はとても楽しいものになりますよ！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | フーパー研究室（7号館3階） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | ・毎回の授業の予習・復習に1時間以上かけること | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|----------------------------|
| 科目名 | 海外語学研修 | 科目名 (英文) | Overseas Language Training |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 鳥居 祐介 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2424c2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>外国語の運用能力（語学力）と、異文化環境で適切なコミュニケーションと行動をとる力（異文化間能力）の向上を目的とする。募集ガイダンスへの参加からはじまる事前学習、海外研修先での実地学習、帰国後の成果報告を含む事後学習で構成される。研修先での授業は月曜日から金曜日に開講され、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等の詳細は募集ガイダンスで周知する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>・語学力については、基礎的な会話への不安を解消し、TOEIC スコア等の客観的指標の自己ベストを更新すること。また、事前学習と現地での実践、そして帰国後の反省を通じて、自らにとって最も効果的な自学自習の方法と教材を発見し、自律的な語学学習を継続できるようになることを目標とする。</p> <p>・異文化間能力については、渡航先の社会事情、歴史、文化についての基礎的な知識と理解を身につけ、現地では会う人々と積極的に交流し、交流の成果と反省点を客観的に整理して報告できるようになること。さらには帰国後も国際社会と異文化への好奇心を高め、広く多様な国・地域の人々と積極的に協力し合う姿勢と適応力を身につけることを目標とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>参加学生は教員およびスタッフの指導を受けながら事前学習、実地学習、事後学習を行う。講義を聞いてメモをとるだけで完結する授業はなく、常に自発的な語学学習と現地事情の情報収集に励む必要がある。また、現地において安全で効果的な実習を行うためには参加学生同士の協同が不可欠であるので、事前授業の段階からチームとして情報を共有し、学び合う姿勢が求められる。</p> <p>次のスケジュールと内容が予定されている。(8月出発の場合。春出発の場合の日程は、ガイダンスで確認のこと。)</p> <p>4月 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席、指示された学習課題が義務付けられている。また、事後には成果報告会における発表とレポート提出が求められる。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施（全3回）</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p><研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬（予定）</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬（予定）</p> <p>9月下旬～10月上旬（予定） 成果報告会</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の目的と安全管理に関するガイダンスの受講と内容理解の確認 ・多読、会話演習など、学内の教材や設備を使った語学演習、ICTを活用した自主練習（ガイダンス時に説明） ・渡航先の社会事情、歴史、文化に関する情報収集（ガイダンス時に説明） ・研修中の目標と行動計画の策定。漠然と「語学力を上げたい」「話せるようになりたい」ではなく、「滞在中に・・・をする」という具体的な行動目標を立てること。 <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標と行動計画に従い、授業に真摯に取り組むことはもちろん、授業外でも積極的に講師、スタッフ、ホストファミリーなど周囲の人々に話しかけ、コミュニケーションを進めること。 ・事前に情報収集して得た知識を活用して目標に向けて行動し、日々の成果と反省点について記録をつけながら過ごすこと。 <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開催される他の研修参加者と合同での成果報告会が開催されるので、そこで研修の成果と反省点についてのプレゼンテーションを行う。 ・成果と反省点をまとめたレポート（報告書）を作成して提出する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 英語その他外国語科目、研修先の地域に関する科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 事前・事後学習と成果報告会のプレゼン・レポートの評価 (30%) 研修先での成績 (70%) | | | |
| 学生への メッセージ | 大学生になったら早い段階で一度は海外に出ましょう。少しでも興味があれば、まずは国際交流センターへ足を運んで下さい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 国際交流センター | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。やむを得ない事情で出席できない場合は事前に国際交流センターへ連絡し相談すること。 ・事前に参加申込みを行い許可を得た者に限り履修できる科目であり、通常の履修申請とは手続きが異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上で履修を検討すること。学部・学年によって、また個々の学生の事情によって当該年度は受講できない場合がある。 | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------------------|
| 科目名 | 海外ビジネスインターンシップ | 科目名 (英文) | Overseas Business Internship |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 西之坊 穂 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのため、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p> <p>なお、授業担当者の一人は企業で人事経験を持ち、もう一人は旅行会社での実務経験を持ちます。パラダイス・バリ (旅行会社) の運営責任者は日本人であり、現地人をマネジメントしているため、授業担当者の実務視点から学生に教授する。また、旅行会社の実務視点からも学生に教授する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>研修先としてサラスワティ大学、ウブド第一高校、パラダイス・バリ (旅行会社) 等を予定している。研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分面談を行い、話し合いの上決定します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>事前学習は10日を予定している。具体的には、ガイドンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>本事前学習では、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを繰り返し行う。最終的には、現地での各自の研修内容の事前準備が完了するまで行う。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動</p> <p>2日目 環境学習 マングローブセンターにて</p> <p>3日目 サラスワティ大学で国際交流会</p> <p>4日目～6日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施</p> <p>7日目～8日目 ウブド第一高校にてインターンシップ研修実施</p> <p>9日目 現地視察</p> <p>10日目 移動</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、の取り組みなど異なります。なお、研修先のリクエストにより、環境問題、日本の歴史や文化紹介 (茶道、書道、空手等)、旅行会社のパッケージツアーの企画など、内容が異なります。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する)</p> <p>報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 10%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン (10%) で評価する。</p> <p>ただし、災害やテロ等により海外現地に行けなかった場合は単位を認定しない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 参加を迷っている方は、遠慮なく田中先生や私の研究室に訪問して質問をしてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館8階 西之坊研究室 11号館8階 田中研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前学習は、全体で10時間程度行うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------|
| 科目名 | 科学英語 | 科目名(英文) | Scientific English |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 鈴木 三千代 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN3451c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 理系分野では、開発した技術や研究成果を英語で発信してグローバル化している産業社会においては、情報をリアルタイムで手に入れたり、素早く発信したりしていく英語力が必要である。この授業では興味深いトピックを取り上げた英文のリーディングを中心に、理系分野で役立つ基本的な英語や専門的な英語を学んでいく。また今まで学んだ文法を確認しながら語彙・語法を習得し、資料の読み取りにも挑戦する。 |
| 到達目標 | 先端技術分野においてどのような研究がなされ、どのような製品が開発されているのかの情報を理解するのに必要な英語基礎力を養い、グローバルに活躍することができる技術者として様々な状況に対応できる英語能力を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 授業の流れとしては、各トピックごとに What's new?, Learn useful sci-tech expressions, Lean engineering English tips, Get information, Understand what you read, Summarize what you read, Get to know engineering genres と進めていく。まずウォームアップのためのリスニング問題で専門用語を学習し、語法・文法問題を解く。次に様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習する。そして英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 専門英語の理解と TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|-----------------|
| | | | |
| 2 | Chap. 12: ロボットと人の能力・感覚に関する語彙・文法・リーディング・リスニング練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 3 | Chap. 12: ロボットと人の能力・感覚に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 4 | Chap. 13: 気体の錬金術に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 5 | Chap. 13: 気体の錬金術に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 6 | Chap. 14: 再生可能エネルギー導入拡大に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 7 | Chap. 15: 新しい生命体の作製に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 8 | Chap. 16: スパコンと天気予報に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 9 | Chap. 17: スマホと嗅覚に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 10 | Chap. 18: ロボットと高齢化社会に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 11 | Chap. 19: 食品偽装と検知ソフトに関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 12 | Chap. 20: 万能波長に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 13 | Chap. 21: 洋上風力発電と未来に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 14 | Chap. 22: コンピュータと常識に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。 | 専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、英字新聞や雑誌に掲載された最先端技術の記事を読み解く。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 15 | Review | 各ユニットの復習とまとめ。 | レポート等最終提出。 |

| | | | | |
|------|------------|-----|-----|------|
| 関連科目 | 全英語科目、専門科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |

| | | | | |
|---------------|--|---|---------|------|
| | 1 | GETTING TO KNOW ENGINEERING GENRES | 村尾 純子 他 | 三修社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | e-learning 学習 20%、平常点 (授業への取組み、レポート・課題、小テスト) 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する | | | |
| 学生への メッセージ | 今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 e-learning 学習をフルに活用し、また予習・復習を怠らないようにして、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learningを含めて、毎日1時間以上学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---|
| 科目名 | 科学技術教養A1 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy A1 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 宮本 征一, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 加嶋 章博, 木多 彩子, 小林 健治, 白須 寛規, 西村 勝尚, 柳沢 学 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3459a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 |
| 到達目標 | 卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|---|--------------------------------------|
| | | | |
| 1 | 建築とは何か | 建築の考え方、建築家の果たす役割 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 2 | 建築と人間生活 | 建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 3 | 建築と都市環境 | 建築と都市の関係、都市環境のデザイン | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 4 | 建築の歴史 | 建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 5 | 建築物のかたちと力の流れ | 目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 6 | 建築の内装 | インテリア、家具・内装 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 7 | 建築の外装・外構 | 外装材とは、エクステリア、造園 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 8 | 建築のUD | こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 9 | 建築の保存活用 | 建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 10 | 建築の温熱環境 | 建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 11 | 建築における設備 | 採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 12 | 建築の骨組み | 構造と力の流れ、構造材料の性能 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 13 | 建築の材料 | 構造と仕上げ材料 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 14 | 建築と防災 | 災害、避難、防災教育 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 15 | 建築をつくる新技術 | 構造、材料、施工の新技術 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。 |
|-----------|--------------------------------------|

| | |
|----------|-------|
| 担当者の研究室等 | 8号館3階 |
|----------|-------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前あるいは事後学習として、教科書(配布予定)の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---|
| 科目名 | 科学技術教養A2 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy A2 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 宮本 征一, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 加嶋 章博, 木多 彩子, 小林 健治, 白須 寛規, 西村 勝尚, 柳沢 学 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3460a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 |
| 到達目標 | 卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------|--|--------------------------------------|
| | | | |
| 1 | 住む建築 | 住宅、住むことの工夫 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 2 | 集まって住む建築 | 集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 3 | 福祉医療の建築 | 建築と福祉医療 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 4 | 公共の建築 | 公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 5 | 商業の建築 | 商業建築、商店街の歴史と再生 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 6 | 文化の建築 | 建築に象徴された様々な文化を読み取る。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 7 | 交通の建築 | 陸・海・空の交通 交通建築の特徴 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 8 | 高層の建築 | 五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 9 | 地下空間の建築 | 地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 10 | 環境共生と建築 | 環境と共生する建築について考える。 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 11 | 木造の建築 | 木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 12 | プレハブ建築 | 種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 13 | 建築とロボット | ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 14 | 街並みの建築 | ランドスケープと建築、 街並みと要素 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |
| 15 | 将来の建築 | 空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替 | 講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 専門科目全般 |
|------|--------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 受講者希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。 |
|-----------|---------------------------------------|

| | |
|----------|-------|
| 担当者の研究室等 | 8号館3階 |
|----------|-------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前あるいは事後学習として、教科書(配布予定)の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 科学技術教養C1 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy C1 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 伊藤 謙, 石田 裕子, 片桐 信, 熊野 知司, 佐藤 大作, 田中 賢太郎, 福島 徹, 水野 忠雄 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3465a2 | | |

| | | | | |
|-------------|--|--------------------------------|--|----------------|
| 授業概要・目的 | 授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。 | | | |
| 到達目標 | 土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。 | | | |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。 | | | |
| 科目学習の効果(資格) | 産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。 | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 私たちの日常生活と土木技術 | 私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち(建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 2 | 国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか① | 国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 3 | 国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか② | 国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 4 | 都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった- | 最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 5 | 都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明- | セメントの発見・発明 耐久性、品質管理 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 6 | 都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える- | 産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 7 | 都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料- | 新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 8 | 国土を測る技術 | 広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 9 | 都市の造り方① -橋を設計する- | 橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 10 | 都市の造り方② -川を設計する- | 治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 11 | 都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する- | 都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 12 | 安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する- | 都市地域計画(計画学の基礎) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 13 | 安全で安心な都市へ② -命の水を守る- | 衛生工学(上下水道学の基礎) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 14 | 安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を- | 地球規模環境問題、循環型社会(環境工学) | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| | 15 | 安全で安心な都市へ④ -都市の生命線- | ライフラインと防災 | 配布資料講義部分の予習と復習 |
| 関連科目 | 特になし | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 配布資料：科学技術教養 C1 | 都市環境工学科全教員 | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 特になし | | |
| 評価方法(基準) | 受講メモ50%、レポート50%の総合点で評価する。＊レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 豊かな自然に恵まれた日本は世界でも最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 講義担当者居室 1号館3階および4階 | | | |
| 備考 | 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 科学技術教養C2 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy C2 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 伊藤 謙, 石田 裕子, 片桐 信, 熊谷 樹一郎, 熊野 知司, 佐藤 大作, 田中 賢太郎, 寺本 俊太郎, 水野 忠雄 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3466a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 概要：いくつかのプロジェクトを例に、建設事業の流れに沿って、社会的な位置づけ、市民生活との関わりを解説する。第1回目の授業では、事業主体別にプロジェクトの流れを説明する。第2～3回目は、高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査、環境の調査を解説する。第4～7回は高速道路を構成する橋、トンネル、道路の設計と施工の考え方を解説する。第8～15回は、安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰、堤防、浸水対策、ライフライン、公園・まちづくり、地震防災など身近なテーマを概説する。 |
| 到達目標 | 土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動、生活との関わりを理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業はパワーポイントを用いた講義形式とする。私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され、設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する。代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ、安全で安心な社会を築くため、何が重要かを理解できるように講義を進める。 |
| 科目学習の効果(資格) | 産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|-----|----------------------|
| | | 内容 | 方法等 | |
| 1 | 社会基盤をつくる建設事業の流れ | 国家プロジェクト、地域プロジェクト、民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ、計画(意思決定)～調査～設計～施工の概要 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 2 | 高速道路建設の計画・調査・設計 | 国土開発や都市計画・地域計画との関連、一般道路や鉄道との関連、需要予測、予算、資本回収の考え方 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 3 | 建設に必要な調査①(地形の調査・土質の調査) | 測量計測技術(地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS測量)、地盤の調査 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 4 | 建設に必要な調査②(環境の調査) | 生態系・環境への影響、負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 5 | 橋の設計と施工 | コンクリート橋と鋼橋、橋の形式と適用支間長、景観設計、施工法 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 6 | トンネル、半地下開削工法 | 山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工、地山の強度と工法、半地下開削工法 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 7 | 道路の設計と施工 | 盛土形式と高架形式、道路の構造、道路舗装 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 8 | ダム・堰の計画と施工 | 洪水への備え(治水、防災)、発電・灌漑・上水などの多目的ダム、ダムの構造と種類 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 9 | 堰・堤防の計画と設計・施工 | 洪水・土砂災害への備え(治山・治水、防災)、計画雨量、遊水池、親水施設 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 10 | 都市型洪水への備え | 透水性舗装、都市大型地下貯槽、屋上緑化、排水と下水道設計、地下道・地下鉄の浸水対策 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 11 | 市民の日常生活を支えるライフライン | 上下水道、水質管理、水質浄化、下水処理、電気、通信設備 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 12 | 市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり | まちづくりとは、実現するものは、人とのかかわり、技術とのかかわり | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 13 | 市民の生活環境を守る | 地球環境と生態系、人口増加と都市化・食糧生産、自然エネルギーの問題点、火力発電所と大気汚染・温暖化、原子力発電と放射能問題、温排水問題 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 14 | 震災から市民を守る | 地震の種類と特性、地震に備える構造とは?制震構造と免震構造、ライフラインの耐震、避難体制、緊急地震速報 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |
| 15 | 津波や台風・高潮から市民を守る | 港湾施設・防波堤、津波、避難施設、避難誘導 | | 配布資料講義部分の予習と復習を十分行う。 |

関連科目 特になし

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------------|------------|------|
| | 1 | 配布資料：科学技術教養 C2 | 都市環境工学科全教員 | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------|-----|------|
| | 1 | 特になし | | |

評価方法(基準) 受講メモ50%、レポート・小論文50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ 豊かな自然に恵まれた日本は世界でも厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。

担当者の研究室等 講義担当者居室 1号館3階および4階

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

| | | | |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名 | 科学技術教養 E 1 | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy E1 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 片田 喜章, 井上 雅彦, 奥野 竜平, 工藤 隆則, 鹿間 信介, 高瀬 冬人, 田口 俊弘, 檜橋 祥一, 西 恵理, 堀内 利一, 山田 逸成 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3463a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにおける電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。 |
| 到達目標 | 電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 授業はスライドを用いて行う。 授業中にメモを取らせて授業後に回収する。次回授業時にメモを返却する。 授業の最後に小テストを行う。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|--|---------------|
| | | | |
| 2 | 電池の構造と応用技術 | 交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池 | テキストを復習する。1時間 |
| 3 | モータのしくみと応用 | 磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ | テキストを復習する。1時間 |
| 4 | 半導体のお話 | 半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは | テキストを復習する。1時間 |
| 5 | 太陽電池の構造と家庭での利用 | 半導体で光エネルギーを電気に変換する。 売電のしくみ。 | テキストを復習する。1時間 |
| 6 | 様々な電子回路 | 電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路 | テキストを復習する。1時間 |
| 7 | 電波応用技術の変遷 | 電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ | テキストを復習する。1時間 |
| 8 | モールス通信から携帯電話へ | モールス電信からベルの電話へ、 電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、 携帯電話とネットワークのしくみ | テキストを復習する。1時間 |
| 9 | アナログからデジタルへ | アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門 | テキストを復習する。1時間 |
| 10 | パソコン・スマートフォンの内部構造 | 構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化 | テキストを復習する。1時間 |
| 11 | マイコンで制御される家電製品 | 電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ | テキストを復習する。1時間 |
| 12 | 音響機器のしくみ | マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成 | テキストを復習する。1時間 |
| 13 | 画像表示のしくみ | 画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例 | テキストを復習する。1時間 |
| 14 | インターネットのつなぎ方 | インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ | テキストを復習する。1時間 |
| 15 | 医療分野への貢献 | ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用 | テキストを復習する。1時間 |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------|-----|------|
| | 1 | テキストを配付する | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。 |
| 学生への メッセージ | 身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。 |
| 担当者の 研究室等 | 1号館4階・5階の電気電子工学教員室 責任者：片田（1号館4階） |
| 備考 | 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 就職活動中の4年生はとくに注意すること。 受講メモは翌週に返却し、小テストの結果は個別に通知する。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---|
| 科目名 | 科学技術教養E2 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy E2 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 片田 喜章, 井上 雅彦, 奥野 竜平, 工藤 隆則, 高瀬 冬人, 田口 俊弘, 檜橋 祥一, 西 恵理, 堀内 利一, 山田 逸成 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3464a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。 |
| 到達目標 | 電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 電気電子工学の教員が各授業テーマを順番に担当する。 授業はスライドを用いて行う。 授業中にメモを取らせて授業後に回収する。次回授業時にメモを返却する。 授業の最後に小テストを行う。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。 |
| 科目学習の効果(資格) | 現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|--|---------------------|
| | | | |
| 1 | 電気の歴史 | 科学技術教養の意義 磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言 | 電気に関するニュースに注意する。1時間 |
| 2 | 発電の原理と発電所 | 電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz | テキストを復習する。1時間 |
| 3 | 原子力発電 | 核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定 | テキストを復習する。1時間 |
| 4 | 再生可能エネルギー | 太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率 | テキストを復習する。1時間 |
| 5 | 送電・配電 | 電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド | テキストを復習する。1時間 |
| 6 | モータのしくみと電車 | 磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生 | テキストを復習する。1時間 |
| 7 | 電波と放送 | 電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化 | テキストを復習する。1時間 |
| 8 | 携帯電話のしくみ | 固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化 | テキストを復習する。1時間 |
| 9 | 私たちの生活をささえる電気照明 | エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明 | テキストを復習する。1時間 |
| 10 | レーザーの発明 | 物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴 | テキストを復習する。1時間 |
| 11 | 光デバイス | さまざまな光デバイスの原理と応用など | テキストを復習する。1時間 |
| 12 | 進化するナノテクノロジー | 半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展 | テキストを復習する。1時間 |
| 13 | プログラマブル高速計算機の発達 | チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで | テキストを復習する。1時間 |
| 14 | ロボット工学 | ロボット工学の過去・現在・未来を解説 | テキストを復習する。1時間 |
| 15 | 電気と宇宙 | 第4の状態ープラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム | テキストを復習する。1時間 |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------|-----|------|
| | 1 | テキストを配付する | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1号館4階・5階電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階） | | | |
| 備考 | 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 就職活動中の4年生はとくに注意すること。 受講メモは翌週に返却し、小テストの結果は個別に通知する。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 科学技術教養M1 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy M1 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 堀江 昌朗・池田 周之・岸本 直子・諏訪 晴彦・橋本 正治・原 宣宏 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3461a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。 |
| 到達目標 | 機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | ・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。 |
| 科目学習の効果(資格) | 世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|---|-----------------------------------|
| | | | |
| 1 | 機械工学とは? | ・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。 | テキスト第1章に目を通しておくこと。 |
| 2 | 道具を作る(1) - ヒトと道具 | ・道具の歴史: ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具 | テキスト第2章 2.1-2.3に目を通しておくこと。 |
| 3 | 道具を作る(2) - 作り方 | ・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断 | テキスト第2章 2.4-2.5に目を通しておくこと。 |
| 4 | モノの材料を知る(1) - 金属材料 | ・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法 | テキスト第3章(鉄つくりの変遷)に目を通しておくこと。 |
| 5 | モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー | ・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話 | テキスト第4章(非金属材料)に目を通しておくこと。 |
| 6 | モノの材料を知る(3) - 新素材 | ・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料 | テキスト第5章(新素材)に目を通しておくこと。 |
| 7 | ものづくり(1) - 母なる機械 | ・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品 | テキスト第6章(母なる機械)に目を通しておくこと。 |
| 8 | ものづくり(2) - 精密に加工する | ・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工 | テキスト第7章(精密に加工する)に目を通しておくこと。 |
| 9 | ものづくり(3) - 工場(ファクトリー) | ・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式 | テキスト第8章(ファクトリー)に目を通しておくこと。 |
| 10 | 大きな力を得る(1) - 車輪 | ・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車 | テキスト第9章(人間の作業を補助する機械)に目を通しておくこと。 |
| 11 | 大きな力を得る(2) - 建設運搬機械 | ・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機 | テキスト第10章(力を伝える・増幅する機械)に目を通しておくこと。 |
| 12 | 大きな力を得る(3) - パワーアシスト | ・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉 | テキスト第11章(機械の知能化)に目を通しておくこと。 |
| 13 | ミクロの機械(1) - 精密機械 | ・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器 | テキスト第12章(精密機械)に目を通しておくこと。 |
| 14 | ミクロの機械(2) - 小さく作る | ・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡 | テキスト第13章(小さくつくる)に目を通しておくこと。 |
| 15 | ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界 | ・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター | テキスト第14章(小さくて広大な世界)に目を通しておくこと。 |

関連科目 産業技術史

| | | | | |
|-----|----|----------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 科学技術教養M1 | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法(基準) 毎回、講義メモとレポートを提出する。講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。

学生への 機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづく

| | |
|----------|---|
| メッセージ | り」がなぜ優れているのか？ 近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕 |
| 備考 | <p>出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・30分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は2回で欠席1回とみなす。 <p>※詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。</p> <p>フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却します。</p> |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---|
| 科目名 | 科学技術教養M2 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy M2 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 諏訪 晴彦, 石田 秀士, 植田 芳昭, 小田 靖久, 川野 常夫, 安田 正志, 山崎 達志 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3462a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。 |
| 到達目標 | 人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。 |
| 授業方法と留意点 | ・各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにしていねいにまとめていくことが大事。 |
| 科目学習の効果(資格) | 世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|--|--------------------------------------|
| | | | |
| 1 | 機械工学とは? | ・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。 | テキスト第1章(機械工学とは)に目を通しておくこと(60分) |
| 2 | 活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界 | ・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力、蓄力、水力、風力、蒸気力 | テキスト第2章(動力)に目を通しておくこと(60分) |
| 3 | 活動の源(2) - 発電 | ・エネルギー利用と発電 ・水力、風力、火力、地熱、原子力発電 | テキスト第3章(電力)に目を通しておくこと(60分) |
| 4 | 乗り物(1) - エンジン | ・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン(ガソリン等)、電気モータ | テキスト第4章(エンジン)に目を通しておくこと(60分) |
| 5 | 乗り物(2) - 輸送する | ・交通と物流 ・自動車交通、船舶、鉄道 | テキスト第5章(輸送する)に目を通しておくこと(60分) |
| 6 | 空間を移動する(1) - 空を飛ぶ | ・空を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力 | テキスト第6章(空を飛ぶ)に目を通しておくこと(60分) |
| 7 | 空間を移動する(2) - 高速移動 | ・深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 ・しんかい 6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム | テキスト第7章(深海に潜る)に目を通しておくこと(60分) |
| 8 | 空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ | ・宇宙空間に飛んでいける機械の機能、種類、歴史と原理 ・ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン | テキスト第8章(宇宙へ飛び立つ)に目を通しておくこと(60分) |
| 9 | 物を測る | ・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定 | テキスト第9章(物を測る)に目を通しておくこと(60分) |
| 10 | センサで測る | ・センサの発達と誤差との戦い ・センサ、センシング技術、計測と誤差 | テキスト第10章(センサで測る)に目を通しておくこと(60分) |
| 11 | 制御する | ・制御の成り立ちと発展、自動制御とは? ・調速機、結果を見て制御する(フィードバック) | テキスト第11章(制御するとは?)に目を通しておくこと(60分) |
| 12 | 操る・抑える | ・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント | テキスト第12章(操る・抑える)に目を通しておくこと(60分) |
| 13 | 生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング | ・バイオエンジニアリング、生体工学の世界 ・生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコブグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット | テキスト第13章(バイオエンジニアリング)に目を通しておくこと(60分) |
| 14 | 生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康 | ・人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器 | テキスト第14章(医療と健康)に目を通しておくこと(60分) |
| 15 | 生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド | ・人間を測る、診る、まねる世界 ・生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット | テキスト第15章(ヒューマノイド)に目を通しておくこと(60分) |

関連科目 産業技術史

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ (50%), 講義内容に対する理解と考察を問うレポート (50%) で評価する。 |
| 学生への メッセージ | 機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。 |
| 担当者の 研究室等 | 担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階] |
| 備考 | 出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・30分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は2回で欠席1回とみなす。 ※ 詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。 フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却する。 |

| | | | |
|----------------|------------|----------|--|
| 科目名 | 科学技術教養 T 1 | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy T1 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 東 武大, 小林 俊公, 友枝 恭子, 長島 健, 東谷 篤志 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3467a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 |
| 到達目標 | 科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|---|-------------------------------|
| | | | |
| 2 | 人類にとっての数 (2) | 「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。 | 教科書 1 章の予習復習 (1 時間) |
| 3 | 人類にとっての数 (3) | 更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。 | 教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間) |
| 4 | 三角形から始める幾何学 | ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。 | 教科書 2 章の予習復習 (1 時間) |
| 5 | 平行線の公理 | 高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。 | 教科書 2 章の予習復習 (1 時間) |
| 6 | 身近にある曲面 | 平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。 | 教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間) |
| 7 | 波の数理 (音と光の基礎) | 身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。 | 教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間) |
| 8 | 波としての光 | 光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。 | 教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間) |
| 9 | 電磁波 | 光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。 | 教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間) |
| 10 | レーザー光 | 光を発するもの (光源) には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード (LED) が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。 | 教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間) |
| 11 | X 線の発見から利用 | X 線の発見から発生の原理、さらに X 線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンや X 線 CT がなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X 線の欠点と安全性についても簡単に紹 | 教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間) |

| | | | | |
|---------------|---|--------------|---|------------------------------|
| | | | 介する。 | |
| | 12 | 放射光と未来の光 | 科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。 | 教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1 時間) |
| | 13 | コペルニクス以前の天動説 | 惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。 | 教科書 5 章の予習復習(1 時間) |
| | 14 | コペルニクスの地動説 | 天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。 | 教科書 5 章の予習復習(1 時間) |
| | 15 | ガリレオの天文学 | 望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。 | 教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間) |
| 関連科目 | 数学・物理の全科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 科学技術教養 T1 | 基礎理工学機構 | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 担当教員の居室 [1 号館 2 階, 3 号館 3 階, 8 号館 2 階] | | | |
| 備考 | 遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。 | | | |

| | | | |
|---------------|------------|----------|--|
| 科目名 | 科学技術教養 T 2 | 科目名 (英文) | Scientific and Technological Literacy T2 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 島田 伸一, 神嶋 修, 佐々木 洋平, 中津 了勇, 安井 幸則 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3468a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。 |
| 到達目標 | 時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。 |
| 授業方法と留意点 | 座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|--|-----------|
| | | | |
| 1 | 微積分学が成立するまでの話 | ニュートンとライブニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。 | 課題・レポート |
| 2 | 文字式から単位のない実数の世界へ | 微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。 | 課題・レポート |
| 3 | ヒルベルトのテーゼ: 無矛盾ならば存在する | 微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。 | 課題・レポート |
| 4 | 現代科学は力(ちから) F から始まった | ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。 | 課題・レポート |
| 5 | 万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か | ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。 | 課題・レポート |
| 6 | 破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か | 物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。 | 課題・レポート |
| 7 | 蒸気機関と熱力学の誕生(1) | 18世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。 | 課題・レポート |
| 8 | 蒸気機関と熱力学の誕生(2) | カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。 | 課題・レポート |
| 9 | 蒸気機関と熱力学の誕生(3) | カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v.s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。 | 課題・レポート |
| 10 | 角の3等分について(1) | 歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数 | 課題・レポート |
| 11 | 角の3等分について(2) | 60度は3等分できない、体の考え方 | 課題・レポート |
| 12 | 角の3等分について(3) | 体の拡大と作図できる数、定理の証明 | 課題・レポート |
| 13 | ニュートンからアインシュタインへ | 慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。 | 課題・レポート |
| 14 | 特殊相対論---原理はたったの2つだけ | 2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。 | 課題・レポート |
| 15 | 一般相対論---重力の謎 | ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか? | 課題・レポート |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | 数学・物理の全科目 |
|------|-----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------|-----|------|
| | 1 | 科学技術教養 T2 | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----|--|
| 参考書 | |
|-----|--|

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義メモ 50%, レポート 50%で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | | | | |
| 備考 | 遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 科学技術教養V1 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy V1 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 居場 嘉教. 井尻 貴之. 尾山 廣. 川崎 勝己. 中嶋 義隆. 西村 仁. 船越 英資. 宮崎 裕明 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3455a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個人レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。 |
| 到達目標 | (1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。 |
| 科目学習の効果(資格) | 生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 不妊のしくみ | 日本人夫婦(カップル)は10組のうち1組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 2 | 病気と遺伝子 | 我々が持つDNAは日常生活で頻繁に「傷(変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 3 | なぜ肥満は問題なのか? | 肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 4 | 免疫が引き起こす病気のしくみ | 外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 5 | がんの発生とその予防法 | 死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 6 | ミトコンドリアと病気 | 太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 7 | くすりと遺伝子工学 | ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 8 | くすりと組換え生物 | 生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 9 | くすりとバイオインフォマティクス | 遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |
| 10 | くすりとタンパク質のかたち | タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつであるX線結晶構造解析の | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間) |

| | | | | |
|-----------|---|--------------|--|---|
| | | | 概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。 | |
| | 11 | くすりとゲノム | ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| | 12 | 薬物乱用と依存性薬物 | 社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| | 13 | 遺伝子治療の最前線 | 遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| | 14 | 認知症～その原因と治療法 | 我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| | 15 | iPS 細胞研究の最前線 | 京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。 | 予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間) |
| 関連科目 | 科学技術教養 V2 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお、30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 1 号館 9 階 川崎, 尾山, 西村, 中嶋, 宮崎, 船越, 井尻, 居場研究室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---|
| 科目名 | 科学技術教養V2 | 科目名(英文) | Scientific and Technological Literacy V2 |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 長田 武, 青笹 治, 井尻 貴之, 大橋 貴生, 木村 朋紀, 西矢 芳昭, 松尾 康光, 向井 歩 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3456a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。 |
| 到達目標 | 醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。 |
| 科目学習の効果(資格) | 遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|------------|
| | | | |
| 1 | 機能性食品などの新しい食品の形態 | 食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。 | 配布資料を復習する。 |
| 2 | 化粧品とバイオテクノロジー | バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。 | 配布資料を復習する。 |
| 3 | 繊維とバイオテクノロジー | 繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。 | 配布資料を復習する。 |
| 4 | 遺伝子組換え植物とその将来 | 代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。 | 配布資料を復習する。 |
| 5 | バイオレメディエーションの可能性 | 過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。 | 配布資料を復習する。 |
| 6 | エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響 | 近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。 | 配布資料を復習する。 |
| 7 | バイオエネルギー技術 | 21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。 | 配布資料を復習する。 |
| 8 | 食品の健康障害リスクと対策 | 微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。 | 配布資料を復習する。 |
| 9 | 動く分子とバイオテクノロジー | ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。 | 配布資料を復習する。 |
| 10 | 昆虫学を用いた、ヒトの暮らしを支える科学技術 | 地球上でもっとも繁栄した生物群である昆虫は、時にヒトの暮らしを脅かす害虫となり、時にヒトに恵みをもたらす益虫となる。害虫からヒトの財産・健康を守り、益虫のもたらす恩恵を最大化するためには、昆虫を「知る」ことが不可欠である。本講義では、昆虫学がうみだす知識が、どのように科学技術に応用されているかを紹介する。 | 配布資料を復習する。 |
| 11 | 機能性糖質 | 食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や | 配布資料を復習する。 |

| | | | 産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|------------------|---|------------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 12 | 糖質とバイオ医薬 | 人の体の中で、糖質はエネルギー源として利用されているだけでなく、免疫応答・代謝物の末梢組織への運搬など、多岐に渡った生命維持に必要な機能を有している。本講義では、このような糖質の生理機能について解説する。 | 配布資料を復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 生体高分子の利用 | 最近、廃棄されたプラスチックにより生成されるマイクロプラスチックによる環境汚染問題が問題視されている。本講義では、今後幅広く使用されることが期待される生体高分子がどのように利用され、化学合成によりつくられる様々なマテリアルに代替されているかについて解説する。 | 配布資料を復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 環境リスクの評価方法 | 環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。 | 配布資料を復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 地球規模の環境破壊と人体への影響 | 主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。 | 配布資料を復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 科学技術教養V1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。30分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 本講義では、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は、生物・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。出席および遅刻・欠席の扱いは、一回目の講義で説明します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1 号館 8 階 長田講師室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事後学習に要する総時間の目安は 15 時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-------------------------------|
| 科目名 | 株式投資と企業家育成 | 科目名(英文) | Investment & Entrepreneurship |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 林 正浩 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>『投資』とは何か、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【担当教員実務経歴】 ①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p> |
| 到達目標 | <p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p> |
| 科目学習の効果（資格） | <p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？ | 講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由 | <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 2 | 経済、財政の基本知識と投資との関係 | 投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 3 | 家計と国の財政動向による投資環境への影響 | 雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 4 | 海外の動向による影響と経済指標との関係 | 景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 5 | 株式市場の役割と株式価値 | 株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間） |
| 6 | 銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明 | 投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 7 | 債券市場の役割と投資の考え方 | 債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 8 | 株式市場先読みの捉え方 | 株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 9 | チャート分析と銘柄選定の考え方 | 株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 10 | 投資信託の仕組み | グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| 11 | 外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方 | 外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション |

| | | | | |
|---------------|---|--------------------|--|--|
| | | | 設問による授業内容の再確認 | ヨソ開始（各自）（1時間） |
| | 12 | 企業組織と上場市場 | ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| | 13 | 事業構想におけるドメイン設定の考え方 | 起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| | 14 | 経営機能構造の設計と税務 | ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間） |
| | 15 | 投資シミュレーション結果検証 | 各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。 | <事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分） |
| 関連科目 | ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習） | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>①毎回のアンケート内の [設問 1] に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の [設問 2]（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知識度を判定するため、総合的評価としてのレポート課題とします。</p> | | | |
| 学生への メッセージ | <p>■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。 ■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。 ■法令を遵守した投資スタンスが必要です。 ■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。 この点を理解できる学生は参加してください。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 林研究室 | | | |
| 備考 | 実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 企業経営 | 科目名(英文) | Corporate Management / Business Management |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大田 住吉 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02430a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>・学ぶのは、「戦略」です。企業経営の視点から、とくに理系学生にとって不可欠な「ものづくり」に関するテーマにフォーカスし、その「ビジネス戦略」について様々な視点から学ぶ「ビジネススクール形式」の授業です。</p> <p>・主な学習テーマは、以下のとおりです。</p> <p>①理工学部の学生にとって、なぜ「ビジネス戦略」を学ぶことが必要なのか？</p> <p>②起業し、経営し、そして成功するための「ビジネス戦略」とは、何か？</p> <p>③「ものづくり」を行う製造業は、日頃どんな課題を抱え、どのように解決しているのか？</p> <p>④「ものづくり」を行う製造業にとって、市場のニーズをどう掴むのか？</p> <p>⑤「ものづくり」を行う製造業は、卸・小売・サービス業とはどんな違いがあるのか？</p> <p>⑥厳しい国際競争の中で、「ものづくり」をビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？</p> <p>・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算29年間勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として150社以上(うち製造業90社以上)の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング(ケースメソッド形式)による実践的な授業を行います。</p> |
| 到達目標 | <p>・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。</p> <p>・「ものづくり」とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。</p> <p>・また、その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業において、ケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。</p> <p>① 基本的な「ものづくり」の企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド(仮想企業による事例研究)を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。</p> <p>② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返す、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。</p> <p>③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。</p> <p>・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。教科書の他、スマホ等は必ず持参して下さい。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果がります。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか?～ | 本科目の目的とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します。 | <予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように(1時間)。 <復習>授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間) |
| 2 | ケースメソッドⅠ： ものづくりをマネジメントする | 企業事例研究：和菓子メーカーS社～① 作業標準書、生産方法、生産形態～ | <予習> 教科書 p3-22(1時間) <復習> 生産方法・形態の違い、なぜ作業標準書が必要か等について、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間) |
| 3 | 同上② | 企業事例研究：和菓子メーカーS社～② 生産工程の揺らぎと進捗管理～ | <予習> 教科書 p3-22(1時間) <復習> 生産の進捗を遅らせる原因分析と、それが取引先にどれだけ迷惑をかけるのか、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間) |
| 4 | 同上③ | 企業事例研究：和菓子メーカーS社～③ 不良品発生とその解決策～ | <予習> 教科書 p3-22(1時間) <復習> 1個の不良品を発生させることが、生産工程全体にどんな影響を及ぼすのか、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間) |
| 5 | 同上④ | 企業事例研究：和菓子メーカーS社～④ 工程間のムダの排除～ | <予習> 教科書 p3-22(1時間) <復習> 生産の進捗を遅らせる「揺らぎ」を解決するために何が必要なのか、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間) |
| 6 | 同上⑤ | 企業事例研究：和菓子メーカーS社～⑤ ロット生産と1個流し～ | <予習> 教科書 p3-22(1時間) <復習> 製造業にとって、市場で生き残るための「ものづくり」とは何か、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間) |
| 7 | ケースメソッドⅢ： アジアの中で生き残り! | 企業事例研究：プリント基板メーカーY社～①企業の海外進出理由～ | <予習> 教科書 p23-38(1時間) <復習> 業種や進出先によって、理由が異なる点について、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間) |
| 8 | 同上② | 企業事例研究：プリント基板メーカーY社～②国内帰社とマザー工場～ | <予習> 教科書 p23-38(1時間) <復習> せっかく海外進出したのに、なぜ戻って来るのかについて、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1時間) |

| | 9 | 同上③ | 企業事例研究：プリント基板メーカーY社～③ライン生産とセル生産～ | <p><予習> 教科書 p23-38(1 時間)</p> <p><復習> 2つの生産方法のメリット・デメリット、国際立地戦略における使い分け等について、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|---------------------------|------------------------------------|--|----|-----|-----|------|---|--|------------|----------|---|------------|------|---------|---|-----------|-------|---------|
| | 10 | 同上④ | 企業事例研究：プリント基板メーカーY社～④ライン生産のボトルネック～ | <p><予習> 教科書 p23-38(1 時間)</p> <p><復習> ライン生産のボトルネックについて、事例と試算による検証について、しっかりと復習して下さい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11 | 同上⑤ | 企業事例研究：プリント基板メーカーY社～⑤アジア諸国との競争戦略～ | <p><予習> 教科書 p23-38(1 時間)</p> <p><復習> アジアとの競争の中で、生産の3要素をどのように戦略化すべきか、しっかりと復習して下さい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | ケースメソッドⅢ： シャッターガード誕生物語 | 技術開発型ベンチャー企業Y社～①起業家精神とSWOT分析～ | <p><予習> 教科書 p39-78(1 時間)</p> <p><復習> 起業家「精神」だけでは決してビジネスに成功しない点を、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 同上② | 技術開発型ベンチャー企業Y社～②個人市場と法人市場比較～ | <p><予習> 教科書 p39-78(1 時間)</p> <p><復習> BtoCとBtoBの戦略の違いを、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 同上③ | 技術開発型ベンチャー企業Y社～③製品流通チャンネルと流通価格戦略～ | <p><予習> 教科書 p39-78(1 時間)</p> <p><復習> 流通プロセスにおける価格設定のポイントについて、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 同上④ | 技術開発型ベンチャー企業Y社～④損益分岐点と目標売上高～ | <p><予習> 教科書 p39-78(1 時間)</p> <p><復習> 持続的成長のために利益を出すことの重要性について、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | CSR経営論、産業社会と知的財産など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アクティブラーニング(ケースメソッド) 授業テキスト ものづくりと企業ビジネス[第2版]</td> <td>大田住吉、佐々木公之</td> <td>デザインエッグ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | アクティブラーニング(ケースメソッド) 授業テキスト ものづくりと企業ビジネス[第2版] | 大田住吉、佐々木公之 | デザインエッグ社 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | アクティブラーニング(ケースメソッド) 授業テキスト ものづくりと企業ビジネス[第2版] | 大田住吉、佐々木公之 | デザインエッグ社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イラスト図解 工場のしくみ</td> <td>松林光男、渡部弘</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>工場コストダウン事典</td> <td>五十嵐暁</td> <td>日刊工業新聞社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現場のムダどり事典</td> <td>山田日登志</td> <td>日刊工業新聞社</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | イラスト図解 工場のしくみ | 松林光男、渡部弘 | 日本実業出版社 | 2 | 工場コストダウン事典 | 五十嵐暁 | 日刊工業新聞社 | 3 | 現場のムダどり事典 | 山田日登志 | 日刊工業新聞社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | イラスト図解 工場のしくみ | 松林光男、渡部弘 | 日本実業出版社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 工場コストダウン事典 | 五十嵐暁 | 日刊工業新聞社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 現場のムダどり事典 | 山田日登志 | 日刊工業新聞社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>①グループワークへの貢献度(参加意欲、役割分担、個人別作業、呼応発言内容など)(35%)</p> <p>②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力(15%)</p> <p>③プレゼン力および質疑応答対応力(15%)</p> <p>④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)</p> <p>⑤定期試験(論述式)(5%)</p> <p>による総合評価。 ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <p>・通算35年間の民間企業等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう!</p> <p>・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 大田住吉研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。 事前事後学習は各々概ね60分程度を目安に行ってください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------|
| 科目名 | 技術英語 | 科目名(英文) | Engineering English |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 井原 駿 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN3450c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 日本企業の手による身近な製品に関わる英文の読解を通じ、機械、環境、情報、医療など、広く科学技術の英語に親しむ。読解力に加え、習得した英語の知識を「話す」「書く」といったアウトプット活動にも結びつけることを意識する。 |
| 到達目標 | 理工系の技術が実践的に生かされる事例について知見を深めながら、技術に関する英語文献を読みこなすことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では、テキスト内容の読解を基本に、読解内容を通じて得た知識を用いて話す、書くといった活動も行う。テキスト読解に当たっては受講者に対する理解度確認と教員の解説を中心に取り組みを進めるので、各自で毎回の読解テキストについて予習を行って参加すること。毎回の授業では、予習や復習内容に関する小テストなどを行い、知識や理解の定着を図りながら進める。 |
| 科目学習の効果(資格) | 技術に関する英語文献の読解力を高め、テキストを通じて科学技術の応用の実態について知見を得る。読んで知ったことを知識として身につけ、それをもとに自身の考えについて発信する力を身につける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---------------------------------|---------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の内容、方法、評価について確認 | |
| 2 | Unit 1 Design First! | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | テキストの予習 |
| 3 | Unit 2 Meeting Athletes' Needs | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 4 | Unit 3 Seven Years in the Making | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 5 | Unit 4 MEISTeR to the Rescue | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 6 | Unit 5 Space Station Science | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 7 | Unit 6 Driving Control & Safety | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 8 | Unit 7 Renewing Plastics | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 9 | Unit 8 Directing the Blind | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 10 | Unit 9 Music and Architecture in Harmony | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 11 | Unit 10 Painless Injections | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 12 | Unit 11 Tsunami Defense | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 13 | Unit 12 Improving Business Performance | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 14 | Unit 13 An Efficient Refrigerant | テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習 | 前回の復習・テキストの予習 |
| 15 | 総復習 | 学習内容の復習 | これまでの復習 |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|---|------------------------------------|------|------|---|---|------------------------------------|-----|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Japan's Skyline Technological Highlights of Major Companies</td> <td>棕平 淳・辻本智子・村尾純子・玉田麻里子・Ryan Smithers</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | Japan's Skyline Technological Highlights of Major Companies | 棕平 淳・辻本智子・村尾純子・玉田麻里子・Ryan Smithers | 金星堂 | 2 | | | | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | Japan's Skyline Technological Highlights of Major Companies | 棕平 淳・辻本智子・村尾純子・玉田麻里子・Ryan Smithers | 金星堂 | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
|-----|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 受講状況(予習、学習内容の定着、受講姿勢) 40% 期末試験 40% e-learning 学習状況 20% |
| 学生へのメッセージ | 科学技術が実社会に応用される事例について参照しながら、技術文献を読みこなすために必要な知識をつけていきましょう。単に文章を「解説」する、というのではなく、自身の中に知識や発想を取り込み、それを活用することを意識しながら取り組んでください。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師控室 |
| 備考 | 予習、復習には時間がかかるかもしれませんが、地道に取り組み、学習内容を定着させていきましょう。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」事前事後学習は毎回概ね1.5時間行うことが望まれる。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | A |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 加藤 恭子 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1414c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 身近な日常生活においてよく使われる言い回しや表現を通して、語彙や基本文法を確認しながら、英語の 4 技能を向上させる。 |
| 到達目標 | 基礎文法の徹底理解。 文章の内容を正しく理解し、伝えたいことを正確に表現する技能を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに沿って練習問題に取り組んでいく。 グループワーク、小テストも行う。 携帯電話の使用、私語など授業に積極的に参加していない場合は減点対象となります。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 語彙力、読解力、聴解力、英文作成能力の養成。 TOEIC |

| | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------------|---|---|--------------------|
| | 1 | ガイダンス | 授業内容、評価方法、学習方法についての説明 | シラバスの確認 テキストの入手 |
| 2 | Unit 1: 食べ物 (文の成り立ち) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 1 | 事前学習: Unit 1 の予習 事後学習: Unit 1 の復習 単語学習範囲 NO 1~40 | |
| 3 | Unit 2: 人物紹介 (時制) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 2 | 事前学習: Unit 2 の予習 事後学習: Unit 2 の復習 単語学習範囲 NO 41~80 | |
| 4 | Unit 3: コンサート (文型 1) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 3 | 事前学習: Unit 3 の予習 事後学習: Unit 3 の復習 単語学習範囲 NO 81~120 | |
| 5 | Unit 4: ペット (文型 2) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 4 | 事前学習: Unit 4 の予習 事後学習: Unit 4 の復習 単語学習範囲 NO 121~160 | |
| 6 | Unit 5: UFO (現在完了形) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 5 | 事前学習: Unit 5 の予習 事後学習: Unit 5 の復習 単語学習範囲 NO 161~200 | |
| 7 | Unit 6: インターネットで ショッピング (助動詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 6 | 事前学習: Unit 6 の予習 事後学習: Unit 6 の復習 単語学習範囲 NO 201~240 | |
| 8 | Unit 7: 幸運のお守り (受動態) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 7 | 事前学習: Unit 7 の予習 事後学習: Unit 7 の復習 単語学習範囲 NO 241~280 | |
| 9 | Unit 8: テレビゲーム (不定詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 8 | 事前学習: Unit 8 の予習 事後学習: Unit 8 の復習 単語学習範囲 NO 281~320 | |
| 10 | Unit 9: 健康 (動名詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 9 | 事前学習: Unit 9 の予習 事後学習: Unit 9 の復習 単語学習範囲 NO 321~360 | |
| 11 | Unit 10: ロボット (分詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 10 | 事前学習: Unit 10 の予習 事後学習: Unit 10 の復習 単語学習範囲 NO 361~400 | |
| 12 | Unit 11: バンドコンテスト (比較) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 11 | 事前学習: Unit 11 の予習 事後学習: Unit 11 の復習 | |
| 13 | Unit 12: 日本美術 (関係詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 12 | 事前学習: Unit 12 の予習 事後学習: Unit 12 の復習 | |
| 14 | Unit 13: 傷心 (仮定法) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 13 | 事前学習: Unit 13 の予習 事後学習: Unit 13 の復習 | |
| 15 | Unit 14: 別れ (否定表現) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 14 | 事前学習: Unit 14 の予習 事後学習: Unit 14 の復習 | |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---------------------------------------|---------------------|---|-----------------|
| | 1 | ENGLISH QUEST BASIC | Yoichi Kiyota, Shien Sakai, Misato Minowa, Akira Tanabe, Satsuki Osaki, Michael Farquharson | Kirihara Shoten |
| 2 | The 1500 Vocabulary for te TOEIC Test | | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 30%、小テスト 10%、提出物 10%、授業態度 (積極性、発表など) 10%、e-learning20%の割合で評価する。 原則として、出席率が80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 |
| 学生への メッセージ | 授業への積極的な参加を期待しています。 語学の習得には日々の努力と継続が必要です。努力は必ず実を結びます。 TOEICにも挑戦しましょう。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 事前・事後学習には毎回1時間以上かけること。 必ず辞書を持参すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|---------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | B |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大江 麻里子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1414c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 徹底した基礎英文法（5文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。 |
| 到達目標 | 基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストにそってすすめていきますが、必ず英語の辞書を持ってきてください。また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備してください。 |
| 科目学習の効果（資格） | 基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ |

| | | | | |
|------|--------|-----------------|---------------------------------|-----------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語のドリルをする。 | テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。 |
| | 2 | Unit 1 | 5文型 単語テスト (1-40) | テキストの予習と単語テスト (1-40) の準備 |
| | 3 | Unit 1 | 5文型 単語テスト (41-80) | テキストの予習と単語テスト (41-80) の準備 |
| | 4 | Unit 2 | 動詞 単語テスト (81-120) | テキストの予習と単語テスト (81-120) の準備 |
| | 5 | Unit 2 | 動詞 単語テスト (121-160) | テキストの予習と単語テスト (121-160) の準備 |
| | 6 | Unit 3 | 進行形・未来形・助動詞 単語テスト (161-200) | テキストの予習と単語テスト (161-200) の準備 |
| | 7 | Unit 3 | 進行形・未来形・助動詞 単語テスト (201-240) | テキストの予習と単語テスト (201-240) の準備 |
| | 8 | Unit 4 | 名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (241-280) | テキストの予習と単語テスト (241-280) の準備 |
| | 9 | Unit 4 | 名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (281-320) | テキストの予習と単語テスト (281-320) の準備 |
| | 10 | Unit 5 | 前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (321-360) | テキストの予習と単語テスト (321-360) の準備 |
| | 11 | Unit 5 | 前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (361-400) | テキストの予習と単語テスト (361-400) の準備 |
| | 12 | Unit 6 | 形容詞・副詞と比較級 | テキストの予習 |
| | 13 | Unit 6 | 形容詞・副詞と比較級 | テキストの予習 |
| | 14 | Unit 7 | 命令文・感嘆文 | テキストの予習 |
| 15 | Unit 7 | 命令文・感嘆文 総まとめ | テキストの予習 | |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 基礎英語 IIa |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|---|------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 英文法から学ぶ英作と読解 | 佐藤哲三 | 南雲堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法（基準） | 統一単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 定期試験（授業態度を含む） 60% を総合して評価する。授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語の学習は、続けることが肝心です。それぞれの学生のレベルをみながら、授業をすすめていく予定なので、毎回辞書をもって出席してください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階（非常勤講師室） |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 英単語は、毎日平均30分は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | C |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 内山 知美 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1414c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 徹底した基礎英文法（5文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。 |
| 到達目標 | 基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストとにそってすすめていきます（補助プリントも使用予定）。 教科書と英語の辞書を持ち、できるだけ予習しておくこと。 また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備しておくこと。 診断書、証明書、正当な理由の提出の無い、意欲を欠く授業態度は減点、 教員の指示、注意に従わない、授業を妨げる行為は、欠席扱い（遅刻を合わせ欠席4回で単位不可）とする。 |
| 科目学習の効果（資格） | 基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|------------------------------------|-----------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、成績の説明をする。 | テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。 |
| 2 | Unit 1 I Commute by Train? | 現在時制・過去時制 単語テスト (1-40) | テキストの予習と単語テスト (1-40) の準備 |
| 3 | Unit 1 I Commute by Train? | 現在時制・過去時制 単語テスト (41-80) | テキストの予習と単語テスト (41-80) の準備 |
| 4 | Unit 2 What Are You Going to Do This Weekend?? | 未来表現 単語テスト (81-120) | テキストの予習と単語テスト (81-120) の準備 |
| 5 | Unit 2 What Are You Going to Do This Weekend?? | 未来表現 単語テスト (121-160) | テキストの予習と単語テスト (121-160) の準備 |
| 6 | Unit 3 Have You Ever Volunteered?? | 現在完了形 単語テスト (161-200) | テキストの予習と単語テスト (161-200) の準備 |
| 7 | Unit 3 Have You Ever Volunteered?? | 現在完了形 単語テスト (201-240) | テキストの予習と単語テスト (201-240) の準備 |
| 8 | Unit 4 Is There a Bank Near Here?? | There is/are 構文 単語テスト (241-280) | テキストの予習と単語テスト (241-280) の準備 |
| 9 | Unit 4 Is There a Bank Near Here?? | There is/are 構文 単語テスト (281-320) | テキストの予習と単語テスト (281-320) の準備 |
| 10 | Unit 5 Could I Join Your Class?? | 助動詞 1 単語テスト (321-360) | テキストの予習と単語テスト (321-360) の準備 |
| 11 | Unit 5 Could I Join Your Class?? | 助動詞 1 単語テスト (361-400) | テキストの予習と単語テスト (361-400) の準備 |
| 12 | Unit 6 You Should Apply for the Program? | 助動詞 2 | テキストの予習 |
| 13 | Unit 6 You Should Apply for the Program? | 助動詞 2 | テキストの予習 |
| 14 | Unit 7 What Do the Plans Include? | 疑問詞 | テキストの予習 |
| 15 | Unit 7 What Do the Plans Include? | 疑問詞 まとめ | テキストの予習 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 基礎英語 IIa |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|---|--------------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Say It Now! | 高田智子 / Diane H. Nagatomo | 金星堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法（基準） | 共通試験 20%（統一英単語テスト 20%）、e-learning 学習の進捗度 20%、定期試験（授業態度を含む） 60% を総合して評価する。授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、小テストへの取り組みを含む毎授業の集中度を指す。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 単語帳に付随する e-learning 教材等を活用して自主学習を進んで実践すること。 今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによりあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じるように、洋画・洋楽鑑賞、海外ニュース視聴（日本語でも）等の機会も見つけていって欲しい。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階（非常勤講師室） |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 英単語は、毎日平均30分は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等は授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | D |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 木村 ゆみ |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1414c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | まずは、基礎文法を徹底させ、読解力を向上させる。毎回の単語テストにより単語力をつけるが、その際、間違った音で覚えないように、発音にも注意を払っていく。また TOEIC 形式のリスニング問題を持ちいてリスニング力の向上にもつなげる |
| 到達目標 | 基礎英文法を理解できるようになる。語彙力、読解力の向上。TOEIC Part 1,2 の問題が解けるリスニング力が養成される。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストは NO 1~NO 400 の範囲を毎回 40 単語ずつ 10 回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 基礎英文法の徹底理解。語彙力読解力の向上。リスニング力の養成。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|--------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス Unit 1 | ・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 テキストを少し学習する | 文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO 1~40 |
| 2 | Unit 1 基礎文法の確認 | 基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト 1 | 単語テストの予習 NO 41~80 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 3 | Unit 1 基礎文法の確認 | 基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト 2 | 単語テストの予習 NO 81~120 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 4 | Unit 2 基礎文法の確認 | 基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト 3 | 単語テストの予習 NO121~160 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 5 | Unit 2 基礎文法の確認 | 基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト 4 | 単語テストの予習 NO161~200 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 6 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト 5 | 単語テストの予習 NO 201~240 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 7 | Unit 3 読解の方法 | 基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト 6 | 単語テストの予習 NO 241~280 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 8 | Unit 3 読解の方法 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト 7 | 単語テストの予習 NO 281~320 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 9 | Unit 4 読解の方法 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト 8 | 単語テストの予習 NO 321~360 復該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 10 | Unit 4 読解の方法 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト 9 | 単語テストの予習 NO 361~400 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 11 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト 10 | 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 12 | Unit 5 語彙と発音 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 | 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 13 | Unit 5 語彙と発音 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 | 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 14 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 | 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 15 | 総まとめ | 総復習 | 重要項目、フレーズの整理、総復習 |

関連科目 他の英語関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|--|-----------------------|--------------|------|
| | 1 | What Really Happened? | Frank Bailey | 開文社 |
| 2 | The 1500 Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%、e-learning 20% の割合で評価する。 |
| 学生へのメッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキストの音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。 ・小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館 2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | E |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 鈴木 三千代 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1414c2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業では、これまで学んだ英語の基礎を、文法を中心としてもう一度確認しながら、語彙や文の構造を知って、リスニング、ライティングからリーディングまで、総合的な英語力を養成することを目指す。そして実際に「使える」英語運用能力を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | 英語基礎能力を確立し、何らかの形で英語に関わってくる時代の流れに対応するために、英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、さらにそれを実践に活かせるようにすることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 共通単語帳と教科書を中心に授業を行う。まず、共通単語帳の小テストをし、教科書の内容に入る。教科書では、語彙力を付けながら、文法を確認をし、リスニングからライティング・リーディングまで進めて行く。各ユニットを1～2回の授業で行う予定である。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC や英検等の得点力アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | Introduction | 授業内容についての説明と、英語の4スキルに関する導入と準備をする。 | 事前にテキストの内容に目を通しておくこと。単語テスト (0001-0040) の準備。 |
| 2 | be 動詞に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0001-0040 | 単語テスト (0041-0080) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 3 | be 動詞に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0041-0080 | 単語テスト (0081-0120) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 4 | 一般動詞 (現在) に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0081-0120 | 単語テスト (0121-0160) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 5 | 一般動詞 (過去) に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0121-0160 | 単語テスト (0161-0200) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 6 | 進行形に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0161-0200 | 単語テスト (0201-0240) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 7 | 未来形に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0201-0240 | 単語テスト (0241-0280) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 8 | 助動詞に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0241-0280 | 単語テスト (0281-0320) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 9 | 名詞・冠詞に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0281-0320 | 単語テスト (0321-0360) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 10 | 代名詞に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0321-0360 | 単語テスト (0361-0400) と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 11 | 前置詞に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0361-0400 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 12 | 形容詞・副詞に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 13 | 比較に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 14 | 命令文・感嘆文に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A 基本問題、B 発展問題、C 長文問題へと進めて行く。選択 | 教科書の前期授業範囲の復習。 |

| | | | | |
|---------------|--|---|--|------------|
| | 15 | Review | 問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 各ユニットの復習とまとめ。 | レポート等最終提出。 |
| 関連科目 | 他の全ての英語科目。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | English Primer<Revised Edition> | 佐藤 哲三 他 | 南雲堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 共通試験(統一英語単語テスト)20%、e-learning 学習 20%、定期試験 40%、平常点(小テスト、レポート・課題、授業への取組み) 20%の割合で評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 e-learning 学習をフルに活用し、また予習・復習を怠らないようにして、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learningを含めて、毎日1時間以上学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、レポート・課題等は授業中にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I a | 科目名 (英文) | Basic English Ia |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | F |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 松浦 茂寿 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1414c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。 |
| 到達目標 | 今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしよう！ |
| 授業方法と留意点 | 毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！ |
| 科目学習の効果 (資格) | 高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEIC テストに有効な単語力 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|--------------------------|--|
| | | | 1 |
| 2 | Unit1 My Hometown 故郷を紹介しよう | be 動詞 | 教科書 p. 1-6、次回の第二回単語テスト範囲、26-50 番まで勉強する事。 |
| 3 | Unit2 Hobbies 趣味もいろいろ | 一般動詞 | 教科書 p. 7-12、次回の第三回単語テスト範囲、51-75 番まで勉強する事。 |
| 4 | Unit3 Shopping 買い物に行くならどこ？ | 名詞、代名詞 | 教科書 p. 13-18、次回の第四回単語テスト範囲、76-100 番まで勉強する事。 |
| 5 | Unit4 Nature Quiz クイズに挑戦 | Wh 疑問文 | 教科書 p. 19-24、次回の第五回単語テスト範囲、101-125 番まで勉強する事。 |
| 6 | Unit5 Dream House 理想的な住まいとは？ | 前置詞 | 教科書 p. 25-30、次回の第六回単語テスト範囲、126-150 番まで勉強する事。 |
| 7 | Unit6 Food 好きな食べ物は何!? | 接続詞 | 教科書 p. 31-36、次回の第七回単語テスト範囲、151-200 番まで勉強する事。 |
| 8 | Unit 7 First Date デートは最初が肝心 | 過去形 | 教科書 p. 37-42、次回の第八回単語テスト範囲、201-250 番まで勉強する事。 |
| 9 | Unit8 Detective Story 探偵は真実を求める | 進行形 | 教科書 p. 43-48、次回の第九回単語テスト範囲、251-300 番まで勉強する事。 |
| 10 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十回単語テスト範囲、301-350 番まで勉強する事。 |
| 11 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十一回単語テスト範囲、351-400 番まで勉強する事。 |
| 12 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十二回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。 |
| 13 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十三回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。 |
| 14 | 資格、検定などの問題またはリスニング演習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十四回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。 |
| 15 | 総合復習 | 定期試験対策 | — |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|-------------|--|------|
| | 1 | English Ace | 山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett | 成美堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) | 西谷悟志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 定期試験 (40%)、提出物 (10%)、単語小テスト (5%)、平常点 (授業態度 5%) の合計 60% に e-learning 学習進捗度 (20%)、共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) を足して総合評価します。統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！ |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | A |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 木村 ゆみ |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1415c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 英文を「聞いて」「読んで」、実践英語の基礎固めをする。テキストで不十分な部分はプリント教材において文法項目等を学習し、英文を理解する力をつけ、TOEIC 等にも対応できる力を養う。 |
| 到達目標 | 基礎読解力を身につける TOEIC の問題に慣れる |
| 授業方法と留意点 | 教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストは NO 401 から NO 808 の範囲を一週につき 40 個ずつ合計 10 回のテストをする。テキストの内容確認の臨時テストも各章の終わりに行う。 ただ出席するだけでなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|-----------------------|---|
| | | | |
| 2 | Unit 1 基礎文法の確認 | 演習と解説 単語テスト 1 | 単語テストの予習 NO 441～ NO 480 当該ユニットの予習 復習 |
| 3 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説、発展問題 単語テスト 2 | 課題：授業で指示する |
| 4 | これまでの授業内容の確認 | 臨時試験、復習 | 課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 481～ NO520 |
| 5 | Unit 2 基礎文法の確認 | 演習と解説 単語テスト 3 | 当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 521～ NO560 |
| 6 | Unit 3 基礎文法の確認 | 演習と解説 単語テスト 4 | 当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 561～ NO600 |
| 7 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説 単語テスト 5 | 課題：授業中に指示する |
| 8 | これまでの学習内容の確認 | 臨時試験、復習 | 課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 601～ NO 640 |
| 9 | Unit 4 読解の方法 | 演習と解説 単語テスト 6 | 当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 641～ NO 680 |
| 10 | Unit 5 読解の方法 | 演習と解説 単語テスト 7 | 当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 681～ NO 720 |
| 11 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説 単語テスト 8 | 課題：単語テストの予習 NO 321～ NO 760 |
| 12 | これまでの学習内容の確認 | 臨時試験、復習、単語テスト 9 | 課題：単語テストの予習 NO761～808 |
| 13 | Unit 6 英語の語彙 | 演習と解説 単語テスト 10 | 当該ユニットの予習 復習 |
| 14 | Unit 7 英語の語彙 | 演習と解説 | 当該ユニットの予習 復習 |
| 15 | これまでの学習内容の確認 | 総復習 | 課題：授業で指示する |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|-----|------|
| | | | |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 統一英語単語テスト 20%、E-learning 20% 定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10% の割合で総合的に評価する |
|-----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | ・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト附属 CD にて自宅学習を行いましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましよう。 TOEIC IP を受験してください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------------|
| 担当者の研究室等 | 7 号館 2 階 (非常勤講師室) |
|----------|-------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | B |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 湊 由妃子 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1415c2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 英文読解を中心に進めていく授業である。高校までに学んできたことを復習しながら、より多くの語彙力、文法力、作文力をつけていくことを目的とする。 教科書は現代の日本に関する様々なトピックを扱っているため、英語をとおして現代の日本事情に関心をもってもらいたい。 |
| 到達目標 | まじめに学習することで基礎読解力や語彙力がつく。また TOEIC 受験に必要な読解力が向上する。 |
| 授業方法と留意点 | 語学の授業であるため、学生主導で進めて行く。訳出、練習問題、音読、すべて学生に指名するので、予習をして積極的に参加してもらいたい。授業の2回目からの単語テストは平常点評価に加点されるので、毎回準備すること。 また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ |

| | | | | |
|------|----|--|---|----------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、評価方法の説明 教科書 Pre-Unit | 教科書を準備しておくこと |
| | 2 | Japanese Cultural Invasion アニメやマンガのように海外で注目される日本のポップカルチャーについて | 第1回目 単語テスト 教科書 pp. 13-15 | 当該ユニットの予習 単語学習範囲 0401--0440 |
| | 3 | Japanese Cultural Invasion アニメやマンガのように海外で注目される日本のポップカルチャーについて | 第2回目 単語テスト 教科書 pp. 16-18 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0441-0480 |
| | 4 | Emoji: From Japan to the World 今や世界の共通語である日本発祥の絵文字について | 第3回目 単語テスト 教科書 19-21 Unit1 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0481-0520 |
| | 5 | Emoji: From Japan to the World 今や世界の共通語である日本発祥の絵文字について | 第4回目 単語テスト 教科書 pp. 22-24 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0521-0560 |
| | 6 | Tokyo 2020: Chance for a New Beginning 2020 年東京オリンピックへの期待と課題 | 第5回目 単語テスト 教科書 pp. 25-27 Unit2 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0561-0600 |
| | 7 | Tokyo 2020: Chance for a New Beginning 2020 年東京オリンピックへの期待と課題 | 第6回目 単語テスト 教科書 pp. 28-30 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0601-0640 |
| | 8 | Pet Obsession 過熱する日本人のペット依存 | 第7回目 単語テスト 教科書 pp. 31-33 Unit 3 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0641-0680 |
| | 9 | Pet Obsession 過熱する日本人のペット依存 | 第8回目 単語テスト 教科書 pp. 34-36 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0681-0720 |
| | 10 | Silver Japan 最高齢化社会日本と若者の将来への影響 | 第9回目 単語テスト 教科書 pp. 37-39 Unit 4 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0721-0760 |
| | 11 | Silver Japan 最高齢化社会日本と若者の将来への影響 | 第10回目 単語テスト 教科書 pp. 40-42 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0761-0808 |
| | 12 | Changing Gender Roles 日本社会における男女の立場や役割の変化 | 教科書 pp. 43-45 Unit 5 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 |
| | 13 | Changing Gender Roles 日本社会における男女の立場や役割の変化 | 教科書 pp. 46-48 | 当該ユニットの予習 復習 |
| | 14 | Maternity Harassment 妊婦が受ける冷遇と批判の実情 | 教科書 pp. 49-51 Unit 6 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 |
| | 15 | Maternity Harassment | 教科書 pp. 52-54 | 当該ユニットの予習 復習 前期末テストの準備 |

| | | | |
|---------------|--|---|--------------------------------|
| | 妊婦が受ける冷遇と批判の実情 | | |
| 関連科目 | 他の英語関連科目 | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | Portraits of Japan | Paul Stapleton / Atsuko Uemura |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 |
| | 3 | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 統一単語テスト 20%、e-learning 学習の進捗度 20%、定期テスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。詳しくは第 1 回目の授業で説明する。 | | |
| 学生への メッセージ | 授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 2 階(非常勤講師室) | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 ・授業計画は進度によって変わる場合がある。 ・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | C |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 東野 厚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1415c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 自分自身の意見や考えを、英語で適切かつ的確に発信するための基礎力を身につけることを目的とする。そのために、まず文法事項を確認する。文法事項は、説明と例文を通してポイントを理解した後、練習問題で定着を図る。また英文を読み、その内容に関して理解ができているか確認する。さらに、毎回小テストと単語テストを行う。 |
| 到達目標 | 基礎的な読解力、語彙力をつける。 |
| 授業方法と留意点 | 受け身の授業態度ではなく、積極的に取り組む姿勢を評価する。授業では、まず単語テスト、各 Unit ごとには、文法事項の確認のため小テストを行うので復習をしておくこと、また文法事項確認の後、英文読解、英作文を行うので学習予定内容について予習が必要である。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 英検・TOEIC テストのスコアアップなど |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|----------------------------------|--------------------------------|
| | | | |
| 2 | Unit 1 「〈人〉または〈物〉は／が～する」のパターン 第1文型をとる動詞と第3文型をとる動詞 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0401-0420) テキストの予習、復習 |
| 3 | Unit 2 「〈人〉に〈物〉を～する」のパターン 第4文型をとる動詞 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0421-0456) テキストの予習、復習 |
| 4 | Unit 3 人や物を説明しよう (1) 第2文型をとる動詞 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0457-0494) テキストの予習、復習 |
| 5 | Unit 4 人や物を説明しよう (2) 第5文型をとる動詞 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0495-0523) テキストの予習、復習 |
| 6 | Unit 5 「いつも～している」のパターンと「～した」のパターン 現在時制と過去時制 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0524-0563) テキストの予習、復習 |
| 7 | Unit 6 「これから～するつもりだ」のパターン 未来を表す表現 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0564-0602) テキストの予習、復習 |
| 8 | まとめ (1) Unit 1-6 復習 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0603-0641) テキストの復習 |
| 9 | Unit 7 「今～している」のパターンと「その時～していた」のパターン 現在進行形と過去進行形 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0642-0680) テキストの予習、復習 |
| 10 | Unit 8 過去のことが現在まで影響する形 現在完了形 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0681-0713) テキストの予習、復習 |
| 11 | Unit 9 「話し手の気持ち」を表す表現 法助動詞 ① | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0714-0753) テキストの予習、復習 |
| 12 | Unit 10 「相手の気持ち」を尋ねる表現 法助動詞 ② | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (0754-808) テキストの予習、復習 |
| 13 | Unit 11 「～すること」を表す2種類の形 to不定詞と動名詞 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (指示された箇所) テキストの予習、復習 |
| 14 | Unit 12 2種類の「～すること」の形を区別する方法 「未来」を表す to不定詞と「現在・過去」を表す動名詞 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (指示された箇所) テキストの予習、復習 |
| 15 | まとめ (2) 全体のまとめと復習 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (指示された箇所) テキストの復習 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | すべての英語科目 |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|---|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | A Primer of Communication in English | 小山政史他 | 松柏社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%), e-learning 20%, 定期試験 40%, 小テスト 10%, 授業態度 (授業中の質問に関する回答状況、授業への積極性、集中度など) 10% の割合で総合的に評価する。 |
| 学生への メッセージ | 基本的な文法を理解し、確実に英語力をつけることを目指します。そのためにも、eラーニング教材「リンガポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC (Bridge) 試験に挑戦しましょう。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 2階 非常勤講師室 |
| 備考 | 自主学習には、毎回 1 時間以上をかけた丁寧な準備、復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等の提出物は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | D |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 平尾 秀実 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1415c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業は、基礎的な文法力・語彙力・読解力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。 |
| 到達目標 | 辞書を多用すること無しに、英文を理解できるようになる。 基礎読解力を身につける |
| 授業方法と留意点 | 教科書にそって、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト (授業内容の確認) と単語テスト (指定範囲) を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|--|--|
| | | | |
| 2 | Unit 1 5つの基本文型 | 単語テスト: 401-430 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 3 | Unit 1 5つの基本文型 | 単語テスト: 431-460 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 4 | Unit 2 進行形 | 単語テスト: 461-490 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 5 | Unit 2 進行形 | 単語テスト: 491-520 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 6 | Unit 2 進行形 | 単語テスト: 521-550 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 7 | Unit 3 助動詞 (1) - can, may, will | 単語テスト: 551-580 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備 |
| 8 | これまでのまとめ、課題テスト | 単語テスト: 581-610 前半内容の総復習および中間テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 9 | Unit 3 助動詞 (1) - can, may, will | 単語テスト: 611-640 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 10 | Unit 4 助動詞 (2) - must, should | 単語テスト: 641-670 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 11 | Unit 4 助動詞 (2) - must, should | 単語テスト: 671-700 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 12 | Unit 5 未来形 | 単語テスト: 701-730 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 13 | Unit 5 未来形 | 単語テスト: 731-760 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 14 | Unit 6 受動態 | 単語テスト: 761-790 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備 |
| 15 | Unit 6 受動態 | 単語テスト: 791-808 前半内容の総復習 | 定期試験の準備 |

| | |
|------|---------|
| 関連科目 | 基礎英語 2b |
|------|---------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|------------------------|---------------|------|
| | 1 | Polish Up Your English | Bill Benfield | 成美堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 30%、小テスト 10%、課題テスト 10%、レポート 10%、e-learning 20% の割合で評価する。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力を UP させましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|------|-----------------|
| 担当者の | 7号館 2階 (非常勤講師室) |
|------|-----------------|

| | |
|------|--|
| 研究室等 | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・4回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。 ・事前・事後、毎回、1時間以上予習・復習すること。 ・授業を妨げる行為（私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等）は減点の対象とする。 <p>課題テストで間違った所は復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト，課題テスト，レポート等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | E |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 井寺 利奈 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1415c2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | イギリス文化についての簡単なエッセイを読み、基本的な語彙や文法の確認を行う。 高校までに学習したことを復習しながら、いま一度、英文を正確に読む訓練を積むことで、読解力の基礎を築くことを目的とする。 |
| 到達目標 | 英語の基礎読解力を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 授業の最初に単語テスト (指定範囲) を行う。 教科書に従って、リーディング、文法、リスニングの能力を磨くタスクを行い、各ユニットの最後に小テストを実施する。 和訳、演習問題、音読などはすべて学生に指名し、全員参加型の授業を目指す。 ※授業には必ず辞書を持参すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 各種英語検定試験に必要な基礎力を身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|---|
| | | | |
| 1 | Introduction | 授業の進め方・成績評価の方法・注意点についての説明、座席の指定 | テキストを準備しておくこと |
| 2 | Unit 1 The Royal Family イギリスの王位継承は誰に? | 単語テスト: 401-440 present tense (現在時制) | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 3 | Unit 1 The Royal Family イギリスの王位継承は誰に? | 単語テスト: 441-480 present tense (現在時制) Unit 1 小テスト | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 4 | Unit 2 The Beatles 空で歌えるビートルズの曲 | 単語テスト: 481-520 past tense (過去形) | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 5 | Unit 2 The Beatles 空で歌えるビートルズの曲 | 単語テスト: 521-560 past tense (過去形) Unit 2 小テスト | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 6 | Unit 3 Very Cold ヨーロッパで楽しむ休暇 | 単語テスト: 561-600 progressive forms (進行形) | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 7 | Unit 3 Very Cold ヨーロッパで楽しむ休暇 progressive forms (進行形) | 単語テスト: 601-640 progressive forms (進行形) Unit 3 小テスト | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 8 | Unit 4 Euro Money ユーロでなく独自通過の国 | 単語テスト: 641-680 auxiliary verbs (助動詞) | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 9 | Unit 4 Euro Money ユーロでなく独自通過の国 | 単語テスト: 681-720 auxiliary verbs (助動詞) Unit 4 小テスト | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 10 | Unit 5 To Your Health 入院して健康な体に! | 単語テスト: 721-760 perfect tense (完了形) | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 11 | Unit 5 To Your Health 入院して健康な体に! | 単語テスト: 761-808 perfect tense (完了形) Unit 5 小テスト | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 12 | Unit 6 Recycling リサイクルの問題点は? | 単語テスト: 401-500 articles/ pronouns (冠詞/ 代名詞) | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 13 | Unit 6 Recycling リサイクルの問題点は? articles/ pronouns (冠詞/ 代名詞) | 単語テスト: 501-600 articles/ pronouns (冠詞/ 代名詞) Unit 6 小テスト | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 14 | Unit 7 The UK 住みやすいイギリス | 単語テスト: 601-700 nouns: countable, uncountable (名詞) | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 15 | Unit 7 The UK 住みやすいイギリス | 単語テスト: 701-808 nouns: countable, uncountable (名詞) Unit 7 小テスト | 単語テスト対策 授業内に指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |

| | |
|------|---------|
| 関連科目 | 基礎英語 2b |
|------|---------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---------------------------------|--------------------|------|
| | 1 | English Indicator 1 (Essential) | Terry O'Brien etc. | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) 定期試験 30% |
|-----------|--------------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| | <p>小テストと授業態度 30%</p> <p>e-learning20%</p> <p>※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど）は教室に来ていても「欠席」扱いとします。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p> |
| 学生へのメッセージ | <p>この授業では難しい教材は使わず、着実に英語の基礎力を身につけることができるよう、じっくりと進めていきます。積極的かつ集中して授業に臨んでください。</p> |
| 担当者の研究室等 | <p>7号館 2階(非常勤講師室)</p> |
| 備考 | <p>授業の前後に合計2時間程度、予習と復習、単語学習（e-learning）を行うよう心がけてください。</p> <p>※授業計画は進度によって変わる場合があります。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等は授業中にフィードバックする。</p> |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|------------------|
| 科目名 | 基礎英語 I b | 科目名 (英文) | Basic English Ib |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | F |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 小磯 かをる |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1415c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業は、科学に関する映像を見ながら、総合的な英語力を身につけることを目的とする。高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。 |
| 到達目標 | 辞書を多用すること無しに、英文を理解できるようになる。 基礎読解力を身につける |
| 授業方法と留意点 | 教科書にそって、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト (授業内容の確認) と単語テスト (指定範囲) を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法・注意点についての説明 | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 2 | Unit 1 No Moon at All の内容理解 | 単語テスト：401-430 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 3 | Unit 1 No Moon at All の内容理解 | 単語テスト：431-460 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 4 | Unit 2 Tackling Violet Wildfires の内容理解 | 単語テスト：461-490 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 5 | Unit 3 Check the Soil First の内容理解 | 単語テスト：491-520 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 6 | Unit 4 The Beauty of Snowflakes の内容理解 | 単語テスト：521-550 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 7 | Unit 5 Coping with the Extreme Weather の内容理解 | 単語テスト：551-580 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備 |
| 8 | これまでのまとめ、中間テスト | 単語テスト：581-620 前半内容の総復習および中間テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 9 | Unit 6 Is Love an Addiction? の内容理解 | 単語テスト：621-650 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 10 | Unit 6 Is Love an Addiction? の内容理解 | 単語テスト：651-680 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 11 | Unit 7 Self-Driving Future の内容理解 | 単語テスト：681-710 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 12 | Unit 7 Self-Driving Future の内容理解 | 単語テスト：711-740 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 13 | Unit 8 No Needle, No Thread? の内容理解 | 単語テスト：741-770 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 14 | Unit 8 No Needle, No Thread? の内容理解 | 単語テスト：771-808 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備 |
| 15 | 前期のまとめ | 単語テスト：0401~0808 前半内容の総復習 | 定期試験の準備 |

| | |
|------|---------|
| 関連科目 | 基礎英語 2b |
|------|---------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|----------------|------------------|------|
| | 1 | Inside Science | Yoshinobu Nozaki | 金星堂 |
| 2 | 単語帳：The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%、e-learning20%の割合で評価する。 記入例 2 (1・2年後期に開講の科目)：共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 30%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、e-learning20%の割合で評価する。 |
| 学生への | じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力をUPさせましょう。 |

| | |
|----------|---|
| メッセージ | |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・4回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。 ・事前・事後、毎回、1時間以上予習・復習すること。 ・授業を妨げる行為（私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等）は減点の対象とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | Basic English IIa |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | A |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 加藤 恭子 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1416c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 身近な日常生活においてよく使われる言い回しや表現を通して、語彙や基本文法を確認しながら、英語の 4 技能を向上させる。 |
| 到達目標 | 基礎文法の徹底理解。 文章の内容を正しく理解し、伝えたいことを正確に表現する技能を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに沿って練習問題に取り組んでいく。 グループワーク、小テストも行う。 携帯電話の使用、私語など授業に積極的に参加していない場合は減点対象となります。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 語彙力、読解力、聴解力、英文作成能力の養成。 TOEIC |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | 授業内容、評価方法、学習方法についての説明 | シラバスの確認 テキストの入手 |
| 2 | Unit 1: 日本の祭り と世界の祭り (動作動詞、状態動詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 1 | 事前学習: Unit 1 の予習 事後学習: Unit 1 の復習 単語学習範囲 NO 801~840 |
| 3 | Unit 2: 中国系アメリカ人の友人 (他動詞、自動詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 2 | 事前学習: Unit 2 の予習 事後学習: Unit 2 の復習 単語学習範囲 NO 841~880 |
| 4 | Unit 3: クラス選択の参考資料 (過去形、完了形) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 3 | 事前学習: Unit 3 の予習 事後学習: Unit 3 の復習 単語学習範囲 NO 881~920 |
| 5 | Unit 4: 日本の学生とアメリカの学生 (受動態) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 4 | 事前学習: Unit 4 の予習 事後学習: Unit 4 の復習 単語学習範囲 NO 921~960 |
| 6 | Unit 5: 世界の食べ物事情 (準動詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 5 | 事前学習: Unit 5 の予習 事後学習: Unit 5 の復習 単語学習範囲 NO 961~1000 |
| 7 | Unit 6: 日本の食べ物事情 (前置修飾) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 6 | 事前学習: Unit 6 の予習 事後学習: Unit 6 の復習 単語学習範囲 NO 1001~1040 |
| 8 | Unit 7: 風邪をひいたら何を する (後置修飾) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 7 | 事前学習: Unit 7 の予習 事後学習: Unit 7 の復習 単語学習範囲 NO 1041~1080 |
| 9 | Unit 8: 病院での異文化体験 (接触節) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 8 | 事前学習: Unit 8 の予習 事後学習: Unit 8 の復習 単語学習範囲 NO 1081~1120 |
| 10 | Unit 9: おすすめの映画は (関係代名詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 9 | 事前学習: Unit 9 の予習 事後学習: Unit 9 の復習 単語学習範囲 NO 1121~1160 |
| 11 | Unit 10: マンガで読む日本の歴史 (関係副詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 10 | 事前学習: Unit 10 の予習 事後学習: Unit 10 の復習 単語学習範囲 NO 1161~1200 |
| 12 | Unit 11: ビニール袋は必要か (比較) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 11 | 事前学習: Unit 11 の予習 事後学習: Unit 11 の復習 |
| 13 | Unit 12: 地球のためにできること (助動詞) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 12 | 事前学習: Unit 12 の予習 事後学習: Unit 12 の復習 |
| 14 | Unit 13: アメリカのパレンタインダー (条件節、仮定法) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 13 | 事前学習: Unit 13 の予習 事後学習: Unit 13 の復習 |
| 15 | Unit 14: 韓国のイエローデー (仮定法) | 語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 小テスト 14 | 事前学習: Unit 14 の予習 事後学習: Unit 14 の復習 |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|--|--------------------|--|-----------------|
| | 1 | ENGLISH QUEST PLUS | Shien Sakai, Satsuki Osaki, Misato Minowa, Michael Farquharson | Kirihara Shoten |
| 2 | The 1500 Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 30% (TOEIC20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 30%、小テスト 10%、提出物 10%、授業態度 (積極性、発表など) 10%、e-learning10% の割合で評価する。 原則として、出席率が 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 |
| 学生への メッセージ | 授業への積極的な参加を期待します。 語学の習得には日々の努力と継続が必要です。努力は必ず実を結びます。 TOEICにも挑戦しましょう。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 事前・事後学習には毎回 1 時間以上かけること。 必ず辞書を持ってくること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ a | 科目名(英文) | Basic English IIa |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | B |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大江 麻里子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1416c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 徹底した基礎英文法（5文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。 |
| 到達目標 | 基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 基礎英文法の徹底理解 |
| 授業方法と留意点 | テキストにそってすすめていきますが、必ず英語の辞書を持ってきてください。また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備しておくこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------|----------------------------|-------------------------------|
| | | | |
| 2 | Unit 8 | 不定詞 単語テスト (809-840) | テキストの予習と単語テスト (809-840) の準備 |
| 3 | Unit 8 | 不定詞 単語テスト (841-880) | テキストの予習と単語テスト (841-880) の準備 |
| 4 | Unit 9 | 動名詞と分詞 単語テスト (881-920) | テキストの予習と単語テスト (881-920) の準備 |
| 5 | Unit 9 | 動名詞と分詞 単語テスト (921-960) | テキストの予習と単語テスト (921-960) の準備 |
| 6 | Unit 10 | 各種疑問文 単語テスト (961-1000) | テキストの予習と単語テスト (961-1000) の準備 |
| 7 | Unit 10 | 各種疑問文 単語テスト (1001-1040) | テキストの予習と単語テスト (1001-1040) の準備 |
| 8 | Unit 11 | 受動態 単語テスト (1041-1080) | テキストの予習と単語テスト (1041-1080) の準備 |
| 9 | Unit 11 | 受動態 単語テスト (1081-1120) | テキストの予習と単語テスト (1081-1120) の準備 |
| 10 | Unit 12 | 完了形 単語テスト (1121-1160) | テキストの予習と単語テスト (1121-1160) の準備 |
| 11 | Unit 12 | 完了形 単語テスト (1161-1200) | テキストの予習と単語テスト (1161-1200) の準備 |
| 12 | Unit 13 | 接続詞(II) | テキストの予習 |
| 13 | Unit 13 | 接続詞(II) | テキストの予習 |
| 14 | Unit 14 | 仮定法 | テキストの予習 |
| 15 | Unit 14 | 仮定法 | テキストの予習 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 基礎英語Ⅰa |
|------|--------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|--------------|------|------|
| | 1 | 英文法から学ぶ英作と読解 | 佐藤哲三 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | TOEIC 20% 統一英単語テスト 10% e-learning 学習の進捗度 10% 定期試験(授業態度を含む) 60% を総合して評価する。授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 英語の学習は、続けることが肝心です。それぞれの学生のレベルをみながら、授業をすすめていく予定なので、毎回辞書をもって出席してください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 英単語は、毎日平均30分は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | Basic English IIa |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | C |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 内山 知美 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1416c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 徹底した基礎英文法（5文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。 |
| 到達目標 | 基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 基礎英文法の徹底理解 |
| 授業方法と留意点 | テキストとにそってすすめていきます（補助プリントも使用予定）。 教科書と英語の辞書を持ち、できるだけ予習しておくこと。 また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備しておくこと。 診断書、証明書、正当な理由の提出の無い、意欲を欠く授業態度は減点、 教員の指示、注意に従わない、授業を妨げる行為は、欠席扱い（遅刻を合わせ欠席4回で単位不可）とする。 |
| 科目学習の効果（資格） | 基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ |

| | | | | |
|------|----|---|-------------------------------------|--------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション Unit 8 ??My New Apartment Is Safer Than My Old One? | 後期授業の進め方、成績の説明後、U8前半、比較級・最上級 | テキストU8をさっと予習しておくこと。 |
| | 2 | Unit 8 | 比較級・最上級 単語テスト (809-833) | テキストの予習と単語テスト (809-833) の準備 |
| | 3 | Unit 9 Typing Is Easy for Me!? | 動名詞 単語テスト (834-874) | テキストの予習と単語テスト (834-874) の準備 |
| | 4 | Unit 9 | 動名詞 単語テスト (875-916) | テキストの予習と単語テスト (875-916) の準備 |
| | 5 | Unit 10 ?I Have Many Things to Learn? to | 不定詞 単語テスト (917-958) | テキストの予習と単語テスト (917-958) の準備 |
| | 6 | Unit 10 | 不定詞 単語テスト (959-999) | テキストの予習と単語テスト (959-999) の準備 |
| | 7 | Unit 11 ?If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour | because / if 節 単語テスト (1000-1037) | テキストの予習と単語テスト (1000-1037) の準備 |
| | 8 | Unit 11 | because / if 節 単語テスト (1038-1079) | テキストの予習と単語テスト (1038-1079) の準備 |
| | 9 | Unit 12 Osamu Tezuka Is Admired by Many People ? | 受動態 単語テスト (1080-1121) | テキストの予習と単語テスト (1080-1121) の準備 |
| | 10 | Unit 12 | 受動態 単語テスト (11122-1160) | テキストの予習と単語テスト (11122-1160) の準備 |
| | 11 | Unit 13 Here Is a Book Showing Various Recipes!? | 過去分詞・現在分詞 単語テスト (1161-1200) | テキストの予習と単語テスト (1161-1200) の準備 |
| | 12 | Unit 13 | 過去分詞・現在分詞 | テキストの予習 |
| | 13 | Unit 14 There Is a Candidate Who I Want to Support ? | 関係代名詞 | テキストの予習 |
| | 14 | Unit 15 ??This Semester Finished So Fast!? | 頻度／様子を表す副詞 | テキストの予習 |
| | 15 | Unit 14-15 | まとめ | テキストの予習 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 基礎英語Ⅰa |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|---|------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Say It Now! | 高田智子 | 金星堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法（基準） | 共通試験 30% (TOEIC (Bridge) 20%、統一英単語テスト 10%)、 e-learning 学習の進捗度 10% 定期試験 (授業態度を含む) 60% を総合して評価する。授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、小テストへの取り組みを含む毎授業の集中度を指す。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 単語帳に付随する e-learning 教材等を活用して自主学習を進んで実践すること。 今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによりあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じるように、洋画・洋楽鑑賞、海外ニュース視聴（日本語でも）等の機会も見つけていって欲しい。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階（非常勤講師室） |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 英単語は、毎日平均30分は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等は授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ a | 科目名 (英文) | Basic English IIa |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | D |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 木村 ゆみ |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1416c2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | ワークブック形式のテキストを通して基礎文法力、読解力、語彙力をつけ、英語の基礎固めをする。 毎回授業の始めに TOEIC のための単語テストを行う。TOEIC Bridge, TOEIC のリスニング問題を用いてリスニング力も高める。 |
| 到達目標 | 基礎英文法の徹底。 基礎英単語を習得し、読解力を向上させる TOEIC Part 3, 4 が理解できるリスニング力を養成する |
| 授業方法と留意点 | 教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストは NO 809 ~ NO 1200 の範囲を 毎回約 40 単語ずつ合計 10 回のテストをする。またテキストの各章が終わるごとに臨時試験を行い、知識の定着をはかる。 ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 基礎英文法の徹底、語彙力、読解力、リスニング力の向上。TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ |

| | | | | |
|------|----|--------------------|------------------------|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | ・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 809 ~ NO 840 |
| | 2 | Unit 6 英文構造 | 演習と解説 単語テスト 1 | 該当UNITの予習 復習 単語テストの予習 NO 841 ~ NO 880 |
| | 3 | Unit 6 英文構造 | 演習と解説、発展問題 単語テスト 2 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 881 ~ NO 920 |
| | 4 | Unit 7 英文構造 | 演習と解説 単語テスト 3 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 921 ~ NO 960 |
| | 5 | Unit 7 英文構造 | 演習と解説、発展問題 単語テスト 4 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 961 ~ NO 1000 |
| | 6 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説 単語テスト 5 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1001 ~ NO 1040 |
| | 7 | Unit 8 英文内容把握 | 演習と解説、発展問題 単語テスト 6 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1041 ~ NO 1080 |
| | 8 | Unit 8 英文内容把握 | 演習と解説 単語テスト 7 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1081 ~ NO 1120 |
| | 9 | Unit 9 英文内容把握 | 演習と解説、発展問題 単語テスト 8 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1121 ~ NO 1160 |
| | 10 | Unit 9 英文内容把握 | 演習と解説 単語テスト 9 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1161 ~ NO 1200 |
| | 11 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説、発展問題 単語テスト 10 | 該当UNITの予習、復習 |
| | 12 | Unit 10 リスニング対策 | 演習と解説 | 該当UNITの予習、復習 |
| | 13 | Unit 10 リスニング対策 | 演習と解説、発展問題 | 該当UNITの予習、復習 |
| | 14 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説 | 該当UNITの予習、復習 |
| | 15 | これまでの学習内容の確認 | 総復習 | 課題：授業で指示する |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|---|--------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | What Really Happened? | Frank Bailey | 開文社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集 | | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 30% (TOEIC Bridge 20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 20%、小テスト 20%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、e-learning 10% の割合で評価する。 |
| 学生へのメッセージ | ・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト附属 CD 使って自宅学習をしましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館 2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ a | 科目名(英文) | Basic English IIa |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | E |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 鈴木 三千代 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1416c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業では、これまで学んだ英語の基礎を、文法を中心としてもう一度確認しながら、語彙や文の構造を知って、リスニング、ライティングからリーディングまで、総合的な英語力を養成することを目指す。そして実際に「使える」英語運用能力を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | 英語基礎能力を確立し、何らかの形で英語に関わってくる時代の流れに対応するために、英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、さらにそれを実践に活かせるようにすることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 共通単語帳と教科書を中心に授業を行う。まず、共通単語帳の小テストをし、教科書の内容に入る。教科書では、語彙力を付けながら TOEIC タイプの問題を、リスニングからリーディングまで文法を確認しながら進めて行く。各ユニットを1～2回の授業で行う予定である。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC や英検等の得点力アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | Introduction | 授業内容についての説明と、英語の4スキルに関する導入と準備をする。 | 事前にテキストの内容に目を通しておくこと。単語テスト(0809-0840)の準備。 |
| 2 | 接続詞(I)に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 0809-0840 | 単語テスト(0841-0880)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 3 | 接続詞(I)に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 0841-0880 | 単語テスト(0881-0920)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 4 | 不定詞(I)・動名詞(I)に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 0881-0920 | 単語テスト(0921-0960)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 5 | 受動態に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 0921-0960 | 単語テスト(0961-1000)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 6 | 完了形に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 0961-1000 | 単語テスト(1001-1040)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 7 | 接続詞(II)に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 1001-1040 | 単語テスト(1041-1080)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 8 | 5つの基本文型に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 1041-1080 | 単語テスト(1081-1120)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 9 | 各種疑問文に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 1081-1120 | 単語テスト(1121-1160)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 10 | 不定詞(II)に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 1121-1160 | 単語テスト(1161-1200)と教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 11 | Itの特別用法に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト: 1161-1200 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 12 | 分詞・動名詞(II)に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 13 | 関係代名詞に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 | 教科書の授業範囲の予習と復習。 |
| 14 | 仮定法に関する表現練習。 | 文法事項を確認し、A基本問題、B発展問題、C長文問題へと進めて行く。選択 | 教科書の後期授業範囲の復習。 |

| | | | |
|---------------|--|---|-------------------------|
| | | 問題や文整序問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 | |
| | 15 | Review | 各ユニットの復習とまとめ。レポート等最終提出。 |
| 関連科目 | 他の全ての英語科目。 | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | English Primer<Revised Edition> | 佐藤 哲三 他 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | |
| | 3 | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | 共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)、e-learning 学習 10%、定期試験 40%、平常点 (小テスト、レポート、授業への取り組み) 20%の割合で評価する。 | | |
| 学生への メッセージ | 今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 e-learning 学習をフルに活用し、また予習・復習を怠らないようにして、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) | | |
| 備考 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learningを含めて、毎日1時間以上学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、レポート等は授業中にフィードバックする。 | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ a | 科目名(英文) | Basic English IIa |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | F |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 松浦 茂寿 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1416c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。 |
| 到達目標 | 今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしよう！ |
| 授業方法と留意点 | 毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！ |
| 科目学習の効果(資格) | 高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEIC テストに有効な単語力 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--------------------------|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーションと前期の復習 | 授業方法、提出物、評価方法についての説明と復習 | 次回の第一回単語テスト範囲、809-825番を勉強する事。 |
| 2 | Unit9 Career 経歴を話そう | 現在完了形 | 教科書 p.49-54、次回の第二回単語テスト範囲、826-850番を勉強する事。 |
| 3 | Unit10 Parties パーティーに行こう！ | 未来表現 | 教科書 p.55-60、次回の第三回単語テスト範囲、851-875番を勉強する事。 |
| 4 | Unit11 Rules and Regulations ルールにもお国柄 | 助動詞 | 教科書 p.61-66、次回の第四回単語テスト範囲、876-900番を勉強する事。 |
| 5 | Unit12 Invention and Discovery 発明、発見にはひらめきが大切 | 受動態 | 教科書 p.67-72、次回の第五回単語テスト範囲、901-925番を勉強する事。 |
| 6 | Unit13 Movie Reviews 映画評論 | 形容詞、副詞 | 教科書 p.73-78、次回の第六回単語テスト範囲、926-950番を勉強する事。 |
| 7 | Unit14 World Records 世界記録もさまざま | 比較級、最上級 | 教科書 p.79-84、次回の第七回単語テスト範囲、951-975番を勉強する事。 |
| 8 | Unit15 Future Dream 将来の夢を語ろう | 不定詞、動名詞 | 教科書 p.85-89、次回の第八回「単語テスト範囲、976-1000番を勉強する事。 |
| 9 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第九回単語テスト範囲、1001-1050番を勉強する事。 |
| 10 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十回単語テスト範囲、1051-1125番を勉強する事。 |
| 11 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十一回単語テスト範囲、1126-1200番を勉強する事。 |
| 12 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十二回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。 |
| 13 | 資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十三回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。 |
| 14 | 資格、検定などの問題またはリスニング演習 | 授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する | 次回の第十四回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。 |
| 15 | 総合復習 | 定期試験対策 | |

| | |
|------|---------|
| 関連科目 | 基礎英語Ⅰ a |
|------|---------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|--|------|
| 1 | English Ace | 山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett | 成美堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集) | 西谷悟志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など 5%)の合計 60%に e-learning 学習進捗度(10%)、共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)を足して総合評価します。TOEIC Bridge および統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す。 |
| 学生へのメッセージ | 「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！ |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | 事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Basic English IIb |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | A |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 木村 ゆみ |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1417c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 英文を「聞いて」「読んで」「考える」ワークブック形式のテキストを通してさらなるリスニング力、読解力、語彙・文法力をつけ、実践英語の基礎固めをする。 TOEIC等で高得点がとれるようなリスニング力、読解力、語彙・文法力、をつけることを目標とする 毎回授業の始めに TOEIC のための単語テストを行う。 |
| 到達目標 | 基礎読解力を身につける 基礎英単語を習得する TOEIC で高得点をとる英語力を身につける |
| 授業方法と留意点 | 教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストは NO 1201～ NO 1500 の範囲を 毎回 30 単語ずつ合計 10 回のテストをする。またテキストの各章が終わるごとに臨時試験を行い、知識の定着をはかる。 ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|---------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1201～NO1230 |
| 2 | Unit 9 英文構造 | 演習と解説 単語テスト 1 | 該当UNITの予習 復習 単語テストの予習 NO1231～NO 1260 |
| 3 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説、発展問題 単語テスト 2 | 課題：授業で指示する |
| 4 | これまでの授業内容の確認 | 臨時試験、復習 | 課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO1261～NO 1290 |
| 5 | Unit 10 英文内容把握 | 演習と解説 単語テスト 3 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1291～NO1320 |
| 6 | Unit 11 英文内容把握 | 演習と解説 単語テスト 4 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1321～NO1350 |
| 7 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説 単語テスト 5 | 課題：授業で指示する |
| 8 | これまでの学習内容の確認 | 臨時試験、復習 | 課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 1351～NO1380 |
| 9 | Unit 12 リスニング対策 | 演習と解説 単語テスト 6 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1381～NO1410 |
| 10 | Unit 13 リスニング対策 | 演習と解説 単語テスト 7 | 該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1411～NO1440 |
| 11 | これまでの授業の復習と、発展的学習 | 演習と解説 単語テスト 8 | 課題：単語テストの予習 NO 1441～NO1470 |
| 12 | これまでの学習内容の確認 | 臨時試験、復習 単語テスト 9 | 課題：単語テストの予習 NO 1471～NO1500 |
| 13 | Unit 14 さらになる語彙力アップ | 単語テスト 10、演習と解説 | 該当UNITの予習、復習 |
| 14 | 総合演習 | 演習と解説 | 該当UNITの予習、復習 |
| 15 | これまでの学習内容の確認 | 臨時試験、復習 | 課題：授業で指示する |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|---------------|-------------|
| | | | |
| 1 | Mystery Break | Atsuko Uemura | セーグージ ラーニング |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集 | | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 30% (TOEIC 20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 20%、小テスト 20%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表)、e-learning 10%の割合で評価する。 |
| 学生へのメッセージ | ・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト付属 CD 使って自宅学習を行いましょ。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょ。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | 事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Basic English IIb |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | B |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 湊 由妃子 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1417c2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 英文読解を中心に進めていく授業である。高校までに学んできたことを復習しながら、より多くの語彙力、文法力、作文力をつけていくことを目的とする。 教科書は現代の日本に関する様々なトピックを扱っているため、英語をとおして現代の日本事情に関心をもってほしい。 |
| 到達目標 | まじめに学習することで基礎読解力や語彙力がつく。また TOEIC 受験に必要な読解力が向上する。 |
| 授業方法と留意点 | 語学の授業であるため、学生主導で進めて行く。訳出、練習問題、音読、すべて学生に指名するので、予習をして積極的に参加してほしい。授業の2回目からの単語テストは平常点評価に加点されるので、毎回準備すること。 また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ |

| | | | | |
|------|----|---|---|----------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Digital Youth : The Connected Generation ネット世代の若者を考察する | 教科書 pp. 55-57 | 当該ユニットの予習 |
| | 2 | Digital Youth : The Connected Generation ネット世代の若者を考察する | 第1回目 単語テスト 教科書 pp. 58-60 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1201-1230 |
| | 3 | Japan's Peaceful Poor 格差の広がる日本社会の現状をさぐる | 第2回目 単語テスト 教科書 pp. 61-63 Unit 8 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1231-1260 |
| | 4 | Japan's Peaceful Poor 格差の広がる日本社会の現状をさぐる | 第3回目 単語テスト 教科書 pp. 64-66 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1261-1290 |
| | 5 | The Idol-Making Machine 日本独自の「アイドルの作られ方 | 第4回目 単語テスト 教科書 pp. 67-69 Unit 9 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1291-1320 |
| | 6 | The Idol-Making Machine 日本独自の「アイドル」の作られ方 | 第5回目 単語テスト 教科書 pp. 70-72 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1321-1350 |
| | 7 | Japanese Hospitality : Second to None 世界に誇る日本の顧客サービス | 第6回目 単語テスト 教科書 pp. 73-75 Unit 10 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1351-1380 |
| | 8 | Japanese Hospitality : Second to None 世界に誇る日本の顧客サービス | 第7回目 単語テスト 教科書 pp. 76-78 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1381-1410 |
| | 9 | Shrinking Cities : Returning the Countryside to Nature 過疎化によって崩壊する地方自治 | 第8回目 単語テスト 教科書 pp. 79-81 Unit 11 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1411-1440 |
| | 10 | Shrinking Cities : Returning the Countryside to Nature 過疎化によって崩壊する地方自治 | 第9回目 単語テスト 教科書 pp. 82-84 | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1441-1470 |
| | 11 | Student Power : The New Youth Movement 18歳選挙権の意義を考える | 第10回目 単語テスト 教科書 pp. 85-87 Unit 13 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1471-1500 |
| | 12 | Student Power : The New Youth Movement 18歳選挙権の意義を考える | 教科書 pp. 88-90 | 当該ユニットの予習 復習 |
| | 13 | Japan in Space : Leaping to New Frontiers 将来への日本の宇宙開発の展望 | 教科書 pp. 91-93 Unit 14 の小テスト | 当該ユニットの予習 復習 |
| | 14 | Japan in Space : Leaping to | 教科書 pp. 94-96 | 当該ユニットの予習 復習 |

| | | | |
|---------------|--|---|---|
| | New Frontiers 将来への日本の宇宙開発の展望 | | |
| 15 | 進捗調整と後期の復習 | Unit 15の小テスト まとめと復習 | 復習 期末テストの準備 |
| 関連科目 | 他の英語関連科目 | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 出版社名 |
| | 1 | Portraits of Japan | Paul Stapleton / Atsuko Uemura Cengage Learning |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 成美堂 |
| | 3 | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 出版社名 |
| | 1 | | |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| 評価方法 (基準) | <p>共通試験 30% (TOEIC20%、統一単語テスト 10%)、e-learning 学習の進捗度 10%、定期試験 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。</p> <p>授業態度とは授業中の質問や指名に対するの回答状況、授業への集中度をさす。</p> <p>原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p> <p>詳しくは第 1 回目の授業で説明する。</p> | | |
| 学生への メッセージ | 授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 2 階(非常勤講師室) | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 ・授業計画は進度によって変わる場合がある。 ・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Basic English IIb |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | C |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 東野 厚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1417c2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 自分自身の意見や考えを、英語で適切かつ的確に発信するための基礎力を身につけることを目的とする。そのために、まず文法事項を確認する。文法事項は、説明と例文を通してポイントを理解した後、練習問題で定着を図る。また英文を読み、その内容に関して理解ができていないか確認する。さらに、毎回小テストと単語テストを行う。 |
| 到達目標 | 基礎読解力、語彙力をつける。 |
| 授業方法と留意点 | 受け身の授業態度ではなく、積極的に取り組む姿勢を評価する。授業では、なるべく全員を指名するので予習し、各 Unit ごとには、文法事項の確認のため小テストを行うので復習をしておく必要がある。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 英検・TOEIC テストのスコアアップなど |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|----------------------------------|--------------------------------|
| | | | |
| 2 | UNIT 13 「～するために」と「～して」を表す形 to 不定詞の副詞的用法 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1201-1220) テキストの予習、復習 |
| 3 | UNIT 14 「～するための」と「～する という」を表す形 to 不定詞の形容詞的用法 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1217-1257) テキストの予習、復習 |
| 4 | UNIT 15 「～される」を表す形 受動態 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1258-1297) テキストの予習、復習 |
| 5 | UNIT 16 「～している」を表す形 現在分詞の形容詞的用法 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1298-1338) テキストの予習、復習 |
| 6 | UNIT 17 「～された」を表す形 過去分詞の形容詞的用法 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1339-1378) テキストの予習、復習 |
| 7 | UNIT 18 2つの文を1つにする方法 (1) 関係代名詞の主格と目的格 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1379-1419) テキストの予習、復習 |
| 8 | まとめ (1) Unit13-Unit18 復習 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1420-1440) テキストの復習 |
| 9 | UNIT 19 2つの文を1つにする方法 (2) 関係代名詞の所有格と関係代名詞 what | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1441-1460) テキストの予習、復習 |
| 10 | UNIT 20 2つのものをつないでみよう 接続詞 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1461-1480) テキストの予習、復習 |
| 11 | UNIT 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法 疑問詞疑問文と間接疑問文 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1481-1500) テキストの予習、復習 |
| 12 | UNIT 22 「現実離れたこと」を表す形 仮定法 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (1460-1500) テキストの予習、復習 |
| 13 | UNIT 23 「2つのもの」を比べる表現 原級と比較級 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (指示された箇所) テキストの予習、復習 |
| 14 | UNIT 24 「順位」を表す表現 最上級 | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (指示された箇所) テキストの予習、復習 |
| 15 | まとめ (2) 全体のまとめ | 単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題 | 単語学習 (指示された箇所) テキストの復習 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | すべての英語科目 |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|---|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | A Primer of Communication in English | 小山政史他 | 松柏社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 共通試験 30% (TOEIC Bridge 20%, 統一英語単語テスト 10%), e-learning 10%, 定期試験 40%, 小テスト 10%, 授業態度 (授業中の質問に関する回答状況、授業への積極性、集中度など) 10% の割合で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 基本的な文法を理解し、確実に英語力をつけることを目指します。そのためにも e-Learning 教材「リンガポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC 試験に挑戦しましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 2階 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | 自主学習には、丁寧に準備し、復習するために 1 時間以上はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等の提出物は授業中にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Basic English IIb |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | D |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 平尾 秀実 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1417c2 | | |

教養科目

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業は、基礎的な文法力・語彙力・読解力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。 |
| 到達目標 | 辞書を多用することなしに英文を理解する。 基礎読解力の向上 |
| 授業方法と留意点 | 教科書にそって、リスニング、会話ペアワーク、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト (授業内容の確認) と単語テスト (指定範囲) を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法・注意点についての説明 | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 2 | Unit 7 比較 | 単語テスト：1201-1225 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 3 | Unit 7 比較 | 単語テスト：1226-1250 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 4 | Unit 8 現在完了 | 単語テスト：1251-1275 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 5 | Unit 8 現在完了 | 単語テスト：1276-1300 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 6 | Unit 9 過去完了 | 単語テスト：1301-1325 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 7 | Unit 9 過去完了 | 単語テスト：1326-1350 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備 |
| 8 | これまでのまとめ、課題テスト | 単語テスト：1351-1375 前半内容の総復習および中間テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 9 | Unit 10 不定詞 (1) | 単語テスト：1376-1400 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 10 | Unit 10 不定詞 (1) | 単語テスト：1401-1425 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 11 | Unit 11 不定詞 (2) | 単語テスト：1426-1450 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 12 | Unit 11 不定詞 (2) | 単語テスト：1451-1475 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 13 | Unit 12 分詞 | 単語テスト：1476-1500 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 14 | Unit 12 分詞 | 単語テスト：1201-1350 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備 |
| 15 | Unit 13 動名詞 | 単語テスト：1351-1500 後期の総復習 | 定期試験の準備 |

| | |
|------|---------|
| 関連科目 | 基礎英語 1b |
|------|---------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|------------------------|---------------|------|
| | 1 | Polish Up Your English | Bill Benfield | 成美堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 30%、小テスト 10%、e-learning10%、課題テスト 10%、レポート 10% |
| 学生へのメッセージ | ・じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力を UP させましょう。 |
| 担当者の | 7号館 2階 (非常勤講師室) |

| | |
|------|---|
| 研究室等 | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。 ・ 授業を妨げる行為（私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等）は減点の対象とする。 ・ 事前・事後、毎回、1時間以上予習・復習すること 課題テストで間違った所は復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ・ 小テスト、課題テスト、レポート等は授業中にフィードバックする。 |



| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Basic English IIb |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | E |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 井寺 利奈 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1417c2 | | |

教養科目

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | イギリス文化についての簡単なエッセイを読み、基本的な語彙や文法の確認を行う。 高校までに学習したことを復習しながら、いま一度、英文を正確に読む訓練を積むことで、読解力の基礎を築くことを目的とする。 |
| 到達目標 | 英語の基礎読解力を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 授業の最初に単語テスト (指定範囲) を行う。 教科書に従って、リーディング、文法、リスニングの能力を磨くタスクを行い、各ユニットの最後に小テストを実施する。 和訳、演習問題、音読などはすべて学生に指名し、全員参加型の授業を目指す。 ※授業には必ず辞書を持参すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 各種英語検定試験に必要な基礎力を身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|--|
| | | | |
| 1 | Unit 8 A Quiet Life 静かなホテル vs. 宿泊客の希望 | 単語テスト: 1201-1220 adjectives/ adverbs (形容詞/ 副詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 2 | Unit 8 A Quiet Life 静かなホテル vs. 宿泊客の希望 | 単語テスト: 1221-1240 adjectives/ adverbs (形容詞/ 副詞) Unit 8 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 3 | Unit 9 My Company 少し高いが高品質の食器類 | 単語テスト: 1241-1260 comparisons (比較) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 4 | Unit 9 My Company 少し高いが高品質の食器類 | 単語テスト: 1261-1280 comparisons (比較) Unit 9 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 5 | Unit 10 Advertising 宣伝費を削減して製品開発 | 単語テスト: 1281-1300 infinitives/ gerunds (不定詞/ 動名詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 6 | Unit 10 Advertising 宣伝費を削減して製品開発 | 単語テスト: 1301-1320 infinitives/ gerunds (不定詞/ 動名詞) Unit 10 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 7 | Unit 11 Business Trips 混雑しない地方空港 | 単語テスト: 1321-1340 prepositions/ conjunctions (前置詞/ 接続詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 8 | Unit 11 Business Trips 混雑しない地方空港 | 単語テスト: 1341-1360 prepositions/ conjunctions (前置詞/ 接続詞) Unit 11 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 9 | Unit 12 Get It Cleaned 商談もホテルもダメな一日 | 単語テスト: 1361-1380 causative verbs/ perceptive verbs (使役動詞/ 知覚動詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 10 | Unit 12 Get It Cleaned 商談もホテルもダメな一日 | 単語テスト: 1381-1400 causative verbs/ perceptive verbs (使役動詞/ 知覚動詞) Unit 12 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 11 | Unit 13 A Storm 甚大な被害を与える冬の嵐 | 単語テスト: 1401-1420 passive voice (受動態) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 12 | Unit 13 A Storm 甚大な被害を与える冬の嵐 | 単語テスト: 1421-1440 passive voice (受動態) Unit 13 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 13 | Unit 14 The Media 良くも悪くもメディアの功罪 | 単語テスト: 1441-1460 relatives (関係詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 14 | Unit 14 The Media 良くも悪くもメディアの功罪 | 単語テスト: 1461-1480 relatives (関係詞) Unit 14 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 15 | Unit 15 Sightseeing イギリスのおすすめ観光スポット | 単語テスト: 1481-1500 subjunctives (仮定法) Unit 15 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |

関連科目 基礎英語 2b

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---------------------------------|--------------------|------|
| | 1 | English Indicator 1 (Essential) | Terry O'Brien etc. | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------------------|---|
| <p>評価方法 (基準)</p> | <p>共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%) 定期試験 30% 小テストと授業態度 30% e-learning10% ※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席をする、教科書を持参しないなど) は教室に来ていても「欠席」扱いとします。また、原則として出席率 80% の学生のみを成績評価の対象とします。</p> |
| <p>学生への メッセージ</p> | <p>この授業では難しい教材は使わず、着実に英語の基礎力を身につけることができるよう、じっくりと進めていきます。積極的かつ集中して授業に臨んでください。</p> |
| <p>担当者の 研究室等</p> | <p>7号館 2階 (非常勤講師室)</p> |
| <p>備考</p> | <p>授業の前後に合計 2 時間程度、予習と復習、単語学習 (e-learning) を行うよう心がけてください。 ※授業計画は進度によって変わる場合があります。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等は授業中にフィードバックする。</p> |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------|
| 科目名 | 基礎英語Ⅱ b | 科目名 (英文) | Basic English IIb |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | F |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 小磯 かをる |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN1417c2 | | |

教養科目

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業は、基礎的な文法力・語彙力・読解力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。 |
| 到達目標 | 辞書を多用することなしに英文を理解する。 基礎読解力の向上 |
| 授業方法と留意点 | 教科書にそって、リスニング、会話ペアワーク、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト（授業内容の確認）と単語テスト（指定範囲）を行う。 |
| 科目学習の効果（資格） | TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・評価方法・注意点についての説明 | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 2 | Unit 9 Aiming for a Perceft Squeeze の内容理解 | 単語テスト：1201-1220 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 3 | Unit 9 Aiming for a Perceft Squeeze の内容理解 | 単語テスト：1221-1240 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 4 | Unit 10 Identifying Fake Drugs の内容理解 | 単語テスト：1241-1260 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 5 | Unit 11 Sensory Judgement is Important の内容理解 | 単語テスト：1261-1280 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 6 | Unit 11 Sensory Judgement is Important の内容理解 | 単語テスト：1281-1300 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 7 | Unit 12 Dangerous Debris in Space の内容理解 | 単語テスト：1301-1330 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備 |
| 8 | これまでのまとめ、中間テスト | 単語テスト：1330-1360 前半内容の総復習および中間テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 9 | Unit 13 A safer Mission to Mars の内容理解 | 単語テスト：1361-1390 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 10 | Unit 13 A safer Mission to Mars の内容理解 | 単語テスト：1391-1410 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 11 | Unit 14 Birds Know How to Glide の内容理解 | 単語テスト：1411-1440 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 12 | Unit 14 Birds Know How to Glide の内容理解 | 単語テスト：1471-1470 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 13 | Unit 15 Better Biofuels from Corn の内容理解 | 単語テスト：1470-1500 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる |
| 14 | Unit 15 Better Biofuels from Corn の内容理解 | 単語テスト：1201-1300 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト | 次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備 |
| 15 | 後期のまとめ | 単語テスト：1300-1500 後期の総復習 | 定期試験の準備 |

| | |
|------|---------|
| 関連科目 | 基礎英語 1b |
|------|---------|

| | | | | |
|-----|----|----------------|------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Inside Science | Yoshinobu Nozaki | 金星堂 |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法（基準） | 共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度（投げかける質問に対する発言、反応状態、積極性、発表など）10%、e-learning10%の割合で評価する。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 学生へのメッセージ | ・じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力をUPさせましょう。 |
|-----------|---------------------------------------|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・5回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。 ・授業を妨げる行為（私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等）は減点の対象とする。 ・事前・事後、毎回、1時間以上予習・復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|--|---------|--------------------------------------|
| 科目名 | 北河内を知る | 科目名(英文) | Introduction to Kita-kawachi Studies |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 萩田 喜代一・尾山 廣・喜多 大三・久保 貞也・鶴坂 貴恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DPS△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01436a2, L科: LL01417a2, D科・S科: IL01423a2, P科: YL01418a2, J科: JL01434a2, W科: WL01419a2, N科: NL01415a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。</p> <p>この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。授業担当者として、北河内7市および和歌山県すさみ町の「行政実務者」が担当する。</p> |
| 到達目標 | 北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。 |
| 授業方法と留意点 | 北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること |
| 科目学習の効果(資格) | ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク 9月28日(土)2限 | 授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ | 事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 2 | 北河内地域に関する講演 10月5日(土)1限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 3 | 北河内地域に関する講演 10月5日(土)2限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 4 | グループワーク・プレゼンテーション 10月5日(土)3限 | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 5 | 北河内地域に関する講演 10月19日(土)1限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見する | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 6 | 北河内地域に関する講演 10月19日(土)2限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 7 | グループワーク・プレゼンテーション 10月19日(土)3限 | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 8 | 北河内地域に関する講演 11月2日(土)1限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 9 | 北河内地域に関する講演 11月2日(土)2限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 10 | グループワーク・プレゼンテーション 11月2日(土)3限 | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 11 | 北河内地域に関する講演 11月16日(土)1限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 12 | 北河内地域に関する講演 11月16日(土)2限 | 北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。 | 事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間) |
| 13 | グループワーク・プレゼンテーション 11月16日(土)3限 | 北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分) |
| 14 | 最終発表会 12月7日(土)1限 | アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間) |
| 15 | 最終発表会 12月7日(土)2限 | アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う | 事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間) |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 関連科目 | ソーシャルイノベーション副専攻科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？ | | | |
| 担当者の 研究室等 | 荻田喜代一(薬学部・副学長室)、鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科)、尾山廣(理工学部・生命科学科)、久保貞也(経営学部・経営情報学科)、喜多大三 | | | |
| 備考 | 学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。 | | | |

| | | | |
|---------------|---|----------|--------------------------|
| 科目名 | キャリアデザイン I (BASIC) | 科目名 (英文) | Career Planning I(Basic) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2 | | |

| | |
|---------|--|
| 授業概要・目的 | <p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。ようになることが期待される。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NP0 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> |
|---------|--|

| | |
|------|--|
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。 |
|------|--|

| | |
|----------|---|
| 授業方法と留意点 | 講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。 |
|----------|---|

| | |
|--------------|---|
| 科目学習の効果 (資格) | <p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p> |
|--------------|---|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|---|---|
| 1 | ようこそ、摂南大学へ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(3時間) |
| 2 | さあ始めよう! 大学生活を | <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間) |
| 3 | 摂南大学 | <ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること(2時間) |
| 4 | 自己効力感を高めよう | <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 大学生活の目標を再度考えること(2時間) |
| 5 | グループ課題の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間) |
| 6 | 社会は君を待っている | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間) |
| 7 | 社会の仕組み① | <ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間) |
| 8 | 社会の仕組み② | <ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間) |
| 9 | 自分づくり① | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間) |
| 10 | 自分づくり② | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 大学へ入学した目的を再考えること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間) |
| 11 | スケジューリング術 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間) |
| 12 | ビブリオバトル① | <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間) |
| 13 | グループ課題の発表会 | グループ課題の発表会 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間) |
| 14 | グループ課題の発表会 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとのプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間) |

| | 15 | 夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい | <ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|-----------------------------|--|--|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 教育イノベーションセンター（石井） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---|----------|--------------------------|
| 科目名 | キャリアデザイン I (BASIC) | 科目名 (英文) | Career Planning I(Basic) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山岡 亮太 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成すること。が期待される。 |
| 到達目標 | 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ようこそ、摂南大学へ | ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える | ・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間) |
| 2 | さあ始めよう! 大学生活を | ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける | ・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間) |
| 3 | 摂南大学 | ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く | ・事前学修: 摂大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解すること HPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間) |
| 4 | 自己効力感を高めよう | ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション | ・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間) |
| 5 | グループ課題の設定 | ・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える | ・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間) |
| 6 | 社会は君を待っている | ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える | ・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間) |
| 7 | 社会の仕組み① | ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える | ・事前学修: GDPについて調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間) |
| 8 | 社会の仕組み② | ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション | ・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間) |
| 9 | 自分づくり① | ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク | ・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間) |
| 10 | 自分づくり② | ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 | ・事前学修: 大学へ入学した目的をを考えると(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間) |
| 11 | スケジューリング術 | ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる | ・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間) |
| 12 | ビブリオバトル① | ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する | ・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間) |
| 13 | グループ課題の発表会 | グループ課題の発表会 | ・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間) |
| 14 | グループ課題の発表会 | ・グループごとのプレゼンテーション | ・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間) |
| 15 | 夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい | ・学びのプランニング ・講義の振り返り | ・事前学修: キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修: 夏休み以降の大学生活の目標を考える |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|---------|
| | | | | こと(3時間) |
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) | | | |
| 備考 | 1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。 | | | |

| | | | |
|---------------|---|----------|--------------------------|
| 科目名 | キャリアデザイン I (BASIC) | 科目名 (英文) | Career Planning I(Basic) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 中川 浩一 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。 |
| 到達目標 | 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので、積極的な態度で受講すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ようこそ、摂南大学へ | ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える | ・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修：キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間) |
| 2 | さあ始めよう！大学生活を | ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける | ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修：各受講科目のノートを整理すること(3時間) |
| 3 | 摂南大学 | ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く | ・事前学修：摂大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解することHPの(2時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間) |
| 4 | 自己効力感を高めよう | ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション | ・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること(2時間) |
| 5 | グループ課題の設定 | ・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える | ・事前学修：グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと(3時間) |
| 6 | 社会は君を待っている | ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える | ・事前学修：社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修：社会で求められる能力について考えること(3時間) |
| 7 | 社会の仕組み① | ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える | ・事前学修：GDPについて調べること(1時間) ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間) |
| 8 | 社会の仕組み② | ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション | ・事前学修：税金について調べること(1時間) ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間) |
| 9 | 自分づくり① | ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク | ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間) |
| 10 | 自分づくり② | ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 | ・事前学修：大学へ入学した目的をを考えると(2時間) ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること(2時間) |
| 11 | スケジューリング術 | ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる | ・事前学修：社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間) |
| 12 | ビブリオバトル① | ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する | ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間) |
| 13 | グループ課題の発表会 | グループ課題の発表会 | ・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間) |
| 14 | グループ課題の発表会 | ・グループごとのプレゼンテーション | ・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること(3時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間) |
| 15 | 夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい | ・学びのプランニング ・講義の振り返り | ・事前学修：キャリアデザインを振り返ること(1時間) ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考える |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|---------|
| | | | | こと(3時間) |
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) | | | |
| 備考 | 1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。 | | | |

| | | | |
|---------------|---|---------|--------------------------|
| 科目名 | キャリアデザイン I (BASIC) | 科目名(英文) | Career Planning I(Basic) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 上野山 裕士 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。 |
| 到達目標 | 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | ようこそ、摂南大学へ | ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える | ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5時間) |
| 2 | さあ始めよう! 大学生活を | ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける | ・大学で学ぶ意味について考えること(0.5時間) |
| 3 | 摂南大学 | ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く | ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5時間) |
| 4 | 自己効力感を高めよう | ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション | ・設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) |
| 5 | グループ課題の設定 | ・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える | ・グループで課題に取り組むこと(3時間) |
| 6 | 社会は君を待っている | ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える | ・社会で求められる人材について考えること(0.5時間) |
| 7 | 社会の仕組み① | ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える | ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5時間) |
| 8 | 社会の仕組み② | ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション | ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5時間) |
| 9 | 自分づくり① | ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク | ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1時間) |
| 10 | 自分づくり② | ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 | ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5時間) |
| 11 | スケジューリング術 | ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる | ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5時間) |
| 12 | ビブリオバトル | ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する | ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1時間) |
| 13 | グループ課題の発表会 | グループ課題の発表会 | ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(2時間) |
| 14 | グループ課題の発表会 | ・グループごとのプレゼンテーション | ・プレゼンテーションの準備をすること(2時間) |
| 15 | 夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい | ・学びのプランニング ・講義の振り返り | ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1時間) |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ |
|------|--|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | グループワーク (20%)、ミニレポート (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) | | | |
| 備考 | 1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。 | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|-------------------------------|
| 科目名 | キャリアデザインⅡ (ADVANCE) | 科目名 (英文) | Career Planning II (Advanced) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 上野山 裕士 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 |
| 到達目標 | 将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 |
| 授業方法と留意点 | 講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法 | ・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活1年目で経験したことを思い出しておくこと (3時間) |
| 2 | 社会を知る① | ・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ | ・配布したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること (3時間) |
| 3 | 社会を知る② | ・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション | ・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること (5時間) |
| 4 | 社会を知る③ | ・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解 | ・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと (5時間) |
| 5 | 社会を知る④ | ・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える | ・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること (4時間) |
| 6 | 就活体験① | ・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ | ・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること (3時間) |
| 7 | 就活体験② | ・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える | ・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと (3時間) |
| 8 | 社会を知る⑤ | ・グループプレゼンテーション | ・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間) |
| 9 | 社会を知る⑥ | ・グループプレゼンテーション | ・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間) |
| 10 | 自分を高める① | ・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する | ・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること (3時間) |
| 11 | 自分を高める② | ・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ | ・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること (7時間) |
| 12 | 社会を知る⑦ | ・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。 | ・配布資料を見直すこと ・自らの将来について考えること (3時間) |
| 13 | 自分を高める③ | ・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション | ・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (4時間) |
| 14 | 社会を知る⑧ | ・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える | ・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること (4時間) |
| 15 | 授業のおさらい | ・講義のおさらい | ・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (3時間) |

| | |
|------|-------------------------|
| 関連科目 | キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ |
|------|-------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) |
|----------|---------------------------|

| | |
|----|----------------------------|
| 備考 | 毎回のミニレポートが採点をした後最終講義で返却する。 |
|----|----------------------------|

| | | | |
|----------------|---|----------|-------------------------------|
| 科目名 | キャリアデザインⅡ (ADVANCE) | 科目名 (英文) | Career Planning II (Advanced) |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 橋本 朗子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 |
| 到達目標 | 将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 |
| 授業方法と留意点 | 講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法 | ・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活1年目で経験したことを思い出しておくこと (3時間) |
| 2 | 社会を知る① | ・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ | ・配布したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること (3時間) |
| 3 | 社会を知る② | ・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション | ・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること (5時間) |
| 4 | 社会を知る③ | ・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解 | ・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと (5時間) |
| 5 | 社会を知る④ | ・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える | ・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べること (4時間) |
| 6 | 就活体験① | ・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ | ・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること (3時間) |
| 7 | 就活体験② | ・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える | ・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと (3時間) |
| 8 | 社会を知る⑤ | ・グループプレゼンテーション | ・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間) |
| 9 | 社会を知る⑥ | ・グループプレゼンテーション | ・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5時間) |
| 10 | 自分を高める① | ・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する | ・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること (3時間) |
| 11 | 自分を高める② | ・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ | ・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること (7時間) |
| 12 | 社会を知る⑦ | ・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。 | ・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考えること (3時間) |
| 13 | 自分を高める③ | ・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション | ・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (4時間) |
| 14 | 社会を知る⑧ | ・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える | ・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること (4時間) |
| 15 | 授業のおさらい | ・講義のおさらい | ・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (3時間) |

関連科目: キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法 (基準): グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 来るべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の研究室等: 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)

備考: 毎回のミニレポートが採点をした後最終講義で返却する。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 近代文学から学ぶ | 科目名(英文) | Modern Literature |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 細川 知佐子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1402a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この講義では、明治以降現代までの新聞小説を、朝日新聞を中心に読んでいきます。作品の面白さとともに、時代順に読むことで、近現代史の中で新聞小説が持つ役割も考えましょう。 |
| 到達目標 | 社会性、時事性など新聞小説の特色を理解すること。文学の枠内だけでなく、複数の視点で大きく作品を捉えるようになることが目標です。 |
| 授業方法と留意点 | 配布資料による講義形式。不定期に復習テストを行います。 また、授業で紹介した新聞小説を最低1冊読み、定期試験で感想文を書いてもらいます。 |
| 科目学習の効果(資格) | 日本近代文学の教養を身につけることができます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|--|------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 新聞小説とは何か | 本講義に臨むための基本姿勢と注意点について説明 新聞小説の始まりと歴史 | 特になし |
| 2 | 明治時代の新聞小説1 | 黎明期(明治30年まで)の新聞小説 尾崎紅葉『金色夜叉』を中心に | 配布資料と作品を読む |
| 3 | 明治時代の新聞小説2 | 明治31年以降の新聞小説 夏目漱石『虞美人草』を中心に | 配布資料と作品を読む |
| 4 | 明治時代の新聞小説3 | 夏目漱石『坑夫』 | 配布資料と作品を読む |
| 5 | 大正時代の新聞小説1 | 中勘助『銀の匙』 芥川龍之介『地獄変』 | 配布資料と作品を読む |
| 6 | 大正時代の新聞小説2 | 菊池寛『真珠夫人』 谷崎潤一郎『痴人の愛』 | 配布資料で作品を読む |
| 7 | 大正時代の新聞小説3 | 江戸川乱歩『一寸法師』を中心に | 配布資料と作品を読む |
| 8 | 昭和初期の新聞小説 | 川端康成『浅草紅団』 | 配布資料と作品を読む |
| 9 | 戦前・戦中の新聞小説 | 戦前・戦中の新聞小説の特色 火野葦平『花と兵隊』を中心に | 配布資料と作品を読む |
| 10 | 戦後の新聞小説1 | 戦後の新聞小説の特色 石坂洋次郎『青い山脈』 太宰治『グッド・バイ』 | 配布資料と作品を読む |
| 11 | 戦後の新聞小説2 | 三島由紀夫『つばはん製』 | 配布資料と作品を読む |
| 12 | 現代の新聞小説1 | 松本清張『砂の器』 | 配布資料と作品を読む |
| 13 | 現代の新聞小説2 | 有吉佐和子『複合汚染』 | 配布資料と作品を読む |
| 14 | 現代の新聞小説3 | 宮部みゆき『理由』 | 配布資料と作品を読む |
| 15 | 現代の新聞小説4 本講義のまとめ | 東野圭吾『手紙』 奥田英朗『沈黙の町で』など 近年の作品 講義で取り上げた新聞小説を振り返り、 時代との関わりを考えます | 配布資料と作品を読む |

| | |
|------|-------|
| 関連科目 | 日本語読解 |
|------|-------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 不定期の復習テスト、および授業態度(授業への集中度・質問への回答など)10% 定期試験(感想文を含む)90% |
| 学生へのメッセージ | 新聞小説というジャンルを意識し、社会と文学との関わりを考えてみよう。文学が時代を反映していることや社会に与える影響を、新聞小説を通して理解することが重要である。また、授業で興味を持った作品を積極的に読み、読書の楽しさを知ってもらいたい。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | 予習復習は、新聞小説としての特徴を考えながら、配布資料を約1時間程度通読する。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------|
| 科目名 | 健康論 | 科目名(英文) | Theory of Health |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 堀 美幸 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TPH2410a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 現代社会において、生活の質(QOL)を高めるためには、健康であることがまず重要になる。健康であるためには自分の身体を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識が必要となる。本授業では、身体のしくみを理解し、健康増進のための知識とそれを実践するための基礎知識を修得することを目的とする。 |
| 到達目標 | 健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。 身体のしくみについては、解剖学的、生理学的、心理学的基礎知識を習得すること、また、健康維持・増進のための栄養学的理解と運動実践の方法を理解し実践できるようになることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式で授業を進める。 参考資料は適宜配布する。 |
| 科目学習の効果(資格) | この講義を受講することにより、健康な身体づくりのための方法と知識を身に付けることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------|--|----------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | ・授業の進め方について説明を行う。 ・健康についての基礎的な理解をすることができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 2 | 社会と健康 | ・現代日本における健康問題と国の施策について知ることができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 3 | 生活習慣病と3大疾病 | ・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について正しく理解ができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 4 | こころの健康 | ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解することができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 5 | 身体のしくみ | ・筋・骨格について理解ができる。 ・体組成について知ることができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 6 | 身体のしくみ | ・脳・内臓・神経の働きについて理解ができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 7 | 身体のしくみ | ・ホルモンバランス、睡眠、アレルギーについて理解ができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 8 | 食事と栄養 | ・5大栄養素と食事の選び方について理解、実践ができる。 ・カロリーバランスについて知ることができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 9 | 食事と現代社会 | ・食品添加物、サプリメントについて知ることができる。 ・食物アレルギーとアナフラキシーショックの対応について学ぶことができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 10 | 嗜好品と薬物 | ・喫煙、飲酒、カフェインの功罪について理解ができる。 ・薬物について学ぶことができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 11 | 健康と運動 | ・全身持久力を高めるための運動処方と実践の方法を理解できる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 12 | 健康と運動 | ・筋持久力と筋力向上のための運動処方と実践の方法を理解できる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 13 | 健康と運動 | ・レクリエーションスポーツや生涯スポーツについての理解を深めることができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 14 | 緊急時の応急手当て | ・外傷やスポーツ傷害、熱中症などの初期対応ができる。 | ・授業ノートで復習すること。 |
| 15 | まとめ | ・授業の内容に関して総括する。 | ・授業ノートで復習すること。 |

関連科目: スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ, 生涯スポーツ実習

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

評価方法(基準): 期末試験(40%)、小テスト(30%)、課題・提出物(30%)により評価を行う。
小テストの回答および結果は、次の回の授業でフィードバックを行う。
100点中60点で合格とする。

学生へのメッセージ:
 担当者の研究室等: 総合体育館1階 体育館事務室
 備考: 事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とします。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------|
| 科目名 | 健康論 | 科目名(英文) | Theory of Health |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 中尾 千晶 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TPH2410a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 健康について理解し、自身の健康管理に役立てる 自身の健康づくりについて立案する事ができる |
| 到達目標 | 健康の成り立ち、考え方が理解できる 健康に関わる要因について理解できる |
| 授業方法と留意点 | 講義形式で授業を進める 参考資料は適宜配布する |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|----------------------------|-----------|
| | | | |
| 2 | 健康とは | 健康に関する考え方、成り立ちを理解する | 配布資料の復習 |
| 3 | 応急手当 | けがや病気に対する手当を理解する | 配布資料の復習 |
| 4 | 体の構造と機能 | 体のしくみと働きについて理解する | 配布資料の復習 |
| 5 | 生活習慣病 | 生活行動、生活習慣と健康について理解する | 配布資料の復習 |
| 6 | 運動と健康 | 運動が健康に及ぼす影響について理解する | 配布資料の復習 |
| 7 | 食事と健康 | 食事が健康に及ぼす影響について理解する | 配布資料の復習 |
| 8 | 休養と健康 | 休養が健康に及ぼす影響について理解する | 配布資料の復習 |
| 9 | ストレスマネジメント | ストレスの対処法について理解する | 配布資料の復習 |
| 10 | 飲酒、喫煙、薬物乱用 | 飲酒、喫煙、薬物が健康に及ぼす影響について理解する | 配布資料の復習 |
| 11 | ライフスタイルの変化と健康 | ライフスタイルの変化に伴う健康課題について理解する | 配布資料の復習 |
| 12 | はたらく人の健康 | はたらく人の健康課題について理解する | 配布資料の復習 |
| 13 | 健康づくりのためのエクササイズ | 健康づくりのためのエクササイズについて理解、実践する | 配布資料の復習 |
| 14 | ヘルスマネジメント | 自身の健康づくりを計画する | 配布資料の復習 |
| 15 | まとめ | 健康論総括、補足 | 配布資料の復習 |

| | |
|------|-------------------------|
| 関連科目 | スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 |
|------|-------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 配布資料の記入及び提出 30%、授業態度(発言、積極性、呼応状態) 30%、レポート 40%で総合的に評価する |
| 学生へのメッセージ | |
| 担当者の研究室等 | 総合体育館1階 体育館事務室 |
| 備考 | 質問等ある場合は体育館事務室へ来てください |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------|
| 科目名 | 現代韓国事情 | 科目名(英文) | Contemporary Korean Society |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 田中 悟 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。 |
| 到達目標 | この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。 |
| 科目学習の効果(資格) | 韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------------|----------------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 | テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと |
| 2 | 近現代韓国の基礎知識(1) | 韓国近現代史概説: 1945年以前と以後 | [事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 3 | 近現代韓国の基礎知識(2) | 韓国近現代史概説: 軍事政権の時代と民主化後の時代 | [事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 4 | 映画作品に見る「韓国現代史」(前編) | 関連する映画作品の鑑賞と解説 | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 5 | 映画作品に見る「韓国現代史」(後編) | 関連する映画作品の鑑賞と解説 | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 6 | 近現代韓国社会への理解(1) | 解放・建国に始まる韓国現代史概説 | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 7 | 近現代韓国社会への理解(2) | 解放・建国に始まる韓国現代史概説 | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 8 | 映画作品に見る「韓国現代史」における政治と人々(前編) | 関連する映画作品の鑑賞と解説 | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 9 | 映画作品に見る「韓国現代史」における政治と人々(後編) | 関連する映画作品の鑑賞と解説 | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 10 | 近現代韓国社会への理解(3) | 民主化と、民主化以後の現代韓国 | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 11 | 近現代韓国社会への理解(4) | 民主化と、民主化以後の現代韓国 | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 12 | 映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編) | 関連する映画作品の鑑賞と解説 | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 13 | 映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編) | 関連する映画作品の鑑賞と解説 | [事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 14 | 現代韓国に向き合う(1) | 韓国現代史と現代韓国社会 | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |
| 15 | 現代韓国に向き合う(2) | 韓国現代史と現代韓国社会 | [事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分) |

| | | | | |
|---------------|---|-------|-----|------|
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 韓国現代史 | 木村幹 | 中公新書 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 韓国語の能力は不要です。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階 田中研究室 | | | |
| 備考 | 授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------|
| 科目名 | 現代と地理学 | 科目名(英文) | Geography in Modern Age |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 笠原 俊則 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02426a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 『環境』ということばはいろいろの分野でよく使われているが、地理学では最も重要な術語の一つである。そして近年人間活動にともなってこの環境に著しい変化が生じている。本講義では、最近の地理的環境問題の例をいくつか取り上げて説明し、受講生諸君が現代社会について考える一助にしてもらいたいと考えている。 |
| 到達目標 | 最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講した事が諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中に適宜プリントを配布する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|---|--|
| | | | |
| 2 | 地理学と環境 | ・人類による環境への働きかけの歴史(過去から現在まで) | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 3 | 生活の舞台としての地形－その1－ | ・扇状地の地形と土地利用 ・氾濫原における生活と土地利用 | 配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 4 | 生活の舞台としての地形－その2－ | ・台地・河岸段丘の発達と土地利用 | 配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 5 | ため池の多面的機能 | ・ため池の持つ多面的な機能とその活用 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 6 | ダム建設とそれともなう環境の変化 | ・ダム堆砂およびそれともなう環境の変化 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 7 | 離島における地下ダムの建設 | ・宮古島における地下ダムの建設 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 8 | 都市化ともなう水文環境の変化 | ・都市化ともなう流出および水質の変化 ・都市化地域における水害と下水道整備 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 9 | 都市気候について | ・都市気候とは? ・都市気候の具体例 | 配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 10 | 広域中心都市仙台の発展 | ・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響 | 配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 11 | すみわけられた都市社会空間 | ・エスニックマイノリティー社会 ・インナーシティ問題 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 12 | ニュータウンの高齢化 | ・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 13 | 日本の産業立地 | ・工業地域構造の形成と変貌 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 14 | 都市商業の盛衰と多様化 | ・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |
| 15 | 伝統工業の現状と課題 | ・伝統工業の育成および発展。京都市を例として。 | 指定テキストに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。 |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | 「環境関連科目」等 |
|------|-----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------|-------|------|
| | 1 | 人間活動と環境変化 | 吉越昭久編 | 古今書院 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 定期試験を実施する。さらに前期中頃に小テストも実施する。評価の割合は、定期試験60%、小テスト20%、授業参加点20%である。授業参加点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べ、授業参加チェックシートの記入などによって授業参加状況をチェックして判断する。したがって、単なる出席点は付けないので、真剣に授業に取り組んで欲しい。 |
| 学生へのメッセージ | 地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
| 備考 | 授業前の用語の下調べが課された場合、可能な限り文献や辞典類を読み、1時間以上の十分な時間を掛けた丁寧な報告を作成してくれることを期待している。なお、レポートを提出する際には出典も必ず明記すること。「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------|
| 科目名 | 現代ビジネス論 | 科目名(英文) | Modern Business |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 牧 美喜男 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本の経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー実例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。 |
| 到達目標 | 本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 可能な限り双方向(interactive)の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | 現在のビジネス環境及びリーダーの重要性 | オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。 | 日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。 |
| 2 | マネージャーとマネジメント | 人材を管理するとは何かを学ぶ。 | マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。 |
| 3 | 個人行動の原点 | 人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。 | 組織行動論の目的は何かを考えてみる。 |
| 4 | リーダーシップと信頼 | 各種リーダー論を紹介する。 | 自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。 |
| 5 | 変革型リーダーがなぜ求められるか | マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出) | なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。 |
| 6 | 国際人的資源管理とは何か | 各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。 | 海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。 |
| 7 | 日本企業国際化の軌跡 | オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。 | トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。 |
| 8 | コミュニケーションと情報 | 高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。 | 日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか? |
| 9 | 日本人の特性と日本的経営の本質 | 歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。 | 有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。 |
| 10 | 自身を考える | 日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案(6~10回までのレポート提出) | あなたは偉くなり社会に貢献したいですか? 自身の能力をどう評価していますか? |
| 11 | 自分はどのようなビジネスリーダーになるか 事例1. 平生飢三郎 | 日本の経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。人生3分論(成長・働く・奉仕(奉公)を実践) | 以下2回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。2人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。 |
| 12 | 事例2 パナソニック創業者 松下幸之助 | 経営の神様が追求し実践した指導者の条件。 | 第11回参照 |
| 13 | 地方創生 | 「やりたい仕事がない」[若者が地方に魅力を持たなくなっている]地方の現状を如何に解決するか | 外部講師を呼ぶ予定です |
| 14 | 国際企業を経営する | マネジメントの国際化時代です。国際企業の経営者が実情を語ります。 | 外部講師を呼ぶ予定です |
| 15 | まとめ | 全14回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。 | |

| | | | | |
|------|----|----------|--------|-------|
| 関連科目 | | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 国際人的資源管理 | 関口倫紀ほか | 中央経済社 |

| | | | | |
|---------------|---|--------------|--------------|---------|
| | 2 | マネジメント入門 | ステイブ P. ロビンズ | ダイヤモンド社 |
| | 3 | 世界が称賛する日本の経営 | 伊勢雅臣 | 育鵬社 |
| 評価方法 (基準) | 第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%) | | | |
| 学生への メッセージ | 自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 教務課(11号館1階) | | | |
| 備考 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------|
| 科目名 | 国際理解概論 | 科目名(英文) | International Cooperation |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 中西 功 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02434a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | グローバリゼーション3.0という考え方をもとにして、変化が激しく不透明な我々を取り巻く環境を理解する。前半では米国、中国、欧州、日本それぞれの現状を端的に表現するキーワードを掘り下げて学ぶことで、世界の動きを大まかに把握する。そのうえで後半では、グローバル市場に取組む日本企業の活動を学ぶことで、より具体的に日常の仕事のレベルで理解を深める。世界の動きと企業の活動を学んだうえで、自分自身の生活や日常に関連付けて考えることで、今後のキャリアや学習に関する示唆を得る。 |
| 到達目標 | 日本に暮らしていても、これからはグローバルの視点で物事を考え、判断しなければならなくなるということに気づき、海外での出来事にも関心を持ち、自らで考えるという意識を持つ。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式を原則とするが、テーマによって随時対話形式を取り入れ、学生が主体的に授業に参加して、議論しながら理解を深められることを目指す。 |
| 科目学習の効果(資格) | グローバリズムによる大きな変革期であることを理解して、理工学部に学ぶ学生として、今後の進路を考えるうえでの気づきを得る。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 2 | 世界の状況をグローバルに理解する | 世界の状況を理解するために、政治的(P)、経済的(E)、社会的(S)、技術的(T)の切り口で整理するPESTのフレームワークを学ぶ。 | 講義の復習 次回のキーワード「一帯一路」について事前に調べておく(1.5時間) |
| 3 | キーワードを掘り下げて学ぶ① 中国の一帯一路構想 | 一帯一路という構想の政治的な思惑と、経済的な期待効果を学び、特に日本に及ぼす影響を考える。 | 講義の復習 次回のテーマのトランプ政権について、基礎的な事項を確認しておく(1.5時間) |
| 4 | キーワードを掘り下げて学ぶ② 米国トランプ政権のアメリカンファースト | アメリカンファーストという考え方の米国の社会的背景を学んだうえで、中国との関係と世界経済に及ぼす影響について考える。 | 講義の復習 次回のテーマの英国のEU離脱について、基礎的な事項を確認しておく(1.5時間) |
| 5 | キーワードを掘り下げて学ぶ③ 欧州のBrexit | Brexitに至った背景を学び、英国とEUの歴史、現代抱える問題を学び、EUという市場共同体の意義について考える。 | 講義の復習 次回のテーマのアベノミクスという政策について、基礎的な事項を確認しておく(1.5時間) |
| 6 | キーワードを掘り下げて学ぶ④ 日本のアベノミクス | アベノミクスの三本の矢という政策を理解した上で、現在の問題について考える。 | 講義の復習(1時間) |
| 7 | キーワードから経済(E)を学ぶ 自由貿易と保護貿易 | 海外との交易に焦点をあてて、金融、為替、関税、貿易規制、国際分業、サプライチェーンの仕組みについて学ぶ。 | 講義の復習(1時間) |
| 8 | キーワードから社会(S)を学ぶ 高齢化、長寿命社会、グローバリズムとナショナリズム | 高齢化と労働力不足が及ぼす影響について学ぶ。特に日本での少子高齢化と外国人労働者の受入について、身近な問題として考える。 | 講義の復習 次回のテーマのAI・ロボットによってなくなる仕事について、自分なりに考えておく(1.5時間) |
| 9 | キーワードから技術(T)を学ぶ AI・ロボットにより無くなる仕事 | 技術革新の世界的な動向と社会や産業構造に及ぼす影響を学び、職業という視点で考える。 | 講義の復習(1時間) |
| 10 | グローバルに取組む日本企業を研究する | ネットを使って、企業の業績やビジョン・戦略の調査の仕方と簡単な分析の手法を学ぶ。 | 講義の復習 ネット有価証券報告書をダウンロードして読んでみる |
| 11 | 企業研究① グローバル化した日本企業の発展の歴史 | トヨタ、パナソニック、ソニーといったグローバルブランドの企業の発展の歴史を、海外事業という点に焦点をあてて学ぶ。 | 講義の復習 ネットに関心の有る企業の戦略、ビジョンを調べてみる(1.5時間) |
| 12 | 企業研究② グローバル化を目指している日本企業の戦略 | 小林製薬、ダイワハウスといった従来内需中心であった企業のグローバル事業への取組みについて学ぶ。 | 講義の復習 ネットに関心の有る企業の戦略、ビジョンを調べてみる(1.5時間) |
| 13 | 企業研究③ グローバル化のためのM&A | 武田薬品、シャープを事例に、外国企業とのM&Aを通じてグローバルを目指す取組みについて学ぶ。また外国人経営者・社員と日本人社員の関係についても考える。 | 講義の復習(1時間) |
| 14 | グローバル企業の経営、働き方 | グローバル企業で求められるダイバーシティ&インクルージョンという考えを学び、日本企業・日本人としての課題について考える。 | 講義の復習(1時間) |
| 15 | グローバルゼーションのもとでのキャリア開発 | 社会がグローバル化するなかで、現在グローバルで働く人の事例を学びながら、自分自身の職業観とこれから何を学ぶべきかについて考える。 | 講義の復習(1時間) |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験の点数で評価する (100%) 加えて、授業での積極的な発言や姿勢については、加点要素とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業では積極的な発言を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 (7号館2階) | | | |
| 備考 | 非常勤講師ですので研究室はありません。授業内に質疑の時間を設けます。 テキストはありませんが、重要なキーワードについては、ネット等で事前に簡単に調べて予習をしておいてください。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------|
| 科目名 | 古典文学から学ぶ | 科目名(英文) | Classic Literature |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 細川 知佐子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1401a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行っただけで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は、現代と断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。 |
| 到達目標 | 和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式です。理解度を確認する復習テストを不定期に行い、翌週以降に答え合わせをします。理解できていない箇所は必ず見直してください。 |
| 科目学習の効果(資格) | 大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|-------------------------|-----------|
| | | | |
| 2 | 作品としての『百人一首』1 | 『百人一首』の成立と謎 | 配布プリントを読む |
| 3 | 作品としての『百人一首』2 | 江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容 | 配布プリントを読む |
| 4 | 作品としての『百人一首』3 | 『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識 | 配布プリントを読む |
| 5 | 四季歌を読む 春1 | 春の歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 6 | 四季歌を読む 春2 | 桜の歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 7 | 四季歌を読む 夏 | 夏の歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 8 | 四季歌を読む 秋1 | 秋の歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 9 | 四季歌を読む 秋2 | 秋の月の歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 10 | 四季歌を読む 冬 | 冬の歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 11 | 恋歌1 | 恋の歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 12 | 恋歌2 | 歌枕を用いた恋の歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 13 | 雑歌1 | 友情をテーマにした歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 14 | 雑歌2 | 人生をテーマにした歌を読みます | 配布プリントを読む |
| 15 | 授業の総括 | 『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり | 配布プリントを読む |

| | |
|------|-------|
| 関連科目 | 日本語読解 |
|------|-------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|------------------|------|----------|
| 1 | 百人一首 | 島津忠夫 | 角川ソフィア文庫 |
| 2 | 百人一首 王朝和歌から中世和歌へ | 井上宗雄 | 笠間書院 |
| 3 | | | |

| | |
|----------|---------------------------------|
| 評価方法(基準) | 授業態度(質問への回答)や復習テストなど20%、定期試験80% |
|----------|---------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の歌人たちからのメッセージを受け取りましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 予習復習は、配布資料を約1時間程度通読する。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-------------|----------|-----------------|
| 科目名 | コミュニケーション I | 科目名 (英文) | Communication I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 櫻井 清華 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TCA1443a2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | (概要と目的) 私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にさして苦勞はないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を話し言葉 (音声言語) によって正確に他者に伝達し、かつ明快な文章 (書記言語) で過不足なく表現することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要であり、それらを実践練習の中で琢磨していく必要がある。この授業を履修することで、大学生活・社会生活において不可欠な言語能力を一段高いレベルにおいて習得し、それに伴う思考力の獲得と向上をめざす。 |
| 到達目標 | 大学生に求められる基本的な日本語能力の取得を目指す。特に、大学生として不足のない文章を書けるようになること、就職活動に必要な日本語表現、自己表現方法をマスターし、ひいては社会人に相応しい日本語使用ができるようになることを目指す。これについては文語・口語ともに射程に含まれる。 |
| 授業方法と留意点 | 積極的な参加を求めます。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 文章の読解・文章の作成・対話 (コミュニケーション) といった日本語能力の向上。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|------------------------|--------------------------------------|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | コミュニケーションとは何かをまなぶ | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 2 | 敬語の基礎をまなぶ | 敬語の基礎をまなぶ | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 3 | 敬語の基礎を応用する | 敬語の基礎を応用する | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 4 | 敬語の応用問題をまなぶ | 敬語の応用問題をまなぶ | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 5 | 就職活動に必要な敬語をまなぶ | 就職活動に必要な敬語をまなぶ | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 6 | 日常生活とビジネスシーンに敬語をまなぶ | 日常生活とビジネスシーンに必要な敬語をまなぶ | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 7 | 日本語表現の基礎を確認する | 基礎的な日本語の習得度の確認をする | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 8 | 漢字の読み書きに習熟する | 漢字の習得度の確認をする | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 9 | 同音異義語をまなぶ | 同音異義語をまなぶ | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 10 | 熟語表現をまなぶ | 熟語表現をまなぶ | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 11 | 自分の苦手分野を知る | 自己分析と人生の棚卸し | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 12 | 自分の得意分野を知る | 自己分析と人生の棚卸し | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 13 | 挫折経験を振り返る | 自己分析と人生の棚卸し | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 14 | 苦勞したことを振り返る | 自己分析と人生の棚卸し | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| 15 | 自己紹介文を完成させる | テーマに沿って文章を完成させる | 毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |

| | |
|------|-------|
| 関連科目 | 特になし。 |
|------|-------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 期末試験 90%、授業態度 10%の割合で評価する。参加態度の悪さから講義中に退席を求めた学生については期末試験を評価しない。授業態度とは、①質問への投げかけに対する応答の姿勢、②授業への集中度、③授業内における演習の達成度を指し、出席点をさすものではない。 |
| 学生へのメッセージ | 日本語の読み書きに関心をもって下さい。積極的な参加を期待しています。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 |

| | | | |
|---------------|-------------|---------|------------------|
| 科目名 | コミュニケーションII | 科目名(英文) | Communication II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 櫻井 清華 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TCA1444a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 本講義では、音声言語(話し言葉)のみならず、文字言語(書き言葉)によるコミュニケーションも射程に入れ、「コミュニケーションI」で修得した言語技術をさらに深めさせることを目指す。挨拶・紹介・説明(研究発表を含む)・報告(調査報告を含む)・依頼・勧誘・質疑応答・議論・話し合い・見舞い・詫び・感謝・賞賛といった目的別の言語行動を想定し、より実践的な言語運用能力を修得することを目標とする。 |
| 到達目標 | 目的に応じた日本語表現の技法を学ぶことで、日本語の誤用をなくす。日本語を支える文化背景を学ぶことで、現在無意識に使用している流行語、若者言葉、オノマトペの意義を知り、大学生として不足のない文章を書けるようになることを初歩的目標とする。さらに就職活動に必要な基礎的の社会人敬語、自己表現方法を獲得し、ひいては社会人にふさわしい日本語使用ができることを最終的に目指す。これについては、文語・口語ともに射程に含まれる。 |
| 授業方法と留意点 | 積極的な参加を求めます。 |
| 科目学習の効果(資格) | 文章の読解・作成・対話(コミュニケーション)といった、日本語能力の向上。 |

| | | | | |
|------|----|-----------------|----------------------|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 講義の概要 | コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 2 | 挨拶と自己紹介の方法 | 自己表現・挨拶を学ぶ。 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 3 | 来客の応対 | 来客・電話の応対・メールのマナーを学ぶ。 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 4 | ビジネス文書の表現 | 文書におけるビジネス用語を学ぶ。 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 5 | ウチとソトの関係を表現する | 内と外の敬語を学ぶ | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 6 | 上下内外の関係を表現する | 内と外の敬語を学ぶ | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 7 | 謝罪の文言をまなぶ | 謝罪・御礼表現を学ぶ。 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 8 | クレーム対応の基本 | 携帯のマナーとクレーム対応を学ぶ。 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 9 | 二重敬語をさけた表現 | 冗長表現を学ぶ | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 10 | スマートな日本語をこころがける | 冗長表現を学ぶ | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 11 | 自分を軸にした人物呼称 | ひと・ものの呼称を学ぶ。 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 12 | 対人の言葉のマナー | 対応のマナーを学ぶ | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 13 | 対人のしぐさのマナー | 対応のマナーを学ぶ | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 14 | 日常生活の敬語 | 配慮ある日常表現を学ぶ。 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 15 | まとめ | 後期総括 | 事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |

関連科目 国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション論、コミュニケーションIなど

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法(基準) 授業態度10%、定期試験90%。
授業態度には①質問の投げかけに対する応答姿勢、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、などを指します。
出席回数は点数に含まれません。80%以上の出席を単位認定の前提とします。

| | |
|-----------|------------------------|
| 学生へのメッセージ | 意欲的な参加を求めます。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 産業技術史 | 科目名(英文) | History of Industrial Technology |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 照元 弘行 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TNA3452a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。 |
| 到達目標 | 幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 授業形式は、視聴覚教材を用いた「プレゼンテーション授業」である。講義中心の授業となるが、産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、視聴覚教材および資料集の図表を用いて解説する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------|--|------------------------------|
| 1 | 産業技術史を学ぶにあたって/特許から見た産業発展史 | 産業技術史を学ぶ意味を考える。 明治時代の近代日本創生から現代のプロパテント時代まで、日本の産業発展に特許制度が果たした役割を理解し、我が国の歴史から産業発展と特許制度の関係を学ぶ。 | 課題レポート提出① |
| 2 | 製鉄・鉄鋼産業の技術史①: たたら製鉄の技術 | 金属材料の基礎について学ぶ。 伝統的日本製鉄法「たたら」について学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出② |
| 3 | 製鉄・鉄鋼産業の技術史②: 近代製鋼法の技術 | 製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出③ |
| 4 | 製鉄・鉄鋼産業の技術史③: 高炉の技術 | 製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出④ |
| 5 | 製鉄・鉄鋼産業の技術史④: 新素材の技術 | 国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」、「超電導材料」などについて学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑤ |
| 6 | 自動車産業の歴史①: 自動車産業のあけぼの | 国産自動車トヨタ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑥ |
| 7 | 自動車産業の歴史②: 自動車産業の基礎技術 | 自動車産業の生産技術およびエンジン、ブレーキ、タイヤなどの基本技術を学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑦ |
| 8 | 自動車産業の歴史③: 低公害自動車「CVCC エンジン」の技術 | 自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑧ |
| 9 | 自動車産業の歴史④: ハイブリッドカー・電気自動車の技術 | 自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、「ハイブリッドカー」、「電気自動車」を事例にして学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑨ |
| 10 | 自動車産業の歴史⑤: 燃料電池自動車の技術 | 自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑩ |
| 11 | 鉄道産業の歴史①: 高速鉄道のかかえる社会的問題 | 国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑪ |
| 12 | 鉄道産業の歴史②: 新幹線の技術 | 高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。 新幹線を作る様々な技術(町工場がもつアナログ的な技術)を学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑫ |
| 13 | 鉄道産業の歴史③: リニアモーターカーの技術 | 未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。 また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策技術について学ぶ。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑬ |
| 14 | 公害・環境対策の技術史 | 産業競争力強化の重要な柱の1つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑭ |
| 15 | 世界の産業技術 | 産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。 | 資料集を事前に読んでおくこと。 課題レポート提出⑮ |

関連科目 産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 各授業毎の課題レポート(45点配分)と定期試験(55点配分)で総合的(合計100点)に評価する。なお、合格基準は、レポートおよび定期試験がそれぞれ100点満点換算の60点以上、総合評価で100点満点換算の60点以上を合格とする。なお、課題レポートの総合評価は、最終講義日にお知らせします。原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 1時間目の授業ではありますが、遅刻せずに毎回出席することが望ましい。 各授業毎の課題レポートは、期限内に提出してください。 授業中は私語を慎み、集中して授業に臨み、話を聞き、話の内容を理解し、話した内容を理解したうえで授業の内容を整理し、文章にまとめる力をつけてください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 第1回目の講義時にお知らせします。 | | | |
| 備考 | 講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。 事前事後学習時間は、毎講義当たり、レポート作成、予習、復習の学習時間として2時間程度である。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 産業社会と知的財産 | 科目名(英文) | Industrial Society and Intellectual Property |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 林 正浩 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02433a2 | | |

教養科目

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>近年、知的財産の戦略的な創造と活用が企業経営の機能として占める意義がますます高まっています。効率的な企画・開発プロセスにより高収益体質のビジネスモデルを作り上げるためには、知的財産を成長戦略の軸として活用することが必要不可欠となっています。知的財産(特許権)を企業成長戦略に必要な武器として今後創出し、活用するために必要な基本的な知識と戦略、法的背景について事例を通じて学びます。</p> <p>【担当教員実務経歴】 ①監査法人(ベンチャー等、事業会社の無形資産価値評価:資産査定業務) ②ベンチャー投資財団(株式公開準備企業における特許等無形資産の戦略的管理指導) ③大学機関(知的財産本部副本部長 研究シーズ、特許等の出願、管理に係る業務)</p> |
| 到達目標 | 企業での開発業務等において、技術者として必要な基本的で且つ実践的な知的財産に関する知識を、事例等を通じて習得し、企業等が求めている戦略的且つ挑戦意欲があり、開発を経営的視点で広く捉えられる人材の育成を目指します。 |
| 授業方法と留意点 | <p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください(板書の習慣を変えてください)。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問(アンケート表)を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | 研究者、技術者であっても企業の研究成果(知的財産)の戦略的活用のノウハウ 社会生活、企業活動における遵守すべき知的資産の管理ノウハウ |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|--|--|
| 1 | 講座ガイダンス 知的財産の基礎 | 講座ガイダンス(勉強方法・評価方法) 企業における知的財産の活用事例 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認。 | <事後>授業内容の再確認と事例等の検索・学習(30分) |
| 2 | 技術的範囲の実質的解釈 | 「発明」の概念と法的解釈。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認。 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 3 | 知的財産制度基本事項の確認 | 出願~拒絶対応に至るまでの事例研究 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 4 | 先行技術調査手法 | 先行技術調査の進め方と知財審査訴訟の考え方。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 5 | 特許侵害 | 侵害の判断基準と諸説事例。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 6 | 侵害対応 | 特許等侵害訴訟への対応策。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 7 | 知的財産の活用方法 | ライセンスチェックポイントと実用新案、意匠権の活用事例。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 8 | 商標権 | 商標権の特徴と活用方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 9 | 営業秘密 | 不正競争防止法、著作権法によるノウハウの管理と活用。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 10 | 国際市場での活用 | 国際出願とライセンス条約。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 11 | 知財管理 Case by Case (1) | 知財管理事例(国内)と他国の知財法 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 12 | 知財管理 Case by Case (2) | 標準化戦略と知財管理との関係事例 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得(30分)。 <事後>事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習(30分)。 |
| 13 | 知財管理 | 国際標準化戦略と知財価値評価の考え | <事前>次回授業内容についてネットや新聞等を |

| | Case by Case (3) | 方。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | 活用した用語等の習得 (30分)。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---|--|----|-----|-----|------|---|-------------|-------------|-------------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 14 | 著作権 | アニメーション制作における著作権管理事例。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | ＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 著作権事業 | 著作権による事業戦略事例 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認 | ＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30分)。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 知的財産管理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>知的創造活動と知的財産</td> <td>工業所有権情報・研修館</td> <td>工業所有権情報・研修館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 知的創造活動と知的財産 | 工業所有権情報・研修館 | 工業所有権情報・研修館 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 知的創造活動と知的財産 | 工業所有権情報・研修館 | 工業所有権情報・研修館 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>①毎回のアンケート内の [設問1] に対する回答評価 (評価割合: 50%) 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の [設問2] (授業内容に関する質問および要望) について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②定期試験 (評価割合: 50%) 知的財産権の基本的な戦略的考え方を習得した知識から知恵として活用する学習効果を測定するため、総括的評価として実施します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 我々の消費生活における身の回りの製品・商品には多々、知的資産が活用されています。これら知的資産を戦略的に活用・管理する手法が、企業単位だけではなく、国の施策としても重要視されてきています。社会人としてこれら戦略的思考を身に付けると共に、学生時代とは異なる著作物やデータの法令に則った取扱の重要性を認識してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 林研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 工業所有権情報・研修館のサイトのうち、「知的財産人材の育成」のカテゴリーより、「知的創造活動と知的財産」のむテキストをダウンロード(無料)し、学習に役立ててください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語上級 | 科目名(英文) | Practical English for the Advanced |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 竹部 春樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN3421c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 2年次までに身につけた英語力に基づき、実践的な英語運用能力を高めることを目的とする。リーディングとリスニングを主としながら、テキストにそって総合的に技能を強化する。 |
| 到達目標 | TOEIC 500 点以上レベルの実践的な英語力を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | テキストにそって進めますので、事前に予習しておいてください。 毎回、単語帳「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test」から小テスト(単語テスト)を実施しますので、e-learning 教材「リンガポルタ」を活用して単語の勉強をしてください。 原則として、出席率が 80% 以上の受講生のみを成績評価の対象とします。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC など |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| | | | |
| 1 | ガイダンス Lesson 1: 「地球温暖化1: 原因」 | 授業ガイダンス 読解、リスニング、グループワーク | 事前: シラバスを読む 事後: 復習、単語帳 |
| 2 | Lesson 2: 「地球温暖化2: 結果」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 3 | Lesson 3: 「地球温暖化3: 解決策」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 4 | Lesson 4: 「リサイクル1: 空き缶収集」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 5 | Lesson 5: 「リサイクル2: 廃棄物ゼロ」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 6 | Lesson 6: 「緑の建築: 生きている建物」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 7 | Lesson 7: 「大気汚染1: Bad News—ふたつの意味」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 8 | Lesson 8: 「大気汚染2: どうすることもできない?」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 9 | Lesson 9: 「生物多様性1: 人生のスパイス」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 10 | Lesson 10: 「生物多様性2: 言語との関連」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 11 | Lesson 11: 「生物多様性3: 希望の種」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 12 | Lesson 12: 「環境と云えば」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 13 | Lesson 13: 「海にいるすべての生きもの」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 14 | Lesson 14: 「希望1: 試験管の保護」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、単語帳 |
| 15 | Lesson 15: 「希望2: 箱の外を考える」 | 読解、リスニング、グループワーク、小テスト | 事前: 予習 事後: 復習、定期試験の準備 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---|----------------|------|
| | 1 | Everyday Ecology: English for a Greener World | Jim Knudsen ほか | 南雲堂 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---|------|------|
| | 1 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 定期試験 50%, e-learning 20%, 小テスト 20%, グループワーク 10% |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 英語の訓練は楽器やスポーツの練習に似ているところがあって、(少しずつでも) 毎日やるのが大切だと思います。がんばりましょう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 授業には英語の辞書を持参してください。 毎回、次回の小テストのための単語学習範囲を授業中に指示しますので、各自で e-learning 教材「リンガポルタ」を使って勉強しておいてください。なお事前事後学習は1時間以上を目安とします。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応しますが、メールなどで連絡してもらってもかまいません。 小テスト等は授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------|
| 科目名 | 実践英語初級 | 科目名(英文) | Practical English for Beginners |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | A |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西谷 継治 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2419c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | TOEICブリッジの試験対策講座として、前期末のTOEICブリッジでのスコアアップを目指す。 |
| 到達目標 | TOEICブリッジでのスコアアップ |
| 授業方法と留意点 | 授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらおうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC Test の得点アップにつなげる。 |

| | | | | |
|------|----|------------------------|-------------------------------|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Introduction | 授業内容の詳しい解説 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 2 | 読解、文法、語彙 品詞 | TOEIC 文法・読解演習 主要品詞 | 単語小テスト No. 0401-0440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 3 | 読解、文法、語彙 動詞の形1 | TOEIC 文法・読解演習 時制 | 単語小テスト No. 0441-0480 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 4 | 読解、文法、語彙 動詞の形2 | TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態 | 単語小テスト No. 0481-0520 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 5 | 読解、文法、語彙 前置詞 | TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割 | 単語小テスト No. 0521-0560 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 6 | 読解、文法、語彙 接続詞 | TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割 | 単語小テスト No. 0561-0600 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 7 | Review | 前半の復習 | 単語小テスト No. 0601-0640 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 8 | 臨時試験 | 前半の試験 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 9 | 臨時試験評価 | 臨時試験の解説及び評 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 10 | 読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞 | TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について | 単語小テスト No. 0641-0680 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 11 | 読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応 | TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について | 単語小テスト No. 0681-0720 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 12 | 読解、文法、語彙 関係詞 | TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法 | 単語小テスト No. 0721-0760 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 13 | 読解、文法、語彙 名詞節 | TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法 | 単語小テスト No. 0761-0808 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 14 | 読解、文法、語彙 副詞節 | TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法 | 教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| | 15 | Review | 後半の復習 | Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | |
|------|-----------------------|
| 関連科目 | TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般 |
|------|-----------------------|

| | | | | |
|-----|----|---|------------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | New Steps to Success in the TOEIC Test 450 | David E. Bramly et al. | 松柏社 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | NISHIYA Koji | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 共通試験 20% (単語試験 20%) 、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度(発表など) 10%、e-learning 20%の割合で総合的に評価する。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
|-----------|-----------------------------|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------|
| 科目名 | 実践英語初級 | 科目名(英文) | Practical English for Beginners |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | B |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山本 尚子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2419c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業では、TOEICのスコア・アップおよび実践的な英語力の向上を目指します。そのためにまず毎回単語テストを行い語彙力を増強し、さまざまな形式のリスニングの練習(ディクテーションや会話を聞きとって大体的内容を把握する練習など)、文法のチェック、リーディングの練習(限られた時間で大意をつかんで説明したり、質問に答えたりする練習など)を行い英語の基礎力を増強し、そのあとそれを生かして実際にTOEIC形式の問題を解きながら、TOEIC形式の特徴や注意点をチェックし、正解を見つけるコツを身につけていきます。 |
| 到達目標 | TOEIC400点以上の実力をつけること、社会の様々な場面でのコミュニケーションに必要な英語力を身につけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | この授業はTOEICのスコア・アップのためにTOEIC形式の問題を中心に進めますが、言うまでもなくTOEICの問題を練習するだけで大幅に点数が上がるわけではありません。TOEICに求められる英語の運用能力を増強するために様々な練習をしながら、受講生には色々な形で質問し発表してもらいますので、必ず予習をしておいてください。授業中は正解だけでなく、なぜその答えが正しいのかということに注意しながら解説をよく聞いて、しっかりメモを取ることが大切です。授業の最後に質疑応答の時間を設けます。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション、プリント教材 | 授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題 | テキストの予習、以下2回目以降の単語テスト範囲を記すので、授業までに必ず覚えておくこと、また授業の後は、次のテスト範囲とともに、見直しをすること。 |
| 2 | Travel | 旅行に関する文、会話等/ 名詞を学ぶ | テキストの予習 単語 401-440 |
| 3 | Dining Out | レストランに関する文、会話等/ 形容詞を学ぶ | テキストの予習 単語 441-480 |
| 4 | Media | メディアに関する文、会話等/ 副詞を学ぶ | テキストの予習 単語 481-520 |
| 5 | Entertainment | エンターテインメントに関する文、会話等/ 時制を学ぶ | テキストの予習 単語 521-560 |
| 6 | Purchasing | 買い物に関する文、会話等/ 主語と動詞の一致を学ぶ | テキストの予習 単語 561-600 |
| 7 | Clients | 顧客との取引における文、会話等/ 能動態、受動態を学ぶ | テキストの予習 単語 601-640 |
| 8 | Recruiting | 求人、採用に関する文、会話等/ 動名詞、不定詞を学ぶ | テキストの予習 単語 641-680 |
| 9 | Personnel | 人事に関する文、会話等/ 現在分詞、過去分詞を学ぶ | テキストの予習 単語 681-720 |
| 10 | Advertising | 広告に関する文、会話等/ 代名詞を学ぶ | テキストの予習 単語 721-764 |
| 11 | Meetings | 会議に関する文、会話等/ 比較を学ぶ | テキストの予習 単語 765-808 |
| 12 | Finance | 予算、費用に関する文、会話等/ 前置詞を学ぶ | テキストの予習 単語 401-440 |
| 13 | Offices | オフィスに関する文、会話等/ 接続詞を学ぶ | テキストの予習 単語 441-480 |
| 14 | Daily Life | 日常生活に関する文、会話等/ 前置詞と接続詞の違いを学ぶ | テキストの予習 単語 481-520 |
| 15 | Sales & Marketing | 営業、販売促進に関する文、会話等/ 関係詞を学ぶ | テキストのこれまでの内容の復習 |

関連科目 全ての英語科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|--------|------|
| 1 | Score Booster for the TOEIC L&R Test Intermediate | 番場 直之他 | 金星堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 統一英語単語テスト20%、e-learning20%、定期試験30%、授業中のテスト(中間テスト、単語テスト)20%、授業態度(発表、積極性、メモのとり方など)10%の割合で総合的に評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習することを心がけてください。TOEICテストは、形式に慣れることで大幅に点数が上がると言われています。是非学生のうちに何度か受験しましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
| 備考 | 事前・事後学習には1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 実施したテスト等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|---------------------------------|
| 科目名 | 実践英語初級 | 科目名 (英文) | Practical English for Beginners |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | C |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 内山 知美 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2419c2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | TOEICブリッジの試験対策講座として、前期末のTOEICブリッジでのスコアアップを目指す。 |
| 到達目標 | TOEICブリッジでのスコアアップ |
| 授業方法と留意点 | この授業は、TOEIC Bridgeで高得点を取るだけでなく、TOEICテストへの導入も目的としています。TOEICのコツを身につけられるように、必ず予習をして、授業中は正解だけでなく、なぜその答えが正しいのかということに注意しながら解説をよく聞いて、しっかりメモを取ることが大切です。授業は学生の発表と解説という形で進め、授業の最後に質疑応答の時間を設けます。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC Testの得点アップにつなげる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------------|--------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | Introduction Unit1 Jobs & Careers? | 授業内容の詳しい解説 現在時制 | 教科書を購入して、U1をさっと読んでおく。 以降、事前事後学習には、毎回1時間以上かけること Unit1 予習・単語.401-436 準備 |
| 2 | Unit2 Entertainment? | 可算名詞/不可算名詞 単語テスト No.401-436 | 1 復習・2 予習・ 単 No.437-474 準備 |
| 3 | Unit3 Work Schedule? | 前置詞 単語 No.437-474 | 2 復習・3 予習 単 No.475-511 準備 |
| 4 | Unit4 Health & Fitness? | 過去時制 No.475-511 | 3 復習・4 予習 単 No.512-548 準備 |
| 5 | Unit5 Shopping | 進行形 No.512-548 | 4 復習・5 予習 単 No.549-585 準備 |
| 6 | Unit6 Business Meeting? | 代名詞 No.549-585 | 5 復習・6 予習 単 No.586-622 準備 |
| 7 | Unit7 Recruitment? | 現在完了 No.586-622 | 6 復習・7 予習 単 No.623-659 準備 |
| 8 | Unit8 Customer Needs? | 接続詞 No.623-659 | 7 復習・8 予習 単 No.660-696 準備 |
| 9 | Unit9 Business Trip? | will/be going to No.660-696 | 8 復習・9 予習 単 No.670-733 準備 |
| 10 | Unit10 Advertising? | 比較 No.670-733 | 9 復習・10 予習 単 No.734-770 準備 |
| 11 | Unit11 Factory Tour? | 受動態 No.734-770 | 10 復習・11 予習 単 No.771-808 準備 |
| 12 | Unit12 Money Matters? | 動名詞/不定詞 No.771-808 | 11 復習・12 予習 |
| 13 | Unit13 Leisure? | 助動詞 | 12 復習・13 予習 |
| 14 | Unit14 Environment? | 分詞 | 13 復習・14 予習 |
| 15 | Unit15 まとめ Business Tie-Up? | 関係詞節 | 14 復習・15 予習 |

関連科目 TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|----------------|--------------------------|------|
| | 1 | English Switch | Robert Hickling / 臼倉美里 著 | 金星堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | NISHIYA Koji | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 共通(統一英語単語テスト) 20%、e-learning20%、定期試験 40%、小テスト、授業態度(発表、積極性、メモのとり方など) 20%の割合で評価する。 |
| 学生へのメッセージ | 毎回辞書を持参し、予習して出席し続けることを心がけてください。TOEIC (Bridge) は、形式に慣れることで大幅に点数が上がると言われています。是非学生のうちに何度か受験しましょう。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | 毎回1時間以上の事前事後学習を行うこと。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 小テスト等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------|
| 科目名 | 実践英語初級 | 科目名(英文) | Practical English for Beginners |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | D |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 平尾 秀実 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2419c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 今までに学んできた基本文法知識を確認し、皆さんが受ける TOEICブリッジ受験に必要な解法テクニック、特に普段の努力を積み重ねれば必ず伸びる文法力及び読解力の更なる向上を目標とする。又、授業に平行してテスト受験に欠かせない語彙力向上も目指す。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。 |
| 到達目標 | 千里の山も一歩から…「文法ルール及び語彙、毎日少しずつ繰り返し覚えよう！」文法問題が解けるようになるには、1つでも多くの文法ルールを覚え、問題文にどの文法文法ルールが使われているか見抜くのが早道であり、毎日少しずつの努力が大きな結果につながる。単語と同じく、根気よく繰り返し覚え、1つでも多くの問題が解けるように頑張ろう。 |
| 授業方法と留意点 | 毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。今まで習ってきた語彙や文法知識を駆使し、一つでも多くの問題が解けることを望む。予習として次に進む分の練習問題を解いて授業に臨もう。特に4択問題は今まで習った文法ルール及び語彙を駆使し、「この選択肢はこう間違っているから違う」と分かる様になればしめたもの。授業で出てきた新しい単語や学んだ内容をくり返して覚えるのが上達への早道です！ |
| 科目学習の効果(資格) | TOEICブリッジ受験に必要な基本的事項の復習及び知識の養成。 |

| | | | | |
|------|----|---|----------------------|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業方法、提出物、評価方法についての説明 | 次回の第一回単語テスト範囲、401-430番を勉強する事。 |
| | 2 | Unit 1 Entertainment 文法: 名詞 | 文法、語彙の各問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 1-5、次回の第二回単語テスト範囲、431-460番を勉強する事。 |
| | 3 | Unit 2 Personnel 文法: 代名詞 | リーディング問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 6-8、次回の第三回単語テスト範囲、461-490番を勉強する事。 |
| | 4 | Unit 3 Office Work 文法: 未来 | 文法、語彙の各問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 9-13、次回の第四回単語テスト範囲、491-520番を勉強する事。 |
| | 5 | Unit 4 Office Messages 文法: 未来 | リーディング問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 14-16、次回の第五回単語テスト範囲、521-550番を勉強する事。 |
| | 6 | Unit 5 Eatint Out 文法: 進行形 | 文法、語彙の各問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 17-21、次回の第六回単語テスト範囲、551-580番を勉強する事。 |
| | 7 | Unit 6 Technology 文法: 完了形 | リーディング問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 22-24、次回の第七回単語テスト範囲、581-610番を勉強する事。 |
| | 8 | Unit 7 Research and Merchandise Development 文法: 助動詞 | 文法、語彙の各問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 25-29、次回の第八回単語テスト範囲、611-640番を勉強する事。 |
| | 9 | Unit 8 Finance and Budgets 文法: 不定詞 | リーディング問題演習 | 教科書 p. 30-32、次回の第九回単語テスト範囲、641-670番を勉強する事。 |
| | 10 | Unit 9 Purchases 文法: 分詞 | リーディング問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 33-37、次回の第十回単語テスト範囲 671-700を勉強する事。 |
| | 11 | Unit 10 Manufacturing 文法: 動名詞 | 文法、語彙の各問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 38-40、次回の第十一回単語テスト範囲、701-730を勉強する事。 |
| | 12 | Unit 11 Marketing and Sales 文法: 仮定法 | リーディング問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 41-45、次回の第十二回単語テスト範囲、731-760を勉強する事。 |
| | 13 | Unit 12 Travel 文法: 関係代名詞 | リーディング問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 46-48、次回の第十三回単語テスト範囲、761-790を勉強する事。 |
| | 14 | Unit 13 Contracts 文法: 命令文 | 文法、語彙の各問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 49-53、次回の第十四回単語テスト範囲、791-808を勉強する事。 |
| | 15 | Unit 14 Housing 文法: 疑問文 | リーディング問題演習、答え合わせ | 教科書 p. 54-56 |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| | | | | |
|-----|----|---|------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Successful Steps For the TOEIC Test | 山本厚子 | 成美堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 20%、定期試験 30%、小テスト 10%、課題テスト 10%、レポート 10% |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！ |
|-----------|---|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。 課題テストで間違った所は復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、課題テスト、レポート等は授業中にフィードバックする。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------|
| 科目名 | 実践英語初級 | 科目名(英文) | Practical English for Beginners |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | E |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 中本 明子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2419c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | TOEIC Bridge の試験対策講座として、前期末の TOEIC Bridge でのスコアアップを目指す。 |
| 到達目標 | TOEIC Bridge の Listening と Reading の出題傾向、及び頻出語彙を徹底確認・理解して、TOEIC Bridge 120 点以上の実力を身に付ける。 |
| 授業方法と留意点 | 全員参加のつもりで、積極的に授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC Bridge の得点アップにつなげる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|--|
| | | | |
| 2 | Unit 1 (Eating Out) & Unit 2 (Travel) Listening、語彙 | TOEIC 頻出テーマの Listening ・発音練習 (動詞と時制) | 単語小テスト No.401-440 及び教科書 P.2-4 & P.9-11 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 3 | Unit 1 (Eating Out) & Unit 2 (Travel) Reading、語彙 | TOEIC 頻出テーマの文法・読解演習 (動詞と時制) | 単語小テスト No.441-480 及び教科書 P.4-8 & P.11-15 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 4 | Unit 3 (Amusement) & Unit 4 (Meetings) Listening、語彙 | TOEIC 頻出テーマの Listening ・発音練習 (時制の一致と代名詞) | 単語小テスト No.481-520 及び教科書 P.16-18 & P.23-25 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 5 | Unit 3 (Amusement) & Unit 4 (Meetings) Reading、語彙 | TOEIC 頻出テーマの文法・読解演習 (時制の一致と代名詞) | 単語小テスト No.521-560 及び教科書 P.18-22 & P.26-29 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 6 | Unit 5 (Personnel) & Unit 6 (Shopping) Listening、語彙 | TOEIC 頻出テーマの Listening ・発音練習 (不定詞と動名詞) | 単語小テスト No.561-600 及び教科書 P.30-32 & P.37-39 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 7 | Unit 5 (Personnel) & Unit 6 (Shopping) Reading、語彙 | TOEIC 頻出テーマの文法・読解演習 (不定詞と動名詞) | 単語小テスト No.601-640 及び教科書 P.32-36 & P.39-43 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 8 | Unit 7 (Advertisement) & Unit 8 (Daily Life) Listening、語彙 | TOEIC 頻出テーマの Listening ・発音練習 (名詞・冠詞・数量詞) | 単語小テスト No.641-680 及び教科書 P.44-46 & P.51-53 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 9 | Unit 7 (Advertisement) & Unit 8 (Daily Life) Reading、語彙 | TOEIC 頻出テーマの文法・読解演習 (名詞・冠詞・数量詞) | 単語小テスト No.681-720 及び教科書 P.46-50 & P.54-58 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 10 | Unit 9 (Office Work) & Unit 10 (Business) Listening、語彙 | TOEIC 頻出テーマの Listening ・発音練習 (仮定法と分詞) | 単語小テスト No.721-760 及び教科書 P.59-61 & P.66-68 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 11 | Unit 9 (Office Work) & Unit 10 (Business) Reading、語彙 | TOEIC 頻出テーマの文法・読解演習 (仮定法と分詞) | 単語小テスト No.761-808 及び教科書 P.61-65 & P.69-73 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 12 | Unit 11 (Traffic) & Unit 12 (Finance and Banking) Listening、語彙 | TOEIC 頻出テーマの Listening ・発音練習 (関係詞と接続詞) | 教科書 P.74-76 & P.82-84 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 13 | Unit 11 (Traffic) & Unit 12 (Finance and Banking) Reading、語彙 | TOEIC 頻出テーマの文法・読解演習 (関係詞と接続詞) | 教科書 P.77-81 & P.85-89 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 14 | Unit 13 (Media) & Unit 14 (Health and Welfare) Listening & Reading、語彙 | TOEIC 頻出テーマの Listening ・発音練習 (前置詞) | 教科書 P.90-104 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 15 | Review | 総復習 | Unit 1-14 質問準備 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | TOEIC、英検ほか、英語関連の資格一般 |
|------|----------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---|----------|-------|
| | 1 | Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test : Level 1 | 北尾泰幸他 3名 | 朝日出版社 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -WORD BOOK- | 西谷恒志 | 成美堂 | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 統一英語単語テスト 20%、e-learning 20%、定期試験 40%、平常点(小テスト、レポート、授業態度) 20% の割合で総合的に評価する。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでいただきたい。 |
|-----------|-------------------------------|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------|
| 科目名 | 実践英語初級 | 科目名(英文) | Practical English for Beginners |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | F |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 中道 英美子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2419c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業は、TOEIC Bridge、及び TOEIC 受験対策を目的とする。従って日常生活、ビジネスシーン等で使用される英語の基本語彙を学び、役立つ文法事項を確認をする。メール、広告、掲示物などから必要な情報を読み取ったり、様々なシチュエーションにおけるダイアログ、アナウンスメント等を聞いて内容把握をする練習を行う。 |
| 到達目標 | TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は学生による発表を中心に進めますから、テキストの指定された箇所を予習して授業に出席してください。予習とは、単語、熟語等の意味のみならず、音読できるように発音を確認することも含みます。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------------------|----------------------|---|
| | | | |
| 2 | The Weather | 天気/ 現在時制、過去時制 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 401- 440 |
| 3 | Meetings & Messages | ミーティング、メッセージ/ 冠詞、代名詞 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 441- 480 |
| 4 | Health | 健康/ 進行形 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 481- 520 |
| 5 | Advertising & Sales | 広告、セール/ 名詞、数詞 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 521- 560 |
| 6 | Investment & Office Supplies | 投資、オフィスの備品/ 形容詞、副詞 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 561- 600 |
| 7 | Telephone Messages | 電話メッセージ/ 接続詞、前置詞 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 601- 640 |
| 8 | Jobs & Promotions | 仕事、昇進/ 助動詞、使役・感覚動詞 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 641- 680 |
| 9 | Flights & Traveling | フライト、旅行/ 未来時制 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 681- 720 |
| 10 | Housing | 住居/ 比較 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 721- 760 |
| 11 | New Products & Electrical Appliances | 新製品、電化製品/ 不定詞、動名詞 | テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 761- 800 |
| 12 | Media | メディア/ 完了時制 | テキストの予習 |
| 13 | Ordering & Shipping | 注文、発送/ 受動態 | テキストの予習 |
| 14 | Customer Services | 顧客サービス/ 関係詞 | テキストの予習 |
| 15 | The Environment | 環境/ 仮定法、復習 | テキストのこれまでの内容の復習 |

| | |
|------|---------|
| 関連科目 | 全ての英語科目 |
|------|---------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---------------------|------------------|------|
| | 1 | TOEIC Bridge Lounge | Terry O' Brien 他 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 学習の進捗度 20%、定期試験 50%、授業への取り組み 10% |
|----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | |
|-----------|--|

| | |
|----------|-------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階非常勤講師室 |
|----------|-------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前・事後学習には1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語中級 | 科目名(英文) | Practical English for Intermediates |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | A |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 湊 由妃子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2420c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 読解を中心に行う授業である。1回生で習得した読解力に加えて英語を聴いて、内容を理解する段階まで進めていきたい。また、より長い文章を読むことにより、より多くの語彙力、文法力をつけていくことを目的とする。 教科書は、NHKの海外放送向け番組 NEWSLINE から採択されたものを取り上げているので、今のニュースを英語を通して学べる。 英語能力の向上とともに、日本で起こっていることを英語を通して見て、考える。 |
| 到達目標 | DVDを見て、今の英語を「聴き」「読む」ことでリスニングとリーディングの能力を向上させることを最大の目標とする。まじめに授業に取り組み、自らも努力することで、必ず英語の力がつき、TOEICのスコアアップにつながるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かさずことなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 授業で習得した読解力は英検や TOEIC, TOEIC Bridge 等のテストに必ず役立つ。 |

| | | | | |
|------|----|---|-------------------------|-----------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Unit 8: Sorting It Out 徳島県上勝町が取り組むゴミゼロ実現の計画を見る。 | 語彙問題とリスニング | 予習 |
| | 2 | Unit 8: Sorting It Out 徳島県上勝町が取り組むゴミゼロ実現の計画を見る。 | 内容把握と練習問題 第1回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0809-087 1 |
| | 3 | Unit 9: Haircuts for Charity 事故や病気で髪の毛を失った人へ髪を寄付する活動を見る。 | 語彙問題とリスニング 第2回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 087 2-0934 |
| | 4 | Unit 9: Haircuts for Charity 事故や病気で髪の毛を失った人へ髪を寄付する活動を見る。 | 内容把握と練習問題 第3回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0935-997 |
| | 5 | Unit 10: Peer Group Consumption 現代の若者たちのライフスタイルを消費や友人関係の視点から取り上げる。 | 語彙問題とリスニング 第4回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 998-1060 |
| | 6 | Unit 10: Peer Group Consumption 現代の若者たちのライフスタイルを消費や友人関係の視点から取り上げる。 | 内容把握と練習問題 第5回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 1061-1123 |
| | 7 | Unit 11: Taste of Temple Life 寺院やその関連施設に宿泊し、宗教について学ぶ「宿坊」ビジネスを見る。 | 語彙問題とリスニング 第6回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 1124-1186 |
| | 8 | Unit 11: Taste of Temple Life 寺院やその関連施設に宿泊し、宗教について学ぶ「宿坊」ビジネスを見る。 | 内容把握と練習問題 第7回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 1187-1249 |
| | 9 | Unit 12: New Take on Tatami 畳の原料で知られる「いぐさ」は今、多様な利用法で注目されている。 | 語彙問題とリスニング 第8回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 1250-1312 |
| | 10 | Unit 12: New Take on Tatami 畳の原料で知られる「いぐさ」は今、多様な利用法で注目されている。 | 内容把握と練習問題 第9回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 1313-1375 |
| | 11 | Unit 13: Traveling with Confidence 旅行などで外食する時の食物アレルギー対策についてのレポート | 語彙問題とリスニング 第10回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 1376-1438 |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|----------------------------|
| | 12 | Unit 13: Traveling with Confidence 旅行などで外食する時の食物アレルギー対策についてのレポート | 内容把握と練習問題 第11回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 1439-1500 |
| | 13 | Unit 14: Tanzanian Students Discover Japan 日本の支援で設立されたタンザニアの「さくら女子中学校」から日本に招かれた未来の「リケジョ」を取り上げる。 | 語彙問題とリスニング | 復習、予習 |
| | 14 | Unit 14: Tanzanian Students Discover Japan 日本の支援で設立されたタンザニアの「さくら女子中学校」から日本に招かれた未来の「リケジョ」を取り上げる。 | 内容把握と練習問題 | 復習、予習 |
| | 15 | 復習 定期テストの前に後期学習内容の重点を見る。 | 後期内容の復習と弱点補強 | 定期試験（後期末）の準備 |
| 関連科目 | 他の英語科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | NHK NEWSLINE | 山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika. C. Yamazaki | 金星堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 共通試験 30% (TOEIC20%、統一単語テスト 10%)、e-learning 学習の進捗度 10%、定期テスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。詳しくは第1回目に授業で説明する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 ・授業計画は進度によって変わる場合がある。 ・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語中級 | 科目名(英文) | Practical English for Intermediates |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | B |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 箕田 正開 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2420c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | CNNが配信している学生向けのニュースから大学生の関心が高そうなトピックを収録するDVD教材を用いる。各種の練習問題を通じて語彙力、リスニングの力を増すことを目標とする。 最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | TOEIC400点(TOEIC Bridge 140点)以上の実力をつけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は‘Active Participation in Class’(授業への積極的な参加)が前提である。双方向の全員参加の授業を展開する。教科書の内容を補うプリントが毎回配布されるので、それに基づいて回答することが求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC550点以上は必ず取れるはずだ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|-----------------------|------------------------------------|
| | | | UNIT 9の予習 単語学習範囲: 809-858 |
| 1 | Unit 9: ナイジェリア出身の女性ボクサー選手 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 9の予習 単語学習範囲: 809-858 |
| 2 | Unit 9: ナイジェリア出身の女性ボクサー選手 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 9の復習、予習 単語学習範囲: 859-908 |
| 3 | Unit 10: 動物を管轄する動物 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 10の予習 単語学習範囲: 909-958 |
| 4 | Unit 10: 動物を管轄する動物 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 10の復習、予習 単語学習範囲: 959-1008 |
| 5 | Unit 11: グーグルがなかった時代には | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 11の予習 単語学習範囲: 1009-1058 |
| 6 | Unit 11: グーグルがなかった時代には | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 11の復習、予習 単語学習範囲: 1059-1108 |
| 7 | Unit 12: 料理を3Dプリンターで | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 12の予習 単語学習範囲: 1109-1158 |
| 8 | Unit 12: 料理を3Dプリンターで | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 12の復習、予習 単語学習範囲: 1159-1208 |
| 9 | Unit 13: ビットコインの表と裏 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 13の予習 単語学習範囲: 1209-1258 |
| 10 | Unit 13: ビットコインの表と裏 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 13の復習、予習 単語学習範囲: 1259-1308 |
| 11 | Unit 14: 古くなった紙幣は土へ | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 14の予習 単語学習範囲: 1309-1358 |
| 12 | Unit 14: 古くなった紙幣は土へ | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 14の復習、予習 単語学習範囲: 1359-1408 |
| 13 | Unit 15: ネットワーク中立性を考えよう | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 15の予習 単語学習範囲: 1409-1458 |
| 14 | Unit 15: ネットワーク中立性を考えよう | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 15の復習、予習 単語学習範囲: 1459-1500 |
| 15 | 復習 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | 定期試験(前期末)の準備 単語学習範囲: 1459-1500 |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 他の英語科目 |
|------|--------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|------------------------------|-----------------|-------|
| | 1 | CNN 10, Vol.2 -Student News- | Fuyuhiko Sekido | 朝日出版社 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 期末試験 30% 提出課題 30% TOEIC 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 10% |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 英語の辞典を持参してください。 単語学習範囲(20個)は授業中に毎回練習しますので、その範囲の予習・復習を、e-learning 学習を含めて、毎日1時間は学習してください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 課題等の提出物は授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語中級 | 科目名(英文) | Practical English for Intermediates |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | C |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 井寺 利奈 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2420c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | イギリスと日本の文化を比較したエッセイを読み、語彙や文法といった英語力の底上げを行う。 1回生までに学んできたことを復習しながら、より長い英文を「正確に」読めるようになることを目的とする。 |
| 到達目標 | TOEIC300点(TOEIC Bridge 120点)以上の実力を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 授業の最初に単語テスト(指定範囲)を行う。 教科書に従って、リーディング、文法、リスニングの能力を磨くタスクを行い、各ユニットの最後に小テストを実施する。 和訳、演習問題、音読などはすべて学生に指名し、全員参加型の授業を目指す。 ※授業には必ず辞書を持参すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 各種英語検定試験(特にTOEIC)に必要な基礎力を身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|--|
| | | | |
| 1 | Unit 8 Weather and Global Warming 白い氷河が灰色に変化 | 単語テスト: 809-840 present tense (現在時制) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 2 | Unit 8 Weather and Global Warming 白い氷河が灰色に変化 | 単語テスト: 841-900 present tense (現在時制) Unit 8 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 3 | Unit 9 Recycling リサイクルの積極的な取り組み | 単語テスト: 901-960 present tense (現在時制) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 4 | Unit 9 Recycling リサイクルの積極的な取り組み | 単語テスト: 961-1020 past tense (過去形) Unit 9 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 5 | Unit 10 Commuting 通勤電車で快適に過ごす方法 | 単語テスト: 1021-1080 past tense (過去形) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 6 | Unit 10 Commuting 通勤電車で快適に過ごす方法 | 単語テスト: 1081-1240 progressive forms (進行形) Unit 10 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 7 | Unit 11 Crumbling Britain 崩れ落ちるままの崖 | 単語テスト: 1241-1300 progressive forms (進行形) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 8 | Unit 11 Crumbling Britain 崩れ落ちるままの崖 | 単語テスト: 1301-1360 perfect tense (完了形) Unit 11 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 9 | Unit 12 Advertising 購買欲を刺激する広告 | 単語テスト: 1361-1420 perfect tense (完了形) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 10 | Unit 12 Advertising 購買欲を刺激する広告 | 単語テスト: 1421-1480 articles/ pronouns (冠詞/ 代名詞) Unit 12 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 11 | Unit 13 Technology and Us 社会を変える先端技術 | 単語テスト: 1481-1500 articles/ pronouns (冠詞/ 代名詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 12 | Unit 13 Technology and Us 社会を変える先端技術 | 単語テスト: 809-1000 nouns: countable, uncountable (名詞) Unit 13 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 13 | Unit 14 Cars: Transport or Status 技術進化の目覚ましい車 | 単語テスト: 1001-1200 nouns: countable, uncountable (名詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 14 | Unit 14 Cars: Transport or Status 技術進化の目覚ましい車 | 単語テスト: 1201-1400 adjectives/ adverbs (形容詞/ 副詞) Unit 14 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 15 | Unit 15 Our Education 母こそ最高の教育者 | 単語テスト: 1400-1500 adjectives/ adverbs (形容詞/ 副詞) Unit 15 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |

| | |
|------|------------|
| 関連科目 | その他の英語関連科目 |
|------|------------|

| | | | | |
|-----|----|---|--------------------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | English Indicator2 (Pre-Intermediate) | Terry O'Brien etc. | 南雲堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%) 定期試験 30%、小テスト 10% |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| | <p>授業参加態度 20% e-learning10%</p> <p>※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席をする、教科書を持参しないなど）は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p> |
| 学生へのメッセージ | <p>この授業では、英語力の基本であるリーディングの学習だけでなく、映像を使ったリスニングやライティングのアクティビティも行いたいと考えています。積極的かつ集中して授業に臨んでください。</p> |
| 担当者の研究室等 | <p>7号館 2階（非常勤講師室）</p> |
| 備考 | <p>授業の前後に合計2時間程度、予習と復習、単語学習（e-learning）を行うよう心がけてください。</p> <p>※授業計画は進度によって変更する場合があります。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等は授業中にフィードバックする。</p> |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語中級 | 科目名(英文) | Practical English for Intermediates |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | D |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 梅田 尋道 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2420c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>基本的な英語能力で専門的な分野(科学的内容を)を学ぶ。</p> <p>TOEIC Bridge, TOEIC 対策も目的とする。</p> |
| 到達目標 | <p>正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。</p> <p>基礎的な英語力で、理系科学に関する内容を読解、説明できるようになる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>講義(解説)と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。</p> <p>辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。</p> <p>指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>英語の基礎的な語彙力、文法力が身に付きます。</p> <p>英文の基礎読解力、英語での簡単な表現力が身に付きます。</p> <p>理系科学に関する内容を英語で理解できるようになります。</p> |

| | | | | |
|------|----|-----------------------------|--|--|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | Introduction | 授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定 | 教科書と辞書を持参 |
| | 2 | 戦争 語彙、チャンク、viewing | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0809-0880 |
| | 3 | 許可 語彙、チャンク、viewing | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0881-0960 |
| | 4 | 寛容の博物館 語彙、チャンク、viewing | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0961-1040 |
| | 5 | ここが僕の家 語彙、チャンク、viewing | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1041-1120 |
| | 6 | アンネの日記 語彙、チャンク、viewing | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1121-1200 |
| | 7 | Review 1 | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1201-1280 |
| | 8 | まとめと中間テスト ヒーロー | これまでのまとめと中間テスト | 中間テストの準備 |
| | 9 | 証言 語彙、チャンク、viewing | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1281-1360 |
| | 10 | どっちを選ぶ 語彙、チャンク | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1361-1440 |
| | 11 | 仕事に祝福される 語彙、チャンク、viewing | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1441-1460 |
| | 12 | 自分の声 語彙、チャンク、viewing | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 統一単語テストの準備 |
| | 13 | Review 2 | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 |
| | 14 | まとめ | これまでの項目の総復習 | 期末テストの準備 |

関連科目: その他の英語関連科目

| | | | | |
|-----|----|---|-----------|----------------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | Freedom Writers | O. Tanaka | Tsurumi Shoten |
| | 2 | The 1500 core vocabulary for the ToEIC test | 西谷恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

評価方法(基準): 共通試験 30% (TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト 10%)
 中間テストと定期試験 40%
 提出物・授業参加 20%
 e-learning10%の割合で評価する。

※授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など)は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。

学生へのメッセージ: "Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes." — John Dewey
 たくさん失敗し、たくさん学んでください!

担当者の研究室等: 7号館2階(非常勤講師室)

備考: 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間はかけること
 英単語はe-learning学習など、毎日、平均1時間は学習すること
 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
 課題等の提出物は授業中にフィードバックする。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語中級 | 科目名(英文) | Practical English for Intermediates |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | E |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 平尾 秀実 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2420c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | TOEIC Bridge テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。TOEIC Bridge に慣れて、高得点を目指すようになることが目標である。 |
| 到達目標 | TOEIC300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO.1~NO.400の範囲を毎回20単語ずつ10回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけでなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC Bridge のリスニング、語彙、文法、読解力の向上 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|-----------------------------------|--|
| | | | |
| 2 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト1 | 単語テストの予習 NO.0869-0928 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 3 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習 単語テスト2 | 単語テストの予習 NO.0929-0988 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 4 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト3 | 単語テストの予習 NO.0989-1048 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 5 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト4 | 単語テストの予習 NO.1049-1108 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 6 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト5 | 単語テストの予習 NO.1109-1168 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 7 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト1-2 | 単語テストの予習 NO.1169-1228 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 8 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト2-2 | 単語テストの予習 NO.1229-1288 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 9 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト3-2 | 単語テストの予習 NO.1289-1348 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 10 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト4-2 | 単語テストの予習 NO.1349-1408 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 11 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 単語テスト5-2 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テストの予習 NO.1409-1468 |
| 12 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テストの予習 NO.1469-1500 |
| 13 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 14 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法、Listeningの練習 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 15 | 総まとめ TOEIC 形式 ポストテスト | 総復習 TOEIC ポストテスト | 重要項目、フレーズの整理、総復習 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---------------------------------------|------|------|
| | 1 | Essential Approach for the TOEIC Test | 山本厚子 | 成美堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | NISHIYA Koji | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 共通試験 30% (TOEIC Bridge 20%、統一英語単語テスト 10%)、定期試験 30%、小テスト 10%、レポート 10%、課題テスト 10%、e-learning 10%の割合で評価する。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | ・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキスト付属CDを使って自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましよう。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前事後学習(それぞれ約1時間)以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。 課題テストで間違った所は復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、課題テスト、レポート等は授業中にフィードバックする。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語中級 | 科目名(英文) | Practical English for Intermediates |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | F |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 木村 ゆみ |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2420c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。実際のTOEICテストに慣れ、高得点を目指すことを目標とする。 |
| 到達目標 | TOEIC400点 (TOEIC Bridge 140点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO 809～NO 1500 の範囲を初回は32単語以後毎回60単語ずつ12回に分けてテストする。また、テキストの内容も各章ごとに確認のための臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC のリスニング、語彙、文法、読解力の向上 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 32単語 (NO 809～840) の学習とテスト | ・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 単語テスト1 | 文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テスト予習 NO 841～900 |
| 2 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 接続詞1 単語テスト2 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 911～960 |
| 3 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 接続詞2 単語テスト3 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 961～1020 |
| 4 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 不定詞1 単語テスト4 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1021～1080 |
| 5 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、動名詞 単語テスト5 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1081～1140 |
| 6 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、現在完了1 単語テスト6 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1141～1200 |
| 7 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、現在完了2 単語テスト7 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1201～1260 |
| 8 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法 文型1 単語テスト8 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1261～1320 |
| 9 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、文型2 単語テスト9 | 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1321～1380 |
| 10 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法 文型3 単語テスト10 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 1381～1440 |
| 11 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、関係代名詞1 単語テスト11 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テスト予習 NO 1441～1500 |
| 12 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法、関係代名詞2 単語テスト12 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 13 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法のまとめ | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 14 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法のまとめ | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 15 | 総まとめ TOEIC形式 ポストテスト | 総復習 TOEIC ポストテスト | 重要項目、フレーズの整理、総復習 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|---|-------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | First Primer (revised edition) | 佐藤 哲三 | 南雲堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 共通試験30% (TOEIC Bridge 20% 統一英語単語テスト 10%) 授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼应状態、積極性など) 10%、臨時試験+課題提出 30%、定期試験 20%、e-learning 10% として総合的に評価する。 |
| 学生への | ・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 |

| | |
|--------------|--|
| メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキストの音声をダウンロードして自宅学習を行いましょ う。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | <p>事前事後学習（それぞれ約1時間）以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。</p> |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語中級 | 科目名(英文) | Practical English for Intermediates |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 西谷 継治 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2420c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | TOEIC 400点の実力を旨し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。 |
| 到達目標 | TOEIC400点以上の実力 (TOEIC Bridge 140点) |
| 授業方法と留意点 | 授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|---------------------------|--|
| | | | 教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 1 | Introduction | 授業内容の詳しい解説 | 単語小テスト NO.0809-0880 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 2 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習(品詞の種類) | 単語小テスト NO.0881-0950 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 3 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (be 動詞及び時制) | 単語小テスト NO.0951-1020 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 4 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (一般動詞及び時制) | 単語小テスト NO.1021-1090 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 5 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (助動詞) | 単語小テスト NO.1091-1160 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 6 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (現在完了形) | 単語小テスト NO.1231-1300 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 7 | Review | 前半の復習 | 単語小テスト NO.1301-1370 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 8 | 前半のまとめ | 前半のまとめも文法・読解演習 | 単語小テスト NO.1371-1440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 9 | 前半試験返却及び解説 | 前半試験返却及び解説 | 単語小テスト NO.1441-1500 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 10 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (不定詞) | 単語小テスト NO.1501-1570 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 11 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (分詞及び動名詞) | 単語小テスト NO.1571-1640 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 12 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (比較) | 単語小テスト NO.1641-1710 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 13 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (受動態) | 単語小テスト NO.1711-1780 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 14 | 読解、文法、語彙 | TOEIC 文法・読解演習 (仮定法) | 単語小テスト NO.1781-1850 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |
| 15 | Review | 後半復習 | 単語小テスト NO.1851-1920 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること |

| | |
|------|-----------------------|
| 関連科目 | TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般 |
|------|-----------------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|--------------|------|
| | | | 1 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | NISHIYA Koji | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 共通試験 (TOEIC 又は TOEICブリッジ) 20%, 統一単語テスト 10%, e-learning 学習の進捗度 10%, 定期試験 40% (場合によっては中間試験を実施する場合がある (実施する場合, 中間・期末試験各 20%) 小テスト 10% 授業態度 (発表など) 10% の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80% 以上の学生のみを成績評価の対象とする。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。 |
|-----------|-------------------------------|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 小テストは70%を合格とし、不合格の者は再提出とする 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等は授業中にフィードバックする。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | 実践英語中級 | 科目名 (英文) | Practical English for Intermediates |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 久田 歩 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2420c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 英語の読み・書き・話し・聴く四技能をバランスよく伸ばし、TOEIC などの英語資格試験のスコアアップに繋がるような実践力を身に付けることを目標とします。 |
| 到達目標 | ・TOEIC 400 点 (TOEIC Bridge140)以上取得 ・統一英語単語テストでの高得点 |
| 授業方法と留意点 | ・リンガポルタの e-learning 課題はスケジュールに沿って、授業外で自習してください。 |
| 科目学習の効果 (資格) | TOEIC テスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------|--|--|
| | | | |
| 2 | Food cultrue 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 2 Time Machine with a flag on Top 単語テスト 1 | TOEIC 単語 880-948 ユニット 1 復習 ユニット 3 予習 |
| 3 | Work / Life Style 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 3 Start and Finish Work Early 単語テスト 2 | TOEIC 単語 949-1017 ユニット 2 復習 ユニット 4 予習 |
| 4 | Society / Technology 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 4 Humanoids in the Aging Society 単語テスト 3 | テキスト内の単語 ユニット 1?4 復習 テスト対策 TOEIC 単語 1018-1086 |
| 5 | チェックテスト第一回 採点 講評/解説 | 単語テスト 4 テスト・採点・質問受付・解説 | TOEIC 単語 1087-1155 復習、テスト対策 ユニット 5 予習 |
| 6 | Gender / Work 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 5 No longer a Man's World 単語テスト 5 | TOEIC 単語 1156-1224 Unit 3 ユニット 5 復習 ユニット 6 予習 |
| 7 | Events / History 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 6 What will the 2020 Game Give us? 単語テスト 6 | TOEIC 単語 1225-1293 ユニット 6 復習 ユニット 7 予習 |
| 8 | Social Problem 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 7 Your Name is not on the List 単語テスト 7 | TOEIC 単語 1294-1362 ユニット 7 復習 ユニット 8 予習 |
| 9 | Natural Disaster 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 8 When Quakes Hit, Eruptions May Follow 単語テスト 8 | テキスト内の単語 ユニット 5?8 復習 テスト対策 |
| 10 | チェックテスト第二回 採点 講評/解説 | テスト・採点・質問受付・解説 | TOEIC 単語 1363-1431 ユニット 9 予習 |
| 11 | Aging Society 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 9 As Young as 70 Years Old 単語テスト 9 | TOEIC 単語 1432-1500 ユニット 9 復習 ユニット 10 予習 |
| 12 | Music 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 10 The Music Industry Needs to Change 単語テスト 10 | ユニット 10 復習 ユニット 12 予習 |
| 13 | Medicine 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 12 How About a Nose Job in Malaysia 単語テスト 11 | テキスト内の単語 ユニット 12 復習 ユニット 14 予習 |
| 14 | Animals 語彙 | 語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 14 Animal's Human Rights 単語テスト 12 | テキスト内の単語 ユニット 9, 10, 12, 14 復習 テスト対策 |
| 15 | チェックテスト第三回 採点 講評/解説 | テスト・採点・質問受付・解説 | 期末テストの準備 復習 |

| | |
|------|---------------|
| 関連科目 | 実践英語入門、実践英語初級 |
|------|---------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|-------------------------|---------|------|
| | 1 | Reading in Action Basic | 静 哲人 編著 | 金星堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷恒志 | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 単語テスト 2点 x 12回 24% (毎回直後にクラス内で採点) 積極参加点 11% (3回のチェックテストは点数によって ?2?+2点の加算、それに積極参加点が加わります) 期末試験 25% 統一英語単語テスト 10% TOEICまたはTOEICブリッジ 20% e-learning (リンガポルタ) 10% 原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 英語力をつけるには、インプット量とアウトプット量を増やすことが重要です。この授業を通して彩り豊かな英語にたくさん触れてください。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2F 非常勤講師室 木曜日(午前中) | | | |
| 備考 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 実践英語入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Practical English |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | A |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 湊 由妃子 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2418c2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 読解を中心に行う授業である。1回生で習得した読解力に加えて、英語を聴いて、内容を理解する段階まで進めていきたい。また、より長い文章を読むことにより、より多くの語彙力、文法力をつけていくことを目的とする。 教科書は、NHKの海外放送向け番組 NEWSLINE から採択されたものを取り上げているので、今のニュースを英語を通して学べる。英語能力の向上とともに、日本で起こっていることを英語を通して見て、考える。 |
| 到達目標 | DVD を見て、今の英語を「聴き」「読む」ことでリスニングとリーディングの能力を向上させることを最大の目標とする。まじめに授業に取り組み、自らの努力することで、必ず英語の力がつき、TOEIC のスコアアップにつながるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 語学の授業であるので、学生主導で進めていく。リスニング・、訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かせなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 授業で習得した読解力は英検や TOEIC、 TOEIC Bridge 等のテストに必ず役立つ。 |

| | | | | |
|------|----|---|-------------------------------------|-----------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンス 英語ニュース | 授業の進め方と評価方法の説明 英語のニュースを聞き取りと内容把握 | 教科書をもってくること Unit 1 の予習 |
| | 2 | Unit 1: Sprouting New Sushi Ideas 日本の食文化を最近の寿司を通して紹介する。 | 語彙問題とリスニング 第1回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0001-0040 |
| | 3 | Unit 1: Sprouting New Sushi Ideas 日本の食文化を最近の寿司を通して紹介する。 | 内容把握と練習問題 第2回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0041-0080 |
| | 4 | Unit 2: In the Pole Position 日本の祭りに魅せられたアメリカ人のチャレンジを取り上げる。 | 語彙問題とリスニング 第3回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0081-0120 |
| | 5 | Unit 2: In the Pole Position 日本の祭りに魅せられたアメリカ人のチャレンジを取り上げる。 | 内容把握と練習問題 第4回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0121-0160 |
| | 6 | Unit 3: Easing Off 今、日本で見られる働き方の変化をあるパン屋さんを通してみる。 | 語彙問題とリスニング 第5回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0161-0200 |
| | 7 | Unit 3: Easing Off 今、日本で見られる働き方の変化をあるパン屋さんを通してみる。 | 内容把握と練習問題 第6回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0201-0240 |
| | 8 | Unit 4: In Memory of Monty 東日本大震災で亡くなった一人の外国人の日本での足跡をたどる。 | 語彙問題とリスニング 第7回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0241-0280 |
| | 9 | Unit 4: In Memory of Monty 東日本大震災で亡くなった一人の外国人の日本での足跡をたどる。 | 内容把握と練習問題 第8回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0281-0320 |
| | 10 | Unit 5: Dating the AI Way 最近の男女の出会いと IT 事情を探る。 | 語彙問題とリスニング 第9回単語テスト | 復習、予習 単語学習範囲: 0321-0360 |
| | 11 | Unit 5: Dating AI Way 最近の男女の出会いと IT 事情を探る。 | 内容把握と練習問題 第10回単語テスト | 復習、の予習 単語学習範囲: 0361-0400 |
| | 12 | Unit 6: Floating on a Dream 一人の男性の「青森ねぶた祭り」の伝統継承を通しての苦労を取り上げる。 | 語彙問題とリスニング | 復習、予習 |
| | 13 | Unit 6: Floating on a Dream | 内容把握と練習問題 | 復習、予習 |

| | | | | |
|---------------|---|---|---|------|
| | 一人の男性の「青森ねぶた祭り」の伝統継承を通しての苦勞を取り上げる。 | | | |
| 14 | Unit 7: Japan Adventurer Completes Grand Slam 大学生冒険家が世界最年少でやり遂げた夢を語る。 | 語彙問題とリスニング | 復習、予習 | |
| 15 | Unit 7: Japan Adventure Completes Grand Slam 大学生冒険家が世界最年少でやり遂げた夢を語る。 | 内容把握と練習問題 | 復習と定期試験（前期末）の準備 | |
| 関連科目 | 他の英語科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | NHK NEWSLINE 2 | 山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki | 金星堂 |
| | 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | 西谷 恒志 | 成美堂 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 統一単語テスト 20%、e-learning 学習の進捗度 20%、定期テスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 詳しくは第 1 回目に授業で説明する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7 号館 2 階 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 ・授業計画は進度によって変わる場合がある。 ・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 実践英語入門 | 科目名(英文) | Introduction to Practical English |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | B |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 箕田 正開 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2418c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | CNNが配信している学生向けのニュースから大学生の関心が高そうなトピックを収録するDVD教材を用いる。各種の練習問題を通じて語彙力、リスニングの力を増すことを目標とする。 最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 |
| 到達目標 | TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は‘Active Participation in Class’ (授業への積極的な参加) が前提である。双方向の全員参加の授業を展開する。 教科書の内容を補うプリントが毎回配布されるので、それに基づいて回答することが求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC 550点以上は必ず取れるはずです。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|----------------------|-----------------------|---------------------------------|----|
| | | | 事前 | 事後 |
| 1 | Unit 1: 金の歴史とスイスの事情 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 1の予習 単語学習範囲: 01-35 | |
| 2 | Unit 1: 金の歴史とスイスの事情 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 1の復習、予習 単語学習範囲: 36-70 | |
| 3 | Unit 2: 標準時間と夏時間 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 2の予習 単語学習範囲: 71-105 | |
| 4 | Unit 2: 標準時間と夏時間 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 2の復習、予習 単語学習範囲: 106-140 | |
| 5 | Unit 3: 図書館を作ろう | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 3の予習 単語学習範囲: 141-175 | |
| 6 | Unit 3: 図書館を作ろう | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 3の復習、予習 単語学習範囲: 176-210 | |
| 7 | Unit 4: ピラミッドとテクノロジー | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 4の予習 単語学習範囲: 211-245 | |
| 8 | Unit 4: ピラミッドとテクノロジー | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 4の復習、予習 単語学習範囲: 246-290 | |
| 9 | Unit 5: 不思議な顔料 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 5の予習 単語学習範囲: 291-325 | |
| 10 | Unit 5: 不思議な顔料 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 5の復習、予習 単語学習範囲: 326-360 | |
| 11 | Unit 6: 未来型ショッピング | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 6の予習 単語学習範囲: 361-395 | |
| 12 | Unit 6: 未来型ショッピング | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 6の復習、予習 単語学習範囲: 396-430 | |
| 13 | Unit 7: 科学者で折り紙職人 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 7の予習 単語学習範囲: 396-430 | |
| 14 | Unit 7: 科学者で折り紙職人 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | UNIT 7の復習、予習 単語学習範囲: 396-430 | |
| 15 | Unit 8: アイスcream大学 | 内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題 | 定期試験(前期末)の準備 単語学習範囲: 396-430 | |

関連科目 他英語科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|------------------------------|-----------------|-------|
| | 1 | CNN 10, Vol.2 -Student News- | Fuyuhiko Sekido | 朝日出版社 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 期末試験 30% 提出課題 30% 統一英語単語テスト 20% e-learning 20% |
|----------|---|

学生へのメッセージ
There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
英語の辞典を持参してください。
単語学習範囲(20個)は授業中に毎回練習しますので、その範囲の予習・復習を、e-learning学習を含めて、毎日1時間は学習してください。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
課題等の提出物は授業中にフィードバックする。

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 実践英語入門 | 科目名 (英文) | Introduction to Practical English |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | C |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 井寺 利奈 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2418c2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | イギリスと日本の文化を比較したエッセイを読み、語彙や文法といった英語力の底上げを行う。 1回生までに学んできたことを復習しながら、より長い英文を「正確に」読めるようになることを目的とする。 |
| 到達目標 | TOEIC300点(TOEIC Bridge 120点)以上の実力を身につける。 |
| 授業方法と留意点 | 授業の最初に単語テスト(指定範囲)を行う。 教科書に従って、リーディング、文法、リスニングの能力を磨くタスクを行い、各ユニットの最後に小テストを実施する。 和訳、演習問題、音読などはすべて学生に指名し、全員参加型の授業を目指す。 ※授業には必ず辞書を持参すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 各種英語検定試験(特にTOEIC)に必要な基礎力を身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|--|
| | | | |
| 1 | Introduction | 授業の進め方、成績評価の方法、注意点についての説明、座席の指定 | テキストを準備しておくこと |
| 2 | Unit1 Our Aging Society いたって多趣味で元気な高齢者 | 単語テスト: 1-40 present tense (現在時制) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 3 | Unit1 Our Aging Society いたって多趣味で元気な高齢者 | 単語テスト: 41- 80 present tense (現在時制) Unit 1 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 4 | Unit2 Holiday Memories 幼いときのほろ苦い思い出 | 単語テスト: 81-120 past tense (過去形) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 5 | Unit2 Holiday Memories 幼いときのほろ苦い思い出 | 単語テスト: 121-160 past tense (過去形) Unit 2 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 6 | Unit3 Sport 卒業後も続けるスポーツ | 単語テスト: 161-200 progressive forms (進行形) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 7 | Unit3 Sport 卒業後も続けるスポーツ | 単語テスト: 201-240 progressive forms (進行形) Unit 3 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 8 | Unit 4 Foreign Workers 孤立するか融合するか? | 単語テスト: 241-280 perfect tense (完了形) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 9 | Unit 4 Foreign Workers 孤立するか融合するか? | 単語テスト: 281-320 perfect tense (完了形) Unit 4 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 10 | Unit5 Lifestyle 若者が夢見る未来は? | 単語テスト: 321-360 articles/ pronouns (冠詞/ 代名詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 11 | Unit5 Lifestyle 若者が夢見る未来は? | 単語テスト: 361-400 articles/ pronouns (冠詞/ 代名詞) Unit 5 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 12 | Unit6 Sizes 量と質のどちらが嬉しい? | 単語テスト: 1-100 nouns: countable, uncountable (名詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 13 | Unit6 Sizes 量と質のどちらが嬉しい? | 単語テスト: 101-200 nouns: countable, uncountable (名詞) Unit 6 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 14 | Unit 7 Bathrooms シャワーと風呂文化の違い | 単語テスト: 201-300 adjectives/ adverbs (形容詞/ 副詞) | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |
| 15 | Unit 7 Bathrooms シャワーと風呂文化の違い | 単語テスト: 301-400 adjectives/ adverbs (形容詞/ 副詞) Unit 7 小テスト | 単語テスト対策 授業で指示するテキスト範囲の予習 テキストの音読と演習問題の復習 |

関連科目: その他の英語関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---|---------------------|------|
| | 1 | English Indicator2 < Pre-Intermediate > | Terry O' Brien etc. | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法(基準): 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、
定期試験 30%
小テストと授業態度 30%

| | |
|-----------|--|
| | e-learning20% ※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど）は教室に来ていても「欠席」扱いとします。また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。 |
| 学生へのメッセージ | この授業では、英語力の基本であるリーディングの学習だけでなく、映像を使ったリスニングやライティングのアクティビティも行いたいと考えています。積極的かつ集中して授業に臨んでください。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階（非常勤講師室） |
| 備考 | 授業の前後に合計2時間程度、予習と復習、単語学習（e-learning）を行うよう心がけてください。 ※授業計画は進度によって変更することがあります。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等は授業中にフィードバックする。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 実践英語入門 | 科目名(英文) | Introduction to Practical English |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | D |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 梅田 尋道 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2418c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。 基本的な英語能力で専門的な分野(科学的内容)を学ぶ。 TOEIC Bridge, TOEIC 対策も目的とする。 |
| 到達目標 | 正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。 基礎的な英語力で、理系科学に関する内容を読解、説明できるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義(解説)と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。 辞書を引き、十分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。 指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC300 点台を突破する読解力・リスニング力の習得。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|--|--|
| | | | |
| 1 | Introduction | 授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定 | 教科書と辞書を持参する |
| 2 | 人種間の対立 | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0001-0038 |
| 3 | 人種間の対立 | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0039-0076 |
| 4 | 国語の教師 | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0077-0114 |
| 5 | 国語の教師 | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0115-0152 |
| 6 | 縄張り | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0153-0190 |
| 7 | 縄張り | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0191-0228 |
| 8 | まとめと中間テスト | これまでのまとめと中間テスト | 中間テストの準備 |
| 9 | 国境線 | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0229-0266 |
| 10 | 国境線 | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0267-0304 |
| 11 | 知らないのに? | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0305-0342 |
| 12 | 知らないのに? | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0343-0400 |
| 13 | ライン・ゲーム | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 統一単語テストの準備 |
| 14 | ライン・ゲーム | テキスト実践、解説 | 学習範囲の英文の音読 |
| 15 | まとめ | これまでの項目を総復習 | 期末試験の準備 |

| | |
|------|------------|
| 関連科目 | その他の英語関連科目 |
|------|------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|-----------------|-------------|----------------|
| | 1 | Freedom Writers | O. Tanaka 他 | Tsurumi Shoten |
| 2 | The 1500 core vocabulary for the ToEIC test | 西谷恒志 | 成美堂 | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) 中間試験と定期試験 40% 提出物・授業参加 20% e-learning 20%の割合で評価する。 ※授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など)は、教室に来ていても「欠席」扱いです。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | "Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes." — John Dewey たくさん失敗し、たくさん学んでください! |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 事前、事後学習の自主学習時間 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 英単語はe-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習すること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 課題等の提出物は授業中にフィードバックする。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 実践英語入門 | 科目名(英文) | Introduction to Practical English |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | E |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 平尾 秀実 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2418c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | TOEIC Bridge テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。TOEIC Bridge に慣れて、高得点を目指すようになることが目標である。 |
| 到達目標 | TOEIC300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO.1~NO.400の範囲を毎回20単語ずつ10回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC Bridge のリスニング、語彙、文法、読解力の向上 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---------------------------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス、およびTOEIC Bridge形式のプレテスト | ・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・TOEIC プレテスト | 文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO.0001-0030 |
| 2 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0031-0060 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 3 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0061-0090 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 4 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0091-0120 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 5 | 語彙文法問題対策 | 語彙、読解、文法(分詞)の練習 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0121-0150 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 6 | 語彙文法問題対策 | 語彙、読解、文法(接続詞)の練習 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0151-0180 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 7 | 語彙文法問題対策 | 語彙、読解、文法(比較)の練習 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0181-0210 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 8 | 語彙文法問題対策 | 語彙、読解、文法(副詞)の練習 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0211-0240 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 9 | 語彙文法問題対策 | 語彙、読解、文法(形容詞)の練習 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0241-0270 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 10 | 語彙文法問題対策 | 語彙、読解、文法(名詞)の練習 単語テスト | 単語テストの予習 NO.0271-0300 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 11 | 語彙文法問題対策 | 語彙、読解、文法(動詞)の練習 単語テスト | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テストの予習 NO.0301-0330 |
| 12 | 読解問題対策 | 語彙、読解問題の練習 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語テストの予習 NO.0331-400 |
| 13 | 読解問題対策 | 語彙、読解の練習 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 14 | 読解問題対策 | 語彙、読解の練習 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 15 | 読解問題対策 | 語彙、読解の練習 | 重要項目、フレーズの整理、総復習 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 他の英語関連科目 |
|------|----------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|--------------|------|
| | | | |
| 1 | TOEIC TEST Reading 650 | 木村理恵子 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | NISHIYA Koji | 成美堂 |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 30%、小テスト 10%、レポート 10%、課題テスト 10%、e-learning 20%の割合で評価する。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキスト付属CDを使って自宅学習を行いましょ。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょ。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | <p>事前事後学習(それぞれ約1時間)以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。</p> <p>課題テストで間違った所は復習して覚えること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、課題テスト、レポート等は授業中にフィードバックする。</p> |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 実践英語入門 | 科目名(英文) | Introduction to Practical English |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | F |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 木村 ゆみ |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TEN2418c2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。TOEIC Bridge に慣れて、高得点を目指すようになることが目標である。 |
| 到達目標 | TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO 1~NO 400の範囲を毎回40単語ずつ10回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。 |
| 科目学習の効果(資格) | TOEIC Bridge のリスニング、語彙、文法、読解力の向上 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス、およびTOEIC形式のプレテスト | ・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・TOEIC プレテスト | 文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO 1~40 |
| 2 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする Be動詞 単語テスト1 | 単語テストの予習 NO 41~80 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 3 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習 一般動詞1 単語テスト2 | 単語テストの予習 NO 81~120 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 4 | リスニング対策 | リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 一般動詞2 単語テスト3 | 単語テストの予習 NO121~160 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 5 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 進行形 単語テスト4 | 単語テストの予習 NO161~200 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 6 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 未来形 単語テスト5 | 単語テストの予習 NO 201~240 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 7 | 語彙問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 助動詞 単語テスト6 | 単語テストの予習 NO 241~280 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 8 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 名詞 単語テスト7 | 単語テストの予習 NO 281~320 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 9 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 冠詞 単語テスト8 | 単語テストの予習 NO 321~360 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 10 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 代名詞 単語テスト9 | 単語テストの予習 NO 361~400 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 11 | 文法問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 前置詞 単語テスト10 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 12 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 形容詞 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 13 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 副詞 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 14 | 読解問題対策 | 語彙、読解、文法、Listening の練習 比較 | 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 |
| 15 | 総まとめ TOEIC形式 ポストテスト | 総復習 TOEIC ポストテスト | 重要項目、フレーズの整理、総復習 |

関連科目 他の英語関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---|---------------------------------|-------|------|
| | 1 | First Primer (revised edition) | 佐藤 哲三 | 南雲堂 |
| 2 | The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test | | 成美堂 | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法 (基準) 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、反応状態、積極性、発表など) 10%、e-learning 20%の割合で評価する。

学生への ・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。

| | |
|--------------|--|
| メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキストの音声をダウンロードして自宅学習を行いましょ う。 |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | <p>事前事後学習（それぞれ約1時間）以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。</p> |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------|
| 科目名 | 実践の思想 | 科目名(英文) | Ideas for Practice |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 柿本 佳美 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU2407a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では、私たちが無意識のうちに内面化している価値観や規範のルーツである日本思想を手がかりに、先人たちが培ってきたものづくりを支える思想的基盤を知り、プロフェッショナルとしての技術者のありかたを考えます。 技術の発展は、どの人にも人間らしい生活を可能にする社会を実現し、貧困の解消に大いに貢献する一方で、急速な工業化に伴う深刻な環境汚染も引き起こしました。現在、人間が引き起こした地球温暖化を食い止め、持続可能な社会を目指す国際的な合意は、自然と調和した技術へのシフトを後押ししています。専門知識を持ち大規模プロジェクトの実行に関わる技術者は、技術がもたらす社会や自然環境への影響が大きくなればなるほど、自らが携わる技術の影響についても熟慮する必要があります。 古来から近世に至る日本社会では、自然との調和を目指す考え方が主流でした。古代から近世にかけての土木技術や建築は、日本列島の気候や地形、自然環境を生かすようにして発展した例と言えるでしょう。そうすると、古代から現代にいたる自然観を知ること、環境に配慮した今後の科学技術のあり方を考えるうえで、一つのヒントになりそうです。 ここでは、私たちの社会のなかで技術と技術者のあり方を支えてきた思想について、学んでいきましょう。 |
| 到達目標 | 日本社会における自然観・技術観を理解し、共生社会を目指す持続可能な技術のあり方を考えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。 |
| 科目学習の効果(資格) | 科学技術をめぐる歴史をたどることで、人間の知的営みとしての技術のあり方を理解する。 日本社会における技術観・自然観を学び、これらを技術全体の歴史のなかに置くことで、日本が生み出した技術の特徴を知ることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | |
|----|-------------------------------|------------------------------------|-----------|---|
| | | | | |
| 1 | はじめに：持続可能な社会と科学技術 | 授業説明と導入。持続可能な社会とは。 | 予習 | 「土木学会倫理綱領」を読んでおく。 |
| 2 | 日本史のなかの技術と思想：古代から中世へ | 技術という視点から見た日本の歴史を学ぶ。 | 予習 | 古代から中世にかけての世界史と、近世までの日本史、高校地理を復習しておく。 |
| 3 | 日本史のなかの技術と思想：近世から近代へ | 技術という視点から見た日本の歴史を学ぶ。 | 予習 | 近代までの日本の歴史を見ておく。 |
| 4 | 日本史のなかの技術と思想：日本における公害の歴史と科学技術 | 4大公害訴訟、汚染者負担の原則、環境アセスメントについて学ぶ。 | 予習 | 4大公害訴訟について調べる。 |
| 5 | 日本史のなかの技術と思想：建築と共生の思想 | 日本建築に見る自然との共生を考察する。 | 予習 | 西岡常一『木に学べ』(小学館文庫)を読んでおく。 |
| 6 | 日本の宗教と自然観：神道 | 神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。 | 予習 | テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。 |
| 7 | 日本の宗教と自然観：仏教 | 仏教の歴史と自然観を学ぶ。 | 予習 | テキストにある『一遍上人語録』『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。 |
| 8 | 日本の組織倫理を支える思想：『論語』から朱子学へ | 日本社会への儒学の影響を知る。 | 予習 | 『論語』を読んでおく。 |
| 9 | 日本の組織倫理を支える思想：武士道と町衆の思想 | 江戸期の多様な思想を知る。 | 予習 | 戦国時代から江戸時代の歴史を復習しておく。 |
| 10 | 日本の思想：福沢諭吉と文明開化 | 荻生徂徠と福沢諭吉の思想を知る。 | 予習 | 青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html)を読んでおく。 |
| 11 | 日本の環境思想：南方熊楠と田中正造 | 日本社会における共生の思想を知る。 | 予習 | 青空文庫にある南方熊楠『神社合祀に関する意見』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html)と、テキストにある南方熊楠『トーテムと命名』を読んでおく。 |
| 12 | 日本の自然観：和辻哲郎『風土』 | 自然環境と文化との関係を考察する。 | 予習 | 高校地理の気候について復習しておく。日本建築の特徴を調べる。 |
| 13 | 生活文化と思想：茶道と禅 | 岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。 | 予習 | テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。 |
| 14 | 日本の美意識と民芸：九鬼周造と柳宗悦 | 自然と調和した美のものづくりを支える思想を知る。 | 予習 | 青空文庫にある九鬼周造『いきの構造』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000065/files/393_1765.html)を読んでおく。 |
| 15 | まとめ：持続可能な社会と科学技術 | 環境アセスメントを手がかりに市民感覚を持った技術者のあり方を考える。 | 予習 | 日本技術士会「技術者倫理綱領」および日本土木学会「倫理綱領」を読むこと。 |

関連科目

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | |
|----|------------|---------------|---|--|
| | | | | |
| 1 | 思想のアンソロジー | 吉本隆明 | ちくま学芸文庫 | |
| 2 | 技術士倫理綱領の解説 | 公益社団法人 日本技術士会 | http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf | |
| 3 | 土木学会倫理綱領 | 公益社団法人 日本土木学会 | http://www.jsce.or.jp/rules/rinnri.shtml | |

| | | | | |
|---------------|--|-----------|-------|---------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 工学の歴史 | 三輪修三 | ちくま学芸文庫 |
| | 2 | ものづくりの科学史 | 橋本毅彦 | 講談社学術文庫 |
| | 3 | 技術の街道をゆく | 畑村洋太郎 | 岩波新書 |
| 評価方法 (基準) | <p>定期試験 60%、提出物 20%、受講態度 20%の割合で総合的に評価する。 提出物については、提出後、評価基準について説明し、全体的な講評を行う。なお、一定の基準に満たない場合は再提出を命じることがある。 受講態度については、グループディスカッションへの参加度および毎回提出するミニレポートで評価する。 なお、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業中に一時退出した場合、受講態度の評価の対象とせず、欠席として扱う。</p> | | | |
| 学生への メッセージ | <p>日本社会における技術の位置づけと技術に携わる人々のあり方にも触れていきますので、技術に携わる者としての考えを深めるように。 遅刻、途中退出はしないこと。私語、スマートフォンの使用等、授業態度が悪い場合、受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室 | | | |
| 備考 | <p>予習・復習にそれぞれ1時間を当てること。また、指定された文献には必ず目を通し、自主学習には20時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。</p> | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------|
| 科目名 | 実践の思想 | 科目名(英文) | Ideas for Practice |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山口 尚 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU2407a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 働くことは人生の時間の大半を占める、と言っても決して過言ではない。本講義のテーマは「仕事と人生」であり、日本人の人生観の源流を振り返ることを通じて、専門技術者を志す学生が身につけておくべき職業倫理を学ぶ。具体的には、近年注目されている「武士道」と「商人道」の違いなどを考察することを通じて、そもそもの「道(どう・みち)」なる発想の根幹を掴み、それを自らの実人生に活用できることを目指す。本講義で学ぶことによって、中江藤樹や柳宗悦などの人生観・職業観を知ることができるのと同時に、社会へ出て働くことに向けた心構えが鍛えられるだろう。 |
| 到達目標 | 職業あるいは仕事を、たんに生きるための手段としてではなく、人生の最も大事な部分を形作る本質的な要素として理解できるような視点——このような視点を鍛え上げることを講義全体の目標とする。 以下の項目の理解を到達目標とする。 1. 武士道と職業倫理 2. 商人道と職業倫理 3. 〈ものづくり〉における倫理 4. 職業と人生の本質的な関係 |
| 授業方法と留意点 | ノート講義形式。講義内容の理解を問うコメントカードや小テストなどによって授業態度を評価する。なお、小テストおよびコメントカードについては、提出した次の回にリアクションや解答をフィードバックする。 授業の予習・復習はそれぞれ1時間程度行うこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | 日本の伝統的な職業観と思想に触れることから、現代の技術者が身につけるべきことは何か、見習うべきことは何かという問いに対して自主的に取り組めるようになる。 |

| | | | | |
|------|----|-------------------|--|--------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 講義の説明 | 事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解(1時間以上) |
| | 2 | 科学と技術の基礎(1) | 自然科学の源流: 自然を素材や道具と見る世界観がどのように育まれてきたかを見る。 | 事後学習 講義ノートの復習(1時間以上) |
| | 3 | 科学と技術の基礎(2) | 近代と産業技術: 産業化という意味の近代化の特徴を確認する。 | 事後学習 講義ノートの復習(1時間以上) |
| | 4 | 江戸時代の思想(1) | 武士道と商人道: ひとびとが社会に生きる際に採用しうる異なるエートスを確認する。 | 事後学習 講義ノートの復習(1時間以上) |
| | 5 | 江戸時代の思想(2) | 中江藤樹の思想: 「孝」の思想を学ぶ。 | 事後学習 講義ノートの復習(1時間以上) |
| | 6 | 江戸時代の思想(3) | 熊沢蕃山の思想: 「心」の思想を学ぶ。 | 事後学習 講義ノートの復習(1時間以上) |
| | 7 | 江戸時代の思想(4) | 安藤昌益の思想: 「農本」の思想を学ぶ。 | 予習 安藤昌益について調べる(1時間以上) |
| | 8 | 江戸時代の思想(5) | 石田梅岩の思想: 「心学」と町人の生き方としての思想を学ぶ。 | 予習 石田梅岩について調べる(1時間以上) |
| | 9 | 江戸時代の思想(6) | 貝原益軒の思想: 「本草学」とは何かを学ぶ。 | 予習 貝原益軒について調べる(1時間以上) |
| | 10 | 職業と人生 | 人生における職業の位置づけ: 「何のために働くのか」を考察する。 | 事後学習 講義ノートの復習(1時間以上) |
| | 11 | 柳宗悦の思想 | 民藝と手仕事: 「機能美」というものについて学ぶ。 | 予習 柳宗悦について調べる(1時間以上) |
| | 12 | 仏教と職業倫理 | 浄土思想と人生観: 「救い」と実生活の関係について学ぶ。 | 予習 浄土仏教について調べる(1時間以上) |
| | 13 | 岡倉天心の思想 | 茶道にみる日本人の美観: 質素であることと生き方の関係について学ぶ。 | 予習 岡倉天心について調べる(1時間以上) |
| | 14 | 科学技術がもたらす社会的倫理的問題 | 職業・生きがい・アパシーについて | 事後学習 講義ノートの復習(1時間以上) |
| | 15 | まとめ | 講義のふりかえり | 事後学習 講義ノートの復習(1時間以上) |

| | |
|------|--------|
| 関連科目 | 哲学から学ぶ |
|------|--------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。評価の仕方は次のとおり。 定期試験60%、授業態度40%の割合で採点する。なお、授業態度とは、講義内容の理解を問うために配布するコメントカードへの記述内容や小テストへの解答内容を指す。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日本の伝統的な「ものの見方」と「立ち居振る舞い方」に触れ、現代社会を主体的に生きていくためのヒントを発見してください。私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、授業態度評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。また、漫然と講義を受けるだけでなく、シラバスを参照し授業の予習・復習を行ないましょう(それぞれ1時間程度)。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--------|
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室 |
|----------|--------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 予習(事前学習)・事後学習には、毎回十分に時間をかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------|
| 科目名 | 社会の仕組み | 科目名(英文) | Structure of Society |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 野々村 元希 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02431a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業は、私たちの生きる社会のしくみ、その一端を理解するためのきっかけを提示するものである。社会のしくみについて理解を深めることは、自分の行為や意識、ひいては他者が経験するさまざまな出来事について理解することにつながるだろう。それは社会で生活する上で大切なことである。こうした問題意識の下、この授業では、まず社会のしくみを理解するための学問である社会学について概説しつつ、社会学的視座から見えてくる家族や教育、政治や経済のしくみや課題について解説する。 |
| 到達目標 | 受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、一歩深い水準から考察することができるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 配布資料を用いた講義形式の授業をおこなう。受講者の理解を深めるために、統計データや小説・映画など、テーマに関連するさまざまな資料を使用する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化から把握する能力を身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------|------------------------|---------------------------|
| | | | |
| 1 | 講義を始めるにあたって | オリエンテーション | 授業の流れについて理解する。 |
| 2 | 社会学とは(1)——定義と歴史的展開 | 社会学とは何か | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 3 | 社会学とは(2)——古典的研究 | デュルケム社会学の立場 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 4 | 個人と集団の社会学 | 個人の行為と意識、個人をとりまく集団 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 5 | 家族の社会学(1)——現代的状況 | 現代家族の状況とその歴史的推移 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 6 | 家族の社会学(2)——デュルケムの視点 | デュルケムの家族論 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 7 | 教育の社会学(1)——現代的状況 | 教育の現代的課題 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 8 | 教育の社会学(2)——デュルケムの視点 | デュルケムの教育論 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 9 | 経済と産業の社会学(1)——リベラリズムという起点 | リベラリズムの成立と歴史的展開 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 10 | 経済と産業の社会学(2)——現代経済の諸情勢 | 現代のネオリベラリズムと福祉国家 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 11 | 経済と産業の社会学(3)——デュルケムの視点 | デュルケムの経済論:社会主義とアノミー | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 12 | 政治の社会学(1)——フランス史の事例 | フランス第三共和政下の政治的対立とデュルケム | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 13 | 政治の社会学(2)——現代政治の諸情勢 | 政治的対立の基本構図 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 14 | 政治の社会学(3)——デュルケムの視点 | デュルケムの政治論:「人格崇拜」 | レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。 |
| 15 | 講義を終えるにあたって | 総括 | 授業全体を振り返る。 |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 授業への積極的参加(学習意欲や課題への取り組みなどを総合的に評価する)20%、期末試験80% 原則として出席率80%以上の受講生のみを成績評価の対象とする。 |
| 学生へのメッセージ | なかなか難しい授業ですが、関心のある人はのぞいてみてください。本を読むこと、考えることが好きな学生の受講を歓迎します。 |
| 担当者の研究室等 | |
| 備考 | 講義内容に関する質問等は、講義終了後に直接、もしくはメールで受け付ける。担当者のメールアドレスは以下の通り。 esp3403@mail2.doshisha.ac.jp また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|----------------------|
| 科目名 | 社会の仕組み | 科目名(英文) | Structure of Society |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 谷口 裕久 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02431a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>この「社会の仕組み」の授業では、社会科学の一端を担う「社会学」や「文化人類学」を考え方の基礎に位置づける。それらの多種多様な枠組みや論題の中から、比較的身近なトピックを選出し、授業上の課題として提示し検討する。</p> <p>主専攻が理工系学問分野である受講生には、「関係性が薄い」と考えられることがあるが、人間自身社会的な存在として生を送る。その意味で重要視せざるを得ない学問分野である。授業の内容は、受講生の専攻に若干傾斜させた「理系的な視点」から、社会の仕組みを講じてゆく。理工学部の受講生にもわかりやすい授業を行いたい。</p> <p>授業の具体的な内容は授業テーマや各回の授業計画を参照いただきたい。この授業では、社会や文化における諸事象を各回のトピックとして取り上げ、講義をすすめる。授業は1, 2回程度で完結するオムニバス形式で行う。</p> <p>これらの諸課題の学習(受講とその後の復習など)を通じて、諸項目の社会的かつ文化的な意味づけを理解しながら、社会全体への認識へとつながる豊かな視点も養成できればと考えている。</p> |
| 到達目標 | この科目の履修によって、授業テーマに挙げた課題に関して、社会学や文化人類学の認識として、適宜、客観的な説明が行えるようになる。このことは大学生としての「教養」を養成することのみならず、社会人としての素養の獲得に直結している。小テストと定期試験により評価を行い、到達度を点数化して表す。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式の座学が中心である。授業内容に即した映像を副次的に教材として利用することがある。積極的にノートをとることが肝要。授業中の私語と携帯電話の使用は厳禁である。自筆ノートが毎回2ページほどずつ蓄積されるが、例年、そのノートを持ち込んで定期試験を行っている。 |
| 科目学習の効果(資格) | 工学諸分野と協同すべき社会や文化の諸課題をめぐり、枠組みや考え方に則して問題を理解し、その解決方法を具体的に検討することができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------|---|---|
| | | | (事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)文化や言語について説明できること。 |
| 1 | イントロダクション/授業の進め方/文化を成立させる要素 | 座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに文化を成立させる要素としての言語の意味について検討し、認識を深める。 | (事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)文化や言語について説明できること。 |
| 2 | 文化を考える | 人間を社会的存在として検討し、その考え方の応用に触れる。 | 受講生自身が文化的存在であることを自身が説明できること。 |
| 3 | 社会を考える | 社会の概念について検討する。 | 受講生自身が社会の一員であることを認識し、さらにその概念について説明できること。 |
| 4 | 個人の社会化と集団+小テスト(1) | 社会における個人とその集団化について検討する。 | 個人とその社会化の概念について説明できること。 |
| 5 | 社会問題をとらえるための概念(1) | 多様化する社会問題のありさまについて検討する。 | 人口問題から環境問題にいたる社会問題について検討するための一定の認識を持つこと。 |
| 6 | 社会問題をとらえるための概念(2) | 社会変動の概念やその特質について検討する。 | 社会変動の概念やその特質について一定の説明ができること。 |
| 7 | 都市化と地域社会(1) | 都市化のありさまについて学説的に検討する。 | 都市化の意味について、一定の説明をすることができること。 |
| 8 | 都市化と地域社会(2) | 都市化と地域社会の具体例について検討する。 | 都市化の概念や地域社会のありさまについて、具体的に説明ができること。 |
| 9 | 家族・親族論(1) | 家族の形態的定義やその事例について検討する。 | 家族に関する認識を深め、それをめぐる事象について、説明ができること。 |
| 10 | 家族・親族論(2)+小テスト(2) | 家族・親族の多様なありさまを具体的に検討する。 | 近代的家族のありさまについて、一定の説明ができる。 |
| 11 | 社会科学と認識 | 社会学や文化人類学など、社会科学の科学的な説明から、その認識の有用性について検討する。 | 社会科学の科学的な認識の重要性について一定の意見を提示することができる。 |
| 12 | 科学技術と社会(1) | 科学技術の誕生と社会的な変遷について検討する。 | 科学技術と社会との連関について一定の説明をすることができる。 |
| 13 | 科学技術と社会(2) | 今日的な科学技術のありさまについて社会的に検討する。 | 科学技術論を社会科学の立場から見渡すことができる。 |
| 14 | 地球環境問題と社会(1) | 世界的な地球環境問題について、社会科学の立場から検討する。 | 地球環境問題について、社会科学の立場から、意見や一定の回答を提示できること。 |
| 15 | 地球環境問題と社会(2) | 地球環境問題に対処するための、社会科学の制度的ありさまについて検討する。 | 地球環境問題について一定の理解があり、それへの対処方法などが具体的に提示ができること。 |

関連科目 なし。

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------|-----|------|
| 1 | 使用しない。 | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------------|-----|------|
| 1 | 授業中に適宜、告知する。 | | |
| 2 | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>定期試験 60%、平常点[授業への参加度・態度を評価する得点] 14 点×1.4 倍[換算係数]≒20%、小テスト(10 点×2 回=20%)の割合で総合的に点数化し、評価する。小テストについては、その次の回で解答を開示し、全体の講評を述べる。</p> <p>原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p> | | | |
| 学生への メッセージ | <p>受講生は授業の内容の中に自分の将来に役に立つ知識を積極的に探そうと努力すること。</p> <p>パワーポイントのスライドを授業時に使用するため、積極的にノートをまとめることが肝要。授業時間中のスマホなどの利用は厳禁する。電源をオフにしてから入室すること。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 6 階、経営学部事務室 | | | |
| 備考 | <p>授業時間内でのノート・テイキングと蓄積された受講生個人のノートを重視するが、それ以外に事後学習の学習時間について記しておく。</p> <p>1) 事前事後学習には、毎回最低 30 分以上かけ、ウェブサイトの情報ではなく、できるだけ既出文献(授業中に告知した参考書を含む)を渉猟すること。</p> <p>2) 期末試験の準備を含め自主学習には、最低でも合計 7 時間はかけること。</p> <p>3) 授業で示す英単語は術語であるため、英語の事前事後学習時間に補足として数分でも時間をかけ、意味内容を把握しておくこと。</p> | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名 | 就職実践基礎 | 科目名(英文) | Preparation Program for Employment Examination |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 山岡 亮太 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標 | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会で必要とされる数的能力を獲得する |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|------------------|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的意義の確認・実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| 2 | 数的思考① | 方程式の活用 | 方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 3 | 数的思考② | 割合の活用① | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 4 | 数的思考③ | 割合の活用② | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 5 | 数的思考④ | 分数の活用 | 分数問題について復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 6 | 中テスト①・数的思考⑤ | 中テスト①・速度の考え方① | 2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間) |
| 7 | 数的思考⑥ | 速度の考え方② | 速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 8 | 数的思考⑦ | 場合の数と確率 | 場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 9 | 数的思考⑧ | 集合の概念 | 集合について復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 10 | 中テスト②・資料解釈 | 中テスト②・表の読み取り | 6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間) |
| 11 | 論理推論① | 順序推理 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 12 | 論理推論② | 内訳・表・位置 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 13 | 論理推論③ | その他論理推論 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 14 | 総復習 | 今までの問題の復習 | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間) |
| 15 | テスト | 最終テスト | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間) |

| | |
|------|---------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発 |
|------|---------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 キャリア教育推進室 |
|----------|-----------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名 | 就職実践基礎 | 科目名(英文) | Preparation Program for Employment Examination |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 亀田 峻宜, 寺内 睦博 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標 | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会で必要とされる数的能力を獲得する |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|------------------|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的意義の確認・実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| 2 | 数的思考① | 方程式の活用 | 方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 3 | 数的思考② | 割合の活用① | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 4 | 数的思考③ | 割合の活用② | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 5 | 数的思考④ | 分数の活用 | 分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 6 | 中テスト①・数的思考⑤ | 中テスト①・速度の考え方① | 2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間) |
| 7 | 数的思考⑥ | 速度の考え方② | 速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 8 | 数的思考⑦ | 場合の数と確率 | 場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 9 | 数的思考⑧ | 集合の概念 | 集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 10 | 中テスト②・資料解釈 | 中テスト②・表の読み取り | 6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間) |
| 11 | 論理推論① | 順序推理 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 12 | 論理推論② | 内訳・表・位置 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 13 | 論理推論③ | その他論理推論 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 14 | 総復習 | 今までの問題の復習 | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間) |
| 15 | テスト | 最終テスト | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間) |

| | |
|------|---------------|
| 関連科目 | コミュニケーション能力開発 |
|------|---------------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|-----|------|
| | | | |
| 1 | オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。 | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------------------|-----|------|
| | | | |
| 1 | その他 SPI や玉手箱関連の問題集 | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 キャリア教育推進室 |
|----------|-----------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| | | | |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名 | 就職実践基礎 | 科目名(英文) | Preparation Program for Employment Examination |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 亀田 峻宣 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。 |
| 到達目標 | 数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会で必要とされる数的能力を獲得する |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|------------------|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション・実力テスト | 講座の目的意義の確認・実力テスト | シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分) |
| 2 | 数的思考① | 方程式の活用 | 方程式について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 3 | 数的思考② | 割合の活用① | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 4 | 数的思考③ | 割合の活用② | 割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 5 | 数的思考④ | 分数の活用 | 分数問題について復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 6 | 中テスト①・数的思考⑤ | 中テスト①・速度の考え方① | 2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間) |
| 7 | 数的思考⑥ | 速度の考え方② | 速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 8 | 数的思考⑦ | 場合の数と確率 | 場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 9 | 数的思考⑧ | 集合の概念 | 集合について復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 10 | 中テスト②・資料解釈 | 中テスト②・表の読み取り | 6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間) |
| 11 | 論理推論① | 順序推論 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 12 | 論理推論② | 内訳・表・位置 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 13 | 論理推論③ | その他論理推論 | 推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分) |
| 14 | 総復習 | 今までの問題の復習 | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間) |
| 15 | テスト | 最終テスト | 全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間) |

関連科目 コミュニケーション能力開発

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|---|-----|------|
| 1 | オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。 | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|--------------------|-----|------|
| 1 | その他 SPI や玉手箱関連の問題集 | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。 |
| 学生へのメッセージ | 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階 キャリア教育推進室 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--|
| 科目名 | 生涯スポーツ実習 | 科目名(英文) | Lifetime Sports |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 河瀬 泰治, 近藤 潤, 藤林 真美, 政岡 悟, 横山 喬之, 渡部 将之 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TPH2413a2 | | |

| | | | | |
|-------------|--|-----------------------|--|---|
| 授業概要・目的 | <p>スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> | | | |
| 到達目標 | <p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。</p> | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） <p>※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。</p> | | | |
| 科目学習の効果(資格) | <p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p> | | | |
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ・ガイダンス | ・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け） | 事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める |
| | 2 | ・種目の概要 ・基礎知識について | ・種目の概要、基礎知識の説明 | 事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る |
| | 3 | ・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム | ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム | 事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り |
| | 4 | ・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り |
| | 5 | ・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り |
| | 6 | ・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り |
| | 7 | ・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り |
| | 8 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| | 9 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| | 10 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| | 11 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| | 12 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| | 13 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| | 14 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| | 15 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括 |
| 関連科目 | <p>スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際</p> | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| 評価方法(基準) | <p>活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。</p> <p>なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p> | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。</p> <p>授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室に来ること。</p> | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>体育館1F 体育館事務室</p> | | | |
| 備考 | <p>【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）</p> | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------|
| 科目名 | 生涯スポーツ実習 | 科目名(英文) | Lifetime Sports |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 河瀬 泰治, 近藤 潤, 藤林 真美, 政岡 悟 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TPH2413a2 | | |

授業概要・目的
 スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。
 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。

到達目標
 この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。
 開講種目は、以下のとおりである。
 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）
 ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ラグビー、ニュースポーツなど）
 ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。

科目学習の効果(資格)
 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | ・ガイダンス | ・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け) | 事前: 授業概要・目的などを学習する 事後: 本実習の理解を深める |
| 2 | ・種目の概要 ・基礎知識について | ・種目の概要、基礎知識の説明 | 事前: 基礎知識を学習しておく 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る |
| 3 | ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム | ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム | 事前: ルールについて学習しておく 事後: 内容の振り返り |
| 4 | ・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り |
| 5 | ・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り |
| 6 | ・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り |
| 7 | ・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り |
| 8 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 9 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 10 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 11 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 12 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 13 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 14 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 15 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 全授業の総括 |

関連科目
 スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準)
 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。
 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
 本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室に来ること。

担当者の研究室等
 体育館1F 体育館事務室

備考
 【準備物】
 トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------------|
| 科目名 | 生涯スポーツ実習 | 科目名(英文) | Lifetime Sports |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期集中 | 授業担当者 | 近藤 潤 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TPH2413a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人のコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。 外部講師の大東将啓は、日本プロゴルフ協会のティーチングプロA級、また日本ゴルフ協会での初博士プロとして活動し、最高レベルの指導を学生に提供できる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|------------------------|--|----|-------|--------|-----------|---|---------|------------------------|--------------|---|----------|-----------------|----------------------------------|---|-------------|------------|--------------------------------------|---|-------------|-------------------|--|---|-------------|-------------|--------------------|---|-------------|--------------------|----------------------|---|-------------|--------|--------------------------------------|---|--------|----------|--|---|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|
| 到達目標 | <p>①健康の保持増進ができる ②運動技能を向上させることができる ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：[A]</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>事前ガイダンス(90分)と集中授業4日間(午前、午後、最終日は午後のみ)合わせて5日間で行う。 日程は、7月に事前ガイダンスを予定(詳細はポータルで連絡)、9月9日(月)～12日(木) 5日間すべて受講できること。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | <p>ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前ガイダンス</td> <td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td> <td>事後：ゴルフの概要を確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゴルフの基礎知識</td> <td>ゴルフのルール、マナーについて</td> <td>事前：ルールの再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴルフの基礎技術(1)</td> <td>グリップ、スウィング</td> <td>事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゴルフの基礎技術(2)</td> <td>打球練習場での練習 アイアン</td> <td>事前：前日の技術練習のポイント再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゴルフの基礎技術(3)</td> <td>アプローチ、パター練習</td> <td>事後：技術の反復練習 ルールの再確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゴルフの応用技術(1)</td> <td>打球練習場での練習 ドライバー</td> <td>事前：前日までの技術練習のポイント再確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ゴルフの応用技術(2)</td> <td>ミニラウンド</td> <td>事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ゴルフの実践</td> <td>ラウンド(9H)</td> <td>事前：ラウンドのイメージトレーニング 事後：授業内容を実習ノートにまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 事前ガイダンス | 目的、内容、準備について ゴルフの概要 | 事後：ゴルフの概要を確認 | 2 | ゴルフの基礎知識 | ゴルフのルール、マナーについて | 事前：ルールの再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる | 3 | ゴルフの基礎技術(1) | グリップ、スウィング | 事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる | 4 | ゴルフの基礎技術(2) | 打球練習場での練習 アイアン | 事前：前日の技術練習のポイント再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる | 5 | ゴルフの基礎技術(3) | アプローチ、パター練習 | 事後：技術の反復練習 ルールの再確認 | 6 | ゴルフの応用技術(1) | 打球練習場での練習 ドライバー | 事前：前日までの技術練習のポイント再確認 | 7 | ゴルフの応用技術(2) | ミニラウンド | 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる | 8 | ゴルフの実践 | ラウンド(9H) | 事前：ラウンドのイメージトレーニング 事後：授業内容を実習ノートにまとめる | 9 | | | | 10 | | | | 11 | | | | 12 | | | | 13 | | | | 14 | | | | 15 | | | |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 事前ガイダンス | 目的、内容、準備について ゴルフの概要 | 事後：ゴルフの概要を確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | ゴルフの基礎知識 | ゴルフのルール、マナーについて | 事前：ルールの再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | ゴルフの基礎技術(1) | グリップ、スウィング | 事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ゴルフの基礎技術(2) | 打球練習場での練習 アイアン | 事前：前日の技術練習のポイント再確認 事後：授業内容を実習ノートにまとめる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | ゴルフの基礎技術(3) | アプローチ、パター練習 | 事後：技術の反復練習 ルールの再確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | ゴルフの応用技術(1) | 打球練習場での練習 ドライバー | 事前：前日までの技術練習のポイント再確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | ゴルフの応用技術(2) | ミニラウンド | 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | ゴルフの実践 | ラウンド(9H) | 事前：ラウンドのイメージトレーニング 事後：授業内容を実習ノートにまとめる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | スポーツ科学実習Ⅰ、Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 態度点50%、技能点25%および実習ノート25%を総合評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 総合体育館1階 近藤研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス(半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴(スパイク類は禁止) ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。 雨天でも行いますので、着替えは多めに準備することと、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------------|
| 科目名 | 心理と社会 | 科目名(英文) | Psychology and Society |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 柏尾 眞津子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1406a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。私たちは、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことができる。 |
| 到達目標 | 心理学の理論を理解し、科学としての心理学的枠組みで、社会や人の行動や心を理解し、健康でバランスのとれた対人関係を構築し、社会に貢献できる知性を身につける。 到達目標：以下の項目の理解を目標とする。 1) 集団の中での個々人の行動 2) 対人的コミュニケーション 3) 文化と心理 |
| 授業方法と留意点 | 講義方式で適宜資料を配布する。ただし、一方的な授業ではなく、小集団による議論や質疑応答のフィードバックなど双方向の授業をするので、積極的、主体的な授業態度が求められる。視聴覚教材なども積極的に取り入れる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 取得できる資格は特にない。しかしながら、自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるために重要な科目である。授業を通じて自己分析の機会が数回あるため、将来の就活に役立つと思われる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------|---|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。 | 身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。 |
| 2 | 心の健康(1) | 心の健康と適応について解説します。 | 授業の前に、テキストのPart2の9「心の健康と適応」を読んで予習してください。 |
| 3 | 心の健康(2) | こころのトラブルについて解説します。 | 日常生活にある心の健康を支えるものについて考えてください。 |
| 4 | 心の健康(3) | 適応と不適応、ストレスについて解説します。 | 自分が暮らしている環境への適応について考えてください。 |
| 5 | 自己(1) | 自己を守ることにについて解説します。 | テキストのPart2の7「自己意識」を読んで事前に予習してください。 |
| 6 | 自己(2) | 自己を意識することにについて解説します。 | 自らの社会的経験も考慮して、自己をうまく表現する方法について考えてください。 |
| 7 | 自己(3) | 自己を表現するテクニックについて解説します。 | 自分に対する他者の評価について考えてください。 |
| 8 | 心の健康と適応(1) | ストレスと健康について解説します。 | テキストのPart2の9「心の健康と適応」の大切なところを要約して、レポートを作成し、提出してください。 |
| 9 | 心の健康と適応(2) | 心の健康、精神障害について解説します。 | 社会で問題となっている精神障害について調べてください。 |
| 10 | 心の構造(1) | 精神分析学について解説します。 | テキストのPart2の8「こころの構造」を読んで、自分のこころについて考えてください。 |
| 11 | 心の構造(2) | 局所論と構造論について解説します。 | 精神分析療法について調べて、レポートを書いてください。 |
| 12 | 心の構造(3) | 神経症と防衛、フロイトと異なる立場をとる分析家たちについて解説します。 | フロイトと異なる立場をとる分析家たちについて調べてください。 |
| 13 | 対人認知(1) | 対人認知のプロセス、パーソナリティの認知について解説します。 | 他者の存在が与える自分に対する影響を考えてください。 |
| 14 | 対人認知(2) | 対人関係の認知について解説します。 | テキストのPart3の10「対人認知」の大切なところを要約してください。 |
| 15 | 社会と心理のまとめ | 社会と心理について総括します。課題試験も並行して実施します。 | テキストおよびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。 |

| | |
|------|----------------------------------|
| 関連科目 | 心理学 I を履修していることが望ましい。 人間力と心理。 |
|------|----------------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|----------|----------------|-------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 対人関係の心理学 | 和田実・増田匡裕・柏尾眞津子 | 北大路書房 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 授業内の課題試験を主とし、授業での提出物(講義の要約、感想文、課題レポート等)、授業態度をふまえて、総合的に評価する。出席点はありません。 【授業内の課題試験 70%、授業での提出物 20%、授業態度 10%】 |
|----------|--|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。授業は相互作用で成り立っています。学生と教員がいかに良好な相互作用を築くかがよい授業を展開することにつながります。受動的ではなく、能動的な授業参加を求めます。私もみなさんの成長に寄与するべく努めます。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 11号館6階 経営学部事務室 |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 講義の前には必ず最低1時間は予習・復習に時間をとりましょう。レポート作成には、しっかり時間をかけて最低5時間以上は時間をかけ、必ず見直しましょう。 課題試験、提出物等は授業中にフィードバックする。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|------------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | スポーツ科学実習 I | 科目名 (英文) | Practicum in Sports Science I |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 近藤 潤, 吉川 万紀 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TPH1411a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、ラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | ・ガイダンス | ・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け） | 事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める |
| 2 | ・体力測定① | ・屋外種目 | 事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り |
| 3 | ・体力測定② | ・屋内種目 | 事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り |
| 4 | ・種目の概要 ・基礎知識について | ・種目の概要、基礎知識の説明 | 事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る |
| 5 | ・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム | ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム | 事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り |
| 6 | ・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り |
| 7 | ・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り |
| 8 | ・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り |
| 9 | ・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り |
| 10 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| 11 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| 12 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| 13 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| 14 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り |
| 15 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括 |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際 |
|------|--|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 |
|-----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F 体育館事務室へ来ること。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 総合体育館1F 体育館事務室 |
|----------|----------------|

| | |
|----|-------------------------------|
| 備考 | トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの） |
|----|-------------------------------|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------------|
| 科目名 | スポーツ科学実習Ⅱ | 科目名(英文) | Practicum in Sports Science II |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 近藤 潤, 山方 諒平 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TPH1412a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 実技形式で行う(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある)。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ・ガイダンス | ・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け) | 事前: 授業概要・目的などを学習する 事後: 本実習の理解を深める |
| 2 | ・種目の概要 ・基礎知識について | ・種目の概要、基礎知識の説明 | 事前: 基礎知識を学習しておく 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る |
| 3 | ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム | ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム | 事前: ルールについて学習しておく 事後: 内容の振り返り |
| 4 | ・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム | ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム | 事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り |
| 5 | ・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り |
| 6 | ・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り |
| 7 | ・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム | ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム | 事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り |
| 8 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 9 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 10 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 11 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 12 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 13 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 14 | ・ゲーム | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り |
| 15 | ・ゲーム ・2年次ガイダンス等 | ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う | 事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 全授業の総括 |

関連科目 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 |
| 学生へのメッセージ | 授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。 |
| 担当者の研究室等 | 総合体育館 1F 体育館事務室 |
| 備考 | トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの) |

| | | | |
|----------------|--|----------|------------------------------|
| 科目名 | 青少年育成ファシリテーター養成講座 | 科目名 (英文) | Facilitator Training Program |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 浅野 英一 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2 | | |

| 授業概要・目的 | 教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマネジメントの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①～⑨回分：</p> <p>①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて</p> <p>②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ</p> <p>③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ</p> <p>④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ</p> <p>⑤安全対策スキル：安全、衛生管理、危険予知、責任について学ぶ</p> <p>⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とかかわり方を学ぶ</p> <p>⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ</p> <p>⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ</p> <p>⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ボランティア論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | ①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館5階（浅野研究室） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|---------------------------|
| 科目名 | 世界遺産論 | 科目名(英文) | Rethinking World Heritage |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 北條 ゆかり |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | ユネスコの「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(1972年採択、1975年発効)に謳われる理念に基づき、世界には人類と地球にとってかけがえのない価値をもつ記念建造物や遺跡、自然環境、伝統文化などを人類共通の財産として守るための「世界遺産」がある。その理念と具体的な世界遺産に関する学びを通じて、宗教・文化の多様性、地理、芸術・建築などを深く知る知識編(前半7回)と、それぞれ異なるアプローチと研究対象地域の観点から前半の学びをさらに掘り下げて考える考察編から構成する。後半では、地域に根づく人々の暮らしや信仰を遺産化する意義、自然保護と環境保全、人類の負の歴史、行き過ぎた観光地化がもたらす問題などについて考える。 |
| 到達目標 | 世界遺産を通じ、グローバル社会において活躍するための知識や教養を身につけるとともに、世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 前半7回で世界各地の「世界遺産」について講師の体験に基づく解説を通じて知識を培い、後半は4名の教員が2回ずつ、具体的な世界遺産を窓口としてその歴史をわかりやすく説き起こし、現代世界に占める意味を問題提起する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 世界遺産検定3級 旅行・観光業、ホテル業等への就職に役立つ。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 世界遺産を「学ぶ」意義はなにか。ユネスコの理念と世界遺産理念誕生の背景について関g委える。 | 「世界遺産」の種類(自然、文化、複合)について理解しておく。 |
| 2 | 世界遺産誕生までの流れ | 世界遺産条約誕生の背景と登録後の流れを知る。 | 前回のユネスコの理念を復習し、世界遺産条約について調べておく。 |
| 3 | 登録基準 | 世界遺産がもつ「顕著な普遍的価値」と登録基準について学ぶ。 | 京都と奈良の世界遺産について調べ、違いについて考えておく。 |
| 4 | 日本の産業遺産 | 日本で登録されている石見、富岡、明治日本の産業革命遺産について学ぶ。 | 日本の近代化について調べておく。 |
| 5 | 世界で最初の世界遺産 | 1978年に登録された世界で最初の世界遺産12件について学ぶ。 | 世界で最初に登録された遺産の保有国について調べておく。 |
| 6 | 文化的景観 | 文化遺産と自然遺産の接点を登録する文化的景観について学ぶ。 | 日本で登録されている文化的景観の世界遺産について調べておく。 |
| 7 | 中間テスト シリアル・ノミネーションと トランスバウンダリー・サイト | 第6回までの理解度確認を行った後、登録の多様性を目指すシリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイトについて学ぶ。 | 第2回目で扱ったグローバル・ストラテジーを含め、第6回までに学んだことを復習しておく。 |
| 8 | 日本の文化遺産1 | 平泉の遺産、長崎の教会群とキリスト教関連遺産などを事例に日本における信仰の多様性について考える。 | 日本におけるキリスト教伝来およびその展開について書籍やwebで調べておく。 |
| 9 | 日本の文化遺産2 | 白川郷・五箇山の合掌造り集落を事例に人びとの生業や暮らしが遺産化されることについて考える。 | 白川郷、五箇山について書籍やwebで調べておく。 |
| 10 | 自然遺産の重要性と課題1 | 世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特に日本に存在する自然遺産や複合遺産を事例として考察する。 | 日本における自然遺産の分布や歴史的な背景について書籍やwebで調べておく。 |
| 11 | 自然遺産の重要性と課題2 | 世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特にアフリカのケニア山やキリマンジャロ山、セレンゲティ・ンゴロンゴロなどの自然遺産を事例として考察する。 | アフリカの自然遺産の実態や問題点について書籍やwebで調べておく。 |
| 12 | 負の世界遺産1 | アウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所を例に、「負の世界遺産」の意義と問題点について考える。 | ア第二次世界大戦中にアウシュヴィッツ=ヴィルケナウ強制絶滅収容所がどのように用いられたのか調べておく。 |
| 13 | 負の世界遺産2 | 海商都市リヴァプールを例に、奴隷貿易という負の歴史が世界遺産を通してどのように伝えられているか考える。 | リヴァプールと奴隷貿易の関係について調べておく。 |
| 14 | 文明の衝突の記憶1 | スペイン・コルドバのメスキータ大聖堂を例に、イスラム文明がカトリック圏のイベリア半島に与えた影響と異教徒間の共存について考える。 | イベリア半島の歴史と世界遺産について調べておく。 |
| 15 | 文明の衝突の記憶2 | ラテンアメリカの古代先住民文明の遺跡を例に、インディヘニスマ(先住民擁護)の歴史と先住民統合政策、観光開発とオーバー・ツーリズムがもたらす問題について考える。 | 中米のマヤ文明、アンデスのインカ文明について調べておく。 |

関連科目 エリアスタディーズ、多文化共生論、エコツーリズム論

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|----------------------------------|-----------|--------|
| | 1 | きほんを学ぶ世界遺産100<第2版>世界遺産検定3級公式テキスト | 世界遺産検定事務局 | マイナビ出版 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 第7回目までの学習に関する中間テスト(40%)、後半8回で取り上げられた個別の世界遺産に基づくテーマのうち、最も関心を抱いたことに関するレポート(40%)、毎回の質問・コメント票(20%)によって総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 講師控室(7号館2階)、赤澤研究室(7号館4階)、手代木研究室(7号館5階)、林田研究室(7号館4階)、北條研究室(7号館5階) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 第7回目を行う中間テストに関するフィードバックは第8回目を行う。 | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>3人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教養系・科学技術系科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 活動状況、取り組み姿勢および活動成果を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 橋本 正治 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | 過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域(和歌山県すさみ町)の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4月 テーマの情報教共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査 6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8月 現地で加工、施工、組み立て 9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3月 現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て 事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | テクニカルデザイン演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|---------------------|---------|----|-----|-----|------|---|-------------|---------------------|---------|---|-------------------------------------|------|---------|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題 | 本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。 なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教養系・科学技術系科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | マネジメント基本と原則 | P.F. ドラッカー (上田惇生編訳) | ダイヤモンド社 | 2 | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら | 岩崎夏海 | ダイヤモンド社 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | マネジメント基本と原則 | P.F. ドラッカー (上田惇生編訳) | ダイヤモンド社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら | 岩崎夏海 | ダイヤモンド社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 1号館3階 石田准教授室 8号館1階 テクノセンター | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクト I | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石田 裕子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起っている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | <p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養 C1・C2</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | <p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>1号館3階 石田准教授室</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>自主学习時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 浅野 英一 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学习として、調べておくこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ボランティア論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館5階 浅野研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクト I | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 久保 貞也, 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | 地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築（携帯アプリ）の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | データベースに関する勉強会（土曜日開催） ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題 | <p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会（土曜日開催） ・ヒアリング調査 ・開発合宿 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査（4時間×2回） ・IT関連の情報収集（サービス、セキュリティ、生産性向上など）（1時間×8回） ・データベース設計の見直し（3時間） ・作成したアプリの動作テスト（2時間） <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 技術習得の成長度（グループとしての学び合いを高く評価する） 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 牧野 幸志、久保 貞也 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクト I | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 大塚 正人 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | 本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----------------------|-----------------|-----|------|---|-----------------------------------|-----------------------|---------|---|-----------------------|-----------------------|-----------------|---|---|-----------------|---------|
| 到達目標 | <p>【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。 他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。 他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。 関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。 就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない（質問には答えます）。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。http://www.abd-abd.com/</p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>4月 学内研修：まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修：就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修：理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修：中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修：企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修：ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修：最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修：ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修：成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教養系、キャリア系科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力：内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン、リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著]；今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0：持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著；大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 人を伸ばす力：内発と自律のすすめ | エドワード・L・デン、リチャード・フラスト | 新曜社 | 2 | フロー体験 喜びの現象学 | M. チクセントミハイ [著]；今村浩明訳 | 世界思想社 | 3 | モチベーション 3.0：持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか | ダニエル・ピンク著；大前研一訳 | 講談社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 人を伸ばす力：内発と自律のすすめ | エドワード・L・デン、リチャード・フラスト | 新曜社 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | フロー体験 喜びの現象学 | M. チクセントミハイ [著]；今村浩明訳 | 世界思想社 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | モチベーション 3.0：持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか | ダニエル・ピンク著；大前研一訳 | 講談社 | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる!：教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式 | グロービス | ダイヤモンド社 | 2 | 教え上手になる!：教えと学びのワークブック | 関根雅泰 | クロスメディア・パブリッシング | 3 | 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想! | 吉田雅裕 | 東洋経済新報社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | グロービスMBAで教えているプレゼンの技術：人を動かす勝利の方程式 | グロービス | ダイヤモンド社 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 教え上手になる!：教えと学びのワークブック | 関根雅泰 | クロスメディア・パブリッシング | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想! | 吉田雅裕 | 東洋経済新報社 | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | PBL活動への参加意欲および貢献度 (70%)、学内・学外発表会等への貢献度 (30%) 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。? | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野 (1号館5階) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトI | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石井 信輝, 水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | チームビルディング | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 積極的に活動してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクト I | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 田井 義人 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画 (企画・活動・推進・振り返り活動への参画) を行う。 ・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV 等でも紹介された。 ・2018 年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画 (前述のとおり) することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------|---------|-----|------|---|--------------|------|---------|
| 到達目標 | <p>I 到達目標 (共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標 (本プロジェクト): I の目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 (4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。 (5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案することができること。 (6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 (7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 (8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。 (9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。 (10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。 | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点 (コンビニ2階) を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習 (参画による) によって到達目標へ指導する。 ・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 <p>II 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。 | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月頃: WEB 稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。(JR 吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。) ・5月～6月: 今後の企画運営検討 (エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。) 今後の企画運営検討 (落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: 吹田祭推進、応援 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室 (親子教室) に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦 16 組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用 (古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ) による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戎祭支援 (チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導) に参加 ・12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けての WEB 委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。 <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p> | | | | | | | | |
| 関連科目 | 地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習 | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 凡人のための地域再生入門 | 木下 齊 | ダイヤモンド社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | |
| 1 | 凡人のための地域再生入門 | 木下 齊 | ダイヤモンド社 | | | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|------------------------------------|--------|---------|
| | 2 | 商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ | 久繁哲之介 | ちくま書房 |
| | 3 | 商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道 | 新雅史 | 光文社新書 |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | イギリスに学ぶ商店街再生計画 | 足立基浩 | ミネルヴァ書房 |
| | 2 | その島のひとたちは、ひとの話听不懂な精神科医「自殺希少地域」に行くー | 森川すいめい | 青土社 |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1号館7階 経済学部 田井義人研究室 | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。 | | | |

| | | | |
|---------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクト I | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子・水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる 連携先に企画提案ができる 広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる 親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題 | <p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） 近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 <p>【年間計画（予定）】</p> <p>4月 マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ</p> <p>5月 ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施</p> <p>6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案</p> <p>7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施 域内商店街での広報活動の実施</p> <p>8月 ホームゲームでのイベントの実施</p> <p>9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査（ポスト調査）の実施</p> <p>10月 ホームゲーム運営補助 中間報告会</p> <p>12月 最終報告会とその準備</p> <p>2月 Sports Festival</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 全ての科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクト I | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 上野山 裕士 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>①中山間地域に暮らし人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） 地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） 中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクト I | 科目名 (英文) | Project/Problem Based Learning I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 藤原 京佳, 梅野 将之 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02438a2, L科: LL02419a2, D科・S科: IL02425a2, P科: YL02420a2, J科: JL02436a2, W科: WL02421a2, N科: NL02417a2 | | |

| 授業概要・目的 | 「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。 ・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。 ・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。 ・活動内容を報告会等で発表する。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。 ・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。 <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 人文社会系科目全般、外国語科目全般 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 自主学習時間の目安は毎週1時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 居場 嘉教, 木村 朋紀, 船越 英資 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすいBBQ網、シソとミカンの入浴剤など)。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>3人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教養系・科学技術系科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 橋本 正治 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | 過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域(和歌山県すさみ町)の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4月 テーマの情報教共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5月 現地で加工、施工、組み立て開始 不具合の調査 6、7月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8月 現地で加工、施工、組み立て 9月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1月 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3月 現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て 事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | テクニカルデザイン演習 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 週1階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり1時間程度必要となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石田 秀士, 小田 靖久, 栗田 寿基, 下元 一輝, 釣本 聖司 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|---------------------|---------|----|-----|-----|------|---|-------------|---------------------|---------|---|-------------------------------------|------|---------|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。 なお、自主学習として自分の役割に応じ、マネジメント(参考書欄参照)、蒸気機関、機械工作手法、電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教養系・科学技術系科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F. ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | マネジメント基本と原則 | P.F. ドラッカー (上田惇生編訳) | ダイヤモンド社 | 2 | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら | 岩崎夏海 | ダイヤモンド社 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | マネジメント基本と原則 | P.F. ドラッカー (上田惇生編訳) | ダイヤモンド社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら | 岩崎夏海 | ダイヤモンド社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 1号館3階 石田准教授室 8号館1階 テクノセンター | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石田 裕子 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起っている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（7月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | <p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科） 科学技術教養C1・C2</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | <p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>1号館3階 石田准教授室</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>自主学习時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 浅野 英一 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン饗祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学习として、調べておくこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ボランティア論 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館5階 浅野研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 久保 貞也, 針尾 大嗣 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | 地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築(携帯アプリ)の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近のIT動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けのITについてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | データベースに関する勉強会(土曜日開催) ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題 | <p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会(土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・開発合宿 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査(4時間×2回) ・IT関連の情報収集(サービス、セキュリティ、生産性向上など)(1時間×8回) ・データベース設計の見直し(3時間) ・作成したアプリの動作テスト(2時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 技術習得の成長度(グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう! | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 牧野 幸志, 久保 貞也 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけぬ福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館7階、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 大塚 正人 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | 本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBLに参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog (ABD) の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------------------|-----------------|----|-----|-----|------|---|------------------------------------|------------------------|---------|---|------------------------|------------------------|-----------------|---|---|------------------|---------|
| 到達目標 | <p>【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。</p> <p>【プロセス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。 他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。 他のPBLプロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。 関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。 就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>大学での学びの主役はPBLの受講者である。教員は、PBLの受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない(質問には答えます)。</p> <p>具体的には、ABD読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5用紙5枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。</p> <p>ABD読書会については、以下のURLを参照のこと。http://www.abd-abd.com/</p> <p>講義内容については、Moodleを用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。</p> <p>また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>4月 学内研修: まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>5月 学内研修: 就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>6月 学内研修: 理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>7月 学内研修: 就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>8月 学内研修: 就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。</p> <p>学外研修: 阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>9月 学内研修: 中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>10月 学内研修: 企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法についてABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>11月 学外研修: 阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。</p> <p>学内研修: ふりかえりワークショップを行う。</p> <p>12月 学内研修: 最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABDの手法を用いてグループ学習する。</p> <p>1月 学内研修: ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。</p> <p>2月 学内研修: 成果報告書の作成。</p> <p>事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には1単位あたり週2時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教養系、キャリア系科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人を伸ばす力: 内発と自律のすすめ</td> <td>エドワード・L・デン, リチャード・フラスト</td> <td>新曜社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロー体験 喜びの現象学</td> <td>M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>モチベーション 3.0: 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか</td> <td>ダニエル・ピンク著; 大前研一訳</td> <td>講談社</td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 人を伸ばす力: 内発と自律のすすめ | エドワード・L・デン, リチャード・フラスト | 新曜社 | 2 | フロー体験 喜びの現象学 | M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳 | 世界思想社 | 3 | モチベーション 3.0: 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか | ダニエル・ピンク著; 大前研一訳 | 講談社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 人を伸ばす力: 内発と自律のすすめ | エドワード・L・デン, リチャード・フラスト | 新曜社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | フロー体験 喜びの現象学 | M. チクセントミハイ [著]; 今村浩明訳 | 世界思想社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | モチベーション 3.0: 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか | ダニエル・ピンク著; 大前研一訳 | 講談社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グロービスMBAで教えているプレゼンの技術: 人を動かす勝利の方程式</td> <td>グロービス</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教え上手になる!: 教えと学びのワークブック</td> <td>関根雅泰</td> <td>クロスメディア・パブリッシング</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!</td> <td>吉田雅裕</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | グロービスMBAで教えているプレゼンの技術: 人を動かす勝利の方程式 | グロービス | ダイヤモンド社 | 2 | 教え上手になる!: 教えと学びのワークブック | 関根雅泰 | クロスメディア・パブリッシング | 3 | 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想! | 吉田雅裕 | 東洋経済新報社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | グロービスMBAで教えているプレゼンの技術: 人を動かす勝利の方程式 | グロービス | ダイヤモンド社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 教え上手になる!: 教えと学びのワークブック | 関根雅泰 | クロスメディア・パブリッシング | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート 「2ステージ、6ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想! | 吉田雅裕 | 東洋経済新報社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。? | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | 摂南大学校方キャンパス 薬学部薬学科 生命融合化学分野(1号館5階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 石井 信輝, 水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々や調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | 以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | チームビルディング | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 積極的に活動してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 田井 義人 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。 ・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。 ・2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画(前述のとおり)することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------|---------|-----|------|---|--------------|------|---------|
| 到達目標 | <p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 (4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。 (5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。 (6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 (7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 (8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。 (9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。 (10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。 | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッター街が閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。 ・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 <p>II 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。 | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <p>(1) 事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) <p>(2) 参画する課外活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月頃: WEB稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。(JR吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。) ・5月～6月: 今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。) 今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: 吹田祭推進、応援 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加 ・12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。 <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p> | | | | | | | | |
| 関連科目 | 地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習 | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 凡人のための地域再生入門 | 木下 齊 | ダイヤモンド社 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | |
| 1 | 凡人のための地域再生入門 | 木下 齊 | ダイヤモンド社 | | | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--------------------------------------|--------|---------|
| | 2 | 商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ | 久繁哲之介 | ちくま書房 |
| | 3 | 商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道 | 新雅史 | 光文社新書 |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | イギリスに学ぶ商店街再生計画 | 足立基浩 | ミネルヴァ書房 |
| | 2 | その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く- | 森川すいめい | 青土社 |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1号館7階 経済学部 田井義人研究室 | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。 | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子・水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めているのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知度を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、2月には摂南大学×FCティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる 連携先に企画提案ができる 広報活動(飛び込み営業)を通じ、基本的な営業スキルを感得する メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる 親切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる プレゼンテーションの準備を通じ、PPTの作成スキルが向上する | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題 | <p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証(連携先の許可により実施) 近隣市内におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 <p>【年間計画(予定)】</p> <p>4月 マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ</p> <p>5月 ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施</p> <p>6月 アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案</p> <p>7月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(プレ調査)の実施 域内商店街での広報活動の実施</p> <p>8月 ホームゲームでのイベントの実施</p> <p>9月 枚方市・寝屋川市内における認知度調査(ポスト調査)の実施</p> <p>10月 ホームゲーム運営補助 中間報告会</p> <p>12月 最終報告会とその準備</p> <p>2月 Sports Festival</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 全ての科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 吉田佐治子(7号館3階) 水野武(7号館3階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 上野山 裕士 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>①中山間地域に暮らし人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） 地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） 中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 摂南大学PBLプロジェクトII | 科目名(英文) | Project/Problem Based Learning II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 藤原 京佳, 梅野 将之 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02439a2, L科: LL02420a2, D科・S科: IL02426a2, P科: YL02421a2, J科: JL02437a2, W科: WL02422a2, N科: NL02418a2 | | |

| 授業概要・目的 | 「異文化理解・交流を通じた地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動(オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等)を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | さまざまな文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。 ・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。 ・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。 ・活動内容を報告会等で発表する。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。 ・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。 <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらおう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 人文社会系科目全般、外国語科目全般 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | ミーティング、報告会、各活動への貢献度60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート40% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 自主学習時間の目安は毎週1時間。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|-----------------------------------|
| 科目名 | 専門日本語 F I | 科目名 (英文) | Japanese for Specific Purposes FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 塩谷 尚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF01322a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 |
| 到達目標 | ・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。 |

| | | | | |
|------|----|-----------|----------------------------|-------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用 | 様々なコミュニケーションの形式の復習 |
| | 2 | Eメールの書き方1 | Eメールの基本 | Eメールで使われる形式、表現等の復習 |
| | 3 | Eメールの書き方2 | レポート提出のメール | レポート提出に必要な語彙、表現の復習 |
| | 4 | Eメールの書き方3 | 依頼メール1 | 依頼メールに必要な語彙、表現の復習 |
| | 5 | Eメールの書き方4 | 依頼メール2 | 依頼メールの書き方の復習 |
| | 6 | Eメールの書き方5 | 問い合わせ／質問メール | 問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習 |
| | 7 | 話し方1 | 話題の変え方 | 話題を変える時に必要な語彙、表現の復習 |
| | 8 | 話し方2 | 話の終わらせ方 | 話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習 |
| | 9 | 話し方3 | 話の広げ方 | 話の広げ方で必要な語彙、表現の復習 |
| | 10 | 自己PR1 | 自己PRとは何か | 自己PRで必要な項目を復習 |
| | 11 | 自己PR2 | 自己PR例の検討、修正1 | 自己PRで必要な語彙、表現の復習 |
| | 12 | 自己PR3 | 自己PR例の検討、修正2 | 自己PRで必要な語彙、表現の復習 |
| | 13 | 自己PR4 | 自分の自己PRを書く1 | 自己PRで必要な形式、書き方の復習 |
| | 14 | 自己PR5 | 自分の自己PRを書く2 | 自己PRの書き方の復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 今学期で学んだことを振り返る。 |

| | |
|------|------------|
| 関連科目 | 専門日本語 F II |
|------|------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---------------------------|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%) |
|-----------|---------------------------|

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 |
|-----------|----------------------------------|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|---|----------|------------------------------------|
| 科目名 | 専門日本語 F II | 科目名 (英文) | Japanese for Specific Purposes FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 塩谷 尚子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF02323a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。 |
| 到達目標 | 相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | 教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|--------------------------------------|---|
| | | | |
| 2 | ビジネス日本語 1 聞く・話す | ビジネス場面の会話 表現、敬語 | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題 |
| 3 | ビジネス日本語 2 聞く・話す | ビジネス場面の会話 表現、敬語 | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題 |
| 4 | ビジネス日本語 3 聞く・話す | ビジネス場面の会話 表現、敬語 | ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題 |
| 5 | ビジネス日本語 4 読む | 速読、精読 内容理解 | 文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題 |
| 6 | ビジネス日本語 5 読む | 速読、精読 内容理解 | 文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題 |
| 7 | ビジネス日本語 6 書く | ビジネス文書の書き方 | ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題 |
| 8 | ビジネス日本語 7 書く | Eメールの書き方 | ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題 |
| 9 | ビジネス日本語 8 | 履歴書の書き方 | 履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題 |
| 10 | ビジネスマナー | 異文化ビジネスコミュニケーション | 異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題 |
| 11 | 日本の会社 1 | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題 |
| 12 | 日本の会社 2 | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題 |
| 13 | 日本の会社 3 | 日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション | 授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題 |
| 14 | 日本の会社と仕事 | 仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。 | 授業で確認した語彙、表現等の復習 |
| 15 | 総復習・確認テスト | 総復習 | 今学期で学んだことを振り返る。 |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | 専門日本語 F I |
|------|-----------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法 (基準) | 授業の参加度 (10%)、課題 (30%)、テスト (60%) により総合的に判断する。 |
|-----------|--|

| | |
|-----------|------------------------|
| 学生へのメッセージ | 授業では積極的に発言することが求められます。 |
|-----------|------------------------|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | (1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 専門日本語R | 科目名(英文) | Japanese for Specific Purposes R |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 塩谷 尚子 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1332a1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 |
| 到達目標 | ・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。 |
| 授業方法と留意点 | 授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 |
| 科目学習の効果(資格) | 相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。 |

| | | | | |
|------|----|-----------|----------------------------|-------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション | 授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用 | 様々なコミュニケーションの形式の復習 |
| | 2 | Eメールの書き方1 | Eメールの基本 | Eメールで使われる形式、表現等の復習 |
| | 3 | Eメールの書き方2 | レポート提出のメール | レポート提出に必要な語彙、表現の復習 |
| | 4 | Eメールの書き方3 | 依頼メール1 | 依頼メールに必要な語彙、表現の復習 |
| | 5 | Eメールの書き方4 | 依頼メール2 | 依頼メールの書き方の復習 |
| | 6 | Eメールの書き方5 | 問い合わせ／質問メール | 問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習 |
| | 7 | 話し方1 | 話題の変え方 | 話題を変える時に必要な語彙、表現の復習 |
| | 8 | 話し方2 | 話の終わらせ方 | 話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習 |
| | 9 | 話し方3 | 話の広げ方 | 話の広げ方で必要な語彙、表現の復習 |
| | 10 | 自己PR1 | 自己PRとは何か | 自己PRで必要な項目を復習 |
| | 11 | 自己PR2 | 自己PR例の検討、修正1 | 自己PRで必要な語彙、表現の復習 |
| | 12 | 自己PR3 | 自己PR例の検討、修正2 | 自己PRで必要な語彙、表現の復習 |
| | 13 | 自己PR4 | 自分の自己PRを書く1 | 自己PRで必要な形式、書き方の復習 |
| | 14 | 自己PR5 | 自分の自己PRを書く2 | 自己PRの書き方の復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 今学期で学んだことを振り返る。 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 専門日本語FII |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|-------------------------|
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(50%)、提出物(50%) |
|----------|-------------------------|

| | |
|-----------|----------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 |
|-----------|----------------------------------|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | (1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|--|---------|---------------------------|
| 科目名 | ソーシャル・イノベーション実務総論 | 科目名(英文) | Social Innovation Studies |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01437a2, L科: LL01418a2, D科・S科: IL01424a2, P科: YL01419a2, J科: JL01435a2, W科: WL01420a2, N科: NL01416a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。よくなるのが期待される。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。 |
| 授業方法と留意点 | 第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 | ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間) ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること(2時間) |
| 2 | ビジネスの定義 | ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。 | ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間) ・事後学修: 企業の事例を調べること(2時間) |
| 3 | 組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー | ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 | ・事前学修: NPOについて調べること(2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間) |
| 4 | ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー | ・グローバル化の明暗について考察する。 | ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間) |
| 5 | ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー | ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。 | ・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間) |
| 6 | ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー | ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 | ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間) |
| 7 | ビジネス実務能力 | ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 | ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること(2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること(2時間) |
| 8 | ビジネス実務の基本① ー 仕事の進め方ー | ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 | ・事前学修: 問題プリント①を解くこと(2時間) ・事後学修: 問題プリント②を解くこと(2時間) |
| 9 | ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー | ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 | ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間) |
| 10 | ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー | ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 | ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間) ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること(2時間) |
| 11 | ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー | ・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。 | ・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること(2時間) ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること(2時間) |
| 12 | 自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー | ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 | ・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること(2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること(2時間) |
| 13 | ビジネスプラン①ー 起業への意識ー | ・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 | ・事前学修: 各自がテーマを見つけること(2時間) ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと(2時間) |

| | | | | |
|---------------|--|--------------------|--|--|
| | | | ・CM 比較をイノベーションの観点から行う（とくに CSR に関するもの）。 | 間) |
| | 14 | ビジネスプラン② | ・CM 比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。 | ・事前学修：グループのビジネスプランを発展させること（2時間） ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（2時間） |
| | 15 | ビジネスプラン・プレゼンテーション | ・作成したビジネスプランに基づいて発表する。 | ・事前学修：プレゼンテーション準備を行うこと（2時間） ・事後学修：最終レポートを作成すること（2時間） |
| 関連科目 | 「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | ビジネス実務総論 | 全国大学実務教育協会 | 紀伊国屋書店 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 20歳のときに知っておきたかったこと | ティナ・シーリグ | 阪急コミュニケーションズ |
| | 2 | イノベーションと企業家精神 | P.F. ドラッカー | ダイヤモンド社 |
| | 3 | 「デザイン思考」を超えるデザイン思考 | DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 | ダイヤモンド社 |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 | | | |
| 学生への メッセージ | <p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 教育イノベーションセンター（石井） | | | |
| 備考 | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 大学教養応用 | 科目名(英文) | Applied Learning of Liberal Arts |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大塚 正人, 伊藤 謙, 越 希美江, 原 由紀子, 柳沢 学 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>この科目は、プロジェクトベースラーニング形式で学ぶ、学部の枠を越えた教養応用科目です。初年次の大学教養入門と大学教養実践のステップアップの講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、自分の未来のためには「学び」を実践していくことが大切であることを知ることにあります。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を持ってもらうため、大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身に付けます。また、身につけた知識をもとに考え、未来に向けての実践行動に活かすため、シナリオプランニングを活用します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができる。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p> |
| 到達目標 | <p>(1)社会課題を考えるための教養として、SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。</p> <p>(2)読書により教養を身につけ、さらに自分が知りたいと思うことについて「テーマ設定」をすることができる。</p> <p>(3)シナリオプランニングを通して、情報収集の方法を知り、実践できる。論理的思考を知り、実践できる。</p> <p>(4)論理的でわかりやすく、効果的なプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(5)ファシリテーション力を身につけ、合意形成を促進するなどチームへの貢献ができる。</p> <p>(6)チームの中でリーダーシップを発揮し、成果が上がる協働作業に貢献ができる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。学修法としてABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)、テーマ設定のためのQFT、未来を検討するためのシナリオプランニング等の協働学習による学びを体験します。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係のつくり方、チームワークの仕方、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な対応力を身につけます。諸君が積極的に参加することが大切となります。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る シナリオプランニング体験 振り返りシート | SDGsを調べる(3時間以上) |
| 2 | 世界を知る教養: 2030SDGsを体感する | 2030SDGsカードゲームを実施する。入門編でも行っているが、そのときとの違いを知る。 振り返り、振り返りシート | SDGs前文を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上) |
| 3 | 世界を知る教養: SDGs前文 | 解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート | 設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上) |
| 4 | 世界を知る教養: SDGs前文+アカデミックインパクト | 解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 振り返り、振り返りシート | 教科書のP32-97を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上) |
| 5 | 世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10) | 解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート | 設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上) |
| 6 | 世界を知る教養: SDGs(アジェンダ1-10)+アカデミックインパクト | 解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 振り返り、振り返りシート | 教科書のp98-159を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする(3時間以上) |
| 7 | 世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17) | 解説、理解度確認クイズ 協働学習、プレゼン、対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート | 設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成(3時間以上) |
| 8 | 世界を知る教養: SDGs(アジェンダ11-17)+アカデミックインパクト | 解説、理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施。 シナリオプランニングとは講義 | 振り返りレポート 外部環境リサーチ(3時間以上) |
| 9 | 未来を考える教養: ほぼ確実な未来を考える | 解説、課題の共有、提出 協働学習 振り返り、振り返りシート | 外部環境リサーチシート作成(3時間以上) |
| 10 | 未来を考える教養: 不確実な未来を考える① | 課題の共有、提出 協働学習 10年後の未来シナリオづくり | 外部環境リサーチシート作成(3時間以上) |

| | | | 振り返り、振り返りシート | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|-------------------------|--|---------------------------|----|-----|-----|------|---|--------------|--|----|---|-----------------------|------|-------------------|---|--|--|--|
| | 11 | 未来を考える教養： 不確実な未来を考える② | 課題の共有、提出 協働学習 10年後の未来シナリオ完成 振り返り、振り返りシート | グループでシナリオ完成（3時間以上） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 未来を考える教養： 不確実な未来を考える③ | 課題の共有、提出 協働学習、プレゼンテーション講義 10年後の機会、脅威、対応策検討 振り返り、振り返りシート | ポスター作成、プレゼンテーション準備（3時間以上） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 未来を考える教養： プレゼンテーション | プレゼンテーション実施、質疑応答 プレゼンテーション相互評価 振り返り、振り返りシート | 自己の行動計画案作成（3時間以上） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 未来を考える教養： 未来に向けての行動計画作成 | 課題の共有、協働学習、対話 ワールドカフェ実施、行動計画完成 振り返り、振り返りシート | 振り返りレポート2回目（3時間以上） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 全体振り返り | 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り | 振り返りレポート2回目（3時間以上） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目のすべて？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SDGs アジェンダ前文</td> <td></td> <td>国連</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>未来を変える目標 SDGs アイデアブック</td> <td>蟹江憲史</td> <td>紀伊國屋書店 1,800円(税別)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | SDGs アジェンダ前文 | | 国連 | 2 | 未来を変える目標 SDGs アイデアブック | 蟹江憲史 | 紀伊國屋書店 1,800円(税別) | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | SDGs アジェンダ前文 | | 国連 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 未来を変える目標 SDGs アイデアブック | 蟹江憲史 | 紀伊國屋書店 1,800円(税別) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢（チーム：20%） ・新聞作り／発表（チーム：20%） ・振り返りレポート 2回（個人：20%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・外部環境リサーチ 3回（20%） <p>・振り返りシート（個人：10%）</p> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | この授業では、すべての学部が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として未来を創っていくための教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 大塚正人（薬学部1号館5F）、伊藤謙（1号館3F）、柳沢学（8号館3F）、喜多大三（7号館8F）、水野武（7号館3F）、原由紀子（非常勤講師室）、越希美江（非常勤講師室） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 大学教養実践 | 科目名(英文) | Practical Learning of Liberal Arts |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 伊藤 譲, 越 希美江, 原 由紀子, 藤林 真美, 柳沢 学 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>この科目は、チームで協働し、対話を通し学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期の大学教養入門のステップアップ講座としての位置づけです。</p> <p>本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の基礎知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そうすることで、教養としての知識を実社会での実践にむすびつけることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができる。原由紀子、越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり、多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする。</p> |
| 到達目標 | <p>(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。</p> <p>(2)ABDによる読書法を身に付けている。</p> <p>(3)QFTにより、自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができるようになる。</p> <p>(4)人間関係のつくり方、チームワーク能力、リーダーシップを身に付けることができる。</p> <p>(5)論理的でわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。</p> <p>(6)ファシリテーションの基礎能力を身に付け、協働学習を進めることができる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。?</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD, QFT 法等の協働学習の方法が身につく。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る チームづくり+振り返りの大切さ | 「星の王子さま」1章?12章を読み、サマリーの下書き(3時間以上) |
| 2 | 教養としての文学に触れる:「星の王子さま」 | 教科書の紹介、概要 ABDによる学習の進め方の説明 ABDにチャレンジ 振り返り、振り返りシート | 「星の王子さま」13章?24章を読んでサマリーの下書き(3時間以上) |
| 3 | 教養としての文学に触れる:「星の王子さま」 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 振り返り、振り返りシート | 「星の王子さま」25章?27章を読んでサマリーの下書き(3時間以上) |
| 4 | 教養としての文学に触れる:「星の王子さま」 | 解説 協働学習、プレゼン、対話 QFTにより、探求テーマだし 振り返り、振り返りシート | 探求テーマのリサーチ、検討(3時間以上) |
| 5 | 教養としての文学に触れる:中間成果発表 | 解説 前回課題の共有、対話 ポスター作成 プレゼン、質疑応答 振り返り、振り返りシート | 振り返りレポート1回目 「未来の年表」P3-79を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上) |
| 6 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」 | 教科書の紹介 解説 協働学習、プレゼン、対話、 理解度確認クイズ、振り返りシート | 「未来の年表」P3-79から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し調べてくる(3時間以上) |
| 7 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」 | キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート | 探求テーマの調査(3時間以上) |
| 8 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」 | 探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 相互評価、振り返り、振り返りシート | 「未来の年表」P80-146を読み、サマリーの下書きをする(3時間以上) |
| 9 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」 | 解説、 協働学習、プレゼン、対話、 理解度確認クイズ、振り返り 振り返り、振り返りシート | 「未来の年表」p80-146から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し、調べてくる(3時間以上) |
| 10 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」 | キーワードの共有、解説 QFTによる探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート | 探求テーマの調査(3時間以上) |
| 11 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」 | 探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 振り返り、振り返りレポート | 「未来の年表」第2部を読む(3時間以上) |
| 12 | 教養として社会課題を知る:「未来の年表」 | 自分たちで解決策を考えたい社会課題 テーマを決める 理解度確認クイズ、振り返り 振り返り、振り返りレポート | 解決策の検討(3時間以上) |

| | | | | |
|---------------|--|----------------------|---|---------------------------|
| | 13 | 教養として社会課題を知る：「未来の年表」 | 解決策を検討、ポスター作成 プレゼンテーション準備 振り返り、振り返りレポート | ポスター作成、プレゼンテーション準備(3時間以上) |
| | 14 | 教養として社会課題を知る：最終発表 | ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート | 振り返りレポート2回目(3時間以上) |
| | 15 | 全体振り返り | 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り | 振り返りレポート2回目(3時間以上) |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目のすべて？ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 星の王子さま | サンテグジュペリ | 新潮文庫 476円 |
| | 2 | 未来の年表 | 河合雅司 | 講談社現代新書 760円 |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター／発表 (チーム：20%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%) ・理解度確認クイズ (個人：20%) ・振り返りシート (個人：10%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | この授業では、すべての学部学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？ | | | |
| 担当者の 研究室等 | 伊藤譲 (1号館 3F)、柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F)、喜多大三 (7号館 8F)、藤林真美 (総合体育館 1F)、水野武 (7号館 3F)、原由紀子 (非常勤講師室)、越希美江 (非常勤講師室) | | | |
| 備考 | バインダーを用意し、資料を管理します。この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。？ | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|------------------------------|
| 科目名 | 大学教養入門 | 科目名(英文) | Introduction to Liberal Arts |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 萩田 喜代一・伊藤 謙・大塚 正人 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。</p> <p>なお、授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。藤林真美は医療機関での運動指導の業務に従事した実務経験から、対話力を学生に伝えることができます。</p> <p>授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から、社会人としての心がけ、コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができます。柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から、チームワーク力を学生に伝えることができます。石井は企業、自治体、NPO の運営等の実務経験から社会人基礎力全般の教育を専門としている。</p> |
| 到達目標 | <p>(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。</p> <p>(2)ABD による読書法を身に付けている。</p> <p>(3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。</p> <p>(4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>(5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。</p> <p>(6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。 ABD 法等の協働学習の方法が身につく。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|---|---|
| | | | |
| 2 | 教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙 | 教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」 | 「おとなの教養」第六章を読むこと(1.5 時間以上) |
| 3 | 教養入門: 第六章 歴史 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 「おとなの教養」第四章を読むこと(1.5 時間以上) |
| 4 | 教養入門: 第四章 人間と病気 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 「おとなの教養」第一章を読むこと(1.5 時間以上) |
| 5 | 教養入門: 第一章 宗教 | 解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定 | 中間発表の下調べ、ポスターの案(3 時間以上) |
| 6 | 教養入門: 中間成果発表 | ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り | ポスターの改善、プレゼンの改善 振り返りレポート1 回目(3 時間以上) |
| 7 | 教養入門: 中間成果発表 | ポスター改善 発表・質疑応答 振り返り | SDG s とは何か調べる(3 時間以上) |
| 8 | 世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ? | SDG s の概要 SDG s ゲーム 理解度確認クイズ、振り返り | チーム学習の振り返り(1.5 時間以上) |
| 9 | 世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ? | SDG s とは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り | UNAI とは何かを調べる(3 時間以上) |
| 10 | 世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト? | 国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り | 振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し(2 時間以上) |
| 11 | 自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養? | 教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 「アドラー心理学」第二章まで読むこと(2 時間以上) |
| 12 | 自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論? | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り | 「アドラー心理学」第四章を読むこと(1.5 時間以上) |
| 13 | 自分を知る教養: 第五章 人生の意味を求めて? | 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定 | 「アドラー心理学」第五章を読むこと(1.5 時間以上) |
| 14 | 自分を知る教養: 中間成果発表 | ポスター作成 | 振り返りレポート2 回目 |

| | 表 | 発表・質疑応答 振り返り | (3時間以上) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|-----------------------------|------------------------|----|-----|-----|------|---|--------|-----|--------|---|-----------|------|-----------|---|--|--|--|
| 15 | 大学教養入門：まとめ | グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート | 振り返りレポート3回目 (3時間以上) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 摂南大学で開講されている科目のすべて | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KKベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | おとなの教養 | 池上彰 | NHK 出版 | 2 | アドラー心理学入門 | 岸見一郎 | KKベストセラーズ | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | おとなの教養 | 池上彰 | NHK 出版 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | アドラー心理学入門 | 岸見一郎 | KKベストセラーズ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター／発表 (チーム：30%) ・振り返りレポート 3回 (個人：30%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 荻田喜代一 (7号館8F, 副学長室), 伊藤謙 (1号館3F), 柳沢学 (8号館3F) 大塚正人 (薬学部1号館5F), 藤林真美 (総合体育館1F), 久保貞也 (11号館7F), 寺内睦博 (11号館10F), 石井三恵 (7号館5F) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------------|
| 科目名 | ダイバーシティとコミュニケーション | 科目名(英文) | Diversity and Communication |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 石井 三恵 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 <p>容認することが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> |
| 到達目標 | ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 第一に学問的探究をもち、偏見なく学が姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 |
| 科目学習の効果(資格) | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること(1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること(3時間) |
| 2 | ダイバーシティと境界線 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること(2時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること(2時間) |
| 3 | ジェンダー視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること(2時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること(2時間) |
| 4 | 日本の近代化 | <ul style="list-style-type: none"> ・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること(2時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること(2時間) |
| 5 | 国際統計比較 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること(2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること(2時間) |
| 6 | 性役割の形成① | <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること(2時間) ・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成すること(2時間) |
| 7 | 性役割の形成② | <ul style="list-style-type: none"> ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えること(2時間) ・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成すること(2時間) |
| 8 | 「らしさ」とセクシャル・ポリティクス | <ul style="list-style-type: none"> ・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること(2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること(2時間) |
| 9 | 男女共同参画社会とワークライフバランス | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること(2時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること(2時間) |
| 10 | 中間プレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること(2時間) ・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること(2時間) |
| 11 | アサーティブネス理論① | <ul style="list-style-type: none"> ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べること(2時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること(2時間) |
| 12 | アサーティブネス理論② | <ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる | <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること(2時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること(2時間) |

| | 13 | ダイバーシティマネジメント① | ・企業比較から政策提言へ | ・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------------|-------------------------|---|----|-----|-----|------|---|-------------|------|-------|---|-------------------|---------|---------|---|------|--------|------|
| | 14 | ダイバーシティマネジメント② | ・政策提言プレゼンテーション ・自由討議 | ・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | まとめ | ・最終レポート提出 ・まとめ | ・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 共に学ぶ女性学 | 石井三恵 | 泉文堂 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 共に学ぶ女性学 | 石井三恵 | 泉文堂 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | ジェンダーで学ぶ社会学 | 伊藤公男 | 世界思想社 | 2 | よくわかるジェンダー・スタディーズ | 木村 涼子 他 | ミネルヴァ書房 | 3 | 性と法律 | 角田 由紀子 | 岩波新書 |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ジェンダーで学ぶ社会学 | 伊藤公男 | 世界思想社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | よくわかるジェンダー・スタディーズ | 木村 涼子 他 | ミネルヴァ書房 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 性と法律 | 角田 由紀子 | 岩波新書 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 教育イノベーションセンター（石井） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|--|
| 科目名 | 地域貢献実践演習 | 科目名 (英文) | Practical Training for Social Innovation |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03440a2, L科: LL03421a2, D科・S科: IL03427a2, P科: YL03422a2, J科: JL03438a2, W科: WL03423a2, N科: NL03419a2 | | |

| 授業概要・目的 | この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | ①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内での役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | この授業はグループワークで行います。 ・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきませんが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。 月に1度程度のミーティングの年間スケジュールは第1回目に提示します。 第1回 4月18日(木) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明を行います 履修者は必ず出席してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30% | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 【事前学習】活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。 【事後学習】活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をしてください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学生時間が必要となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|--|
| 科目名 | 地域と私 | 科目名(英文) | Introduction to Regional Science |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 地域志向系 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 藤林 真美 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01435a2, L科: LL01416a2, D科・S科: IL01422a2, P科: YL01417a2, J科: JL01433a2, W科: WL01418a2, N科: NL01414a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。 また由良町役場の行政担当者や地元事業者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。 |
| 授業方法と留意点 | グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 4月13日(土)2時間目 | 到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂) | 【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える(1時間) 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える(1時間) |
| 2 | 自己の探求 4月20日(土) | 自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂) | 体験型セミナーでの気づきをまとめる(1時間) |
| 3 | 自己の探求 4月21日(日) | 自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂) | 体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考え、レポートをまとめる(2時間) |
| 4 | 今、地域で何が起きているか 5月18日(土)1限 | 人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂) | 【事前学習】 キーワード「消滅可能性都市」について調べる(1時間)。 【事後学習】 由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる(2時間) |
| 5 | 由良町関係者の講演 5月18日(土)2限 | 和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光・環境・防災・スポーツ・文化、地域医療の各領域の現状や課題をお聞きします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山) | 【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる(1時間) 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートをまとめる(2時間) |
| 6 | 地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月18日(土)3限 | 観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保) | 【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる(1時間) 【事後学習】 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる(2時間) |
| 7 | 地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 6月1日(土)1限 | 大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地) | 【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと(1時間) 【事後学習】 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる(2時間) |
| 8 | 地域政策・文化 ー地域とスポーツー 6月1日(土)2限 | 地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林) | 【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと(1時間) 【事後学習】 授業ノート等で復習の上、由良町にける地域スポーツを振興するための方策を検討しグループでレポートをまとめる(2時間) |
| 9 | 地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 6月15日(土)1限 | 民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 | 【事前学習】 事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと(1時間) 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、由良町の地 |

| | | (田中・上野山) | 域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|--|---|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 10 | 事前学習 グループワーク 6月15日(土)2、3限 | 由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山) | 【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく(1時間) 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 体験学習 (和歌山県由良町) 6月29日(土)終日 | 由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山) | 【事前学習】 現地調べることについて予備調査しておく(1時間) 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | プレゼンテーション講座 7月6日(土)1限 | プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂) | 【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく(1時間) 【事後学習】 スライドをつくってみる(2時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 事後学習① グループワーク 7月6日(土)2限 | 現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山) | 【事前学習】 グループで情報を共有化しておく(2時間) 【事後学習】 発表できるよう準備をする(4時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 事後学習② 成果発表会 7月20日(土)1、2限 | 作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山) | 【事前学習】 発表の練習を行う(4時間) 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする(1時間) 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 事後学習③ ふりかえり 7月21日(土)3限 | 「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂) | 【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する(1時間) 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成(3時間) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ソーシャル・イノベーション副専攻科目群 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 鶴坂研究室 11号館7階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|--|
| 科目名 | 地域連携教育活動 I | 科目名 (英文) | Community-Based Education Support Activities I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2～IT01432a2, L科: LT01422a2～LT01426a2, D科・S科: IT01428a2～IT01432a2, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2～WT01428a2, N科: NT01420a2～NT01424a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | <p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | <p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---|---------|---|
| 科目名 | 地域連携教育活動Ⅱ | 科目名(英文) | Community-Based Education Support Activities II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 吉田 佐治子・朝日 素明・谷口 雄一・林 茂樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅱ◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:Ⅱ◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科・S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科:,W科:WT01424a2～WT01428a2,N科:NT01420a2～NT01424a2 | | |

| 授業概要・目的 | <p>本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | <p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | <p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年2月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | <p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | <p>①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | <p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | <p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|---------------|
| 科目名 | チームビルディング | 科目名(英文) | Team Building |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 水野 武 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2年生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [II]</p> |
| 到達目標 | チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。 |
| 科目学習の効果(資格) | チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none"> 講義の進め方 なぜチームが必要なのかを知る チームビルディングとは何かを理解する | 事前学習: 本科目のシラバスを精読すること。(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間) |
| 2 | チームビルディングとは何か | <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ワーク チームビルディングの理論を学ぶ チームビルディングのための技能を知る | 事後学修: チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間) |
| 3 | チームビルディング体験 | <ul style="list-style-type: none"> ペーパータワーワーク(予定) チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する | 事後学修: チームでの取り組みを振り返る。(1時間) |
| 4 | チームにおけるリーダーとフォロワーの役割 | <ul style="list-style-type: none"> リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける | 事前学修: 講義3で出る課題に取り組むこと(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間) |
| 5 | 学習するためのチームづくり | <ul style="list-style-type: none"> チームを機能させるために必要な要素を学ぶ | 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1.5時間) |
| 6 | 話し合う技術 | <ul style="list-style-type: none"> チーム話し合う際の技術を学ぶ | 事後学修: 講義で配布された資料を見直すこと(1.5時間) |
| 7 | ビジネス記事を活用したディスカッション | <ul style="list-style-type: none"> 記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える | 事後学修: 講義で身につけた読解技術を日常生活で試してみること(1.5時間) |
| 8 | チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ① | <ul style="list-style-type: none"> ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ | 事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間) |
| 9 | チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ② | <ul style="list-style-type: none"> グループでニッポンの課題の解決策を考える | 事前学修: チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修: 講義で配付された資料を見直すこと(1時間) |
| 10 | チームでプロジェクトを企画する | <ul style="list-style-type: none"> 講義の中間おさらい チームでプロジェクトを企画する | 事後学修: チームで課題に取り組むこと(4時間) |
| 11 | 摂南大学 PBL プロジェクトの紹介① | <ul style="list-style-type: none"> 本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介 | 事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること(1.5時間) |
| 12 | 摂南大学 PBL プロジェクトの紹介② | <ul style="list-style-type: none"> 本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介 | 事後学修: 興味を持ったプロジェクトについて調べること。(1.5時間) |
| 13 | プロジェクトのプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> 第10回目の課題の報告プレゼンテーション | 事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間) |
| 14 | プロジェクトのプレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> 第10回目の課題の報告プレゼンテーション | 事後学修: チームで発表をする準備をすること(2時間) 事後学修: 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(1時間) |
| 15 | 講義のまとめと振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 講義のおさらいと振り返りを行う | 事前学修: 提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間) 事後学修: 講義全体を振り返ること。(1時間) |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | <ul style="list-style-type: none"> 「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 3階 教育イノベーションセンター (水野研究室) | | | |
| 備考 | ・参考とする書籍、文献は適宜提示する。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------|
| 科目名 | 哲学から学ぶ | 科目名(英文) | Philosophy |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 柿本 佳美 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU2408a2 | | |

授業概要・目的

この授業では、現代社会を形作ってきた哲学・思想を手がかりに、ものごとを多角的に捉える視点を学びます。ひとは、サルからヒトへ進化する過程で道具を使うようになり、便利さや快適さを求めて技術を発展させてきました。技術が人間社会のなかでつくり出されたものである以上、そのあり方は社会のなかで共有される価値観、特に自然観や真理観、社会全体にとっての「善」といった視点と強く結びついています。例えば、建築様式は、自然との向き合い方、そこで暮らすひとの望ましい暮らし、美意識、社会のあり方など、自然観や社会観を反映しています。

哲学は、存在とは何か、なかでも自己と世界の存在について、根源的に問う知の営みです。古代ギリシャの人々は、人の手では作り出すことができない自然のなかのさまざまな変化を観察し、これに驚くとともに、すべてのものに共通する原理は何かと考えました。古代ギリシャに始まる万物の始原への問いは、人間について考えるときには「わたし」とはどのような存在か、わたしたちにとって「よく生きる」とはどのようなことなのか、という問いとなります。

ここでは、私たちの身近な問題と重ね合わせながら、「よく生きる」とはどういうことなのか、考えていきましょう。

到達目標

- ・哲学の歴史と学説を知り、事象について多様な見方が成立することを知る。
- ・哲学の思考形式を理解し、論理的に思考できる。
- ・毎回のミニレポート課題を通じて、短時間で自分の考えをまとめることができる。

授業方法と留意点

講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。

科目学習の効果(資格)

哲学史を学ぶことで哲学の思考形式に慣れ、思考の多様性を知り、物事について多角的に把握する視点を身につける。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---|--|--------------------------------------|
| 1 | はじめに:古代ギリシャの思想から考える自然の姿 | 授業説明と導入。建築と思想の関係について考える。 | 予習 古代ギリシャの歴史を調べておく。 |
| 2 | 哲学のはじまり:タレスとデモクリトス | 古代ギリシャの自然観と社会のあり方について知る。 | 予習 「原子論」の歴史について調べる。 |
| 3 | 「知への愛」とは何か:『饗宴』 | さまざまな「愛」に共通する概念を取り出してみよう。 | 予習 ソクラテスの「アイロニー」について調べる。 |
| 4 | 自然には目的があるか?:アリストテレス『自然学』 | プラトンのイデア論と対比しながら、なぜアリストテレスの自然科学が1000年以上支配的だったのか、考える。 | 予習 アレクサンドロス大王について調べる。 |
| 5 | 宇宙という全体のなかの個人という認識がもたらすもの:ストア主義とエピクロス主義 | ストア主義・エピクロス主義の自然観を理解し、自然の秩序のなかにある人間の自由とは何か、考える。 | 予習 古代ローマの歴史を復習しておく。 |
| 6 | 宗教のなかの自然:ユダヤ教、キリスト教、イスラム教 | 宗教のなかで培われた人間観と自然観を理解する。 | 予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。 |
| 7 | 現在でしか生きられない人間にとっての未来とは:アウグスティヌス『告白』 | アウグスティヌスの時間論から、現在の人間の期待としての未来という視点を理解する。 | 予習 プラトンのイデア論を復習しておく。 |
| 8 | 近代自然科学の方法と哲学:デカルト | 数学者デカルトが見出した自然科学の方法とデカルトが目指した真理探求から、自然科学のあり方を考える。 | 予習 「科学革命」という言葉を調べておく。 |
| 9 | 原子がつくる予定調和:ライプニッツ『モノドロジー』 | ライプニッツのモノド論から社会を考える。 | 予習 17世紀のオランダとドイツについて調べておく。 |
| 10 | 経験だけが人間の知識をつくる:ロックとヒューム | 人間の知をめぐる経験論と大陸合理論の違いを理解する。 | 予習 イングランドとスコットランドの違いについて調べておく。 |
| 11 | 人間の疎外とは何か:マルクス | 産業社会の成立過程において人間が自然から遠ざけられる過程を理解する。 | 予習 産業革命について調べておく。 |
| 12 | 人はなぜ戦争をするのか?:カント | カントの定言命法と永遠平和の定義について理解する。 | 予習 18世紀のヨーロッパの政情について調べておく。 |
| 13 | 超人という思想:ニーチェ | ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」を理解する。 | 予習 ユーゲント・シュティール様式の建築について調べておく。 |
| 14 | 思考の停止が危険な理由とは:アレント | 自律的に考えることが必要なのはなぜか、考える。 | 予習 20世紀初めから第二次世界大戦までの歴史について調べておく。 |
| 15 | まとめ:持続可能な社会における科学技術とは | ひとの「善き生」を目指す科学技術のあり方を考える。 | 予習 技術者の説明責任について考えておくこと。 |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|-----|------|
| | 1 | 反哲学入門 | 木田元 | 新潮文庫 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準)

定期試験 60%、提出物 20%、ミニレポート(毎回提出)・受講態度 20%の割合で総合的に評価する。
授業中に一時退出した場合、ミニレポートの提出を認めないことがあります。

学生へのメッセージ

抽象的で難解だと考えられがちな哲学ですが、人間の知の営みである以上、私たちの日常生活にも何らかの接点があります。できるだけ具体的な事例を通じて説明しますので、考えることをあきらめないこと。
遅刻、途中退出はしないこと。私語、スマートフォンの使用等、授業態度が悪い場合、ミニレポート・受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。

担当者の研究室等

非常勤講師室

備考

予習・復習にはそれぞれ1時間を当てること。指定された文献は必ず読むこと。自主学習には20時間以上かけるように。質問等は授業後に教室または非常勤講師室にて対応します。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------|
| 科目名 | 哲学から学ぶ | 科目名(英文) | Philosophy |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 森本 誠一 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU2408a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 古代ギリシア時代の哲学者アリストテレスが万学の祖と呼ばれるように、ほんらい哲学とはあらゆる学問の根源にあるものです。この授業では、こうした哲学の深みに触れ、いまある私たち生活、文化を見つめ直すとともに、社会における人文知の意義を学修します。 |
| 到達目標 | この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 社会の課題、問題を自ら発見できる (2) 世の中で当たり前だとされていることを疑って批判的に考えられる (3) ものごと、対象を複数の視点から眺め、考察できる |
| 授業方法と留意点 | この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リフレクションシートを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 導入 | この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。 | 事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| 2 | 哲学的に考える | ものごとを哲学的に考えるとどのようなことなのでしょうか。世の中にはいろいろな意見があるのですが、そうした意見のひとつとして、今回は「常識にとらわれないこと」について考えます。そもそも常識とは何なのか、そしてそれにとらわれないというのはどういうことなのか、社会のなかにある具体的な事例をもとに学修します。 | 事前学習：「タレス」「始源(アルケー)」について図書館の参考資料(『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など)で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| 3 | 哲学のはじまり | 世界で最初の哲学者はタレスであると言われていました。哲学のはじまりは、世界を説明するのに神話ではなく自然の観察によって得られた知見を用いたことにあるとされています。 今回の授業では、ものごとをしっかりと観察することの大切さを学修します。 | 事前学習：「タレス」「始源(アルケー)」について図書館の参考資料(『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など)で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| 4 | 悪法も法なのか? | プラトンの対話編『ソクラテスの弁明』と『クリトン』を手がかりに「悪法も法なのか」という問題について考えます。 | 事前学習：プラトン『ソクラテスの弁明』、『クリトン』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| 5 | 徳は教えることができるのか? | 徳は教えることができるのでしょうか。そして不正は教育によって防ぐことができるのでしょうか。今回の授業では、プラトンの対話編『メノン』を手がかりに「徳は教えることができるのか?」と | 事前学習：プラトン『メノン』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題に |

| | | | |
|----|----------|---|--|
| | | <p>という問題について考えます。</p> | <p>ついてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p> |
| 6 | 正義とは何か？ | <p>私たちの社会ではさまざまな〈正義感〉がぶつかりあっています。ある者が正義と呼ぶものを別の者が不正義と呼び、対立することがしばしばあります。いったい正義とは何なのでしょう。今回の授業では、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』、ジョン・ロールズの『正義論』を手がかりに、正義の基本的な概念について学修します。</p> | <p>事前学習：「正義」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p> |
| 7 | 中庸の徳について | <p>主要な徳のひとつにかぞえられる勇氣は、その氣質が強すぎると向こう見ずや無鉄砲となり、徳ではなくなってしまいます。逆にその氣質が弱すぎると、今度は臆病となり、やはりこれも徳ではなくなってしまいます。勇氣という徳は、向こう見ずと臆病とのあいだ、すなわち中庸にこそあり、その他の徳も同様に、過剰なものや不足しているものとの中庸にあるというのがアリストテレスの徳についての考え方です。</p> <p>このことは私たちの生活のなかからも実感できるかもしれません。今回の授業では、アリストテレス『ニコマコス倫理学』を手がかりに、中庸の徳について学修します。</p> | <p>事前学習：「中庸の徳」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席すること。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p> |
| 8 | 中間のふり返り | <p>これまでの授業をふり返り、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどについて質問する時間も設けます。</p> | <p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p> |
| 9 | 生の短さについて | <p>セネカ『生の短さについて』を手がかりに生の短さについて考えます。</p> | <p>事前学習：セネカ『生の短さについて』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p> |
| 10 | 老年について | <p>日本は世界でもっとも高齢化率が高い超高齢社会になっています。今回の授業では、キケロー『老年について』を手がかりに老年について考えます。</p> | <p>事前学習：キケロー『老年について』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p> |
| 11 | 古典に触れる | <p>世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれたものであり、散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると考えるでしょう。今回の授業では、パスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節に目を通しながら、その深みに触れます。この作業を通じて人文知のあり方をあらためて考えます。</p> | <p>事前学習：パスカル『パンセ』に目を通し、好きな一節を書き留めておきましょう（授業の中で紹介してもらいます）。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> |

| | | | | |
|-----------|--|-------------|--|--|
| | | | | 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| | 12 | ブッダの思想 | 今回の授業では東洋の思想に目を向けます。ソクラテスとブッダはちょうど同じ頃に生きていたとされています。ブッダの思想はどのようなものなのか、古代ギリシア時代の哲学者の思想と比較しながら学修します。 | 事前学習：ブッダの思想について調べておきましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| | 13 | 科学と哲学 | 科学(と翻訳されるものになっている英語の science)ということばが作られたのは、19世紀になってからのことでした。それまで現在で言うところの科学者は、自然哲学者などと呼ばれていました。私たちは、科学的なものこそ信用でき非科学的なものは信用できないといったような評価を下すことがしばしばありますが、このとき私たちは「科学的」あるいは「非科学的」ということでどのようなことを考えているのでしょうか。 今回の授業では「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことなのか」について学修します。そのなかで文系・理系、あるいは人文科学・社会科学・自然科学といった学問分野の分類がどのような意味をもっているのかを考えます。 | 事前学習：科学と哲学の関わりについて調べておきましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| | 14 | 現代社会の諸問題 | これまで学修してきたことを手がかりに、現代社会の諸問題について考察します。その上で、私たちがいま古人の教えから何を学ぶことができるのか考えます。 | 事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| | 15 | まとめ、全体のふり回り | これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。 | 事前学習：これまでの授業をふり回り、不明な点などを書き出しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分) |
| 関連科目 | 実践の思想 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| 評価方法(基準) | 授業内課題(リフレクションシート)15%、授業に関連する課題調査10%、中間レポート30%、講義ノート提出15%、期末試験30%で評価する。ただし、出席率が80%未満の場合には原則として成績評価の対象としない。 | | | |
| 学生へのメッセージ | 決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。 | | | |
| 担当者の研究室等 | この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------------------|
| 科目名 | 都市環境計画 | 科目名(英文) | Urban Environmental Planning |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大橋 巧, 川田 隆之, 松下 直幹 |
| ディプロマポリシー(DP) | D◎ | | |
| 科目ナンバリング | TDR2030a0 | | |

教養科目

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本講義では、広域的・都市的スケールにおける環境計画及び環境工学上の諸問題から、建物レベルでエネルギーを多消費する空調設備、電気設備に関する技術や省エネルギー手法など幅広く講述する。講義は社会の第一線で活躍する非常勤講師2名、および株式会社日建設計で16年の実務経験をもつ教員が担当し、実社会において今後の方向性を適切に判断しうる人の育成を目的とする。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・都市や建築が抱える環境上の諸問題を説明でき、改善例を提示できる。 ・建物レベルでエネルギーを多消費する空調設備のコミショニングに関する知識を得る。 ・都市、建物レベルの電気設備の基礎的知識を習得する。 |
| 授業方法と留意点 | 原則として毎時間、小演習を課す。 |
| 科目学習の効果(資格) | 一級建築士、二級建築士、建築設備士 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 温室効果ガス排出を考える | 温室効果ガス排出に起因する地球環境問題について講述する。 | 関連科目(特に住環境設備A)を振り返り、予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 2 | 都市環境とヒートアイランド | 都市環境の定義や諸問題、およびヒートアイランド現象について講述する。 | ヒートアイランドについて各自調べ予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 3 | 省エネルギーとパッシブデザイン | 環境配慮型デザインプロセスに基づく都市・建築のパッシブデザイン手法について事例を交えて講述する。 | 身近なパッシブデザインについて各自調べ予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 4 | 省エネルギーとアクティブデザイン | 最新のアクティブデザイン手法について事例を交えて講述する。 | 住環境設備Aを振り返り、設備に関する予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 5 | 省エネルギーとマネジメント | 都市スケールの大学キャンパスをテーマに、省エネルギーマネジメント手法について講述する。 | 住環境設備Aを振り返り、設備に関する予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 6 | 省エネルギーと空調自動制御の概要 | 建物の省エネを推進する上で必要となる空調自動制御の概要を講述する。 | 関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 7 | 空調自動制御の基本 | 空調用熱源・空調機の装置の概要説明と自動制御の基本動作について講述する。 | 関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 8 | 空調自動制御による省エネルギー手法 | 空調用熱源・空調機の制御による基本的な省エネ手法について講述する。 | 関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 9 | コミショニングプロセスの概要 | 省エネルギー性能の検証プロセスである「コミショニングプロセス」の概要、実施する意義、必要な技術などを実施事例を交えながら講述する。 | 関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 10 | 電気設備の基礎 | 電圧、電流、抵抗、オームの法則、直流と交流の違い、配線方式(単相3線式、3相3線式、3相4線式)、絶縁、接地等について講述する。 | 教科書を読み、予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 11 | 発送配電設備 | 電気の流れ、発電所の仕組み、送電線、変電所、最近の停電事例、電力会社から家庭やビルへの受電方式、電気配線等について講述する。 | 電気の流れについて、各自調べて予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 12 | ビルの電気設備 | ビルの電気設備(受電方式、受変電設備、蓄電池、自家発、幹線設備、動力設備、照明コンセント設備、弱電設備、防災・防犯設備等)について講述する。 | ビルを構成する電気設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 13 | 電気設備の省エネルギーとリニューア | 電気設備の省エネルギーとリニューアル事例紹介、再生可能エネルギーと固定価格買取制度等について講述する。 | 電気設備の省エネルギー、再生可能エネルギーについて予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 14 | 電気設備に関わる仕事、電気設備関連法規と資格 | 電気設備に関わる仕事、電気設備の図面例、施工写真の紹介、電気設備関連法規と資格について講述する。 | 電気設備に関わる仕事、関連法規、資格について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。 |
| 15 | 講義のまとめテストと解説 | 講義のまとめテスト及びその解説を行う。 | 講義内容全般にわたって復習しておくこと |

| | |
|------|---|
| 関連科目 | 住環境工学A、住環境工学B、住環境設備A、住環境設備B、環境工学演習、環境計画演習 |
|------|---|

| | | | | |
|-----|----|---------------|--------|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 最新建築設備工学(改訂版) | 田中俊六監修 | 井上書院 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|--------|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 適宜紹介する | | |
| | 2 | | | |

| | | | | |
|---------------|---------------------------------|--|--|--|
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回行う小演習 40%、まとめテスト 60%で総合的に評価する | | | |
| 学生への メッセージ | 遠慮なく積極的に質問すること | | | |
| 担当者の 研究室等 | 12号館 7階 大橋研究室 | | | |
| 備考 | 講義に係る予習・復習は、毎回1.5時間程度を目安とする | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|--------------------------|
| 科目名 | 日本語会話 F I | 科目名 (英文) | Japanese Conversation FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 古川 由理子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF01324a1 | | |

| 授業概要・目的 | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|----------------------------------|---------------------------------|----|-------|---------|-----------|---|---------------------|--------------------------|----------------------|---|----------|----------------------------------|-------------------|---|----------|-----------------|---------------------------------|---|----------|----------------------------------|-------------------|---|----------|-----------------|---------------------------------|---|----------|----------------------------------|-------------------|---|----------|-----------------|---------------------------------|---|----------|----------------------------------|-------------------|---|----------|-----------------|---------------------------------|----|----------|----------------------------------|-------------------|----|----------|-----------------|---------------------------------|----|----------|----------------|-------------|----|--------|---------|--------------|----|--------|---------|-----------------|----|------|--------------------|-----------------|
| 到達目標 | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習 (文体に気を付ける)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>質疑応答の仕方について復習する</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | 授業概要説明 ウォーミングアップ | 授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ | 自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する | 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく | 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成 (残り) | 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習 (文体に気を付ける) | 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 授業概要説明 ウォーミングアップ | 授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ | 自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成 (残り) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習 (文体に気を付ける) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|---------------------------|
| 科目名 | 日本語会話 F II | 科目名 (英文) | Japanese Conversation FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 古川 由理子 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF02325a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。 |
| 到達目標 | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 |
| 授業方法と留意点 | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 |
| 科目学習の効果 (資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------|----------------------------------|---------------------------------|
| | | | |
| 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する |
| 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく |
| 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成 (残り) |
| 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習 (文体に気を付ける) |
| 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 |
| 担当者の研究室等 | 外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階) |
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。 |

| | | | |
|---------------|--|---------|-------------------------|
| 科目名 | 日本語会話R | 科目名(英文) | Japanese Conversation R |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 古川 由理子 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1333a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。 |
| 到達目標 | まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。 |
| 授業方法と留意点 | さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------|----------------------------------|-------------------------------|
| | | | |
| 2 | トピック 1-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 3 | トピック 1-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 4 | トピック 2-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 5 | トピック 2-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 6 | トピック 3-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 7 | トピック 3-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 8 | トピック 4-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 9 | トピック 4-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 10 | トピック 5-1 | 内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る | 授業で使用した語彙を復習し、覚える |
| 11 | トピック 5-2 | 前回聞いた内容について発表する | 発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する |
| 12 | 発表資料の作り方 | 発表資料の作り方について学ぶ | 発表テーマを決めておく |
| 13 | 発表準備 1 | 発表資料の作成 | 発表資料の作成(残り) |
| 14 | 発表準備 2 | 発表資料の修正 | 発表練習(文体に気を付ける) |
| 15 | 口頭発表 | 発表 質疑応答 振り返り | 質疑応答の仕方について復習する |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
|-----|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。 |
| 担当者の研究室等 | 外国語学部非常勤講師講師室(7号館2階) |
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。 |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------|
| 科目名 | 日本国憲法 | 科目名(英文) | The Japanese Constitutional Law |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大仲 淳介 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02428a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題をとりあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「首相の靖国神社参拝」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。 |
| 科目学習の効果(資格) | 各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 憲法とは | 憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。 | 事前に教科書 11 頁から 20 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 2 | 国民主権 | 国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのように関わるかなどについて説明します。 | 事前に教科書 243 頁から 249 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 3 | 基本的人権の保障 1 | 人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。 | 事前に教科書 21 頁から 30 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 4 | 基本的人権の保障 2 | 外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。 | 事前に教科書 31 頁から 40 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 5 | 幸福追求権 | 幸福追求権の意味と範囲、新しい人権について説明します。 | 事前に教科書 49 頁から 58 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 6 | 法の下での平等 | 憲法 14 条の定める平等の意味、差別の許される合理的根拠かどうかの判断基準などについて説明します。 | 事前に教科書 60 頁から 70 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。 |
| 7 | 信教の自由と政教分離 | 信教の自由の内容と限界、国家と宗教の関わりなどについて説明します。 | 事前に教科書 71 頁から 82 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 8 | 表現の自由 | 表現の自由の保障の範囲、限界、検閲などについて説明します。 | 事前に教科書 83 頁から 104 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 9 | 経済的自由権 | 職業選択の自由とその規制をなどについて説明します。 | 事前に教科書 105 頁から 114 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 10 | 社会権 | 生存権を中心に社会権について説明します。 | 事前に教科書 115 頁から 134 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 11 | 刑罰と刑事手続 | 犯罪と刑罰、憲法と罪刑法定主義などについて説明します。 | 事前に教科書 135 頁から 144 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 12 | 国会 | 国会の地位、国会の組織と活動、国会の権能などについて説明します。 | 事前に 161 頁から 172 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 13 | 内閣 | 議院内閣制、内閣の組織と権能などについて説明します。 | 事前に教科書 173 頁から 184 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 14 | 裁判所 | 司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立などについて説明します。 | 事前に教科書 185 頁から 206 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 15 | 平和主義 | 戦争の放棄の意味、憲法 9 条と自衛隊の存在などについて説明します。 | 事前に教科書 217 頁から 229 頁を読んでください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 法学入門 |
|------|------|

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | | 出版社名 |
|----|------------------|--------------------------------------|--|------|
| | | | | |
| 1 | はじめての憲法学 (第 3 版) | 中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一 | | 三省堂 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | | 出版社名 |
|----|-----|-----|--|------|
| | | | | |
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 評価方法 (基準) | 期末試験の点数 (60%)、小テストの点数 (40%) の合計によって評価します。 |
| 学生への メッセージ | 授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。 |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 5 階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室) |
| 備考 | ①小テストの返却は 11 号館 6 階キャリアルームで行い、その正解は次回の授業で解説します。 ②授業時間外の質問等に対しては、水曜日 12 時 30 分から 13 時 20 分に 11 号館 5 階法学部資料室において対応できます。 |

| | | | |
|----------------|--|----------|---------------------------|
| 科目名 | 日本語総合 F I | 科目名 (英文) | Comprehensive Japanese FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 藤原 京佳 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF01320a1 | | |

| 授業概要・目的 | <p>授業では特定のテーマに関する資料を用い、以下の4点を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料で使用されている語彙や表現を学ぶ 2. 資料の内容を理解する 3. 資料の内容について意見交換を行う 4. 必要に応じて資料の要約や意見文を書く <p>日本語の語彙力、読解力、口頭コミュニケーション能力、ライティング力を総合的に養うことを目的とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|-------------------------|-----------------------------|----|-------|---------|-----------|---|-------|-----------------|----------|---|------|-------------------|--------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|----|-------------------------|------------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|------|-------------------|--------------------|---|----|-------------------------|------------------------|----|------|-------------------|--------------------|----|------|-------------------|--------------------|----|------|-------------------|--------------------|----|----|-------------------------|------------------------|----|----------|----------|-----------------------------|----|------------|------------------|------------------------|
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 論説文に特徴的な表現や語彙を理解することができる。 2. 社会的・専門的テーマに関する資料を読んで理解することができる。 3. 特定のテーマについて他者と議論・対話を行うことができる。 4. 適切な文体・表現を用いて文章を書くことができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 社会的・専門的テーマに関する資料を読んでいくが、内容理解にとどまらず、内容を踏まえた上で自身の考えを深めることが求められる。したがって、授業では語彙・表現等の説明も行うが、意見交換を重視する。また、自分の考えを一方的に述べるだけでなく、異なる意見をもつ他者とのように話し合いを進めていくかということにも意識的に取り組んでいく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>自己紹介 授業の概要説明</td> <td>自己紹介文を書く</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テーマ1</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>テーマ2</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ3</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>確認</td> <td>テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>テーマ4</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>テーマ5</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>テーマ6</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>確認</td> <td>テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>テーマ7</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>テーマ8</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>テーマ9</td> <td>資料の読解・テーマに関する話し合い</td> <td>資料に出てきた語彙・表現等を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>確認</td> <td>テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト</td> <td>テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>レポート作成準備</td> <td>レポートの書き方</td> <td>これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発表・フィードバック</td> <td>レポート内容の発表および話し合い</td> <td>返却されたレポートの訂正箇所について確認する</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | ガイダンス | 自己紹介 授業の概要説明 | 自己紹介文を書く | 2 | テーマ1 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 3 | テーマ2 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 4 | テーマ3 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 5 | 確認 | テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く | 6 | テーマ4 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 7 | テーマ5 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 8 | テーマ6 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 9 | 確認 | テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く | 10 | テーマ7 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 11 | テーマ8 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 12 | テーマ9 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | 13 | 確認 | テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く | 14 | レポート作成準備 | レポートの書き方 | これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する | 15 | 発表・フィードバック | レポート内容の発表および話し合い | 返却されたレポートの訂正箇所について確認する |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ガイダンス | 自己紹介 授業の概要説明 | 自己紹介文を書く | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | テーマ1 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | テーマ2 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | テーマ3 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 確認 | テーマ1から3の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ1から3のうち1つ選んで、意見文を書く | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | テーマ4 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | テーマ5 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | テーマ6 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 確認 | テーマ4から6の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ4から6のうち1つ選んで、意見文を書く | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | テーマ7 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | テーマ8 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | テーマ9 | 資料の読解・テーマに関する話し合い | 資料に出てきた語彙・表現等を復習する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 確認 | テーマ7から9の学習内容に関する確認・小テスト | テーマ7から9のうち1つ選んで、意見文を書く | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | レポート作成準備 | レポートの書き方 | これまで扱ったテーマの中から1つ選びレポートを作成する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 発表・フィードバック | レポート内容の発表および話し合い | 返却されたレポートの訂正箇所について確認する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業への取り組み 30%、小テスト 30%、レポート 40%で判断する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 受講者の日本語レベルにより授業内容を調整・変更することがあります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 国際交流センター講師控室 (3号館4階) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 授業では学生同士の話し合いを観察し、教師が適宜フィードバックを行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---|---------|----------------------------|
| 科目名 | 日本語総合FⅡ | 科目名(英文) | Comprehensive Japanese FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 藤原 京佳 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF02321a1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。 |
| 到達目標 | 1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。 2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄り、話し合う。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| | | | | |
|------|----|----------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | トピック① | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 2 | トピック② | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 3 | トピック③ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 4 | トピック④ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 5 | トピック⑤ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 6 | トピック⑥ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 7 | トピック⑦ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 8 | トピック⑧ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 9 | 学生持ち寄りのトピック① | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 10 | 学生持ち寄りのトピック② | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 11 | 学生持ち寄りのトピック③ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 12 | 学生持ち寄りのトピック⑤ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 13 | 学生持ち寄りのトピック⑥ | 議論 | 翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集 |
| | 14 | 発表準備 | 自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する | 発表練習 |
| 15 | 発表 | 口頭発表 質疑応答 振り返り | 発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する | |

| 関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 教科書 | <table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 参考書 | <table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
|-----|--|-----|-----|------|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 |
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 |
| 担当者の研究室等 | 国際交流センター(3号館4階) |
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。 |

| | | | |
|---------------|--|---------|--------------------------|
| 科目名 | 日本語総合R | 科目名(英文) | Comprehensive Japanese R |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 藤原 京佳 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1331a1 | | |

| | |
|----------|--|
| 授業概要・目的 | 日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。 |
| 到達目標 | 1. 社会的な問題について論理的に自分の意見を述べるができる。 2. 他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞(生教材)を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。 |

| | |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | |
|-------------|--|

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|----|--------------|--------------------------------|----------------------------|
| | 1 | トピック① | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 2 | トピック② | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 3 | トピック③ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 4 | トピック④ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 5 | トピック⑤ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 6 | トピック⑥ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 7 | トピック⑦ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 8 | トピック⑧ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 9 | 学生持ち寄りのトピック① | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 10 | 学生持ち寄りのトピック② | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 11 | 学生持ち寄りのトピック③ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 12 | 学生持ち寄りのトピック⑤ | 議論 | 授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する |
| | 13 | 学生持ち寄りのトピック⑥ | 議論 | 翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集 |
| | 14 | 発表準備 | 自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する | 発表練習 |
| | 15 | 発表 | 口頭発表 質疑応答 振り返り | 発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | |
|------|--|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 |
|-----------|--------------------------------|

| | |
|----------|-----------------|
| 担当者の研究室等 | 国際交流センター(3号館4階) |
|----------|-----------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------|
| 科目名 | 日本語読解 | 科目名(英文) | Japanese Reading |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | イ |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 櫻井 清華 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1403a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>文章を読むことは好きだろうか。大学で何を学ぶにせよ、「論文などの難解な文章を理解する」「長い文章から重要な事項をピックアップする」力は大学生活に必須である。</p> <p>また、人の心の動きが表現された文学作品を読解することは、他者の気持ちを類推するトレーニングにもなり、今後の社会生活にも役立つことだろう。</p> <p>文章を読むことによって、語彙力や表現力も磨かれ、自分の考えを伝える力も向上する。</p> <p>この授業では、日本語の文法の基本を学ぶ。また、様々なジャンルの文章を読むことによって、語彙力や表現力の向上を目指す。最終的には、評論文や論文などの論理的な文章を正しく読解し、要約できるようにする。さらに、読解力を養成することで思考力を獲得し、自己の考えを文章化することにつなげることを目標とする。</p> |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 日本語の文法の基本を学び、新聞記事や論説文について正確な読解を行う 論文など論理的な文章を読解する能力を身につける さまざまなジャンルの文章にふれ、語彙や表現を学ぶ |
| 授業方法と留意点 | <p>授業では、まず文法や語彙について的小テストを行う。</p> <p>その後、受講者が各自でやや長い文章を読み、問題に解答する。</p> <p>その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読しておくこと。</p> <p>受講者の理解度を確認するため、課題を作成させることもある。また、適宜復習小テストを行うので、復習を怠らないこと。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | 大学の授業・社会人になってから必要な読解能力 |

| | | | | |
|------|----|--------------------------|--|---|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンス／難読漢字を読む(1) | 授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明する。 難読漢字を学ぶことで、語彙力を高める。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する |
| | 2 | 文法を学ぶ／難読漢字を読む(2) | 読解の基礎となる文法を学ぶ。 難読漢字を学ぶことで、語彙力を高める。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 3 | 文の構造について学ぶ／語彙を豊かにする(1) | 文の構造に注目し、文中に述べられている複数の事柄の関係を読解する。 ことわざや故事成語を学ぶことで、語彙力を高める。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 4 | 要点をおさえて文章を読む／語彙を豊かにする(2) | やや長い文章を要点を押さえて読解する。 類義語や対義語について正確に理解する。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 5 | 新聞を読む／語彙を豊かにする(3) | 文や文章の組み立てに注目しながら、新聞記事や社説を正しく読解し、内容について考える。 カタカナ語を学ぶことで、語彙力を高める。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 6 | 接続詞・指示語／漢字・語彙小テスト | 接続詞や指示語に注意しながら、文章を整理する練習を行う。 漢字や語彙について小テストを行う。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 7 | 文と文の関係、論理展開 | 本文を構成する文と文の関係や、論理展開に注意しながら、文中の空欄補充を行う。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 8 | 内容把握(1)基礎 | 人文科学分野の文章を読み、内容を把握する。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 9 | 内容把握(2)発展 | 人文科学分野の長い文章を読み、内容を把握する。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 10 | 要旨把握(1) | 人文科学分野の文章を読み、要旨を把握する。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 11 | 要旨把握(2) | 自然科学分野の文章を読み、要旨を把握する。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 12 | 長文読解についての復習テスト／資料読解(1) | 接続詞、指示語、論理展開、内容把握、要旨把握、について的小テストを行う。 資料読解に必要な表現を学ぶ。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 13 | 資料読解(2) | 実数や割合に関する数表を読み解く。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。小テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 14 | 資料読解(3) | 実数や割合に関する数表を読み解く。 | 配布するプリントを次回までに読んでおく。確認テストに備えて授業内容を復習する。 |
| | 15 | 本講義のまとめ・確認テスト | 本講義のまとめ、および第一回から第十四回までの理解度を確認するテストを行う。 | 本講義で学んだことを今後活かすため、各自復習する。 |

| | |
|------|-------|
| 関連科目 | 文章表現法 |
|------|-------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----|--|
| 参考書 | |
|-----|--|

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|---|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 期末テスト80% 小テスト20% 授業への取り組み(課題提出等により評価する/出席することは当然のことなので出席点は評価しないが、欠席点は減点対象となる)も重要 | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> ・能動的な態度で授業に臨むこと。 ・授業の初めに出席確認もかねて毎回小テストを行う。遅刻しないこと。 ・私語は厳禁とする。 ・さまざまなジャンルの本を読み、他者の考え方をすることで思考力が身につく。幅広い関心を持って、日頃から読書に親しむようにしましょう。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) | | | |
| 備考 | 授業では、まず受講者が各自で文章を読み、その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読してくること。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|------------------|
| 科目名 | 日本語読解 | 科目名(英文) | Japanese Reading |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | ロ |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 松尾 佳津子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1403a2 | | |

授業概要・目的
 日々、何を読んでいますか？ また、日々、何を書いていますか？ 何を学ぶにせよ、また学生であれ社会人であれ、「文章を読む」ということを避けて通るわけにはいきません。仲間内でだけ通じる会話や話し言葉でなく、書き言葉を通じてしか手に入らないものがあります。それをぜひ身につけてほしいと願っています。さまざまなジャンルの文章を素材として語句や表現を学び、自分なりの感想を持ちそれを発信する、というトレーニングを積んでみましょう。
 語句の知識を増やして定着させること、表現に着目した読解トレーニングを積むこと、読解した内容に対して自分なりの考えを表現できること。この三つの力を磨くことを目標とします。

到達目標
【目標1】 語句・ことわざ・四字熟語・敬語などの知識を身に付けること。
【目標2】 さまざまな文章に触れ、執筆者の気持ちを想像しながら読み解くこと。
【目標3】 文章を読んで感じたことを文章化する経験値を積み、他者に伝わる論理的な文章を書く力を養うこと。

授業方法と留意点
 ◇毎回、語句チェックを通じて語彙力を磨きます(授業前半)。また毎回、素材となる文章を配布し、プリント形式で読解授業を進めます(授業後半)。最後にその日の授業を振り返って文章にまとめることを必須とします。
 ◇授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な取り組みをあなたに要求します。友人の回答の引き写しなど、課題に取り組む態度に不備のある場合は、出席と認めません。
 ◇毎回提出する小レポートから、随時取り上げて公開添削し、表現の弱点をみがいていきます。

科目学習の効果(資格)
 「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、自分のことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果です。文章を味読し、自分の考えを文章化し、他者に発信するトレーニングは、積極的に取り組むことで、日々のレポート作成や、就職活動のための種々の文章作成の下地作りにもなるでしょう。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------|------------------------------|---------------------------------|
| 1 | エッセイ(1) | 叙情的な作品に触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 2 | エッセイ(2) | 軽妙洒脱な作品に触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 3 | エッセイ(3) | 空想的な作品に触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 4 | 文語的な文章(1) | 古典の作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 5 | 文語的な文章(2) | 古典を踏まえた古典作品を読み、発想の広がりに触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 6 | 文語的な文章(3) | 古典を踏まえた現代の作品を読み、発想の広がりに触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 7 | 小説(1) | 近代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 8 | 小説(2) | 現代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 9 | 小説(3) | 翻訳された有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 10 | 実用的な文章(1) | 手紙文を「読解」してみる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 11 | 実用的な文章(2) | ビジネス文書を「読解」してみる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 12 | 実用的な文章(3) | 説明文を「読解」してみる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 13 | 韻文(1) | 身近な歌の歌詞を作品として「読解」してみる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 14 | 韻文(2) | 短歌を身近なものとして「読解」してみる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |
| 15 | 韻文(3) | 俳句を身近なものとして「読解」してみる。 | プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。 |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準)
 ◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。
 ◇最終成績は、定期試験の結果7割と、小レポートの回答状況3割とを合わせて判断します。
 ◇スマホいじり・私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退席を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。
 ◇原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。

学生へのメッセージ
 「本を読むのはキライ」という気持ちを捨てて講義に臨んで下さい。私があなたに求めているのは「今までの知識の積み重ね」ではなく、「自分のことばに自覚的になること、自分のことばで考えること」です。正解のない世界で「自分の答え」を手探りしてみましょう。

担当者の研究室等
 7号館2階(非常勤講師室)

備考
 ◇事後学習として、授業後少なくとも半時間は、学習した事項を書いて覚えたり、曖昧な箇所は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。
 ◇毎週水曜は3限からの授業なので、お昼休みは非常勤講師室に在室しています。

| | | | |
|----------------|---|----------|---------------------|
| 科目名 | 日本語読解 F I | 科目名 (英文) | Japanese Reading FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF01314a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく |

| | | | | |
|------|----|----------------------------------|----------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 復習 |
| | 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない？ | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 復習 |
| | 3 | フリーズする脳 | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 復習 |
| | 4 | 「科学」の定義① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 5 | 「科学」の定義② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習 |
| | 6 | 現代の若者のマナー① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 7 | 現代の若者のマナー② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習 |
| | 8 | 親孝行な男の子 | 読解、内容理解、タスク | 復習 |
| | 9 | 言語と文化① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 10 | 言語と文化② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習 |
| | 11 | ローソクの進化① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 12 | ローソクの進化② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習 |
| | 13 | 「割り勘」は当然?① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 14 | 「割り勘」は当然?② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |

| | |
|------|------------|
| 関連科目 | 日本語読解 F II |
|------|------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！ |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。 |

| | | | |
|----------------|---|----------|----------------------|
| 科目名 | 日本語読解 F II | 科目名 (英文) | Japanese Reading FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP8○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF02315a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく |

| | | | | |
|------|----|----------------|----------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 涙 | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 復習 |
| | 2 | 統計と数字① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 3 | 統計と数字② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習 |
| | 4 | 背理法① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 5 | 背理法② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習 |
| | 6 | 「待つ」こと① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 7 | 「待つ」こと② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習 |
| | 8 | ついでに何を？① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 9 | ついでに何を？② | 語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク | 復習 |
| | 10 | ウイルス発見！① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 11 | ウイルス発見！② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習 |
| | 12 | 大学で学ぶこと① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 13 | 大学で学ぶこと② | 語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク | 復習 |
| | 14 | 何のために「学ぶ」のか | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | 日本語読解 F I |
|------|-----------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！ |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。 |

| | | | |
|---------------|--|---------|--------------------|
| 科目名 | 日本語読解R | 科目名(英文) | Japanese Reading R |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1328a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく |

| | | | | |
|------|----|----------------------------------|----------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 読解、内容理解 | 復習 |
| | 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない? | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 復習 |
| | 3 | フリーズする脳 | 読解、内容理解、内容をまとめる練習 | 復習 |
| | 4 | 「科学」の定義① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 5 | 「科学」の定義② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 復習 |
| | 6 | 現代の若者のマナー① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 7 | 現代の若者のマナー② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 復習 |
| | 8 | 親孝行な男の子 | 読解、内容理解、タスク | 復習 |
| | 9 | 言語と文化① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 10 | 言語と文化② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 復習 |
| | 11 | ローソクの進化① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 12 | ローソクの進化② | 語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク | 復習 |
| | 13 | 「割り勘」は当然?① | 読解、内容理解 | 復習 |
| | 14 | 「割り勘」は当然?② | 語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク | 復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |

| | |
|------|----------|
| 関連科目 | 日本語読解FII |
|------|----------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%) |
|----------|-----------------------------------|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう! |
|-----------|--|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | <p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。</p> |
|----|--|

| | | | |
|----------------|-----------|----------|-------------------------|
| 科目名 | 日本語表現 | 科目名 (英文) | Japanese Representation |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 櫻井 清華 |
| ディプロマポリシー (DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1404a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標 | 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書に沿って講義形式で行う。教科書は必ず用意して授業に臨むこと。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。 |
| 科目学習の効果 (資格) | レポート・論文の作成に必要な文章スキルを身につける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|--|
| | | | |
| 1 | 導入 授業の内容、進め方について 文章の書き方1 文章表現の基礎を学ぶ | 本講義に臨むための基本姿勢 講義 文章表現の基礎 | 教科書 文章の書き方1を復習する 小テストの予習をする |
| 2 | 文章の書き方2 文章表現の基礎を学ぶ | 講義 文章表現の基礎 小テスト | 教科書 文章の書き方2を復習する 小テストの予習・復習をする |
| 3 | 事実の記述と意見の記述 説明文 | 講義 事実を述べる文章と意見を述べる文章の違い 論理的に説明する方法 小テスト | 教科書 事実の記述を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む |
| 4 | 【課題1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く | 課題の作成・提出 | 説明文の復習をする |
| 5 | 構成 要約 | 講義 レポートなどの構成 要約の方法 小テスト | 教科書 構成と要約を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む |
| 6 | 引用1 | 講義 文章の引用方法 小テスト | 文章の引用を予習・復習する 小テストの予習・復習をする |
| 7 | 課題1 フィードバック 課題1を見直す 要約文を作成する | フィードバック 課題1の反省 実践 (要約文の作成) | 課題1を見直す 教科書 要約を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む |
| 8 | 課題2 | 課題の作成 | 教科書 引用を復習する |
| 9 | 引用2 | 講義 図表などのデータを引用する方法 小テスト | 教科書 引用を予習・復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む |
| 10 | 意見の述べ方 | 講義 引用をふまえて、論理的な構成で意見を述べる 小テスト | 教科書 意見の述べ方を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む |
| 11 | 課題2の返却・フィードバック | フィードバック 課題2の反省 | 課題2を見直す 指示した練習問題に取り組む |
| 12 | 序論・本論・結論の三部構成の書き方 | 講義 序論・本論・結論の構成で論理的な文章を書く 小テスト | 教科書 分析・考察を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む |
| 13 | 【レポート】資料 (文章と図表) を引用して意見を述べる | 課題の作成・提出 | 引用の復習 |
| 14 | 日本語表現についての復習 | これまで行った小テストの復習テスト | 復習テストの見直し |
| 15 | レポートフィードバック | レポートのフィードバック 授業全体をふりかえる | レポートの反省 |

関連科目: ゼミ、卒業研究など

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------|--------------------|------|
| | 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 | | | |
| 学生への メッセージ | 読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておく。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 1 号館 2 階 (非常勤講師室) | | | |
| 備考 | 総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックします。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------|
| 科目名 | 日本語表現 | 科目名(英文) | Japanese Representation |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 田林 千尋 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1404a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標 | 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書を用いた講義形式で、論理的な文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 授業時間内に2回の課題を提出し、最後にレポートを提出する。 授業時間内に9回の小テスト(予習不要)を行い、最後に確認テストを行う。 教科書の問題にきちんと取り組んでいるか、適宜チェックを行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 大学で提出するレポートや論文、社会に出てから書く報告書など、論理的文章を作成する能力が身につく。 就職活動や社会人生活で必要となる、敬語、漢字、慣用句など、基礎的な日本語能力が向上する。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------|---|--|
| 1 | 導入 文章の書き方1 | 授業の目的、評価方法、進め方等の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ 原稿用紙の使い方 | 復習：教科書1-6頁(1.5時間) 予習：教科書7-12頁(0.5時間) |
| 2 | 文章の書き方2 | わかりやすい文章の書き方を学ぶ | 復習：教科書7-12頁(1.5時間) 予習：教科書13-17頁(0.5時間) |
| 3 | 事実と意見 | 事実と意見の書き分け、必要なことをわかりやすく説明する方法を学ぶ | 復習：教科書1-17頁(2時間) |
| 4 | 【課題1】説明文 | ある事物について、論理的に説明する文章を書く | 復習：教科書1-17頁(1.5時間) 予習：教科書19-22頁(0.5時間) |
| 5 | 構成 | レポートなどの文章構成を学ぶ | 復習：教科書19-22頁(1.5時間) 予習：教科書23-26頁(0.5時間) |
| 6 | 要約 | 要旨の要約の作成方法を知る | 復習：教科書23-26頁(2時間) |
| 7 | 【課題1】フィードバック | 【課題1】のフィードバック これまでの復習 | 復習： 課題1の見直し(1.5時間) 教科書1-26頁(1.5時間) 予習：教科書27-31頁(0.5時間) |
| 8 | 文章を引用する | 文章を引用する方法を学ぶ | 復習：教科書27-31頁(1.5時間) 予習：教科書32-37頁(0.5時間) |
| 9 | 図表を引用する | 図表を引用する方法を学ぶ | 復習：教科書27-37頁(1.5時間) 予習：教科書38-39頁(0.5時間) |
| 10 | 引用の復習 意見を述べる | 文章・図表からの引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ | 復習：教科書27-39頁(2時間) |
| 11 | 【課題2】論説文 | 資料を引用して意見を述べる | 復習：教科書1-39頁(1.5時間) 予習：教科書41-44頁(0.5時間) |
| 12 | レポートの書き方1・2 | レポートの体裁について学ぶ レポート課題についての説明 レポートテーマの決定 次週までに調べることのリストアップ | 復習：教科書1-44頁(1時間) 予習：レポートテーマを決定し、必要な資料を集めてくる(2時間) |
| 13 | レポート執筆 【課題2】フィードバック | レポートの執筆 次週までに調べることのリストアップ 【課題2】のフィードバック | 復習： 教科書1-44頁(1時間) 【課題2】を見直す(1時間) 予習：レポートに必要な資料を集めてくる(2時間) |
| 14 | レポート執筆 【課題2】フィードバック | レポートの執筆 【課題2】のフィードバック | 復習： 教科書1-44頁(1時間) 【課題2】を見直す(1時間) 予習：小テストの復習(2時間) |
| 15 | 【レポート】提出 小テストの復習テスト | レポートを完成させ、提出する 小テストの復習テストをする | 復習：教科書1-44(3時間) |

関連科目 ゼミ、卒業研究など

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------|--------------------|-------------------|
| | 1 | 大学生の日本語文章表現 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 | 摂南大学教育イノベーションセンター |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準) 課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語と、大学のレポートや論文、社会に出てから作成する報告書などで用いる日本語は区別しなくてはなりません。本講義では、レポート・論文・報告書で書くべき論理的文章はもちろん、就職活動で重要となる敬語などを広く学びます。これからの学生生活、社会人生活に必要なことと理解し、日本語と真面目に向き合ひましょう。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室(水曜日13:00~14:50)
それ以外の時間帯の緊急連絡はメールにて行うこと。メールアドレスは初回授業にて伝えます。

備考 総学習時間の目安は60時間。
提出課題については、授業中にフィードバックをします。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------------|
| 科目名 | 日本語表現 | 科目名(英文) | Japanese Representation |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 松尾 佳津子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1404a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。 |
| 到達目標 | 適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。 |
| 授業方法と留意点 | ・授業前半は、テキストに即して各自課題に解答したものを、適宜講師が確認しながら講義を進めていきます。 ・授業後半は、語句の知識を小テストで確認していきます。 |
| 科目学習の効果(資格) | ・自分の意図を正しく効果的に他人に伝える文章の技術を身に付ける。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|------------------|---|
| | | | |
| 1 | ・はじめに ・文章の書き方1 | レポート・論文の基本事項 | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 2 | ・文章の書き方2 | わかりやすい文章の書き方 | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 3 | ・事実と意見 | 事実と意見の書き分け | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 4 | ・課題①-1 説明文 | 必要なことをわかりやすく説明する | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 5 | ・課題①-2 説明文 | 課題①を振り返る | 指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 6 | ・構成 | レポートなどの文章構成を学ぶ | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 7 | ・要約 | 要旨の要約の作成方法を知る | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 8 | ・文章を引用する | 文章を引用する方法を学ぶ | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 9 | ・図表を引用する | 図表を引用する方法を学ぶ | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 10 | ・意見を述べる | 考察に基づいて意見を述べる | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 11 | ・課題②-1 論説文 | 資料を引用して意見を述べる | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 12 | ・課題②-2 論説文 | 課題②を振り返る | 指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 13 | ・レポートの書き方1 | レポートの体裁について学ぶ | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 14 | ・レポートの書き方2 | レポートの作成の注意点を教える | 授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |
| 15 | ・最終課題レポート | まとめのレポートを作成する | 当日のレポート作成に備えて、テキストを読み直して注意点を確認しておく。(所要時間の目安は1.5時間) |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | ゼミ、卒業研究など |
|------|-----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|---------------|--------------------|
| | 1 | | 「大学生の日本語文章表現」 | 摂南大学教育イノベーションセンター編 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 学生として、社会人として、他人に自分の考えていることを伝えるには、友人とのラインのやり取りのようなわけにはいきません。自分の文章を胸を張って他人に提示できるように、実際に手を動かしてトレーニングを重ねましょう。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
|----------|---------------|

| | |
|----|--|
| 備考 | 総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 |
|----|--|

| | | | |
|----------------|--|----------|---------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現作文F I | 科目名 (英文) | Japanese Reading and Writing FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF01318a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---------------------------|------------|----|-------|---------|-----------|---|---------------------|---------------------------|----|---|------------|-------------------|----|---|--------|-----------------|----|---|-----|------------|----|---|-----|------|------------|---|-------|-------------|----|---|-------|------|------------|---|----|-----------------|----|---|----|-----------|----|----|-------|------|------------|----|----|-----------|----|----|-----|-----------|----|----|-----|------|------------|----|-------|------------|----|----|-----|-----|----|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果 (資格) | レポートや論文を書くための基礎力を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 日本語の文体 | 授業についての説明 日本語の文体について学ぶ | 復習 | 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 復習 | 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 復習 | 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 復習 | 5 | 段落② | 実践練習 | 復習 作文課題 | 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 復習 | 7 | 経過説明② | 実践練習 | 復習 作文課題 | 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 復習 | 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 復習 | 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 復習 作文課題 | 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 復習 | 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 復習 | 13 | 要約② | 実践練習 | 復習 作文課題 | 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 復習 | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 日本語の文体 | 授業についての説明 日本語の文体について学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 段落② | 実践練習 | 復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 経過説明② | 実践練習 | 復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 要約② | 実践練習 | 復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語表現作文F II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現作文FⅡ | 科目名(英文) | Japanese Reading and Writing FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF02319a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|-----------------------------|--------------|----|-------|--------|-----------|---|--------------------|-----------------------------|----|---|------------|------------------------|----|---|---------|------------|----|---|------------|-----------------------|--------------|---|---------|------------|----|---|--------|------------------|----|---|-----|------------------------|----|---|-----|-------|----|---|-----|------------------------|----|----|-----|-----------------------|----|----|-----|-------|----|----|-----|----------------------------|----|----|-----|-------|----|----|------|-------------------|----|----|------|------------------|----|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | レポートが書けるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>復習 資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 前期の復習 | 授業についての説明 前期の学習内容についての復習 | 復習 | 2 | レポートの言葉と表現 | レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ | 復習 | 3 | レポートの構成 | レポートの構成を学ぶ | 復習 | 4 | テーマ決め・資料収集 | テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ | 復習 資料を集める | 5 | 資料を整理する | 集めた資料を整理する | 復習 | 6 | アウトライン | レポートのアウトラインを作成する | 復習 | 7 | 序論① | 序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ | 復習 | 8 | 序論② | 序論を書く | 復習 | 9 | 本論① | 本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ | 復習 | 10 | 本論② | 本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ | 復習 | 11 | 本論③ | 本論を書く | 復習 | 12 | 結論① | 結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ | 復習 | 13 | 結論② | 結論を書く | 復習 | 14 | まとめ① | レポートを推敲し、完成稿を作成する | 復習 | 15 | まとめ② | 作成したレポートを元に発表を行う | 復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 前期の復習 | 授業についての説明 前期の学習内容についての復習 | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | レポートの言葉と表現 | レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | レポートの構成 | レポートの構成を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | テーマ決め・資料収集 | テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ | 復習 資料を集める | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 資料を整理する | 集めた資料を整理する | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | アウトライン | レポートのアウトラインを作成する | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 序論① | 序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 序論② | 序論を書く | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 本論① | 本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 本論② | 本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 本論③ | 本論を書く | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 結論① | 結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 結論② | 結論を書く | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | まとめ① | レポートを推敲し、完成稿を作成する | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | まとめ② | 作成したレポートを元に発表を行う | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語表現作文FⅠ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう! | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>(1)授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|--------------------------------|
| 科目名 | 日本語表現作文R | 科目名(英文) | Japanese Reading and Writing R |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1330a1 | | |

| 授業概要・目的 | この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---|---------------------------|------------|----|-------|--------|-----------|---|---------------------|---------------------------|----|---|------------|-------------------|----|---|--------|-----------------|----|---|-----|------------|----|---|-----|------|------------|---|-------|-------------|----|---|-------|------|------------|---|----|-----------------|----|---|----|-----------|----|----|-------|------|------------|----|----|-----------|----|----|-----|-----------|----|----|-----|------|------------|----|-------|------------|----|----|-----|-----|----|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目学習の効果(資格) | レポートや論文を書くための基礎力を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table> | | | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | 1 | オリエンテーション 日本語の文体 | 授業についての説明 日本語の文体について学ぶ | 復習 | 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 復習 | 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 復習 | 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 復習 | 5 | 段落② | 実践練習 | 復習 作文課題 | 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 復習 | 7 | 経過説明② | 実践練習 | 復習 作文課題 | 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 復習 | 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 復習 | 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 復習 作文課題 | 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 復習 | 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 復習 | 13 | 要約② | 実践練習 | 復習 作文課題 | 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 復習 | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |
| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 日本語の文体 | 授業についての説明 日本語の文体について学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | レポート・論文の文体 | レポート・論文に使われる文体を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 記号の使い方 | 句読点、各種記号の使い方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 段落① | 段落構成について学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 段落② | 実践練習 | 復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 経過説明① | 経過説明の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 経過説明② | 実践練習 | 復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 分類 | 「分類」をする文の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 定義 | 定義の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 分類・定義 | 実践練習 | 復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 引用 | 引用の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 要約① | 要約の書き方を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 要約② | 実践練習 | 復習 作文課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 資料の利用 | 資料の利用方法を学ぶ | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 日本語表現作文FII | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(50%)、提出物(50%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | <p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。</p> <p>(4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|---|----------|---------------------|
| 科目名 | 日本語文法 F I | 科目名 (英文) | Japanese Grammar FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF01316a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 |
| 到達目標 | 中上級～上級の文法項目が運用できる。 |
| 授業方法と留意点 | 教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 高度な日本語運用能力 |

| | | | | |
|------|----|----------------------------------|-------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち | 授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 2 | 渡り鳥はなぜ迷わない？ | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 3 | フリーズする脳 | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 4 | 「科学」の定義① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 5 | 「科学」の定義② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 6 | 現代の若者のマナー① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 7 | 現代の若者のマナー② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 8 | 親孝行な男の子 | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 9 | 言語と文化① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 10 | 言語と文化② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 11 | ローソクの進化① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 12 | ローソクの進化② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 13 | 「割り勘」は当然？① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 14 | 「割り勘」は当然？② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | 日本語文法 F II、日本語読解 F I |
|------|----------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) |
|-----------|--------------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！ |
|-----------|---|

| | |
|----------|----------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
|----------|----------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 |
|----|---|

| | | | |
|----------------|---|----------|----------------------|
| 科目名 | 日本語文法 F II | 科目名 (英文) | Japanese Grammar FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF02317a1 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 |
| 到達目標 | 中上級～上級の文法項目が運用できる。 |
| 授業方法と留意点 | 教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 高度な日本語運用能力 |

| | | | | |
|------|----|----------------|-------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 涙 | 授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 2 | 統計と数字① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 3 | 統計と数字② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 4 | 背理法① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 5 | 背理法② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 6 | 「待つ」こと① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 7 | 「待つ」こと② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 8 | ついでに何をする？① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 9 | ついでに何をする？② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 10 | ウイルス発見！① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 11 | ウイルス発見！② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 12 | 大学で学ぶこと① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 13 | 大学で学ぶこと② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 14 | 何のために「学ぶ」のか | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |

| | |
|------|----------------------|
| 関連科目 | 日本語文法 F I、日本語読解 F II |
|------|----------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法 (基準) | 授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%) |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！ |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 (非常勤講師室) |
| 備考 | (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。 |

| | | | |
|---------------|--|---------|--------------------|
| 科目名 | 日本語文法R | 科目名(英文) | Japanese Grammar R |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 佐々木 成美 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1329a1 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。 |
| 到達目標 | 中上級～上級の文法項目が運用できる。 |
| 授業方法と留意点 | 教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 |
| 科目学習の効果(資格) | 高度な日本語運用能力 |

| | | | | |
|------|----|----------------|-------------------------|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション 涙 | 授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 2 | 統計と数字① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 3 | 統計と数字② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 4 | 背理法① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 5 | 背理法② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 6 | 「待つ」こと① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 7 | 「待つ」こと② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 8 | ついでに何を？① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 9 | ついでに何を？② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 10 | ウイルス発見！① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 11 | ウイルス発見！② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 12 | 大学で学ぶこと① | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 13 | 大学で学ぶこと② | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 14 | 何のために「学ぶ」のか | 文法項目の解説と練習 | 復習 |
| | 15 | 総復習 | 総復習 | 復習 |

| | |
|------|-----------------|
| 関連科目 | 日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ |
|------|-----------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%) |
| 学生へのメッセージ | 日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！ |
| 担当者の研究室等 | 7号館2階(非常勤講師室) |
| 備考 | (1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。 |

| | | | |
|----------------|---|----------|---------------------------------|
| 科目名 | 日本事情 F I | 科目名 (英文) | Japanese Culture and Society FI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1 年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 門脇 薫 |
| ディプロマポリシー (DP) | V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP7 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 ΔN : DP1 O, DP8 Δ | | |
| 科目ナンバリング | FF01312a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。 |
| 到達目標 | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします |
| 授業方法と留意点 | 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|---------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ | テキスト予習 (11 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間) |
| 2 | 映画 1 : テーマ「職業」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 3 | 映画 1 : テーマ「職業」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (11 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 4 | 映画 1 : テーマ「職業」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 5 | 映画 2 : テーマ「家族」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間) |
| 6 | 映画 2 : テーマ「家族」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 7 | 映画 2 : テーマ「家族」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間) |
| 8 | テーマ 1・2 に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 9 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間) |
| 10 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (10 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 11 | 映画 3 : テーマ「子どもと社会」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 12 | 映画 4 : 「ジェンダー」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4 章 2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間) |
| 13 | 映画 4 : 「ジェンダー」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (4 章 2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間) |
| 14 | 映画 4 : 「ジェンダー」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間) |
| 15 | テーマ 3・4 に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間) |

| | |
|------|---------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文 |
|------|---------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------|-------|-------|
| | 1 | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----------|-------|-----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。 | | | |
| 学生への メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(門協研究室) | | | |
| 備考 | 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|----------------------------------|
| 科目名 | 日本事情FⅡ | 科目名(英文) | Japanese Culture and Society FII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 外国人留学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 門脇 薫 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:B〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1△,DP2〇,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | FF02313a1 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。 |
| 到達目標 | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします |
| 授業方法と留意点 | 各映画について次のように進めます。(1)映画についての情報・その他背景知識について説明 (2)映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習 |
| 科目学習の効果(資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---------------------|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ | テキスト予習(2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5時間) |
| 2 | 映画1:テーマ「民族」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間) |
| 3 | 映画1:テーマ「民族」 | 内容理解、タスク | テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間) |
| 4 | 映画1:テーマ「民族」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間) |
| 5 | 映画2:テーマ「教育」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間) |
| 6 | 映画2:テーマ「教育」 | 内容理解、タスク | テキスト予習(11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間) |
| 7 | 映画2:テーマ「教育」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間) |
| 8 | テーマ1・2に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間) |
| 9 | 映画3:テーマ「趣味とスポーツ」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間) |
| 10 | 映画3:テーマ「趣味とスポーツ」 | 内容理解、タスク | テキスト予習(2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間) |
| 11 | 映画3:テーマ「趣味とスポーツ」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間) |
| 12 | 映画4:「高齢化社会」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間) |
| 13 | 映画4:「高齢化社会」 | 内容理解、タスク | テキスト予習(10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間) |
| 14 | 映画4:「高齢化社会」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間) |
| 15 | テーマ3・4に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間) |

| | |
|------|---------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文 |
|------|---------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------|-------|-------|
| | 1 | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|-----------|-------|-----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。 | | | |
| 学生への メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(門協研究室) | | | |
| 備考 | 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|---------------------------------|
| 科目名 | 日本事情 R I | 科目名 (英文) | Japanese Culture and Society RI |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 門脇 薫 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | RRE1326a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。 |
| 到達目標 | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします |
| 授業方法と留意点 | 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ | テキスト予習 (11章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5時間) |
| 2 | 映画1: テーマ「職業」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 3 | 映画1: テーマ「職業」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 4 | 映画1: テーマ「職業」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間) |
| 5 | 映画2: テーマ「家族」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間) |
| 6 | 映画2: テーマ「家族」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (4章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 7 | 映画2: テーマ「家族」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間) |
| 8 | テーマ1・2に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間) |
| 9 | 映画3: テーマ「子どもと社会」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間) |
| 10 | 映画3: テーマ「子どもと社会」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 11 | 映画3: テーマ「子どもと社会」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間) |
| 12 | 映画4: 「ジェンダー」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間) |
| 13 | 映画4: 「ジェンダー」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (4章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 14 | 映画4: 「ジェンダー」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間) |
| 15 | テーマ3・4に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間) |

| | | | | |
|------|---------------------|-----------------|-------|-------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|---------------|--|-----------|-------|-----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。 | | | |
| 学生への メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(門協研究室) | | | |
| 備考 | 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 日本事情 R II | 科目名 (英文) | Japanese Culture and Society RII |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 帰国学生対象 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 門脇 薫 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△ | | |
| 科目ナンバリング | RRE2327a1 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。 |
| 到達目標 | 日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします |
| 授業方法と留意点 | 各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 |
| 科目学習の効果 (資格) | 自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---------------------|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス・日本語レベルのチェック | 授業の概要・進め方について・スピーチ | テキスト予習 (2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5時間) |
| 2 | 映画1: テーマ「民族」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 3 | 映画1: テーマ「民族」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 4 | 映画1: テーマ「民族」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (4章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間) |
| 5 | 映画2: テーマ「教育」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間) |
| 6 | 映画2: テーマ「教育」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (11章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 7 | 映画2: テーマ「教育」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間) |
| 8 | テーマ1・2に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間) |
| 9 | 映画3: テーマ「趣味とスポーツ」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2時間) |
| 10 | 映画3: テーマ「趣味とスポーツ」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (2章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 11 | 映画3: テーマ「趣味とスポーツ」 | タスク、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間) |
| 12 | 映画4: 「高齢化社会」 | 映画についての情報・背景解説、内容理解 | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (10章2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2時間) |
| 13 | 映画4: 「高齢化社会」 | 内容理解、タスク | テキスト予習 (10章2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5時間) |
| 14 | 映画4: 「高齢化社会」 | タスク、ディスカッション | プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間) |
| 15 | テーマ3・4に関する発表 | 発表、質疑応答、ディスカッション | テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2時間) |

| | |
|------|---------------------|
| 関連科目 | 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文 |
|------|---------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------------|-------|-------|
| | 1 | 映画で日本文化を学ぶ人のために | 窪田守弘編 | 世界思想社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | | | | |
|---------------|---|-----------|-------|-----------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 映画でジャパニーズ | 窪田守弘編 | 南雲堂フェニックス |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。 | | | |
| 学生への メッセージ | 映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(門協研究室) | | | |
| 備考 | 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-------------------|
| 科目名 | 日本の政治 | 科目名(英文) | Japanese Politics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 森 康一 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02425a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この授業では、議会・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本のみならず世界の主要国と比較しながら概説すると同時に、幕末から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げることで、有権者たる学生の皆さんがこれからの日本政治を考えるための材料を提供する。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | プリントと板書により講義方式で授業を進める。 |
| 科目学習の効果(資格) | 公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------|-------------------------------------|---|
| | | | |
| 2 | 近代議会と選挙 | 近代議会主義と選挙制度について | 小選挙区制と比例代表制について調べておく(約30分) レジュメ(第2回)を見直しておく(約1時間) |
| 3 | 各国の政治制度・選挙制度 | 日本・アメリカ・イギリス・フランス・ドイツの政治制度・選挙制度について | 議院内閣制と大統領制について調べておく(約30分) レジュメ(第3回)を見直しておく(約1時間) |
| 4 | 政党 | 政党の機能や分類、政党制について | イギリスの初期の政党について調べておく(約30分) レジュメ(第4回)を見直しておく(約1時間) |
| 5 | 利益集団 | 利益集団の機能や分類、活動および日本の利益集団政治について | 日本にどんな利益集団があるか調べておく(約30分) レジュメ(第5回)を見直しておく(約1時間) |
| 6 | ○第2部 日本政治史 明治国家の建設 | 中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について | 廃藩置県について調べておく(30分) レジュメ(第6回)を見直しておく(約1時間) |
| 7 | 政府批判の噴出 | 士族の反乱と自由民権運動について | 西南戦争について調べておく(30分) レジュメ(第7回)を見直しておく(約1時間) |
| 8 | 明治憲法体制の成立 | 大日本帝国憲法の制定と条約改正について | 不平等条約の内容について調べておく(30分) レジュメ(第8回)を見直しておく(約1時間) |
| 9 | 議会政治の定着 | 初期議会・日清戦争後の藩閥一政党関係について | 自由党・立憲改進党について調べておく(30分) レジュメ(第9回)を見直しておく(約1時間) |
| 10 | 政党政治の発展 | 日露戦争後・大正期の藩閥一政党関係について | 大正時代の政党について調べておく(30分) レジュメ(第10回)を見直しておく(約1時間) |
| 11 | 国際協調と政党内閣 | 原敬内閣および政党内閣の時代について | 「憲政の常道」について調べておく(30分) レジュメ(第11回)を見直しておく(約1時間) |
| 12 | 軍部の台頭と帝国の崩壊 | 満州事変以降の国内政治・国際関係について | 満州事変以降の内閣の変遷について調べておく(30分) レジュメ(第12回)を見直しておく(約1時間) |
| 13 | 敗戦・占領・講和 | 初期占領改革、冷戦構造と講和について | 戦後初期の政党について調べておく(30分) レジュメ(第13回)を見直しておく(約1時間) |
| 14 | 自民党政治 | 55年体制成立以降の国内政治・国際関係について | 自民党の派閥の成り立ちについて調べておく(30分) レジュメ(第14回)を見直しておく(約1時間) |
| 15 | まとめ | 講義のまとめと試験について | レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする(4時間) |

関連科目 政治学、政治史関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------|-------------|------|
| | 1 | 政治学 | 加藤秀治郎 | 芦書房 |
| | 2 | 戦後政治史 | 石川 真澄、山口 二郎 | 岩波書店 |
| | 3 | 日本政治史 | 坂野 潤治 | 有斐閣 |

評価方法(基準) 原則として出席率80%(12回)以上の学生のみを成績評価の対象とします。
平常点20%(小テスト(第3・6・9・12・15回の授業の前半で実施))、期末試験80%(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の合計点によって評価を行います。小テスト・期末試験において持ち込みは認めません。

学生へのメッセージ 高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。
日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。

担当者の研究室等 11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)

備考 小テストの解答はポータルサイトに掲載します。

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------------------------|
| 科目名 | 人間力と心理 | 科目名(英文) | Human Capability and Psychology |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 樋口 隆弘 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU1405a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論やコミュニケーション法を学ぶことを通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かすことを目的とする。 これにより、現在の人間関係と今後の新たな人間関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と関わる上で心のあり方やマナーなどの態度が、より向上することを期待している。 |
| 到達目標 | 自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事の捉え方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることを目指す。 |
| 授業方法と留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントによる講義を主とするが、個人のワークやグループでのワークを行う時間も設定する予定である。 ・各講義でプリントを配布し、パワーポイントで表示する重要語句を記載してもらう。 ・毎回の講義終了前に小テストを行い、その日の講義の定着度を高める。 |
| 科目学習の効果(資格) | 自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | 心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明 | 本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。 | 教科書で、興味を持った分野を見つけて、一読しておくことが望ましい。 |
| 2 | 感覚と知覚について | 本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。 | 五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい。 |
| 3 | 記憶について | 本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。 | 教科書(暮らし08)を一読しておくことが望ましい。 |
| 4 | 学習理論、子育て、人の伸ばし方について | 本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。 | 教科書(仕事06, 09, 人間関係03, 06)を一読しておくことが望ましい。 |
| 5 | 自尊心(自信)について | 本講義では、生きていくうえで重要な自尊心(自信)について学ぶ。 | 教科書(悩み08, 暮らし01, 友だち01, 08, 09, 人間関係05)を一読しておくことが望ましい。 |
| 6 | 性格やパーソナリティ障害について | 本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。 | 教科書(悩み05, 友だち05, 07, 人間関係08)を一読しておくことが望ましい。 |
| 7 | 青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について | 本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。 | 教科書(暮らし02, 恋愛06)を一読しておくことが望ましい。 |
| 8 | 成人、高齢者の発達と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について | 本講義では、成人と高齢者の発達の過程と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。 | うつ病や認知症について、さらには、平均初婚年齢の変化など、成人の課題についても調べておくことが望ましい。 |
| 9 | 虐待について | 本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。 | ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましい。 |
| 10 | DV(ドメスティックバイオレンス)について | 本講義では、DVの背景や実情について学ぶ。 | 教科書(恋愛09, 12, 14)を一読しておくことが望ましい。 |
| 11 | 社会的認知、集団の心理について | 本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。 | 教科書(仕事05, 08)を一読しておくことが望ましい。 |
| 12 | ストレスマネジメントについて | 本講義では、ストレスの種類や性質、リラクゼーションやリフレーミングについて学ぶ。 | 教科書(悩み01, 02, 03)を一読しておくことが望ましい。 |
| 13 | コミュニケーション、傾聴、共感について | 本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴(話の聴き方)や共感について学ぶ。 | 教科書(悩み06, 07, 友だち11, 仕事11, 人間関係02)を一読しておくことが望ましい。 |
| 14 | コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について | 本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。 | 教科書(暮らし02, 仕事03, 04)を一読しておくことが望ましい。 |
| 15 | 講義全体のまとめ | 本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。 | 全講義のプリントもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。 |

| | |
|------|------------------------|
| 関連科目 | 臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学 |
|------|------------------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------|-------|-------|
| | 1 | イラスト図解 わかる！使える！はじめての心理学 | ゆうきゆう | 学研プラス |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------------------------|-------|------|
| | 1 | ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 こころを科学する10のアプローチ | 板口 典弘 | 講談社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | <ul style="list-style-type: none"> ①定期試験を行い、その成績を評価の一つに用いる(60%)。 ②毎回の講義終了前に、その日に講義内容の小テストを行い、その成績を評価の一つに用いる(30%)。 ③講義の受講態度(講義への集中度、語句の記載具合等)(10%)。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・100点満点中、60点以上で合格とする。 ・原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 |
| 学生へのメッセージ | 心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。 |
| 担当者の研究室等 | 11号館6階、経営学部非常勤講師室 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします。 ・講義中の小テストの結果は、全体の概要を講義中に説明します。 ・事前事後学習に、毎回30分以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。 |

| | | | |
|---------------|--|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | 犯罪被害者の支援と法的救済 | 科目名(英文) | Legal Remedies for Victims of Crime |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 小野 晃正 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p> |
| 到達目標 | <p>この講義を通じて学生には、</p> <p>「・「被害者」概念について説明できる</p> <p>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</p> <p>・犯罪被害者の支援制度について理解できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方と文献紹介 「加害者」の法的責任 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」の意義 「犯罪被害者」の意義 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書の入手 事前:教科書第1章をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること(2時間) |
| 2 | 少年犯罪の被害者 | ・少年法と被害者救済 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること(2時間) |
| 3 | 性犯罪の被害者 | ・性犯罪被害特有の問題点 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間) |
| 4 | ドメスティックバイオレンス(DV)の被害者 | ・DV被害の特殊性 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間) |
| 5 | ストーカー犯罪の被害者 | ・ストーカーへの対抗手段 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間) |
| 6 | インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者 | ・インターネット犯罪被害の特殊性 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間) |
| 7 | 児童虐待の被害者救済 | ・児童虐待の意義 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間) |
| 8 | 触法精神障害者からの被害 | ・精神障害者の加害行為と対処法 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること(2時間) |
| 9 | 犯罪被害救済総論① | <ul style="list-style-type: none"> 被害届と告訴・告発の効果 加害者との示談交渉 マスコミ対策 検察審査会 検察審査員 審査申立手続 検察審査会と被害者 起訴議決制度 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること(2時間) |
| 10 | 犯罪被害救済総論② | <ul style="list-style-type: none"> 被害者による裁判傍聴と参加 被害者による記録の閲覧と謄写 | <ul style="list-style-type: none"> 事前:教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと(2時間) |

| | | | <ul style="list-style-type: none"> 被害者における心情陳述 被害者等特定事項の非公開 遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 | 事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|----------------------|---|--|----|-----|-----|------|---|---------------------|----------------------|--------|---|--|--|--|---|--|--|--|
| | 11 | 犯罪被害救済総論③ | <ul style="list-style-type: none"> 損害賠償命令制度 | 事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12 | 犯罪被害救済総論④ | <ul style="list-style-type: none"> 被害回復給付金制度 | 事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13 | 犯罪被害救済総論⑤ | <ul style="list-style-type: none"> 犯罪被害者等給付金支給制度 | 事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14 | 犯罪被害救済総論⑥ | <ul style="list-style-type: none"> 加害者情報へのアクセス 法テラス | 事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 重要事項のまとめと確認テスト | 重要事項のまとめ | 事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック | 第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会 | 東京法令出版 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック | 第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会 | 東京法令出版 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 開講時に指示する。 | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 開講時に指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | <ul style="list-style-type: none"> 定期試験（95%）および講義の理解を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <ul style="list-style-type: none"> 事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館10階 小野准教授室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|------------------|
| 科目名 | ビジネスマナー | 科目名(英文) | Business Manners |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 奥田 和子 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。 |
| 到達目標 | クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。 |
| 科目学習の効果(資格) | 社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション -あいさつの重要性(理論と実践) | ・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ | ・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。 |
| 2 | 仕事の進め方と組織活動 | ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方 | ・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。 |
| 3 | 目標設定とPDCAサイクル | ・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割 | ・事前学修: PDCAについて調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。 |
| 4 | スケジュールと出張業務 | ・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式- | ・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。 |
| 5 | ビジネスの場での敬語表現 | ・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに- | ・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。 |
| 6 | 電話応対 | ・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言 | ・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。 |
| 7 | 来客応対 | ・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 | ・事前学修: 来客対応プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。 |
| 8 | ハウ・レン・ソウ | ・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位 | ・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。 |
| 9 | ビジネス文書の基本① | ・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング | ・事前学修: ビジネス文書始める前にする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。 |
| 10 | ビジネス文書の基本② | ・実践 | ・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。 |
| 11 | ビジネス通信の基本 | ・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識 | ・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。 |
| 12 | 法的業務 | ・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス | ・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。 |
| 13 | 設営の基本 | ・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性 | ・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。 |
| 14 | 慶弔と贈答 | ・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答 | ・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。 |
| 15 | 協働とコミュニケーション | ・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー | ・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。 |

| | | | | |
|------|-------------------------|-----|-----|------|
| 関連科目 | キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館5階 キャリア教育推進室 (石井) | | | |
| 備考 | 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|---------------------|
| 科目名 | プロポーザル・デザイン | 科目名(英文) | Design and Proposal |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 北村 浩 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>新しい商品・サービスを共創型でいかに創造するか、企画の提案&設計（プロポーザル・デザイン）の方法論を学習する。特に、企業・消費者等のアイデア・感性を融合する『デザイン思考（Design Thinking）』の手法により、多様なメンバーから成るグループ型の提案をどのように進めるのかを実践する。</p> <p>デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービス有形化の手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。</p> <p>担当教員は、IT&コンサルティング企業で手掛けてきた国内・海外での多数の顧客企業向けのプロポーザル（提案書）の企画・デザインの推進実績をもとに、課題解決を支援する視点・指針を示し、学生の主体的かつ自律的な学習活動を支援する。</p> |
| 到達目標 | <p>インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、提案活動の体験をとおして、提案を支援するデザインに関するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。主な目標は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにするのか（試作化）を試みる。 2. 共創（コラボレーション） 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを合わせ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案 共創することで、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼンテーションで発信する。 |
| 授業方法と留意点 | <p>授業は、①講義（前半）、②グループワーク（後半）から成る。グループワークは、デザイン思考を適用したサービスデザインのケーススタディの演習に取り組み、ディスカッションやプレゼンテーション（グループまたは個人）を行う課題を指示する。ケーススタディは、現代社会の公私の活動で接することの多い IT サービスデザイン事例に、グループワークで取り組み、デザイン思考の方法論による課題解決のプロポーザル（提案）のリテラシーを高めることを学ぶ。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム（初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する）にて記名式のものを対象に適宜回答する。</p> <p>グループワークで行うケーススタディ以外に、a. 個人向け課題の提示、b. 質問のクラス共有のために、携帯端末（スマートフォン）を持参することを推奨する。</p> |
| 科目学習の効果（資格） | <ul style="list-style-type: none"> ・サービスデザインの方法論の手順、グループワークによる共創活動の概観を理解することができる。 ・モノのデザインとサービスデザインの違いを理解して、後者への基礎的な素養を身につけることができる。 ・他学部の異分野・専攻者とのグループワークによる意見交換と創造の機会に慣れ親しむことができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------|--|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | <ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンス ・『デザイン思考（Design Thinking）』とは何か ・デザインファームの役割 | 事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。（標準学習時間：0.5 時間） |
| 2 | サービスデザイン | <ul style="list-style-type: none"> ・サービスデザイン ・人間中心のデザイン ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：日常接する IT サービスを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。（標準学習時間：1 時間） |
| 3 | ヒトの視点の適用デザイン | <ul style="list-style-type: none"> ・サービスの人間の感性 ・IT サービスデザイン ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：参考文献の『デザイン思考』（前半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 4 | 市場とプロポーザルの視点 | <ul style="list-style-type: none"> ・市場におけるプロポーザルの意味 ・プロポーザルの視点 ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：指定する IT サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 5 | デザイン思考の概観 | <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考とシステム思考 ・デザイン思考の位置づけ ・個人発表（プレゼンテーション） | 事前学習：指定する対面サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 6 | 顧客体験デザイン | <ul style="list-style-type: none"> ・顧客体験デザイン（カスタマーエクスペリエンスデザイン：Customer Experience Design） ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：参考文献の『デザイン思考』（後半）概観を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 7 | デザイン思考の手順 | <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考の手順 ・発見・定義・発想・実証 ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 8 | デザイン思考のプロトタイプング | <ul style="list-style-type: none"> ・サービスのプロトタイプング（試作） ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 9 | プロポーザルのステークホルダー | <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO（chief marketing officer）、利益団体（Interest Group） ・個人発表（プレゼンテーション） | 事前学習：参考文献の『デザインの誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 10 | プロポーザル（提案書） | <ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルの構成と目次 ・顧客の課題解決の提案 ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：参考文献の『デザイン思考の誤解』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 11 | B2C/B2B とデザイン思考 | <ul style="list-style-type: none"> ・B2C とデザイン思考 ・B2B とデザイン思考 ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 12 | デザイン思考の個別手法 | <ul style="list-style-type: none"> ・思考の発散と収束 ・演繹法と帰納法 ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：参考文献の『デザイン思考の実践』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 13 | オープンデザイン | <ul style="list-style-type: none"> ・オープンデザイン ・ビジネス実践事例 ・グループワーク&プレゼン | 事前学習：参考文献の『デザイン思考の社会実装』を読んで、1 ページに要約する。（標準学習時間：1.5 時間） |
| 14 | デザイン思考ビジネスの紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・デザインファーム企業の講演 | 事後学習：講演をとおして、何が理解でき、またど |

| | | | |
|---------------|--|---|--|
| | 介 | ・トークセッション | んな疑問が生じたのかをWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間) |
| 15 | まとめ | ・総括 ・小テスト ・小テストフィードバック | 事後学習：総括と小テストの内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間) |
| 関連科目 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | デザイン思考の先を行くもの ファン・ブイエ、アネミック/ダールハウゼン、ヤープ/ザイルストラ、イエル/ファンデル・スコール、ロース | 各務 太郎 |
| | 2 | | |
| | 3 | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 |
| | 1 | デザイン思考が世界を変える | ティム・ブラウン |
| | 2 | IBMの思考とデザイン | 山崎 和彦 |
| | 3 | オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」 | ヴァン・アベル、バス/エバズ、ルーカス/クラーセン、ロエル/トクスター、ピーター |
| 評価方法 (基準) | 平常点 (15%)、個人課題 (5%)、小テスト (10%)、期末テスト (70%) の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題 (毎回および不定期、授業時間内の提出)、指名者 (個人・グループ) 発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進捗を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。 | | |
| 学生への メッセージ | 新サービスの発想を形にする方法論として、市場から注目を集めているデザイン思考を学習します。多様な視点で考察・提案を進め、異なる価値観を有する人達との情報交流をおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。グループワークで共創する機会を主体的かつ自律的に参画し、コミュニケーションをおして触れ合う重要性を認識すること。グループでの自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。 | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館7階 (北村教授室) | | |
| 備考 | 指定座席での着席をお願いします。課題等のフィードバックについては、グループワークのケーススタディ、個人課題、小テストが主対象で、提出後早期の授業の中で、書面 (MS Office 形式) や学習支援ツール (Web フォーム形式) の媒体を使って、詳細を説明する。 初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準 (評価マトリクス) の説明、ケーススタディ (グループ・個人)、課題発表 (プレゼンテーション) の実施要領、学習支援ツール (Web フォーム・質問共有システム) の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。 | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|---------------|
| 科目名 | 法学入門 | 科目名(英文) | Jurisprudence |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大仲 淳介 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02427a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 私たちの日常生活は多くの法律と関わります。そこでこの講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、民事訴訟法などの基本的な内容と考え方を説明します。この授業の目的は、日常生活に必要な法律の知識を習得してもらうことです。 |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、授業で習得した法律学の基礎的な知識を用いて、交通事故の損害賠償や相続などの日常生活において生じる問題を法的な視点から考え説明できるようになることが期待される。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。 |
| 科目学習の効果(資格) | 各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|---------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | 法学の基礎 1 | 法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。 | 事前に教科書 239 頁から 243 頁と 246 頁から 247 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 2 | 法学の基礎 2 | 法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。 | 事前に教科書 244 頁から 245 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 3 | 日常生活と契約 1 | 民法の特徴、契約の成立について説明します。 | 事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 4 | 日常生活と契約 2 | 意思表示と契約の主体について説明します。 | 事前に教科書 8 頁から 18 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 5 | 日常生活と契約 3 | 契約自由原則、契約の種類について説明します。 | 事前に教科書 18 頁から 24 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 6 | 日常生活と契約 4 | 不動産取引と民法について説明します。 | 教科書 24 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 7 | 日常生活とアクシデント | 交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。 | 事前に教科書 42 頁から 60 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 8 | 家族関係 1 | 結婚、離婚と民法について説明します。 | 事前に教科書 106 頁から 131 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 9 | 家族関係 2 | 親子、扶養と民法について説明します。 | 事前に教科書 131 頁から 147 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いてください。(1 時間程度) |
| 10 | 家族関係 3 | 相続と民法について説明します。 | 事前に教科書 147 頁から 155 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 11 | 企業と法 1 | 商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものかについて説明します。 | 事前に教科書 156 頁から 168 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 12 | 企業と法 2 | 企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。 | 事前に教科書 169 頁から 204 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 13 | 紛争の解決 1 | 日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。 | 事前に教科書 205 頁から 216 頁、248 頁から 249 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 14 | 紛争の解決 2 | 裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決(和解、調停、仲裁)について説明します。 | 事前に教科書 216 頁から 238 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度) |
| 15 | まとめ | 授業全体のまとめ | 第 1 回から第 14 回までの配付プリントの問題を確認して下さい。(1 時間程度) |

| | |
|------|-------|
| 関連科目 | 日本国憲法 |
|------|-------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----------|---------------------------|--------|
| | 1 | 法の世界(第7版) | 池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由紀子 | 有斐閣アルマ |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 期末試験の点数(60%)と小テストの点数(40%)の合計で評価します。 |
|----------|-------------------------------------|

| | |
|-----------|----------------------|
| 学生へのメッセージ | 授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。 |
|-----------|----------------------|

| | |
|----------|-----------------------------|
| 担当者の研究室等 | 11 号館 5 階 法学部資料室(法学部非常勤講師室) |
|----------|-----------------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | ①小テストの返却は 11 号館 6 階キャリアルームで行い、その正解は次の回の授業で解説します。 ②授業時間外の質問等に対しては、月曜日 12 時 30 分から 13 時 20 分に 11 号館 5 階法学部資料室において応対できます。 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名 | マーケティング | 科目名(英文) | Marketing |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02432a2 | | |

授業概要・目的 この講義では、マーケティングの基礎的知識や基本的な分析枠組みについて理解を深めることを目的としています。製品政策、価格政策、流通政策、販売促進政策の展開過程を学習していきます。

到達目標 マーケティングの基礎知識を学習し、現実のマーケティング現象を理解できるようになる。

授業方法と留意点 講義形式を基本とします。

科目学習の効果(資格)

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|-----------------------------|--|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | マーケティングの全体について、説明します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。 |
| 2 | マーケティングとは何か | マーケティングとは何かについて、説明します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・マネジメントに関連する内容を読みましよう。 |
| 3 | 製品政策 | 製品の基本的な知識について学習します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。 |
| 4 | 価格政策 | 価格の基本的な知識について学習します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。 |
| 5 | 流通チャネル政策 | 流通の基本的な知識について学習します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。 |
| 6 | 販売促進政策 | 販売促進の基本的な知識について学習します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。 |
| 7 | 消費者の購買意思決定過程 | 消費者の購買意思決定過程について説明します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費者の購買意思決定過程に関連する内容を読みましよう。 |
| 8 | 消費パターンと消費行動の歴史の変遷 | 消費行動の歴史の変遷過程について、説明します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史の変遷に関連する内容を読みましよう。 |
| 9 | マーケティング・リサーチ | マーケティング・リサーチの基礎について説明します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましよう。 |
| 10 | 市場細分化戦略 | 市場細分化戦略について、説明します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましよう。 |
| 11 | 製品ライフサイクル戦略 | 製品ライフサイクルについて、説明します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましよう。 |
| 12 | 競争の戦略(1) | 競争の基本戦略、企業の地位別戦略について、学習します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、競争戦略や企業の地位別戦略に関連する内容を読みましよう。 |
| 13 | 競争の戦略(2) | SWOT分析、バリューチェーン分析について学習します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、SWOT分析やバリューチェーン分析に関連する内容を読みましよう。 |
| 14 | グローバル・マーケティング | グローバル・マーケティングについて学習します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、グローバル・マーケティングに関連する内容を読みましよう。 |
| 15 | 講義のまとめ | 全体のまとめをします。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング全般に関連する内容を読みましよう。 |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------|--------|------|
| | 1 | 消費行動 新版 | 武居 奈緒子 | 晃洋書房 |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準) 講義内課題 30%、期末試験 70%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 11号館8階 武居教授室

備考

| | | | |
|---------------|--|---------|-----------------------|
| 科目名 | マーケティングと歴史 | 科目名(英文) | Marketing and History |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 武居 奈緒子 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 |
| 到達目標 | マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式を基本とします。 |
| 科目学習の効果(資格) | マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | ガイダンス | マーケティングについて解説していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 2 | 製品政策 | ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 3 | 価格政策 | 価格の設定方法について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 4 | 流通チャネル政策 | 商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 5 | 販売促進政策 | 商品のアピールの仕方について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 6 | マーケティングのSTPアプローチ | 市場細分化について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 7 | 消費行動 | 消費者の購買意思決定過程について考えます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 8 | マーケティングの歴史的な研究と三井越後屋 | マーケティングにおける歴史的な研究と三井越後屋の商法について説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 9 | 呉服商の流通機構 | 呉服商の流通機構について、概説していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 10 | 越後屋の仕入機構(1) | 三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 11 | 越後屋の仕入機構(2) | 三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 12 | いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構 | いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 13 | 呉服商から百貨店へ | 呉服商から百貨店への変遷について概説します。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 14 | 百貨店業態の成立 | 百貨店について、説明していきます。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間) |
| 15 | まとめ | 全体のまとめをします。 | あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間) |

関連科目

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------------------|--------|------|
| | 1 | 大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷— | 武居 奈緒子 | 千倉書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|---------|-------------|-------|-------|
| | 1 | 史料が語る三井のあゆみ | 三井文庫編 | 吉川弘文館 |
| 2 | 消費行動 新版 | 武居 奈緒子 | 晃洋書房 | |
| 3 | | | | |

| | |
|---------------|----------------------------|
| 評価方法 (基準) | 期末テストの成績 70%、授業内課題 30% |
| 学生への メッセージ | 授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。 |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 8 階 武居教授室 |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------------|
| 科目名 | マクロ経済学入門 | 科目名(英文) | Introduction to Macroeconomics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 奥西 達也 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02429a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | この授業は、受講生が経済学のごく初歩的な知識を身につけ、新聞などの経済記事をある程度理解できるようになることを目指す。経済とは何か、経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、新聞やネット上の経済記事で目にする基本的な経済用語、経済の大まかなしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に説明していく。 |
| 到達目標 | 経済の大まかなしくみがある程度理解できるようになる。 現代経済の流れや経済問題がある程度理解できるようになる。 新聞やネット上の経済記事の内容がある程度理解できるようになる |
| 授業方法と留意点 | テキストは使用せず授業プリント・資料・板書を用いて講義をする。授業内容の理解度を測るためチェックシート(小テスト)を実施する。 場合によっては授業の最後に短文の感想を書いてもらい、それを読んで次の授業のやり方を工夫することもある。 |
| 科目学習の効果(資格) | |

| | | | | |
|------|----|----------------------|---|------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | イントロダクション | 授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 2 | 経済と経済学 | 誰のための経済か。様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など)：対象の違い、視座の違い。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 3 | 市場の種類としくみⅠ 生産物市場① | 需要・供給・価格調整。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 4 | 市場の種類としくみⅡ 生産物市場② | 需要・供給・数量調整。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 5 | 市場の種類としくみⅢ 労働市場① | 労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生：自然失業率と景気変動。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 6 | 市場の種類としくみⅣ 労働市場② | 労働市場の規制と緩和：労働法制とさまざまな雇用形態。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 7 | 市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場 | 資金調達と株式市場。株価の決定。株式会社のしくみ。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 8 | 市場の種類としくみⅥ 貨幣市場 | 貨幣の需要・供給と利子率。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 9 | GDPと経済成長率 | ストックとフロー、付加価値、三面等価、経済成長率。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 10 | 為替変動 | 外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 11 | 国際分業と貿易 | 自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 12 | インフレとデフレ | どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は：ケインジアンの方針、マネタリストの方針。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 13 | 中央銀行と金融緩和 | 価格政策と数量政策。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 14 | 政府の役割 | 有効需要政策と乗数効果。租税政策と所得再分配。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |
| | 15 | 世界経済と日本 まとめと復習 | 経済のグローバル化とリージョナル化。 | 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 |

| | |
|------|----|
| 関連科目 | なし |
|------|----|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-------------|------------|---------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 経済学入門(マクロ編) | ティモシー・テイラー | かんき出版 |
| | 2 | 日本経済の常識 | 中原隆幸 | ナカニシヤ出版 |
| | 3 | 入門経済学 | J.スティグリッツ | 東洋経済新報社 |

| | |
|-----------|---|
| 評価方法(基準) | 定期試験(筆記試験)70%、小テスト・授業態度30%。無断欠席が4回以上ある場合は原則として成績評価をしない。 |
| 学生へのメッセージ | 日々、経済記事に注意を向け、関心あるトピックについて(自分なりに)掘り下げて調べる習慣をつけてほしい。 |
| 担当者の研究室等 | 非常勤講師室(7号館2階) |
| 備考 | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|--------------------------------|
| 科目名 | マクロ経済学入門 | 科目名(英文) | Introduction to Macroeconomics |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 内田 勝巳 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | TS02429a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本授業は、経済学の知識がない学生が、マクロ経済学の基礎理論を身につけることを目的とする。入社試験・公務員試験・資格試験にも役立つように、講義中、演習問題を提示する。 |
| 到達目標 | 学生が、株式市場、外国為替、国民所得、デフレ・インフレ、生産物市場等、主要な経済用語を理解し、新聞の経済記事を読めるようになることを到達目標とする。 |
| 授業方法と留意点 | 授業は、指定する教科書に則った講義を中心に行う。基本的に、前回の課題の解説(復習)、授業テーマの解説、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。事前学習として授業テーマに該当する箇所を読んでおくこと。 |
| 科目学習の効果(資格) | マクロ経済学の基礎概念を学び、新聞記事の経済基礎用語を理解できるようになる。入社試験・公務員試験・資格試験に役立つ知識が身につく。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------|---|------------------------------------|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | マクロ経済学とはどのような学問かについて解説する。 | 教科書の事前学習(p.12-p.23) 授業後、課題の提出 |
| 2 | GDPの定義 | 付加価値、三面等価の原則、名目値と実質値(GDPデフレータ)について解説する。 | 教科書の事前学習P.26-p.46) 授業後、課題の提出 |
| 3 | 財市場(I) | ケインズの消費と投資の決定理論について解説する。 | 教科書の事前学習(p.48-p.62) 授業後、課題の提出 |
| 4 | 財市場(II) | 政府支出と輸出入について解説する。 | 教科書の事前学習(p.62-p.73) 授業後、課題の提出 |
| 5 | 財市場(III) | 国民所得の決定と乗数理論について解説する。 | 教科書の事前学習(p.76-p.92) 授業後、課題の提出 |
| 6 | 財市場(IV) | 新しい消費と投資の理論について解説する。 | 教科書の事前学習(p.218-p.233) 授業後、課題の提出 |
| 7 | 貨幣市場(I) | 貨幣の役割、株式市場における株価について解説する。 | 教科書の事前学習(p.94-p.109) 授業後、課題の提出 |
| 8 | 貨幣市場(II) | 流動性選好理論(利率の決定)と中央銀行の役割について解説する。 | 教科書の事前学習(p.109-p.116) 授業後、課題の提出 |
| 9 | 所得と利率の同時決定(I) | IS-LM分析と経済政策の有効性について解説する。 | 教科書の事前学習(p.118-p.140) 授業後、課題の提出 |
| 10 | 所得と利率の同時決定(II) | 外国為替レートとマンデル・フレミング・モデルについて解説する。 | 教科書の事前学習(p.140-p.156) 授業後、課題の提出 |
| 11 | 所得と物価水準の決定(I) | 所得と物価水準の決定について解説する。 | 教科書の事前学習(p.158-p.179) 授業後、課題の提出 |
| 12 | 所得と物価水準の決定(II) | 財政金融政策の効果について解説する。 | 教科書の事前学習(p.179-p.188) 授業後、課題の提出 |
| 13 | インフレとデフレ(I) | フィリップス曲線について解説する。 | 教科書の事前学習(p.190-p.206) 授業後、課題の提出 |
| 14 | インフレとデフレ(II) | 物価の変動を考慮した分析とデフレ・インフレの発生要因を解説する。 | 教科書の事前学習(p.206-p.216)授業後、課題の提出 |
| 15 | 経済成長 | 経済成長理論について解説する。 | 授業後、課題の提出 |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------|-----|------|
| | 1 | マクロ経済学入門(第2版) | 中谷巖 | 日経文庫 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|-----------|-------------|-------|-------|
| | 1 | マクロ経済学入門第3版 | 二神孝一 | 日本評論社 |
| 2 | マクロ経済学の核心 | 飯田泰之 | 光文社新書 | |
| 3 | | | | |

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 評価方法(基準) | 授業後の課題の提出30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。 |
|----------|-----------------------------------|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 理工学部の学生にとって、マクロ経済学で使用するグラフの読み方は決して難しいものではないと思います。本授業を通じて、一般教養としてのマクロ経済学の基礎知識を習得しましょう。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---------------------|
| 担当者の研究室等 | 1号館7階 内田勝巳教授室(経済学部) |
|----------|---------------------|

| | |
|----|-----------------|
| 備考 | 事前学習・事後学習各1時間程度 |
|----|-----------------|

| | | | |
|---------------|--|---------|-------------------------------|
| 科目名 | 身近な犯罪から自分、家族、まちを守る | 科目名(英文) | Neighborhood Crime Prevention |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 中沼 丈晃 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト(青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー)で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1] |
| 到達目標 | この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。 |
| 授業方法と留意点 | とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視点、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。 |
| 科目学習の効果(資格) | 各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか? | 昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どう理由でねらわれているのか探る。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 2 | 犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか? | 刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 3 | 犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか? | 悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 4 | 大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか? | 大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 5 | 街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に | 一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 6 | 住宅への空き巣、忍び込み、居空き | 泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 7 | 性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ | 大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 8 | 子どもをねらった犯罪 | 子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 9 | ストーカー、DV(配偶者からの暴力) | ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 10 | 詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など | 昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 11 | サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪 | 子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。(約1時間) |

| | | | | |
|---------------|---|--------------|--|--|
| | | | パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。 | |
| | 12 | 違法ドラッグの実態と対策 | 違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| | 13 | 防犯カメラの普及と効果 | 急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| | 14 | 防犯ボランティアの活動 | 近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| | 15 | 警察官の仕事の実際 | 犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。 | 配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間) |
| 関連科目 | 法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11号館9階 中沼研究室 | | | |
| 備考 | 講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。 | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|-------------------------------------|
| 科目名 | ものづくりインターンシップ基礎 | 科目名 (英文) | Internship for Manufacturing Basics |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 坂本 淳二 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | これから就職活動を始める学生 (大学3年) を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。 なお、本授業では、パナソニック (株) より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック (株) の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。 |
| 到達目標 | (1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCA サイクルによる課題解決を体験する。 |
| 授業方法と留意点 | 前半では、グループワーク、Think-Pair-Share などアクティブラーニングを主体に授業を進める。また授業テーマ毎に、授業内容についてのレポートを作成する。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁。なお、1~8回目までは120分授業とする。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------------|---|---------------------------------------|
| 1 | 企業・製造業・仕事の基本とは① 4月11日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途) |
| 2 | 企業・製造業・仕事の基本とは② 4月18日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途) |
| 3 | 企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月25日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途) |
| 4 | 企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月9日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途) |
| 5 | 企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月16日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途) |
| 6 | 企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5月23日 (木) | 社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する | 講義終了後、レポートを提出のこと (書式は別途) |
| 7 | 品質教育① 5月30日 (木) | 企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する | ---- |
| 8 | 品質教育② 6月6日 (木) | 企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する | 品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途) |
| 9 | 原価・コスト教育① 6月13日 (木) | 企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する | ---- |
| 10 | 原価・コスト教育② 6月20日 (木) | 企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する | ---- |
| 11 | 原価・コスト教育③ 6月27日 (木) | 企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する | 原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途) |
| 12 | 課題解決教育① 7月4日 (木) | PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する | ---- |
| 13 | 課題解決教育② 7月11日 (木) | PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する | 課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること (書式は別途) |
| 14 | プレゼンテーションの方法 7月18日 (木) | プレゼンテーションの基礎知識を習得する | これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと |
| 15 | 全体討議・質疑応答 7月25日 (木) | 14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する | 最終報告として受講レポートを提出する。 |

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |

| | | | | |
|---------------|---|--|--|--|
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行う。 | | | |
| 学生への メッセージ | 日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 12号館6階 坂本教授室 | | | |
| 備考 | 毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する(7/11(木), 7/18(木)6限目)。 パナソニック講師: 佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人 | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|-------------------------------------|
| 科目名 | ものづくりインターンシップ基礎 | 科目名(英文) | Internship for Manufacturing Basics |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 檜橋 祥一 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人々と交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。これらの各項目の要点について、企業での業務・海外渡航経験を有する授業担当者により講義する。 |
| 到達目標 | (1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。 |
| 授業方法と留意点 | 講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において受講者を選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。海外における実体験ができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------------|---|---|
| 1 | ガイダンス、海外渡航手続き概要、英語コミュニケーション1 | パスポート、チケット予約(航空機、ホテル)、保険、海外渡航準備、英語による自己紹介 | 事前:海外渡航手続き調査(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 2 | 海外事情、日系企業のグローバル化、英語コミュニケーション2 | 英語による自己紹介発表、海外の文化、経済、グローバル化事情 | 事前:英語での自己紹介準備(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 3 | 研修先 事前調査、英語コミュニケーション3 | 英字新聞記事の調査、文化、歴史、経済事情、企業・大学 | 事前:研修先の英字新聞調査(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 4 | 格差社会の問題 | これからのグローバル人材として必要な素養を考える、ビデオ鑑賞など | 事前:格差社会の調査(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) 格差社会の問題について、レポート提出 |
| 5 | 社会人基礎力、英語コミュニケーション4 | 社会人として必要な基礎力、英語による日本の紹介発表 | 事前:英語での日本紹介準備(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 6 | 英語コミュニケーション5 | 海外渡航、海外生活、大学紹介、専門科目の紹介 | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 7 | 英語コミュニケーション6 | 研修先企業、大学の調査、英語による発表、英語によるワークショップなど | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 8 | 英語コミュニケーション7 | 海外研修を想定したグループ実習1、テクノセンター見学、ヒヤリングなど | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 9 | 英語コミュニケーション8 | 海外研修を想定したグループ実習2、テクニカルニュースのリスニングなど | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 10 | 英語コミュニケーション9 | 海外研修を想定したグループ実習3、テクニカルニュースの発表など | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 11 | 英語コミュニケーション10 | 海外研修を想定したグループ実習4、英語フレーズ集の作成など | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 12 | 英語コミュニケーション11 | 海外研修を想定したグループ実習5、英語フレーズ集の作成など | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 13 | マナー実習 | 挨拶、礼儀、服装、ミーティング、質疑、懇親会、感謝、気配り、機転 | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 14 | 海外渡航、海外生活 | 渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理 | 事前:予習プリント学習(1時間) 事後:課題レポート作成(1時間) |
| 15 | 英語による成果発表 | まとめ | 事前:成果発表の準備(1時間) 事後:成果発表の反省(1時間) |

関連科目:ものづくり海外インターンシップ

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 課題レポート60%、取組み姿勢20%、成果発表20%として評価を行う。 |
| 学生へのメッセージ | これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。 |
| 担当者の研究室等 | 1号館4階 檜橋教授室 |
| 備考 | 【共同担当者】 檜橋教授(E科)、原教授(M科)、木多教授(A科)、白鳥准教授(R科)、理工学部インターンシップ委員会委員 |

| | | | |
|----------------|--|----------|---------------------------------------|
| 科目名 | ものづくりインターンシップ実践 | 科目名 (英文) | Internship for Manufacturing Practice |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 坂本 淳二 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| 授業概要・目的 | 『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。 なお、本授業は、パナソニック人材開発カンパニーの講師陣による生産、製造の実践を通して、企業における目標達成のプロセスを体得するものである。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | (1)生産革新・改善を体験、理解することができる。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験、理解することができる。(3)チームワーク・QCD問題を体験、理解することができる。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | 『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック (株) 人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題 | <p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/18 (木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/25 (木) 6限目 <p>宿泊実習 (パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1~3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・4~5日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得 (設計~生産) し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月31日 (土) 1~4限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会 (2回目) に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会 (2回目) ・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | ものづくりインターンシップ基礎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | 実習成果 40%、研修成果報告会 (2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------|---|
| (基準) | |
| 学生への メッセージ | この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。 |
| 担当者の 研究室等 | 坂本教授室 (12号館6階) |
| 備考 | <p>期間：2019年8月26日(月)～8月30日(金)、9月2日(月)～9月3日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8月31日(土)には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック(株)社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p> |

| | | | |
|----------------|--|----------|--|
| 科目名 | ものづくり海外インターンシップ | 科目名 (英文) | International Internship for Manufacturing |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 檜橋 祥一 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | | | | |
|-----------------------|---|-----|-----|------|
| 授業概要・目的 | 日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先は東南アジアおよび北米とする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。企業での業務経験を有する授業担当者により、ものづくりおよび英語によるコミュニケーションの要点を講義する。 | | | |
| 到達目標 | (1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。 | | | |
| 授業方法と留意点 | 東南アジアは、タイ、フィリピン、ベトナムを、北米は、アメリカを予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識を特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。 | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1~2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4~5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地協同プロジェクト、現地現地従業員・大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6~8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9~10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でパワーポイントによるプレゼンテーション、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンテーションしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出すること。</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p> | | | |
| 関連科目 | ものづくりインターンシップ基礎 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| 評価方法(基準) | 海外現地研修 60%(実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%)、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会(2回) 15%として評価を行う。 | | | |
| 学生へのメッセージ | これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も文系・理系も問わない。また、男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は、理工学部インターンシップ委員会において参加者を選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。 | | | |
| 担当者の研究室等 | 1号館4階 檜橋教授室 1号館5階 原教授室 8号館3階 木多教授室 12号館7階 白鳥准教授室 | | | |
| 備考 | 【注意事項】研修予定期間:2019年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間:20時間程度 【共同担当者】 檜橋教授、原教授、木多教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員 | | | |

| | | | |
|----------------|--|----------|--------------------|
| 科目名 | 役立つ金融知力 | 科目名 (英文) | Financial Literacy |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 陸川 富盛 |
| ディプロマポリシー (DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、自分の人生を切り拓いていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせません。これは諸君の専門科目が何であっても同じです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p> |
| 到達目標 | <p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けること、これが諸君の到達目標です。</p> <p>具体的には、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。</p> <p>② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。</p> <p>③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>講義中や講義に関連した e-Learning として、スマホアプリの利用や検索等を適宜指示します。これらは諸君の成績評価に直結するので指示に従って必ず実施し、ビジネスに役立つ IT 活用を身に付けてください。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | <p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------|------------------|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 「経済主体としての立ち位置」 | テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性 |
| 2 | 経済・金融の基礎知識 ① | 「国際経済と国家財政」 | テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政 |
| 3 | 経済・金融の基礎知識 ② | 「市場経済と金融の役割」 | テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行 |
| 4 | 法律の基礎知識 | 「契約の基本」 | テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II |
| 5 | リスクと向き合う ① | 「日常生活のリスク」 | テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III |
| 6 | リスクと向き合う ② | 「リタイアメント」 | テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金 |
| 7 | 投資の基礎知識 | 「投資とは何か」 | テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス |
| 8 | 経済活動と金融市場 | 「景気・株価」 | テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価 |
| 9 | 金融商品の基礎知識 ① | 「代表的な金融商品 (株式等)」 | テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 |

| | | | | |
|---------------|--|-----------------------|-------------------|---|
| | | | | ・デリバティブ テキスト<P117～123> ・預貯金 ・信託 ・債券 |
| | 10 | 金融商品の基礎知識 ② | 「代表的な金融商品（債券他）」 | |
| | 11 | 金融商品の基礎知識 ③ | 「金融市場と金融商品の性格」 | テキスト<P105～117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格 |
| | 12 | 投資のリスク管理 | 「投資のリスクマネジメント」 | テキスト<P136～153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資 |
| | 13 | ライフプランニング ① | 「ライフプランニング表」 | テキスト<P58～67> ・ライフプランニング |
| | 14 | 人生の三大資金 | 「住宅、教育、リタイアメント資金」 | テキスト<P68～78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題 |
| | 15 | 最終まとめ | 「講義のまとめ」 | 全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。 |
| 関連科目 | 民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 | | 金融知力普及協会 |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| 評価方法 (基準) | <p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。) ・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。) ・平常点 : 30% (受講状況と態度、質疑応答、e-Learning) 実績等を評価します。出席は前提条件です。) <p>必要な学習は、e-Learning システムで適宜指示します。これらにきちんと対応しなければ単位は取得できません。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が重要です。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておくください。</p> | | | |
| 学生への メッセージ | <p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」という子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありません。毎回きちんと聴講しなければ成果は得られませんから単位も取得できません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身につけてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 11 号館 1 階 (教務課) | | | |
| 備考 | <p>「事前・事後学習課題」について 予習 (シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む) : 30 分程度 復習 (講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する) : 30 分程度</p> <p>質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。 興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。</p> <p>この講義は、SMBC 日興証券グループによる「寄附講座」です。</p> | | | |

| | | | |
|---------------|--|---------|------------------------------|
| 科目名 | ライフサイエンスの基礎 | 科目名(英文) | Introduction to Life Science |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教養特別講義 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 西矢 芳昭 |
| ディプロマポリシー(DP) | V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎ | | |
| 科目ナンバリング | V科・R科・A科・M科・E科・C科: IT01428a2~IT01432a2, L科: LT01422a2~LT01426a2, D科・S科: IT01428a2~IT01432a2, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: , W科: WT01424a2~WT01428a2, N科: NT01420a2~NT01424a2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。 また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う。 |
| 到達目標 | 教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解 |
| 授業方法と留意点 | 配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|---|----------------------|
| | | | |
| 1 | 概要説明 特殊環境微生物学(西矢) | 授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 2 | 糖質生化学(大橋) | 糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 3 | 細胞生命生理学(宮崎) | 生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 4 | 分子生物学(川崎) | 分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 5 | 環境分析学(青笹) | 食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 6 | 生命環境科学(長田) | ライフサイエンスにおける植物について解説する。 | 講義後に小論文を課す。 |
| 7 | 細胞機能学(船越) | 生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。 | 課題レポート、または確認小テストを課す。 |
| 8 | 環境毒性学(木村) | 環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 9 | 構造生物学(中嶋) | 生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。 | 課題レポートを課す。 |
| 10 | 共生機能材料学(松尾) | タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 11 | 分子細胞制御学(西村) | 多くの生命現象は「現在(いま)」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 12 | 生体触媒科学(井尻) | 生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 13 | 病態薬理学(居場) | 薬理学の基本について解説する。 | 課題レポートまたは確認小テストを課す。 |
| 14 | 動物生理学(向井) | 生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。 | 課題レポートを課す。 |
| 15 | 生体分子機能学(尾山) | さまざまな機能性タンパク質について解説する。 | 確認小テストを課す。 |

| | |
|------|-------------------------|
| 関連科目 | 生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学 |
|------|-------------------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 評価方法(基準) | 講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。 |
|----------|---------------------------------------|

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 学生へのメッセージ | 不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。 |
|-----------|-------------------------------|

| | |
|----------|-----------------------------|
| 担当者の研究室等 | 1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員) |
|----------|-----------------------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 欠席・遅刻の扱いは理工学部の規定に従って処理する。 事後学習に要する総時間の目安は1.5時間 |
|----|---|

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名 | 歴史に学ぶ | 科目名(英文) | History |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 織田 康孝 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU2409a2 | | |

授業概要・目的
 現在、世界は非常に複雑な情勢となっており、日々新たな出来事が起こっている。連日、テレビや新聞等でそれらを見聞きすることが多いと思うが、私たちは本当にそれらを理解できているだろうか。また、理解はしているがある一方からの考えで理解しているのではないだろうか。過去があるからこそ今があるというように、現代起こっている出来事には必ず原因、つまり歴史がある。そこで、本講義では、現代に起こっている出来事を理解するため、また、それらを様々な角度からみる目を養うために近代日本の歴史、とりわけ、近代日本が行った戦争を事例としてその軌跡を追っていく。そのうえで、近年の地域間紛争や民族紛争、国際紛争について、その要因と国際社会に与える影響について考える。受講生がそれぞれ解決の糸口を多角的に検討できるようにすることを本講義の目的とする。

到達目標
 本講義を通じて、近代日本が辿った歴史の基礎知識を身につけることはもちろんのこと、様々な視点から物事を考える能力を養うことが可能となる。加えて、これら歴史上の事象と、現代の国際社会において紛争、飢餓、経済、人種、宗教を起因として発生する様々な問題の背景にある諸条件とを比較検討することによって、現代社会が持つ問題の特質について考察する。

授業方法と留意点
 基本的に毎回の講義でプリントを配布し、それを利用して講義を行います。教科書等は必要なく、講義内で参考書を適宜紹介していきます。また、毎回の講義内で小レポート(200字程度)を提出してもらいます(小レポートは講義終了前の10分間で行います)。さらに、一方的な講義ではなく、講義内で発言をしてもらうこともあります。なお、事前学習の際は、参考書に挙げている『詳説日本史:日本史B』および『詳説世界史:世界史B』にて学修してください。

科目学習の効果(資格)
 歴史を論理的に考えることで、現在起こっている事象をも論理的に理解できるようになり、かつ、毎回の授業時における200字程度の小レポートを提出することにより学習したことおよび自らの思考をアウトプット出来る能力を養うことができよう。また、講義で学ぶ多様な立場や価値観、視角を理解することで、現代社会に発生している民族間対立や宗教間対立について、知見に基づき客観的に分析することができるようになる。

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|--|---|
| | | | |
| 1 | はじめに | 歴史とは何かを考える。授業の方針・全体計画・評価方法について説明する。 | みなさんにとって歴史とは何かを考えてください。 |
| 2 | 近代日本の誕生 | 王政復古や戊辰戦争を通じて近代日本の誕生を考える。 | 予習として、王政復古や戊辰戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 3 | 近代日本と軍事 | 徴兵制などを通じて日本が軍事大国となる原点を辿る。 | 予習として、徴兵制に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 4 | 日本と清国 | 「朝鮮」をめぐる日本と清国の関係をみていく。 | 予習として、日清戦争以前の日本と清国との関係に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 5 | 日清戦争 | 山県有朋の「主権線」・「利益線」などを通じて日清戦争がなぜ起こったのか、また、下関条約による領土拡大を考える。さらに、日清戦争の裏で行われていた魚釣諸島領有問題についてもみていく。 | 予習として、日清戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 6 | 日露戦争 | 三国干渉や日英同盟を通じて日露戦争を考える。また、ポーツマス条約をみることで現在に繋がるロシアとの領土問題について考える。さらに、本戦争と竹島の関係についてもみていく。 | 予習として、日露戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 7 | 第一次世界大戦① | 民族自決、ワシントン体制を軸に第一次世界大戦が世界に与えた衝撃を考える。 | 予習として、第一次世界大戦勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 8 | 第一次世界大戦② | 帝国国防方針および総力戦体制論をキーワードに第一次世界大戦が日本に与えた衝撃を考える。 | 予習として、帝国国防方針や総力戦体制論に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 9 | 満洲事変 | 満洲事変とはなにか、また、同事変の目的はいかなるものであったのか。 | 予習として、満洲事変に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 10 | 日本の植民地統治 | 傀儡をキーワードに日本の植民地政策の特質を捉える。 | 予習として、満洲国や汪兆銘政権に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 11 | 日中戦争からアジア・太平洋戦争開戦 | 日中戦争解決の糸口はどこにあるのか?当時の為政者は何を考えていたのかをみていく。 | 予習として、日中戦争勃発経緯やアジア・太平洋戦争勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 12 | 「大東亜共栄圏」構想の形成と展開 | 「大東亜共栄圏」構想の起源を辿り、同構想がいかに展開したのか、また、日本の各占領地にいかに波及したのかを考える。 | 予習として、「大東亜共栄圏」に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 13 | 大東亜会議 | 大東亜会議とはなにか、また、なにを目的に開催されたのかを考える。 | 予習として、大東亜会議・重光葵に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 14 | 帝国日本の解体 | 帝国日本は単に戦争に負けたから解体したのか。東南アジア占領や「独立」問題などを絡めて帝国日本の解体を考える。また、帝国日本解体後の問題となる日本領土についても考えていく。 | 予習として、東条英機内閣・小磯国昭内閣・鈴木貫太郎内閣に関して教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |
| 15 | 現代日本を取り巻く諸問題 | 東北アジアの領土問題(竹島=独島、尖閣=釣魚諸島問題、北方四島)など現代日本を取り巻く諸問題に関して考える。 | 予習として、東北アジアの領土問題について教科書程度の意味を調べておく。今回の授業の重要な点を復習しておく。 |

関連科目

| | | | | |
|---------------|---|-------------|--------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 詳説日本史：日本史 B | 笹山晴生ほか | 山川出版社 |
| | 2 | 詳説世界史：世界史 B | 木村靖二ほか | 山川出版社 |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 試験 70%、小レポート (200 字程度) 30% | | | |
| 学生への メッセージ | <p>授業タイトルにもあるように「歴史に学ぶ」ことは非常に大切なことです。周知の通り、過去があるから今があります！現代で起こっている事象には必ず歴史があり、それらを理解するためには歴史をみる必要があります。</p> <p>高校生までの暗記科目としての歴史ではなく、歴史を様々な角度からみることで、考えることで今私たちが生きている現代をみる目も変わってくるはずです。</p> <p>大学生活、バイトも遊びも大切ですが、少し「考える」時間も作りましょう！</p> | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館 2階 (非常勤講師室) | | | |
| 備考 | 予習・復習にあてる総時間の目安は 30 時間程度とします。なお、授業での質問等がある場合は、授業後に 7号館 2階の非常勤講師室に来ていただくか、メールにてご連絡ください。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| 科目名 | 歴史に学ぶ | 科目名(英文) | History |
| 学部 | 理工学部 | 学科 | 住環境デザイン学科 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 村上 司樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | A◎ | | |
| 科目ナンバリング | THU2409a2 | | |

| | |
|---------|---|
| 授業概要・目的 | 理工学部のみなさんが学んでいる技術や知識は、その多くが近代の西洋(欧米つまりヨーロッパ・アメリカ)で確立したものです。しかしそれは近代になって急にできあがったものではなく、古代・中世からつづく人間の営みのなかで誕生しました。つまり歴史の産物なのです。だからより深い理解のためには歴史を、つまり人間社会の経験の積み重ねを学ぶべきなのです。なお歴史は暗記科目ではありません。現在のあらゆる偏見から自由になり、未来を考えるためのよりどころとなる知的営みです。先が見通せない状況だからこそ、後ろをふり返るのです。ヨーロッパの過去という二重の意味での異文化を通して、それを具体的に実践しましょう。 |
| 到達目標 | 社会とその時間のなかでの変化という視点を身に着けることで、各専門での学びをより豊かなものとする。また学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。 |

| | |
|----------|--|
| 授業方法と留意点 | 暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。まず復習として、授業プリントを最低2回は読み返すこと。次に予習として、次回分の資料には、あらかじめ目を通して置くこと。最後に話を聞く(文を読む)ときは手を動かす(線を引く、印をつける、メモをとる)こと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。 |
|----------|--|

| | |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | 人間社会の時間的変化(つまり歴史)という視点から、それぞれの学問的な専門知識をさらに深める。 |
|-------------|--|

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------|--------------------------------------|---------------------------|
| | | | |
| 1 | 歴史を学ぶにあたって(1) | 授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す | 必ず出席するよう予定を調整する。 |
| 2 | 歴史を学ぶにあたって(2) | 成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 3 | 歴史を学ぶにあたって(3) | 論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 4 | 機械でたどる西洋史(1) | 水車とともに始まった、アジアからヨーロッパへ | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 5 | 機械でたどる西洋史(2) | 発明だけで歴史は変わらない、人間は「社会」を成す生き物だから | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 6 | 機械でたどる西洋史(3) | 民主的な政治と学芸が発達した古代、発明は起こっても普及につながらない社会 | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 7 | 機械でたどる西洋史(4) | 神への信仰と領主の支配が機械の普及につながる | 同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。 |
| 8 | 機械でたどる西洋史(5) | 機械の普及が城と騎士の時代を終わらせた | 同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。 |
| 9 | 建築でたどる西洋史(1) | 「西洋建築＝石造建築」とは限らない | 同上の課題に加えて小レポート。 |
| 10 | 建築でたどる西洋史(2) | 石造建築が栄えた古代、ただし社会という視点から見つめなおすと… | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 11 | 建築でたどる西洋史(3) | 古代社会の終わりとともに石造りの建築も消える | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 12 | 建築でたどる西洋史(4) | 初期の城は木と土でできていた、教会と都市が石の建築をよみがえらせる | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 13 | 建築でたどる西洋史(5) | ヨーロッパ都市の中心は大聖堂、建築家の誕生 | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 14 | 自然学でたどる西洋史(1) | 「宗教 VS 科学」という思い込み | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |
| 15 | 自然学でたどる西洋史(2) | 化学と錬金術、占星術と天文学 | 授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。 |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点)。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館2階 非常勤講師室 |
|----------|--------------|

| | |
|----|---|
| 備考 | 第1に事前事後学習は、毎回1時間をかけること。第2に受講および慈善事後学習の際は手を動かす(線を引く、印をつける、メモをとるなど)こと。第3に知識が不足する際には、指定の参考文献を積極的に利用すること。 |
|----|---|

教 職 科 目

| | | | |
|---------------|-------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 教育課程論 | 科目名(英文) | Studies of Curriculum Development |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 大野 順子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | (1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。 |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。 |
| 授業方法と留意点 | テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通していただくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを1冊準備してください。授業でレジュメを配布予定としていますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておいてください。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育課程の意義及び編成の方法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | 教育課程とは何か/オリエンテーション | 学校教育のもつ機能について。 | 課題: シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。 |
| 2 | 日本における教育課程の歴史的変遷 I | 戦前から戦後(経験主義～系統主義: 高度経済成長期)の教育課程変遷について。 | 課題: テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。 |
| 3 | 日本における教育課程の歴史的変遷 II | 1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。 | 課題: テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。 |
| 4 | 教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について | 教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。 | 課題: シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。 |
| 5 | 教育評価 その1 | 子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。 | 課題: 事前に配布した資料を読んでおくこと。 |
| 6 | 教育評価 その2 | 教育課程評価について。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 7 | 『総合的な学習の時間』について | 導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 8 | 新しい教育課程 その1 | 「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 9 | 新しい教育課程 その2 | 「アクティブラーニング」について。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 10 | 新しい教育課程 その3 | 「社会に開かれた教育課程」について。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 11 | 教育課程と教育改革 その1 | 特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 12 | 教育課程と教育改革 その2 | カリキュラム・マネジメントについて。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 13 | 教育課程と教育格差 その1 | 学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 14 | 教育課程と教育格差 その2 | 教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。 | 課題: 本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。 |
| 15 | 総括: 教育課程をめぐる諸問題 | 海外の学校教育課程の動向、及び、キ・コンピテンシー(OECD)について。 | 課題: 事前に配布した資料を読んでおくこと。 |

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------------|----------|----------|
| | 1 | 新教育課程ライブラリ (Vol.1～Vol.12) | (株)ぎょうせい | (株)ぎょうせい |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

評価方法(基準) 出席(全15回出席が当たり前、少なくとも8割以上出席必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(実施予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(グループでの発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習(特に復習)をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象外となりますので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ 以下の項目、必ず守ってください。
1. 第一回目の授業は必ず出席すること。
2. 欠席・遅刻はしない。
3. 授業中、むやみやたらに入ったり、私語、飲食はしない。

| | |
|----------|--|
| | <p>4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む（グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない）。</p> <p>5. 毎回授業内容の復習をする。</p> <p>6. テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。</p> <p>7. 授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に来てください。</p> |
| 担当者の研究室等 | 7 号館 3 階(大野順子研究室) |
| 備考 | <p>2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。</p> <p>教科書に代わる配布資料（『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい）については事前に該当箇所を印刷し、配布します。高額ですので購入する必要はありません。また、その他のテキスト、資料等については適宜印刷し、配布します。</p> <p>事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。</p> |

| | | | |
|---------------|-------|---------|---------------------------------------|
| 科目名 | 教育経営論 | 科目名(英文) | Studies of Educational Administration |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

教職科目

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。 |
| 到達目標 | 私たちにってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。 |
| 授業方法と留意点 | プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|--|--|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 公教育とは | 授業概要、方法としてのLTDについて説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開 | シラバス、テキスト第1部を読んでくる。 |
| 2 | 教育権の構造 | 「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 | テキスト第2部を読んでくる。 |
| 3 | 教育を受ける権利の保障 | 教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理 | 教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。 |
| 4 | 学校体系のしくみ | 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者 | 教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。 |
| 5 | 学校体系の現代的課題 | 選別・分離と接続・統合 | テキスト第1部を読んでくる。 |
| 6 | 教育条件整備の法制度と新しい動向 | 「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか | 学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。 |
| 7 | 中央教育行政の組織構造 | 各省庁・審議会 | テキスト第3部を読んでくる。 |
| 8 | 地方教育行政の組織構造 | 教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会 | テキスト第3部を読んでくる。 |
| 9 | 中央・地方教育行政の関係構造 | 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向 | 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。 |
| 10 | 教育費と教育財政 | 教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務 | テキスト第3部を読んでくる。 |
| 11 | 指導行政と教育課程管理 | 学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論 | テキスト第4部を読んでくる。 |
| 12 | 人事行政と教職員管理 | 学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・サービス管理、教育労働管理 | 学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。 |
| 13 | 学校の組織管理と組織編制 | 教職員配置、学校・学級の「適正規模」 「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 | テキスト第4部を読んでくる。 |
| 14 | 学校経営の組織構造 | 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む) | 学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。 |
| 15 | 学校の安全管理と安全教育 | 安全管理の領域 安全教育の方法 | テキスト第4部を読んでくる。 |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------|------|---------|
| | 1 | 公教育経営概説 (改訂版) | 堀内 孜 | 学術図書出版社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

参考書

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|--|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。 | | | |
| 学生への メッセージ | 教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 朝日研究室 | | | |
| 備考 | ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|---------------|------|---------|------------------------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目名(英文) | Educational Principles |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 谷口 雄一 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|---------|---|
| 授業概要・目的 | <p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p> |
|---------|---|

| | |
|------|---|
| 到達目標 | 教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。 |
|------|---|

| | |
|----------|---|
| 授業方法と留意点 | <p>授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。</p> <p>また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p> |
|----------|---|

| | |
|-------------|--|
| 科目学習の効果(資格) | <p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎理論に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> |
|-------------|--|

| | | | | |
|------|----|-------------------------------|---|--------------------------------------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | ガイダンス： 教育について考える | 本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。 | 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分なりの考えをまとめておく。 |
| | 2 | 教育の基礎理論①： 教育の必要性 | なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。 | 教育の必要性について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。 |
| | 3 | 教育の基礎理論②： 教育の目的 | 前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。 | 教育の目的について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。 |
| | 4 | 教育の基礎理論③： 子どもの発見 | 「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。 | 子ども観や子どもをめぐる問題について、自分なりの考えを整理しておく。 |
| | 5 | 教育の基礎理論④： 教師とは何か | 教師という職業や、その教育的役割について考える。 | 教師の教育的役割について、自分なりの考えを整理しておく。 |
| | 6 | 教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生 | 近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。 | 近代の学校や学校教育の広がりについて、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 7 | 教育の基礎理論⑥： 家庭と教育 | 家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概観する。 | 家庭における教育について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 8 | 近代の教育思想①： コメニウスの教育思想 | コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。 | 授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 9 | 近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想 | ルソー、ペスタロッチの教育思想について概観し、考察を加える。 | 授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 10 | 近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想 | ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。 | 授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 11 | 現代の教育理論①： デューイの教育思想 | デューイの教育思想について概観し、考察を加える。 | 授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 12 | 現代の教育理論②： 20世紀の教育理論 | 20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。 | 授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 13 | 現在の教育課題①： 学力問題 | 現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。 | 学力問題について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 14 | 現在の教育課題②： 生涯学習の思想 | 現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。 | 生涯学習の思想について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| | 15 | まとめ： 今後の教育について考える | 教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。 | 「自分はどのような教師になりたいのか」について、考えをまとめる。 |

| | |
|------|--|
| 関連科目 | 教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。 |
|------|--|

| | | | | |
|-----|----|----------|---------|-------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 哲学する教育原理 | 伊藤潔志 編著 | 保育出版社 |

| | | | | |
|-----|----|------------|---------|--------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 中学校学習指導要領 | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | 高等学校学習指導要領 | 文部科学省 | 東洋館出版 |
| | 3 | 哲学する学校経営 | 伊藤潔志 編著 | 教育情報出版 |

| | |
|----------|---|
| 評価方法(基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、学期末試験の結果(70%)をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 |
|----------|---|

| | |
|-----------|--|
| 学生へのメッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。 |
|-----------|--|

| | |
|----------|--------------|
| 担当者の研究室等 | 7号館4階(谷口研究室) |
|----------|--------------|

| | |
|----|---------------------------|
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |
|----|---------------------------|

| | | | |
|---------------|--------|----------|-------------------------------|
| 科目名 | 教育実習 I | 科目名 (英文) | Teaching Practice I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 1 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹・吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | (1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。 |
| 到達目標 | 教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習 |

| | | | | |
|------|----|-----------------------|---|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 教育実習の意義等 | 教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について | 授業時に指示する |
| | 2 | 教育実習への準備と心がまえ等 | 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について | 授業時に指示する |
| | 3 | 実習中の勤務の要領 | 学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について | 授業時に指示する |
| | 4 | 授業の方法と技術 | 授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について | 授業時に指示する |
| | 5 | 授業の記録と評価 | 授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について | 授業時に指示する |
| | 6 | 生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営 | 生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について | 授業時に指示する |
| | 7 | 指導案の作成(1) | 授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成 | 授業時に指示する |
| | 8 | 指導案の作成(2) | 学級(ホームルーム)活動等の指導案について | 授業時に指示する |
| | 9 | 模擬授業(1) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| | 10 | 模擬授業(2) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| | 11 | 模擬授業(3) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| | 12 | 模擬授業(4) | 作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換 | 授業時に指示する |
| | 13 | 学校における人権教育 | 人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について | 授業時に指示する |
| | 14 | 特別支援教育の現状と課題 | 障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について | 授業時に指示する |
| | 15 | まとめ | | |

| | |
|------|-------------|
| 関連科目 | 教職課程で学んだ全科目 |
|------|-------------|

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|--------------|-----------|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 『新編 教育実習の常識』 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法(基準) | 課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。 |
|----------|--|

| | |
|-----------|---|
| 学生へのメッセージ | 教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。 |
|-----------|---|

| | |
|----------|---|
| 担当者の研究室等 | 吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室(7号館3階) 谷口研究室(7号館4階) |
|----------|---|

| | |
|----|--|
| 備考 | 教育実習体験発表会(10月末土曜日)、教育実習総括講義(11月末土曜日)には原則として必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |
|----|--|

| | | | |
|---------------|-------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 教育実習Ⅱ | 科目名(英文) | Teaching Practice II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| 授業概要・目的 | 「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----------|------|----|-----|-----|------|---|--------------------------|-----------|------|---|----------|-------|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | (1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教職関連科目全般 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 教育実習Ⅲ | 科目名(英文) | Teaching Practice III |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 通年集中 | 授業担当者 | 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| 授業概要・目的 | 「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----------|------|----|-----|-----|------|---|--------------------------|-----------|------|---|----------|-------|--|---|--|--|--|
| 到達目標 | 学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法と留意点 | (1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題 | <p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教職関連科目全般 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項 | 教育実習を考える会 | 蒼丘書林 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 学習指導要領解説 | 文部科学省 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法(基準) | 事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-------|---------|------------------------|
| 科目名 | 教育社会学 | 科目名(英文) | Sociology of Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 大野 順子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。 |
| 到達目標 | 本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。 |
| 授業方法と留意点 | 講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ出向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももうけます(授業時間外に実施する場合もある)。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。 |
| 科目学習の効果(資格) | (1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | イントロダクション 教育社会学とは | 教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。 | 事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。 |
| 2 | 新自由主義と学校教育 | 近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。 | 事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。 |
| 3 | マイノリティと教育 I | マイノリティ体験ワークショップの実施。 | 事前課題: 小テスト対策 |
| 4 | マイノリティと教育 II | 前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について議論する。 | 事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。 |
| 5 | マイノリティと教育 III | 予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)を招聘し、学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりを実施する。 | 事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。 |
| 6 | 教育格差・学力格差問題 I | 教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。 | 事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。 |
| 7 | 教育格差・学力格差問題 II | 貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞、及び子どもの貧困問題に取り組んでいる実践者の方を招聘し、現状についての理解を深める。 | 事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。ゲスト講師からの課題があれば予習をしてくる。 |
| 8 | 教育格差・学力格差問題 III | 格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。なお、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。 | 事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。 |
| 9 | 学校教育の現場を知る I | 予定: 学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。 | 事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び講師、話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。 |
| 10 | 学校教育の現場を知る II | 予定: 学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。 | 事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。 |
| 11 | 学校教育の現場を知る III | 前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、それぞれ関心のある問題を選択し、小グループに分かれ発表する。 | 事前課題: 小テスト対策、グループ発表資料の準備をしてくる。 |
| 12 | ジェンダーと教育 I | 学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークを実施する。 | 事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。 |
| 13 | ジェンダーと教育 II | ジェンダー問題を扱った映画の鑑賞予定。 | 事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。 |
| 14 | ジェンダーと教育 III | ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら | 事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。 |

| | 15 | 総括 | 考える。 まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。 | 事後課題：小テスト対策、教科書の第10章の要約。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|-----------|--|--------------------------|----|-----|-----|------|---|---------------------|-----------|---------|---|-------------------|------|-------|---|--|--|--|
| 関連科目 | 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td> <td>久富善之、長谷川裕</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 教師教育テキストシリーズ『教育社会学』 | 久富善之、長谷川裕 | 学文社 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 教師教育テキストシリーズ『教育社会学』 | 久富善之、長谷川裕 | 学文社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代教育社会学</td> <td>岩井八郎、近藤博之</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新版『教育社会学を学ぶ人のために』</td> <td>石戸教嗣</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 現代教育社会学 | 岩井八郎、近藤博之 | 有斐閣ブックス | 2 | 新版『教育社会学を学ぶ人のために』 | 石戸教嗣 | 世界思想社 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 現代教育社会学 | 岩井八郎、近藤博之 | 有斐閣ブックス | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 新版『教育社会学を学ぶ人のために』 | 石戸教嗣 | 世界思想社 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | <p>本講義を履修する者は、原則、前期履修期間中に学校現場でのボランティア活動経験が必須条件となります。すでに何らかの活動をしているものはその活動内容についてレポートをまとめ提出してもらいます（必須）。一度も活動したことがないものは、前期履修期間中にいくつかの活動を紹介するので、その活動に参加しレポートを作成し提出してもらいます（必須）。この必須レポート提出がない者は単位認定できませんので、履修前によく考えてから履修してください。なお、地域連携やその他の大学認定の活動（PBLなど）は、本レポートの対象とはなりません。</p> <p>学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階(大野順子研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-------|---------|------------------------|
| 科目名 | 教育心理学 | 科目名(英文) | Educational Psychology |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。 |
| 到達目標 | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 |
| 授業方法と留意点 | 講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------|---------------------------------------|---|
| | | | |
| 1 | 発達と教育と心理学と1 | 教育に対して心理学ができること、発達と教育 | テキスト第0章1、配付資料による本時の予習と復習 |
| 2 | 発達と教育と心理学と2 | 発達の要因、主な発達理論の概観 | テキスト第8章1、配付資料による本時の予習と復習 |
| 3 | こどもの発達1 | 乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第9章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 4 | こどもの発達2 | 児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 5 | こどもの発達3 | 青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達 | テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 6 | 学習を支える認知機能1 | 思考……人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達 | テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習 |
| 7 | 学習を支える認知機能2 | 言語……言語の機能、言語理解と言語産出とその発達 | テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 8 | 学習を支える認知機能3 | 記憶……記憶のメカニズムと発達 | テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 9 | こどもの学び1 | さまざまな学習①……学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ | テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 10 | こどもの学び2 | さまざまな学習②……観察学習、自己制御学習 | テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 11 | 学習を支える動機づけ1 | 意欲とは何か……動機づけ過程、動機づけ理論 | テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 12 | 学習を支える動機づけ2 | さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達 | テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 13 | 学習を支える動機づけ3 | 意欲を育む……こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価 | テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 14 | 学校における人間関係 | 教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級 | テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習 |
| 15 | 個に応じた教育 | 個人差の理解と教育……ATI、学習方略 | テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習 |

| | |
|------|----------------|
| 関連科目 | 教職課程におけるすべての科目 |
|------|----------------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------------|----------|---------|
| | 1 | 絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践— | 藤田哲也(編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | 小テスト30%、期末試験70% |
| 学生へのメッセージ | これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(吉田研究室) |
| 備考 | ・授業内で、moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |

| | | | |
|---------------|------|---------|-------------------|
| 科目名 | 教育相談 | 科目名(英文) | School Counseling |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。 |
| 到達目標 | 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。 |
| 授業方法と留意点 | 講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------|--|----------------------------------|
| | | | |
| 1 | イントロダクション | 授業内容、授業の進め方、評価基準等について | ————— |
| 2 | カウンセリングの基礎 | カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド | テキスト第1章、第2章を読む |
| 3 | グループ発表の準備 | グループワーク | 検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備 |
| 4 | 学校教育相談の全体像 | 校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法 | テキスト第12章、第13章を読む グループ発表の準備 |
| 5 | 学校におけるカウンセリング活動1 | カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動 | テキスト第10章を読む グループ発表の準備 |
| 6 | 学校におけるカウンセリング活動2 | カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動 | テキスト第10章を読む グループ発表の準備 |
| 7 | パーソナリティ理解 | パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの | グループ発表の準備 |
| 8 | 問題の理解と対応1 | 問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程 | テキスト第3章を読む グループ発表の準備 |
| 9 | 問題の理解と対応2 | ストレス、欲求不満、葛藤 | テキスト第3章、第4章を読む グループ発表の準備 |
| 10 | 心の発達と危機 | 認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達 | 教育心理学の復習 グループ発表の準備 |
| 11 | 相談援助活動の実際1 | 不登校……その理解と対応(学生グループ発表) | テキスト第5章を読む |
| 12 | 相談援助活動の実際2 | いじめ……その理解と対応(学生グループ発表) | テキスト第6章を読む |
| 13 | 相談援助活動の実際3 | 学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表) | テキスト第7章を読む |
| 14 | 相談援助活動の実際4 | 反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表) | テキスト第8章を読む |
| 15 | 教員のメンタル・ヘルス | 教員自身が健康であるために、教員への対応 | テキスト第14章を読む |

| | |
|------|-----------|
| 関連科目 | 教職課程の科目全般 |
|------|-----------|

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|------|----------------|---------|
| | 1 | 教育相談 | 森田健宏・吉田佐治子(編著) | ミネルヴァ書房 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| | |
|-----------|--|
| 評価方法(基準) | グループ発表 50%、期末試験 50% |
| 学生へのメッセージ | これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。 |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(吉田研究室) |
| 備考 | グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 |

| | | | |
|---------------|-------|---------|-------------------------------|
| 科目名 | 教育方法論 | 科目名(英文) | Studies of Educational Method |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 林 茂樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。</p> <p>授業担当者は公立高校5校で34年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p> |
| 到達目標 | <p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、授業の最後にコメントペーパーを配付する。「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。)</p> <p>(3) 授業終了時に復習用の講義資料を配布する。講義資料は各自ファイリングすること。</p> <p>(4) 第9～12回でチームでのマイクロ・ティーチングを実施する。また、チーム・マイクロ・ティーチングに関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(5) 定期試験を必ず受験すること。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。 |

| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|------|---|--|---|-----------------------------------|
| | 1 | オリエンテーション、教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい | 「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争 | 教科書第3章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 |
| 2 | 子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり | 教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標 | 教科書第4章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 3 | 学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策 | 学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態 | 教科書第5章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 4 | 欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術 | 近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革 | 教科書第1章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 5 | 日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方 | 近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革 | 教科書第2章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 6 | 学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 ワーク1 チーム顔合わせ・自己紹介 | 学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって | 教科書第6章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 7 | 授業をどうデザインするか(計画論) ワーク2 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ① | 授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援 | 教科書第7章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 8 | 教育の道具・素材・環境(教材論) ワーク3 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ② | 教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間 | 教科書第8章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 9 | 何をどう評価するか(評価論) ワーク4 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施 | 目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化 | 教科書第9章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 10 | 誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施 | カリキュラム・イメージの私試、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | |
| 11 | ICTを活用した授業をつくる | 各種メディアの授業への活用、学習用デ | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に | |

| | ① ワーク5 第5・6グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施 | デジタル・コンテンツの利用 | 学習内容を整理する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|---|------------------------------------|----|-----|-----|------|---|----------------|-------|-----|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 12 | ② ワーク6 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施 | 情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化 | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | インクルーシブな授業をつくる ワーク7 チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導 | 通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加 | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | ユニバーサルデザインの授業をつくる ワーク8 チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方 | バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮 | 配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | まとめ～学び続ける教員像をめぐる 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法 | 2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて | 教科書第11章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 新しい時代の教育方法 改訂版 | 田中耕治他 | 有斐閣 | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 新しい時代の教育方法 改訂版 | 田中耕治他 | 有斐閣 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階(林研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|-------------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 教職実践演習（中・高） | 科目名（英文） | Practicum in Prospective Teachers |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 4年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 吉田 佐治子・朝日 素明・大野 順子・谷口 雄一・林 茂樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p> <p>※ 担当者のうち2名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、中学校での実地学習では、現職の先生方から直接ご指導いただく。</p> |
| 到達目標 | 免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。 |
| 授業方法と留意点 | <p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p> |
| 科目学習の効果（資格） | <p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------------|--|--|
| 1 | 「教職実践演習」の全体ガイダンス | <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・3回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 | 教育実習ノートの点検と再確認 |
| 2 | 専攻科目における実践上の課題① | 専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。 | 専攻教科における分野ごとの課題を整理 |
| 3 | 専攻科目における実践上の課題② | 専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。 | 専攻教科における分野ごとの課題を整理 |
| 4 | 生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)① | 地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 | 中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる |
| 5 | 生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)② | 地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 | 中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる |
| 6 | いじめの現状 | 問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。 | (事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出 |
| 7 | いじめ問題への取り組み | 日常の些細な出来事かどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。 | (事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出 |
| 8 | ジェンダーと教育 | 近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。 | (事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。 |
| 9 | 学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち | 1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたち | (事前)第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。 |

| | | | ちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|-----|--|--|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 10 | 学校の危機管理①: 学校管理下の事件・事故 | | 学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。 | (事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 学校の危機管理②: 災害 | | 災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。 | (事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 教員の体罰はなぜなくなるのか? | | 教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。 | (事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 教員の勤務時間はなぜ長くなるのか? | | 労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。 | (事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | カウンセリングマインドと生徒対応 | | カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。 | (事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 「自分」を知る | | 教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。 | (事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | 全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|------|---------|-------------------|
| 科目名 | 教師論 | 科目名(英文) | Teacher Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。 |
| 到達目標 | 学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどういう教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。 |
| 授業方法と留意点 | 講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)・進路選択に資する各種の機会の提供等 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------|---|--------------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション 教職への道 | 科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味 | 本科目のシラバスの熟読 |
| 2 | 教職の成立とその意義 | 公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成 | 戦前の教員養成制度に関する配布資料 |
| 3 | 教師教育と教職の専門性(1) | 教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立 | 戦後の教員養成制度に関する配布資料 |
| 4 | 教師教育と教職の専門性(2) | 教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験 | 教員免許制度に関する配布資料 |
| 5 | 教師教育と教職の専門性(3) | 教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系 | 学び続ける教師に関する配布資料 |
| 6 | 教師教育と教職の専門性(4) | 法定研修 教員の自己研修 | 教員研修体系に関する配布資料 |
| 7 | 文献・映像に基づく教師像の探究(1) | 戦前・戦後の教師像 憧れの教師 | 教師像に関する配布資料 |
| 8 | 文献・映像に基づく教師像の探究(2) | 「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク | 「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 9 | 文献・映像に基づく教師像の探究(3) | 「人間教師」と「プロ教師」) レポートに基づくグループワーク | 「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出 |
| 10 | 文献・映像に基づく教師像の探究(4) | 教師としての資質能力のあり方 | 教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料 |
| 11 | 教員の役割・職務(1) | 学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務 | 授業・カリキュラムと教師に関する配布資料 |
| 12 | 教員の役割・職務(2) | 学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務 | 教職員構成と校務分掌に関する配布資料 |
| 13 | 教員の役割・職務(3) | 学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務(チーム学校運営への対応を含む) | 「チーム学校」の考え方や学校運営の実践に関する配布資料 |
| 14 | 教員の役割・職務(4) | 教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 | 教員の任用・服務等に関する配布資料 |
| 15 | 教員の役割・職務(5) | 教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト | メンタルヘルスに関する配布資料 |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

評価方法(基準) 定期試験70%、レポート20%、グループワーク・ピア評価10%

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

| | | | |
|----------------|----------|----------|-------------------------|
| 科目名 | 工業科教育法 I | 科目名 (英文) | Engineering Education I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 福岡 優 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

授業概要・目的
工業科教育法 I では、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。
授業担当者は工業科高校 4 校で約 25 年間教諭や学校長、さらに、教育センターで工業科高校担当室の指導主事や室長を約 9 年間経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。

到達目標
工業高等学校における技術教育を行うために必要な基礎的知識を修得できる。

授業方法と留意点
教科書と配付プリントによる講義を中心に行い、時間内にレポートの質疑応答の時間を設けるなど実践的な基礎的知識の修得を図る。

科目学習の効果 (資格)
工業高等学校の教員 1 種免許を得るために必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育課程及び指導法に関する科目
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-----------------------------------|--|---------------------------------------|
| 1 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容> | オリエンテーション。 工業教育の意義について解説する。 レポート 1 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 2 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容> | 工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。 レポート 1 に対する質疑応答 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 3 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容> | 工業教育における技術者倫理の育成について解説し、研究協議を行う。 レポート 2 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 4 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令> | 教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (日本国憲法、教育基本法等)。 レポート 2 に対する質疑応答 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 5 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令> | 教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(学校教育法等)。 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 6 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令> | 教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領)。 レポート 3 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 7 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令> | 教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領解説工業編)。 レポート 3 に対する質疑応答 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 8 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状> | 日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代の工業の教育の歴史等)。 小テスト 1 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 9 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状> | 日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する。(大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等)。 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 10 | 工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状> | 高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 11 | 教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目> | 工業技術基礎の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議・発表を行う。 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 12 | 教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目> | 課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議・発表を行う。 小テスト 2 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 13 | 外国の技術・工業教育の紹介 | 外国の技術・工業教育の具体例を説明する (アメリカ、韓国、ドイツ)。 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 14 | 教科・工業の内容関係<専門学校などの工業教育について> | 専門学校などの工業教育の内容について説明する。 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |
| 15 | 教科・工業の内容関係<実践的工業教育> | 実験・実習、情報機器の活用について解説し、研究協議等を行う。 小テスト 3 | 教科書による予習 (1 時間) 配付プリントによる復習 (1 時間) |

関連科目
特になし

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----------------------|---------------|----------|
| 1 | 新しい視点と実践に基づく工業科教育法の研究 | 池守滋、佐藤弘幸、中村豊久 | 実教出版株式会社 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|----|-----------------|-------|------|
| 1 | 高等学校学習指導要領 | 文部科学省 | |
| 2 | 高等学校学習指導要領解説工業編 | 文部科学省 | |

| | | | | |
|---------------|-----------------------------|--|--|--|
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | レポート(50%)、小テスト(50%)により評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 工業科教育関係に必要な科目です。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室、図書館 | | | |
| 備考 | 連絡は11号館1F教務課へ | | | |

| | | | |
|---------------|---------|---------|--------------------------|
| 科目名 | 工業科教育法Ⅱ | 科目名(英文) | Engineering Education II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 福岡 優 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 工業科教育法Ⅱでは、工業教育における学習指導、学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価、授業改善、さらに進路指導や学校運営について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。 授業担当者は工業科高校4校で約25年間教諭や学校長、さらに、教育センターで工業科高校担当室の指導主事や室長を約9年間経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。 |
| 到達目標 | 工業高等学校における技術教育を行うために必要な基礎的知識が修得できる。 |
| 授業方法と留意点 | 教科書と配付プリントによる講義、模擬授業を中心におこない、時間内にレポートの質疑応答の時間を設けるなど実践的な基礎的知識の修得を図る。 |
| 科目学習の効果(資格) | 工業高等学校の教員1種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--------------------------|--|-----------------------------------|
| | | | |
| 1 | 教育課程について | 教育課程の意義・目標・役割などについて解説する。 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |
| 2 | 安全教育について | 工業科における施設・設備と安全教育について解説する。 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |
| 3 | 授業設計について | 授業の方法や形態、情報機器の活用について解説する。 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |
| 4 | 授業設計について | 学習指導案、評価規準、教材の活用について解説する。 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |
| 5 | 授業設計について | 工業科における学習指導案の作成方法について解説する。 レポート1 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |
| 6 | 授業設計について | 学習指導案を作成し、発表する。 レポート1に対する質疑応答 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |
| 7 | 模擬授業と評価および意見交換 | 工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。 | 模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間) |
| 8 | 模擬授業と評価および意見交換 | 工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。 | 模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間) |
| 9 | 模擬授業と評価および意見交換 | 工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。 小テスト1 | 模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間) |
| 10 | 授業設計について | 原則履修科目である情報技術基礎学習指導案を作成し、発表する。 | 模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間) |
| 11 | 模擬授業と評価および意見交換 | 情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。 | 模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間) |
| 12 | 模擬授業と評価および意見交換 | 情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。 小テスト2 | 模擬授業の予習(1時間)・復習(1時間) |
| 13 | 模擬授業と評価および意見交換 | 情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。 レポート2 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |
| 14 | 工業高校現状と課題について | 工業教育の現状と今後の発展、問題解決学習について解説する。 レポート2に対する質疑応答 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |
| 15 | 工業高校現状と課題について <今後の展望> | 学修のまとめとして模擬授業等を通じて学んだことをまとめる。 | 教科書による予習(1時間) 配付プリントによる復習(1時間) |

| | |
|------|------|
| 関連科目 | 特になし |
|------|------|

| | | | | |
|-----|----|-------------------------|---------------|----------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」 | 池守滋、佐藤弘幸、中村豊久 | 実教出版株式会社 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

| | | | | |
|-----|----|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | | | | |

| | | | | |
|---------------|---------------------------------|-----------------|-------|--|
| | 1 | 高等学校学習指導要領 | 文部科学省 | |
| | 2 | 高等学校学習指導要領解説工業編 | 文部科学省 | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | レポート30%、模擬授業40%、小テスト30%により評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 工業科教育関係に必要な科目です。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 非常勤講師室、図書館 | | | |
| 備考 | 連絡は11号館1F教務課へ | | | |

| | | | |
|----------------|------|----------|---------------------|
| 科目名 | 職業指導 | 科目名 (英文) | Vocational Guidance |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 4 | 履修区分 | 選択科目 |
| 学期 | 通年 | 授業担当者 | 水野 武 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|---|
| 授業概要・目的 | 職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだ資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。 |
| 到達目標 | 職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。 |
| 授業方法と留意点 | 講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法 等 | 事前・事後学習課題 |
|----|-------------------------|---|---|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション | ・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理 | 本科目のシラバスを熟読すること (1時間)。 |
| 2 | 職業指導の基礎理論 | ・職業指導における基本的な考え方、手法 | 職業指導に関する資料を熟読すること (1時間)。 |
| 3 | 職業指導の歴史① | ・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る | 欧米の職業指導に関する資料を熟読すること (1時間)。 |
| 4 | 日本の産業構造の変化 | ・日本の産業、雇用事情の変化を知る | 日本の産業史に関する資料を熟読すること (1時間)。 |
| 5 | 職業指導の歴史② | ・日本の戦後の教育改革について | 日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること (1時間)。 |
| 6 | 日本型雇用と職業指導 | ・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり | 日本型雇用の見通しについて考えること (1時間)。 |
| 7 | 新規高卒就職システム | ・新規高卒労働市場の変容と現状 | 高卒労働市場に関する資料を熟読すること (1時間)。 |
| 8 | 高等学校における職業指導 | ・各種学校における職業指導の在り方について | 職業指導の事例を調査すること (1時間)。 |
| 9 | 「労働すること」を考える | ・仕事をするものの意義を考える | 授業後は自らの労働観を持つようにすること (0.5時間)。 |
| 10 | 職業指導の領域 | ・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える | 職業指導領域に関する資料を熟読すること (0.5時間)。 |
| 11 | キャリア教育の基礎理論① | ・キャリアデザインにおける基礎理論を知る | キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること (1時間)。 |
| 12 | キャリア教育の基礎理論② | ・キャリアデザインにおける基礎理論を知る | キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること (1時間)。 |
| 13 | 授業内容立案 | ・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する | 模擬授業の準備をすること (1時間)。 |
| 14 | 模擬授業① | ・講義13で立案した内容で模擬授業を実施 | 模擬授業の準備をすること (1時間)。 |
| 15 | 講義の振り返り | ・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出 | 前期のレポートを提出できるようにすること (2時間)。 |
| 16 | オリエンテーション | ・後期授業概要の説明 | 本科目のシラバスを再度熟読すること (1時間)。 |
| 17 | 商業教育と職業指導 | ・商業高校における職業指導について | 商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること (1時間)。 |
| 18 | 工業教育と職業指導 | ・工業高校における職業指導について | 工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること (1時間)。 |
| 19 | 普通科高校と職業指導 | ・普通科高校における職業指導について | 提示する資料を熟読すること (1時間)。 |
| 20 | フリーターとニートについて | ・グループ (またはペア) でフリーター・ニート対策を考える | フリーター・ニート問題に関する資料を熟読し、ディスカッションできるように準備すること (1時間)。 |
| 21 | 職業指導・キャリア教育の実例 | ・地方も含めた職業指導の事例紹介 | 発表の準備をすること (1時間)。 |
| 22 | キャリアデザインとは何か | ・キャリアデザインとは何かを考える | 自らの節目について考えること (1時間)。 |
| 23 | 高校生の就業力について 職業適性とは何か | ・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて | 就業力育成のための企画を考えること。 自らの適性の活かし方を考えること (1時間)。 |
| 24 | 人権教育としての職業指導 | ・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導 | 配布資料を精読すること (1時間)。 |
| 25 | 未来の働き方を考える | ・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える | 配布資料を精読すること (1時間)。 |
| 26 | 就業力向上企画を立案① | ・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える | 発表の準備をすること (1時間)。 |
| 27 | 就業力向上企画を立案② | ・26回目で考えた内容を発表する | 発表の準備をすること (1時間)。 |
| 28 | キャリアカウンセリング理論① | ・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ | 配布資料を精読すること (0.5時間)。 |
| 29 | キャリアカウンセリング理論② | ・カウンセリングマインドを知る | 配布資料を資料を精読すること (0.5時間)。 |
| 30 | まとめ/講義の振り返り | ・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答 | 自らの労働観について考えること 期末レポートを作成すること (2時間)。 |

| | | | | |
|---------------|--|-----|-----|------|
| 関連科目 | 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(10%)、プレゼンテーション課題(30%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%) | | | |
| 学生への メッセージ | 「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野) | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | |
|----------------|----------|----------|----------------------------------|
| 科目名 | 数学科教育法 I | 科目名 (英文) | Method of Mathematics Teaching I |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 小林 俊公 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | 数学科教育法 I では、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるようにするための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」ととらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。 |
| 到達目標 | (1) 現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する30分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 (2) 相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。 |
| 授業方法と留意点 | グループ学習・活動を実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚器材を用いて講義を進める。 |
| 科目学習の効果 (資格) | 「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許 (数学)) |

| | | | | |
|------|----|---------------------------------|--|-----------|
| 授業計画 | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | 本授業のねらいと展開 | 本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方 | 課題レポート |
| | 2 | 教育と評価(1) | 「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。 | 課題レポート |
| | 3 | 教育と評価(2) | 教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。 | 課題レポート |
| | 4 | 数学教育の目的と目標 | 教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。 | 課題レポート |
| | 5 | 新しい学力観 | 学術的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。 | 課題レポート |
| | 6 | 生きる力(1) | 近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。 | 課題レポート |
| | 7 | 生きる力(2) | 教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。 | 課題レポート |
| | 8 | 学級崩壊・学力崩壊 | 近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。 | 課題レポート |
| | 9 | 学習指導要領(1) | 学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。 | 課題レポート |
| | 10 | 学習指導要領(2) | 高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。 | 課題レポート |
| | 11 | 数学科教授計画 | 授業の設計法を体系的に学び、目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。 | 課題レポート |
| | 12 | マイクロティーチングの方法 | 教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHPなどの活用について。 | 課題レポート |
| | 13 | マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1) | 各自の求める数学教育について、「30分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。 | 課題レポート |
| | 14 | マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2) | グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。 | 課題レポート |
| | 15 | マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3) | マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。 | 課題レポート |

関連科目 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

| | | | | |
|-----|----|----------------------|-----|------|
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編 | | |
| | 2 | 高等学校学習指導要領解説 総則編 | | |
| | 3 | 中学校学習指導要領解説 数学編 | | |

| | | | | |
|---------------|---|-----|-----|------|
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | バズセッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を50%とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 3号館3階 数学研究室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。 | | | |

| | | | |
|---------------|---------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 数学科教育法Ⅱ | 科目名(英文) | Method of Mathematics Teaching II |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 小林 俊公 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 数学科教育法Ⅱでは、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるようにするための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。 |
| 到達目標 | 高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画をたて、学習指導案(指導細案)を作成し、約50分の模擬授業を行うことができる。 |
| 授業方法と留意点 | 主に講義形式を取りながら、グループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力を涵養する。 |
| 科目学習の効果(資格) | 「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(高等学校一種免許(数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|--|-----------|
| | | | |
| 2 | 生きる力と確かな学力、学力観(1) | 高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲を高め、生きる力を支える「確かな学力」について考える。 | 課題レポート |
| 3 | 生きる力と確かな学力、学力観(2) | 「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思ふこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。 | 課題レポート |
| 4 | 生きる力と確かな学力、学力観(3) | 「生活の中での数学の有効性を体験し、論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものと関わる力を高めるための体験」とはどのようなものであるかを考える。 | 課題レポート |
| 5 | 生きる力と確かな学力、学力観(4) | 身近な事象から、どのような数学的知識が引き出されているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返って、当初の事象にどのように活用されているかを考える。 | 課題レポート |
| 6 | 高等学校の数学教育開発プロジェクト(1) | 高等学校普通教科数学「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、数学活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。 | 課題レポート |
| 7 | 高等学校の数学教育開発プロジェクト(2) | 理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。 | 課題レポート |
| 8 | 高等学校の数学教育開発プロジェクト(3) | 自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせることができる「各自の行いたい教育コースウェア」を開発するプロジェクトを考察する。 | 課題レポート |
| 9 | 高等学校の数学教育開発プロジェクト(4) | 教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。 | 課題レポート |
| 10 | バズ式セッション、模擬授業・評価(1) | グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。 | 課題レポート |
| 11 | バズ式セッション、模擬授業・評価(2) | 討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」を行う。 | 課題レポート |
| 12 | バズ式セッション、模擬授業・評価(3) | 各自の考えた「評価基準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価を行い、観点別評価を実践する。 | 課題レポート |
| 13 | バズ式セッション、模擬授業・評価(4) | 実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、一人ひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」をシステムティックに組み上げる。 | 課題レポート |
| 14 | バズ式セッション、模擬授業・評価(5) | 教育者としての基盤を確立し、自己の教育力(授業改善力・評価力等)育成のための方法を体得する。 | 課題レポート |
| 15 | まとめ | 高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。 | 課題レポート |

| | | | | |
|---------------|--|----------------------|-----|------|
| 関連科目 | 本科目を学ぶまでに数学科教育法 I を履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。 | | | |
| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | 高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編 | | |
| | 2 | 高等学校学習指導要領解説 総則編 | | |
| | 3 | 中学校学習指導要領解説 数学編 | | |
| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
| | 1 | | | |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | マイクロティーチング(模擬授業)は必須。授業への参画(受講態度、平常点)、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が50%、マイクロティーチングと評価のまとめで50%とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題(課題)解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 3号館3階 数学研究室 | | | |
| 備考 | 事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。 | | | |

| | | | |
|---------------|---------|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 数学科教育法Ⅲ | 科目名(英文) | Method of Mathematics Teaching III |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 富永 雅 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | 数学科教育法Ⅲでは、中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるための基礎的な実践能力の育成をめざす。中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションをとおして「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。また、校種間の連携として小学校・高等学校の指導要領についても学ぶ。 |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領(数学)の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・PISA型学力と生きる力の理解と育成法の体得 ・必須授業力の理解と自己の授業力の育成 ・マイクロティーチングの基礎力 ・評価と評定についての理解 |
| 授業方法と留意点 | グループ学習・活動で実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組み、レポートの提出を求める。 |
| 科目学習の効果(資格) | 「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(中学校一種免許(数学)) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|--|-----------|
| | | | |
| 1 | 本授業のねらいと展開 | 本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方 | 課題レポート |
| 2 | 数学教育の目的と目標 学習指導案 | 学習指導要領から目標などを学ぶ。典型的な学習指導案の作成について学ぶ。 | 課題レポート |
| 3 | 数学教育の歴史(1) | 数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。 | 課題レポート |
| 4 | 数学教育の歴史(2) | 数学教育でなにが教えられてきたか、教科内容の取捨選択がいかに行われてきたかを学ぶ。 | 課題レポート |
| 5 | 数学科教科書比較 | 中学校算数教科書において1単元を取り上げ、その教科書比較を行い、指導を考える。 | 課題レポート |
| 6 | 算数教育から数学教育へ(1) | 小学校算数教育の内容の変遷を通じて、小中の算数数学教育の連携がどのように考えられてきたか学ぶ。 | 課題レポート |
| 7 | 算数教育から数学教育へ(2) | 現行算数教育と数学教育の間にどのような問題があるのか、その課題といかに改善すべきか考える。 | 課題レポート |
| 8 | 数学的な考え方の育成 | 学習指導要領などを基に教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。 | 課題レポート |
| 9 | 数学科教授計画 | 授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指授業の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。 | 課題レポート |
| 10 | 数学教材とその応用(1) | 幾何分野の数学教材を基にその指導についての現状を知り各自の教育・指導観を吟味する。 | 課題レポート |
| 11 | 数学教材とその応用(2) | 代数分野の数学教材を基にその指導についての現状を知り各自の教育・指導観を吟味する。 | 課題レポート |
| 12 | マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1) | 各自の求める数学教育について、「15分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。 | 課題レポート |
| 13 | マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2) | グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。 | 課題レポート |
| 14 | マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3) | マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。 | 課題レポート |
| 15 | 数学教育の指導のマイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2) グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶもの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。 課題レポート | 具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。 | 課題レポート |

| | <p>14 マイクロティーチング (プレゼンテーション)・グループ学習(3) マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。課題レポート</p> <p>15 まとめ</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|-----|------|----|-----|-----|------|---|--|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|
| 関連科目 | 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目を予め履修しておくことが望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | バズセッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。基本的に、マイクロティーチングと評価のまとめで40%、レポートを含む日常学習状況の評価が60%とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 当該講義内での対応が中心となります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---------|---------|-----------------------------------|
| 科目名 | 数学科教育法Ⅳ | 科目名(英文) | Method of Mathematics Teaching IV |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 選択必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 富永 雅 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

授業概要・目的
数学科教育法Ⅳでは、中学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。バズ式セッション・グループ活動を学習形態に取り入れ、生徒の学習意欲をたかめ、自ら学び自ら考える力を育てるという課題を持ってプロジェクトをたてる。各自がたてた課題解決プロジェクトを互いに他者評価し、自己評価して実践的な学びを展開する。教育職としてのPDCA策定。

到達目標
・中学校学習指導要領(数学)の内容(単元の学年配当、4領域+1分野)の体得
・数学的な活動を含んだ教育課程の編成についての理解
・学習指導案の作成力
・マイクロティーチングの実践力
・他者評価法の理解と実践力

授業方法と留意点
学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力の涵養

科目学習の
効果(資格)
「創造型人材育成教育(数学教育)を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(中学校一種免許(数学))
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目:教育課程及び指導法に関する科目
各科目に含める必要事項:各教科の指導法

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------|--|-----------|
| | | | |
| 1 | 本授業のねらいと展開 | 本教科科目の内容、特徴、 学び方、全体の展望、学習の進め方 | 課題レポート |
| 2 | 中学校・高等学校学習指導要領と評価 | 学習指導要領の確認、評価の方法に浮いて学ぶ。 | 課題レポート |
| 3 | 数学教材とその応用(1) | 中学校の教材を中心に集的分野においてその指導法・発展的内容について考える。 | 課題レポート |
| 4 | 数学教材とその応用(2) | 「中学校の教材を中心に代数的分野においてその指導法・発展的内容について考える。 | 課題レポート |
| 5 | 数学教材とその応用(3) | 「中学校の教材を中心に幾何的分野においてその指導法・発展的内容について考える。 | 課題レポート |
| 6 | バズ式セッション、模擬授業・評価(1) | 各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価をおこない、観点別評価を実践する。 | 課題レポート |
| 7 | バズ式セッション、模擬授業・評価(2) | グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。 | 課題レポート |
| 8 | バズ式セッション、模擬授業・評価(3) | 討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」をおこなう。 | 課題レポート |
| 9 | 数学教材とその応用(4) | 「中学校の教材を中心に解析的分野においてその指導法・発展的内容について考える。 | 課題レポート |
| 10 | 数学教材とその応用(5) | 「中学校の教材を中心に統計的分野においてその指導法・発展的内容について考える。 | 課題レポート |
| 11 | 数学史的観点からの数学教材(1) | 数学史的観点を取り入れ円周率について考察する。 | 課題レポート |
| 12 | 数学史的観点からの数学教材(2) | 数学史的観点を取り入れ円周率についての学びを深め公式を導き出す。 | 課題レポート |
| 13 | バズ式セッション、模擬授業・評価(4) | 実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、ひとりひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」をシステムティックに組み上げる。 | 課題レポート |
| 14 | バズ式セッション、模擬授業・評価(5) | 教育者としての基盤を確立し、自己の教育力(授業改善力・評価力等)育成のための方法を体得する。 | 課題レポート |
| 15 | まとめ | 高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。 | 課題レポート |

関連科目
本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |
| 2 | | | | |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | バス式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。基本的に、マイクロティーチングと評価のまとめで40%、レポートを含む日常学習状況の評価が60%とする。 | | | |
| 学生への メッセージ | 生徒の自己実現を支援する中学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題(課題)解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 当該講義内での対応が中心となります。 | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|---------------|-------|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 生徒指導論 | 科目名(英文) | Studies of Guidance and Counseling |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 朝日 素明 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | 生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すとする素養を養います。 |
| 到達目標 | 学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。 |
| 授業方法と留意点 | プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。 |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|----------------------|--|-------------------------------|
| | | | |
| 2 | 生徒指導の目標と意義 | 生徒指導の目標と意義 | テキスト pp. 6-17 |
| 3 | 生徒指導の実践 | 生徒指導の実践課題と領域 | テキスト pp. 17-24 |
| 4 | 生徒指導の理論 | 発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など | テキスト pp. 32-42 |
| 5 | 生徒理解の進め方(1) | 生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法 | テキスト pp. 43-52 |
| 6 | 生徒理解の進め方(2) | 生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう | テキスト pp. 52-62 |
| 7 | 学級経営の進め方(1) | 学級経営の意義 学級集団の役割・機能 | テキスト pp. 63-68 |
| 8 | 学級経営の進め方(2) | 学級集団の力学 学級経営の方法 | テキスト pp. 68-79 |
| 9 | 生徒指導上の諸問題の理解と対応 | 生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか | 生徒指導上の諸問題に関する配布資料 |
| 10 | 学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力 | 学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携 | テキスト pp. 116-131 |
| 11 | 生徒の進路・キャリアに関する実態と課題 | 進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容 | テキスト pp. 176-195 |
| 12 | 進路指導・キャリア教育の目標と意義 | 進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題 | テキスト pp. 135-159 |
| 13 | 進路指導・キャリア教育の理論 | キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論 | キャリア発達理論に関する配布資料 |
| 14 | 進路指導における「ガイダンスの機能」 | ガイダンスを活かした指導 | テキスト pp. 220-223 |
| 15 | 学校教育における進路指導の実践展開 | 進路指導実践の展開モデル | テキスト pp. 196-220, pp. 223-234 |

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-----|-----|------|
| | 1 | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------------|-------|------|
| | 1 | 中学校学習指導要領(平成29年告示) | 文部科学省 | |
| | 2 | 高等学校学習指導要領(平成30年告示) | 文部科学省 | |

評価方法(基準) 定期試験80%、レポート20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 Moodle を通じて資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。メンバー登録については初回に説明します。また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。テキストは授業の各回に先立ち配布します。事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。

| | | | |
|---------------|---------|---------|----------------------------|
| 科目名 | 道徳教育の研究 | 科目名(英文) | Studies of Moral Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 2年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 谷口 雄一 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

授業概要・目的
この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。
授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。

到達目標
受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の「特別の教科 道徳」の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、「特別の教科 道徳」の学習指導案を作成できるようになることを目標とします。

授業方法と留意点
授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業を適宜取り入れます。
また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。

科目学習の効果(資格)
中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育課程及び指導法に関する科目
各項目に含める必要事項：道徳の指導法

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|---------------------------------------|---|---|
| 1 | ガイダンス： 道徳の授業について考える | ・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。 | 自身が学校教育においてを受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出ししておく。 |
| 2 | 日本の道徳教育の歴史 | ・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。 | 日本の道徳教育の歴史や信念対立について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 3 | よい道徳教育とは何か | よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。 | 道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 4 | 道徳の授業の多様な指導方法の特徴 | 道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。 | 道徳の授業のねらいに基づく8類型について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 5 | 道徳の授業の発問の構成法 | 「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。 | ねらいに基づく発問の構成法について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 6 | 道徳の授業の学習指導案の作成法 | 「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。 | 道徳の授業の学習指導案の作成方法について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 7 | 道徳の授業の評価 | 「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。 | 道徳の授業の評価の内容や方法について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 8 | 各授業類型のねらいと発問の特徴 | 教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。 | 教材分析の方法や授業構成について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 9 | 教材分析の視点 | 教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。 | 教材分析の方法について授業後に整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。 |
| 10 | 発問分析による授業づくりの視点 | 発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。 | 問題解決的な学習や、発問分析に基づく授業改善の方法について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 11 | 授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問 | カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 12 | 授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習 | 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。 | 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。 |
| 13 | 学習指導案の作成① | これまでの講義内容をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。 | 作成した学習指導案をグループ内で発表するための準備をしておく。 |
| 14 | 学習指導案の作成② | 前回の授業で作成した学習指導案について各グループで発表し、模擬授業の準備を行う。 | グループ毎に模擬授業の準備をしておく。 |
| 15 | まとめ： 模擬授業と事後の検討 | ・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳の授業づくりについてまとめる。 | 「よい道徳の授業」について、考えをまとめる。 |

関連科目
教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|---------------|-------------|--------|
| | 1 | 道徳科 初めての授業づくり | 吉田誠・木原一彰 編著 | 大学教育出版 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |

参考書

| | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|---------------|--|------------------------|-------|------|
| | 1 | 中学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編― | 文部科学省 | 東山書房 |
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。 | | | |
| 学生への メッセージ | 授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館4階(谷口研究室) | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | |

| | | | |
|---------------|-----------------------|---------|--|
| 科目名 | 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法 | 科目名(英文) | Methodology of Special Activities and Integrated Studies |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 林 茂樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|---|
| 授業概要・目的 | <p>特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。</p> <p>総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p> |
| 到達目標 | <p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。</p> <p>総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならぬ教員の立場に立って、集団をファシリテートできるように、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | 教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 |

| | 授業計画 | | | |
|--|------|--|---|---|
| | 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
| | 1 | オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題 | 学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量 | 特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 2 | 特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって(ソロワークと意見交換) | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 | 特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 3 | 学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って(ソロワークと意見交換) | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもとの関係づくり、学級開きと年間計画 | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 4 | 学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出(ソロワークと意見交換) | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 5 | 生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出(ソロワークと意見交換) | 生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 | 特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 6 | 体験活動の意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」(ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ) | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 7 | 特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ(1)(グループ討議・発表) | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 8 | 特別活動と学級経営ワーク⑦不登校(グループ討議・発表) | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 9 | 特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力(即興劇・交流) | 生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 10 | 特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども(グループ討議・発表) | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 11 | 特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導・キャリア教育(即興劇・交流) | 特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 12 | 総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪インクルーシブ教育(グループ討議・発表) | 総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| | 13 | 総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT(即興劇・発表) | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |

| | 14 | 総合的な学習の時間の指導計画と評価ワーク⑬いじめ(2)〈グループ討議・発表〉 | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 | 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---|---|--|----|-----|-----|------|---|-------------------|-------|------|---|----------------------|-------|------|---|--|--|--|
| | 15 | 補足とまとめ 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 | 特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり | 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東山書房 | 2 | 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | 東山書房 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 中学校学習指導要領解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東山書房 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | 東山書房 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生への メッセージ | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだといふことが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3F林研究室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|----------------|------------|----------|---|
| 科目名 | 特別活動の理論と方法 | 科目名 (英文) | Theories and Methods for Special Activities |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 1年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 後期 | 授業担当者 | 林 茂樹 |
| ディプロマポリシー (DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|--------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。</p> <p>また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p> |
| 到達目標 | <p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。</p> |
| 科目学習の効果 (資格) | 教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|--|---|---|
| | | | |
| 2 | 特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワークと意見交換) | 教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 | 特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 3 | 学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワークと意見交換) | 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 4 | 学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワークと意見交換) | 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 | 特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 5 | 生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出 (ソロワークと意見交換) | 生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・視点 | 特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 6 | 体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ) | 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 7 | 特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ (1) (グループ討議・発表) | 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがいがい | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 8 | 特別活動と学級経営ワーク⑦不登校 (グループ討議・発表) | 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 9 | 特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力 (即興劇・交流) | 生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 10 | 特別活動の指導計画と評価ワーク⑨不登校 (グループ討議・発表) | 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 | 特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 11 | 特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩いじめ (その2) (即興劇・交流) | 特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 | 配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 12 | 総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪進路指導 (グループ討議・発表) | 総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 | 総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |
| 13 | 総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫インクルーシブ教 | 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び | 総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。 |

| | 育〈グループ討議・発表〉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--|--|----|-----|-----|------|---|----------------------------|-------|------|---|---------------------------------|-------|------|---|--|--|--|
| | 14 | 総合的な学習の時間の指導計画と評価 ワーク⑬ジェンダー・性的マイノリティ〈グループ討議・発表〉 | 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15 | 補足とまとめ | 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い総合的な学習の時間の体制づくり | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関連科目 | すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東山書房 | 2 | 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | 東山書房 | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東山書房 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編 | 文部科学省 | 東山書房 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | 1 | | | | 2 | | | | 3 | | | |
| 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法（基準） | 定期試験（50%）、中間レポート（30%）、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式＋記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生へのメッセージ | 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者の研究室等 | 7号館3階(林研究室) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---------------|---------|---------|------------------------------------|
| 科目名 | 特別支援教育論 | 科目名(英文) | Studies of Special Needs Education |
| 学部 | 学部共通 | 学科 | 教職科目 |
| 配当年次 | 3年 | クラス | |
| 単位数 | 2 | 履修区分 | 必修科目 |
| 学期 | 前期 | 授業担当者 | 林 茂樹 |
| ディプロマポリシー(DP) | | | |
| 科目ナンバリング | | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業概要・目的 | <p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史の変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。</p> <p>中・高（・小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として34年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育主担者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点を絞った授業を行う。</p> |
| 到達目標 | <p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p> <p>⑤個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。</p> <p>⑥特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。</p> |
| 授業方法と留意点 | <p>講義演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。</p> |
| 科目学習の効果(資格) | <p>教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> |

| 回数 | 授業テーマ | 内容・方法等 | 事前・事後学習課題 |
|----|------------------------------------|---|------------------------------------|
| | | | |
| 1 | オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要 | わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題 | 教科書の序章を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 2 | 新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方 | ICIDHからICFへ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 3 | 障害者権利条約と合理的配慮 | 国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 4 | 戦前・戦後の特殊教育の成立と展開 | 障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 5 | 特別支援教育への転換 | 障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 6 | 障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題 | 学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携 | 配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 7 | 障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題 | 差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援 | 配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 8 | 通常学級での特別支援教育の実践(通級による指導を含む) | ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 9 | 発達障害・知的障害の理解と支援 | 知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 10 | 肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援 | 肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 11 | 視覚障害・聴覚障害の理解と支援 | 視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 12 | 個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題 | つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 13 | 校内支援体制の構築とSC・SSW等との連携・協働 | 校内での連携、他職種との連携。福祉・医療との連携 | 教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 14 | 社会的養護にある子供、LGBTなど性的マイノリティの子供の理解と対応 | ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBTなど性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり | 配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |
| 15 | 被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ | 非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携 | 配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。 |

関連科目 教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

| 教科書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------|------|--------|
| | 1 | 特別支援教育 多様なニーズへの挑戦 | 柘植雅義 | 中央公論新社 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

| 参考書 | 番号 | 書籍名 | 著者名 | 出版社名 |
|-----|----|-------------------|-------|------|
| | 1 | 特別支援教育資料(平成30年度版) | 文部科学省 | Web |

| | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| | 2 | | | |
| | 3 | | | |
| 評価方法 (基準) | 定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。 | | | |
| 学生への メッセージ | 本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。 | | | |
| 担当者の 研究室等 | 7号館3階林研究室 | | | |
| 備考 | 事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 | | | |

発行 2019年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室・薬学部】

電話(072)-807-6001 【枚方事務室・看護学部】

